

2020年度

松本大学大学院・松本大学・松本大学松商短期大学部

自己点検・評価報告書

松 本 大 学
松本大学松商短期大学部

2020 年度 松本大学大学院、松本大学、松本大学松商短期大学部
自己点検・評価報告書 目次

はじめに 4

第1部 2020 年度事業計画(大学委員会・理事会決定)に基づく総括的点検・評価

I. 全学的視点で見た事業計画実施状況の点検・評価5
II. 研究科および学部全体の点検・評価
1. 大学院 健康科学研究科 12
2. 総合経営学部 16
3. 人間健康学部 19
4. 教育学部 24
5. 松商短期大学部 27

第2部 委員会・部会別点検・評価

I. 管理部門

A：大学管理運営

1. 全学協議会 31
2. 全学運営会議34
3. 内部質保証室35
 (1) 自己点検・評価委員会38
 (a) 認証評価準備部会 39
 (b) コンプライアンス推進部会 39
 (2) FD・SD委員会
 (a) FD・SD 立案・推進部会 40
 (b) 教育企画推進部会 42
 (3) IR委員会 43
 (4) 競争的資金申請推進委員会 45

B：保健・衛生

1. 健康安全センター運営委員会 46
2. 衛生委員会48
3. 人権委員会50

C：施設管理

1. 施設管理運営委員会 52
2. 危機管理委員会 53

II. 入試広報部門

1. 入試・広報委員会
 (1) 全学入試・広報委員会 56
 (2) 総合経営学部入試・広報委員会 62

(3) 人間健康学部入試・広報委員会	65
(4) 教育学部入試・広報委員会	66
(5) 松商短期大学部入試・広報委員会	68
2. アドミッション・オフィス運営委員会	73
3. 大学入学共通テスト実施委員会	74
III. 研究推進管理部門	
1. 研究推進委員会	78
(1) 研究誌編集	80
(2) 松本大学出版会	81
(3) 発明管理	81
2. 地域総合研究センター運営委員会	82
3. 研究倫理委員会	85
(1) 動物実験	93
(2) 遺伝子組換え実験	94
IV. 地域連携部門	
1. 地域連携委員会	97
(1) 地域力創造委員会	98
(2) 地域防災対策委員会	100
(3) 地域健康支援ステーション運営委員会	101
(4) 地域づくり考房『ゆめ』運営委員会	105
(5) 高大連携推進委員会	110
V. 学生センター部門	
A: 教育活動支援	
1. 教務委員会	
(1) 全学教務委員会	114
(2) 総合経営学部教務委員会	117
(3) 人間健康学部教務委員会	120
(4) 教育学部教務委員会	123
(5) 松商短期大学部教務委員会	125
(6) 基礎教育センター	128
2. 公務員試験対策講座運営委員会	130
3. 全学教職センター運営委員会	132
(1) 総経・人間教職センター	133
(2) 教育学部教職センター	137
4. 情報センター運営委員会	140
5. 図書館運営委員会	143
6. 国際交流センター運営委員会	147
7. インターンシップ推進委員会	149

B：学生支援

1. 就職委員会	
(1) 全学就職委員会	152
(2) 総合経営学部就職委員会	155
(3) 人間健康学部就職委員会	157
(4) 教育学部就職委員会	160
(5) 松商短期大学部就職委員会	163
2. 学生委員会	
(1) 全学学生委員会	166
(2) 総合経営学部学生委員会	170
(3) 人間健康学部学生委員会	171
(4) 教育学部学生委員会	173
(5) 松商短期大学部学生委員会	175

第3部 事務部門の点検・評価

I. 全学的事務部門	178
II. 総務課・管理課・地域連携課	184
1. 総務課	184
2. 管理課	189
3. 地域連携課	191
III. 学生センター	193
1. 教務課	194
2. 学生課	197
3. キャリアセンター	202
4. 情報センター	207
IV. 入試・広報室	211

第4部 資料

I. 2020年度委員会構成	219
II. 2020年度卒業予定者アンケート調査結果	
1. 松本大学	220
2. 松本大学松商短期大学部	248

はじめに

—2020年度 自己点検・評価報告書の発行にあたって—

2020年度の大学運営及び年度内に行った諸事業・活動などについて、担当部署毎にPDCAサイクルを回しながら点検・評価を行った。

前年度に引き続き7月中に発行

昨年度は、8月25日に開催された外部評価委員会の委員諸氏に対し、本報告書を資料として事前に配布することを目標に編集・発行に鋭意取り組んだ。その結果、8月中旬の一斉休校前には完成させて発送することができ、外部評価委員会も、それを材料にこれまでになく効率的かつ具体的な議論ができた。それがまた、一斉休校明け（昨年度は8月18日・19日）に行った「私立大学等改革総合支援事業」の補助金交付申請への対応を目的とする、全学運営会議のメンバーを中心に取り組んだ点検（点数化）作業でも功を奏したことを付言しておきたい。

とはいえ、その内容を踏まえ次年度の事業計画を策定するという“理想”のあり方からすれば、本書の完成・発行との間にタイムラグがあり、それをどう解決するべきかという問題は、依然として残ったままである。

『自己点検・評価報告書』の構成

本報告書は、第1部の研究科及び各学部・学科、第2部の各委員会、第3部の事務部門、第4部の資料の4部構成になっている。第1部は、本書発行までに策定されているそれぞれの事業計画並びに事業報告を下地に編集されており、第2部は、「松本大学委員会構成表」に沿った形で、それぞれの委員長や部門長、事務サイドにあつては課長がそれぞれ執筆を担当した。内容的には、前年度の『自己点検・評価報告書』の「A」を踏まえた当該年度の事業計画「P」が策定され、それに基づいた事業・活動展開「D」とその点検・評価「C」、そして、次年度に向けた課題・問題提起「A」という、いわゆるPDCAサイクルに則って執筆、編集されている。

以上のような構成、編集スタイルは一貫しており、担当者が代わっても、業務内容や追及すべき課題などについては適切かつ的確に把握、継承できるものとなっていると自負するところである。

他の出版物と共に本学の全体像の把握を

自己点検・評価委員会は、本報告書の作成・発行だけでなく、『アニュアル・レポート』及び『学生版アニュアル・レポート』の編集・発行にも責任を負っているが、前者は各教員や各部署の年間の活動記録をまとめたものであり、自己点検・評価におけるPDCAサイクルの「D」をまとめた内容に相当する。後者は、学生の資格取得を含む「学修活動」、学友会、クラブ、ボランティア、地域連携などの「自主的活動」、そして「就職活動」などをまとめ、学生の成長が把握できる内容となっている。

それらについても本報告書と合わせてお目通しいただければ、教職員及び学生の活動状況をほぼ把握することができ、本学の全体像を掴んでいただくことができるはずである。

2020年度自己点検・評価委員長 等々力 賢治

第1部 2020年度事業計画（大学委員会・理事会決定）に基づく総括的点検・評価

I. 全学的視点で見た事業計画実施状況の点検・評価

(1) 2020年度の計画 <P>

1) 松本大学への期待の高まりを踏まえた対応策の早急な検討

地域社会における松本大学の存在感が高まる中で、最近の入学志願者の増加は顕著である。特に、県内進学校と言われる高校から普通に志願してもらえる傾向にあることは、過去を考えると隔世の感がある。しかし、そうした傾向の中で、逆に、これまで多くの学生を送ってくださっていた高校は、推薦入試やAO入試に集中させざるを得ない状況にある。

収容定員増を、本学一校が責任を持つ必要があるわけではないが、県下最大の私立大学としてそれなりの役割が求められる。ここで注意しておきたいのは、仮定している大学進学率上昇の一部は、短期大学部への進学率の減少を吸収することに由来していることである。本学も、不合格者に対して、短期大学部を経由して松本大学への編入学を勧めているが、このことから大学進学率の上昇と短大進学率の減少が関係していることが理解されよう。つまり、学生募集に苦戦している短期大学部の定員を減らし、四年制大学の入学定員を増やすことが理にかなっている。

県立大学設立以降の流れの中で、県内学生が公立大学から閉め出されたために本学への志願者が増加した。それを受けて松本大学は、教育学部（定員80名）を新設し、総合経営・人間健康の両学部部の定員を10名ずつ増やした。また、長野市の2私大が看護学部を増設したにもかかわらず、県内残留率はそれほど上昇しない。さらに、定員厳格化の影響もあって、本学への志願者の増加傾向は加速しており、特に総合経営学部は10名という少数の定員増では焼け石に水の状態にある。

現状を見る限り、四年制大学で志願者が毎年大幅に増加しているのは総合経営学部、特に総合経営学科である。したがって、本学に進学したいという学生を受け入れられる可能性があるのは総合経営学部と考えられる。現状の総合経営学部は定員170名であるが、もともとは200名定員で発足しており、短期大学部入学定員を若干名振り換えれば、定員230名程度になる。これは必要定員数約380名弱の16%程度にすぎず、不十分との誹りを免れないが、本学の現在の財政的基盤に基づく実力はこのようなものであろう。

定員超過を考えても、定員200名時代の1.3倍未満と、230名の1.15倍未満とはほぼ同数である。この程度では開学当初の定員に戻ることにしかならないが、それでも、現状を多少は緩和できることになるだろう。こうした前提と見通しに基づいて今年度準備すれば、2021年3月に申請でき、上手く行けば2021年6月頃に認可され、2022年4月からの入学定員増体制を発足させることができる。このとき文科省への申請に関する1.15倍未満の条件は、新基準では2021年3月申請時点のデータであるが、2020年3月までの4年間の平均値で良いことになる。つまり、2021年度入試（次回の入試）の超過率は考慮されない。換言すれば170×1.3倍未満でよく、220名まで確保できることになる。それは次々回の230名定員の入試の準備にもなる。ちなみに短大部は、例えば各学科10名減で180名定員に減らしているが、233名までは入学を許可しても良いことになる。

大学院の充実も実現（2021年4月）できていれば、それに伴う専任教員（嘱託を含む）の増加も見込むことができるため、S/T比を考慮しながら、現状を少しでも改善できる方向での改革を進めることができるであろう。大学院や定員増が全て実現しても、短期大学部も含めた2020年度の収

容定員 2,132 人から 2022 年度の 2,348 人へと 216 人の増加にしかならないが、現状の緩和に少しは役立つであろう。S/T 比（収容定員/規定教員数）を一定（24.79）に保つには、収容定員増に伴う教員増は約 9 人であるが、大学院での純増と空きポストの補充で 5 名となる。これに加えて 4 名程度の新規採用を考えれば、S/T 比は 24.72 となり、ほぼ一定の教育条件を維持できることになる。

これはできるだけ矛盾のないように実現可能性を追究した一つの案であるが、①現状の高すぎる倍率になってしまっている入試状況の改善を図る、②本学の存在感を高め地域社会の活性化に資する若者層の地域内残留を高める、③教育条件を改善する、少なくとも現状を維持する、④大学・短期大学の今後に備える財源確保を目指す、こうした条件を文科省の設置基準を満たしながら、学生確保を見込める計画を策定することが緊急の課題である。こうした計画を英知を集めて作り上げるための検討会議を緊急に立ち上げる。

2) 新しいアイデアで教育内容の充実 ー学部・学科の壁を越えた教学組織の検討ー

定員増に見合った「教育内容の充実」も同時に考えなければならない。文理融合や学科横断型による魅力のある分野、例えばコース制度のような、多くの学部・学科の学生が共通に履修できるシステムも検討する必要がある。これも（1）の英知結集の産物の一つと言えるだろう。

その例として、心理系と福祉系が結びついた「心理福祉コース」や、栄養・観光・環境が結びついた「農業活性化コース」、さらには観光・教育などによる「異文化理解あるいは国際交流コース」なども考えられよう。学部や学科にまで格上げできるわけではないが、地域の高いニーズが期待できる内容については、何か新しいアイデアが必要になっている。学部・学科の枠を越えて教員集団を具体的に組織するなど、松本大学や短期大学の近年のトレンドを取り入れた斬新な取組みとして売り出せる可能性もあるため、早急に検討を試みる。

3) 2022 年度実施の「認証評価第 3 クール」への対応をにらんだ組織体制の確立

認証評価に向けては、2020 年度及び 2021 年度の実績に基づいた自己点検・評価報告書を踏まえた対応が求められる。したがって、今年度からの大学、短期大学部での運営実績が、新規対応を含め適正かつ厳格に実施されることが必要である。こうした事態を統括できる組織体制、特に組織管理、教務、就職など各分野の重点課題を明確にしながら、着実に実施できる体制をつくり上げる。そうしたことを勘案すると、例えば今年度の責任担当者は 2020 年 4 月から 2023 年 3 月までの 3 年間の任期としておく必要がある。というのも、2020 年 4 月から 2022 年 3 月までの実績に基づいた自己点検・評価報告書が執筆され、それに沿って 2022 年 10 月に認証評価を受審することになるからである。このとき、管理職についての配慮も必要になる可能性がある。また、今年度は新しい学長に移行するため、認証評価の受審には、新体制下での円滑な組織運営の構築・移行を図る。

4) 1・2・3号館等のメンテナンスへの対応

今後、経年的に校舎に対するメンテナンスが必要になってくる。特に 1 号館は築後 42 年を経っており、耐用年数の限度を迎えている設備・備品も多く見られる。修繕のための資金を準備し、順次必要な対応をとっていく。その際、細部の修繕に対し、長期的に見てどのような対応が得策なのか検討する。

(2) 2020 年度の計画に対する実施状況と評価 <D・C>

1) 新第2次中期計画を策定

冒頭にも述べたように、本学としては、2018年4月1日を起点とする第2次中期目標・計画（2018年4月～2023年3月）を策定し、それを踏まえた事業展開・実施に注力してきた。しかしながら、法人全体として中期計画策定が提起されたことから、これまでの3年間の実績を踏まえた新たな事業計画を策定することになり、全体を点検して見直し、必要な修正を加えることとした。

① 短期大学の位置づけの見直し

短期大学部に関して、新第2次中期計画において「これまで通りにその存在価値は継続していくことが予測できる。（ことから）、・・・将来に向けて地域社会のニーズにあった運営を積極的に検討していく。」とした。したがって、短期大学部には、従前からの段階的縮小案に捕らわれることなく、新第2次中期計画の趣旨に沿った将来計画を鋭意検討し、より魅力的な教学内容・システムなどを早期に明らかにすることが求められる。

② 5つのKPIと13の重点項目の設定

取り組むべき5つの最重要数値目標（Key Performance Indicator、以下「KPI」）を新第2次中期計画に盛り込んだことも大きな改定点である。KPIでは、2020年度を起点に、「入学者数」「志願者数」「志願倍率」「初年時退学率」「年間退学率」「最低在学年限退学率」「就職内定率」「学生納付金収入」「経常収支差額」の9項目について、年度毎の数値目標を設定した。

また、13の重点項目が設定され、その1つとして、今年度、健康科学研究科の博士課程への課程変更が申請・認可され、防災科学研究所の設置が承認されたことを踏まえ、出発年度である2021年度は、両者ともに運営を円滑に行い、実績を着実に上げるべく取り組むことを挙げた。加えて、総合経営学部を基盤とする総合経営研究科（修士課程）については、2022年4月設置を目指して、現在進めている申請業務などを適切・的確に行っていかなければならない。

③ 内部質保証向上サイクルの確立と強化に向けた準備

文科省は、近年、「教育の質保証」「内部質保証」を高等教育機関に求めている。

本学は、従前から、そうした教育政策の動向把握に努め適切に対応してきており、さらに、昨年度には関連事項を統括する「内部質保証室」を設置した。その取組みの一環として、今年度は、これまで未整備であった卒業後2年目と4年目の卒業生とその採用企業を調査対象とする卒業アンケート及び、在学生を調査対象とする施設・設備の利用満足度調査などを策定し、2021年度から実施する予定（施設・設備利用満足度調査については2020年度末実施予定）である。また、IR活動でも、今年度確認した2つのテーマについて、対象学生の入学から卒業までの各種データを関連付けて分析することとした。したがって、2021年度は、上述のような内部質保証の取組みを着実に進め、その結果を学部教育あるいは入試制度の改革・改善に反映させていくよう努めることが求められる。

④ 学部・学科の壁を越えた履修プログラムの検討準備

2020年度事業計画では、「学生の興味・関心の多様化」「教育内容の充実」などの観点から、文理融合や学部・学科横断型カリキュラムによる魅力のあるコース制度のような、学生が所属学部・学科の壁を越えて共通に履修できるプログラム、システムに関する検討の必要性が挙げられていた。これに関して議論を進めた結果、「公共政策コース(仮)」と「6次産業化・農業活性化コース(仮)」の2つのコースの立ち上げと、その責任者を決定することができた。したがって、2021年度は、2022

年4月発足を目指してさらに具体案を検討し決定していかねばならない。

⑤ 2022年度認証評価受審に向けたWGメンバーの決定

2022年度の認証評価受審に向けて、今年度、「自己点検評価書」の主要な基準に沿って、主要部署の責任者を中心にWG（ワーキング・グループ）のメンバーをした。したがって、2021年度は、受審に必要な業務を着実に進めるとともに、メンバーを中心に基準を確認しつつ予備的に執筆を進めるなど、実務的な作業に取り組まねばならない。

⑥ 広報機会の減少と対応策の必要性

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって地域連携活動も抑制的に行わざるをえず、また、COC活動の一環として旺盛に取り組まれていた講演会なども散発的な開催となってしまった。そのため、本学のメディア・マスコミでの報道も減少傾向であったことは否めない。したがって、2021年度後半、あるいは2022年度に向けて、地域連携部署を中心に、今後3カ年にわたって展開される周年事業を中核に戦略的・計画的に各種活動を企画・実施し、併せてメディア・マスコミへの露出度を高めるべく取り組んでいくことが求められる。

2) 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止への全学を挙げた対応

2020年度は、同年2月頃から全国的に感染拡大の様相を見せていた新型コロナウイルス感染症への対応に追われた一年であった。

① 前期は感染症対策本部中心に対応策を検討し展開

2月頃に始まった国内での新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対し、2月25日に、住吉学長（当時）を本部長とする「新型コロナウイルス感染症対策本部」を立ち上げ、以後、同本部を中心に対応策を検討し、実施に移すという対応策をとった。2020年度前期についても同様であり、前後23回の本部会議を開催し、適宜・適切に対応策を打ち出し教職員及び学生に周知することによって、まさに全学を挙げた態勢で感染防止に取り組むことができた判断している。

本部会議の詳細は会議議事録に記されている。なお、ここでは、全学を挙げた対応策の一例として、Teamsを利用したオンライン授業に関わる全教職員対象の研修と実施を挙げておきたい。4月1日の第4回対策本部会議において、授業開始を4月13日から5月7日まで延期することを決定し、その間を準備期間とすることとした。それを受け、浜崎全学教務委員会担当及び情報センター職員を中心に、4月30日と5月1日にTeamsの利用スキルアップ講習会をFD・SD研修会として実施すると同時に、科目毎の履修学生を登録しチームの構築を進めた。一方、多くの教員が連休返上でスキルアップに努め、その結果、予定どおりオンライン授業を始めることができた。おそらく、長野県内はもちろん全国的にも早い対応であったと言ってよいであろう。

② 後期は「松本大学活動制限指針」に基づいて迅速に対応

2020年度後期は、健康安全センターの脇本保健師を中心に、前期の経験を踏まえ作成した「松本大学活動制限指針」に基づいて、適宜、適切に対応することができた。指針は、横軸に「教育活動」「課外活動」「学外者来学」「施設貸出」など17項目にわたって活動内容や部署毎の担当業務を示し、縦軸に1～6まで6段階の警戒レベルを示したものである。それを基に、長野県の発出する警戒レベルにほぼ対応した形で、本部長及び副本部長に加え主要部署の担当責任者などで機動的かつ効率的に「制限」を確認し、全教職員・学生、さらには外部の関係者に周知・徹底することができた。

その上で、2021 年度もこの指針を活かして対策を施していくであろうことを念頭に、精査に努め、より適格性・適切性を高めていくことが求められる。以上が、前期・後期を通じた本学の感染拡大防止対策の概要であり、結果として、感染者は1名であった。

(3) 2021 年度の計画 <A>

1) 期待の高まりを踏まえた対応策追究の必要性

長野県短大の四大化に端を発した県内高等教育の再編は、松本短大の看護大学設立によって、2021 年 4 月から 11 の大学が存在することになる。にもかかわらず、全国でも下位 5 県に入っている県内高校卒業生の県内大学への進学割合（県内残留率）を、大きく改善するに至らないのは明らかである。県の調査では、県内大学を志望しながら入学できない学生の割合は 8.5%に達している。周知のように、県内高校生の大学進学率は、全国平均に比べ 10 ポイント程度低い 40%弱であるが、これも、経済的な負担が大きく進学そのものを断念してしまうといったケースが少なくないことを示していよう。

このような状況を鑑みたとき、有力な解決策は、県内大学の収容力を増加させることである。それを踏まえ、2020 年度事業計画では、総合経営学部の定員増員案を、大学院の充実に伴う専任教員の増員と、それによる S/T 比率の改善などを根拠に提案した。それによって、入試状況の改善を図るとともに、地域社会の活性化に資する若者層の県内残留を高め、教育条件を改善・維持し、今後に備えた財源確保を目指す、というものである。昨年からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大を背景に強まっている「地元志向」の流れは、それをあらためて想起させるに足るものである。

2020 年度事業計画に示されたこのような状況認識と対応策は、今後も、本学の全構成員が意識的に追究していかなければならない課題である。加えて、上記の「地元志向」とともに、受験生の間では「安全志向」もまた強烈に強まっていることが、2021 年度入試の中で明らかになった。それが短期で収束するものか否か、動向を分析し、2022 年度の入試政策に反映すべく取組む。

なお、第 2 次中期計画では、短期大学部に関して、「これまで通りにその存在価値は継続していくことが予測できる。（ことから）、・・・将来に向けて地域社会のニーズにあった運営を積極的に検討していく。」とした。したがって、短期大学には、従前からの段階的縮小案に捕らわれることなく、第 2 次中期計画の趣旨に沿った将来計画を鋭意検討し、新たなあり方、より魅力的な教学内容・システムなどを早期に明らかにする。

2) 最重要数値目標（KPI）の達成に向けた取組みの強化

第 2 次中期計画には、上記の短期大学部に関する記述を含め、向こう 5 年間に取り組むべき 5 つの最重要数値目標（Key Performance Indicator、以下、KPI）と 15 の重点項目が盛り込まれている。

KPI としては、2020 年度を起点に、「入学者数」「志願者数」「志願倍率」「初年時退学率」「年間退学率」「最低在学年限退学率」「就職内定率」「学生納付金収入」「経常収支差額」の 9 項目について、年度毎の数値目標を設定した。具体的な項目例と、2021 年度の数値目標を以下に挙げる。

- ・「入学者数」・・・大学は入学定員の 1.20 倍を、短期大学部は 1.10 倍を目指す。
- ・「志願者数」・・・大学・短期大学部共に 2%（大学は約 35 人、短期大学部は約 5 人）増を目指す。

・「最低在学年限退学率」・・・大学は、現状の11.0%を全国平均である8.0%まで段階的に下げていくことを念頭に、2021年度は10.0%を目指す。短期大学部は、現在の3.2%から3.0%まで下げることを目指す。

・「就職内定率」・・・大学は97.0%、短期大学部は96.0%を達成する。

KPIは、上の例のように、年次計画に組み込み着実に取り組めば無理なく達成でき、「当該年度の進捗状況を踏まえ、毎年見直し修正を加えて実情に合致したものとし、次年度の事業計画に反映していく。」ものである。したがって、研究科及び各学部、短期大学部には、KPIを踏まえて年次計画を策定し、目標達成に向け、一致して取組みを強化していく。

3) 重点13項目の着実な取組みの推進

重点項目としては、第1次中期目標・計画を踏まえつつ、改定前の3年間に生じた、主として以下のような新たな課題と取組みが盛り込まれている。

① 新たな研究組織の立ち上げと円滑な運営

2020年度には、健康科学研究科の博士課程への課程変更が申請・認可され、防災科学研究所の設置が承認された。したがって、出発年度である2021年度は、それぞれ運営を円滑に行い実績を着実に上げるべく取り組むとともに、課題や問題点などの把握と解決に努めていく。また、総合経営学部を基盤とする総合経営研究科（修士課程）については、2022年4月設置を目指して、現在進めている申請業務などを適切・的確に行っていく。

② 内部質保証向上サイクルの確立と取組みの強化

文科省は、近年、「教育の質保証」「内部質保証」を高等教育機関に求めている。それを簡潔に示したのが、冒頭に紹介した「教育マネジメント指針」の5章である。すなわち、まず3ポリシーを通じて学修目標を具体化し、それに応じて授業科目・教育課程を編成・実施して、その結果得られた学修成果や教育成果を把握・可視化するという一連のサイクルを確立し、自省のかつ自律的に実施することによって教育・学修の質を高め保証することを追求するということであろう。そのためにも、FD・SD活動の高度化や教学IR体制の確立と、その一連の課程や成果などの公表を求めているのである。

記述のように、本学は、そうした教育政策の動向把握に努め、適切に対応策を施してきた。2021年度においても、2020年度に承認された卒業後2年目と4年目の卒業生とその採用企業を対象とする卒業アンケート、在学生を対象とする施設・設備などの満足度調査などを着実に実施する。そして、その結果をFD・SD研修会を通じて公表・共有するとともに、カリキュラム改革や施設・設備の改善などに着実に結び付けるべく取り組む。また、IR活動でも、2020年度に確認した2つのテーマについて、対象学生の入学から卒業までの各種データを関連付けて分析し、それを学部教育あるいは入試制度の改革・改善に反映させていく。加えて、従来からの各種調査・アンケートについても着実に実施し、授業改善及びカリキュラム改革に反映させるべく努める。

③ 学部・学科の壁を越えた履修プログラムの設定と運営組織の設置

2020年度事業計画では、「学生の興味・関心の多様化」「教育内容の充実」などの観点から、文理融合や学部・学科横断型カリキュラムによる魅力のあるコース制度など、学生が所属学部・学科の壁を越えて共通に履修できるプログラム、システムに関する検討の必要性が挙げられていた。これに関して議論を進めた結果、「公共政策コース（仮）」と「6次産業化・農業活性化コース（仮）」

の2つのコースの立ち上げ及び責任者を決定できたことから、2021年度は、2022年4月発足を目指してさらに具体案を検討し決定していく。

④ 2022年度の認証評価に向けた組織的対応

2022年度の認証評価受審に向けては、2020年度に、「自己点検評価書」の主要な基準に沿って、担当主要部署の責任者を中心にワーキング・グループのメンバーを決定した。したがって、2021年度は、受審に必要な手続き業務を着実に進め、メンバーを中心に基準を確認しつつ予備的に執筆を進めるなど、担当部署に対し必要な改革・改善を主導するとともに、実質的な予備作業にも取り組んでいく。

4) 戦略的な広報活動の企画と展開

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大によって地域連携活動も抑制的に行わざるを得ず、また、COC活動の一環として旺盛に取り組まれていた講演会なども散発的な開催となってしまった。そのため、本学のメディア・マスコミでの報道もまた減少傾向であったことは否めない。おそらく、2021年度前半も同様の状況が続くことになると思われるが、年度後半、あるいは2022年度に向けて、地域連携部署を中心に戦略的・計画的に各種活動を企画・実施し、併せてメディア・マスコミでの露出度を高めるべく取り組む。

＜執筆担当／副学長 等々力 賢治＞

II. 研究科及び学部全体の点検・評価

1. 大学院 健康科学研究科

(1) 年度当初の目標 <P>

今年度は、松本大学第2次中期目標・計画の3年度目にあたり、より魅力のある大学院を目指して様々な取組みを行っていく。

1) 博士課程の設置

2021年4月からの大学院健康科学研究科修士課程の博士課程への課程変更を2020年3月に文部科学省に申請した。課程変更が認可されれば、直ちに博士課程への課程変更の背景と博士前期課程（現修士課程）・後期課程での人材育成の内容等を分かりやすく解説したリーフレット等を作成・配布し、広く広報活動を行うとともに、入学試験を適切に行い、定員確保に努める。また、文部科学省からも要請されている院生に対する給付型奨学金や入学一時金の給付など何らかの経済的支援策への協力を松本大学後援会・同窓会に求めていく。課程変更が認可されなかった場合、可能な限り速やかに再申請を行うために、カリキュラムや教員構成等を変更して対応する。

2) 養護教諭専修免許課程の設置

大学院の課程変更申請に伴い、必要となった栄養教諭専修免許と保健体育専修免許の教職課程の再申請と、2021年度からの養護教諭専修免許の教職課程の設置申請を2020年3月に文部科学省に行った。いずれも認定されれば積極的に広報活動を行い、大学院生の入学者数増加にもつなげる。また、専修免許科目の履修がスムーズに行えるように準備していく。

3) 入学者の確保に向けて

令和2（2020）年度の入学予定者は5名（うち社会人1名）で、在学生6名を加えて計11名となり、私学事業団の補助金要件（10名以上）を満たすことができた。社会人大学院生は11名中4名（36.4%）であり、大学院開設以来累計の社会人入学生数は53名中18名（34.0%）となった。これは、大学院修士課程の全国平均10.5%に比べて著しく高く、本大学院の特長である。今後も、社会人にとって学びやすい大学院であることを、ホームページ・新聞広告やキャンパス見学会等を通じて提示・発信していき入学者の確保と社会人のスキルアップにつなげていく。

4) カリキュラム等の整備

「健康科学」が扱う領域の拡張や教員の異動及び科目の増加の実態に合わせて、今年度から科目区分を既存の「栄養科学」・「スポーツ科学」領域の分類に加えて、「人文・社会科学」領域を新設し、専門科目を3つの領域に再編した。同様に、「特別研究」の科目区分も新設し、科目名「特別研究」を「修士特別研究」に変更した。さらに、いくつかの科目の新設と科目名の変更を行った。これらの新カリキュラムを適切に運用し、修士課程の院生の成長につなげていく。

また、大学院生のキャリア教育の充実を目的として、2021年度からインターンシップを「特別研究」から新たに「インターンシップ演習」として分離・独立させるために準備していく。

(2) 目標の実施状況 <D>

1) 博士課程への課程変更

3月に文部科学省に申請した修士課程から博士課程への課程変更について、7月22日に一次審査

の結果を受けた。その後、与えられた課題や疑問に対応し、8月26日付けで補正申請を行った。

2) 教職課程の新規設置・再認定申請

2021年度の「養護教諭専修免許」の教職課程の新規設置と、大学院課程変更申請に伴う既存の「栄養教諭専修免許」「保健体育専修免許」の再課程認定もあわせて、2020年3月に文部科学省に申請した。6月12日以降、事務的な書類整備について複数回指摘を受け、修正後、最終的に8月5日に申請した。

3) 社会人がより学びやすい制度の拡充

「教育訓練給付金」とは、労働者の主体的な能力開発の取組み又は中長期的なキャリア形成を支援し、雇用の安定と再就職の促進を図ることを目的としている。この制度を利用すれば、指定講座を終了し申請を行った社会人に対して、かかった費用のうち10万円を上限とした給付金がハローワークより支給される。社会人がより学びやすい制度を拡充するために、「教育訓練給付金」の対象の訓練施設として認定されるように、2020年11月に厚生労働省に申請した。

4) 入学者選抜

2021年度の入学予定者は、博士前期課程ではスポーツ健康学科から1名（新卒）並びに博士後期課程の入学予定者は、過年度に本研究科修士課程を修了した社会人研究生1名と本学人間健康学部健康栄養学科教員1名の計3名となった。

5) 広報活動

大学院として、オープンキャンパスや進学説明会等にあわせた信濃毎日新聞への広告掲出や大学HPでの研究成果の随時掲載により広報した。また、海外留学を経験した院生、長期インターンシップを行った院生、大学教員・公務員として就職した修了生に関する記事もHPに掲載し、受験を考えている学生に入学後あるいは修了後の進路についてイメージしやすくした。

社会人院生向けには、社会人在学生・修了生に関する情報をHPで公開するとともに、HPや募集要項で昼夜開講制度や長期履修制度・科目等履修生制度・教育訓練給付金指定講座など働きながらも学びやすい環境である点を広報した。

6) 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策本部会議での承認を受け、大学院においては、人数が少数であり、3密を避けられることが明白であるため、研究指導教員の管理・責任のもと、研究活動については中断することなく、継続できた。また、講義については、5月7日（木）以降、原則対面授業で行うこととなった。ただし、県外在住社会人や県内でも勤務先から移動を制限されている社会人等については遠隔授業を行うこととなった。院生室への同時入室は当面2名までとすることとした。また、修士論文発表会も遠方に住む社会人向けに考慮し、オンライン配信とした。

7) その他

① 今後、博士後期課程の大学院生が日本学術振興会特別研究員に採用される可能性も考え、研究倫理やコンプライアンスの徹底のため、教員と同様に、院生も「松本大学の研究活動における不正行為への対応に関する規程」及び「松本大学及び松本大学松商短期大学部における公的研究費の管理・監査のガイドライン」を理解し、誓約書を提出させることとした。

② 独立行政法人日本学生支援機構の「2019年度特に優れた業績による返還免除候補者」に推薦し

た修了生1名が半額免除となった。

- ③ 私学事業団の「大学間連携等による共同研究」に専任教員の研究課題1件を選出した。
- ④ 社会人院生1名が松本大学地域健康ステーションから順天堂大学医学部付属順天堂医院健康スポーツ室に転職した。
- ⑤ 院生1名が進路変更を理由に退学した。
- ⑥ 次年度からのスポーツ健康学科新卒業生の研究生入学願について承認した。
- ⑦ 必要に応じて、いくつかの規程や内規を改定・整備した。

(3) 点検・評価の結果（目標の達成状況）＜C＞

1) 博士課程への課程変更

10月22日付けの審議会答申を受け、10月23日付けで文部科学大臣から課程変更が認可された。修士課程設置以来、博士課程設置に向けた長年の取組みに一応の成果が得られた。教員審査では、研究指導教員（Dマル合）が9名、研究指導補助教員（D合）が3名と判定され、研究指導教員（Dマル合）4名以上、研究指導補助教員（D合）を含めて7名以上という設置基準を満たすことができた。審査結果には若干の遵守事項が指摘されているため、文部科学省のアフターケア（AC）に向けてしっかり対応していく。

2) 教職課程の新規設置・再認定申請

10月21日に一次審査の結果がメールで配信され、特段の指摘事項がないとの報告を受けた。2021年2月10日付けで文部科学省から「養護教諭専修免許」の教職課程設置と「栄養教諭専修免許」「保健体育専修免許」の再課程認定が認可された。特に、養護教諭専修免許は、看護系以外ではあまり専修免許を取得できないため、本学部スポーツ健康学科卒業生以外にも看護師資格を有する入学者の増加にも繋がることが期待される。

あわせて、短大卒業資格しかなかった時代の栄養教諭2種免許や養護教諭2種免許所持者が、大学院入学後に専修免許を取得できるように「大学院履修規程」を改定し、学部の教職課程の科目履修をできるようにした。ただし、4単位を超えて学部の教職科目を履修する場合は、「松本大学科目等履修生規程」に従うこととした。

3) 社会人がより学びやすい制度の拡充

2021年3月に、厚生労働省から「教育訓練給付金」の対象の訓練施設として認可された。今後、社会人院生は、条件を満たせば10万円の給付金を受け取ることができる。社会人向けの学びやすい大学院としての制度は、昼夜開講制・長期履修制度・科目等履修生制度・教育訓練給付金制度として、今年度まででほぼ整えることができた。

4) 入学者選抜

2021年度の入学予定者は博士前期課程1名、博士後期課程2名の計3名となり、在学生8名とあわせて11名となり、大学院として私学事業団補助金の対象要件（10名以上）を満たすことができた。新設の博士後期課程は収容定員を満たすことができたものの、博士前期課程は満たすことはできなかった。

5) 広報活動

長野県栄養士の生涯研修会において大学院博士課程設置構想の広報を行った。博士後期課程への課程変更の認可後には長野県栄養士会や複数の企業、行政に本大学院の内容を紹介するリーフレットを配布した。

6) 新型コロナウイルス感染症対策

講義や特別研究について、感染者を出すことなく行うことができた。教員だけでなく、院生一人一人が安全対策を遂行したおかげであるといえる。講義や修士論文発表会も、社会人向けにはオンライン配信としたが、特段トラブルはなかった。

7) その他

- ① 継続を含めて文部科学省の科学研究費に6名、7件が採択された。
- ② 研究科の複数の教員が、複数の企業等との共同研究を進めることとなった。
- ③ 院生1名が長野県科研費に採択された。
- ④ 修了生3名は、WDB株式会社エウレカ社への就職、信州大学附属中学校の保健体育教員に常勤講師として採用、新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科修士課程への進学となった。
- ⑤ 新型コロナウイルス感染症の世界的流行のため、ドミニカ共和国から出国できなかった社会人留学生が、2020年12月に来日した。この留学生には4年間の長期履修制度の利用が承認されているため、在籍期間に関しては問題にはならない。
- ⑥ 退学した院生1名は管理栄養士として、株式会社富喜屋に就職した。

(4) 次年度に向けて <A>

2021年度は、松本大学第2次中期目標・計画の初年度にあたり、より魅力のある大学院を目指して様々な取り組みを行っていく。

1) 博士後期課程のスムーズな運営

松本大学として初めて設置される博士後期課程について、研究・教育活動がスムーズに運営できるようにする必要がある。特に、専門基礎科目や専門科目では、全教員が初めての担当科目となるため、質の高い教育内容を担保するよう十分な準備を行う。また、博士特別研究ではより質の高い指導力と研究成果が求められる。そのためには、互いに批判的かつ建設的にチェックできる体制を築くことが重要である。一方、施設・設備、特に機器の老朽化が問題となっており、更新を念頭に準備を進めていく。

また、文部科学省のアフターケアに備えて、博士後期課程に対して指摘のあった遵守事項にも、誠実に対応していく。

2) 博士課程定員の安定的確保に向けて

定員については、2021年度の入学予定者3名（うち社会人2名）に在学学生8名を加えて計11名となり、私学事業団の補助金要件（10名以上）を満たすことができた。博士前期課程の社会人大学院生は9名中4名（54.5%）、博士後期課程は2名中2名（100%）となり、それぞれ全国平均10.5%と37%に比べて著しく高く、引き続き本大学院の特長であるといえる。今後も、社会人にとって学びやすい制度を数多く整備していること、また、栄養教諭や養護教諭の2種免許所持者が博士前期課程で専修免許を取得できることなどを、リーフレット配布、ホームページ・新聞広告やキャンパ

ス見学会等を通じて提示・発信し入学者の安定的確保につなげていく。加えて、文部科学省からも要請されている大学院への進学促進策として、院生に対する給付型奨学金や入学一時金給付、研究奨励金給付などの経済的支援策への協力を、松本大学同窓会にもお願いしていく。

3) 競争的資金の獲得・共同研究の促進

博士課程が設置されるため、今までは申請すらできなかった文部科学省等の公的競争的資金の獲得を目指すとともに、現在以上に、教員個人の文部科学省科学研究費の獲得と外部企業や団体との共同研究を推進していくことによって、本学大学院の研究成果を発信し、地方でもキラリと光る大学院を目指す。

＜執筆担当／大学院健康科学研究科 研究科長 山田 一哉＞

2. 総合経営学部

(1) 2020年度の計画 <P>

1) 総合経営学部全体

- ① 総合経営学科と観光ホスピタリティ学科の特色を活かした学びの領域を検証し、専門教育の一層の充実を図る。
- ② 両学科に設置されている重点資格につき、合格者を増やすべく手厚くサポートするとともに、多様化する学生のニーズに合わせるため、目標とする資格の再検討を行っていく。
- ③ 各種入試のより良いあり方を検討し改善することで、入学定員の安定的確保を目指す。
- ④ 階層的に展開しているキャリア教育について点検・検討し、学生の学習意欲を喚起し、より適切な進路選択に寄与できるように進める。また、インターンシップの単位化に向けた準備を進めていく。
- ⑤ 公務員採用試験合格者を増やすため、公務員講座の拡充を図る。
- ⑥ 高大連携事業並びに地域連携事業については、両学科の特徴に留意し、更に発展する方向で取り組んでいく。
- ⑦ 大学院(地域経営研究科)の設置を目指して進めていく。

2) 総合経営学科

- ① 総合経営学科のカリキュラム・ツリーと教育目標との整合性を点検・検討し、更に魅力ある教育課程の発展的な編成を進める。特に経営関連科目について、より一層の充実を図る。
- ② ITパスポート、ファイナンシャル・プランナー、産業カウンセラー、販売士を重点資格としてとらえ、学生の資格取得を支援し、合格者の増加を目指す。
- ③ 安曇野市との「プログラミング教室」、商工会議所連合体主催の「まつもと広域ものづくりフェア」、国土交通省が進める「道の駅を利用した地域活性化」等、高大連携事業並びに地域連携事業のさらなる推進を図る。

3) 観光ホスピタリティ学科

- ① 観光ホスピタリティ学科のカリキュラム・ポリシーに即して教育課程を点検・検討し、かつコース制を導入することにより、学生の科目履修について、より専門性が高く魅力的な教育課程となるよう一層の充実と発展を図る。

- ② 新たなコースとして、地域防災コースを新設し、今まで以上に手厚く防災士を養成する。
- ③ 総合・国内旅行業務取扱管理者、社会福祉士、社会教育士、防災士を重点資格としてとらえ、学生の資格取得を支援し、合格者の増加を目指す。
- ④ 「乗鞍高原旅館組合並びに松本市コンベンション協会との連携事業」、「池田町・松川村・安曇野市観光振興の提言事業」、「なみカフェ」の取組、「マーケティング塾」等、地域連携事業並びに高大連携事業の推進を図る。

(2) 2020年度の計画に対する実施状況と評価 <D・C>

1) 総合経営学部全体

- ① 総合経営学科と観光ホスピタリティ学科の特色を元にカリキュラムを検証し、教育の一層の充実を図ることができるように改善した。また、新任教員3名を採用することができ、専門教育の充実が図られたものの、採用することができなかった人事もあり、次年度実施することとなった。
- ② 両学科に設置されている重点資格について、学生に対し手厚いサポートをするとともに、多様化する学生のニーズに合わせるため、目標とする資格の再検討を行った。遠隔授業による指導上の問題について、試行錯誤を繰り返しながらも一つずつ丁寧に解決し、一定の成果を出すことができた。次年度は、さらなる成果を上げるべく努力する。
- ③ 各種入試を検討することで、入学定員の安定的確保と学生の質的向上を図った。
- ④ 階層的に展開しているキャリア教育について点検・検討し、学生の学習意欲を喚起し、より適切な進路選択に寄与できるように努めた。また、インターンシップの単位化に向けた準備も進めた。
- ⑤ 公務員採用試験合格者を増やすため、公務員講座の拡充を図った。
- ⑥ 高大連携事業並びに地域連携事業については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止となるイベントが多く、事業の実施に苦勞した。しかし、その中でコロナ禍ならではの地域連携事業あるいは高大連携事業のあり方を模索し、その可能性を追求することができた。しかし、残された課題も多く、より発展できるように問題点を検討することとする。
- ⑦ 大学院(総合経営研究科)設置のため、文部科学省に設置申請書類を提出し受理された。

2) 総合経営学科

- ① 総合経営学科のカリキュラム・ツリーと教育目標との整合性を点検・検討した。また、農業経済学分野を担当する教員とデータサイエンス分野を担当する教員の2名を採用し、専門教育の充実を図ることができた。
- ② 学科の重点資格として、ITパスポート3名、ファイナンシャル・プランナー3級10名・3級実技5名・3級総合5名、販売士3級6名の合格者を出した。
- ③ 地域連携事業として、安曇野市との「プログラミング教室」を2回実施した。また、国土交通省の進める「道の駅を利用した地域活性化」においては、川柳コンテスト、非接触型スタンプラリー、ジビエを利用した商品開発等を行った。

3) 観光ホスピタリティ学科

- ① 観光ホスピタリティ学科のカリキュラム・ポリシーに即して教育課程を点検・検討した。また、社会教育分野を担当する教員を1名採用することができ、魅力的な教育課程となるよう、一層の充実と発展を図ることができた。

- ② 学科の重点資格としては、総合旅行業務取扱管理者 1 名、国内旅行業務取扱管理者 2 名、社会福祉士 1 名、防災士 36 名を合格させることができた。
- ③ 地域連携事業として、地域のミニコミ誌である「あやめ通信」の発行、池田町との地元の産物であるハーブを使った商品開発、松川村における移住促進事業の提案、「なみカフェ」における学習支援・イベント開催等の 5 回の活動、「松本ユース平和ネットワーク」による小学生への平和教育・松本市との平和事業等を展開した。

(3) 2021 年度の計画 <A>

1) 総合経営学部全体

- ① 総合経営学科と観光ホスピタリティ学科の特色を活かした学びの領域を検証し、専門教育の一層の充実を図る。
- ② 両学科に設置されている重点資格につき、合格者を増やすべく手厚くサポートするとともに、多様化する学生のニーズに合わせるため、目標とする資格の再検討を行っていく。
- ③ 各種入試のより良いあり方を検討し改善することで、入学定員の安定的確保及び質の向上を目指す。
- ④ 階層的に展開しているキャリア教育について、学生の学習意欲を喚起し、より適切な進路選択に寄与できるように点検・検討を進める。また、公務員採用試験合格者を増やすため、公務員講座の拡充を図る。
- ⑤ 新型コロナウイルス感染症が流行している中で、実現可能な高大連携事業並びに地域連携事業を模索し、新たな取組みに挑戦していく。
- ⑥ 大学院（総合経営研究科）の設置を目指して、教学内容の点検及び申請業務などを着実に進めていく。
- ⑦ 総合経営学部が置かれている諸環境に鑑み、また防災科学研究所並びに大学院の設置等、新たな教育・研究の要素が加わることも視野に入れながら、今後の学部のあり方を検討する将来構想検討委員会を学部内に立ち上げることとする。

2) 総合経営学科

- ① 総合経営学科のカリキュラムツリーと教育目標との整合性を点検・検討し、更に魅力ある教育課程の発展的な編成を進める。特に経営関連科目について、より一層の充実を図る。
- ② IT パスポート、ファイナンシャル・プランナー、産業カウンセラーを重点資格としてとらえ、学生の資格取得を支援し、合格者の増加を目指す。
- ③ 安曇野市との「プログラミング教室」、商工会議所連合体主催の「まつもと広域ものづくりフェア」、国土交通省の進める「道の駅を利用した地域活性化」等、高大連携事業並びに地域連携事業のさらなる推進を図る。

3) 観光ホスピタリティ学科

- ① 観光ホスピタリティ学科のカリキュラム・ポリシーに即して教育課程を点検・検討し、かつコース制を導入することにより、学生の科目履修について、より専門性が高く魅力的な教育課程となるよう一層の充実と発展を図る。
- ② 防災科学研究所の設置に伴い、新たな防災教育の発展に努める。また、今まで以上に手厚く防災

士を養成していく。

- ③ 総合・国内旅行業務取扱管理者、社会福祉士、社会教育士、防災士を重点資格としてとらえ、学生の資格取得を支援し、合格者の増加を目指す。
- ④ 「乗鞍高原旅館組合並びに松本観光コンベンション協会との連携事業」、「池田町・松川村・安曇野市観光振興の提言事業」、「なみカフェ」の取組み、「マーケティング塾」等、地域連携事業並びに高大連携事業の推進を図る。

＜執筆担当／総合経営学部 学部長 増尾 均＞

3. 人間健康学部

(1) 2020年度の計画 <P>

1) 人間健康学部全体

- ① 健康科学研究科の充実に合わせて、両学科と研究科の相互理解と協力をいっそう強化・促進し、「健康科学」の領域における特色ある研究・教育を推進する。
- ② 確実な定員充足と、能動的に学修に取り組む学生の確保を念頭に、本学部の魅力や成果の周知・徹底を核に据えた入試・広報事業に取り組む。大学入学共通テストへの対応にも備える。
- ③ 学部・学科のアドミッション・ポリシーの広報活動と、ポリシーを反映した入学試験の実施により、学部及び学科の理念を的確に理解した学生の確保を図る。
- ④ 制定したアセスメント・ポリシーの点検と、それを踏まえた学部・学科の3ポリシーの見直しを進める。
- ⑤ 両学科共にコース制の問題点などを適宜・的確に把握し、円滑な運用に努める。
- ⑥ インターンシップ科目の導入とキャリア教育の見直しを進め、その円滑な実施に努めると共に、カリキュラムの一層の充実を図る。
- ⑦ 管理栄養士・健康運動指導士・各種教諭の合格者数並びに合格率の更なる向上に加え、公務員試験についても対策講座等を活用し、採用者数の向上をめざす。
- ⑧ 文部科学省による本学研究ブランディング事業助成の打ち切りを受け、地域健康支援ステーションと協同し今後の事業内容の多角化、企業化に向け積極的に取り組む。

2) 健康栄養学科

- ① 管理栄養士国家試験対策は、原則学科の方針に基づき進められる。日々の学習指導と国家試験対策を更に充実させ、高い合格率を維持するよう努める。
- ② 少数担任制を活かしたきめ細かな指導によって、学習意欲の低下や進路での迷いの解消に努め、不本意入学者に対しては新たな目標をもたせるべく取り組む。これらの対策によって、休・退学者を減らすべく努める。
- ③ 基礎ゼミでは、各コースの特色と学びの内容をより明確に提示し、2年次からコース制をスタートとする。更に、各種実験・実習やゼミナール活動等を通して専門性を広げ、卒業後の進路決定、生涯設計につなげる。
- ④ スポーツ健康学科と協働した取り組みをアピールし、新たな就職先を開拓する。また、公務員や医療系の職種については、引き続き職場確保に取り組む。

3) スポーツ健康学科

- ① 本学科の教育理念である「運動・スポーツを通じた健康づくりの視点で、地域の活性化に貢献できる人材を育成する」を踏まえ、一学年 100 名を超える学生の年次毎の実態を把握することに努める。
- ② 学科に所属する学生一人ひとりが、大学四年間及び将来に向けた目標を定めつつ自ら学ぶ姿勢を育てていくための教育・研究環境の構築を促進する。
- ③ 健康運動指導士、健康運動実践指導者試験の合格者数と合格率、教員採用率の更なる向上に取り組む。
- ④ 補充人事に遅滞なく取り組むとともに、1 名の新任教員を迎えスタートする今年度は、教育並びに学務のスムーズな移行を図り成果を挙げるべく、学科教員間の一層の連携・協力を努める。

(2) 2020 年度の計画に対する実施状況と評価 <D・C>

1) 人間健康学部全体

- ① 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、いち早く遠隔授業の準備に取り組み、長野県内でも早期に授業を開始することができた。開講は 5 月 7 日まで遅れたが、人間健康学部の各教員は直前のゴールデンウィーク中に遠隔授業の練習を行い、スムーズに新学期をスタートすることができた。実技・実習のカリキュラムが多い本学部においては、各教員が工夫を凝らした授業の立案や 集中講義等に対応した。さらに、6 月半ばから実習の対面授業を再開し、両学科とも 1 名の感染者も出すことなく対面実習を最後まで行うことができた。これら成果の一部は本学「教育総合研究第 4 号別冊」の特集にまとめられている。
- ② 健康科学研究科健康科学専攻の課程変更認可申請に向け、個人調書の作成等で協力した。後期（博士）課程の設置が認められ、2021 年度より博士前期・後期課程に名称変更される。申請に関わった人間健康学部教員は、全員教員資格が認められた。
- ③ アセスメント・ポリシーの見直しを行い、大きな変更はなかったが、不要と思われるものを削除した。また、両学科の 3 ポリシーを見直し、大学パンフレット等で公表し、2021 年度入試に備えた。
- ④ 健康栄養学科 79 名、スポーツ健康学科 112 名の新生を迎え、両学科共に入学定員を充足できた。しかし、収容定員については、両学科の合計では充足しているものの、健康栄養学科単独では充足できていない。退学者は例年より少ない傾向にあるとみられていたが、年度末に退学希望者が集中した。遠隔授業などにより、直接学生と接する機会が減り、指導が行き届かなかった影響が年度末の退学者の増加につながったかもしれない。また、スポーツ健康学科から、本年度入学生及び 2 年次在学生の単位修得数が例年に比べ少ない傾向にあることが指摘され、事後の対応として次年度以降対面授業が本格的に行われる際の配慮が重要になってくると思われる。
- ⑤ 見直したアドミッション・ポリシーを、入試における面接での質問事項として取り扱うことによって、学部及び学科の理念を的確に理解した学生の確保を図るべく努めた。
- ⑥ コース制をより充実させるために、各コースにおける新規カリキュラムを提案し、2021 年度新入生のカリキュラムに取り入れた。
- ⑦ キャリア教育の専門家を学部専任教員として迎え、その分野の教育の充実を図ったが、2020 年

度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、インターンシップは実施できなかった。

- ⑧ 下記の両学科の報告でも触れているが、管理栄養士は昨年度とほぼ同等の高い合格率を維持できた。また、健康運動指導士においては合格率が下がったが、全区分の平均値（養成校など、種々の課程を修了した受験者全体の平均合格率）を上回る結果となった。また、健康運動実践指導者については、昨年同様高い合格率を維持し、全区分平均を大きく上回る結果であった。公立学校教員採用試験において、スポーツ健康学科で現役学生2名が合格した。卒業生では7名（全てスポーツ健康学科）が合格した。公務員採用試験では、両学科から松本、諏訪市役所をはじめ、町・村役場、警察、自衛隊などで12名が採用された。
- ⑨ 2020年度の松大ヘルスプロモーション事業では、3自治体の住民約350名を対象に、体力測定及び運動・栄養指導を実施した。また、白樺リゾート池の平ホテルとの連携事業である出張型特定保健指導では、県外の企業数社にデモンストレーションを実施し、来年度2社と契約を結ぶ予定である。同じく、ヘルス・ツーリズムについてもモニターツアーを実施し、来年度以降本格的に稼働させていく。松本市立病院の人間ドックのオプションサービスであるアクティブドックでは、約20名を対象に個別の運動指導や体力測定などを実施した。2021年度以降は、県内外を対象とした出張型特定保健指導やヘルス・ツーリズムを中心に、コロナ感染症のため一時中断していた県内企業への「TAGFITNESS」の推進や自治体住民への健康教室等を含め、事業の収益化を促進する。

2) 健康栄養学科

- ① 2020年度の第35回管理栄養士国家試験において、4年生67名が受験し、58名が合格した（合格率86.6%）。国家試験対策を更に充実させ、引き続き高い合格率を維持するよう努める。
- ② 2020年度の健康栄養学科の退学者は9名であった。その理由は様々であったが、ゼミ担当者と時間をかけて面談した後の決定であるので、できる限りの対応は行ったと思われる。しかし、退学者が生じると収容定員を欠く事態を招くため、入学者選抜時に不本意入学者を減らすことや、学びに対するモチベーションが低い学生に対して興味・関心を高めるためのカリキュラム編成や授業のあり方を検討していくと共に、ゼミ担当者等による定期的な面談及び教員間における情報共有が重要であると思われた。
- ③ 本学の教育理念に基づく地域との連携に関連して、次のような取組みを行った。まず、栄養教育実習ではオンライン授業であったが、グループワークとして食育関連のポスターを作成した。学生達の投票で選ばれた2作品が、松本市が毎年6月の食育月間にあわせて行っている食育パネル展で約2週間展示され、食育の啓発を図った。また、臨地実習Ⅳを新規開講し、在宅栄養指導というこれまでにない新しい取組みを開始した。初年度にあたる本年は臨床栄養コースの8名の受講者があった。スポーツ栄養コースでは、信州ブレイブウォリアーズ試合時の栄養サポート、チームへの長期インターンシップを実施した。さらに、松商学園ウエイトリフティング部の長期栄養サポートを実施した。加えて、2028年長野県国民体育大会に向けた県の事業である「NAGANO スポーツ☆キラキラっ子育成プロジェクト」の一環として、子ども達とその保護者を対象に栄養教育プログラム等を実施した。

スポーツ健康学科との協働した取組みとしては、「NAGANO スポーツキラキラっ子育成プロジェクト」における体力測定の補助、全日本スケート連盟の医科学支援活動における強化合宿の補助、

また、スポーツ健康学科の山本准教授が地域活動として実施している健康教室における栄養介入等があった。

- ④ 就職では、昨年に引き続き、管理栄養士として、医療・介護・給食分野の施設や企業に10名が就職した。公務員としては、管理栄養士として大町市役所、原村役場職員に新卒学生がそれぞれ1名採用された。その他の職種でも4名が採用され、公務員としての就職は計6名であった。今後もキャリア教育や公務員試験対策講座を活用し、公務員採用試験受験者を増やすべく努めていきたい。

3) スポーツ健康学科

- ① 毎月1回開催される学科会議を中心に、学科教務委員並びに各ゼミ担当者などから適時学生の動向が報告され、一学年100名を超える学生の年次毎の実態の把握に努めた。さらに、学生一人ひとりが大学4年間及び将来に向けた目標を定めつつ自ら学ぶ姿勢を育てていくために、問題点については、全学科教員が一致した対応をとるべく努めるなど、教育環境の整備・構築を進めてきた。
- ② 初年次教育の「大学入門」、2年次の「スポーツ科学入門」の両ゼミナールについては、本学科教員の共通理解を重視し、昨年度の実施状況を踏まえ、内容的にも方法的にも協力して検討し、更に充実させることができた。また、コロナ感染症の影響を受けて、前期の講義については体育実技、実習を除くほとんどが対面型の授業形式からオンライン型の講義となり、不安を抱く学生もいたため、ゼミナール担当教員を中心に、TeamsやZoomを活用しての相談がいつでも可能となる体制をとり対応した。
- ③ 健康運動指導士、健康運動実践指導者の合格者数及び合格率は下記のとおり、いずれも全区分平均の合格率を上回ることができた。今後も、模擬試験などの回数を増加させるなど、試験対策の強化に努めねばならない。

◎健康運動指導士：21名が受験し14名が合格(66.7%) (参考：全区分平均61.7%)

◎健康運動実践指導者：25名が受験し19名が合格(76.0%)

(参考：全体平均58.1%)

一方、教員採用に関しては、2021年度公立学校教員採用試験を13名が受験し、2名が現役合格(長野県高校 養護教諭、岐阜県小学校教諭)を果たした。また、教員採用試験を受験した学生の内、1名は教職系の大学院へ進学し、残る10名中9名が臨時的任用を希望し、全員が新年度より講師等で教育現場に勤務することになった。

(3) 2021年度の計画 <A>

1) 人間健康学部全体

- ① 新型コロナウイルス感染症流行の終焉が見えないなか、実習・実技や学外でのゼミ活動が多い本学部においては、感染対策と授業の工夫により、平時と同等の教育効果があげられるよう努める。
- ② 2021年度からの課程変更が認められた松本大学大学院健康科学研究科健康科学専攻において、両学科と研究科の相互理解と協力を一層強化・促進し、「食と運動による健康づくり」という本学部の目的に沿う特色ある研究・教育を推進する。
- ③ 確実な定員充足と、能動的に学修に取り組む学生の確保を念頭に、本学部の魅力や成果の周知・

徹底を核に据えた入試・広報事業に取り組む。また、現在両学科の入学定員数に大きな差があるが、定員格差の解消に向けて健康栄養学科において将来構想の検討への取り組みを始める。

- ④ 学部・学科のアドミッション・ポリシーの広報活動と、ポリシーを反映した入学試験の実施により、学部及び学科の理念を的確に理解した学生の確保を図る。さらに、アセスメント・ポリシーを踏まえて見直した学部・学科の3ポリシーの定着、広報に努める。
- ⑤ 両学科ともにコース制の問題点などを適宜・的確に把握し、制度の充実を目的として新たに開講した科目がコース制の運営に充分寄与しているかチェックする。
- ⑥ 導入したインターンシップ科目の円滑な実施と参加学生の増加によるカリキュラムの定着を図る。
- ⑦ 管理栄養士・健康運動指導士などの資格合格率や、各種教諭の採用数などの高い数値での安定・維持をめざす。公務員試験についても対策講座の内容の見直しと講座の活用を推奨し、採用数の向上を目指す。
- ⑧ 事業化を進めている松大ヘルスプロモーション事業では、地域健康支援ステーションと協力・共同を密にし、事業内容の多角化、収益事業化を強力に進める。

2) 健康栄養学科

- ① 学科の確実な定員充足及び一層の発展のため、将来構想の検討を始める。
- ② 管理栄養士国家試験対策は、原則、学科の方針に基づき進められる。日々の学習指導と国家試験対策を更に充実させ、高い合格率を維持するよう努める。
- ③ 少数担任制を活かしたきめ細かな指導によって、学習意欲の低下や進路での迷いの解消に努め、不本意入学者に対しては新たな目標を持たせるべく取り組む。これらの対策によって、休・退学者を減らすべく努める。
- ④ 基礎ゼミでは、各コースの特色と学びの内容をより明確に提示し、2年次からのコース制のスタートに円滑につなげる。さらに、各種実験・実習やゼミナール活動等を通して専門性を広げ、卒業後の進路決定、生涯設計につなげる。
- ⑤ 学生の学習意欲を高めるため、カリキュラムの点検を行う。特に、臨地実習を複数回受講できるよう開講年度を含めた見直しを行い、必要に応じてカリキュラムの改編を図る。
- ⑥ スポーツ健康学科と協働した取り組みをアピールし、新たな就職先を開拓する。また、公務員や医療系の職種については、引き続き公務員試験受講者の増加や職場確保に取り組む。

3) スポーツ健康学科

- ① 本学科の教育理念である「運動・スポーツを通じた健康づくりの視点で、地域の活性化に貢献できる人材を育成する」を踏まえ、一学年100名を超える学生の年次毎の実態を把握することに努める。
- ② 学科教員間の一層の連携・協力を努め、学科に所属する学生一人ひとりが、大学4年間及び将来に向けた目標を定めつつ自ら学ぶ姿勢を育てていくための教育・研究環境の構築を促進する。
- ③ 変化する入試情勢の中で学科定員の確保のために、入試広報室との連携強化を進め、その円滑な運用に努める。
- ④ 健康運動指導士、健康運動実践指導者試験の合格率80%、教員採用率の更なる向上に取り組む。

- ⑤ 2020年度から継続している補充人事と、新たな資格の認定校申請に遺漏なく取り組む。

＜執筆担当／人間健康学部 学部長 木藤 伸夫＞

4. 教育学部

(1) 2020年度の計画 <P>

1) 教育学部全体

- ① 入学定員の充足を第一目標に、過去4回の入試情報を詳しく分析し、入試・広報事業を展開する。
そのために県内外の高校へ積極的に、松本大学教育学部が第一次志望となるよう特色をアピールしていく。
- ② 入学定員の充足を目指すとともに、教育学部への受験生の減少を留意しながら、2021年度入学生募集に向けた入試改革案を策定し、段階的に実施に移していく。
- ③ 甲信越私立大学唯一の教員養成系学部の私立大学として、教員を目指す高校生に教員という職業の魅力を伝えると同時に、教員養成課程への進学機会を提供し、これからの社会に求められる「真の人間力」を持った教員養成を目指す。
- ④ 過去、3年間を通して得られた現場での学生の活動情報と学校からのフィードバックをもとに、より細やかな教育現場体験の指導と地域での実践活動を通して、子どもの心を理解し、信頼される教員の資質を高める。
- ⑤ 小学校教員養成課程のみならず、特別支援教育課程、英語教員養成課程についても充実した課程となるよう学校現場での状況を適切に把握し、円滑な運用に努める。

2) 学校教育学科

- ① 完成年度の充実のため、第四期生の入学を迎え、過去3年間の教育課程の検証と反省を進めつつ「教育実習が学生の成長を促す教育」に向けて組織的に取り組む。
- ② 完成年度における第一期生の進路選択に向け、教員以外の進路を含めた第一志望の達成を目指し、一人ひとりの学生に配慮した指導を実践し、個々の学生の満足度を高め、その成果を発信していく。
- ③ 2年度目の小学校教育実習と中学校免許実習初年度において、第一期生と二期生を含めた学生を対象に充実した実習が行えるように、教員一同の協力と連携のもと、実施して行きたい。
- ④ 教員を希望しない学生が新たな可能性や進路を見出せるように、キャリアセンターと協力し、卒業に向けて教育学部における「幅のある教育」を実践していく。
- ⑤ 第一期生の教員採用試験合格に向けて、教育学部教職センターを中心に試験対策の充実と模擬試験等の実施による学生への支援を推進していく。

(2) 2020年度の計画に対する実施状況と評価 <D・C>

2017（平成29）年4月に開設された教育学部学校教育学科は、今年度完成年度を迎えた。長野県内の私立大学の公立化が進む中で、長野県及び近県では唯一の小学校教員養成課程をもつ私立大学として、独自の方向性をもつ教育が実践されてきた。入学時には進路意識が未確定な多くの学生を、教育課程や地域・学校等での体験活動などを大いに進め、「入学後に学生を伸ばし、育てる教育」に意識的に取り組んできた。2020年度はコロナ禍でのスタートとなり、オンライン授業や

ハイブリッドでの授業などが全学的になされる中、1期生が教員採用試験を受験し、教職以外の一般企業等を目指す学生の就職も含め、初めて就職活動の結果を出す年度となった。

1) 入学定員の確保

4月に4期生88名が入学し、95名の3期生、72名の2期生、65名の1期生と共に、300名超の学生を迎え、完成年度を迎えることができた。このように昨年度の3期生から定員を充足することができるようになったが、定員確保に努めるべく、前年度までは各教員による高校訪問を行い、高校とのつながりが意識できるような関係構築が行われてきた。しかし今年度は、コロナ感染症の感染拡大の影響により、訪問活動はほとんどできなくなり、電話等での情報交換のみにとどまった。

また、教育学部全体としての定員充足率は満たしていないこと、教員養成系の志望者が全国的に減少する傾向の予想があったことなどから、入学試験の前半において入学者を確保するよう、指定校推薦枠の見直しや総合型選抜入試等の改革を行った。

2) ゼミ教育と卒業論文

1年次教育で「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」を、2年次では「教職研究ゼミナール」、3・4年次では「専門研究ゼミナール」が行われ、卒業研究の論文作成に向けて、全教員が手厚い指導と支援を行った。その結果、卒業生全員が無事に卒業論文を書き上げることができ、2月には卒業論文発表会を開催することができた（コロナ禍の影響で、各ゼミ1名のみがオンラインで発表した）。

3) 大学生活や学修への適応

教育学部独特の活動である「フレッシュマンセミナー（1年次）」及び「キャリアアップセミナー（2年次）」は、開設以来、学生の大学生活への適応や人間関係づくりのために1泊2日で行われてきたが、やはりコロナ禍で中止となった。本活動は、学生自身の適応の促進とともに、教員にとって必要な学級集団づくりや学級経営の基本を体験的に学べるだけに、その後の代替えの学習が非常に困難となった。

4) 教育実習等の現場体験学修

教育学部が重視している学校現場での体験活動として設定されていた、1年次の「学校ボランティア活動」と、2年次の「学校インターンシップ活動」はすべてコロナ禍のために中止となった。しかし3年次及び4年次の「初等教育実習」、「中等教育実習」及び「特別支援学校教育実習」は免許必修のため、各学校と調整を図りながら、また受け入れ校の様々な工夫・配慮によって、年度内にすべてを行うことができた。

特に「特別支援学校教育実習」は、今年度初めて行うため、特別支援学校校長会及び長野県教育委員会事務局特別支援教育課及び各特別支援学校との詳細な連携によって、コロナ禍にあっても滞りなく行われ、今後の連携活動にとって有意義であったと思われる。

5) 教職支援センター

教職支援センターは、全学教職センターと連携しながら、教育実習等の支援や教員採用試験対策、普段の授業支援等を行ってきた。特に、初めての教員採用試験を迎える4年生への情報提供、対策講座の企画・運営などを教員とともにを行い、次項のとおり結果を出すことができた。また、「教育学部タイムズ」（9～12号、特別号）を発行し、各教育委員会や校長会、学校への訪問時に配布することによって、教育学部のPRに努めることができた。しかし、学部が完成年度を迎えたことを機

に、その役目が一段落したことから今年度をもって廃刊とした。

6) 英語教育とキャリア支援

英語（中学・高校）の授業は、特に小学校での英語の教科化に伴い、その充実を目指してきた。ブリティッシュヒルズへの国内留学はコロナ禍のため中止となったが、マルタとハワイへの語学留学は予定どおり行うことができた。また、長期語学留学（オーストラリア）を希望した2名の学生への支援を無事に行うことができた。

また、教育学部は小学校教員の免許取得を基本に指導が行われているが、教員以外の進路を希望する学生への支援についても、キャリアセンターとの連携によって十分に行うことができ、民間企業等を希望する学生の進路を早々に決定することができた。

7) 教員採用試験結果と就職活動

1期生の教員採用試験及び一般企業等への就職状況は次のとおりである。

① 教員採用試験結果

合格者は12名（延べ18名、合格率34%）であった。地域別では長野県6名、県外6名、学校種別では小学校11名、特別支援学校1名である。また、残念ながら教員採用試験に不合格となった26名は、全員が非常勤の講師採用を希望し、全員が採用された。教員希望者の教員採用率は100%である。

② 民間企業等の就職状況

民間企業10名、公務員1名（塩尻市）、大学院進学3名（上越教育大学大学院）と、それぞれの進路を決めることができた。

8) 教職における講師採用

講師採用については、長野県教育委員会及び県校長会との協議により、教員採用試験を受験して不合格だった学生を講師採用候補者として登録し、優先的に学校へ配置する講師登録制を初年度から構築することができた。

9) 教員採用試験対策

1期生の教員採用試験に向けて昨年度から手探り状態で行ってきた「教員採用試験対策」のあり方を検討し、その包括的なプログラムの構築を検討することができた。

(3) 2021年度の計画 <A>

1) 教育学部全体

- ① 2020年度に完成年度を迎え、全学年すべてのカリキュラム等が動き出したことを踏まえ、入試・入学から卒業・就職（進学）までの学生の学修やキャリア形成等について、学部設置以降の実績をIR活動の一環として検証する。
- ② 入学定員の充足を第一目標に、過去5回の入試情報を詳しく分析し、入試・広報事業を展開する。それによって県内外の高校へ積極的にアプローチし、松本大学教育学部が第一志望となるよう特色をアピールしていく。
- ③ 入学定員の充足を目指すとともに、全国的な教育学部の受験生減少に留意しながら、2022年度入学生募集に向けた入試改革案を策定し、段階的に実施に移す。

- ④ 全国的に教員採用試験の受験倍率が低下している中で、甲信越私立大学唯一の教員養成系学部として、教員を目指す高校生に教員という職業の魅力を伝えるとともに、教員養成課程への進学機会を提供し、これからの社会が求める「真の人間力」を持った教員養成を目指す。
- ⑤ 過去、4年間を通して得られた現場での学生の活動情報と学校からのフィードバックをもとに、より細やかな教育現場体験の指導と地域での実践活動を通して、子どもの心や行動を理解し、着実に学力と人間力を保証できる信頼される教員の育成を進める。
- ⑥ 小学校教員養成課程のみならず、特別支援教育課程、英語教員養成課程についても充実した課程となるよう、学校現場の状況を適切に把握し円滑な運用に努める。

2) 学校教育学科

- ① 第一期生の教員採用試験結果や一般企業・公務員・進学等の実績を IR 活動の一環として検証して、一人ひとりの学生に配慮した指導を実践し、学生の満足度を高めるとともに、特に教員採用試験の受験率と合格率の向上に努める。またその成果を発信していく。
- ② 学校教育学科が重視している学校ボランティア活動、学校インターンシップ及び小学校・中学校・特別支援学校での教育実習が充実したものとなるよう、教職員一同の協力と連携の下、着実に実施していく。
- ③ 第一期生の教員採用試験結果の状況を検証し、新たな教員採用試験対策プログラムを軌道に乗せて、教員と教職センター職員が協力して試験対策の充実を図る。
- ④ 地域に立脚した大学として、各教育委員会や校長会とも連携・協力を進め、地域のニーズに合った教員養成を目指す。
- ⑤ 教員を希望しない学生が新たな可能性や進路を見出せるよう、キャリアセンターと協力しつつ、卒業に向けて「幅のある教育」を実践して、一般企業や公務員、進学等に向けて確実に支援していく。
- ⑥ 完成年度後の補充人事を確実にやり、学務の移行が滞りなく行えるよう学科教員間の連携・協力を努める。

＜執筆担当／教育学部 学部長 川島 一夫＞

5. 松商短期大学部

(1) 計画 <P>

1) 松商短期大学部全体

- ① 2019年度に終了した AP 補助事業を継続し、必要に応じて改善等を行う。特に、下記の点については優先的に実施する。
 - a) ルーブリック評価の実施と改善、並びに教員間の共通認識の醸成。
 - b) 4学期制に対応して開発した海外留学プログラムの実施とその定着、並びに長期インターンシップやボランティア活動（サービ斯拉ーニング）等のプログラムの開発。
 - c) “ディプロマ・サプリメント”の発行による学生の主体的な学びの促進と、記載内容の検討。
- ② 「3つのポリシー」の改正を行うとともに「アセスメント・ポリシー」を整理する。また、ディプロマ・ポリシーに応じてカリキュラム等の見直しを行う。

- ③ 就職内定率に加えて職場定着率を高めるキャリア教育を推進し、単位化したインターンシップ参加者の増加を図る。
- ④ 高校生等に本学の特色や魅力をアピールし、安定した学生募集を推進する。また、松商学園高等学校との高大連携事業を推進し、そのプログラムを開発する。
- ⑤ 国内外の他大学・短大等との連携を強化し、学内のグローバル化と多様化を図る。また、2019年度に検討・決定した外国人留学生に対する入試改革を実施する。
- ⑥ 学期を活用して海外の大学等に留学する学生に対して学修支援制度を構築し、海外留学者数の増加を図る。また、そのための言語教育の充実を図る。
- ⑦ 前年に続いて、4学期制による教育効果を検証するとともに、資格取得や検定合格、コンピテンス育成等の教育効果を更に高めるため、カリキュラムのあり方についての検討を進める。

(2) 実施状況と点検・評価 <D・C>

1) AP 補助事業の円滑な実施と優先的に実施した事項

2020年度は、AP 補助事業が前年度に終了したことを受けて、AP での効果を検証し、改善を行っている。

① ルーブリック評価の実施と実施科目の拡大、並びに教員間の共通認識の醸成

前年度に AP 補助事業の 1 つであるコンピテンスやルーブリック評価の検証を行い、それらの一部を“3つのポリシー”に含めることとしている。そのため、2020年度は実施科目や教員間の共通認識に関しては前年度から変化はなく、②に記述したように3つのポリシーに対する議論を充実させた。

② 4学期制に対応したプログラムの開発

2020年度も、前年度までに引き続き、AP 補助事業で協定等を結んだ海外の大学を中心に開発したプログラムに学生を積極的に参加させる予定であった。しかし、新型コロナウイルスの影響により、以前より現地に滞在していた学生を除き、原則すべての海外研修が中止となった。今後は新型コロナウイルス感染症の状況を確認しながら、国の政策に合わせる形で参加を促進していく。

③ ディプロマ・サプリメントの発行による学生の主体的な学びの促進

ディプロマ・サプリメントの発行はシステム上可能となっており、学位授与式において配布を実施した。学生の主体的な学びについては、ディプロマ・サプリメントの発行とは別に学修支援システム等で進められた。

2) 「3つのポリシー」の改正と「アセスメント・ポリシー」の整理

前年度に AP の補助事業を検証した結果、「3つのポリシー」を改正した。2020年度は、特にディプロマポリシーを実質的に授業において達成するために次年度からのシラバスの内容を教授会や FD 活動での議論を踏まえて考えていくこととなった。「アセスメント・ポリシー」の整理は行うことができなかったため、その効果を確認する指標を今後定めることとしたい。

3) 職場定着率を高めるキャリア教育の推進とインターンシップの単位化

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が生じ、特に前期終了時点ではかなり低い就職内定率となっていた。採用スケジュールの後ろ倒しや企業側の採用計画の変更などに加えて、前期の間は学生が学内に入ることができない状況だったため、満足な就職指導ができなかった

ことが原因の1つだと考えられる。後期になり、対面の指導が可能になってくると就職内定率もあがり、最終的には95%を超える状況となっている。次年度も同様の厳しさが予想されるため、早期の就職対策を実施する予定である。また、インターンシップについても、2020年度は全面的に中止になっている。職場定着率をいかに高めるかがここ数年の課題であり、前年に続いてキャリア教育と就職支援の棲み分けの議論を進めてきた。その結果、次年度からは2年次の「キャリアクリエイト」のⅢとⅣに続いて、1年次の科目についても就職指導として実施する予定であり、学生の参加率や取り組み方が課題になると考えられる。

4) 高校生等に対する本学の特色・魅力のアピールと、安定した学生募集の推進

学生募集については、新型コロナウイルス感染症の影響によって例年より優位になるのではないかと予想されたが、本年度も最後まで予断を許さない状況が続いた。しかし、そうした社会情勢に左右されることのない魅力ある短大を目指す観点から、将来計画委員会において、現在の産業構造の変化や男性が増加している現状を踏まえて新しいフィールドの作成が提案されている。次年度はそのフィールドの実現に向けて検討を重ねていく。

5) 国内外の他大学・短大等との連携を強化

上記のAP補助事業により海外の大学との連携を進めた結果、現在8つの大学と協定や覚書を締結している。また、協定や覚書は締結していないが、連携を進めているのは6大学になっている。2020年度はコロナ感染症の感染拡大に伴い、留学そのものがすべて中止になっているが、今後は感染状況を確認しながら、国の政策に合わせる形で連携を促進していく。

6) 海外留学生に対する学修支援制度の構築

今年度は、特に新たな海外留学生に対する学修支援制度は構築されていない。今後、個々の状況に合わせて単位の認定や経済的な援助を考えていきたい。

7) 4学期制による教育効果の検証

4学期制については例年、授業の定着や授業理解の点で評価するアンケート結果が出ている。今後も在学生アンケートや卒業予定者アンケート、卒業生アンケート等により効果を検証する。

(3) 2021年度計画 <A>

1) 松商短期大学部全体

- ① 本学部の男子学生の比率があがっていることや産業構造が変わりつつあることなどへの対応を含め、高校生に対して魅力的な新しいフィールドを開発し、次年度より開講できるよう準備を進める。
- ② 今年度より改正した「3つのポリシー」に従って教育活動を開始するに当たり、ポリシーに対応したシラバスの作成を目指すとともに、「アセスメント・ポリシー」を整理し年度末に点検・評価できる体制を作る。
- ③ 無単位化した就職指導の状況を注視するとともに、職場定着率を高めるキャリア教育を推進するために、関係者によるワーキング・グループを作成し検討を行い、カリキュラムへ反映していく。
- ④ 4学期制による教育効果を検証し、今後の学期制度の在り方について検討を進め、具体的な結論

を出す。

- ⑤ 学科の再編に関して、本学での教育上のメリット・デメリットに加えて、対外的なイメージを含めて継続的に検討を行っていく。

<執筆担当／松短期大学部 学部長 浜崎 央>

第2部 委員会・部会別点検・評価

I. 管理部門

A：大学管理運営

1. 全学協議会（構成員 教員 14名、事務局 3名 計 17名）

学長、副学長、研究科長、各学部長・学科長、事務局長、事務局次長、学生センター長を構成委員とする全学協議会は、最高意志決定権者である学長の下に置かれ、全学的・学部横断的な課題・事項に関する審議・決定と、報告事項の適切かつ適確な周知による各種情報の全学的共有化と、本学における教学マネジメントの統括を主要な任務としている。

1) 年度当初の計画 <P>

2020年度は、2018年4月1日を起点とする旧第2次中期目標・計画（2018年4月～2023年3月）の中間年であり、2020年度事業計画に盛り込まれている具体的な諸課題の遂行に全力を傾注すべき1年となる。とりわけ、2022年度に受審を予定している認証評価に向けた対応策の策定と実施は必須事項であり、これを関係部署と連携して遅滞なく遂行することが優先課題となろう。また、今年度の入試状況について分析を進め、各種入学試験の定員管理の厳格化及び適切化に向けても主導的に取り組む。そのほか、①IR関連データに関する情報の周知を図りその活用の促進に努めるなどIR推進体制の実質化、②各種規程の整備及び学部横断的人事の遂行などにも取り組む。

そうした継続的な諸課題とは別に、今年度途中での学長交代を念頭に円滑な大学運営を図るべく本協議会として積極的に取り組みつつ、昨年度終盤から対応を余儀なくされている新型コロナウイルス感染拡大に伴う大学運営と教学運営にも積極的に関与し、それぞれ遅滞のない適切な運営を主導していく。

以上のような多様かつ困難な諸課題解決のためにも、各方面に情報を求めて把握に努め、それを踏まえた上で適切な方策を練り決定していくなど、積極的に議論を展開し学部横断的課題・事項に関する審議・決定機関として主導性を発揮していく。また、報告事項については、不要不急のものは資料配付によって周知を図るなど省時間化を図り、その分議論時間を拡充すべく努める。

2) 実施・活動状況 <D>

本協議会は、年度当初の計画に基づいて、8月を除く毎月1回、定期で計11回開催され、事前に開催された学長、副学長、研究科長、各学部長、事務局長、事務局次長を構成員とする全学運営会議において確認、整理された協議事項について慎重に審議し決定すること及び、報告事項についても確認の上全学的に周知することについて、それぞれ遅滞なく努めた。審議事項は、全学運営会議における議論を経たものを中心に、全学委員会から各「担当」を経て上程されたものも含め、審議し結論を得て実施に移してきた。また、報告事項についても、全学運営会議において扱われたものに加え、全学委員会等からのものも適宜取り上げ、情報の全学的周知・共有化を図るべく努めた。

教学マネジメントに関しては、通常、全学運営会議の前に開催される内部質保証室関連会議（自己点検・評価委員会、FD・SD委員会、IR委員会）で審議・決定事項及び報告事項などについてあらためて報告・確認し、全学的に周知を図るべく努めた。また、各種アンケートの実施状況と分析結果を管理・総括し授業改善並びに教学改革に結び付けるべく、全学教務委員会などと連携して取組んだ。

今年度、本協議会で取り上げられ審議、承認された主たる事項について、以下、（1）全学的組織

の改廃及び学部横断的人事に関する審議と決定、(2) 学則及び各種規程の審議・了承、(3) 教学マネジメントに関する事項の検討・決定、(4) 入試に関連する事項の検討・決定、(5) その他、の5点にまとめ今年度の活動状況を概述する。

① 全学的組織の改廃及び学部横断的人事に関する審議と決定

- ・地域健康支援ステーション専門員の採用
- ・男子サッカー部専任コーチの採用
- ・2021年度委員会構成の変更（主要な変更点は下記のとおり）
 - i 委員会名欄に「理事・大学連絡協議会」を追加記載
 - ii 自己点検・評価委員会中のコンプライアンス推進部会を委員会として独立設置
 - iii 地域防災対策委員会は防災科学研究所設置に伴い廃止
 - iv 全学運営会議内の規程整備部会、自己点検・評価委員会内の認証評価準備部会、FD・SD委員会内のFD・SD立案推進部会及び教育企画推進部会の4部会についてそれぞれ親委員会で対応可能なことから廃止
 - v 学部長、学科長の交代による実施責任者、連絡・調整担当者の変更

② 学則及び各種規程の審議・了承

- ・研究倫理委員会規程の改正
- ・松本大学図書館情報機器利用規程の一部改正
- ・各種委員会・センター規程の改正に係る共通事項の確認
 - i 第1条、第2条 趣旨と目的の文言の修正（検討事項）
 - ii 第1条（趣旨）と第2条（目的）の文言の精査。
 - iii 第3条 管理担当者の職務の明確化（確認事項）
 - iv 第6条 委員長及び委員の任期（確認事項）
- ・松本大学内部質保証室規程の制定
- ・松本大学コンプライアンス委員会規程の制定
- ・松本大学松商短期大学部外部評価委員会規程の改正
- ・松本大学松商短期大学部入学金免除規程の制定
- ・松本大学入学金免除規程の改正
- ・松本大学理事・大学連絡協議会規程の改正
- ・松本大学大学院入学金免除規程の制定
- ・松本大学大学院特待生規程の改正
- ・松本大学大学院学則の改正
- ・松本大学学位記規程の改正
- ・大学院履修規程の改正
- ・松本大学・松本大学松商短期大学部規程等の体系変更

③ 委員会と委員会内に置かれた部会の廃止（括弧内は従来の親委員会）

- ・地域防災対策委員会（地域連携委員会）→地域防災科学研究所へ
- ・規程整備部会（全学運営会議）
- ・認証評価準備部会（自己点検評価委員会）→認証評価準備会議（仮称）
- ・コンプライアンス推進部会（自己点検・評価委員会）→コンプライアンス委員会として独立

- ・FD・SD 立案推進部会 (FD・SD 委員会)
- ・教育企画推進部会 (FD・SD 委員会)

④ 教学マネジメントに関する事項

- ・授業アンケートの実施状況と結果の確認
- ・卒業予定者アンケートの結果と分析の公表の決定
- ・過年度卒業生(2年目と4年目)並びに就職先企業(同)に対するアンケートの実施決定
- ・大学及び短期大学の「2020年度度学習行動調査」及び「2020年度卒業生アンケート(就職先、企業、卒業生)」の結果と分析報告並びに公表の決定
- ・IRのテーマ決定(教育学部一期生と松商学園高校からの進学生に関するデータ分析)

⑤ 入試に関連する諸事項の検討・決定

- ・入学試験受験料のWeb割引の廃止
- ・学力特待生資格試験の受験料改定
- ・総合型選抜のエントリーの条件変更
- ・外国人留学生選抜の受験資格の変更
- ・総合型選抜と学校推薦型選抜の実施内容の検討・決定
- ・学生募集活動の企画・実施
- ・各種選抜入試の管理・実施並びに判定会議へのデータ提供

⑥ その他

- ・大学院設置準備
- ・新型コロナウイルス感染症への緊急対応の決定
- ・各種申請等の調整
- ・連携協定の審議・承認と締結の支援
- ・本学における学会等の開催確認と支援(施設貸し出し)

3) 点検・評価の結果 <C>

全学協議会は、審議・決定機関であって通常の業務遂行の任を負うものではないことから、必ずしも日常的な評価・点検には馴染まない。とはいえ、大学院の認可申請業務に取り組むとともに、既述のように学則及び各種規程の改正・改定・変更の審議・承認と理事会への上程など、学部横断的な事項については適宜、適切に対応してきた。また、教学マネジメントの統括部署として、文部科学省など関係機関・組織の動向を適確に把握し、対応策の策定・構築に迅速かつ的確に努めた。さらに、年度終盤になって急速に対応を求められることとなった新型コロナウイルス感染拡大に対して、対策本部の立ち上げをはじめ組織的対応に力を尽くした。また、専門員の採用など学部横断的人事に関する審議と決定についても、なし得る最善の解決策を提示し審議、承認へと導くことができた。

以上のように、全学的かつ重要な課題に対して、全体状況を把握、検討した上で、適切な解決策や方向性を提示し適切に実施に移すことができたと判断する。

4) 次年度に向けた課題 <A>

2021年度は、法人全体の中期計画と歩調を合わせて改訂された第2次中期計画(2021年4月～2026年3月)の初年度である。したがって、各部署の2021年度事業計画は、改定前の3年間に明らかになった成果及び課題などを踏まえた上で、第2次中期計画の内容に沿ってどこまで実施できるか、あるいは、していくかを検討し、実施に移していくことになる。それを受け、全学協議会として

は、各部署の計画と取り組みに加え、大学全体として取り組むべき事項あるいは学部横断的な事項について、適切に把握し必要な調整を行いつつ意思決定を図るべく努める。

そうしたことを勘案したとき、2020年度事業計画に盛り込まれた以下のような全学的な課題に対する主導的な対応こそが、すなわち本協議会が次年度取り組むべき主要な課題である。したがって、詳細は、本報告書冒頭の「全学的視点で見た点検・評価」あるいは2020年度事業計画自体に譲り、ここでは、その項目のみ記しておく。

- ① 期待の高まりを踏まえた対応策追究の必要性
- ② 最重要数値目標（KPI）の達成に向けた取組みの強化
- ③ 重点13項目の着実な取組みの推進
 - i) 新たな研究組織の立ち上げと円滑な運営
 - ii) 内部質保証向上サイクルの確立と取組みの強化
 - iii) 学部・学科の壁を越えた履修プログラムの設定と運営組織の設置
 - iv) 2022年度の認証評価に向けた組織的対応
- ④ 戦略的な広報活動の展開。

＜執筆担当／全学協議会 責任者 等々力 賢治＞

2. 全学運営会議（構成員 教員7名、事務局3名 計10名）

1) 2020年度当初の事業計画 <P>

全学運営会議の構成員は、学長、副学長、研究科長、各学部長、事務局長、事務局次長であり、日常的な大学運営を司るために、従来どおり週1回会議を開くことを基本に運営していく。また、学長が議長となって、各構成員は、委員長を務める委員会については当然のことながら、各員が担当する部門を持ち、その中の各委員会と連携を強め、そこで生じた問題や全学的な判断が必要な事項などについて会議に反映し、議論に付して結論を得るといったこともある。しかし、それでも解決できない場合には、当該委員会の委員長などを会議に招集して意見を聞き、解決の方途を探るなどの措置をとる。

2) 2020年度事業報告 <D>

既述のように、全学運営会議は、日常的な大学運営を司るために基本的には週1回会議を開催し、全学的・学部横断的な課題・事項及び報告などについて協議、整理して、月に1回開催される全学協議会に上程、報告することで、その円滑な運営に資することを主要な任務としている。したがって、本会議で取り扱った協議事項並びに報告事項は、ほぼ全てが上記の全学協議会におけるものと重なっている。各構成員が担当する委員会、担当部門との連絡・連携を図り、必要に応じて課題や問題などを全学運営会議に反映させるという使命を遂行するために、2020年度は、通常は火曜日5限に、長期休み中は会議の開始時刻を柔軟に設定し、計46回の会議を持った。

特筆すべきこととして、委員会規程の改廃、条項など形式の統一、文言の修正・統一などを行い、懸案であった委員会規程の整備に一区切りを付けることができたことがある。これは、一重に、教務課の赤羽学生センター長と野田教務課主事の努力に負うものであったことを付言しておきたい。なお、規程整備が成ったことを踏まえ、全学運営会議に置かれていた「規程整備部会」については廃止することとした。したがって、今後の規程整備については全学運営会議が所管することになる。

また、昨年度の「次年度への改善・改革に向けた方策 <A>」で指摘されていた、新たに設置し

た内部質保証室の機能を明確にするために議題等を整理し議論に資することについて、後述のように適切に行うことができ高く評価してよい。加えて、昨年度と同じように、「私立大学等改革総合支援事業」への申請対応を目的に臨時的な会議を8月末に2日連続で開催し、松本大学はタイプ1及びタイプ3に（短大部は採択なし）採択されたことについても、昨年度に比べ採択基準点数が著しく高くなったことを勘案すれば高く評価してよいであろう。

3) 点検・評価の結果 <C>

本会議は、上述のように、大学の管理運営に関する重要なパートを担っているが、少人数であること及び会議開催が密に行われていることに加え、アンテナを高く張って文部科学省など外部情報を素早く把握できていることなどもあって、適宜・適切に任務を果たしてきたと判断している。本会議がなければ、全学の管理運営が滞っていたことは間違いないと言っても過言ではないであろう。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

2021年度は、法人全体の中期計画と歩調を合わせて改訂された第2次中期計画（2021年4月～2026年3月）の初年度である。したがって、各部署の2021年度事業計画は、改定前の3年間に明らかになった成果及び課題などを踏まえた上で、第2次中期計画の内容に沿ってどこまで実施できるか、あるいは、していくかを検討し実施に移していかなければならない。全学運営会議としては、そうしたことを踏まえ、日常的な課題の解決及び情報の共有化などは当然のことながら、新たな事業計画に意識的に対応・対処し主導していく。とりわけ、2022年度に予定されている認証評価に向けては多言するまでもなく、全学の総力を結集すべく取り組む。

<執筆担当/全学運営会議 責任者 等々力 賢治>

3. 内部質保証室

1) 2020年度当初の事業計画 <P>

認証評価準備部会の「これからは「内部質保証」を重要視する必要がある」との指摘を受け、昨年度から、いくつかの大学管理運営に関わる組織を束ねた「内部質保証室」を立ち上げた。したがって2020年度は、この新たな組織を順調に滑り出させ、傘下の3委員会に関する内容を、従来のように全学運営会議の一環としてではなく、内部室保証室関係の協議事項あるいは報告事項として明確に分離して取り上げ、議論に付し結論を得るべく努める。

2) 2020年度事業報告 <D>

自己点検・評価、FD・SD、IRの3委員会を統括する内部質保証室は、全学運営会議の構成員をメンバーとし、学長が室長としてマネジメントしている。2020年度における本会議の開催状況は審議事項を扱った会議に絞ると以下のとおりであり、議題によって、3委員会の開催を確認の上、それぞれ個別に審議・報告を行った。

第1回 2020年5月19日（火）16：50～17：30

<FD・SD委員会>

- ・前期末の授業アンケートの実施日時の変更について審議・承認

<IR委員会>

- ・IRテーマの申請について審議・承認

第2回 2020年6月9日（火）16：50～17：00

<IR 委員会>

- ・総合経営学部の室谷教授より申請のあったテーマについて審議、研究倫理委員会の承認を得ることを条件に承認

第3回 2020年6月9日 (火) 16:50~17:00

<IR 委員会>

- ・学修行動調査結果及び今後の対応について、各項目の満足度向上に向け、各学部や各学科の特徴を生かし、学生の特性を理解した上で、様々な取り組みについて検討、実施すること、併せて、3 ポリシーを周知し理解を得るべく取り組むことなどについて、全学運営会議、全学協議会で議論を進めることが提案、承認された。また、7月29日開催の全学FD・SD研修会において調査結果を取扱い、教職員による教育改善、施設改善計画等に役立てることを確認した。

第4回 2020年10月13日 (火) 16:50~17:15

<自己点検・評価委員会>

- ・LMS 導入に伴う FD 研修会の開催について
FD 研修会の開催について、ICT を活用した教育内容の改善を目的とした内容とし、整備されてきている LMS の研修に当てたいとの提案がなされ、審議の結果、開催日程については今後調整の上、決定することとし承認された。

<IR 委員会>

- ・2021 年度教育企画のテーマ募集について審議・承認
- ・2020 年度後期授業アンケートの質問項目の修正並びに実施対象科目の確認について審議・承認

第5回 2020年12月15日 (火) 16:50~17:30

<FD・SD 委員会>

- ・本年7月21日に開催された「2020年度第4回全学協議会」で、卒業生・企業対象アンケート共に新たに卒業2年目と4年目にも実施する旨承認されていることが説明され、それとの関係で今年度の卒業時アンケートの内容を見直すことが提案され、審議の結果、軽微な修正であれば担当者に一任すること、また、大幅な修正であれば本委員会に諮ることを確認した上で承認された。

<IR 委員会>

- ・2021 年度の IR テーマについて、完成年度を迎えた教育学部1期生を対象に、①入試形態を中心に入学から卒業までの一連のデータ分析を行うこと、②データ等内容の詳細については今後検討すること、③担当は岸田学科長と上條内部質保証室員 (IR 担当) に依頼することの3点を確認し、承認された。

第6回 2020年12月22日 (火) 17:00~17:30

<FD・SD 委員会>

- ・前回の本会議で指摘のあった教職センターを対象項目に入れることについて審議・承認

<IR 委員会>

- ・2021 年度の IR テーマについて、前回のものに加え、松商学園高校から本学に進学した学生を対象に入試から就職までの諸データを蒐集・解析し、今後の入試対策及び学修支援などに役立てることとしたいとの提案がなされ、審議の結果、異議なく承認された。併せて、担当を、山田全学入試・広報委員長と宮坂内部質保証室員 (IR 担当) とすることを確認した。

第7回 2021年1月12日(火) 16:50~17:00

<自己点検・評価委員会>

- ・2021年度に第三者認証評価受審を控えていることから、『2020年度自己点検・評価報告書』については、各委員会において「PDCA サイクル」を意識した内容で執筆することの提案がなされ、特に異議なく承認された。

第8回 2021年1月19日(火) 16:50~17:15

<FD・SD委員会>

- ・2021年度の教育企画推進経費案について内容及び経費を検討・審議した結果、学校教育学科より申請のあった「国内外留学推進」を除き、委員長案を承認した。

<IR委員会>

- ・2月2日(火)開催予定の全学運営会議の冒頭において、2020年度のIRテーマとして取り組まれた総合経営学部の室谷教授の「総合経営学科2019年度新生に対する基礎学力e-learningシステムの学習効果」(『教育総合研究』第4号)に掲載)について、担当者である室谷教授、上條IR委員より報告いただくこととしたとの提案があり、異議なく承認された。

第9回 2021年1月26日(火) 16:50~17:15

<FD・SD委員会>

- ・今年度から実施予定の「施設利用満足度アンケート原案」について説明、提案がなされ、指摘された事項を中心に再度検討し、提案することを確認した。

第10回 2021年2月2日(火) 16:50~17:25

<FD・SD委員会>

- ・2020年度後期授業アンケート集計結果(含む過去3年分)について報告がなされ、回答率が例年に比べ著しく悪かったことが報告された。それを受け、回答率を向上させるための方策について、今後、検討を行いたいとの提案がなされ、承認された。

<IR委員会>

- ・2020年度のIRテーマである「総合経営学科2019年度新生に対する基礎学力e-learningシステムの学修効果」について、担当の室谷教授より、教育総合研究第4号(2020年11月発刊)の掲載資料に基づいて報告がなされ、討議がなされた。

第11回 2021年2月9日(火) 16:50~17:10

<FD・SD委員会>

- ・施設利用満足度アンケート(修正案)について、増尾全学学生委員会担当より、前回の本委員会での審議結果を踏まえて、自由記入欄を加えた修正案が提案された。その中で、予定されている第三者評価受審に向け、ICT活用やコロナ禍対応に関する学内通信環境(Wi-Fi設備)に関する設問を加えることが提案され、異議なく承認された。これらの意見を取りまとめ、2月24日開催の全学協議会において決定、承認を得ることとした。

3) 点検・評価の結果 <C>

冒頭に述べたように、内部質保証室は昨年設置されたものであり、2020年度はこの新たな組織を順調に滑り出させることが大きな目標であり課題であった。その点からすれば、上記のような活動状況は、ほぼそれを達成しえたと評価してよいであろう。また、その副次的効果として、認証評価準備部会、FD・SD立案推進部会の2部会を廃止でき、組織の簡素化を図ることができた。

4) 次年度に向けて <A>

今年度は、既述のように内部質保証の活動内容を明確化して取り組んだ一年であったが、その多くは従来実施してきたものがほとんどであり、その意味では活動を定式化したに過ぎないといってもよいかもしれない。来年度は、今年度の活動を踏まえ、それをより実質的なものにするべく取り組まねばならず、いわば内部室保証室らしい内容を提起し活動を展開する。

<執筆担当/内部室保証室 責任者 等々力 賢治>

(1) 自己点検・評価委員会

1) 2020 年度当初の事業計画 <P>

自己点検・評価委員会は、その中に「認証評価準備部会」と「コンプライアンス推進部会」が置かれていることから分かるように、2020 年度受審予定の認証評価対応並びに、学内における法令遵守の徹底を図り行動規範遵守の意識醸成などに取り組むことなども任務対象としている。さらに、『アニュアル・レポート』『自己点検・評価報告書』『学生版アニュアル・レポート』三誌の編集・発行も担当している。以上の任務遂行に加え、昨年度から始められた教員評価についても、遅滞なく取り組む。

2) 2020 年度事業報告 <D>

編集・発行を担当する三誌については、『自己点検・評価報告書』が2020年7月に発行できたのをはじめ、『アニュアル・レポート』が2021年1月、『学生版アニュアル・レポート』2021年3月と、全て年度内に発行することができた。また、昨年度から始まった教員評価の取り組みについても、各教員自身による自己評価が第一次評価者の研究科長・各学部長に提出された後、第二次評価者の学長に提出され、それぞれの段階で評価を受けている。なお、両部会の事業報告については、次ページ及び次々ページに記載したとおりである。

3) 点検・評価の結果 <C>

3誌の編集・発行に関しては、時期の遅れはあったものの、年度内に発行できたことは評価してよいであろう。また、教員評価の取組みについても、各教員自身による自己評価が第一次評価者の研究科長・各学部長に提出された後、第二次評価者の学長に提出され、それぞれの段階で評価を受けており、今後、これをどのような形で活かしていくか検討が必要と思われる。

上記のように、今年度は、「認証評価準備部会」と「コンプライアンス推進部会」の2つの部会の活動について切り分けることはしなかった。本委員会において、両部会に関わる事柄を扱うことに何ら問題はなく、それぞれを区別して会議を設ける必要性はないと判断したからである。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

3誌の編集・発行に関する時期の遅れを解消する方法について検討し、具体的な対応策をとる必要がある。その際、『2019年 自己点検・評価報告書』が、8月末に開催を予定していた外部評価委員会への提出との関係で7月末に発行できたことは、1つの貴重な経験になるものと思われる。また、どの報告書においても、ルーチン化されて変化がない部分に関しては、毎年同じことにページは割かず簡便に記述し、新規の部分を重点化するという手法の開発も検討する。

認証評価準備部会の担ってきた業務については、上記のように、受審準備に向けた実務組織として

「認証評価準備 WG（仮称）」を別途立ち上げたことを受け、FD・SD 推進委員会及び内部質保証室としてその進捗状況を点検し、スムーズな運営に協力していくことが必要である。また、コンプライアンス推進部会の業務は、新たに設置されたコンプライアンス委員会が担うことになるが、まずは、4月1日に開催される合同教授会で、全教職員対象に「学校法人松商学園コンプライアンス行動規範」、「公的研究費管理・監査のガイドライン」について周知し、コンプライアンスへの意識向上とともに、法令・規程遵守について周知・徹底を図る。

(a) 認証評価準備部会

1) 2020 年度当初の事業計画 <P>

年度当初、本準備会については、2022 年度受審に向けて、本学の評価員からの提言なども受けながら万全の体制で取り組むこと及び、そのためにも、本学独自の『自己点検・評価報告書』の早期発行を目指さねばならない、という2点が提起された。

2) 2020 年度事業報告 <D>

上記のような事業計画があったものの、すでに述べたように、実際には、関連する事柄あるいは事業については内部質保証室関係会議の中で扱った。その概要は、全学協議会を「教学マネジメント」を司る組織と位置づけた昨年度の確認を受け、今年度もまた、全学運営会議メンバー中の全学教務委員会担当者を通じて全学的な教学関係課題・事項を的確・適切に把握し、教学マネジメントを実効あらしめるべく努めた。

3) 点検・評価の結果 <C>

内部質保証室関係の会議における認証評価に向けた審議は、既述のように、適宜・適切に行われてきたと考えており、そこでの審議・決定が、今年度もまた、「私立大学等改革総合支援事業」のポイント向上に繋がったことは間違いないと判断している。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

「認証評価準備部会」は、今年度一年間の取り組みを通じて、担当業務について内部質保証室会議において審議・決定できることが確認できたこと及び、受審準備に向けた実務組織として「認証評価準備 WG（仮称）」を別途立ち上げたため今年度をもって廃止することを、委員会規定の見直しに合わせて決定している。

(b) コンプライアンス推進部会

1) 2020 年度当初の事業計画 <P>

毎年4月1日に開催される合同教授会において、コンプライアンスへの意識向上を図るべく学長から教職員に伝える。特に研究活動においては、研究推進委員会や研究倫理委員会と連携して法令・規程遵守を徹底するとともに、慣例に従って誓約書を研究倫理委員会・委員長に提出していただく。さらに、形式に陥らないよう、実質的にも e-learning の実施や関連する書籍の配布など内容の充実に努める。

2) 2020 年度事業報告 <D>

2020 年 4 月 1 日に開催された合同教授会において、学長は、コンプライアンスへの意識向上を図るよう強調し伝達した。また、研究活動においては、各教員より、法令・規程遵守の誓約書を研究倫

理委員会委員長に提出いただいた。さらに、新しく着任した教員や大学院生に向け、e-learning の実施や書籍の配布など研究倫理の徹底に努めた。

3) 点検・評価の結果 <C>

「コンプライアンス推進部会」の関わる事柄について、今年度は、既述のように内部質保証室関係会議において適宜・適切に扱い、おおよそ果たすべき役割は達成できたと判断している。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

既述のように、「コンプライアンス推進部会」に関わる事柄について内部質保証室関係会議で扱うことに何ら問題はなく、それぞれを区別して会議を設ける必要性はないことが明らかになった。それに加え、法人のコンプライアンス規程に基づいて大学にも「コンプライアンス委員会」を設置したことから、当部会の廃止を、委員会規定の見直しに合わせ全学協議会において決定した。

<執筆担当/自己点検・評価委員会 委員長 等々力 賢治>

(2) FD・SD委員会

(a) FD・SD立案・推進部会

1) 2020年度当初の事業計画 <P>

FD・SD委員会は、その中に「FD・SD立案推進部会」と「教育企画推進部会」の2部会を擁しており、2018年度から全学運営会議メンバーを委員として、FD・SD研修会の企画・立案、実施を主管するとともに、学部・学科を単位とする教育改革に資する「教育企画推進」を担当する。

本委員会は、授業アンケート及び学修行動調査など各種アンケート・調査についても主管しており、2020年度もまた、それらを滞りなく実施する。

2) 2020年度事業報告 <D>

FD・SDの立案推進に関しては、アンケートの実施部署を確定することができたことからFD・SD委員会が所管することとし、各アンケートの実施担当部署については、授業アンケート、卒業時アンケート及び学修行動調査は教務課が、卒業生アンケート及び企業アンケートはキャリアセンターが、施設利用満足度調査は学生課が、それぞれ担当することが確認されている。さらに、来年度より、懸案であった卒業後アンケートを卒業2年目と4年目の卒業生社会人と、その就職先企業を対象に実施することを企画、提案し、全学協議会で承認された。また、施設利用満足度調査についても、学生課を中心に検討され、同じく全学協議会の承認を経て、今年度末に実施された。

このように、本委員会は、授業アンケート及び学修行動調査など各種アンケート・調査についても主管しており、2020年度もまた、それらを滞りなく実施し、2020年度卒業時アンケート及び学修行動調査結果については、FD・SD研修会で取り上げ、全体的な傾向と同時に個別に指摘された事項についても、参加した教職員に紹介し、対応策の検討を依頼するなどした。

なお、今年度の卒業時アンケート及び授業アンケートの実施状況並びに回答率は下記のとおりである。

・卒業時アンケート (2021年2月4日実施)

学科名	卒業予定者	回答者	回答率
総合経営学科	78	71	91.0%
観光ホスピタリティ	73	66	90.4%

健康栄養	72	69	95.8%
スポーツ健康	95	84	88.4%
教育	52	50	96.2%
＜大学 計＞	370	340	91.9%
短期大学部	198	184	92.9%
・授業アンケート	実施科目数	回答率 70%未満科目数	平均回答率
(2020 年度前期)			
短大部 1 学期末	53	14	78.9%
短大部 2 学期末	51	7	84.0%
大学 期末	382	87	81.2%
(2020 年度後期)			
短大部 3 学期中間	50	17	71.9%
短大部 3 学期末	50	16	73.8%
短大部 4 学期中間	50	27	67.4%
短大部 4 学期末	50	13	78.6%
大学 中間	381	266	55.1%
大学 期末	381	236	63.8%

上記のように、後期の授業アンケートの平均回答率が 80%を超えることが通例であった従来に比べて今年度は伸びず、とりわけ大学の数値の低さが際立つものとなった。その原因としては、調査時期が、オンライン授業と重なったこと、また、教員の側にも周知が徹底できなかったことなどが考えられる。この点については、原因を明らかにするとともに、あらためて学生・教員双方にアンケートの必要性について周知を図り、着実な実施を確保すべく取り組まねばならない。なお、2020 年度卒業時アンケート及び学修行動調査の結果については、FD・SD 研修会で取り上げ、全体的な傾向と同時に個別に指摘された事項についても、参加した教職員に紹介し、対応策の検討を依頼するなどした。

また、FD・SD については、今年度は、下記のように 4 度の研修会が持たれ、出欠をチェックした上で、年度末の教員の自己評価にも活かされた。

2020 年度 FD・SD 研修会一覧

実施日	種 類	研修テーマ	講 師	参加数
4/2	FD・SD	遠隔授業講習会ーoffice365 Teams の操作方法と遠隔授業の実施準備ー	浜崎 央 田中 雅俊 山田 裕樹 町田 健	111 名
7/29	FD・SD	調査結果などから見える学生の特徴ー学修行動調査・卒業時アンケートー	等々力 賢治 浜崎 央 上條 直哉	129 名
9/30	FD・SD	松本大学の「これまで」の歩みと「これから」を担う皆さんに	住吉 廣行	136 名

2/22	FD	新たな学修管理システムの活用方法について	赤羽 研太 伊藤 健 日本データパシフィック(株) 平氏	88名
------	----	----------------------	------------------------------------	-----

3) 点検・評価の結果 <C>

既述のように、2020年度後期の授業アンケートの平均回答率が伸びず、とりわけ大学の数値の低さが際立つものとなった。この点については、原因を明らかにするとともに、あらためて学生・教員双方にアンケートの必要性について周知を図り、着実な実施を確保すべく取り組まねばならない。

FD・SD研修会については、新型コロナウイルス感染症拡大への対応に追われたことから講習会的なものを含まざるを得なかったが、逆に、出席率はよかったと言えよう。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

従前より実施してきた授業アンケートなど各種調査に加え、来年度から新たに実施することが確認された卒業後2年目と4年目に行う卒業アンケートと、その就職先企業を対象に実施する企業アンケートを確実に実施する。なお、これまで行ってきた授業アンケートについては、その実施率と回答率を高めるべく取り組む必要がある。

FD・SD研修会については、そうした各種調査から得られた結果の共有化と、それを踏まえた授業改善などの観点に立って計画的に実施していく。

(b) 教育企画推進部会

1) 2020年度当初の事業計画 <P>

「教育企画」とは、各学部や学科がそのカリキュラム・ポリシー（CP）に基づいた学修を進める上で、「こういうことができればCPの達成に効果的であり、どうしても必要だ」と認識されるような組織的な企画のことである。そうした企画の立案、推進によって学生本意の教育システムを充実させることが主要な任務である。今年度も、このような組織的な企画を広く募り、各学部や学科の魅力を高校生にも発信できるように進める。

2) 2020年度事業報告 <D>

2020年度、以下のように9件の申請があり、費用の査定を経て実施に移され、報告文章が『アニュアル・レポート（地域総合研究 Part2）』に掲載されている（予算執行率は2021年3月9日現在のもの）。『アニュアル・レポート』への掲載については、昨年度の「4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>」に記載された「年度末には、申請内容の達成度などきちんとした報告書が提出され、企画毎にPDCAサイクルを回して課題や問題点などを自ら検証する必要がある。例えば、資格試験への支援などについては、合格率がどうであったのか、そうなった原因、強みや弱点なども率直に分析する必要がある。新年度の申請に対する査定に当たっては、そうした報告書に基づいて評価し、単なる前年度踏襲によって自動的に補助金が付くといった事態は避けるようにしなければならない。」との課題提起を受けて、実施に移されたものであることを付言しておきたい。

2020年度 教育企画一覧

学科名等	申請テーマ	予算額(予算執行率)	責任者
総合経営	e-learning system を使った基礎学力の向上と web 採用テストへの対応	900,000 円(103.6%)	室谷
観光 ホスピタリティ	防災士の育成	210,000 円(73.4%)	増尾
	本学科における主要資格(総合旅行取扱・社会福祉士・社会教育士・防災士)取得強化策の取り組み	330,000 円(38.6%)	尻無浜
健康栄養	管理栄養士国家試験受験支援	820,000 円(80.5%)	弘田
	講演会開催	100,000 円(0.0%)	高木
	健康栄養学科3年生授業関連企画「おいでよ♪松大健康教室」の開催	260,000 円(0.0%)	廣田
スポーツ健康	大学入門ゼミナールでの学習手法の習得と学習時間の獲得	700,000(102.5%)	根本
学校教育	国内・国外留学の推進(留学への動機づけと、海外留学)	1,000,000 円(0.0%)	和田
短期大学部	オリジナルテキスト作成	308,000 円(100.0%)	山添
全体	9 件		

3) 点検・評価の結果 <C>

全学部・学科から申請されたことは評価できるが、予算がまったく執行されず企画倒れに終わってしまったケースがあったことは、学修環境が整わなかったことを意味することでもあり残念であった。また、例年同じ企画が申請されているケースも見られることから、内容的に同じであっても、助成金の使い方や進展に合わせ通常の学修行動に移行するなど、新たな高みを目指し、変化を求めることも必要なのではないだろうか。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

例年、同様のテーマ・内容での申請がみられることから、昨年度も「次年度への改善・改革に向けた方策」に記されていたように、お金の使い方や進展に合わせ通常の学修行動に移行するなど、新たな高みを目指し変化を求めるべく取り組むことを要請していく。

<執筆担当/FD・SD委員会 委員長 等々力 賢治>

(3) IR委員会

1) 2020年度当初の事業計画 <P>

ここ数年、本学の受験に際し、「一般入試」や「センター入試」を利用する受験者数が大きく伸び

ていることに加え、受験者層も大きく変化してきている。こうした状況に適合する学生募集方法や、入学者の求める新たなカリキュラムや授業方法、学修スタイルなど、これまでとは異なる対応が求められている可能性が高い。したがって、いずれの学部・学科でも、試験時の成績や入学後の成績、あるいは卒業後の進路など、大学生活の全てのステージを通じた分析が必要であり、その理解を深めるために IR 活動の推進が求められる。また、IR に熱心に取り組んでいるかどうかは、次回の認証評価においても重要なチェック項目になると予想される。本学が旺盛に取り組んでいることをアピールできるように、実績を積み上げる。

以上の点は、昨年度来の課題であったものの、組織的に取り組むまでには至らなかったことから、今年度は、まずはテーマを募集して実際に取り組みを進める。また、それに続くテーマを募集して、連続的・組織的な対応を構築していく。

2) 2020 年度事業報告 <D>

上記の事業計画を受け、年度当初に募集を行ったところ、総合経営学部の室谷教授より「総合経営学科 2019 年度新生に対する基礎学力 e-learning システムの学修効果」のテーマで申請があり、研究倫理委員会の承認を得ることを条件に承認した。その後、担当者であった室谷教授と上條 IR 委員によって分析が進められ、その成果が、2020 年 11 月 30 日付けの『教育総合研究 第 4 号』（発行：松本大学）に投稿・掲載されるとともに、2021 年 2 月 2 日（火）に開催された全学運営会議の冒頭において、両者によって報告がなされた。

また、2021 年度の IR のテーマについて、1 つ目として、完成年度を迎えた教育学部 1 期生を対象に、①入試形態を中心に入学から卒業までの一連のデータ分析を行うこと、②データ等内容の詳細については今後検討すること、③担当は岸田教育学科長と上條内部質保証室員（IR 担当）とすることを、また、2 つ目として、①松商学園高校から本学に進学した学生を対象に入試から就職までの諸データを蒐集・解析し今後の入試対策及び学修支援などに役立てること、②担当を山田全学入試・広報委員長と宮坂内部質保証室員（IR 担当）とすることを、それぞれ確認した。

さらに、2019 年度に行われた学習行動調査結果及び今後の対応について、2020 年 7 月 29 日に開催された全学 FD・SD 研修会で報告し、全教職員挙げて教育改善、施設改善計画等に役立てるよう要請した。その上で、後日開催された全学運営会議、全学協議会において、各項目の満足度向上に向け、各学部や各学科の特徴を活かし、学生の特性を理解した上で、様々な取り組みについて検討、実施すること、併せて、3 ポリシーを周知し理解を得るべく取り組むことなどについて確認した。

3) 点検・評価の結果 <C>

今年度は、懸案であった IR のテーマ募集がなされ、応募した例について分析成果を得られたことは、それ自体高く評価してよいであろう。それを受けて、新たに 2021 年度取り組むべきテーマを 2 つ設定できたことも同様である。

ただし、課題としては、そうした成果をどのようにカリキュラム改革や授業改善に結び付けていくかという視点で、さらに具体策を練っていく必要がある。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

2021 年度については、今年度確認している 2 つのテーマについて着実に取り組む。加えて、新たなテーマについても募集を進めるとともに、内部質保証室として積極的に取り組むべきテーマについて候補を探り挙げていく。

また、IR 活動の結果得られた成果を教職員が共有するための方法についても工夫が必要であり、さらには、それをどのようにして授業改善やカリキュラム改革に結び付けていくのかといった点についても創意・工夫をし、取組んでいく。

＜執筆担当／IR委員会 委員長 等々力 賢治＞

(4) 競争的資金申請推進委員会

1) 年度当初計画・目標 <P>

本委員会は、2018 年度より研究推進管理部門の中に位置づけられていた競争的資金事業推進委員会を、2020 年度からは競争的資金の新規申請事業の動向把握及び申請手続きなどを執り行う部署として位置づけ、内部質保証室の一部所として設置し任務の遂行に努める。

2) 実施状況 <D・C>

そうした趣旨に則って関連する情報収集に努めたものの、今年度については、適格的なものを見出すには至らなかった。

3) 次年度へ向けて <A>

以上のような状況を踏まえ、また、2020 年度に取り組まれた委員会規程の全面的整備の中で、本委員会が任務としていた競争的資金に関する情報収集については全学運営会議が担当することとなったことから、本委員会の廃止が決定された。

＜執筆担当／競争的資金申請推進委員会 委員長 岸田 幸弘＞

B：保健・衛生

1. 健康安全センター運営委員会

センター長を中心に学生・教職員の健康問題や、健康の維持・促進に組織的に取り組んだ。

1) 年度当初の計画 <P>

今年度は、昨年度から継続して学生・教職員個々の健康問題に迅速に対応していく他、下記に取り組む。

- ① 健康教育の充実
- ② 学生相談体制の充実
- ③ 長野県大学保健管理担当者会議の活性化

2) 今年度の活動実績 <D>

① 学生の健康管理

- ・外傷や体調不良、心身の健康相談などに、まず保健師が対応し、必要があればセンター長である医師に連絡・相談して、応急処置、相談に対するアドバイス、医療機関へのコンサルトなどを実施した。
- ・教職員と連携し、心身の健康状況に問題を抱える学生に関する相談に対応し、ケアカンファレンス、保護者面談への同席などを実施した。また必要に応じて、学生の医療機関受診に同行し、心身の健康問題を抱えながら就学している学生のサポートを行った。
- ・週1回、カウンセリングルームを開室し、臨床心理士がカウンセリングを実施した。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、学生定期健康診断は大幅に実施方法を変更した。全学生対象にWEBで問診・尿検査を行い、学生の健康問題を把握し、問題があると考えられる学生には個別に連絡してフォローを実施した。また1年生対象に胸部レントゲン検査を行い、異常のあった学生には個別の精密検査等の指導を行った。
- ・学校感染症（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）の抗体検査を実施し、抗体価の確認と、感染予防のためのワクチン接種について保健指導を実施した。
- ・オープンキャンパス、入学試験などに伴い、それぞれの管轄部署からの依頼を受け、救護対応を実施した。

② 学生への健康教育

各学科、部活動からの依頼に基づき、「メンタルヘルスについて」「感染症予防について」に関する健康教育及び資料の提供を実施した。

③ 感染症への対応

学校医と連携し、強化部（硬式野球部・ソフトボール部）学生に対し、インフルエンザ予防接種を実施した。

④ 安全な学修環境の整備

AEDの点検、メンテナンスを実施した。

⑤ 外部相談機関との連携

㈱ティーパック社と提携し、学生・教職員の心身の健康問題に関する電話相談サービスを実施した。

⑥ 長野県大学保健管理担当者会議の実施

長野県内の大学保健管理を担当する看護職と連携し、情報共有、知識・技術の向上を目的とした担当者会議を実施している。

今年度は新型コロナウイルス感染症の対応について、ZOOMを使用した遠隔会議、メール審議など積極的に情報交換を行った。

⑦ 全国大学保健管理協会との連携

全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会 保健・看護分科会の運営に携わり、長野県内での活動を協会に報告、また協会からの指導事項を県内大学に周知した。

⑧ 新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症の学生・教職員への感染を防止し、不安の軽減を図るため、新型コロナウイルス感染症対策本部会議に出席し、活動制限指針の策定、学生への周知を行った。

各学科の授業の際に時間をいただき、対面・遠隔で感染予防について注意喚起を行った。

学生には軽微な風邪症状であっても登校できないというルールを徹底し、体調不良の連絡があった学生には体調が改善するまで電話でのサポートを実施した。

体調不良が続く学生には、医療機関受診の指導、医療機関との連絡、保健所との連絡についてサポートを実施した。

学内で感染者が発生した際には、保健所の積極的疫学調査に協力し、濃厚接触者となった学生への連絡、PCR 検査後のフォロー、学内必要箇所の消毒作業等を実施した。

また、感染した学生に風評被害が及ばないように、個人情報の保護に努めた。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 健康教育の充実

今年度は学生が登校できない期間もあり、十分な健康教育ができなかった。

オンライン授業などを活用し、授業の一環としてメンタルヘルスについての講義を行うなどしたが、実施方法などについては今後も検討が必要である。

心肺蘇生講習については、講習の内容が大きな声を出したり、器具を共用することもあり、今年度は実施できなかった。新型コロナウイルス感染症の状況にもよるが、安全に開催できる方法を模索し、実施につなげたい。

② 学生相談体制の充実

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響より、年度当初はカウンセリングルームでの対面は中止となり、リモートで行えるよう準備をした。ただ実際にリモートでのカウンセリングを希望する学生はおらず、対面でのカウンセリングは9月から開始した。

自らカウンセリングを希望した学生は昨年度より7%低く、教員や保健師から勧められて来室した学生が増えていた。

相談内容については、心身の不調、就職に関する悩み、家庭の悩みなどであった。新型コロナウイルス感染症で他者との交流が制限された環境が要因と思われる孤独感を訴える学生もいた。

自ら不調を訴えることができる学生がいる反面、カウンセリングに関するアナウンスをされていても、なかなかきっかけがつかめず苦しんでいる学生がいることも推察される。

学生がより SOS を発信しやすいよう、工夫していきたいと考えている。

③ 長野県大学保健管理施設担当者会議の活性化

今年度は特に新型コロナウイルス感染症への対応について、ZOOM による遠隔会議、メールなど

での活発な情報交換を行うことができた。

それぞれの大学での対応と、県内大学として統一した対応が効果的なこともあり、情報共有の重要性を再確認した。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

今年度と同様、学生それぞれの健康問題に対して迅速に、また的確に対応していくために、更に組織的な運営を目指していく。

① 新型コロナウイルス感染症対応

大学内でクラスターを発生させないことを最重点課題として取り組んでいく。個々の感染予防行動を徹底させていくこと、今後ワクチンへの対応も含め、迅速な情報収集に努めていく。

② 学生相談体制の充実

現在臨床心理士が1名で対応しているが、時間的な制約もあり、カウンセリングを希望する学生が積極的に利用できないケースも出ている。複数名の体制とし、カウンセリングルームの開室時間を増やし、さまざまな状況にある学生の対応ができるようにする。

また、学生が日々の生活について気軽に相談できる環境づくりについて、主に学生課と連携しながら取り組んでいく。

<執筆担当/健康安全センター運営委員会 委員長 青木 雄次>

2. 衛生委員会

教職員の心身の健康の維持増進及び安全な就労環境の整備を目的として平成 28 年度に衛生委員会を発足、今年度は3年目の活動を行った。

1) 年度当初の計画 <P>

今年度は、教職員個々の健康問題に迅速に対応していく他、下記に取り組む。

- ① 教職員の健康管理体制の充実
- ② 教職員ストレスチェック体制の整備
- ③ 教職員の心身の健康の保持・増進への積極的サポート

2) 今年度の活動実績 <D>

① 教職員の健康管理

- ・外傷や体調不良、心身の健康問題などに、まず保健師が対応し、必要があればセンター長である医師に連絡・相談し、応急処置、相談に対するアドバイス、医療機関へのコンサルトなどを実施した。
- ・教職員定期健康診断・教職員胃検診を実施し、精密検査・治療の必要な教職員に対する事後指導、生活改善が必要と認められる教職員に対する保健指導を実施した。人間ドック受診者は、受診医療機関での保健指導を受けているが、さらに結果に応じて保健師が保健指導を実施した。
- ・教職員の健康状況に応じて、医療機関と連携し、職務内容について検討を行った。

② 感染症発生への対応

- ・新型コロナウイルス感染症対策本部会議に出席し、活動制限指針の策定、学生・教職員への周知などを行った。
- ・長野県内大学、関東甲信越地域の大学と連携をとり、情報収集に努めた。

- ・感染が疑われる事例が発生した際には、保健所の積極的疫学調査に協力し、学内の消毒作業を実施した。
- ・体調不良時には出勤停止の措置を取り、基礎疾患のある教職員、妊娠中の教職員への保健指導を実施した。
- ・学校医と連携し、希望する教職員に対し、インフルエンザ予防接種を実施した。また接種料金の補助を実施し、できるだけ多くの教職員が接種できるようにした。

③ 外部相談機関との連携

㈱ティーパック社と提携し、教職員の心身の健康問題に関する電話相談サービスを実施した。

④ ストレスチェックの実施

教職員のメンタルヘルス向上を目的として、産業医・保健師を実施者とし、ストレスチェックを実施した。結果を元に、教職員それぞれのストレスリスク分析及び部署ごと・学科ごとなどの集団分析を実施した。

高ストレス者に対しては、産業医面談の勧奨を行い、医師面談は不要とした教職員に対しては、保健師よりメンタルヘルス向上のためのシステムを紹介し、面談を実施した。

⑤ 療養休暇を取得する教職員のサポート

医師の診断により、医療機関での入院治療及び自宅での療養を必要とする教職員に対し、医療機関との連絡、産業医との連携、療養期間中の面談、復帰に向けての環境調整、復帰プログラムの作成、復帰後の定期的な面談を実施した。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 教職員の健康管理

教職員健康診断の受診(人間ドックを含む)の受診率は100%には至っていない。また精密検査を要する場合においても、受診や治療を中断するケースもあり、さらにきめ細かい対応が必要である。

② ストレスチェックの実施

実施5年目となり、大きな混乱なく実施できた。受診率は97%で例年と同様であった。ただ、本来の目的である高ストレス者の産業医面談受診、カウンセリング等の利用はなく、ストレスの高い教職員へのサポートを組織として考えていく必要がある。産業医面談には事業者への報告が義務付けられているため、システム上の問題もあるが、相談しやすい環境づくりが必要である。

③ 教職員の健康の保持増進へのサポート

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、健康診断などの実施も大幅に変更せざるを得なかった。「より健康に」という視点を持つことは難しく、「とにかく感染しないように」という状況になった。新型コロナウイルスが収束するまでにはまだ期間が必要なので、このような状況においても、自身の健康問題や将来的なことについて意識づけができる機会を作る必要がある。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

① 教職員の健康管理体制の充実

教職員健康診断の受診率向上について、引き続き個別の受診勧奨に加え、所属長とも連携し組織的な対応ができるよう検討する。また精密検査等の事後指導については、サポートの体制を整備して取組んでいく。

② ストレスチェックの実施

今年度に引き続き、ストレスチェックを実施する。ストレスチェック実施後のフォロー体制につ

いて、産業医面談・カウンセリング以外の方法についても検討していく。

また集団分析については、10名以上の構成員がいない部署が多いため実施できないこともあるが、個人のみでなく、集団としてのストレス度を分析し、教職員の精神衛生を組織として考えていくことにつなげていく。

③ 教職員の健康の保持・増進へのアプローチ

健康診断・精密検査だけではなく、日頃の生活の中で取り入れやすい食事・運動などへのサポートを継続的に実施する。

コロナ禍で心身のバランスを崩しやすいことも考え、精神的な健康についても啓発活動を実施していく。

＜執筆担当／衛生委員会 委員長 柴田 幸一＞

3. 人権委員会

人権委員会は、「ハラスメント防止部会」及び「個人情報保護部会」の2部会で構成されており、委員は各学部学科からの教員6名（男性5名、女性1名）と事務局長を含む各部署からの職員7名（男性4名、女性3名）によって構成されている。また、相談者からハラスメント等の相談を受けるハラスメント相談員10名（男性5名／女性5名）が選出されている。

1) 年度当初の計画 <P>

2020年度第3回全学協議会で提案された「各種運営委員会・センター会議規程の整備について」を受けて、下記を計画した。

- ・人権委員会規程を見直す。
- ・相談者の相談を受ける相談員が決定してから、その具体的な任務と相談業務の流れについて確認するために年度当初に相談員会議を招集する。
- ・ハラスメント相談員の任務・業務等について理解を深める目的で相談員研修会を開催する。

2) 計画の実施状況 <D>

人権委員会規程改正案の修正内容（①本学の全委員会規程の形式と整合性をとった案、②委員会規程の改廃権限（学長）の明記）について、7月8日、人権委員会のメール審議に諮り、審議の結果、承認されたため、人権委員会規程改正の手続きを進めた。

5月14日、人権委員会・ハラスメント防止部会の相談員会議を開催した。関係規程（「松本大学学内委員会規程」、「松本大学ハラスメントの防止に関する規程」、「松本大学・松商短期大学部アカデミック・ハラスメント及びパワー・ハラスメント防止等に関するガイドライン」）を確認し、相談業務の流れについて情報共有した。また、相談業務を適切に遂行できるよう相談員としての注意点について他大学の資料や人事院規則を参照しながら確認した。

9月18日、相談員研修会を開催した。相談員会議後、相談員から寄せられた相談員の業務等に関する質問に答えることを主な目的として、本学外部アドバイザーである高野尾三穂弁護士をお迎えし、「ハラスメント相談員の役割～相談者・行為者への聴き取り、解決事例を通じて～」を演題にお話しいただいた。

3) 点検・評価の結果 <C>

当初の計画は問題なく遂行できたと思われる。今年度の相談業務は3件の相談と2件の非公式の

相談があった。3件の相談は相談者の要望を尊重し、適切に対処した。2件の非公式の相談は相談者の要望に応じ記録を残さず、人権委員が相談者の話を聴いた。

4) 次年度に向けた課題 <A>

相談業務発生時に適切に対処できるよう、年度当初に必ず相談員会議を行うことを検討する。また、教職員はもとより、学生を対象とした人権問題に関する意識向上を図るために、フライヤー・ポスター等を作成・配布したり、研修会を開催することを検討する。

<執筆担当/人権委員会 委員長 新井 喜代加>

C：施設管理

1. 施設管理センター運営委員会

1) 取組の概要 <P>

2020年度において、次の事業を計画した。

- ① 1号館屋上及び壁面の防水工事
- ② 総合グラウンドの避難用シェルター及び本部棟の設置工事
- ③ 短大生・教育学部生を中心とする駐輪場の設置工事
- ④ 1号館121教室の全席の背座張替え工事
- ⑤ IC学生証・教職員カードのシステムの更新
- ⑥ 照明制御システムの更新
- ⑦ 9号館レストランに交通系電子マネーチャージ機を設置
- ⑧ 学生専用の製氷機の設置

2) 計画の実施 <D>

① 1号館屋上及び壁面の防水工事

1号館は短大部が松本市県から現在の新村に移転した1977年に建設した建物で、本学の校舎で最も古いものであるが、耐震改修工事を終え、部分補修を重ねながら今日に至っている。本工事では、屋上と外壁の全面的な補修、防水塗装工事を行った。

② 総合グラウンドの避難用シェルター及び本部棟の設置工事

サッカー部と陸上競技部の学生の活動時、あるいは授業等で使用時に、雷や驟雨、突風等から速やかに避難し、安全を確保するための場所が必要であった。また、対外試合の際に必要な本部棟も併せて整備した。

③ 短大生・教育学部生を中心とする駐輪場の設置工事

既存の駐輪場のスペースが学生の増加により狭隘になったため、学友会からの要望等も踏まえ、短大生と教育学部生用のための駐輪場を1号館北側に増設した。

④ 1号館121番教室の全席の背座張替工事

121番教室は収容人数が多い階段教室であることから使用頻度が非常に高い。老朽化により汚損した椅子の背座の全面張替を行った。

⑤ IC学生証・教職員カードのシステムの更新

現行のICカードシステムについて、メーカーのメンテナンス期間が終了するため、2021年度から新たなシステムに移行していく必要があった。2021年4月から新システムを導入するための工事を行った。

⑥ 照明制御システムの更新

4号館管理棟の事務室で4・5号館・フォレストホール及びランドスケープの照明を集中管理している制御システムについて、メーカーのメンテナンス期間が終了するため、新たなシステムに移行する工事を行った。

⑦ 9号館レストランに交通系電子マネーチャージ機を設置

9号館レストランの券売機はSuica対応のものを導入している。学生、教職員のSuica利用者が増加傾向にあるため、マネーチャージ機を設置した。

⑧ 学生専用の製氷機の設置

これまで、4号館管理棟事務室内の製氷機を学生も使用していたが、職員の休日には使用できないため、部室棟の一角に学生専用の製氷機を設置した。

3) 点検・評価 <C>

- ① 2020年度に取り組んだ新ICカードのシステムを円滑に運用していく。
- ② 今後の大型の施設設備の修繕については、2020年度に策定した中期建物修繕基本計画に基づき進めていくこととし、具体的には、次の事業について経年的に取り組んでいく。
 - ・総合グラウンド人工芝張替え ・各校舎の2階連絡路の改修
 - ・第1体育館の天井張替えと屋上及び外壁の補修
 - ・3号館外装補修 ・2号館外装補修 ・図書館(3号館)外装補修
 - ・5号館外装補修 ・4号館外装補修
- ③ 新型コロナウイルス感染症対策を含む授業に関するシステムや備品を再点検し、優先順位を付けて必要経費を予算化していく。

4) 今後の課題 <A>

2021年度においては、以下の案件に対応していく。

① IC学生証・教職員証の新システムの円滑な運用

2021年度4月からIC学生証・教職員証の新システムを稼働させ、状況を点検しながら、円滑な運用を進めていく。

② 総合グラウンド人工芝張替工事

敷設から10年が経過し(耐用年数7年)、使用頻度が高いため劣化が進み怪我をするリスクが高まっていることに対応するため。

③ 2階連絡路(渡り廊下)補修工事

建物検査の結果を受け、優先順を付けて、管理棟と5号館、7号館と2号館を結ぶ2階の連絡路のひび割れ補修と防水のため。

④ 教室間授業同時配信システムの整備

密を避けるための教室分散型授業の実施や教室の収容人数により履修制限をかけている授業を改善するために、複数教室に同じ授業を同時配信できるシステムを整備するため。

⑤ 2号館232講義室(階段教室)全席背座生地張替工事

使用頻度が高い階段教室の椅子の背座面を生地の張替えにより補修するため。

⑥ 高額機器の購入と更新

- ・味覚認識装置 ・高速液体クロマトグラフィー ・血圧脈波検査装置
- ・複合機2台 ・電気消毒保管庫(3号館学生食堂)

<執筆担当/施設管理センター運営委員会 委員長 柴田 幸一>

2. 危機管理委員会

(1) 環境保全

1) 年度当初の計画 <P>

学内におけるエネルギー利用の合理化や資源利用の適正化を進めること、若しくは、その活動を支

援することを通じて、①学内の環境保全活動を進め、②高等教育機関として環境配慮の人材育成に努めることを目的とした。

2) 今年度の活動実績 <D>

① 学内の環境活動

- ・古紙・段ボール等の資源回収は障がい者就労支援事業所の第2コムハウスと契約して発生量に合わせて回収した。また、エコ・キャップは常時学内で回収する専用の箱を設置した。
- ・学内の行事の際、資源回収、環境保護の観点に留意するように働きかけた。
- ・太陽光発電やLED照明の効果があり、予算内での支出で対応することができた。

② 高等教育機関として環境配慮の人材育成

- ・障がい者就労支援事業所改修前作業として、主に学内のコピー用紙、新聞紙等を中心に、学生による整理作業の協力を呼びかけ実施した。
- ・委員会を構成する教職員が中心となって省エネ及び環境配慮にかかる情報を全学生へ向けて提供した。

3) 点検・評価の結果 <C>

部会の活動が全学的には十分に共有できないままであった。

4) 改善・改革に向けた方策 <A>

今年度は、これまでに取り組まれてきた活動を基調とし継続的に進めてきた。学生活動の支援や体制づくりは、教職員一体となって相互に連携を取りながら進め、さらなる学友会との連携強化を図る。

(2) 学内防犯・防災対策

1) 年度当初の計画 <P>

自然災害を想定した体制整備、防災訓練の計画と実施、また学校内の防犯体制整備を行う。自然災害を想定した体制整備は本学だけに留まるものではなく地域社会との関係性の中での取組み、構築を主眼におきながら計画する。

2) 今年度の活動実績 <D>

① 警備システム切替工事

2020年9月～2021年3月、IC教職員証の仕様変更に伴い、警備主装置、警備用リモコン、端末センサーを交換した。

② 防犯カメラレコーダーのHDD交換

2020年10月、設置から6年が経過し、交換時期を迎えたため、HDD全14台のうち7台を交換した。

③ 消防用設備定期点検（法定点検 2回/年）

一回目の点検は、2020年8月17日～8月19日、製造より10年経過した屋内消火栓設備の消火栓ホース26本と、製造から5年経過した5号館防火シャッターのバッテリー7台分について、点検後速やかに交換した。また、2020年末で製造から10年経過する消火器が9本あったことから、2020年度内に交換作業を行った。

二回目の点検は、2021年3月24日～3月26日、不良箇所等の指摘事項はなかった。

④ 防火設備点検（法定点検 1回／年）

8月19日に実施した。また、消防用設備定期点検で指摘のあった是正箇所（防火戸が閉まり切らない等）については、2020年10月24日に対応した。

⑤ 防災管理点検（法定点検 1回／年）

消火訓練及び避難訓練とは別に、地震に対する避難訓練を年1回以上実施すること、また、ロッカー、書棚等備品の転倒防止処置について指摘を受けた。

3) 点検・評価の結果 <C>

これまでの継続的な取組みの成果もあり防犯・防災体制の整備ができています。

4) 改善・改革に向けた方策 <A>

今年度は、これまでに取組まれてきた活動を基調とし継続的に進めた。今後は「自衛消防組織編成表」に則った、学生、地域を巻き込んだ防災訓練の実施を検討する。

<執筆担当／危機管理委員会 委員長 田開 寛太郎>

Ⅱ. 入試広報部門

1. 入試・広報委員会

(1) 全学入試・広報委員会

本委員会は、大学院、総合経営学部・人間健康学部・教育学部、松商短期大学の代表及び入試広報室の職員により構成されている。2020年度も大学院代表が委員長を務めた。

全学入試・広報委員会の役割は、①学生募集に関すること（キャンパス見学会、進学説明会、高校訪問など）、②入学者選抜に関すること（入試改革への対応、入試問題の作成と確認、入試業務の運営など）、③①～②で全学的調整が必要な場合、各学部学科、又は全学運営会議・全学協議会との連絡を行うこと、及び④受験生・在学生・保護者・地域住民等に対して、本学で行われている教育・研究・社会貢献活動等についての情報を発信し、広報していくことである。

1) 年度当初の計画 <P>

2020年度（2021年度学生募集）は、特に新型コロナウイルス感染症の流行状況に柔軟に対応しつつ、安心かつ安全な学生募集と入学者選抜を行うことを第一の目標とする。そのために、松本大学新型コロナウイルス感染症対策本部会議との連絡を密にし、すべての活動を感染状況に合わせて実施することとした。

① 今年度入学者選抜について

- ・今年度受験する高校生等については、コロナ禍であるため、全国的に地元志向・学校推薦型選抜や総合型選抜による早期の志望校決定志向・資格志向といった超安全志向であるといわれている。したがって、年明けの入学者選抜の歩留まり率が悪化すると思われるため、可能な限り年内に行われる入学者選抜にて入学予定者を確保する目標を掲げた。
- ・大学院設置や課程変更のために抑制していた入学者数については、文部科学省のルール変更によりクリアできているため、今年度は1.30倍まで入学予定者を増やすことが可能である。その情報を全学部学科で共有しながら、5月1日時点での編入学生の定員を含めた収容定員における充足率にも留意し、収容定員充足も目標とした。
- ・本学で策定している現行の各高校のランク見直しを行う。
- ・昨年度の入試結果の内容を分析し、各学部学科で入試戦略を練り直し、それぞれの入学者選抜の定員の改訂と指定校等の見直しなどを行う。
- ・前年度の一般入試の第一から第三志望において複数学科を志望する受験生が多かったため、学部学科間（短大も含めて）の連携がより必要になってくる。特に、総合経営学部と短期大学部は、入学後の編入指導も見据えての連携に留意する。
- ・新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、選抜中止や延期などの不測の事態に備えて予め対応を検討しておく。

② 大学入学共通テストへの対応

大学入学共通テスト利用選抜について、国語の古文・漢文や記述式問題、数学の記述式問題、英語外部試験利用（英検、GTEC-Student等）、Japan e-Portfolioの取り扱いについて公表する。

③ キャンパス見学会について

キャンパス見学会の内容及びタイムスケジュールについて再検討を行い、参加者の分散化を図る施策を検討する。

④ 広報について

日常的に大学ホームページ（HP）の更新・充実を行い、大学の諸活動や成果を可能な限り早くかつ正確に発信していく。また、教員による講義等の動画ファイルを大学HPにて公開し、充実化を図る。さらに、年4回、学報「蒼穹」を編集・発行し、厳選した活動情報をまとまった形で発信していく。

⑤ その他

- ・松商学園高等学校との間で、入学者に関する相互理解を深めるための教職員間説明会を続ける。
- ・教務課と協力して入学者の追跡調査を行い、選抜方法の妥当性について検討する。
- ・一般選抜の地方会場について検討する。
- ・現状に合わせて各種規程の整備・改定を行う

2) 目標の実施状況 <D>

① 今年度の入学者選抜について

今年度に行う入学者選抜について、全体として下記のことを確認した。

<全体>

- ・文部科学省からのガイドラインに準じて、新型コロナウイルス感染症対策会議と連携して入学者選抜を安全に行うための施策を作成し、学生募集要項に掲載した。
- ・この間、高校の統廃合が進んでおり、状況の変化が見られたため、高校のランク見直しを行った。
- ・大学の学力特待生資格試験の受験料を15,000円（短大は現行通り）に改定した。
- ・入試の区分名を「大学入学センター試験利用選抜」から「大学入学共通テスト利用選抜」に変更した。
- ・総合型選抜で国際バカロレア教育を受けた日本人学生が本学を受験できるようにした。
- ・一般選抜の合否判定について、昨年と同様、第一志望主義とすることとした。
- ・「文章理解」や「国語」を担当する外部作問委員を変更した。今年度は入試問題検討部会を対面で開催することはできなかったが、外部作問委員と学内入試問題検討委員の間で様々な手段でコミュニケーションを取り、試験問題を作成した。
- ・コロナ禍での受験生の超安全志向のため、大学入学共通テストは受験するものの合格者の歩留まりが少なくなること、及び、年度末に向けて入学辞退者が増加することが予想されることを踏まえて合否判断を行うこととした。

各学部学科で選抜内容や定員の割り振りを下記の通りに見直した。

a) 総合経営学部

- ・基本、昨年と同様。総合型選抜（一般）では、面接を2次選抜の1回のみとした。

b) 健康栄養学科

- ・学校推薦型前期の定員を2名増、一般選抜Aの定員を2名減とした。
- ・編入学試験において、新たに三重短期大学に指定校枠を追加した。

c) スポーツ健康学科

- ・基本、昨年と同様。

d) 教育学部

- ・総合型選抜（特別技能）を英語・英語教育又は国際情勢に関し興味関心が深く、既定の外部英語検

定や海外留学経験を評価する方式に特化した。総合型選抜（地域）は教育機関への就職について強く希望することを重視することとした。

- ・外国人留学生選抜では、財団法人日本国際教育支援協会が実施する「日本語能力試験(1級以上)」に合格した者を出願条件とした。
- ・指定校推薦選抜では基準や枠を一部変更した。

e) 松商短期大学部

- ・自己推薦選抜を廃止した。
- ・指定校枠を増加した。

f) その他

- ・2021年4月での健康科学研究科博士課程の設置が認可されたため、初めての入学者選抜を行った。

② 大学入学共通テストへの対応

- ・共通テストの国語と数学の記述式問題については、評価に含めないこととした。また、当初国語は「近代以降の文章」「古文」「漢文」が別々に採点されなくなるため、すべてを含めて「国語」として扱うこととしていた。しかし、その後、これらが別々に採点されることに変更されたため、昨年までと同様に「近代以降の文章」の得点のみ「国語」の対象とすることとした。また、「外国語（英語）」の扱いとして、リーディング（100点満点）及びリスニング（100点満点）の得点を、それぞれ80点満点及び20点満点に換算して取り扱うことにした。
- ・英語外部試験やJapan e-Portfolioは取り扱わないことにした。
- ・調査書は、総合型選抜及び学校推薦型選抜において参考資料とし、一般選抜及び共通テスト利用選抜では入学前・入学後教育の参考資料として活用することとした。

③ キャンパス見学会について

4月～6月のキャンパス見学会は中止した。7月以降は午前と午後の2部制とし、人数を制限して完全予約制とし、昼食の提供は中止した。バスも松本駅からのシャトルバスのみ配車した。内容は、学科説明会、ミニ講義又は体験講座、入試相談、総合型選抜説明会、面接対策講座とした。

④ 広報について

- ・新型コロナウイルス感染症対策会議と連携して、新型コロナウイルス感染症に対する大学の対応や入学者選抜実施の注意点について、随時、HP上で発信するとともに、学内で情報を共有した。
- ・高校訪問や高校からの来校要請（出前講義、進路相談等）、高校開催の進路ガイダンス、業者提案の会場型ガイダンスへの出席や高校生の大学見学、キャンパス見学会、入試相談会の開催については、新型コロナウイルス感染症対策会議との協議により中止したり、規模縮小及び完全予約制の導入等を行って開催した。
- ・入学者選抜に関わる内容はWebのみでの発信とし、大学案内及び短大ナビゲーションは、入学者選抜に関わる情報を切り離した内容で冊子を作成し、データがある高校生に郵送した。
- ・Web学校ガイダンスや教員による講義等を動画配信した。
- ・おもに保護者向けと考えている新聞及びテレビ広告に加えて、高校生向けのインターネット広告（Google, LINE）を進めていくこととした。
- ・Webキャリア図鑑は、学生の協力者等の減少により内容も古くなってきているため、HP上での一次公開を中止し、今後内容を精査してリニューアルすることとした。

- ・蒼穹の第139号～第142号を編集・発行した。おもに本学における新型コロナウイルス感染症対策とコロナ禍での講義形式や完成年度を迎えた教育学部について特集した。具体的には、「健康と安全を最優先に新しい形の教育・研究のあり方を模索しながら学びの質と量の確保をめざす」（2020年6月号）、「多彩な分野で活躍する卒業生の今」（2020年9月号）、「独自の教育手法をより一層強化し、新たな学びの機会の充実と環境づくりをめざす」（2020年12月号）、「完成年度を迎えた教育学部4年間の学びを糧に一期生は新たなステージへ」（2021年3月号）とした。

⑤ その他

- ・松商学園高等学校との間で、大学入試の現状と大学本学入学者に関する相互理解を深めるために、進路指導の先生だけでなく3年生の担任との教職員との間で、2年連続となる説明会を行った。
- ・高等学校教員に対する学生募集説明会を本学と長野市において対面で行った。
- ・教務課から提供された各種データ（GPA、退学・除籍者分析、卒業率・退学率・留年率、新入生ブレインメントテスト、学修行動調査等）を踏まえて入学者の追跡調査を行い、入試の妥当性について各学部学科において検討した。
- ・今年度の一般選抜Aの地方会場のうち東京会場と名古屋会場は実施が困難であることが予想されるため廃止し、代わりに長野会場（メトロポリタン）を新設した。したがって、甲府、新潟、高崎と合わせて4か所とした。
- ・大学及び短期大学部の入学者選抜規程、外国人留学生の入学選考に関する規程、授業料減免規程、入学免除規程、受験料免除規程、大学院特待生規程及び大学院入学金免除規程を整備又は改廃した。
- ・アドミッション・オフィス運営委員会から、現在予定している総合型選抜方法の実施が困難になった場合の代替案の提案を受け、承認した。
- ・入学者選抜の同じ入試区分での重複受験者の割引制度や一般選抜や大学入学共通テスト利用選抜での特待生希望の申告制の廃止、並びに、障がい者への事前対応についての組織化などについて検討した。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 今年度の入学者選抜について

- ・全学部、松商短期大学部において、入学者定員を満たすことができた。また、収容定員も満たすことができた。
- ・学力特待生資格試験の受験料の改定による受験者数の減少は見られなかった。
- ・一般選抜の合否判定を第一志望主義にしたことで、今年度も各学科の上位成績者から合格者を出すことができた。
- ・コロナ禍での受験生の超安全志向のため、大学入学共通テストの合格者の歩留まりが悪くなり、年度末に向けて入学辞退者が増加した。
- ・受験者数の推移であるが、総合経営学科の過去2年間の急増は一段落し、2018年レベルに戻った。偏差値上位校からの受験者が増加し、偏差値下位校は減少したため、明確に受験者層が変わったといえる。観光ホスピタリティ学科の受験者数は、昨年だけ増加したが、今年度は2019年度の数に戻った。学校教育学科は増加してきた受験者数が飽和したように見える。受験者層的には国立大学（特に信州大学）ではなく他の私立大学の受け皿になる傾向が見られた。その他の学科は一

部を除いて、大きな変化は見られなかった。年度初めには、短期大学部が人気で受験者が大幅に増えることが予想されたが、そうはならなかった。ただ、傾向として、今まで短期大学に入学することがほとんどなかった進学校からの受験者が増加した。

表. 各入学者選抜年度における受験者数（のべ数）の推移

	2018	2019	2020	2021
総合経営学科	289	372	410	285
観光ホスピタリティ学科	182	180	224	182
健康栄養学科	154	149	148	154
スポーツ健康学科	179	274	161	171
学校教育学科	136	199	218	230
商学科	128	95	115	117
経営情報学科	131	140	115	116

- ・総合経営学部の編入学試験では、松商短期大学部から総合経営学科に5名の、愛知学院大学から観光ホスピタリティ学科に1名の受験者があり、全員合格した。短期大学部と総合経営学部の連携が奏功していると思われる。
 - ・健康栄養学科の編入学試験で指定校短期大学を増やしたが、今年度は新規の指定校短期大学からの受験はなかった。以前から指定校にしている山梨学院短期大学からは受験者が2名あり、いずれも合格した。
 - ・大学院博士後期課程は定員2名のところ、社会人2名が受験し合格した。博士前期課程は定員6名のところ、スポーツ健康学科卒業見込み者が1名受験し合格した。
- ② 大学入学共通テストへの対応
- ・文部科学省から英語外部試験利用及び大学入学共通テストの国語と数学の記述式問題の導入延期の発表があったため、急遽HPにてその旨掲載した。
 - ・変更されなかった内容については、2021年度入学者選抜についてHP上で告知した。
 - ・得点換算や合否判定において、特に問題は見られなかった。
- ③ キャンパス見学会について
- ・制限された中で行われたが、参加者数等を事前に把握でき事前準備等が行き届くために、結果的にスムーズな運営となった。また、保護者だけの参加や何となくという参加者が激減したため、進学目的意識をしっかりと持っている高校生だけが参加し、本来のキャンパス見学会の趣旨に沿う形になったといえる。
- ④ 広報について
- ・新型コロナウイルス感染症に対する大学の対応や入学者選抜実施の注意点についてのHP上での発信は、ほぼリアルタイムで遅滞なくできた。
 - ・広報のWeb上での集中的な展開により、高校生の目線に立って知りたい大学の情報をリアルタイムで伝えられた。「蒼穹」も印刷物として適切にまとまった情報をタイムリーに伝えられた。
 - ・Web学校ガイドンスは、計29本公開し、予想以上に閲覧され（アクセス数37,130）、インターネット広告も予想以上に閲覧数が伸び（アクセス数394,400 大学サイト到達数44,800）、いずれも費用対効果が大きいことが明らかになった。

- ・大学院博士課程の設置認可後にリーフレットを作成し、長野県栄養士会や松本市看護師会の研修会等で配布できた。

⑤ その他

- ・松商学園高等学校に関しては、3年生担任教員を対象とした説明会を行ったことで、互いに現在の大学入試の状況と本学の必要とする人材等について情報の共有ができた。高校側も、年々明らかに学力の高い層を送り込む方向であることが感じられた。
- ・高等学校教員に対する学生募集説明会では、例年以上に参加者が増加した。
- ・入学者の追跡調査データを基にし、各学部学科において検討したところ、現状での各入試の妥当性が確認された。
- ・設置2年目の高崎会場については4名の受験者があった。群馬県だけではなく長野県東信地方からの受験生もいた。一方、長野会場の受験者数は一般選抜Aが70名であった。推薦入試で合格した者が受験する特待生チャレンジ数は31名であり会場での受験者総数は101名であった。松本会場との間で受験者の分散も図れたため密が避けられ、結果的に大成功であったといえる。ただし、長野会場での2日間受験を可能とするには人員の配置等の課題が残った。

4) 次年度に向けて <A>

- ・学校推薦型選抜前期・後期、一般選抜A, B, C、共通テストⅠ, Ⅱ, Ⅲ期で行っていた重複割引を廃止し、それぞれ個別に受験料を徴収することとした。一般選抜及び共通テスト利用選抜における学力特待生は、申告制から受験生全員を対象に変更する。
- ・これまでは障がい等を有する受験生については個別対応をしてきたが、今後は事前相談書を活用して決められたルールのもとに行う。
- ・教育学部において、学校推薦型選抜や総合型選抜（特別技能）において、加点式で英語の外部試験を導入することとした。また、一般選抜において、必修科目を「国語」1教科から「国語」又は「英語」の2教科から1教科を選択必修に変更することとした。「スカラシップ」入試の存廃について、早急に検討する。
- ・今年度の一般選抜・共通テスト利用選抜の入学者と入学辞退者の動向等を分析し、各学部学科で入試戦略を練り直し、それぞれの入試の定員の改訂と指定校等の見直しなどを行う。
- ・教務課と協力して入学者の追跡調査を行い、選抜方法の妥当性について検討する。
- ・引き続き、松商学園高等学校との間で、入学者に関する相互理解を深めるために交流を続ける。
- ・県外受験会場での入試は原則、今年度と同様に行う。長野会場での一般選抜Aにおいて、次年度に両日受験を導入するにはいくつか問題があるため、次年度は一日受験とし、今後の課題とした。可能性として、高崎会場を取りやめることで長野会場での2日間受験が可能となるかどうかについても検討していく。
- ・大学HPでは、大学の諸活動や成果を可能な限り早くかつ正確に、「蒼穹」では厳選した活動情報をまとめた形で発信していく。大学HPでの教員による講義等の動画ファイルの公開と充実化を図る。
- ・2021年度実施のキャンパス見学会については、予約人数を増加させる以外は本年と同様に行う。

<執筆担当／全学入試・広報委員会 委員長 山田 一哉>

(2) 総合経営学部入試・広報委員会

指定校推薦利用実績を踏まえた指定枠の見直し及び評定値の見直し作業を経た2回目の入試年度である。また、これまでに見直されてきた総合型選抜、学校推薦型選抜（旧公募推薦）のあり方に、一般選抜を加えた入試を総合的に行い、入学定員の確保、学修意欲のある学生の確保、これらを実現するための広報活動と円滑な入試業務を行うことが総合経営学部入試・広報委員会の年度目標とされた。以下に個別の業務について報告する。

1) 年度当初の計画 <P>

① 入学定員確保の取組み

- ・総合型選抜における模擬授業のあり方の検討と試験の実施
- ・学校推薦型選抜の試験のあり方の検討と試験の実施
- ・一般選抜の試験のあり方の検討と試験の実施、地方入試の分担について
- ・大学入学共通テスト利用選抜における利用科目の確認と試験の実施
- ・アドミッションポリシーに即した入試の実施
- ・全学入試スケジュールの確認と実施

② 学修意欲ある学生確保の取組み

指定校推薦枠見直し及び指定校評定値の見直し後2回目となる今年度の入試を円滑に行う。

③ 広報活動充実の取組み

- ・オープンキャンパス、高校教員向け大学説明会、個別入試相談会などの入試広報活動について入試広報室と連携して活動する。
- ・オープンキャンパスの効果の検証、適正な運営のあり方を検証する。
- ・大学紹介パンフレット、ホームページ作成を入試広報室と協働して行う。
- ・新たなコンテンツとしての配信用動画作成を行う。

④ その他

公正かつ円滑な入試を行う。

2) 目標の実施状況 <D>

① 入学定員確保の取組み

2020年度は新型コロナウイルス感染症対策のために社会のあらゆる活動が制限された。感染者数増加により発出された全国非常事態宣言、これによる地域間移動を含めた活動制限及び国民個々に要請された活動自粛による入試への影響が不透明な状況下での年度スタートとなった。

かかる活動制限状況下で想定される、さまざまな入試のあり方について全学入試委員会及び入試広報室協働によりシミュレーションが重ねられた。この結果、従来型入試に加えてオンライン入試の検討と準備を行った。

総合型選抜（一般・指定競技）では、従来型選抜方法に加えて、オンライン入試を想定し、双方向の模擬授業の実施方法、面接方法、さらに選考方法について総合経営学部入試委員会で検討、教授会での審議を経て全学入試委員会での議論が行われた。

この総合型選抜については、選抜が始動する9月頃より新型コロナウイルス感染症対策等による感染拡大抑制の傾向と、これによる一定範囲内での社会活動制限の緩和（移動制限の緩和）などの状況変化を鑑み、入念な感染症対策を講ずることにより対面型による選抜を実施することができた。

学校推薦型選抜については、人数枠や評定値基準などの新しい基準は前年度に高校側へアナウンス済みであったものの、高校側より新たな説明の要望があれば都度説明を行った。他方、指定校以外から指定枠の適用依頼を受けた場合の措置については、近年の定員厳格化とそれによる一般選抜難化傾向により最終的な入学定員調整が難しくなることから原則として応じられない（2019年度入試より運用）ため、これに即した選抜が行われた。

一般選抜については、全体の試験日程及び入試当日の運営は年度当初の計画どおり行われた。しかし、地方会場入試においては東京会場も従来どおり計画されていたが、活動制限、移動制限による影響により試験会場の確保が難しくなったことから、東京を除外した会場での選抜が行われた。

大学入学共通テスト利用選抜については、判定科目は当初の計画どおりとし、また、英語の外部試験については採用しないという年度当初の計画に即した選抜が行われた。

学部学科のアドミッションポリシーの表記の再点検と運用については、昨年度、全学統一でおこなわれた受験生に分かりやすい改変された表記を用いた入試が行われた。

② 学修意欲ある学生確保の取組み

アドミッションポリシーに示した人物像に従い、各入試の特性に応じた試験内容の調整、評価基準の調整をおこない評価項目と方法を修正した。

また、見直された指定校枠及び評定値の基準などの入試情報の高校側への情報提供については、新型コロナウイルス感染症による諸制限により情報提供活動は大幅に制限されたものの、本学を会場に2日間の日程で開催された高校教員対象の大学説明会の実施、個別入試相談会などを入試広報室と連携して行った。

③ 広報活動充実の取組み

オープンキャンパスについては、全学統一の「オープンキャンパス 2020 短縮版」として4回開催した。すべて事前予約制、午前・午後1日2部制として実施したが、参加希望者の増加に対応するために各部の定員を20名から30名に増やして対応した。

高校教員向け大学説明会及び個別入試相談会などの入試広報活動については、入試広報室と連携して活動した。

オープンキャンパスの効果の検証、適正な運営のあり方の検証については、新型コロナウイルス感染症による活動制限下での活動であったため、検証することに難しさがあった。

大学紹介パンフレット作成、ホームページ作成は入試広報室と協働して行うことができた。

新たなコンテンツとしての配信用動画作成は、教授会等の場を利用した学部全教員への協力要請を実施、これを受け両学科教員の協力を得てコンテンツ作成とアップロードをすることができた。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 入学定員確保の取組み

- ・新型コロナウイルス感染症対策による入試への影響が懸念されたものの、総合型選抜、指定校推薦、学校推薦型選抜及び一般選抜のいずれも入念な感染症対策を講ずることで実施することができた。
- ・一般選抜地方入試については、東京会場の確保が困難であるとの理由により実施されなかったが、総合経営学部における東京会場での受験者、合格者、入学者は例年ほぼない状況であったため、これによる影響は看過できるものと考えられた。
- ・学校推薦については、当初、感染症の影響による地元志向、首都圏校受験回避の情報から利用増

加が予想されたものの、実際の利用は昨年並みの水準に留まった。

② 学修意欲のある学生確保の取組み

- ・アドミッションポリシーの示した人物像を反映しやすい入試区分としては、総合型選抜、学校推薦型選抜があげられるが、他方、一般選抜では得点が指標となること、本意ではない大学への入学後の学修意欲をどのように確保してゆくのかは今後の課題としてあげられる。
- ・指定校推薦については、各校に指定した評定値を大幅に超える学生の推薦を受けている、ここ数年の傾向は今年度も同様であった。

③ 広報活動充実の取組み

- ・オープンキャンパスについては、感染症対策として「短縮型」として計4回実施、午前の部、午後の部を用意した。総合経営学科については、各部20名定員では足りず急遽30名への定員増により対応、活動制限下ではあったが活況であったと考える。
- ・大学案内パンフレットの作成、ホームページ作成については、例年どおりの取り組みができたと考ええる。
- ・これまでの大学広告の主流であった新聞広告、電車内の吊り広告から、高校生がより目にする動画専門サイトへと媒体をシフトした初年度となった。配信用の動画撮影は、総合経営学部専任教員の協力を得てスムーズにおこなうことができたと考える。

④ その他

総合型選抜における事前情報利用のあり方など、学部入試委員会での事前協議を踏まえた入試を行うことができたと考える。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

① 入学定員確保の取組み

総論としては、新型コロナウイルス感染症の影響が引き続き懸念されるものの、今年度の蓄積を活かすことで定員確保を果たすことができるものと考えられる。各論としては、総合型選抜における活動実績（指定競技を除く）を示すことのできる学生のエントリーが年々少なくなっていることに加え、感染症による社会全般の活動制限による影響をまともに受ける入試年度となることが予想される。このことから、活動実績を証明する帳票の提出などについては、柔軟に対応してゆく。

② 学修意欲ある学生の確保の取組み

入学定員を確保することができた。しかしながら、ここ数年来続く私立大学定員厳格化、新型コロナウイルス感染拡大とこれによる首都圏校敬遠等の動向を受けて、今年度も一般選抜は高い競争率となった。この傾向は次年度も続くものと考えるが、他方、今後の少子化による受験人口が減少することはデータからも明白である。

地域立大学としての使命、受験者から選ばれる大学、学部、学科であり続けるために、高校生が大学に求めるものは何かを調査・分析すること、これを踏まえた学びの内容の点検、よりよい学びの提供、そして本学を希望して入学してくる学生、本意ではない入学であった学生双方が、本学での学びのなかで満足度を高めてゆくための工夫にも引き続き取組む。

③ 広報活動充実の取組み

新型コロナウイルス感染症の収束を望めないことから、さまざまな制限が課される年度になるものと思われるが、社会活動が制限された今年度の入試の検討、準備、実行状況の蓄積と反省点を踏まえて、高校教員向け入試説明会、高校側への情報提供、オンラインによる個別入試相談対応など

について、全学入試委員会及び入試広報室と協働して対応する。

これまでの紙媒体からインターネットへという潮流を反映しての学科紹介、授業紹介用動画コンテンツの準備と配信の動きは、今後も加速・拡大してゆくものと考えられる。紙媒体ではアンケートなどの方法による利用状況の把握であったが、動画コンテンツでは1動画あたりの視聴回数、一人あたりの視聴時間をリアルタイムで把握することができるという特徴があることから、より視聴されているコンテンツを分析することで、今後の配信用コンテンツの質をより向上させてゆく。

④ その他

新型コロナウイルス感染症による大学入学定員の一時的緩和施策が引き続き適用される年度になるものと思われるが、これにより想定される首都圏大学の易化傾向、回帰傾向に注視しつつ、公正かつ円滑な入試を行う工夫を行う。

＜執筆担当／入試・広報委員会 総合経営学部主任 矢崎 久＞

(3) 人間健康学部入試・広報委員会

1) 年度当初の目標 <P>

- ① 各入試区分において目的に合った学生の獲得、入学定員数の確保を行う。
- ② 新型コロナウイルス感染症対策を確実に行いつつ、オープンキャンパス並びに入試を実施する。

2) 目標の実施状況 <D>

① 各入試区分において目的に合った学生の獲得、入学定員数の確保

2021年4月、健康栄養学科には77名(定員70名)・編入生2名(定員5名)、スポーツ健康学科には106名(定員100名)・編入生0名(定員5名)が入学した。特待生に関しては、健康栄養学科は学力特待1名(2種)、スポーツ健康学科は学力特待1名(2種)・スポーツ特待11名(1種7名、2種4名)であった。

② 新型コロナウイルス感染症対策を確実に行いつつ、オープンキャンパス並びに入試を実施

i) オープンキャンパス

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、第1回(5月24日)と第2回(6月21日)は中止となった。その後は、完全予約制、昼食提供を無しとした午前午後の二部制とし、以下のように実施した。

- 第3回(7月12日) : 健康栄養学科36名、スポーツ健康学科40名
- 第4回(8月2日) : 健康栄養学科37名、スポーツ健康学科35名
- 第5回(8月23日) : 健康栄養学科39名、スポーツ健康学科39名
- 第6回(9月25日) : 健康栄養学科27名、スポーツ健康学科39名

各オープンキャンパスにおいて学科説明、ミニ講義、総合型選抜入試説明を実施した。新型コロナウイルス感染症対策のため、来学できない生徒を配慮し、2021年度入試では総合型選抜入試説明の受講を必須項目から外した。上記以外にも、Webコンテンツの配信による学科説明も本学ホームページ上にて常時閲覧できるようにした。

ii) 入試の実施状況

松本大学活動制限指針に従い、レベルに応じた措置等を各学科で準備しつつ全区分の入試を対面で実施した。

3) 点検・評価の結果（目標の達成状況）＜C＞

① 各入試区分において目的に合った学生の獲得、入学定員数の確保

両学科とも定員を上回る入学者を獲得できた。健康栄養学科は、昨年から流行している新型コロナウイルス感染症による、大都市の大学受験の回避、自宅通学圏内への入学希望の増加、今後の保護者の経済状況悪化が不安視される中において、近隣の大学で、しかも就職に有利な栄養士資格がとれるなどが支持を受け、例年に比べて受験者数が多く収容定員をほぼ満たす入学者数の確保ができたと考えている。スポーツ健康学科は、例年に比べ指定校推薦・総合型選抜（指定競技）の出願者が減少しており、目標としていた115名の入学者数には至らなかった。一般選抜及び共通テスト利用における合格者の歩留まりが例年に比べ悪かったことも原因である。

② 新型コロナウイルス感染症対策を確実に行いつつ、オープンキャンパス並びに入試の実施

特に問題が発生することなく、公平な入試を実施することができた。体調不良により受験ができない場合は予備日を定めて追試を実施する計画であったが、該当者は無かった。

4) 次年度に向けて ＜A＞

[健康栄養学科]

本学科の特徴として卒業直前に管理栄養士国家試験があり、大学入試以上の勉強量が合格には要求される。例年、不合格者は10名近くいるが、公募型推薦のように大学入試を経験せずに入学した学生が、国試対策が不得意となる傾向にある。資格取得できない場合には職種によっては、就職内定取消しの可能性もある。一般選抜試験と同様の学力や勉強量を保持しつつ年内に入学数を確保する必要がある。将来的には、年内合格者にも一般選抜試験や大学入学共通テストを課すなどのルール変更も考慮するべきである。

[スポーツ健康学科]

スポーツ特待学生数の増加が目立つ。スポーツ特待に関しては各強化部・重点部において検討された結果であり、入試委員会が介入できる余地は無いが、このような増加の背景には指定競技選手の獲得が困難になっていることが生じていることは間違いない。指定校推薦並びに指定競技枠は安定的に入学者を確保するための要であるため、次年度は指定校推薦基準の大幅な見直しを図りこれらの入試区分における入学者増加と指定校枠内での指定競技選手の獲得増加を狙う必要がある。

＜執筆担当／入試・広報委員会 人間健康学部主任 河野 史倫＞

(4) 教育学部入試・広報委員会

教育学部は2017年度に開設され、完成年度を迎え終えた本年度は90名の入学者を確保した。これにより完成年度後の二期生72名、三期生95名、四期生88名、五期生90と総数345名となった。定員80名ベースでの4年分である320名から1.08倍となる入学者数となる。在籍率をさらに満たしていくための学内関係委員会との連携や、またより広い地域からの入学者、志願者の増を目標として、地域の高等学校や教育委員会との連携等、更なる方策を検討していくことが必要である。

1) 年度当初の計画 ＜P＞

今年度は新型コロナウイルス感染症対策のためどのような入試が行われるかが不透明な中、計画を立てた。その計画の一部は新型コロナウイルス感染症の影響のため実施できないものも見られた。基本的な方針としては昨年度を引継ぎ、以下のように計画した。

- ① 各入試区分による受験生の状況と入学についての分析
- ② 教員による高校訪問を実施し、地域の高等学校に教育学部の内容に関する積極的な広報活動
- ③ 総合型選抜のあり方の検討

2) 状況の説明 <D>

① 各入試区分の分析

各入試結果・受験者等の傾向を分析した。

② 地域への教育学部の発信

学校訪問を行うことができた高校もあるが、基本的に新型コロナウイルス感染症により訪問が学内で禁止となったため、多くの高校への訪問をするには至らなかった。

③ 総合型選抜における三種類の枠の設置

総合型選抜において、受験者層の拡大及び志願者増を目的として、一般、特別技能と地域の三種類の枠を設けた。特別技能型については外部英語試験の規定を作成したが、運用という点で止まってしまった。また今年度は特別技能型での入学者はなかった。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 各入試区分の分析

各入試における受験者等の分析の結果から、方向性を決定し運用した。学校推薦型選抜においては年度ごとによる志願者の増加や入学生の出身県の多様化を踏まえ、指定校の選定と評定平均基準値を決定した。また、県外生確保の観点から一般入試の推進、スカラシップ入試の推進を行った。

② 地域への教育学部の発信

新型コロナウイルス感染症のためほとんど高校訪問はできていなかったが、これまでの訪問の結果から、徐々に高校訪問による受験者への影響がみられている。

③ 総合型選抜

総合型選抜も学校推薦型選抜同様、国公立第一志望者が多いため、受験者は少ない状況であった。しかしこれは教育学部の特徴であり、推薦試験に頼る入試ではなく、一般選抜に重点を置いた入試の運営、並びに入試広報の県外での広報活動の活性化が求められる。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

現状では入学者ベースで4年間の定員を確保している。しかし、各入試区分において本教育学部を第一志望とする受験者を増やしていく方策の検討は重要な課題である。これに関しては、中長期的な視点からの考えが必要であり、単年度の傾向に左右されずにこれまでの入試分析結果に基づいた検討が行わなければならない。またそのような入試のあり方の共通理解と実施をする必要がある。

また今年度においても大幅な学生数超過があり、一昨年同様教材・教具、使用教室等の問題の発生が予想される。そのため適切な定員の確保を慎重に考え、各部署間や意思の共通理解をする。

定員に沿ったアドミッションポリシーに合う志願者によるバランスの良い入試の実施に関し共通理解と実施が求められる。

<執筆担当/入試・広報委員会 教育学部主任 和田 順一>

(5) 松商短期大学部入試・広報委員会

1) 2020(令和2)年度当初の計画 <P>

本学の志願者数は以下のとおり 2015 年度 204 人にまで減少し、その後の 3 年間は 260 人を超えるところまで回復したが、この 2 年間は 246 人、234 人と通減する傾向にある。2019 年度は、南信地域における志願者の半減に、2020 年度は、中信地区の落ち込みと南信地区の回復遅れにその原因を求めることができた。しかしながら、この 2 年間の志願者数の落ち込みにも拘わらず、辛うじて入学定員を確保できた理由は、この 2 年間とも、年明けの入学人数が 30 人台の水準を維持しており、松本大学総合経営学部の入試難易度の上昇にともない、同学部を不合格となった受験生が、編入学をねらって年明けの入試で本学に入学したということにある。年明け入試における歩留まりの驚異的な高水準が入学人数を押し上げ、なんとか定員割れを回避できたということである。



きた理由は、この 2 年間とも、年明けの入学人数が 30 人台の水準を維持しており、松本大学総合経営学部の入試難易度の上昇にともない、同学部を不合格となった受験生が、編入学をねらって年明けの入試で本学に入学したということにある。年明け入試における歩留まりの驚異的な高水準が入学人数を押し上げ、なんとか定員割れを回避できたということである。

県内高校生の進路状況を見る限り依然として、四年制大学進学志向の増大、根強い専門学校志向、高卒段階での好調な就職環境など、本学の学生募集にとっては厳しい状況が続いている。更には、新型コロナウイルス感染症が蔓延し、受験生・在学生の家庭の経済状況の悪化、人口過多の都市部での大学生活に対する不安など、学生募集にとって予測不能な事態が進行している。この状況における本学の課題は、昨年度と同様に、四年制大学志向による志願者減少分を、専門学校や就職を志向する層から、如何にして本学志願に結びつけていくのか、また新たに、コロナ禍における受験生の動向に対して、どのような有効な募集活動ができるのか、ということとなる。今年度も引き続き、高校生に対して本学の教育実績及び就職実績における優位性を強くアピールして「入学志願者数 260・入学者数 200」の達成を目指す。

2) 2020(令和2)年度(2021年度入試)の実績～現状の説明～ <D>

① 松商短大部入学志願状況

今年度を含む過去 3 年の入試区分別志願者数は次表の通りである。

入試区分		特待生	推薦	一般	共通テ・留学	総合型選抜	計
2021年度 (2021年3月末)	商&経営情報	学業学力 12	指定 145 一般 32 自己 0	A 11 B 3 C 1	共通テ外 20 留学 0	I 期 13 II 期 3 III 期 0 IV 期 0	
	計	12	177	15	20	16	240 (入学215)
2020年度入試 (2020年3月末)	商&経営情報	経済支援 1 学業学力 5	指定 118 一般 28 自己 6	A 9 B 6 C 1	センター 38 留学 1	I 期 14 II 期 6 III 期 1 IV 期 0	
	計	6	152	16	39	21	234 (入学204)
2019年度入試 (2019年3月末)	商&経営情報	経済支援 10 学業学力 4	指定 104 一般 33 自己 10	A 12 B 4 C 3	センター 40 留学 2	I 期 13 II 期 11 III 期 0 IV 期 0	
	計	14	147	19	42	24	246 (入学205)

(※推薦一般志願者は特待生入試不合格者を含む)

今年度の志願者数は昨年度から6人増の240人となり、年度当初の目標260人には届かず、過去10年間では4番目に低い水準となった。入試区分ごとの増減は表の通りであるが、昨年度と比べて、特待生入試(6人)、指定校推薦入試(25人)で増加となった反面、大学共通テスト利用入試(旧センター試験利用入試)で18人、総合型選抜入試(旧AO入試)で5人の減となった。

② 本年度入学試験区分別状況

入試区分毎の志願者・合格者・入学者数を過去3年で比較してみると次表のとおりである。

2020年度 試験日	入試区分	志願者数					合格者数					入学者数				
		2021	2020	2019	2018	2017	2021	2020	2019	2018	2017	2021	2020	2019	2018	2017
11月22日	特待生(経済支援) (学業学力)	-	1	10	5	5	-	0	1	3	3	-	0	1	3	2
		12	5	4	5	4	4	2	2	2	0	4	2	2	2	0
11月22日	推薦前期(指定) (一般)	145	118	104	143	133	145	118	104	143	132	144	118	104	143	131
		28	20	24	26	25	28	20	24	26	24	28	20	24	26	23
12月12日	推薦後期(一般) (自己)	4	8	9	4	5	4	8	9	4	5	4	7	9	4	4
		0	6	10	3	1	0	6	10	2	1	0	6	10	2	1
12月12日	留学生(前期)	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11月7日	総合選抜Ⅰ期 社会人総選Ⅰ期	13	14	13	7	22	13	14	13	7	22	13	14	13	7	22
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月12日	総合選抜Ⅱ期 社会人総選Ⅱ期	3	6	11	12	6	3	6	10	11	6	3	6	10	11	6
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
年内計		205	179	185	205	201	197	175	173	198	193	196	174	173	198	189
2月6日	一般 A	11	9	12	20	17	10	9	12	17	17	6	6	10	7	7
3月10日	一般 B	3	6	4	5	8	3	6	4	3	5	3	6	4	2	5
3月23日	一般 C	1	1	3	4	2	1	1	2	4	1	1	1	2	3	1
3月23日	総合選抜Ⅲ期 総合選抜Ⅳ期	0	1				0	1				0	1			
								0				0				
2月	共通テストⅠ期	17	24	29	25	14	16	24	27	23	15	7	9	9	4	10
3月	共通テストⅡ期	2	10	3	3	15	2	10	3	3	8	1	6	2	2	7
3月	共通テストⅢ期	1	4	8	2	3	1	4	8	2	2	1	1	3	2	1
2月25日	留学生(後期)	0	0	2	0	1	0	0	2	0	1	0	0	2	0	1
年明け計		35	55	61	59	60	33	55	58	52	49	19	30	32	20	32
総計		240	234	246	264	261	230	230	231	250	242	215	204	205	218	221

昨年度に比べると、志願者数は6人の増加、合格者数は変わらず、入学者数は11人の増加となった。年内と年明けの入試で比較してみると、志願者は年内で26人の増加、年明けで20人の減少、合格者は年内で22人の増加、年明けで22人の減少、入学者は年内で22人の増加、年明けで11人の減少となった。今年度は、年内入試で好調であった反面、年明け入試では苦戦を強いられたということになる。年内入試では、特に、指定校推薦人数の27人増加が大きかったと言える。

③ 入学者の出身地区別状況

過去5年間の入学者の出身高校地区別一覧及び地区別志願校一覧は別表のとおりである。

	2017	2018	2019	2020	2021
中信	120	106	125	112	99
南信	58	59	27	37	42
北信	29	34	28	29	38
東信	8	16	17	14	29
計	215	215	197	192	208
県外他	6	3	8	12	7
計	221	218	205	204	215

	2017	2018	2019	2020	2021
中信	21	15	20	14	17
南信	20	18	14	17	20
北信	18	20	16	10	12
東信	6	6	8	6	8
計	65	59	58	47	57
県外他	8	5	5	8	10
計	73	64	63	55	67

入学者の総数は昨年度より11人増の215人であったが、出身校の地域別で見ると、中信地区で13人の減、県外その他で5人の減となり、それ以外の地区でいずれも増加となっている。特に、東信地区で15人、北信地区で9人の増加が大きかった。また、南信地区については5人の増加とはな

ったが、2018年度以前の水準にはまだ及ばない。中信地区でのマイナスを他の地域のプラスで補った結果が、総数で11人増という結果につながったと言える。また、志願のあった学校数で見ると、全地区で2～3校の増加となった。

④ 入学者の出身高校別状況

過去3年で本学への入学実績が大きい高校は以下の通りである。

2021年度入学			2020年度入学			2019年度入学				
①	松商学園	20	①	松商学園	22	①	松商学園	28		
②	穂高商業	15	②	田川	20	②	穂高商業	15		
	豊科	15	③	塩尻志学館	16	③	塩尻志学館	12		
④	塩尻志学館	11	④	穂高商業	15		豊科	12		
⑤	田川	10	⑤	豊科	11	⑤	田川	11		
	須坂創成	10	⑥	東京都市大学塩尻	6		東京都市大学塩尻	11		
⑦	諏訪実業	8		大町岳陽	6	⑦	松本美須ヶヶ丘	9		
	岡谷南	8	⑧	松本美須ヶヶ丘	5	⑧	上田東	7		
	長野商業	8		岡谷南	5	⑨	諏訪実業	6		
	上田東	8		須坂創成	5	⑩	須坂創成	5		
計	113	長野商業		5	長野東		5			
⑪	岡谷東	6	計 116			計 121				
	東京都市大学塩尻	6	⑫	岡谷東	4	⑬	松本筑摩	4		
	丸子修学館	6		篠ノ井	4		梓川	3		
⑭	松本美須ヶヶ丘	5		上田東	4		松本県ヶヶ丘	3		
	上田西	5		信濃むつみ(通信)	4		明科	3		
⑰	松代	5	計 132				松本国際	3		
	長野東	4	⑬	篠ノ井	3		篠ノ井	3		
長野南	4	計 152		松代	3		松代	3		
				長野南	3		長野南	3		
				諏訪二葉	3		諏訪二葉	3		
				下諏訪向陽	3		下諏訪向陽	3		
							計 152			

松商高校、穂高商業、豊科、塩尻志学館、田川といった上位校の顔ぶれは例年通りと言えるが、田川の10人減、志学館の5人減が中信地区入学者の減少の要因と考えられる。その一方で、須坂創成、長野商業、上田東の健闘が東北信地区入学生の増加につながったと言える。

⑤ 学費免除制度の運用状況

今年度を含む過去3年間の特待生の採用状況は以下の通りである。

	2021年度			2020年度			2019年度		
	推薦	一般/共通テ	計	推薦	一般/センタ	計	推薦	一般/センタ	計
経済支援Ⅰ種	—	—	—	0	—	0	0	—	0
経済支援Ⅱ種	—	—	—	0	—	0	1	—	1
学業学力Ⅰ種	1	—	1	0	—	0	0	—	0
学業学力Ⅱ種	3	—	3	2	—	2	2	—	2
松商Ⅰ種	1	—	1	1	—	1	1	—	1
学力Ⅰ種	—	0	0	0	0	0	3	0	3
学力Ⅱ種	—	1	1	0	5	5	0	1	1
沖縄Ⅱ種	0	0	0	0	0	0	—	—	0
留学生	0	0	0	1	0	1	0	2	2
計	5	1	6	4	5	9	7	3	10

Ⅰ種	2	740,000	1,480,000	1	740,000	740,000	4	730,000	2,920,000
Ⅱ種	4	370,000	1,480,000	8	370,000	2,960,000	6	365,000	2,190,000
免除額計			2,960,000			3,700,000			5,110,000

特待生のⅠ種については昨年度から1人の増、Ⅱ種については4人減となり、総額で74万円の減となった。

⑥ 入学金免除制度の利用状況

入学金免除制度には、取得有資格者優遇制度(1資格あたり 50,000 円免除)、父母兄弟姉妹優遇制度(半額免除)、松商高校優遇制度(全額免除)、沖縄県及び離島高校優遇制度(全学免除)がある。

取得有資格者優遇制度の過去3年間の利用状況は以下の通りである。

	2021年度				2020年度				2019年度			
	推薦入	他入試	入学時	計	推薦入	他入試	入学時	計	推薦入	他入試	入学時	計
日商簿記2級	1	0	0	1	2	0	1	3	0	0	2	2
漢字検定2級	6	0	2	8	3	1	5	9	4	1	6	11
英語検定2級	3	1	0	4	3	0	0	3	2	2	1	5
数学検定2級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ITパスポート	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0
計	10	1	2	13	9	1	6	16	6	3	9	18

免除額計	50,000	13人	¥650,000	50,000	16人	¥800,000	50,000	18人	¥900,000
------	--------	-----	----------	--------	-----	----------	--------	-----	----------

この3年間では、資格取得人数がやや減少傾向にあるが、例年、入学時点での申請が少なからず見られ、入学決定後の学びのモチベーションを維持する手段として資格取得が考えられていることの証であり、この点が本制度の存在意義の一つでもあると言える。

父母兄弟姉妹優遇制度、松商高校優遇制度の利用状況は以下の通りである。

	2021年度			2020年度			2019年度		
	推薦	一般/共通テ	計	推薦	一般/センタ	計	推薦	一般/センタ	計
家族免除(半)	18	2	20	13	4	17	20	4	24
松商免除(全)	18	2	20	22	0	22	24	4	28
松大免除(全)	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計	36	4	40	35	4	39	44	9	53

半額免除	20	125,000	2,500,000	17	125,000	2,125,000	24	125,000	3,000,000
全学免除	20	250,000	5,000,000	22	250,000	5,500,000	29	250,000	7,250,000
計			7,500,000			7,625,000			10,250,000

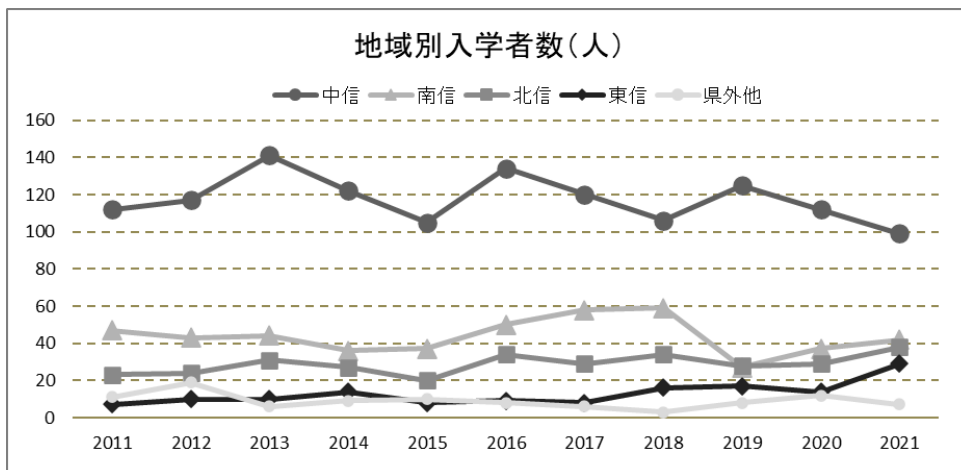
入学金の免除は、松商高校出身者に対する全額免除が、その総額の大きな部分を占め、それは、各年度の松商高校出身者の人数によって増減することとなる。また、父母兄弟姉妹のいわゆる家族免除については、過去7年間での総数が100人を数え、年15人が平均となっている。親兄弟が学んだ短大で再び学ぶという本学にとって非常良い循環が生まれていると言えるであろう。

3) 点検・評価の結果 <C>

今年度も年度当初の目標であった志願者数260は、残念ながら達成できなかった。

この3年間の志願者数は、今年度が240、昨年度234、一昨年度246であり、合格者数はそれぞれ、230、230、231、入学者数はそれぞれ215、204、205となり、志願者数は240前後、合格者数はこの3年間ほぼ同数の230である。その一方で、入学者は今年度10人の増加となった。言うまでもなく、合格者数に対する入学者の割合である歩留率が89%から93%に上昇したことによるものである。今年度のこの歩留率の上昇は、例年歩留率の非常に高い年内入試における志願者数の増加(特に、例年、歩留率がほぼ100%である指定校推薦人数の増加)に負うところが大きいと言える。その一方で、年明け入試においては、志願者、合格者ともに20人の減少、入学者は11人の減少となった。すなわち、昨年度、一昨年度は年内入試における苦戦を年明け入試によって補った結果の定員確保であったのに対して、今年度は年内入試における好調が年明け入試における伸び悩みを凌駕しての定員確保となったということになる。ある意味、年内の入試で定員確保に目処をつける従来の

本学の入試パターンに戻ったと言えるであろう。その意味では、昨年度、一昨年度の松本大学総合経営学部の難易度上昇による短期大学部への影響(松本大学総合経営学部の入試難易度の上昇にともない、同学部を不合格となった受験生が、編入学をねらって本学に志願、合格、入学)が、今年度はほとんど見られなかったということでもある。

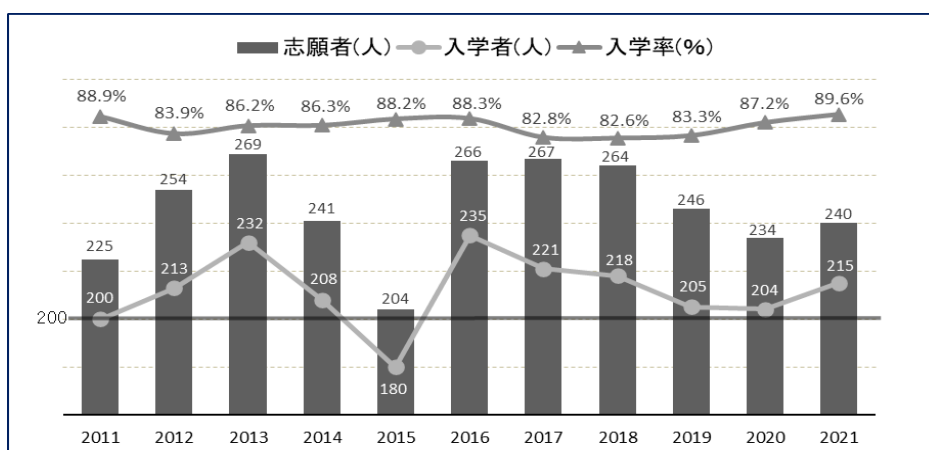


今年度の志願者数が目標に達しなかった理由は、中信地区における志願者数の減少が大きく影響したと考えられる。入学者ベースで見ると、中信地区の

高校からの入学者数は、2019年度が125人、2020年度が112人であり、今年度は99人となり、ついに100人を割り込む結果となった。中信地区で志願のあった高校の数は、昨年度から3校の増加となり、すでに見たとおり、中信地区の大口校(田川、塩尻志学館)からの志願者数減が大きく影響したと考えられる。その一方で、県内の中信地区以外の南信、北信、東信地区については、入学者数が増え、特に東北信地区の24人の増加は、今年度の定員確保の最大要因となったと言えるだろう。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

以下のグラフは、本学の志願者に対する入学者の割合を入学率として表したものである。これまでに述べてきたように、2016年度からの3年間は本学への志願者数が260人超でほぼ一定と見ることができた。しかしながら、その間も入学率は徐々に下がりに続けてきた。それに対してこの3年間は、



は、目標よりも低い志願者数ながらも入学率の好転によって定員を確保できてきた。特に今年度は90%に迫る高い入学率となり、志願した生徒の実に9割が入学を果

たす結果となった。この高い入学率は、コロナ禍が受験生に与えた心理的影響の現れと見ることができのかもしれない。来年度は、この入学率を維持すべく、加えて、志願者数の更なる回復が最大の課題となる。特に、この3年で大きく入学者数を減らしてきている中信地区、そして、まだまだ回復途上にある南信地区、この両地区に対する学生募集活動がますます重要となる。上記グラフ

に明らかなように、入学率を80%と仮定するならば、定員200を確保するためには志願者数を250超とすべきこととなる。

新型コロナウイルス感染症に振り回された感のある1年であったが、今はその一日も早い終息を願いつつ、来年度も今年度と同様に、他の短大あるいはビジネス系の専門学校に対する本学の教育内容の優位性を鮮明に打ち出し、本学独自の「学びの多様性・専門性」を具現する教育システム「フィールド・ユニット制」とそれに基づく質の高い就職の実績、特に「金融スペシャリスト・プログラム」に支えられた金融機関への就職実績をこれまで以上に強力にPRし、志願者増に結びつけていく。

「長野県内の事務系・金融系の就職なら松商短大」という点を強力にアピールしながら来年度も「入学志願者数260・入学定員200」の確保を目指す。

＜執筆担当／入試・広報委員会 松商短期大学部 山添 昌彦＞

2. アドミッション・オフィス運営委員会

本委員会は総合経営学部、人間健康学部、教育学部、松商短期大学部の代表7名と入試広報委員長及び入試広報室職員によって構成されている。2020年度は入試広報室長が委員長を務めた。

1) 2020年度当初の計画 <P>

各学部学科の特色のある選抜方法を実施するため、大学及び各学部のアドミッションポリシーを確認し、ポリシーに沿った総合型選抜の実施に向けた内容の検討及び総合型選抜の実施を行う。また新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によっては、非接触型の選抜方法を実施することを事前に想定及び準備を行う。

2) 計画の実施状況 <D>

4月に委員会を開催し、各学部の総合型選抜の実施内容を確定した。総合経営学部は総合型選抜（一般）と（指定競技）の2区分を行った。（一般）は面接を1回にしてエントリーシートに記入する内容をより具体的に書かせるものとした。総合型選抜（指定競技）は強化部の入部予定者向けの試験区分である。健康栄養学科は昨年度から変更点なし。スポーツ健康学科は総合型選抜（一般）、（運動）、（指定競技）の3区分を行った。学校教育学科は総合型選抜（一般）、（特技）、（地域）の3区分を行った。（特技）は特に英語力を重視し、（地域）は郡町村部に所在する高校出身者を対象とした。

短期大学部は総合型選抜（一般）（留学支援）の2区分をⅠ～Ⅲ期までの3回行った。

3) 点検・評価 <C>

各学科ともアドミッションポリシーにあわせた総合型選抜の実施を行った。特にスポーツ健康学科に導入している運動選抜型や、学校教育学科の特別技能型選抜、地域型選抜入試は、学科の特色や求める学生像が明確となり、受験生側も準備がしっかり行われていた。

4) 2021年度への改善・改革 <A>

今年度同様、委員会で各学科が求める学生像に沿った入試内容の検討を行うとともに、アドミッションポリシーに沿った入試の実施に向け研究を重ねる。学科の特色を打ちだした総合型選抜での志願者を増やすことは、求める人材の確保に向けて極めて重要である。

＜執筆担当／アドミッション・オフィス運営委員会 委員長 坂内 浩三＞

3. 大学入学共通テスト実施委員会

1) 年度当初の計画 <P>

大学入学共通テスト実施委員会の2020年度当初の計画は以下の通りである。

① 受入れ受験者数と試験室数及び第二試験日程の調整

昨年同様に各教室に予備席を設けることによって、緊急時の対応を可能とし、また、机と机の間隔も規定に沿うように少し広めに配置する。信州大学からは受け入れ受験者数増員の打診があることより、上記の改善を図ることを説明し、理解を得る。

また、第二試験日程については、本学の入試日程及び労働の逼迫状況を説明し、試験場免除の理解を求める。

② 体調不良受験者への適切な対応

新型コロナウイルス感染症対策に伴う追試験を望まない体調不良受験者の対応を適切に行うための判断基準の明確化と別室試験室での安全な監督業務方法を検討する。

③ 適切な人員配置と効率的な運営

限られた人員を適切に配置し効率的に業務が遂行できる工夫を検討する。ポイントは、①ミスの防止、②負担の軽減化と平等化である。人員配置は、主監督と副監督者を中心にチームワークを発揮できる体制、年齢構成を考えるとともに、他学科との混合も行い、人的交流を図る。また、次年度の試験監督も視野に入れて配置を考える。試験監督は2時間続きで試験に入らないように配置し、全教員が同じコマ数になるように平等化を図る。また、英語のリスニングの負担が大きいことより、数年間続けて担当している教員は外し、負担の平等化を図る。これらに加え、新型コロナウイルス感染症対策として、本人及び近親者に持病を持つなどの配慮事項が必要な教職員に対しては、業務内容を配慮し、適切に対応する。

④ 試験監督に関する説明について

試験監督事前説明会を2回、リスニング予行演習を2回実施する。それぞれの説明は、各学科ごとに割り振り、説明を担当してもらう。

2) 計画の実施・現状の説明 <D>

① 受入れ受験者数と試験室数及び第二試験日程の調整

信州大学より、受入受験者数増の要請があったが、予備席の確保と机と机の間隔について石川委員が説明をして了承を得た。信州大学松本試験場と松本大学試験場の間で「地歴・公民と理科②の受験パターン別の受入れに関するグループ化」の割振りを実施すること、また、昨年同様、まず信州大学松本試験場に全て割り振り、信州大学で各試験場の状況を勘案し、各試験場が均等に負担するように割振ることとなった。その結果、本学試験会場では昨年と同数の617席となった。試験室数は要配慮者対応の教室を2部屋設置することとなり、合計10試験室での運営体制を整えることとなった。また、第二試験日程の会場は、信州大学が受けることとなった。代わりに、第一試験日程での重度配慮者の割振りは、松本大学と松本歯科大学で分担することとなった。

② 体調不良受験者への適切な対応

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、健康安全センターに対策と事前準備、監督者会議での周知を依頼した。健康安全センターによる対応キットの購入などで、準備態勢を充実した。また、

体調不良者発生に伴う対応のマニュアル及び資料作成とロールプレイの実施により万全を期した。特段の問題もなく、青木健康安全センター運営委員長及び脇本保健師に対応をしていただいた。

③ 適切な人員配置と効率的な運営

受入受験者数と試験室数に応じて予備室も含めて 76 コマ分の監督者グループを作成して配置した。教育学部教員及び若手教員にも主任監督を務めていただくなどを考慮しながら調整を行った。最終的な試験監督者数は 77 人であった。割り当て作業は容易ではなく、これまで対象外であった嘱託専任教員及び専門員にも声掛けをし、賛同を得られた教員及び専門員 7 名にも加わっていただいた。待機人員に関しても、少ない状況は改善できず、配置の余裕はない状態であった。また、「地歴・公民と理科②の受験パターン別の受入れに関するグループ化」の受け入れにより、4 教室が二日目に受験者がいなくなるとともに、理科②の時間帯における空き教室もできたが、1 日のみで業務が終了する教員配置とはならなかった。しかしながら、それはミスが起きないことを第一に考えた結果であり、試験監督はなるべく 2 時間続きで試験に入らないように配置し、全教員が同じコマ数になるように平等化を図るように近づけた。また、英語のリスニングについても数年間続けて担当している教員は外し、負担の平等化を図るようにした。連絡員についても各担当者が無理な態勢での業務とならないように配置及び作業内容を見直し、簡略化と効率化を図った。

④ 試験監督に関する説明について

監督者会議とリスニング予行演習については、新型コロナウイルス感染症対策として、前日の監督者会議並びに試験当日の始まりや終了後の集まりは、2 号館の大教室で実施した。監督者会議等の欠席者に対しては、必要に応じて監督業務の解説映像 DVD を配付した。監督者会議とリスニング予行演習の説明業務は、学部ごとに担当を決めて依頼した。説明の前に担当者会議を開き、説明内容、実施方法の確認を行ったが、これはとても良かった。問題冊子の受入れと仕訳作業は大会議室で滞りなく行われたが、4 時限目から開始し 19 時過ぎまで時間を要した。

試験当日の監督業務に関しても特に問題はなく、適切に対処ができた。また、本年も監督待機者は原則大会議室での待機を依頼し、特に問題はなかった。新型コロナウイルス感染症対策として、食事は各研究室にてとるようにした。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 受入れ受験者数と試験室数の調整

信州大学松本試験場と松本大学試験場の間で「地歴・公民と理科②の受験パターン別の受入れに関するグループ化」の割振りは、最初に信州大学松本試験場に全て割振り、信州大学で各試験場の状況を勘案し、各試験場が均等に負担するように割振り、重度配慮者を松本大学と松本歯科大学に割振った結果、本学における受入れ受験者数は、昨年度と同人数であったが、要配慮者用の教室を 2 教室確保する必要性が生じたため、合計 10 教室を使用した。その他に、予備教室を配置した。

席の間隔及び緊急対応用の予備座席の設置もでき、より良い状態での受け入れ態勢ができた。今後も今回受け入れた 617 席とほぼ同数の割り当ては続くと考えられることから、来年度以降の試験運営も今年度をベースにより円滑に進めるための改善点等を検討していきたい。

② 体調不良受験者への適切な対応

試験当日の業務は、予想していた追試験申請は発生せず、体調不良等を訴える受験生もそれほど見られず、別室試験室の追加を要することもなく無事に進めることができた。また、発熱者、遅刻者が出た際の対処法について事前にロールプレイをすることによって準備をしていたため、比較的

安心して当日を迎えることができた。

③ 適切な人員配置と効率的な運営

今年度も、監督待機者の会議室待機を原則とした。特に問題もなく、スムーズに進行したと思われる。今年度は、本件に関する意見は特段、寄せられてはいない。また、受験パターンのグループ化により、延べ使用教室数が減少したが、要配慮者用の教室数が1教室増加したことにより、1日のみで試験監督業務を終了する配置はできなかった。教員一人当たり3コマ程度の割当てで試験監督を実施した。本年は、新型コロナウイルス感染症対策として、本人及び近親者で感染リスクが高い場合においては、事前の申し出により、配置に配慮をした。また、介護等での免除希望者が一定数いることにより、やむなく嘱託専任教員にも声掛けをし、協力を得られたことは、大変助かったことである。ご協力して下さった嘱託専任教員及び専門員の方々には、大いに感謝をしたい。教育学部も完成年度を迎え、業務にも慣れたように見て取れることより、主任監督等の業務も各学部で適切に割当てることができると感じられた。今後も少しでも監督者の負担を減らす方向で業務改善を検討して行きたい。

大教室(524教室)での監督担当者は、階段があることより、なるべく、若い世代を配置した方がよいという意見を取り入れ、実施した。また、昨年度、Jアラートや地震等の災害時の対応マニュアルを作成してあったため、監督者は安心して業務にあたることができていたようである。

試験業務に携わったスタッフ間においては、他のメンバーを思いやり、課題に対する解決策を提案してくれていた。試験監督者が時間前に来ており、受け渡しの協力体制ができていた。

チェックリストの準備による事前チェックが不十分であったところがあったが、補完し合い、適切な対応がなされた。職員の実施事項と教員の実施事項のすみ分けを確認しておくことは、昨年の反省を生かすことができたが、さらに一層の意思疎通と融和を図ることが必要であると感じられた。特に、配布前の事前準備においては、職員サイドのリーダーを決めることが肝要である。

また、要配慮者への対応を専門領域の教員が介入して適切に対応したことによって、スムーズな試験監督業務が展開された。さらに、待機だけのシフトであったりとほとんど出番がないにもかかわらず、忙しい中、2日間笑顔で協力的に取り組んでくれたり、気が付かない点に対して、正しい対応を提示してくれたり、注意した方がよい事柄を伝えてくれたりした。新型コロナウイルス感染症対策としての受験生の3密防止においても、職員サイドが注意に回ってくれたり、必要と思われる文言を適時追加し、試験監督者からの注意喚起をしてもらうなどの処置がとられたことは、適切な対応がなされたと評価できる。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

① 適切な人員配置と効率的な運営

次年度も試験室10教室程度での実施となることが予想される。事前研修の質向上、バランスを考えた監督者割当てや連絡員等の配置、効率的な試験業務のための改善点の検討・実施に努める。また、遅刻入室者に対する入室の可否の判断(教室、受験科目)を監督者が実施するの可否かを事前に確認・伝達しておく。

② 大学入学共通テストの実施に向けた準備と運営

今後、共通試験に合わせて試験の内容や規模を確認した上で、試験室の選定や監督者及び連絡員等の配置、事前説明会等の準備を早期に進めていく。次年度も新型コロナウイルス感染症対策が求められる可能性がある。本年度の準備態勢を生かし、実施することが望まれる。

危険手当給付に対する要望が出たが、本年度は認められなかった。大学入試センターも危険手当を受け入れ人数レベルに応じて給付していることより、今後の検討が望まれる。

また、家族の介護、自身の病気（体調不良）、子息の受験による手助け等々の理由により、監督免除希望する者が決して少なくない。本年度は、子息受験による監督免除は、了解を得、回避されることとなったが、働き方改革が求められている今日、今後考える必要性ある。具体的には、今年度、嘱託専任教員及び専門員の参加や大学院生の雇用、又は、連続しての試験監督などの協力があつたが、広くその様な協力の呼びかけ、並びに可能な範囲内で業務を1日に集中するなどの検討も行っていく。

③ 不測の事態への的確な対応

新型コロナウイルス感染者、インフルエンザ罹患者、配慮者、別室受験者等への対応や災害対策について、マニュアルの充実など万全を期すように努める。特に、新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、本年の大学入学共通テストは大きな影響を受けた。次年度も、その様な予期せぬ対応にも迫られるかもしれないことは、承知しておかなければならない。

<執筆担当/センター入試委員会 委員長 中島 弘毅>

II. 研究推進管理部門

1. 研究推進委員会

1) 役割 <P>

研究推進委員会は本学教員による研究活動と成果公表の支援を目的としており、学内研究資金の配分や、松本大学研究紀要をはじめとする3種の研究誌の発行などを総括している。学生の授業料を主な原資とする学内研究資金には限度があり、各教員は外部資金の獲得をめざして日々の研究を実施し、成果を上げることが期待されている。大学教員による研究活動のための外部資金には、科学研究費補助金（以下科研費）を初めとし種々の公的、あるいは民間の補助金があるが、科研費に代表される競争的外部資金は採択率が低く、更に実績を重視した審査が行われているのが現状である。したがって、これら外部の競争的助成金獲得のための基盤となる実績を積む目的で、可能な範囲の研究費を個人研究費、学術助成金として公平かつ必要に応じて配分し、学内の研究体制を積極的に支援している。

学内助成による成果を基にした学外資金の申請としては、科研費以外に私学事業団経常費補助金特別補助「大学間連携等による共同研究」の推進を特に奨励している。

大学教員には、それぞれの専門領域において基礎から最新の知見に至るまでの情報を基にした教育を実施する能力と、それを支える研究の推進が求められている。当委員会としては、これらの要求に本学のすべての教員がこたえることができるよう、必要とされる研究が滞りなく遂行できる支援制度を維持するとともに、時代とともに変化する要求に対応していく。

2) 活動目標の実施状況 <D>

① 2020年度の学内研究助成金については、学外研究費を申請していることを応募条件とした学術研究、地域総合研究、教育推進研究の3区分と、学外研究費の申請を義務としない萌芽的研究の、計4区分で募集を行った。査定にあたっては、例年通り「学内研究費に関わる確認事項」に基づいて行った。研究旅費に関する2019年度の変更点については、それを踏襲した。加えて、申請計画においてその必要性が十分に説明されていないもので、本来個人研究費での計上が望ましい項目（以下に示す）は減額対象とした。

- a. 国内学会旅費、参加費（個人研究費で学会費を支払っているもの）
- b. コピー、文献複写費用など
- c. 図書・新聞雑誌

学内研究助成費の申請は、新任教員の申請を含めほぼ例年通りの34件であった。そのうち32件の申請を採択し、査定後の承認額は合計10,225千円となった。

- ② 科研費の申請は25件で、2019年度と同様の低い応募件数であった。そのうち4件が採択された。
- ③ 科研費以外の学外助成金の受け入れは16件で、2019年度から微増した。
- ④ 大学院健康科学研究科 河野史倫准教授が日本医療研究開発機構（AMED）へ研究テーマを申請するにあたり、採択決定時に松本大学とAMEDとの間で委託研究開発契約の締結が必要となるため、協議のうえ承認した。申請については残念ながら不採択となった。
- ⑤ 私学事業団経常費補助金特別補助「大学間連携等による共同研究」を積極的に利用するよう学内広報を行い、2件（山田一哉教授、大阪大谷大学薬学部；沖嶋直子講師、長野県立こども病院、

小林耳鼻咽喉科医院)を申請し採択された。

3) 点検・評価 <C・A>

- ① 科研費については、応募件数が低迷しており、新規の採択数も4件にとどまった。本学においてはここ2年ほど応募数が20数件にとどまっており、採択数も一桁となっている。採択数を増やすために、母数となる申請数を増やすことが必須である。2020年5月1日時点で99名の専任教員が研究科、学部、短大に在籍しているので、半数の教員が申請しても現状の倍近い50件ほどの応募が期待できる。
- ② 前述したように科研費申請数を増やすことを一つの目的とし、毎年学内の研究助成を行っている。2020年度は32件の申請に対して、10,225千円の助成を行い、2019年度は35件の申請に対して今年度とほぼ同額の総額11,968千円の学内助成を行った。しかし、科研費申請数と学内助成金採択数に乖離がみられることから、学内助成金による研究支援が科研費の申請数増加に十分貢献しているとは言い難い。各教員が安易に獲得できる学内助成金に満足する傾向にあるとするならば、学内研究資金の配分方法についての検討が必要であろう。現在行っている申請者だけへの学内助成金の配分についての批判もあり、「個人研究費を増額して広く配分することにより各教員による研究の底上げが期待でき、公平性も増す」という意見も聞かれる。実際、今年度の申請の中には学外助成金を申請せずに応募できる萌芽研究で前年度と同様の内容での申請があり、新しい研究課題に積極的に取り組むというよりは、毎年継続している研究課題で萌芽研究区分を申請した事例が見られ、当該研究については不採択とした。また、研究費配分の公平性を担保する目的で、学内ルールにより1教員1区分の申請となっているが、学内教員による共同研究として、研究代表者の専門領域ではなく共同研究者の専門領域における申請がなされ、代表者の名義貸しが疑われた事例があり、申請は不採択となった。大学発足時から時間が経過し新たに着任した教員も増えていることから、研究推進委員会が作成した「学内研究費に関わる確認事項」を一部現状に合わせて改定し、研究推進委員会で承認後、年度当初の合同教授会にて周知徹底を図った。昨年度の本報告書でも指摘したが、学内助成金とその後の外部資金の申請につながっているか、複数年にわたる追跡調査を行う必要がある。
- ③ 科研費以外の外部資金に関しては、継続を含め16件の助成金を獲得した。科研費以外の外部資金への積極的な応募にも力を入れていく。
- ④ 学内助成金を受けた教員による研究成果については、2020年2月24日(水)、26日(金)に教員研究発表会を開き、成果発表を行った。今後これらの成果が論文となり、学内紀要や各学会誌、専門誌に発表されることを期待する。
- ⑤ 新型コロナウイルス感染症の流行により国内外の移動が制限されたこと、感染予防の観点から三密を避けることが推奨されたことなどによる教員の学外活動に対する制約は、各教員の研究活動に多大な影響を与えた。そのため、今年度に限っては学内助成金の使途について申請内容との違いが生じてても、再申請を義務としないことを研究推進委員会で確認した。しかし、次年度以降は本原則を維持する必要があると考え、学内助成金の使用に関する確認事項を再度周知する。

<執筆担当/研究推進委員会 委員長 木藤 伸夫>

(1) 研究誌編集

1) 年度当初の目標 <P>

研究推進委員会が管轄する研究誌として「松本大学研究紀要」、「地域総合研究」、「教育総合研究」の3誌を発刊している。各研究誌に編集責任者を置き、査読を含む各誌の編集に積極的に関与していただき、より充実した内容の研究誌の発刊を維持・継続する体制を構築する。

2) 目標の実施状況 <D>

「地域総合研究第21号Part1」（編集責任者 白戸洋）は7月31日に発行した。第1部の松本大学地域総合研究センター研究員報告では、論文4編、研究ノート4編、調査・事例報告1編、教育実践報告1編の合計10編を掲載した。第2部では、2019年度に行われた地域連携活動経費による活動報告14件、地域総合研究センター特別調査・研究員（松本市地域づくりインターン）活動報告として、4件の報告書を掲載した。

「地域総合研究第20号Part2」は、松本大学アニュアルレポートとして11月30日に発行した。

「教育総合研究」第4号（編集責任者 守一雄）を2020年11月30日に発行した。論文4編、研究ノート2編、調査・事例報告1編、教育実践報告2編、資料4編の合計13編を掲載した。また、第4号別冊として、「特集：新型コロナウイルス感染症流行下におけるオンライン遠隔教育実践報告」を同日に発行した。各学部・短期大学部において取り組まれたオンライン遠隔授業に関する、計14編の教育実践報告が掲載された。

「松本大学研究紀要第19号」（編集責任者 清水聡子）を2021年3月10日に発行した。論文5編、研究ノート1編、教育実践報告1編、資料2編の合計9編を掲載した。

3) 点検・評価の結果（目標の達成状況）<C>

- ① 各研究誌に編集責任者を置く編集体制を構築できた。編集責任者を置くことにより、査読者だけでなく編集部会でもすべての原稿に丁寧な目を通すことが可能となり、短時間で十分な査読対応ができる体制ができた。査読者による査読報告の内容については、各研究誌の編集責任者と研究推進委員長がその内容を検討し、必要に応じて修正及び取捨選択を行った後、編集責任者名で著者に報告した。
- ② 査読のレベルについては、査読者の姿勢により違いがみられた。形式査読に徹する査読者から、論文の内容に言及し、より良い論文にしようとコメントを加える査読者まで、査読の基準に差が見られた。本来このような査読の基準に差があってはならないが、3学部と1短期大学部で構成される本学教員の専門分野は多岐にわたり、研究誌の位置づけも各教員の研究分野により大きく異なっている。学内研究誌の存在意義やそのレベルに対するそれぞれの教員のとらえ方の違いが、査読に対する姿勢の違いの主たる原因と思われる。今後共通認識の形成に向けて根気強く個別に対応していくことが必要と思われる。
- ③ 2020年度は新型コロナウイルス感染症の世界的流行により国内外の移動が制限されたため、本学教員の研究活動においても多大な影響が見られた。「教育総合研究」においては、上記のように本学の感染症対策を記録として残すとともに、本学の対応を周知する目的で特集を組むことができたが、他研究誌においては教員の研究活動への影響が見られた。すなわち、各誌において、投稿原稿の減少が見られた。今後新型コロナウイルス感染症の流行がどの程度の期間継続するか

見通せない状況ではあるが、教員の研究活動に対する制約はしばらく続くと思われることから、投稿数を維持するための対策を考えておく必要がある。

4) 次年度に向けて <A>

- ① 3誌に増えた研究誌の質の低下を招かないよう、引き続き査読体制の強化を図っていく。また、各研究誌の発行には原稿を数多く集めることが必要となるが、今年「教育総合研究」において新型コロナウイルス感染症対策の特集を組んだように、時流に合ったテーマを決めて原稿募集を行い、特集を組むことも対策の一つと考えられる。次年度以降も研究誌の質の維持と投稿数の確保という相反する対応が求められるが、避けて通ることはできず工夫して対応する。
- ② 上記今年度の「点検・評価の結果」でも述べたが、新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては原稿の投稿数が減る可能性もあり、2021年度発行予定の3研究誌について、例年通りの発行スケジュールに従って原稿募集を行うか検討する。

<執筆担当/研究推進委員会 委員長 木藤 伸夫>

(2) 松本大学出版会

1) 年度当初の計画・本年度の活動状況 <P・D>

- ① 昨年度出版が承認されていたが発刊が遅れていた1件について今年度発刊した。
「小学校社会科における価値判断の授業開発—包摂主義を基軸とした価値類型の有効性—」(秋田真 教授)
- ② 既存の書籍についての販売、在庫管理等を行った。

2) 点検評価・来年度の事業計画 <C・A>

- ① 今年度は「小学校社会科における価値判断の授業開発—包摂主義を基軸とした価値類型の有効性—」の1冊を出版した。
- ② 出版物の在庫については、amazonによる取り扱いが定着したことから、執筆者を中心とした広報活動を積極的に行い、販売促進と在庫の軽減に努めたい。

<執筆担当/研究推進委員会 委員長 木藤 伸夫>

(3) 発明管理

1) 年度当初の計画・本年度の活動状況 <P・D>

本業務は、2016年8月1日に施行された「松本大学知的財産管理委員会規程」に基づいて設置された。発明管理部会は、上記規定に基づき、本学における職務発明等に関する事項を審議するため設置され、研究推進委員長が部会長を務めることとした。

本年度は教職員からの申請が無かったことから、発明管理部会は招集されなかった。

2) 点検評価・来年度の事業計画 <C・A>

- ① 本学教職員による学内外における多彩な活動の結果、特許法、実用新案法、意匠法、あるいは著作権法等の申請に値するシーズはあると思われるが、規程制定後本学からの発明等の申請は行われていない。

- ② 本学におけるサポート体制の周知、学内の学術研究の奨励と本部会の活動を一体化させ、研究成果に関連する知的財産権の保護や、研究成果に基づく特許、実用新案等の申請を積極的に行い、実績を積み上げる。
- ③ 本学からの助成により遂行された事業、研究に加え、受託・共同研究であっても、本学施設を用いて行われた活動の成果として規定に定められた創造的な成果が得られた際には、もれなく申請を行うよう本規定の学内周知をはかる。

＜執筆担当／研究推進委員会 委員長 木藤 伸夫＞

2. 地域総合研究センター運営委員会

地域総合研究センター運営委員会は研究推進管理部門におかれ、運営委員長（センター長）のもとに、運営委員として教員7名（大学院1名、総合経営学部2名、人間健康学部2名、教育学部1名、短期大学部1名）に加え、2020年度は特別調査・研究員4名、事務局9名で委員会を構成した。特別調査・研究員については、継続の4名であった。

1) 年度当初の計画 <P>

2020年度の活動計画は次の通りであった。

- ① 地域総合研究第21号の発行。Part I, IIの2部形式を踏襲し、Part IIはアニュアル・レポートとする。ただし、地域総合研究センターは出版を受けもつものであり、Part Iの編集作業は研究推進委員会が行い、Part IIは自己点検・評価委員会がデータの収集整理を行う。
- ② 外部団体等から大学に持ち込まれる、新規・継続を含めた受託事業（研究、共同事業、調査など）の受付窓口となる。また、教員個人の受託事業についても当センターがその受入窓口となり、受託費管理等の実務を担当し、報告書作成などの支援も行う。
- ③ 松本市との提携活動（継続事業）として、以下の事業を行う。
 - a) 松本市地域づくり研究連絡会
 - 担当：総合経営学部観光ホスピタリティ学科 木村晴壽 教授
総合経営学部観光ホスピタリティ学科 白戸 洋 教授
 - b) 観光ホスピタリティカレッジの企画・運営（事務局業務）として、下記講座を開講する。
 - ・観光ボランティアガイド養成講座
 - ・市民公開講座
 - ・観光事業者専門講座
- ④ 地域づくりインターンシップ戦略事業

松本市と「地域づくりインターンシップ戦略事業業務委託契約」を締結しているが、今年も継続の地域総合研究センター特別調査・研究員4名が松本市内の各地区地域づくりセンターを活動拠点として、地域づくりに関する研究活動等を行う。
- ⑤ その他自治体と連携して実施する事業

松川村、筑北村、生坂村、安曇野市などとの連携事業については、年度ごとに更新しつつその活動を継続する。

2) 活動状況 <D>

本年度の活動計画に沿って下記のような活動を実施した。

①『地域総合研究第21号』発行

Part I 7月31日発行

Part II (アニュアルレポート) 11月30日発行

② 受託事業窓口業務

2020年度の窓口業務として、以下の事業を受託した。

a) 令和2年度「松川村観光振興支援業務」

委託先機関：松川村

担当：総合経営学部観光ホスピタリティ学科 山根宏文 教授

b) 令和2年度「キラリ☆アクア健康教室」

委託先機関：筑北村

担当：人間健康学部スポーツ健康学科 根本賢一 教授

c) 「安曇野市親子プログラミング教室」業務委託

委託先機関：安曇野市

担当：総合経営学部総合経営学科 室谷 心 教授

d) 「いくさか歩こう部」講師派遣

委託先機関：生坂村

担当：人間健康学部スポーツ健康学科 田邊愛子 准教授

e) 微細藻類由来機能性物質共同研究

委託先機関：株式会社日健総本社

担当：人間健康学部健康栄養学科 矢内和博 准教授

f) 6次産業

委託先機関：齋藤農園

担当：人間健康学部健康栄養学科 矢内和博 准教授

g) 上高地における子供向けガイドプログラムの素材提案事業

委託先機関：自然公園財団 上高地支部

担当：総合経営学部観光ホスピタリティ学科 中澤 朋代 准教授

h) 岐阜県中部山岳国立公園エリアの活性化プログラムの提案

委託先機関：飛騨高山大学連携センター

担当：総合経営学部観光ホスピタリティ学科 中澤 朋代 准教授

i) 岐阜県中部山岳国立公園エリアの活性化プログラムの提案 リモート発表

委託先機関：飛騨高山大学連携センター

担当：総合経営学部観光ホスピタリティ学科 中澤 朋代 准教授

③ 地域との連携事業

a) 松本市地域づくり研究連絡会として、「未来へつなぐ 私たちのまちづくりの集い～第36回公民館研究集会 令和2年度地域づくり市民活動研究集会～」を2021年2月21日(日)、オンラインで開催した。また、地縁団体や志縁団体の活動紹介冊子「冊子版 市民活動商店街2021」を作成した。

b) 観光ホスピタリティカレッジの企画・運営（事務局業務）として、下記講座を開講した。

(i) 観光ボランティアガイド養成講座

2020年度「ガイドスキルアップ講座」（8月～12月 全12講座） 受講者：10名

講師：ココブラ信州／安曇野ふるさとづくり応援団 高松 伸幸氏、宮崎 崇徳氏

第1講：8月19日（水）WEB会議サービス（ZOOM）による講演会

内容：講演会「ブラタモリのつくり方～ストーリーでつむぐ地域の魅力～」

講師：「ブラタモリ」チーフ・プロデューサー 渋谷 義人氏

第2講：9月2日（水） 会場：市民活動サポートセンター、松本城～城下町

内容：講義／フィールドワーク「観光ガイドと街歩き」

第3講：9月9日（水） 会場：あがたの森文化会館

内容：講義「ガイドの心構え」

第4講：9月23日（水） 会場：城北公民館～ホテル花月

内容：フィールドワーク「ガイド実践①コース下見」

第5講：9月30日（水） 会場：あがたの森文化会館

内容：グループワーク「求められるガイドの姿～地域資源とその使い方について考える～」

第6講：10月14日（水） 会場：松本城周辺

内容：フィールドワーク「先進地外部ガイドによる研修」

講師：森の案内人 三浦 豊氏

第7講：10月21日（水） 会場：城北公民館～沢村公民館～天白社～世育稲荷

内容：フィールドワーク「ガイド実践①前半」

第8講：10月28日（水） 会場：北門の井戸～鯛亀の井戸～ホテル花月～大手公民館

内容：フィールドワーク「ガイド実践①後半」

講義「ガイド実践①振り返り、ガイド実践②ガイドダンス」

第9講：11月11日（水） 会場：大手公民館～花時計公園

内容：フィールドワーク「ガイド実践②コース下見」

第10講：11月25日（水） 会場：大手公民館～旧市役所跡～源池の井戸

内容：フィールドワーク「ガイド実践②前半」

第11講：12月2日（水） 会場：中町蔵シック館～花時計公園、大手公民館

内容：フィールドワーク「ガイド実践②後半」

講義「ガイド実践②振り返り」

第12講：12月16日（水） 会場：あがたの森文化会館

内容：まとめ、修了式

(ii) 市民公開講座（オンライン講座）

1) 「ブラタモリのつくり方～ストーリーでつむぐ地域の魅力～」

2020年8月19日（水） ZOOMによる講演会 参加人数：61名

講師：渋谷 義人氏（「ブラタモリ」チーフ・プロデューサー）

2) 「日本が世界に誇れる『気づかい』の習慣とは」

9月25日(金) ZOOMによる講演会 参加人数:11名

講師:上田 比呂志氏(大人の寺子屋 縁かいな代表)

3) 「松本の水と食の可能性」

11月2日(月) youtubeにて配信開始 収録会場:松本市下町会館

講師:小池 晃氏(長野県南安曇農業高等学校生物工学科教諭)

4) 「テーマパークの人材育成」

11月18日(水) youtubeにて配信開始 収録会場:ホットプラザ浅間

講師:徳田 祐一郎氏(CSコンサルタント/元オリエンタルランドディズニーアカデミー管理運営担当)

5) 「持続可能な松本の“食”を創る」

12月10日(木) youtubeにて配信開始 収録会場:国宝旧開智学校

講師:岩寄 博論氏(博報堂ミライの事業室ビジネスデザインディレクター)

加藤 百合子氏(株式会社エムスクエア・ラボ代表取締役)

④ 地域づくりインターンシップ戦略事業

2020年度は波田地区、入山辺地区 各1名、中央地区 2名が研究活動を行った。

3) 点検・評価 <C・A>

① 継続中の受託事業が多く、これまで積み上げてきた地域との連携が滞りなく進んでいることがわかる。新たに受託した事業も数件あり、このような機会を活かしこれまで以上に地域との連携を深めていく。

② 委託事業などの承認に関しては他の委員会が審査しており、特に地域総合研究センター運営委員長が審査に関与できていないのは委員会構成上の問題点である。本学と学外団体との共同研究申請に関しても、地域総合研究センターが窓口になっているもの、研究推進委員会に提出されるものがあり、「受託研究及びこれに準じる調査、研究・開発活動等の受け入れ」という主たる事業内容においてその基準があいまいである。次年度は、以上のような問題点を解決すべく、改組を含めた策を講じる。

<執筆担当/地域総合研究センター運営委員会 委員長 河野 史倫>

3. 研究倫理委員会

1) 年度当初の目標 <P>

今年度も「松本大学研究倫理委員会規程」に則り、研究の倫理及び不正行為に係わる基本的事項に関する事、研究者から申請のあった研究の実施計画の審査に関する事、研究に係わる個人情報の保護に関する事、その他研究の倫理に関する事を審議する。

2) 目標の実施状況 <D>

本年度、研究倫理委員会の委員構成を以下に記した。事務局からは総務課長を含めて2名が参加した。

・学長が指名する大学院及び各学部から選出された教員

河野 史倫、清水 聡子、白戸 洋、弘田 量二、澤柿 教淳、飯塚 徹

- ・研究に関する倫理的及び法的事項を総合的に判断するにふさわしい識見を有する者
増尾 均、福島 智子
- ・一般の立場を代表する学外者
江原 孝史（医師）

① 研究計画審査

2020年度に当委員会へ研究倫理審査申請のあった案件は以下のとおりであった。

<第20-01号>

研究者名：総合経営学部総合経営学科 教授 室谷 心

研究計画名：総合経営学科新生生に対する基礎学力 e-learning システムの学修効果

研究の意義・目的：総合経営学科が教育企画として行った、一年生対象基礎学力 e-learning システムの教育効果の評価であり、松本大学 IR 活動の一つである。大学生の基礎学力養成において e-learning システムの教育効果が明らかになれば、大学教育に対して大きな影響を与えることが期待できる。

研究対象者：106名

研究期間：承認日より2021年3月31日まで

<第20-02号>

研究者名：教育学部学校教育学科 准教授 和田順一

研究計画名：Paraphrasing 技法の習得が Speaking 能力に及ぼす影響 2020

研究の意義・目的：文部科学省が次期学習指導要領において Speaking の能力を発表とやり取りという項目に CEFR の指標に基づいて分類がなされた。Output に関しては文部科学省答申(2016, p, 193)にあるように、「書くこと」や「話すこと」に課題があるという現状がある。そのため Communication Strategies が実際にどのように影響をするかを検討し、学生の Speaking 能力の向上を調査する。またこの研究は2018年2019年の研究の改善後の研究である。

研究対象者：約20名

研究期間：2021年5月31日まで

<第20-03号>

研究者名：教育学部学校教育学科 専任講師 藤原隆史

研究計画名：日英語話者による物体の空間関係把握様式に関する研究

研究の意義・目的：本研究の目的は、母語による事態把握の様式の違いを調べることにある。特に、英語の前置詞とその日本語訳の対応関係（例：in と「～の中」）が、使用言語の違いに起因する何らかの認知的事態把握の差異によって影響を受けるかどうかを検証する。この研究で得られたデータを分析することで、使用言語による物体同士の空間関係把握のための認知様式の違いを明らかにし、その差異によってもたらされる学習者への負の転移（日本語を母語とする者が英語を学習する際に日本語の特性に影響を受けること）の有無や程度を知ることができる。そして、この研究の成果は日本語話者への英語教育に活用することができ、英語教育が重要視される今日の日本において大変大きな意義があるものと考え

られる。

研究対象者：約60名

研究期間：承認日より2023年12月31日まで

<第20-04号>

研究者名：教育学部学校教育学科 教授 守 一雄

研究計画名：性ステレオタイプの心理実験による検証：クイズ課題のパートナー選択を通して

研究の意義・目的：人種差別や性差別などの人権侵害をなくしていくことには困難な点も多い。その一つはステレオタイプと呼ばれる偏見や認知の歪みがある。多くの人々は差別はいけないことだと考えているために、通常アンケートでは差別の存在を調べることは難しい。そこで、本研究では仮想のクイズ対決という場面を作り、そのパートナーとして男性と女性のどちらが選ばれやすいかを調べることで、アンケートでは明かされにくいステレオタイプの存在を検証することを目的とする。

被験者の学生にはオンラインでの面談の際にステレオタイプに関する2つの質問をする（「男女に知能の差はあるか」「人種による知能の差はあるか」）。これに加えて、仮想のクイズ対決という場面において、自分のパートナーを選ぶ場合に男女（日本人／外国人）のどちらが選ばれるかという選好実験によりステレオタイプの存在を確認する。

研究対象者：約60名

研究期間：承認日より2021年3月31日まで

<第20-05号>

研究者名：人間健康学部健康栄養学科 専任講師 沖嶋 直子

研究計画名：低アレルゲン性リンゴの探索

研究の意義・目的：日本では、花粉症患者の増加に伴い、花粉-食物アレルギー症候群（以下PFAS）患者が増加している。その中でも、シラカンバ・ハンノキ花粉症に伴うバラ科果物に対するアレルギーが増加している。日本では、リンゴPFASの主要アレルゲンコンポーネントはMal d 1であり、このコンポーネントは熱で容易に変性し、消化酵素による作用を受けやすいことから、その症状は口腔咽頭に限局されるが、現在のところ、一旦発症してしまうとアレルゲンとなる果物や野菜の生食を制限する他治療法がない。

シラカンバ花粉症に伴うバラ科果物PFAS患者が多く、リンゴの生産・消費量が多い欧州では研究が進んでおり、Mal d 1量が多くほぼ全てのPFAS患者が発症する品種や、アレルゲン量が少なくPFAS患者の半数は無症状で食べられる品種が明らかになっている。しかし、日本と欧州では栽培されているリンゴ品種の大半が異なり、日本で栽培されている品種の大半はアレルゲン量に関する情報がなかった。そこで、研究実施責任者は長野県産リンゴ25品種を試料とし、リンゴPFASアレルゲンMal d 1のウェスタンブロットイングに

よる分析を行った。その結果、日本で最も生産・消費量が多いふじと比較して、発現量が有意に低い品種を発見した。(別紙1参照)しかし、これらの品種をリンゴ PFAS 患者が無症状で喫食可能であるか否かは、患者を対象とした経口負荷試験を行わないと明らかにはならない。

これらの背景から、本研究では、研究実施責任者の研究成果を元に Mald1 低発現リンゴを試料とした経口負荷試験を行い、リンゴ PFAS 患者が無症状で喫食可能な品種を見出すこと、さらに現在遂行中である ELISA での定量結果から、それぞれの患者における Mald 1 量の PFAS 発症閾値を推定することをその目的とした。

研究対象者：10名

研究期間：承認日より2025年3月31日まで

<第20-06号>

研究者名：人間健康学部健康栄養学科 専任講師 長谷川尋之

研究計画名：日本人アスリートの身体的特徴と食習慣・食環境

研究の意義・目的：食環境・食事状況の質問票を作成し、それによる現状と課題の把握を可能にするほか、今後日本人アスリートの栄養サポートに使用可能なデータベース及び質問票の作成を目的とする。

また、被験者(チーム単位)で食環境や食意識などの実態を把握することができ、チームの競技能力の向上のための一助となる。

研究対象者：30名

研究期間：承認日より2023年3月31日まで

<第20-07号>

研究者名：大学院健康科学研究科 准教授 齊藤茂

研究計画名：クトフェリン摂取の運動習慣のある健常者の体調に関する自覚症状に対する効果の検討ーランダム化二重盲検プラセボ対照並行群間比較試験ー

研究の意義・目的：①背景

免疫細胞の1種であるプラズマサイトイド樹状細胞(pDC)は、ウイルス感染の抑制に重要な働きをしりI型インターフェロン(IFN)を産生し、ナチュラルキラー(NK)細胞、B細胞、T細胞など様々な免疫細胞を活性化する。激しい運動は、pDCの働きを抑制し、風邪様症状の発現など体調の維持に影響を及ぼす可能性が示されている。ラクトフェリン(LF)は多くの哺乳類の乳に含まれる鉄結合性の糖タンパク質で、LFの摂取がpDCの働きを高め、I型IFNの産生、NK細胞、B細胞、T細胞を活性化する可能性が示されている。従ってLFの摂取は激しい運動による体調変化を抑制する可能性が考えられる。

② 目的

運動習慣のある人におけるLF摂取の体調に関する自覚症状に対する効果を検討する。

③ 意義

激しい運動をする人の体調管理に LF を活用できる可能性を検討できる。

研究対象者：84名

研究期間：承認日より2026年3月31日まで

<第20-08号>

研究者名：大学院健康科学研究科 教授 青木雄次

研究計画名：健常成人における過去の感染症様症状の発現頻度と免疫機能に関する横断研究

研究の意義・目的：①背景

過去の感染症様症状の発現頻度が高い人は潜在的に免疫機能が低いと推定される。

②目的

健常成人を対象として、過去の感染症様症状の発現頻度、免疫カレベルの分布及び関連を検討する横断研究を実施する。

③意義

過去の感染症様症状の発現頻度、免疫カレベルの分布及び関連を調査できる。

研究対象者：700名

研究期間：承認日より2021年3月31日まで

<第20-09号>

研究者名：人間健康学部スポーツ健康学科 准教授 山本薫

研究計画名：亜最大運動疲労困憊後の血中乳酸除去からみたクーリングダウン強度の影響
大学陸上競技部長距離選手について

研究の意義・目的： 根拠と適切な実施方法は明確ではない。乳酸の除去の充進については比較的多くの研究報告があるが、被験者、用いる機器、運動強度や運動様式などの違いによって適切な条件については一定の見解が得られていない。血中乳酸は元々、細胞内で酸化されエネルギーとして代謝されることから、運動の阻害要因としてではなくエネルギー基質へという認識へ変わってきているが、血中乳酸は行う運動の強度によってその産生量が変わり、比較的高い強度の運動を行うと、活動筋では筋収縮を起こすエネルギーを産生するため、解糖系が活発に働きグリコーゲンが分解されてピルビン酸ができる。ピルビン酸の生成速度がミトコンドリアによるピルビン酸の酸化速度を上回った場合にピルビン酸は乳酸に変換される。乳酸産生が増加するかどうかは、ピルビン酸が生成される速度によって決まる。この血中乳酸が多量に産生されれば筋肉の pH を下げることになり、体内を酸性に傾けてしまい、結果的に疲労の一要因になることが考えられている。

陸上長距離選手は、レース終盤には全力疾走に近い速度で疲労困憊まで走り切り、レース後速やかに疲労を回復させるためにクーリングダウンを行う。

この回復過程において、日々のトレーニングを積んだ持久性鍛錬者には効率よく疲労を回復する（乳酸を除去する）特性があると考えられる。この特性を引き出すためのクーリングダウン運動はどの程度実施するべきか不明な点は多いが、血中乳酸を速やかに代謝させることが必要であることに異論はないと思われる。その乳酸代謝については、高強度運動実施後、中程度の運動を行うことが速やかな代謝につながる事が報告されている。その後もいくつかの研究が実施され、トレッドミルを用いた走運動の場合、最大酸素摂取量の60%強度（60%V_{O, max}）の走運動、自転車エルゴメーターによる運動では40~70%V_{O, max} 強度の運動で乳酸の消失や除去率にもたらす効果が大きいと報告されている。これらのことを踏まえ、陸上長距離選手を用いて走運動についての報告は多くないことから、本研究は大学陸上長距離選手を対象に、亜最大強度（95%V_{O, max}）の走運動で疲労困態に至った後に最大酸素摂取量の40%及び65%V_{O, max} でクーリングダウンを実施した際の血中乳酸動態を明らかにすることを目的とする。

研究対象者：男女12名程度

研究期間：2021年10月より2023年3月31日まで

<第20-10号>

研究者名：人間健康学部健康栄養学科 専任講師 成瀬祐子

研究計画名：過程の健康的な食生活実践に及ぼす学校給食の教育的価値～給食食材を題材として。

研究の意義・目的：わが国では、ほぼすべての児童・生徒に学校給食が提供され、給食提供とその教材化による食教育は有効であると考えられ、学校給食による児童・生徒の学習態度・意欲や食行動形成に及ぼす影響等を検証した先行研究や、給食の有無による栄養摂取状況を検証した先行研究がある。しかし、家庭の健康的な食生活実践に及ぼす学校給食の影響を検証した研究は少なく、このような視点における学校給食の教育的価値は明確とは言えない。そこで本研究では、学校給食提供とそれを教材とした家庭に対する食育の教育的価値について評価することを目的とする。

研究対象者：児童及び保護者790名

研究期間：承認日より2022年3月31日まで

<第20-11号>

研究者名：教育学部学校教育学科 教授 守 一雄

研究計画名：大学生の同調行動の心理実験による検証—アッシュ実験の再現研究

研究の意義・目的：ソロモン・アッシュによる古典的な社会心理学実験以来、人が社会的同調圧力によって自分の判断を変えることが知られている。しかし、アッシュが発見したことは、「多数の中に入れられた1人」が「周囲の多数に同調する」ということであった。守らは、アッシュ実験をサクラなしで実施する新しい実験手続きを考案し、「多数派が少数派に同調する可能性があること」を示唆する

実験データを得ている。そこで、本研究では多数派が少数派に同調するかどうかを検証することを目的とする。

研究対象者：約 80 名

研究期間：承認日より 2021 年 3 月 31 日まで

<第 20-12 号>

研究者名：教育学部学校教育学科 専任講師 佐藤茂太郎

研究計画名：ICT 活用に関する調査研究

研究の意義・目的：我が国における喫緊の課題として、ICT 利活用における教育の在り方が挙げられる、このことに関して、今後の ICT 活用のあり方が活発に議論されている、現職教員から ICT 活用における不安なことやポジティブな要因について特定し現職教員に対する研修のあり方について改善していく。

*実際、国際的にも国内においても教師教育（現職教員も含む）の研究が進展している。

研究対象者：200 名

研究期間：承認日より 2024 年 3 月 31 日まで

<第 20-13 号>

研究者名：教育学部学校教育学科 専任講師 佐藤茂太郎

研究計画名：算数科指導における自身の要因に関する調査研究

研究の意義・目的：国際的に算数・数学教育研究の課題として教師教育が挙げられる。本研究では、実際に現場教師になる前にどのような教育が算数科指導における自信に関わるかその要因特定のために取り組む。もし、算数科指導における自信の要因の特定ができれば、学生に対する指導内容（カリキュラム改訂）にも寄与できる。また、この研究を国際的に通用する理論と照らし合わせ進展させていくことが期待できる。

研究対象者：320 名

研究期間：承認日より 2026 年 3 月 31 日まで

<第 20-14 号>

研究者名：大学院健康科学研究科 教授 弘田量二

研究計画名：プレフレイル高齢者へのアガロオリゴ糖介入によるフレイル進行阻止の新たな取り組み

研究の意義・目的：本研究は、高齢者のプレフレイルからフレイル（虚弱）への進行を、機能的食品摂取により阻止するパイロット研究である。機能的食品のアガロオリゴ糖錠 (Agaro-Oliogosaccharides、以下 AOSs) の日常的摂取が、プレフレイルの高齢者の歩行速度や筋力低下を軽減し、フレイルを可逆的に抑制することを、ランダム化比較試験で実証する。運動介入が難しい場合におけるプレフレイルを栄養介入で抑制する試みは未だ無い。身体機能の改善により身体活動量が増加すると、外出の機会が増加し、フレイルによる精神・心理・社会的問題の改善も期待できる。

研究対象者：50名

研究期間：承認日より2024年3月31日まで

<第20-15号>

研究者名：大学院健康科学研究科 教授 弘田量二

研究計画名：デオセル及びPLAのかゆみ軽減効果の検証

研究の意義・目的：高機能な被覆素材に求められる性能は、加工しやすく、汗の吸収に優れ、速乾性でなおかつドライタッチ・軽量、染色性、デザイン性に優れることである。これは、おしゃれに敏感な人々や学校や会社の制服、赤ちゃんの衣服、寝具などに求められる性能である。この条件にあてはまる素材は化学繊維が挙げられる。しかしながら化学繊維は、過敏な者が一定割合存在し、皮膚にかゆみや赤みを生じさせやすいという欠点がある。この欠点を克服するために、これまで綿との混紡など組み合わせで回避する試みがなされてきたが、未だ十分な効果は得られていない。

申請者は、先の研究(Mizutani et al 2013)で、リンゴ酸を付加したポリエステル(弱酸性ポリエステル)が、赤みを生じさせることなく皮膚pHを弱酸性に保ち黄色ブドウ球菌の繁殖を抑えることで、化繊過敏者のかゆみ軽減に高い効果を示すことを明らかにしている。この弱酸性ポリエステルは、石油系であるという欠点があった。

そこで共同研究者のモリリンは、植物性精製セルロース繊維で高機能消臭糸「デオセル」及びPLA(ポリ乳酸)が、弱酸性ポリエステルと同様の雑菌繁殖を抑えつつ、敏感肌や子供の肌にもやさしい素材であることをヒト臨床試験で実証し、社会に普及させるという発想に至った。

従って、本申請は、化繊過敏者に対して、デオセル及びPLAを使った被服素材を着用することで、日常生活のかゆみが減るか、という問いに答える。

本研究の目的は、デオセル及びPLAで縫製した筒状繊維の着用で対照(未加工ポリエステル)群と比較してかゆみが軽減されることを明らかにすることである。

研究対象者：一次スクリーニング200名、本試験30名

研究期間：承認日より2022年3月31日まで

② 大学院生向けの研究倫理教育

昨年度に引き続き、大学院生の必修科目である「健康科学特論」の第1回目に研究倫理に関する講義を行った。また、日本学術振興会編集のe-learningシステムを受講させた。

3) 点検・評価の結果(目標の達成状況) <C>

① 研究計画審査

審議の際、すべての研究計画について規程・ガイドラインに照らした問題点の指摘とその解決策の例示を行った。修正・見直しなどが必要な申請書については、委員長から各申請者にそれらの点について修正を要求した。軽微な修正の確認に関しては委員会で委員長に一任した。再提出された研究計画に関しては、適切な修正がなされたことを委員長が確認した後、審査結果案を全

委員へ再度メール審議した。承認に関しては、メールを全委員に配信した。また、修正審査の結果を申請者と最終責任者である学長に文書で伝達した。

② 大学院生向けの研究倫理教育

研究倫理に関する最低限の教育を導入できた。また、大学院生は全員に、e-learning の修了証を提出させた。

4) 次年度に向けて <A>

次年度も研究倫理の厳格なる審査と研究倫理教育を推進していく。併せて、学外企業との共同研究による研究計画申請が増えてきており、利益相反の明確化という観点から、共同研究の契約内容と照らし合わせながら慎重に倫理審査をする必要がある。しかしながら、研究計画が本委員会へ申請される段階では共同研究契約が締結に至っていない（締結前に倫理承認が必要である）場合もあるため、研究推進委員会との相互的な情報交換を行いながら正確に状況把握し、適正な倫理審査に努める。

(1) 動物実験

1) 年度当初の目標 <P>

従来とおり、動物実験の審査を適切に行うこととした。

2) 目標の実施状況 <D>

本年度の担当を以下に記した。事務局からは総務課長を含めて2名が参加した。

動物実験等に関して優れた識見を有する者：河野 史倫、弘田 量二、澤柿 教淳、飯塚 徹
倫理等の学識経験を有する者：福島 智子

実験動物に関して優れた識見を有する者：実験動物管理者 三崎 紀展

① 動物実験審査について

以下のとおり次年度分の申請を審査した。

<受付番号 第21-01号（継続変更あり）>

動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 高木 勝広教授

研究課題：血糖低下作用を示す食品成分のスクリーニングと作用機構の解明

研究目的：食物摂食後の哺乳動物の生体内での遺伝子発現の変動機構を解析する

動物実験実施者名：院生1名、学部生11名

実験実施期間：2020年4月1日～2021年3月31日

使用動物：ラット50匹、マウス40匹

<受付番号 第21-02号（継続変更なし）>

動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 山田 一哉 教授

研究課題：ホルモンと栄養素による遺伝子の転写制御機構の解析

研究目的：食物摂食後の哺乳動物の生体内での遺伝子発現の変動機構を解析する。

動物実験実施者名：健康栄養学科 浅野公介助手、三崎紀展助手、他に院生2名、学部生10名

実験実施期間：2021年4月1日～2022年3月31日

使用動物：ラット50匹、マウス60匹

<受付番号 第21-03号(継続変更なし)>

動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 山田 一哉教授

研究課題：生化学実験(健康栄養学科2年生後期)

研究目的：絶食時及び高炭水化物食摂食後の血糖及び血中脂質濃度の測定と代謝酵素
遺伝子の発現変動を解析する

動物実験実施者名：健康栄養学科 浅野公介助手、三崎紀展助手

実験実施期間：2021年9月～2022年1月

使用動物：ラット15匹

<受付番号 第21-04号(継続変更あり)>

動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 河野 史倫准教授

研究課題：骨格筋機能を決定する生理的要因とそのメカニズム解明

研究目的：活動歴や障害歴など骨格筋が経た前歴が骨格筋の適応性にどのような影
を与えるのか追求する。また、それらの変化を裏付けるヒストン修飾変化
を明らかにするため、造伝子ノックアウトやノックダウン、薬剤を適宜組
み合わせて検討を行う。

動物実験実施者名：院生4名、学部生7名

実験実施期間：承認後～2022年3月

使用動物：ラット24匹、マウス200匹

② 教育訓練

下記の日程で教育訓練を実施した。

2020年5月22日 教育訓練(院生・学生ユーザー向け) 参加者 4名

2020年9月29日 教育訓練(学生向け) 参加者 61名

③ その他

例年学内で行われている動物慰霊祭を、2020年5月20日に挙行了。河野史倫准教授が、実
験動物に対する慰霊の言葉をのべた。

3) 点検・評価の結果(目標の達成状況) <C>

① 動物実験計画について

すべての実験計画について審議の結果、規程・ガイドラインに沿った内容であったため、異議
なく承認した。審査の結果を申請者と最終責任者である学長に文書で伝達した。本年度の実験に
用いた動物数は、ラット75匹、マウス318匹であった。

4) 次年度に向けて <A>

次年度も、動物実験をより適正に実施できる体制を維持していく。

(2) 遺伝子組換え実験

1) 年度当初の目標 <P>

目標は、遺伝子組換え実験が安全に行われるように、遺伝子組換え実験計画の審査を厳格に行
うこと、及び規程等の改訂を行う。

2) 目標の実施状況 <D>

本年度の担当を以下に記した。事務局からは総務課長を含めて3名が参加した。

- ・ 遺伝子組み換え実験等に関して識見を有する者 河野 史倫、弘田 量二、澤柿 教淳、飯塚 徹
- ・ 倫理等の学識経験を有する者 福島 智子
- ・ 学長から任命された安全主任者 浅野 公介

① 遺伝子組換え実験計画の審査について

以下のとおり次年度分の申請を審査した。

<受付番号 第21-01号(機関承認実験・継続)>

実験管理者：健康科学研究科 高木 勝広教授

実験課題名：血糖低下作用を示す食品成分のスクリーニングと作用機構の解明

場所名称：分析機器実験室、微生物実験室

実験種類：微生物使用実験、動物接種実験

実験期間：2021年4月1日～2022年3月31日

- 実験目的：1) インスリン様活性を有する食品成分のスクリーニングし、その作用機構を解析する。
- 2) 各種遺伝子を過剰発現させるために、その全長 cDNA を含むアデノウイルスを作製し、細胞に感染させ、その作用を調べる。

<受付番号 第21-02号(機関承認実験)>

実験管理者：健康科学研究科 高木 勝広教授

実験課題名：酵母の形質転換

場所名称：共同実験室、微生物実験室

実験期間：2021年7月12日～2021年7月26日

- 実験目的：お酒の発酵等に用いられる麹菌 (*Aspergillus oryzae*) 由来のアミラーゼ遺伝子を、酵母菌 (*Saccharomyces cerevisiae*) に導入する。アミラーゼ遺伝子が導入された酵母はアミラーゼを分泌するようになる。

<受付番号 第21-03号(機関承認実験・継続)>

実験管理者：健康科学研究科 山田 一哉教授

実験課題名：高炭水化物食による遺伝子発現調節機構の解析

場所名称：分析機器実験室、微生物実験室

実験種類：微生物使用実験、動物接種実験

実験期間：2021年4月1日～2022年3月31日

- 実験目的：1) 高炭水化物食による糖質・脂質代謝系酵素遺伝子群の転写調節機構を明らかにする。
- 2) 各種遺伝子を過剰発現させるために、その全長 cDNA を含むアデノウイルス・レンチウイルスを作製し、細胞に感染させ、その作用を調べる。

<受付番号 第21-04号(機関届出実験・継続)>

実験管理者：人間健康学部 浅野 公介助手

実験課題名：肝臓に作用する概日リズム調節因子・メラトニンによる血糖調節機構

場 所 名 称：分析機器実験室、微生物実験室

実 験 種 類：微生物使用実験

実 験 期 間：2021年4月1日～2022年3月31日

実 験 目 的：肝におけるメラトニンによる糖新生系酵素遺伝子の発現調節機構を解析する。

<受付番号 第21-05号（機関届出実験・継続）>

実験管理者：健康科学研究科 河野 史倫准教授

実験課題名：筋特性の発生・維持・変化に関わる分子メカニズムの追求

場 所 名 称：動物飼養保管室、動物実験室、微生物実験室

実 験 種 類：微生物使用実験、組換え動物実験、動物接種実験

実 験 期 間：2021年4月1日～2022年3月31日

実 験 目 的：骨格筋への代謝的刺激、メカニカルストレス、神経活動が、どのようなメカニズムで筋肥大や代謝特性の変化を引き起こすのか追求する。

3) 点検・評価の結果（目標の達成状況）<C>

① 遺伝子組換え実験計画の審査について

すべての実験計画について審議の結果、規程に沿った実験計画であり、かつ、従事者が変更されるだけの継続実験であるため、異議なく承認した。それぞれ審査の結果を申請者と最終責任者である学長に文書で伝達した。

4) 次年度に向けて <A>

遺伝子組み換え体ではない病原体（一部の菌類や微生物）を用いた研究の実施に関する問い合わせが寄せられている。本学にはこれらの生物の取り扱いに関する規定や委員会がないが、生物実験における安全管理という観点では本組織が最も近い位置づけにある。次年度、該当する申請があれば審議する必要があるとともに、改組も検討する。

<執筆担当／研究倫理委員会 委員長 河野 史倫>

IV. 地域連携部門

1. 地域連携委員会

地域連携委員会は2019年度より地域連携に関連する地域力創造委員会、地域づくり考房『ゆめ』運営委員会、地域健康支援ステーション運営委員会、地域防災対策委員会、高大連携推進委員会の5つの委員会を統括し、地域連携活動の推進・支援を主管する委員会組織である。

1) 当初の計画 <P>

本学が開学後18年を経る中で、学部の増設や大学を取り巻く環境や地域のニーズの変化にあわせ、将来を見通したより質の高い地域連携活動を推進することが求められている。

したがって、2020年度において地域連携委員会は次のような取組みを2019年度に引き続き行うことを計画した。

- ① 地域連携を推進する体制の充実
- ② 地域連携委員会が統括する5委員会の連携の強化
- ③ 地域連携事業などの実施内容の見直し及び中長期の本学の地域連携のあり方の検討

2) 実施状況と点検・評価の結果 <D・C>

① 地域連携を推進する体制の充実

2020年度はコロナ禍によって地域連携については様々な制約を受けたため、特に年度前半は地域と連携した活動はほぼ実施できない状況となった。その中でも可能な範囲で地域連携活動が継続できるように、地域連携課や関係する委員会や事務局組織と密接なコミュニケーションを図りつつ、コロナ禍における地域連携のあり方について状況に合わせて検討を行いその都度全学的な提言等を行った。例えば学生が地域で活動をする際のルールとして①学生等の感染防止が徹底されていること、②相手先が同意していること、③相手先が不特定多数ではなく感染防止などが確認できていること、④移動等が長距離でないことの4点を提起し、地域連携のみならず講義や課外活動における全学的な指針となったなどコロナ禍における地域との連携が少しでも円滑になる環境整備を行った。

一方で全体的には地域連携の活動や事業はコロナ禍によって停滞したため体制づくりについても進展がみられなかった。

② 地域連携委員会が統括する5委員会の連携の強化

コロナ禍もあり地域連携委員会は必要事項はメール審議等を主体にしたため、本年2回の開催にとどまったが、各委員会の取組みや課題・問題について共有化や検討が行われた。特に第1回の委員会では委員に加えてオブザーバーとして現場の担当者も参加し実践的かつ具体的な対応について協議をすることができた。またコロナ禍においても各委員会は、事業を着実に推進したこともあり、前年度に提起されていた地域連携に関わる大学としての方向性について各委員会の活動において反映がなされた。

③ 地域連携事業などの実施内容の見直し及び中長期の本学の地域連携のあり方の検討

「地(知)の拠点整備事業」及び「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」などによってこれまで本学の地域連携の取り組みは外部資金を活用して活発に取り組まれてきた。しかしその事業の終了したことで2021年度の地域連携予算の配分については前年度に本委員会に置いて議論・検討されたことを踏まえ、新たな募集の条件を付け加えた。具体的には地域住民に直接裨益することをルールとしたことで前年度まで見られた研究を主目的にした事業や学校や自治体との

み連携した事業などが申請されず地域連携の考え方を定着できた。

また本年度の審査の過程で、コロナ禍という状況において地域連携事業を一律に前年度末に申請・審査することが困難であることを踏まえて、今後当該事業の実施可能性を高めるために申請や審査の時期に幅を持たせることとなった。これは地域連携事業の特性を反映させ、より質の高い事業を実施するための条件整備となった。

一方で本年度はコロナ禍を踏まえての課題への対応が中心となり、中長期の地域連携のあり方の検討を行うまでには至らなかった。

3) 成果と今後の改善点 <A>

① 地域連携を推進する体制の充実

地域連携を推進する体制については大きな進展はみられなかったが、具体的な事業の実施において前年度委員会で議論した本学としての地域連携のあり方を模索する取組みが多くみられた。また地域連携事業の審査の議論から企業や自治体などとの連携について本委員会が担当することの是非について問題提起があり、一方で企業との連携については地域連携の枠内に収まらない事例もみられることから自治体や企業との連携への対応について地域連携とは別のスキームを構築することも今後の課題となっている。現状の課題を解決することを通じて中長期の本学の地域連携の在り方についても検討を進めていく。

② 5 委員会および地域連携課との連携の強化

地域連携課や各委員会とはコロナ禍の対応を通じて具体的な対応を協議するために密接にコミュニケーションをとることができた。新型コロナウイルス感染防止の観点から一つ一つの事業等について相互に連絡を取り合い検討を行ったことによって、結果としてこれまで以上に連携することとなった。一方で事業の実施が難しかった委員会とは連携が弱かったこともあり、この経験を踏まえて今後地域連携を推進する体制の充実を図っていく。

③ 地域連携事業などの実施内容の見直し及び中長期の本学の地域連携のあり方の検討

地域連携委員会として検討した地域連携予算の配分について、地域連携事業の要件について2019年に見直した内容に沿って審査等を行った。特に地域連携を直接住民に裨益するものと定義して申請の条件としたことによって、全学的に地域連携に関する考え方が定着するきっかけとなった。また、地域づくり考房『ゆめ』運営委員会や地域健康支援ステーション運営委員会が、本学の地域連携のあり方を具現化する改革を行っており、地域住民と学生が結びつきつつ学生が地域から学ぶという本学の地域連携の理念や収益事業に対する考え方などが徐々にではあるが明確化されつつある。

一方で企業との連携については地域連携の枠内に収まらない事例もみられることから自治体や企業との連携への対応について地域連携とは別のスキームを構築することも今後の課題となっている。現状の課題を解決することを通じて中長期の本学の地域連携の在り方についても検討を進めていく。

<執筆担当/地域連携委員会 委員長 白戸 洋>

(1) 地域力創造委員会

地域力創造委員会は、本学が有する学びの専門性、すなわち総合経営学部による「まちづくり」、人間健康学部の「健康づくり」、さらに教育学部の「人づくり」を基盤に、様々な活動を通して地域力を創造していくこと、さらに地域に活力を与える活動を展開することを使命としている。

大学COC事業の支援期間が終了した昨年、それまでの地域貢献活動を引き継ぐ委員会の一つとし

て新たに設置され、本年は2年目になる。

本委員会の活動の主軸は、これまで松本大学が地域貢献の指標の1つとして多面的に展開してきた公開講座の実施とその活発化である。また同時に、松本大学における今後の地域貢献のあり方についても検討する。

1) 年度当初の計画 <P>

2020年度 公開講座の実施。

2) 活動内容 <D>

① 2020年度 公開講座の募集・実施

昨年度に申請・承認された公開講座、以下3件は、新型コロナウイルス感染症が拡大する中で開催を模索し続けたが、感染リスクを排して安全確保することが困難であると考え、いずれも中止となった。

- ・「『自治をつくる学び』の拠点としての公民館」（申請者：観光ホスピタリティ学科 向井健）
- ・「筋力アップでますます元気！マシンを使った実践講座」9回コース（申請者：スポーツ健康学科 山本薫）
- ・地域をつなぐ、世代をつなぐ、健康づくり（第15回信州公衆衛生学会総会 申請者：健康科学研究科 廣田直子）

3) 点検・評価の結果（目標達成状況） <C>

① 2020年度 公開講座の実施

昨年度より設置された本委員会は、地域貢献活動の1つである公開講座の開催を最重要項目として活動を行ってきたが、新型コロナウイルス感染症の感染状況により、今年度は残念ながら公開講座を実施することはできなかった。したがって今年度の結果を評価するまでには至らないが、このような状況は今後も継続すると思われるので、2021年度は、地域貢献を標榜する本学の原点に立ち返り、今後の地域貢献のあり方等について幅広く意見交換する必要があると思われる。

4) 次年度に向けて <A>

① 次年度の公開講座

来年度公開講座の募集では、昨年度に引き続き以下の4つの項目を設定し、可能な限り間口を広げ、教員等が応募しやすい工夫をし募集を行った。

- a) 公開講座の年度テーマを決め、公開講座を募集する。
- b) a) のテーマに拘らず、自由テーマで公開講座を募集する。
- c) 授業などで行っている特別講義等を公開講座にする（日頃、学生たちの専門知識を深めるために行っている、外部講師を招いた特別講義等を可能であれば地域に公開する）。
- d) 授業（学内講師）を公開講座とする（日頃の授業の一部を可能であれば地域に公開する）。

その結果、以下5件の申請があった。なお、これらについては本委員会で審議され、承認済である。

- ・「平和教育講演会」（申請者：菅谷 昭（地域力創造委員会 高木勝広））
- ・「『自治をつくる学び』の拠点としての公民館」（申請者：観光ホスピタリティ学科 向井

健)

- ・「地域をつなぐ、世代をつなぐ、健康づくり」（第15回信州公衆衛生学会総会 申請者：健康科学研究科 廣田直子）
- ・「『食と栄養』に関する講演会」（申請者：健康栄養学科 高木勝広）
- ・「筋力アップでますます元気！マシンを使った実践講座」9回コース（申請者：スポーツ健康学科 山本 薫）

② 今後の地域貢献活動のあり方

今年度は公開講座を活発化していきたいと考えてきたが、新型コロナウイルス感染症による感染状況（感染地域・人数など）は日ごとに変わるため、従来型（大学が会場で対面開催）の公開講座を企画することが困難であった。そこで今後は、公開講座をこれまでの従来型の他に、オンライン開催等、状況に応じて柔軟的に検討する必要があると思われる。

いずれにしても2021年度における地域貢献活動もまた厳しい活動になると予想されるが、こういった困難な環境に屈せず、皆で知恵を出し合いながら柔軟的思考で建設的に対応していく。

＜執筆担当／地域力創造委員会 委員長 高木 勝広＞

（2）地域防災対策委員会

本委員会は、本学における地域連携強化のために防災対策を切り口とした体制整備、防災訓練の計画と実施、また人材の育成を目的としている。自然災害を想定した体制整備は本学だけに留まるものではなく地域社会（具体的には松本市新村地区）との関係性の中での取組み、構築を主眼におきながら計画するものである。このような取組みを基盤に更に本学での教育、研究に繋げていくものとする。

1) 年度当初の計画 <P>

① 防災士養成研修講座（日本防災士機構）の実施

第1回：5月30日（土）・31日（日）

第2回：10月10日（土）11日（日）

第3回：2月13日（土）14日（日）

② 防災士フォローアップのための研修会実施

第1回：9月12日（土）

第2回：2月13日（土）に2回の研修会を計画したが、コロナ感染拡大防止のため中止した。

③ 地域社会（松本市新村地区）との防災訓練の実施

開催日：10月13日（火）

会場：新村保育園を会場に計画したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止した。

④ 松本大学地域防災科学研究所の設置準備

本格的な研究機関の設置を目指して検討する。

2) 今年度の活動実績 <D>

① 防災士養成研修講座（日本防災士機構）の実施

・10月10日（土）・11日（日）開催

参加人数：46名（資格取得者：44名）

- ・その他正課による履修学生数：53名（資格取得者数：36名）
- ・計画した5月30日（土）・31日（日）、2月13日（土）・14日（日）の2回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開講できなかった。しかし、受講を希望している方から電話での問い合わせが多数あった。自治体単位での受講希望の問い合わせがあった。

② 防災士フォローアップのための研修会実施

計画した2回とも新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

③ 地域社会（松本市新村地区）との防災訓練の実施

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止した。

④ 松本大学地域防災科学研究所の設置準備

本格的な研究機関の設置を目指して検討した。

3) 点検・評価の結果、改善・改革に向けた方策 <C・A>

学外的には、「長野県地域防災推進協議会」を組織、趣旨に沿った研修会を計画していたが今年度はコロナ環境下で実施に至らなかった。役員会に因るなど体制は整っているため今後も内容の充実を図ることで展開する。学内的には、正規授業の充実、全学的な取組みに向けた準備、研究所の構想を早急に具現化していくため関係者との調整を行う。

<執筆担当/地域防災対策委員会 委員長 尻無浜 博幸>

(3) 地域健康支援ステーション運営委員会

地域の健康づくりを支援する組織として2010年4月に設置され、2020年4月からこれらの活動に加えてヘルスプロモーション事業を開始した。

1) 組織と会議

- ① 組織：運営委員長1名（健康科学研究科） 委員5名（スポーツ健康学科、健康栄養学科、総合経営学科、観光ホスピタリティ学科、学校教育学科） 事務局5名
- ② 運営委員会：4回 4月23日、12月4日、1月21日、2月24日（メール審議）

2) 2020年度当初の事業計画 <P>

地域健康支援ステーションの2020事業計画は以下の通りである。

- ① 地域貢献事業
- ② 松大ヘルスプロモーション事業
- ③ その他

3) 事業報告 <D>

① 地域貢献事業

公共機関、団体等からの依頼を受け、個別指導・集団指導・講演などを専任の管理栄養士・健康運動指導士が指導を行った。

a) 栄養指導

依頼元からのテーマに応じて、管理栄養士スタッフが対面での講話を行った。

- ・「ヘルスアップ委員会健康セミナーからだ講座」(2回) (依頼元：塩尻市ヘルスアップ委員会)

- ・「林業作業士1年目集合研修」の講師（依頼元：財長野県林業労働財団）
ふれあいセンター広丘「健康運動教室」の参加者に呼びかけ希望者に食事診断を実施した。（8名）

b) 運動指導

健康運動指導士やアスレチックトレーナーが中心となり、地域住民を対象に、運動指導を行った。年間を通して定期的開催される運動講座では、様々な種類の運動を部位別や目的別に紹介し、参加者が飽きずに継続して通えるよう指導を実施した。また、複数回行われる教室では、初回又は最終に簡易な体力測定を実施し、参加者一人ひとりの体力評価や指導を行った。また、教室終了後に参加者が運動を自宅でも継続できるように、資料等を参加者一人ひとりに配布した。

- ・トレーニングマシンを用いた「健康運動教室」の講師（64回）（依頼元：塩尻市社会福祉協議会ふれあいセンター広丘）
- ・「健康サポート教室」の講師（29回）（依頼元：エア・ウォーター東日本㈱甲信越支社梓水苑）
- ・「しっかり食べて運動しよう」の講師（8回）（依頼元：村井病院自立訓練事務所あかしや）
- ・「運動バラエティパック ウォーキング講座」の講師（2回）（依頼元：山形村保健福祉センターいちいの里）
- ・「介護予防の知識、体操」の講師（1回）（依頼元：塩尻市社会福祉協議会ふれあいセンター広丘）

② 松大ヘルスプロモーション事業

2020年度より、文部科学省の財政支援打ち切りに伴い、研究ブランディング事業を、松大ヘルスプロモーション事業と名称を変更した。事業内容は、それまで研究ブランディング事業で行われていたものを継続・発展させたものであり、企業従業員や市町村住民等に対し、栄養・運動指導や体力測定等を実施した。

- ・「安曇野市自転車実証実験」の体力測定、運動・栄養指導
- ・「安曇野市介護予防事業足腰らくらくステップ教室」の体力測定、運動指導
- ・「松本市体力健診」の体力測定・運動指導
- ・「原村 TAGFITNESS」の体力測定、運動・栄養指導
- ・「原村春夏秋冬健康チャレンジプロジェクト」の運動指導
- ・「出張型特定保健指導」のデモンストレーション実施
- ・「ヘルス・ツーリズム」のモニターツアーの実施
- ・「松本市立病院人間ドックオプションサービス・アクティブドック」の体力測定、運動指導
- ・「健康経営ライブオンセミナー」の実施
- ・「健康イベント」の実施

③ その他

a) 公共機関、団体等からの依頼を受け、管理栄養士スタッフの専門性を生かし業務支援を行った。

- ・「ホームページ掲載用動画」の撮影と編集（依頼元：公益社団法人長野県栄養士会）
- ・「コンビニ食材でバランスよい食事」取材及びレシピ提供（依頼元：MGプレス）
- ・「ずくだせテレビ『楽しく伸ばす健康寿命』」出演（依頼元：SBC信越放送 映像演出ドットコム）
- ・「年末年始 料理で体調管理」取材及びレシピ提供（依頼元：市民タイムス）

- ・「受験生の夜食レシピ」取材及びレシピ提供（依頼元：MG プレス）
 - ・「北アルプス地域減塩普及啓発リーフレット」の作成補助（依頼元：長野県大町保健福祉事務所）
- b) 緊急事態宣言により大学に通うことができなくなった学生に対し、学生生活の支援の一助として家でもできる健康づくり情報を提供した。
- 「コロナに負けるな自宅でできる健康づくり」動画配信（53回）
- このうち6回は「地域課題研究B」の講座とタイアップし、講座受講の学生考案メニューを配信した。
- c) 学報「蒼穹」で、内外に当ステーションの活動内容等を紹介した。
- ・「蒼穹」第139,140,141,142号への原稿執筆
- d) 各取組みへの新聞取材への対応、講演やイベント等の場を活用して当ステーションの具体的な取組みを紹介した。
- e) 「地域健康支援ステーションホームページ」リニューアル

4) 点検・評価の結果 <C>

① 地域貢献事業

地域からの依頼を受け入れた健康づくり指導事業は、7件で受講者は延べ826名であった。新型コロナウイルス感染症予防対策のため、ステーションスタッフが会場に出向いて指導するという形態が延期や中止となるなど実施回数が減少したが、大学と地域の会場をリモートでつないで指導するなど新たな方法も試行され、今後の事業遂行の選択肢が広がったと考えている。

栄養指導は、勤労者、地区組織などのグループに対して、それぞれ依頼があったテーマに応じた講座を対面により実施したが、依頼件数は昨年9件に比べて2件に減少した。

運動指導は、主に高齢者を対象とした健康教室を中心に活動を行った。教室の実施形態は、1回のみものから複数回行う教室の二通りあり、先方の意向に合わせて企画した。1回のみ教室では、短時間に重要なことを多く伝えるため資料作成や容易な実技指導などを行った。その成果として教室の終わりには「参加してよかった」、「来年度も実施して欲しい」などの感想を多数いただくことができた。複数回行う教室では、リピートする参加者が継続しやすい指導として、強度を漸増的に高めていくことや、身体のような部位のトレーニングを行うことで、「できなかった運動ができるようになった」、「関節痛が楽になった」など運動の一定の効果を得ることができた。しかしながら、教室の形態に関わらず「自宅ではやらない」、「習ったことをすぐに忘れてしまう」などの意見も散見しており、教室の依頼先との協議も行いながら、実施回数や情報提供などを含めて方策を検討していく必要がある。

② 松大ヘルスプロモーション事業

企業や自治体等からの依頼を受け入れた事業は12件、対象者は延べ1,624名であった。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、企業におけるタグフィットネスの広報・訪問活動を自粛したため、今年度の新規獲得は得られなかった。池の平ホテル&リゾートと連携協定を締結し進めている「出張型特定保健指導」と「ヘルス・ツーリズム」においては、今年度デモンストレーション訪問や、モニターツアーを実施し、対象者からは好意的な評価を得ており、特に出張型特定保健指導においては、来年度既に2社との契約が確定している。また、自治体関係では、昨年度より継続している原村や松本市、安曇野市自転車実証実験に加え、安曇野市介護予防事業でも「足腰らくらくステッ

ブ教室」を開始し、すべての教室で来年度も継続が決定している。また、今年度より実施している「アクティブドック」では、松本市立病院人間ドックのオプションサービスとして体力測定や個別の運動指導を、25名に実施した。こちらも来年度の継続が確定しており、「大学でも個別指導を行って欲しい」などの意見をいただいている。また、大塚製薬株式会社と共催で実施した「健康経営ライブオンセミナー」では、健康経営に関する講演や情報提供を行い、県内の企業経営者を中心に、およそ100名の参加が得られ、長野県の健康経営を促進させる機会の提供を行った。

③ その他

新型コロナウイルス感染症で生活様式が大きく変わる中で、ホームページ用の動画作成、地域のコミュニティー新聞やテレビなどマスコミへの情報提供、健康啓発用リーフレット作成などの依頼が増えた。依頼元の求めに応じた健康情報をアイディアレシピと共に提供し、作成された健康番組や紙面を介して多くの住民に情報発信をすることができた。

また、当ステーションの企画事業として新型コロナウイルス感染症感染予防対策で外出を自粛している学生や地域住民の方々の健康維持を目的に、家庭で実践できる健康づくりをツイッターで動画配信した。動画は、料理の作り方や自宅でできる運動の行い方など50本以上を配信した。再生回数は、合計で約8,000回となっており、新型コロナウイルス感染症で外出を自粛している人々に、健康に関する有益な情報を発信できた。

ホームページについては、前年度から引き続き松大ヘルスプロモーション事業内容を新たに組み込み入試広報室のHP担当者と協議してリニューアルした。

学報「蒼穹」への原稿執筆を年4回実施して、当ステーションの活動を内外へ向けて広報した。

5) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

文部科学省研究ブランディング事業の財政支援打ち切りによって、前年度より地域健康支援ステーションに研究ブランディング事業が融合され地域健康支援ステーションスタッフは専門員3名、事務員1名、日替わりで業務委託契約員4名（健康運動指導士2名、管理栄養士1名、アスレチックトレーナー1名）で業務を遂行する。地域健康支援ステーションの業務は従来の地域貢献活動に加え、松大ヘルスプロモーション事業を継続・発展させる。

① 地域貢献事業

栄養と運動の両面から地域の健康づくりを効果的に支援するために、地域において管理栄養士と健康運動指導士のスタッフが有機的に連携して地域貢献活動を一層推進する。

② 松大ヘルスプロモーション事業

今年度より実施している企業健康保険組合を対象とした「出張型特定保健指導」や(株)池の平ホテル&リゾートとタイアップして行う「ヘルス・ツーリズム」を積極的に展開し、事業内容の多角化や収益の増加を図る。「出張型特定保健指導」については、これまで実施してきた県内、中京圏に加えて、関東圏の企業も対象とし、「ヘルス・ツーリズム」については、今年度実施したモニターツアーでも関わった大手旅行会社の商品としても販売していく。さらに、自治体で展開する中高齢者を対象とした「健康づくり」事業については、松本市、安曇野市、原村にてそれぞれ展開するが、新規事業を開拓するために、健康づくりに対する無関心層へのアプローチとなる体力測定の実施や、栄養、運動に関する健康セミナー等も学内外にて積極的に開催する。

③ その他

広報活動としては、当ステーションの概要や活動内容を外部に配信する媒体として、学報「蒼穹」、

リニューアルしたステーションHPを積極的に活用して情報を公開する。

＜執筆担当／地域健康支援ステーション運営委員会 委員長 根本 賢一＞

（４）地域づくり考房『ゆめ』運営委員会

1) 当初の計画 <P>

地域づくり考房『ゆめ』（以下、考房『ゆめ』と表記）は、松本大学と松商短期大学部の全学生を対象とし、学生主体の地域連携活動の支援を行っている。特に、考房『ゆめ』では、学生と地域住民が直接的な関係性を持ちながら進められる活動を通して、「地域社会に貢献できる人材の育成」に資する活動を実施するため、2020年度において、下記のような事業を計画した。

- ① 学生の地域活動促進
- ② 学生と地域とのコーディネート促進
- ③ 地域活動の振り返りと評価
- ④ 考房『ゆめ』運営組織の整備
- ⑤ 広報と啓発

2) 2020年度の事業<D>

① 学生の地域活動促進

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、考房『ゆめ』新入生へのオリエンテーション並びに学生企画による「ゆめカフェ」の開催は見送りとした。
- ・講義内（「基礎ゼミ」「地域社会と大学教育」）での考房『ゆめ』での紹介に関しても、従来通りの形式での開催は取りやめとした。
- ・考房『ゆめ』において活動していく基盤となる「地域を知る」学びを意図し、本年度より ONE TEAM プロジェクトを企画。下表のとおり7月～12月にかけて6回実施した（初回は動画配信のみ）。

回	日時	内容	地域協力者	参加人数
1	7月下旬	地域医療とは(VTR配信)	家田正寿さん(四賀の里クリニック院長)	9名
2	8月22日	地域資源の活用	梶原啓さん、梶原知子さん(四賀梶原農園) 金井保志さん(四賀むらづくり株式会社)	10名
3	9月19日	企業と地域住民による地域づくり	田中浩二さん((株)かまくらや) 佐々木清夫さん、小林透さん(四賀地区住民)	14名
4	10月10日	食といのちを考える	小池晃さん(長野県南安曇農業高校)	25名
5	11月21日	いのちと平和を考える	中島学さん、矢満田登さん、草間侃二さん、 佐々木清夫さん(四賀地区住民)	20名
6	12月19日	福祉行政を学び、 支えあいの仕組みを知る	胡桃澤伸一さん(四賀地区地域づくりセンター) 丸山茜さん(北部地域包括支援センター) 花村一枝さん(松本市社協四賀地区センター) 坪田明男さん(前松本市副市長)	32名

- ・「地域づくり学生チャレンジ奨励制度」審査会／10月21～28日

応募プロジェクト：5件、認定プロジェクト：5件、期間内に応募者からのプレゼン動画を運営委員が視聴をし、認定の可否を審査した。応募プロジェクトに対してコメントを付してフィードバックした。

- ・考房『ゆめ』の利用促進を目的に、SNSなどの媒体を活用した情報発信につとめた。

② 学生と地域とのコーディネート促進

- ・2020年度地域連携事業利用実績

年間受入件数	年間参加件数	年間延参加人数
9件	1件	1人

※考房『ゆめ』事務局を通じて参加した件数

- ・地域とのパートナーシップ事業

すすはなプロジェクト(旧 すすき川花火大会プロジェクト)、松本BBS会、松本大学サンタ・プロジェクト・まつもと、茶房「みずゞ屋」

③ 地域活動の振り返りと評価

- ・活動報告会：3月5日(金) Teamsにてオンライン実施。学生プロジェクト13組からの活動報告の発表を行うとともに、それぞれの発表に対する意見や感想を述べてもらうグループワークを実施した。34名の学生参加があった。

④ 考房『ゆめ』運営組織の整備

- ・考房『ゆめ』運営規定の改訂
- ・考房『ゆめ』運営委員会規定の新設
- ・各種会議開催／運営委員会：年2回
- ・研修・交流

⑤ 広報活動

- ・ウェブサイト／ゆめHPリニューアル、学生ブログによる情報発信
- ・ゆめ通信(第46号～第47号)発行
- ・考房『ゆめ』2020年度活動報告書の発刊
- ・蒼穹(第139号～第142号)への寄稿
- ・考房『ゆめ』Twitter、Instagram、YouTubeの開設

3) 点検・評価の結果 <C>

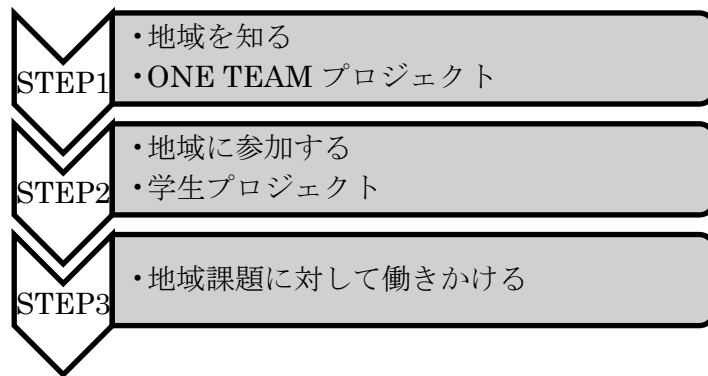
① 学生の地域活動促進事業

前年度までの自己点検評価においては、「学生の考房『ゆめ』の活動への参加に関する課題解決～サークル化からの脱皮」の必要性が指摘されていた。つまりは、学生の地域活動について、単にプロジェクトへ参加すること自体を自己目的化するのではなく、学生自身が主体的に地域に関わる活動へと質を高める必要が指摘されていたといえる。そこでは学生の身内の「サークル」的な活動にとどまらず、地域活動への参加を通じて課題意識を広げていく仕掛けづくりが求められていた。

そこで2020年度における改善点として、考房『ゆめ』での活動を、①地域を知る、②地域に参加する、③地域課題に対して働きかけるという「地域活動の3ステップ」に分けて、活動の深化をはかることを意識し、活動プログラム全体を見直していくこととした。

STEP1は“地域を知る”とし、1年生を主眼に置いた導入的なプログラムとして新たに位置づけ

た「ONE TEAMプロジェクト」に相当する。松本市四賀地区をはじめとする方たちに協力を得ながら、「地域住民の方たちとコミュニケーションをとることの重要性」や「多様な視点で地域を捉えることの面白さ」などといった、地域と関わる基盤となるスキルを身に付け、地域を見る視点を養ってもらう目的で、本年度より設けた「共通プログラム」である。



STEP2にあたるのが“地域に参加する”段階として位置づけられる「学生プロジェクト」である。STEP1で得られた地域を多角的に見たり、地域住民の必要をとらえる視点を反映させた形で展開する、学生プロジェクトの活動の目的やアプローチ方法を発展させていくことが求められる。また、考房『ゆめ』に参加する学生の参加が、STEP1のONE TEAMプロジェクトのみに留まるのではなく、その次のステップへと踏み出していけるような働きかけが必要である。

これらの取組みを通して、STEP3にあるような“地域課題に働きかける”ことができる学生の育成を目指していく。地域住民と丁寧なコミュニケーションを取りながら学びを深めることを通して、学生自身が地域課題に対して当事者意識を持ち、課題解決に向けて能動的に取り組むことのできるように活動の支援を行っていく必要がある。

② 学生と地域とのコーディネート促進

本年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、当初予定されていた地域連携活動の多くが「中止」若しくは「活動の見直し」を余儀なくされた。新型コロナウイルスの感染予防に関しては、本学に設置された新型コロナウイルス感染症対策本部会議並びに地域連携委員会で示された方針に従いつつ、感染防止につとめながら、学生と地域のコーディネートに取り組んだ。

具体的な取組みとしては「お手紙プロジェクト」が挙げられる。このプロジェクトには、学生プロジェクトのうち8プロジェクト63名の学生が参加した。これまでの活動を通してお世話になってきた地域の方たちに絵葉書などに直筆でのメッセージを、考房『ゆめ』を経由して、施設や個人宅に届けることができた。「お手紙プロジェクト」を通して学生たちと地域の方たちの心の通った交流につながった。

昨年来、議論を進めてきた「すすき川花火大会プロジェクト」のすすめ方については、花火大会をすること自体が自己目的化してしまう「イベント成就型」の活動内容を見直し、開催場所である庄内地区との継続的な関わりを大事にした活動へと改め、名称も「すすはなプロジェクト」として再スタートをきった。すすき川花火大会自体はコロナ禍の影響により中止となったが、庄内地区の歴史を調べ、地区の子どもたち（なみカフェに参加している子どもたち）との関係を築く活動の方針を確認するなど、より深く地域と関わっていく取組みに発展させていくことができた。

また、開学以来様々な事業で連携を進めてきた新村地区の方たちとの地域活動については、学生が日常の勉学と地域活動を両立しやすい地元であることもあり、学生と地域とのコーディネートが求められた。そこで地域とのネットワークを築き、学生たちが新村地区により身近に関わることができる拠点として、地域住民と学生の居場所づくりを目的に、茶房「みすゞ屋」の活動に取り組んで

きた。しかしながら、場所の所有者が遠方在住であったこともあり、これまでの場所での事業継続が難しくなったことから、そこで場所を松本市多目的研修センターに移し、活動名称を茶房「ひといき」に改めて再スタートした。地元新村地区の住民との関係性を深めていくことが重要であり、この茶房「ひといき」が地域住民と学生の居場所的な機能を持った拠点として機能するように取り組んでいく必要がある。

さらにはONE TEAMプロジェクトを経験した学生たちが「地域活動の3ステップ」STEP2の「地域に参加する」段階に踏み出していけるサポートをどのようにするかということも次年度に向けた課題である。2021年度もコロナ禍の影響が続く見込みであることを鑑みれば、これまでの内容を前提としてそのまま取り組むだけではなく、地域の人たちの要望や状況に応じて、何に取り組む必要があるのかを学生自身が主体的に考えていくよう働きかけていくことが求められる。

③ 地域活動の振り返りと評価

学生の地域活動の振り返りの機会として実施している考房『ゆめ』の活動報告会は、例年2月上旬から3月上旬に開催していたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑みて、3月5日にオンラインで実施した。13組の活動報告があり、それぞれの発表に対して意見や感想を述べてもらうグループワークの時間を設けた。グループワーク時には、各グループのファシリテーターとして運営委員の教員が入り、学生の語りを引き出した。

参加した学生の感想からは、新たな気づきを得られる機会となったとともに、他の学生プロジェクトとのコラボレーションについて言及する発言が多くみられ、自分たちのプロジェクトだけで自己完結をするのではなく、より広い視点で地域に関わっていきたいと考える地域活動を通じた意識の深まりも垣間見ることができた。

また運営委員にとっても、あらためて考房『ゆめ』の活動について知ったり、さらには学生自身の学びや気づきを深めるコメントも出され貴重な機会となった。

④ 考房『ゆめ』運営組織の整備

本年度は、考房『ゆめ』の位置づけを明確化するために規定の改訂並びに整備に取り組み、運営規定(改正)、運営委員会規定(独立制定)の制定を行うことができた。考房『ゆめ』の果たすべき役割について議論し、「地域社会の創造と発展に寄与する人材の育成を目的とした地域住民と松本大学及び松本大学松商短期大学の学生との連携による地域活動を支援する」ことを目的とした組織であることを明記した。さらには考房『ゆめ』の現状に即して規定の文言を精査・改訂をした。

更には、考房『ゆめ』運営委員会において、活動方針や学生プロジェクトの経過を報告するとともに、運営委員からの意見をもらい、学生の地域活動を支援する全学的な組織としての考房『ゆめ』の意義の共有を図った。

しかしながら、考房『ゆめ』の運営体制をめぐっては、前年度の点検評価での記述にもあるように、職員体制の改善・配置について引き続き課題が残されている。運営に関しては長らく専任教員が不在のままで、運営委員の関与によって成り立たせてきたが、本来は、職員と協働してミッションに沿った活動をマネジメントしていくことが不可欠である。本年度においても運営に係る教員と職員が参加する定例のミーティングを行い、考房『ゆめ』の学生スタッフが現場の悩みを抱え込むという状況の軽減を図った。しかし2020年度をもって職員2名が退職するため、次年度からは新たに1名の専門員が加わるものの、長く携わってきたスタッフが不在となる。その点においてマンパ

ワー不足となることが否めず、地域連携課や運営委員の協力を仰ぎながら、職員体制の充実と運営体制の改善を図っていきたい。

⑤ 広報と啓発

本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、対面による情報伝達に制約がかかった。また学生の学外活動が難しい状況も多く出てきたことから、地域住民と学生との継続的な関係維持をしていくためにも、SNSなどの媒体（Twitter、Instagram、YouTube）も新たに開設・活用し、こまめに考房『ゆめ』の活動や地域住民の声を届ける情報発信を心掛けた。

そのような広報活動の一環として、考房『ゆめ』のホームページのリニューアルを行った。従来の媒体による発信は、多様な活動を伝えるという点においては不十分であった。またホームページの内容について、広報と啓発はもちろんのこと、現状の活動実態を反映したものにしていく必要があった。そこで、ウェブデザインをホームページと統一した仕様とし、内容を現状にあわせた記述に変えることとした。

「ゆめ通信」のデザイン並びに紙面構成を本年度より変更したのも同様の理由によるものである。学生たちにとって手に取りやすい紙面となるような紙面づくりを心掛けた。この「ゆめ通信」も、活動する学生の声を多く掲載するとともに、地域住民と学生の関わりについてより深い理解を促し、地域と大学の距離を近くするような紙面づくりを心掛けていく必要がある。

これらの取組みを踏まえ、次年度に向けた広報・啓発の課題としては、考房『ゆめ』が学生主体の地域活動を支える全学的な機関であることを共有できるように意識し、各種媒体を効果的に活用して情報発信をしていきたい。

4) 成果と今後の改善点 <A>

① コロナ禍における地域連携のあり方の模索

次年度においても、引き続き新型コロナウイルス感染症の感染予防への対応が求められる。活動制限がかかる状況下は、学生や地域住民の切実なニーズの高まりが現象している事態であるとも言える。コロナ禍だからこそ生じている地域ニーズを掘り下げ、そのようなニーズに応えうる活動のあり方をしっかりと考える必要がある。つまりは、コロナ禍が続くことを見越しながら、地域や学生の必要に応えうる新たな地域連携のあり方を積極的に生み出していく契機として活動していく。

② 考房『ゆめ』の役割の共有

2020年度は考房『ゆめ』の活動の見直しやマネジメントの改革に取り組んだ。その一方で、考房『ゆめ』が果たすべき役割のあり方が問われていることを再認識し、学部や学科の専門教育との関係性や他の地域に関わる組織や活動との役割分担、本学の地域連携の中での考房『ゆめ』の位置づけについて、次年度においても継続審議をしていく。また、それらは学内外の関係各所と共有をしていく必要がある。

③ 「地域活動の3ステップ」モデルの精緻化と具体化

本年度方針として示した「地域活動の3ステップ」について、STEPごとの段差が大きく、うまく学生自身が自らの力でのぼっていくことができていることが課題である。学生の中には「ONE TEAMプロジェクトに参加をしなければ、学生プロジェクトに参加できないのでは？」と理解している1年生や、「ONE TEAMプロジェクトがあるために学生プロジェクトが集まらない…」といった認識の上位学年の学生たちがおり、新たな懸案事項となっている。ONE TEAMプロジェクトは領域横断的かつ複眼的に地域を知る導入的な位置づけをしたものであり、確かに「共通プログラム」として

参加を推奨するが、考房『ゆめ』で活動をするための要件として設けたものではなく、学生の主体的な活動を制約するものではない。ONE TEAM プロジェクトの位置づけを学生と共有をしていくとともに、同プロジェクトを通して得られた地域理解を基とした学生プロジェクトの発案を促し、学生の主体的な地域活動を促進する方策について引き続き協議をしていく。

④ 運営スタッフ体制の整備

運営スタッフ体制の整備は喫緊の課題である。2020年度末に経験豊富な職員2名が退職し、新たに専門員1名の着任が予定されているものの、この間において検討を進めてきた考房『ゆめ』の理念を具現化していくためには、運営スタッフ体制の改善が求められる。

考房『ゆめ』が果たすべきミッションを中長期的なビジョンをもって具現化できるように、さらに本学の地域連携の在り方を考房『ゆめ』の実践から提起できるように、今後の考房『ゆめ』の在り方を検討していく必要がある。

＜執筆担当／地域づくり考房『ゆめ』運営委員会 委員長 向井 健＞

(5) 高大連携推進委員会

1) 2020(令和2)年度当初の計画 <P>

当年度の連携事業は、いずれも昨年度からの継続事業であり、総合経営学部では県内商業系高校を中心としたデパートサミット事業(マーケティング塾・デパートユニット・バレンタインスイーツ)と飯田 OIDE 長姫高校・諏訪実業高校との地域人教育事業、人間健康学部スポーツ健康学科では岡谷東高校との連携事業、松商短大では穂高商業高校との連携事業が計画された。なお、新設の教育学部についても昨年度と同様、連携先となる高校及び連携内容の検討を年度当初の計画とした。

2) 2020(令和2)年度の実績～現状の説明～ <D>

本年度の活動は、蔓延する新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、一部活動については休止あるいは中止を余儀なくされ、また実施された多くの活動においても規模縮小あるいはオンラインで行われることとなった。

① 総合経営学部の取組み

a) デパートサミット (マーケティング塾・デパートゆにっと)

デパートサミット事業は、長野県商業教育研究会が主催し、松本大学が共催して 2013(平成 25)年度より実施している県内の商業高校を中心とした高校生の人材育成事業であり、毎月 1 回松本大学において開催される「マーケティング塾」とその成果を検証する合同販売会の「デパートゆにっと」によって構成されている。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による4月からの休止期間を経て、12月からのオンラインによる活動再開となった。参加校は、穂高商業、長野商業、諏訪実業、赤穂、上田千

曲、小諸商業(第3回不参加)であり、各回約 40 名の高校生が参加した。

また、毎年2月に開催されていたバレンタインスイーツの販売については、例年通りの計画で準

マーケティング塾 2020

		開催日	テーマ
第9期	第1回	2020年 12月19日	パネルD「マーケティングと活動目標」 講義「マーケティング塾先輩から話を聞く」
	第2回	2021年 2月11日	講義「地域資源を活かした商品とブランドづくり」 発表「自分の町の特産物を紹介しよう」
	第3回	2021年 3月13日	講義「難しく考えない実践ブランディング」 グループワーク演習 商品企画進捗状況報告
	第4回	2021年 4月17日	講義「消費者行動とデザイン」 演習「発見！スイーツあれこれ」

備を進めていたが、新型コロナウイルス感染防止の観点から中止となった。

b) 地域人教育

「地域人教育」は、2012(平成 24)年度から飯田長姫高校が開始した地域社会に貢献できる「人材」を育成することを目指し、高校生が地域理解を深め、地域での生き方を考え、郷土愛を育む教育プログラムであり、2012 年度に飯田長姫高校(当時)、飯田市、松本大学による「地域人教育の推進に向けての 3 者の連携協定」を締結し実施している。

「地域人教育」は、1 年次は大学教員や地域の専門家による飯田の歴史や地域資源に関する講義と街中を歩いて地域の魅力や課題を把握する「フィールドスタディ」を通じた「地域を知る」、2 年次は地域のイベントへの参加や商品開発、情報発信を行なう「地域で活動する」、3 年次はグループごとに地域課題について地域と連携して解決に取り組む「地域の課題解決に向けて行動する」という 3 年間で 8 単位、280 時間の正課のカリキュラムによって構成されている。

本年度は、新型コロナウイルス感染防止の観点から、その活動を見合わせてきたが、感染状況が比較的抑制された、10 月 21 日(水)に、1 年生を対象とした松本市街地(上土・緑町・縄手等)におけるフィールドワークを実施した。新型コロナウイルス感染防止の観点からは、店内での食事や毎年行ってきた通行人へのインタビューを避け、例年の自由散策という形態から、予め決められたコースを歩くという形態とした。また、例年の住民から高校生への説明やグループワーク発表も行わないこととした。参加生徒は 79 名であった。

c) 地域づくり考房『ゆめ』「ONE TEAM プロジェクト」による南安曇農業高校との連携

地域づくり考房『ゆめ』の主催により地域理解の一環として、10 月 10 日(土)に、本学学生 20 名が南安曇農業高校を訪問し、「食といのちを考える」をテーマとして、同校の小池晃教諭より指導を受けた。講義は午前が「水の命について学ぶ」及び午後が「生物と食について学ぶ」であり、あわせて施設見学も行った。

② 人間健康学部 of 取組み

a) 大学授業チャレンジ型連携

スポーツ健康学科では、2007(平成 19)年度に岡谷東高校との連携についての話し合いが行われ、翌年 6 月に試行的に高校生が大学の講義を受講、同年 12 月に正式に人間健康学部スポーツ健康学科と岡谷東高校との連携協定が締結され、本格的な連携事業がスタートした。試行的な活動も含めれば、今年度は 12 年目の活動となった。具体的には、年 2 回同校 1・2 年生が本学を訪れ、模擬講義の受講やキャンパスライフ体験を通じて、大学での「学び」や「生活」について理解する「大学授業チャレンジ型連携」と、本学科の学生が岡谷東高校を訪問し、同校の保健体育の授業に参加し、研修を通して高校教育現場を実体験する「教員実務参加型プログラム」がある。

今年度は、コ 2020 スポーツ健康学科高大連携 / 岡谷東高校

① 大学授業チャレンジ型連携 (会場:松本大学)

コロナ禍の影響から、「チャレンジ型」については例年の約 4 分の 1 の規模に縮小し、10 月 27 日の半日 1 回のみ

開催日	対象	人数		時間	担当	授業科目名
10月27日	1年生	27	643教室			
			1時限	9:50~11:05	岩間	運動技術の習得過程
			2時限	11:20~12:35	伊藤	障がい者スポーツを知ろう
10月27日	2年生	25	841教室			
			1時限	9:50~11:05	丸山	上高地線電車の運動の解析
			2時限	11:20~12:35	山本	科学的トレーニング

実施となった。参加生徒は1年生27名、2年生25名であった。また「教員実務参加型」については中止となった。

③ 松商短期大学部の取組み

a) 大学授業チャレンジ型連携

高校の夏休み、春休みを利用して、本学教員の教育資源を活用した大学の経済・ビジネス系等の専門科目の受講及び学食利用、教室移動等の具体的なキャンパスライフの疑似体験を通して、高校生の勉学意欲及び進学意欲の高揚を図ることを狙いとした連携である。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、3月16日(火)から18日(木)の3日間のみオンライン実施となった。穂高商業高校2年生120名が参加した。

大学授業チャレンジ型連携(2021春) オンライン講義時間割

穂高商業高校 2年生120名

	1時限 9:40~10:40	2時限 10:50~11:50	3時限 13:00~14:00	4時限 14:10~15:10
3月16日(火)	経営学の基礎① (飯塚)	UD入門 (広瀬)	心理学入門 (中山)	マーケティング① (金子)
3月17日(水)	経営学の基礎② (飯塚)	経済学入門 (糸井)	経営分析① (山添)	医療事務入門 (浜崎)
3月18日(木)	マーケティング② (金子)	経営分析② (山添)	キャリアクリエイト (糸井)	松商短大の学び (金子)

また、しばらく休止中であった松商学園高校商業科との連携についても、今年度再開となり、3月15日(月)に1年生86名、2年生77名が来学予定であったが、直前に、同校内で感染者が確認され中止となった(実施当日朝のキャンセルであったため、参考までに時間割を示しておく。なお、高校側の担当職員からは、来年度の早期の実施の打診がすでに来ていることも付言しておく)。

b) 高校授業グレードアップ型連携

穂高商業高校においてすでに日商2級レベルに達している3年生徒を対象として、本学教員2名が同校に週1回出向いて日商1級レベルの「会計学」「原価計算」の講義を行う取組みであり、高いレベルの学習への意欲促進を狙った連携である。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で休止となった。

松商学園高校商業科チャレンジ講座2021

(商業科 1年生86名 2年生77名 計163名)

		3時限 13:40~14:40	4時限 14:50~15:50	16:00~16:40
3月15日(月)	1年生	金融論の基礎 (飯塚) 232教室	マーケティング (金子) 121教室	大学施設見学 (希望者)
	2年生	マーケティング (金子) 121教室	金融論の基礎 (飯塚) 232教室	大学施設見学 (希望者)

3) 点検・評価の結果 <C>

コロナ禍によって、大学及び高校の行事の多くが中止・延期され、それぞれの教員・職員・学生・

生徒にも行動の規制が生じる中、高大連携事業の通常通りの実施は困難な1年であった。そんな中でも感染に充分配慮して、オンラインを使った取組みや、規模を縮小した取組みによって、最低限の連携事業が達成できたと言える。その反面、中止せざるを得なかった取組みも数多くあり、本来の教育効果からはほど遠い内容となってしまったことも否めない。しかしながら、新しい教育手段としてのオンラインの活用が始まった(始めざるを得なかった)と言う点では、今後の高大連携の新しい形が垣間見えたと言えるかも知れない。この点では今後の展開に期待が持てる1年間であったと言えるだろう。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

大学に進学する長野県内の高校の卒業生のうち、県内の大学に進学する生徒の割合である残留率は、2000年に全国で最低の7%に過ぎず、100人のうち93人が県外に流出し、さらに大学を卒業後県内に戻る若者はその半数にも満たないとされていた。その後、本学を含む大学が県内に新設され、残留率は倍近くに改善されたものの、全国平均の40%には程遠くなお全国的に最低の水準にとどまっている。長野県の未来そのものが危うい状況であると言っても過言ではない。

高大連携事業は、「地方創生」の具体的取組みとして若者を地元に着させるための有効な方策とも言える。また、この事業は、高校生に対するキャリア教育という観点から大学の社会貢献の一つとも捉えられ、長期的に継続すべき取組みである。したがって、長期継続が可能な実施体制の整備が大きな課題と言える。ここ数年の実施状況を見てみると、一部教員の負担が年々増大する傾向にあり、また、特定教員に対する担当硬直化により、各事業の長期的継続性に問題が生じる可能性も垣間見える。高大連携委員会の構成や事務局体制など現状の実施体制を踏まえてさらに強化を図る。

各学部個々の事業については、それぞれに生じた課題に対して、担当者間で協議し改善策を検討することになるが、いずれにしても目先の結果にとらわれずに長い目で見て、参加する高校生、大学生にとって教育効果のより上がるような改善策が求められる。また、教育学部については完成年度までを一応の目標として、今後の連携に向けて焦らず歩を進めていくことが望まれる。

2002年の開学以来、「地域を担う若者を地域で育て地域に還す」ことを建学の理念とする本学にとって、若者の地元への定着は重要な課題である。したがって、高大連携への取り組みも当然若者の地元への定着を促すという問題意識に基づき、高校と大学が連携して将来地元を支える若者を育てるといった試みに他ならない。今後は、単位互換などの高大連携教育のシステムを整備するなどを通じて、高校と大学で5年間ないしは7年間の一貫した教育の可能性について考えていかなければならない。

<執筆担当/高大連携推進委員会 委員長 山添 昌彦>

V. 学生センター部門

A：教育活動支援

1. 教務委員会

(1) 全学教務委員会

各学部選出委員及び教務課職員を構成員とする全学教務委員会は、短期大学部も含めた教学に関わる学部横断的課題・事項に関する審議・決定機関である。本委員会の主要な任務は、原則として1ヶ月に一度開催される定例の会議において、日常的な教務関連事項の円滑な運営・遂行に力を注ぐこと、教学を巡る学内外の動向を的確に捉え、その充実に必要な諸課題を把握し対応に努めること、及び各種報告事項についても適宜取り扱い、情報の全学的共有化を図ることなどである。

1) 年度当初の計画 <P>

2020年度も引き続き、全学的に共通する教学関連事項の検討・決定を中心に事業・活動を行っていく。その中でも特に取り組まなければならない主要課題は、第1に「次期認証評価の受審に向けた課題の洗い出しと対応」であり、具体的には、全学的に3ポリシーの再確認を促すと同時に、アセスメントポリシー、認証評価のエビデンスとなる各種データ等について整理を進め、次期認証評価への準備を着実に前進させる。また、第2は「共通教養科目の見直し」であり、次期認証評価・教育学部完成年度のタイミングを念頭に置きながら、分野別にワーキンググループを設置し、共通教養科目の再検討を進め、一定の結論を得ることが求められる。第3は「教務予算の適正な執行に向けた体制作り」であり、大学組織が拡大していく流れの中で、各学部における教務予算に関する取り決めが異なる部分も散見されるようになってきたため、この段階で全学的なルールや申請書類等の取り決めを行い、適正な予算執行がなされる体制づくりを進める。さらに今年度は、4月初旬に新型コロナウイルス感染症への対応という新たな課題が加わり、多くの教務関連事項に関して全学的な合意形成を図るべく注力していくこととした。

2) 実績・活動現状 <D>

今年度(2020年度)もまた、日常的な教務関連事項の円滑な推進に取り組むとともに、それに伴って生じた諸課題について慎重に審議・決定することを中心に、各種報告事項についても適宜・適切に周知を図るべく努めてきた。なお、今年度(2020年度)については、新型コロナウイルス感染症への対応に多くの時間を割かざるを得ず、学事日程の変更、オンライン授業の展開などといった例年とは異なる大きな課題を解決すべく検討を重ねてきた。

以下、「今年度実施した事業・活動」として、①全学的に共通する教学関連事項の検討・決定、②次期認証評価及び私立大学等改革総合支援事業への対応、③テーマ別教学関連事項、④その他日常業務の4点に整理して、今年度の事業・活動状況の概略について記述する。

① 全学的に共通する教学関連事項の検討・決定

(新型コロナウイルス感染症関連)

- ・前期開講日の変更への対応として、履修申請のスケジュールを検討し、決定した。
- ・前期の授業形態をオンライン授業へ変更することへの対応として、オンライン授業(Teams)の展開方法、実験・実習系科目への対応、定期試験の実施方法、成績評価の方法、成績発表までのスケジュール等を検討し、決定した。

- ・後期の授業形態を対面授業とオンライン授業を併用することへの対応として、履修申請のスケジュール、授業実施に伴う注意事項、教室収容率 50%を前提とした教室の再割り当て、履修希望者が教室収容率 50%を超過した場合の抽選方法、定期試験の実施方法、成績評価の方法等を検討し、決定した。
- ・2021 年度前期の授業形態、履修関係のスケジュール等を検討し、その方向性を決定した。
(上記以外)
- ・教務予算申請・執行のルールについて改善策を検討し、決定した。
- ・新たに導入される LMS の利用方法を検討し、教員向け説明会を開催した。
- ・次年度より始まる授業目的公衆送信保証金制度（サートラス）について周知徹底を図った。

② 次期認証評価及び私立大学等改革総合支援事業への対応

- ・全学的に 3 ポリシーの再確認を促すと同時に、アセスメントポリシー、認証評価のエビデンスとなる各種データ等について整理を依頼し、次期認証評価に備えた。
- ・シラバスの形式の一部変更に合わせて、メソフィアの入力画面の修正を行うと同時に、教員への周知徹底を図った。

③ テーマ別教学関連事項

a) 全学共通教養

- ・次期認証評価、教育学部完成年度のタイミングを念頭に置きながら、分野別にワーキンググループを設置し、共通教養科目の再検討を進めた。その検討結果を踏まえながら、全学教務委員会として新しいカリキュラムを決定した。

b) 資格取得支援

- ・各学部のカリキュラムの変更に合わせて、資格取得奨励金の対象資格の見直しを実施した。
- ・資格取得奨励金の基準・金額の見直しを実施した。

④ その他日常業務

- ・各種オリエンテーションの企画と実施
- ・健康日記（アプリ）の導入・運用
- ・プレイスメントテストの実施・分析
- ・教室収容率 50%に対応した科目別座席表の作成・掲示
- ・欠席調査の実施
- ・期末授業アンケートの実施
- ・成績発表後の成績不振者に対する全学的対応の共有及び指導記録の整理
- ・オフィスアワー実施記録の提出催促と整理
- ・オンライン授業に対するアンケートの実施（学生用、非常勤講師用）
- ・年間予定のうち開講日の決定及び次年度準備
- ・次年度の各学部カリキュラムと時間割の情報交換及び兼担依頼等に関する調整
- ・シラバスの点検作業
- ・適切な出席管理に関わる全学共通ルールの周知徹底
- ・転学部・転学科試験の実施

3) 活動に対する点検・評価 <C>

上述したように、本委員会の主要な任務は日常的な教務関連事項の円滑な運営、遂行であるが、加

えて、この間、課題としてきた主要な項目について点検・評価した結果を記述する。

① 全学的に共通する教学関連事項の検討・決定

新型コロナウイルス感染症への対応はもとより、日常的に行われている授業や定期試験などを含めた全学的な教学関連の事項について、現行ルールでの問題点等の提案に合わせて点検・評価し、現状を踏まえた対策の検討や新ルールの策定を行った。多くの事項については適切な議論を経て合意を得てきたと思われるが、例えば外部講師・サポーター制度に関連する取り決めや予算執行のルール、追再試験の運用方法の見直しなど、継続して審議を必要とする項目もあり、今後も慎重な議論を重ねていかねばならない。また次年度以降も、新型コロナウイルス感染症への対応を柔軟かつ機動的に行っていく必要があると考えている。さらに今回新たに取り入れたオンライン授業について、その功罪を総括しながら、コロナ禍以降、どのような授業形態の可能性があるかも検討を重ねていくべきであろう。

② 次期認証評価及び私立大学等改革総合支援事業への対応

2020年度は、新型コロナウイルス感染症への対応に多くの時間を割かれ、必ずしも次期認証評価及び私立大学等改革総合支援事業への対応が十分であったとは言えない状況であったと評価している。そのような中でも、内部質保証をより一層前進させるために、全学的に3ポリシーの再確認を促すと同時に、アセスメントポリシー、認証評価のエビデンスとなる各種データ等について整理を依頼し、次期認証評価に備えるなどの取り組みを進めた。また、昨年度(2019年度)の議論を踏まえたシラバスの形式の一部変更に合わせて、メソフィアの入力画面の修正を行うと同時に、教員への周知徹底を図った。今後、本委員会としては、各学部教務委員会と必要な情報を共有しつつ、協力して次期認証評価への準備を加速させていきたい。

③ テーマ別教学関連事項

a) 全学共通教養

2020年度はこれまでのカリキュラムを点検・評価するとともに、次期認証評価・教育学部完成年度のタイミングを念頭に置きながら、分野別にワーキンググループを設置し、共通教養科目の再検討を進めた。その検討結果を踏まえながら、全学教務委員会として新しいカリキュラムを決定するなど、一定の成果が得られたと考えている。次年度以降、新たなカリキュラムを着実に遂行すると同時に、継続的な点検作業に取り組んでいきたい。

b) 資格取得支援

2020年度は、各学部のカリキュラムの変更に合わせて、資格取得奨励金の対象資格の見直し、さらに資格取得奨励金の基準・金額の見直しなどを実施した。限られた予算を有効に活用するためにも、学生の資格取得ニーズを踏まえながら、今後も継続的に資格取得支援のあり方を見直しを進めていくべきと思われる。

c) キャリア教育

2020年度は、新型コロナウイルス感染症への対応のため、「インターンシップ」の実施が見送られたが、次年度からは、いよいよ正課科目として単位化された「インターンシップ」が開始となる。キャリア教育のひとつの柱として「インターンシップ」に寄せられる期待は大きいことから、インターンシップ推進委員会と連携しながら、その円滑な実施と点検作業を行っていく必要があると考えている。

④ その他日常業務

大多数の事項に関して慎重審議の結果、全学的な合意を得ることができ、大きな問題はなかったと認識している。

4) 次年度に向けた課題 <A>

本委員会は、次年度もまた、原則として一ヵ月に一度開催される定例の会議において、日常的な教務関連事項の円滑な運営・遂行に力を注ぐこと、教学を巡る学内外の動向を的確に捉え、その充実に必要な諸課題を把握し対応に努めること、及び各種報告事項についても適宜取り扱い、情報の全学的共有化を図ることなどに努めていく。また、今後も当面の間、新型コロナウイルス感染症への柔軟かつ機動的な対応が求められるであろう。

その上で、次年度、特に取り組むべき課題を、①全学的に共通する教学関連事項の検討・決定、②次期認証評価及び私立大学等改革総合支援事業への対応、③テーマ別教学関連の3項目に分類して整理しておく。ただし、認証評価や改革総合支援事業等で大学として求められる項目は、今後の社会情勢などによっても大きく左右されることから、本委員会としてもそれらの情報に対して常にアンテナを張りながら、慎重な対応を心がけていく。

① 全学的に共通する教学関連事項の検討・決定

- ・新型コロナウイルス感染症への柔軟かつ機動的な対応
- ・外部講師・サポーター制度に関連する取り決めや予算執行のルールの見直し
- ・追再試験の運用方法の見直し
- ・新しい教学システムへの移行準備
- ・コロナ禍以降の授業形態に関する議論

② 次期認証評価及び私立大学等改革総合支援事業への対応

- ・認証評価の受審に向けた自己点検評価報告書の作成
- ・認証評価の受審に向けたエビデンスの確認と整理
- ・各学部・学科の3ポリシーに対応したカリキュラム等の継続的な見直し
- ・アセスメントポリシーに従った点検
- ・時間外学修時間の測定方法や実質化についての検討

③ テーマ別教学関連事項

a) 全学共通教養

- ・2021年度より始まる新たなカリキュラムの着実な遂行と点検

b) 資格取得支援

- ・教育課程と資格取得・検定試験との関係を点検した上での問題点の洗い出しや対応
- ・資格取得奨励金のあり方及び運用状況についての継続的な見直し

c) キャリア教育

- ・2021年度より正課科目として単位化された「インターンシップ」の着実な遂行と点検
- ・各学部の教育目標に応じたキャリア教育の内容・実施体制の点検と見直し

<執筆担当/全学教務委員会 委員長 畑井 治文>

(2) 総合経営学部教務委員会

総合経営学部の教務委員会は、総合経営学部教員6名と教務課の職員によって構成されている。原則として月1回定例会議を行い、これに加え必要に応じて会議を開催している。内容はカリキュラ

ム・時間割・履修登録手続き・ガイダンス・保護者説明会・卒業に関すること等、総合経営学部に所属する学生の勉学に関する問題を検討し、その解決を図っている。

1) 当初の計画 <P>

総合経営学部の教育研究上の目的は、「地域社会の総合的運営に関わる研究を推進し、それを基盤に、社会を構成する諸組織体のマネジメントに関する理解と能力を高めつつ、地域社会を総合的に捉える素養と、それに基づく総合的な経営能力を養う。もって活力ある地域社会の創造に貢献しうる人材を養成すること」である。この目的に則した教育がなされるよう調整を図ることが、総合経営学部教務委員会の使命であり、計画である。次期認証評価を見据えながら、総合経営学部教務委員会として取り組むべき課題を下記の3点設定し、対応を進めていくこととした。

① 円滑な教学関連業務に向けた対応

- ・円滑な総合経営学部教学関連業務に向けた対応
- ・履修抹消申請、9月卒業判定、卒業・進級判定、特待生継続審査、転学部転学科試験、成績優秀者表彰候補者、総代・上野賞・赤羽賞候補者の選定
- ・指導の必要な学生（休学・成績不振者など）に対するフォロー
- ・メソフィアのFlash Player サポート版の閉鎖とモバイル版への統合に伴う対応

② 総合経営学部に関連した教務事項

- ・共通教養科目の在り方に関する検討
- ・学科専門科目の在り方に関する検討
- ・新カリキュラム導入に伴う確実な運用（観光ホスピタリティ学科）
- ・資格取得支援のあり方や位置づけに関する検討
- ・次年度に向けた時間割・担当コマ表・カリキュラムの見直しと調整

③ 次期認証評価への対応

- ・3ポリシーのあり方に関する検討
- ・シラバスの様式の検討・実施、入稿依頼とチェック

2) 現状の説明 <D>

① 円滑な教学関連業務に向けた対応

- ・新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、コロナ対応の在り方の検討を行った。
- ・「前期講義」に関しては、開講スケジュールの変更、閉講科目への措置、Microsoft Teams を使用した遠隔講義の実施、クラスサイズの調整などの検討を行った。
- ・遠隔授業の受講方法、試験の実施方法、成績評価について議論し、適正な運用をはかった。
- ・「後期講義」に関しては、対面と遠隔の同時併用とし、教室最大収容率を50%上限とする運用を図ることとなった。円滑な講義の実施に向けて調整を行った。
- ・履修抹消申請、9月卒業判定、卒業・進級判定、特待生継続審査、転学部転学科試験、成績優秀者表彰候補者、総代・上野賞・赤羽賞候補者の選定を行った。
- ・指導が必要な学生への対応を担当教員に働きかけた。オフィスアワー実施記録、学生指導実施記録の提出を依頼した。
- ・メソフィアのFlash Player サポート版の閉鎖とモバイル版への統合に伴う対応を行った。
- ・「授業目的公衆送信保証金制度」についての対応を検討した。

② 総合経営学部に関連した教務事項

- ・ 共通教養科目の見直しの議論を受けて、共通教養カリキュラムに関する議論を行った。
- ・ 2020 年度入学生より観光ホスピタリティ学科の新カリキュラムの運用をスタートさせた。
- ・ 社会福祉士の養成カリキュラムの見直しに伴う対応を行った。
- ・ 各学科の資格のあり方を議論し、位置づけに即した対応を行った。資格講座奨励金の対象とする資格や奨励金額の検討を行った。
- ・ 2021 年度に向けたカリキュラム、各教員の担当コマ数、時間割の調整を行った。カリキュラムツリーの見直しを行った。
- ・ 教務予算に関するルールに基づき、総合経営学部申請分に関する審議を行った。

③ 次期認証評価を見据えた対応

- ・ 学科会議及び関連部門との連携のもとで学部学科の 3 ポリシーの在り方について見直しを行った。
- ・ シラバスのフォーマットに関する検討を行った。次期認証評価対応として「アクティブラーニングの実施」「ICT を利用した双方向授業や自主学習支援」「実務経験のある教員による授業」を選択項目として付加することとした。シラバス入稿の依頼とチェックを行った。
- ・ 次期認証評価を見据えた LMS 導入について検討を行った。

3) 点検・評価の結果 <C>

- ・ 2020 年度は当初の計画では想定されていなかった新型コロナウイルス感染症への対応に全面的に迫られることになった。その一方、年度当初より予定されていた項目に関しては、概ね対応することができ、適正な形で運用できたものと評価できる。
- ・ 観光ホスピタリティ学科における新カリキュラムの 1 年目は問題なく運用された。
- ・ 共通教養科目に関しては、全学教務委員会と調整の上で整備がされた。区分の整理や類似する講義科目の整理が行われた。
- ・ 専門科目については、各学科の学びの特色や方針を反映したカリキュラムや資格の位置づけの見直しがなされた。
- ・ 教学システムであるメソフィアの「モバイル版」への統合がおこなわれた。メソフィアは、この間において教学システムとしての脆弱性も指摘されており、認証評価後の見直しを検討していくこととした。
- ・ 次期認証評価対応に関しては、認証評価受審時に求められる教学関係のエビデンスを用意していく必要がある。

4) 成果と今後の改善点 <A>

今年度の活動の重点ポイントは、第 1 に「コロナ禍における円滑な教学関連業務の実現」が課題となった。新型コロナウイルス感染症の対応の在り方は教学関係に直結してくるので、次年度に向けては学内外の感染状況に応じたより柔軟な対応をしていくことが求められる。本年度の対応実績を踏まえ、次年度に向けた円滑な運用に向けて更なる改善努力を重ねていく。

第 2 の重点ポイントである総合経営学部に関連した教務事項に関しては、適切な運用を推し進めることができた。カリキュラムにおける資格に関する位置づけについては、学科ごとの方針に従って位置づけを検討した。総合経営学科は、学部の重点ポイントに応じて整理を行うことができ、学科重点資格に対する再検討を行うことができた。観光ホスピタリティ学科では、新カリキュラムにおいて 4 つの「学びの柱」を立てて、それぞれの領域に資格（①観光：国内・総合旅行業務取扱管理者、②地域振興：社会教育士、③福祉社会デザイン：社会福祉士、④地域防災：防災士）を配置

し、学科の重点資格として位置づけた。今後はそれぞれの資格に挑戦をする学生数と資格取得者数を増やしていくことが課題となる。

第3の重点ポイントである「次期認証評価対応」に関しては、認証評価受審に向けたエビデンスの収集や更なる対応が求められる。次年度においても、引き続き全学教務委員会と調整を図りながら対応をしていく。

＜執筆担当／教務委員会 総合経営学部主任 向井 健＞

（3）人間健康学部教務委員会

2020年度の間健康学部教務委員会は、各学科より2名ずつ選出された4名の教務委員、教務課長、及び教務課職員3名の計8名の構成員となった。原則、月1回の割合で計11回の部会を開催した。

前年度の自己点検・評価報告書で指摘されているアクションプランに基づいて、PDCAサイクルに沿って点検・評価を行う。

なお、2020年度は当初の年間計画にはなかったが、新型コロナウイルス感染症の拡大による教務的な対応（遠隔授業等）が追加された。

1) 年間計画 <P>

人間健康学部教務委員会で確認されている2020年度に向けた課題（計画）は、以下の通りであった。

① 学修指導の充実と推進の継続

- ・両学科ともに、さらなる資格取得率の向上に努める。
- ・「指導を要する学生」への指導を継続して行い、事前に休退学を阻止する。
- ・引き続き、学生の学修ニーズに応じた柔軟な教務的対応を適宜行うよう努める。

② キャリア教育の充実を図るためのカリキュラム見直し

- ・引き続き、関係部署と連携し、カリキュラムの見直しを進める。

③ 健康栄養学科のコース制について、一部コースのカリキュラムの見直し

④ 引き続き、2022年度の次期認証評価対応への準備の推進

⑤ その他

- ・全学共通教養科目のカリキュラムについて、継続して検討を行う。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大による教務的な対応（追加）

2) 活動状況 <D>

① 学修指導の充実と推進

- ・両学科における主な資格である、管理栄養士、フードスペシャリスト、健康運動指導士、及び健康運動実践指導者等の各種資格について、さらなる資格取得率の向上に向けた取り組みを行った。
- ・各期において欠席調査を実施した上で、「指導を要する学生」へゼミ担当から指導を徹底するよう、学科会議等の機会を利用し周知に努めた（オンラインによる遠隔指導も導入した）。
- ・介護職員初任者研修の実施方法（「通信制」の導入：130時間のうち上限40.5時間を通信で実施し課題を提出する形式）について検討を行い、通信制とするメリットが大きいことから導入する

こととした。

- ・次年度のゼミナール配属方法について検討を行った上で実施をした。
- ・卒業研究発表会について計画・実施した。
- ・卒業オリエンテーション（オンラインのみ）の実施。
- ・9月卒業生（健康栄養学科1名）への対応を行った。
- ・編入学学生の単位読み替え認定を行った。
- ・再試験の受験資格（全学共通教養科目）について検討を行い、全学教務委員会に上程を行った（次年度へ繰り越し）。

② キャリア教育の充実を図るためカリキュラムの見直し

- ・「キャリアデザインⅠ」の担当者（非常勤講師の後任）について、検討を行った。
- ・次年度以降の講義内容について検討を行った。
- ・入学前セミナーは新型コロナウイルス感染症拡大のため、学生の安全面へ配慮しやむなく中止した。

③ 健康栄養学科のコース制について

- ・コースの必修科目として、芸術系科目の新規導入（「芸術概論」（2年次））、「芸術文化」のカリキュラムへの追加の検討を行った。
- ・スポーツ栄養コースについて、現状の時間割では4年間で管理栄養士、健康運動実践指導者、及びレクリエーションインストラクターの3種類の資格の同時取得ができないことを確認した（次年度以降、当該学科にて検討を依頼）。

④ 次期認証評価への対応

- ・教務委員を中心に、アセスメントポリシーの見直しを行った。
- ・改革総合支援事業に基づき、「教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化」に取り組んだ。
- ・各学科のカリキュラムツリー、及び履修モデルについても適宜変更を行った。

⑤ その他

- ・共通教養科目のカリキュラムについて、検討を行った。
例) 芸術系科目の新規導入（「芸術概論」（2年次））、「芸術文化」のカリキュラムへの追加
健康栄養学科生の履修可能な教養科目の維持（「健康管理論」）及び追加（「スノーボード」（集中講義））
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大による教務的な対応、具体的には、遠隔授業で行う実験・実習の実施方法について随時検討・対策を行った。
例) 遠隔授業に対応した修正版の時間割の作成（教室収容人数50%を考慮）
定期試験・再試験の実施方法についての検討
履修スケジュールの検討
卒業研究発表会の実施方法の検討

3) 活動に対する評価 <C>

① 学修指導の充実と推進

- ・両学科における主な資格の取得率について、健康栄養学科における管理栄養士資格については、2020年度は67名が受験し58名が合格（86.6%）となり、前年度（2019年度：57名が受験し

51名が合格、合格率89.5%)に比して合格率は若干下回ったものの、7名多い合格者を出すことができた。フードスペシャリスト資格については、2020年度は54名が受験し50名が合格(92.6%)となり、前年度(2019年度:53名が受験し51名が合格、合格率96.2%)、に続き高い水準を維持した。

また、スポーツ健康学科における健康運動指導士、及び健康運動実践指導者資格の合格者数は、19名(前年度16名)、14名(前年度12名)であり、共に前年度を上回る合格数であった。

なお、詳細については表:人間健康学部資格取得状況に示した。

表:人間健康学部資格取得状況

資格名	2020年度			
	受験者	合格者 (取得者)	合格率	全国合格率
健康運動指導士	21	14	66.7	61.7
健康運動実践指導者	25	19	76.0	58.1
レクリエーション・コーディネーター	1	1	100	-
レクリエーション・インストラクター	-	3	-	-
トレーニング指導者	1	0	-	-
第一種衛生管理者	-	81	-	-
スポーツ指導者(21年度入学生より適用)	-	-	-	-
アシスタントマネジャー	1	1	-	-
中学校教諭一種免許状(保健体育)	-	11	-	-
高等学校教諭一種免許状(保健体育)	-	11	-	-
中学校教諭一種免許状(保健)	-	3	-	-
高等学校教諭一種免許状(保健)	-	3	-	-
養護教諭一種免許状	-	6	-	-
小学校教諭二種免許状	-	1	-	-
フードスペシャリスト	54	50	92.6	88.1%
フードスペシャリスト専門(食品開発)	7	0	-	7.1%
フードスペシャリスト専門 (食品流通・サービス)	1	0	-	13.3%
栄養教諭一種免許状	-	1	-	-
フードコーディネーター	-	25	-	-
健康食品管理士	-	-	-	-
HACCP管理者	-	2	-	-
管理栄養士	67	58	86.6	91.8
栄養士	-	68	-	-
食品衛生管理者(任用資格)	-	21	-	-
食品衛生監視員(任用資格)	-	21	-	-
介護職員初任者研修	-	7	-	-

- ・各期において欠席調査を実施した上で、「指導を要する学生」へゼミ担当から指導を徹底したことが（一部、オンラインによる遠隔指導も導入）、2016年度以降の休退学率の水準維持につながっていると考えられる。
- ・各種オリエンテーションをオンラインで実施し、状況、及び必要に応じた対応を行うことができた。

② キャリア教育の充実を図るためカリキュラムの見直し

- ・入学前セミナーは新型コロナウイルス感染症拡大のため、実施することができなかった。
- ・「キャリアデザインⅠ」の担当者（非常勤講師の後任）について検討を行い、適任者を選定することができた。

③ 健康栄養学科のコース制について

- ・スポーツ栄養コースにおける資格取得については、次年度以降当該学科へ検討を依頼するに留まった。
- ・芸術系科目（「芸術概論」、及び「芸術文化」）を追加することができ、コースのカリキュラムが充実した。

④ 次期認証評価への対応

- ・アセスメントポリシーの見直しを行い、変更点がないことを確認した。
- ・各学科のカリキュラムツリー、及び履修モデルについても適宜変更を行うことができた。

⑤ その他

- ・共通教養科目のカリキュラムに芸術系科目（「芸術概論」、及び「芸術文化」）を追加することができ、充実した。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大による教務的な対応を、臨機応変に行うことができた。

4) 次年度に向けた課題 <A>

次年度への課題は、以下の通りである。

① 学修指導の充実と推進の継続

- ・両学科共に、更なる資格取得率の向上に努める。
- ・「指導を要する学生」への指導を継続して行き、事前に休退学を阻止する。
- ・新型コロナウイルス感染症への対応も含め、引き続き学生の学修ニーズに応じた柔軟な教務的対応を適宜行うよう努める。

② 再試験の受験資格についての検討

③ 次期認証評価対応への準備

- ・エビデンスの収集、及び集約を行う。

④ その他

- ・新型コロナウイルス感染症への教務的対応（履修登録、定期試験、追再試験等）。

<執筆担当/教務委員会 人間健康学部主任 齊藤 茂 >

(4) 教育学部教務委員会

教育学部では学部設置後初めての卒業生を出し、完成年度を迎えることができた。よって、卒業論文作成や卒論発表会までの一通りの教務的行事を終えることもできた。

今年度（2020年度）の学部教務委員会は、学校教育学科から5名の教務委員と、教務課職員2名

の8名で構成されており、月一回のペースで計12回の部会を開催した。今年度が完成年度となり、特に卒業年度生の学年では未確定な案件が含まれることもあったため、委員会を臨時で開催することもあった。

今年度は特に新型コロナウイルス感染症の影響により、計画によっては変更・中止を余儀なくされたものがいくつかあったことを冒頭で述べておく。

1) 計画 <P>

- ① 学科開設の4年目であるため、年間スケジュールを確認し、前年度の修正点を検討し、今年度の計画を周知しながら事業を実施する。
- ② 基礎ゼミナール及び教職入門ゼミナールの内容を周知し、具体的な実施方法と評価について検討する。
- ③ 教職センター運営委員会と連携し、完成年度後のカリキュラムを作成する。
- ④ 卒業論文規定の徹底及び卒論発表会について計画・実施する。
- ⑤ 入学前教育の仕様変更について検討し、方向性を定める。
- ⑥ 次期認証評価について検討・対応する。
- ⑦ 適切な授業及び評価の実施を促す。

2) 実績・現状 <D>

- ① 年間のスケジュールの確認を毎回行い、学科独自の活動と連動させながら、計画の微調整や内容の修正を行った。また、先に述べたように今年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため、例年とは異なった対応を以下のように行った。
 - ・教室定員割合50%を大きく超える学年（特に2019年度生）の授業については1回の授業とせず、2つに分け実施した。（特別活動指導論や初等社会科指導法等）
 - ・オンラインでの授業実施が困難な活動的な授業（特に体育分野）については、次年度以降へ先送りすることとした。（生涯スポーツⅠ(集団)）
 - ・上記同様に初等音楽科指導法については、担当の非常勤講師がオンラインで指導を行った。演奏を含む体験的な指導については、本校音楽教員が担当の指示の下、その指導の補助を行った。
- ② 基礎ゼミナールでは、各回ごとに内容を確認した。また、ポートフォリオの作成により評価基準を明確にした。今年度は、アウトキャンパス・スタディ（幼稚園参観実習）については先に述べた新型コロナウイルス感染症の影響により、実施を見送った。教職入門ゼミナールでは、ゼミ決めの指針となる各教員によるゼミ紹介や、研究の基礎を身につけるための指導を行った。更に、リテラシーについてのテキストを今年度より追加実施することとした。
- ③ 完成年度に向けたカリキュラムについては、新たに中高英語単免であっても卒業できるようにすることとした。よって、次の4つの履修モデルを念頭に置き、その策定を行った。
 - ・小学校免許のみ取得
 - ・小学校免許+特別支援学校（副免許）を取得
 - ・中高英語免許のみ取得
 - ・小学校免許+中高英語免許を取得
- ④ 卒業論文作成要領の周知徹底を行い、卒業論文発表会を計画した。卒業論文の作成要領については、その周知のため学生には8号館1階の掲示板、4年生ガイダンス講義、WebClassでの掲示を行った。また、教員に対しては教授会資料及び学科会議題でその周知を行った。同発表会につい

ては新型コロナウイルス感染症の影響のため、2/5(金)に Teams を活用したオンライン発表会とした。発表会は口頭発表のみとし、ポスター発表は中止とした。

- ⑤ 入学前課題については、これまで旺文社の教材を使用していたが、教材販売から撤退することにより、新たな教材を策定した。そこで、他大学の入学前教育事例にあたることとした。
- ⑥ 全学的な流れで決定する事項ではあるが、教育学部としては、認証評価を含め今後行われると予想される文科省の監査に耐えられるよう、カリキュラムやシラバスの点検を行った。
- ⑦ 高等教育教務の役割として、根本的な使命であるが、先年度同様、指導について気になる教員については、学部長や学科長より注意及び指導を行ってきた。また、教授会等を通して、都度、適切な出席管理等、教務課からのメール配信を下に、全体への注意喚起を行った。

3) 点検・評価 <C>

- ① 教務案件については、学部教務委員会で議論し、学科会議で協議を尽くして計画を推進することができた。さらに、必要に応じて臨時に会議を起し、是々非々で対応することができたことは、各学部教務委員の意識の高さによるものだと感じた。
- ② 基礎ゼミナールについては、前期オンラインでの指導中心ではあったが、対外的なものを除き、予定していた学習内容については履行できた。教職入門ゼミナールについても基礎ゼミ同様にオンラインでの指導が中心であったが、研究発表会等、予定されていた学習内容についても履行できた。対面・オンラインに関わらず、教員・学生を含めた全体に計画の周知を徹底していくことを今後も継続していきたい。
- ③ 学部入試委員会と連携し、21年度より英語単免でも卒業できるといった内容での入試資料を作成できた。また、英語単免希望者に対する履修プログラムの用意ができた。その他上記については、各種パンフレットや Web 学科案内等に反映させるように周知を行い、反映させることができた。
- ④ 2021年度のガイダンス講義予定表等に反映されているかどうか、委員会として確認を行い、新たな年度に向かう準備ができた。
- ⑤ 変更実施まで時間があることから、よりよい教材についての検討を継続している。
- ⑥ 認証評価同様、完成年度を迎えたため、いつ所轄官庁の監査が入ってもよいように、普段からの授業・評価について適切な行動を各教員がとれるよう、継続して注意を促していくことが肝要である。このことについては、次年度組織の委員にも引き続き意識してもらえよう、共通理解を図っていきたい。

4) 今後の課題 <A>

2020年度は学部学科完成年度を迎え、教務的な行事が一通りの行われたこととなる。ただ、その多くが「第1回」と位置づけられるものであったため、今後はブラッシュアップが求められる。更に、年度終了と共に退職する教員が複数あるため、新たに本学部就任する教員に対しては、本学部の理解を深めてもらうよう働きかける。このことについては教務委員会だけではなく、学部長をはじめ、全学部的な対応を進めていくことが肝要である。このような人事的な課題の他、⑤の入学前課題のように検討継続事項もあることから、今後は是々非々で対応していく。

<執筆担当/教務委員会 教育学部主任 秋田 真>

(5) 松商短期大学部教務委員会

1) 年度当初の予定 <P>

2019年度の自己点検・評価報告書で報告されている、2020年度当初の計画は以下のとおりである。「独自色を打ち出したカリキュラムと教育環境」を目標として、4学期制ならではの独自性を強化すべく、カリキュラム開発と教育環境の改善を進める。

① 新3ポリシーに基づくカリキュラムの見直し

引き続き各フィールドの主担当教員に各フィールドの科目の見直しを要請し、カリキュラムの整理と時間割作りに取り組んでいく。特に教育効果を優先した科目配置が重要であると考えるので、各担当教員に対し粘り強く協力をお願いする。

2021年度より3ポリシーが大きく変わる。ポリシーが確定し次第、カリキュラムに反映していく予定であるが、ポリシーの変更に伴ってシラバスの書式、各科目の講義内容と評価方法、基準など多くの変更作業が伴ってくると思われるので、なるべく早い時期から取り組んでいく。さらに、評価のしやすさを目指したアセスメントポリシーの修正にも取り組んでいく。

② 4学期制を活かした科目の充実

現状ではまだ4学期制の利点を活かし切れていない部分がある。留学やインターンシップの支援強化と共に独自色を強めたカリキュラムの開発を推し進める。特色ある科目の新設のためには現行科目を整理することが不可欠であるので、関係各位に密に働きかけながら進めていく。

③ LMS

新システム構築に向け、全学教務委員会やLMSワーキンググループと連携しながら短期大学の意見を反映させていく。また、グレクサを今後どうするかも検討していく。

2) 計画の実施・現状の説明 <D>

完全4学期制が導入されて4年目となる今年度は、これまでの取組みの中で教育効果のあった科目とそうでない科目の傾向を踏まえたカリキュラムの充実と学期を利用した留学やインターンシップの厚みを図る取組みを進めることとした。

しかし、2020年初頭から新型コロナウイルスの感染が世界的規模で広がったことで、本学を取り巻く状況が一変し、対策のために今年度の教務計画を大幅に見直す事態となった。

① 新3ポリシーに基づくカリキュラムの見直し

まず、2019年度に改訂した3ポリシーは、地域に根付いて職業人として活躍すると共に一市民として豊かな生活を送ることができる力を養成するため、「知識や技術」、「コミュニケーション力・チームで働く力」、「主体性」の3つの力を伸ばすことを目指している。これまで、5つのコア・コンピテンスを別に設定して評価していたが、これをディプロマポリシーとして統合することとした。すなわち、これまでシラバスや成績評価では、SABCの評価と別に5つのコンピテンスの中のいくつかを選定してシラバスで表記し、評価も別にしてつけていたが、これらを育成する3つの力に対応するDP（ディプロマポリシー。①知識・技術、②コミュニケーション力・チームで働く力、③主体性の3つ）の中に含めることにした。

2021年度のシラバス作成依頼にあたっては、非常勤も含めた教員への周知を徹底し、DPの3つのどれを育成して、どのように評価するかの検討を依頼した。また、提出されたすべてのシラバスは教務委員がチェックし、必要に応じて担当教員に修正をお願いした。

新ポリシーに基づいた2021年度カリキュラム作案にあたっては、各フィールドにおける科目の位置づけを見直して整理を行った。例えば、これまで国際コミュニケーションフィールドに配置していた「異文化研修Ⅰ・Ⅱ」や「異文化理解」を、文化を学ぶという視点から、芸術と文化フィー

ルドに移動するといった見直しを行うことで、学生にとって各科目の学習目標が明確になるようにした。

② 4 学期制を活かした科目の充実

2019 年度までは、すべての科目を 4 学期制に対応すべく、週当たりの実施コマ数に関わらず、各期で完結する形で科目配置をしていたが、授業運営や教育効果などを考慮すると、複数学期にまたがって進めていく方が適している科目が少なくないことが判ってきた。そこで、これまで週 1 コマで複数学期にまたがり「科目名 I・II」で開講していた科目を 2 学期制相当科目として戻すこととした。これにより、全学共用の 2 学期制教務システムで短期大学部の 4 学期制に対応できない部分を手作業で対応していた煩雑な作業や登録ミス数等の軽減も期待できる。

③ LMS

LMS ワーキンググループを中心に新システムを検討し、日本データパシフィック社の「WebClass」というシステムを導入することとなった。新システムは、教材作成、小テスト、レポート課題、出欠管理、成績データ処理、メッセージ送信、タイムラインなどの機能を有している。2 月に教員向け説明会を 2 回実施し、新年度に向けた準備を要請した。また、これまでのグレクサについては、しばらくは稼働を続けるが保守契約の更新はしないこととした。

④ 新型コロナウイルス感染症対策

当初計画の①～③に加え、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、年度当初からオンラインによる授業を実施することとなった。4 月 13 日開講予定だったが、オンライン授業用のシステムの準備等に時間を要したため、5 月 11 日からの開講となった。システムは Microsoft 社の Teams を採用した。1・2 学期はすべての授業をオンラインとし、オンラインが困難な科目については一旦閉講とし、感染状況が収まってきた夏休みに集中講義として開講した。また、オンライン対応が可能な県外の非常勤講師にはオンラインでの開講をお願いしたが、対応が難しく閉講せざるを得なかった科目も残った。

その後、感染状況が落ち着いてきたので、3・4 学期は原則対面授業で実施した。登校が難しい学生へも対応するため、教室から講義の様子をリアルタイムで配信する方法を取った。

4 学期終盤に入ったところで県内の感染者数が急増し警戒レベルが 5 に上がったため、再びオンライン授業に切り替えた。しかし、定期試験が近い時期であったため、オンラインへの切り替えが困難であった科目については対面で実施した。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 新 3 ポリシーに基づくカリキュラムの見直し

改訂した 3 ポリシーの内容は、これまで本学が取り組んできたものを内外に分かりやすく伝えるよう整理されたものであり、これを各科目の中で受講生たちにも意識させながら授業を展開してもらえれば、理想的な形になるのではないかと期待が持てる。その第一段階として、まずはシラバスへの反映ということで学部長の協力を得て教員への周知を行ったが、今回はモデルチェンジに近い比較的大きな変更であり、まずは 3 つのポリシーとの関係性を明確に示せていけば及第点ではないかと考える。

② 4 学期制を活かした科目の充実

1 年を通して新型コロナウイルス感染症への対応に追われ、一部科目の配置変えと 2 学期対応科目への変更程度にとどまり、カリキュラムの大幅な手直しまでには至らなかった。

③ LMS

今回の新システムの導入によって、短期大学部だけでなく全学共通のシステムとして稼働できることとなった。多機能である分、教員が慣れるまで時間がかかると予想される。グレクサからの移行期間を延長することで、円滑な移行を図りたい。

④ 新型コロナウイルス感染症対策

今年度は、年度当初の計画を大幅に修正せざるを得ない状況となったが、結果として教職員や学生の ICT 化が進んだ点は前向きに捉えたい。しかし、一方でオンラインでは十分な教育成果が得られなかったとの報告もあり、再び完全オンライン化になった際の代替策を模索する必要がある。また、10月に本学システムへの DDoS 攻撃（分散型サービス妨害攻撃）を受ける事案が発生した。オンライン授業を安定的に実施するためには、情報センターと連携して技術的な対策を講じる必要がある。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

① アセスメントポリシーの実質化

ポリシーに基づいた評価の具体的な方法を検討し、実施に向けた準備を進めていく。

② 4 学期制の見直し

4 学期制の導入によって、全学共有の教学システムとの不適合が指摘されている。また、すべての科目を 4 学期対応にしたものの、結果として 2 学期対応に戻すことになった科目も少なくない。この制度を再度見直し、今後の方向を定める。

③ 4 学期制を活かした科目の充実

将来計画委員会での新フィールド検討を受け、本委員会で具体案を検討しカリキュラムに落とし込んでいきたい。男子学生の割合が増加傾向にある点や AI 技術等の進展による産業構造の変化が予想される点から、時代に即した魅力的な科目を用意して 2022 年度の開講を目指す。

加えて、既存のフィールドについても内容の充実を図りたい。

④ 新型コロナウイルス感染症対策

今年度の経験を踏まえ、状況の変化に柔軟に対応して対策していく。

<執筆担当/教務委員会 短期大学部主任 矢野口 聡>

(6) 基礎教育センター

基礎教育センターは 4 名の専門員と 1 名の事務職員が常駐し業務を行っていることから、その円滑な遂行のために、打合せと調整を主たる内容とする「スタッフ会議」を行い、専門員による授業補助や各種課題の実施希望及び提出・返却方法などについての確認など、各学部・学科との円滑な関係の確保に努めた。スタッフ会議は、管理担当者、センター長と各学科から選出された教員 5 名に加え、センター所属専門員 4 名と事務職員 2 名の計 13 名で構成された。

1) 年度当初の計画 <P>

当該年度の事業計画はセンターの業務がほぼルーチン化していることから、前年度に立案される。しかし、2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、大学入構が制限された。「いつでも誰でも 気軽に立ち寄り 共に学び 教えあう」を基礎教育センターの標語とし、個人に対するリメディアル教育を中心としているが、「気軽に立ち寄り 教えあう」ことが難しい状況となった。

そのため、基礎教育センター朝の学習講座を6月1日より Microsoft Teams を利用した遠隔講座とするなど、コロナ禍でも以下の項目を遂行できるよう計画を変更した。

- ① 基礎学力づくりへの取組みの強化と評価
- ② 学生が利用しやすいセンターの雰囲気づくりの推進
- ③ センター利用学生の実態分析と、それに基づく増加のための対策の策定
- ④ 各種課題・問題集の作成・発行と添削・返却
- ⑤ 学部・学科など他部署からの要請に基づく協力と、その適切性の確保
- ⑥ センター専門員と各学部・学科の講義との関係の点検
- ⑦ 読まれる「基礎教育センターだより」の発行

2) 活動状況 <D>

今年度の基礎教育センターでの活動実績について以下に概要を記述する。また、センターの活動状況については、スタッフ会議報告を通じて、各教授会で情報の共有化が図られた。

① 朝の学習講座

新型コロナウイルス感染症の影響により、朝の学習講座(9時～9時30分)を6月1日より Microsoft Teams を利用した遠隔講座として、前期45回実施した。受講票を提出した学生数は2,069人(学部生1,780人、短大生289人)であった。後期は対面とオンラインとの併用の授業となり、朝の学習講座も11月2日より対面とオンラインとの併用の講座とした。後期69回実施し、参加者数は397人(学部生310人、短大生87名)であった。4月から3月31日までの学習相談などの利用人数は245人(学部233名、短大12名)であった。

② 各学部・学科から依頼のあった授業

授業として全部で7講座、授業以外において1講座、またプリント・テスト作成が5件であった。Microsoft Teams による資料作成及びForms での小テスト問題作成を行った。

③ 課題の作成・回収・返却

春期課題が4件、入学前課題が5件、夏期5件(単位は学部又は学科又は学年)となっている。Web Class による課題作成を行ったことで、学生は各自で課題提出後、すぐに解答を確認できるようになり、利便性が向上した。

④ その他

- ・専門員の学内における非常勤講師の申し合わせの確認を行った。
- ・学修行動調査における基礎教育センター及び基礎教育における学生の自己評価について情報共有及び意見交換を実施した。

3) 活動に対する評価 <C>

朝の学習講座の実施については、オンライン授業との親和性が高く、前期に受講票を提出した学生数は2,069人(学部生1,780人、短大生289人)、朝の学習講座開設以来、最も多い受講者数を記録した。2019年度は前期70回、参加者数は676人であったため、対前年比で3倍の学生が参加した。後期は対面とオンラインとの併用の授業となり、朝の学習講座も11月2日より対面とオンラインとの併用の講座とした。今年度は延べ2,466名(学部生2,090名、短大生376名)であり、延べ人数においても対前年比で2倍の学生が参加し、過去最高を記録した。学生の学びの機会を増やす上でも更に検討を行いたい。

専門員の学内における非常勤講師の申し合わせの確認を行った。次年度からの実施に合わせて点

検・評価が必要となると思われる。

また、学修行動調査において関連している項目の情報共有並びに意見交換も行った。今後は、そのような客観的なデータから本センターの運営方針の点検や見直しも必要だと考えられる。

4) 次年度の事業計画 <A>

来年度も従来どおり個人に対するリメディアル教育の実施にあたり、オンラインと対面で学生の学びの機会を増やす。また、次年度から開始する予定であった LMS を基礎教育センターでは先行して導入した。Microsoft Teams による資料作成及び Forms での小テスト問題作成、さらに Web Class による課題作成により、学生は課題提出後、各自ですぐに解答を確認できるようになり、学生の利便性が向上した。さらにより円滑な運用ができるよう下記の検討を重ねる。

- ① 従来からの基礎学力づくりへの取組みの強化と評価
- ② 学生が利用しやすいセンターの雰囲気づくりの推進
- ③ センター利用学生の実態分析と、それに基づく増加のための対策の策定
- ④ 各種課題・問題集の作成・発行と添削・返却
- ⑤ 学部・学科など他部署からの要請に基づく協力と、その適切性の確保
- ⑥ 今年度の整理を踏まえたセンター専門員と各学部・学科の講義との関係の点検
- ⑦ 読まれる「基礎教育センターだより」の発行

<執筆担当/基礎教育センター長 清水 聡子>

2. 公務員試験対策講座運営委員会

1) 年度当初の予定 <P>

昨年度(2019 年度)より公務員試験対策講座の運営を全学的な視点で取り組むことを目的として本委員会が設置されており、そのため、これまで以上に(株)東京リーガルマインド(LEC)との連携を強化し、全学的に講座受講者と各種公務員試験合格者のさらなる増加を図ることが本委員会の目的となっている。

その目的の達成のため、昨年度に計画された 2020 年度当初の予定は、学内公務員試験対策講座(以下「対策講座」と呼ぶ)を昨年度から引き続き①講義、②面談・面接、③採用試験情報提供の 3 本立てとした有機的な運用を実施すること、及び公務員試験受験者の増加を目的とした広報活動や情報提供を積極的に行うとともに、公務員に関心を持つ学生や公務員試験に向けた勉学を継続的に行っている学生に対して日常的な働きかけを行う。

また、対策講座の内容について昨年度までの状況を点検した結果、以下の 2 点を変更して実施することとした。①通常講義期間には正課授業の関係で参加できない学生を対象に長期休業中に集中形式で実施する(教養講座 A(集中))。②専門講座 A・B を一本化して実施する(専門講座)。

2) 実施した活動の状況 <D>

対策講座は計画どおり実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大により、4 月の正課授業の開講が延期、5 月の連休明けよりすべてオンラインによる実施となったため、すでに 2 月より開講していた「合格講座(4 年生対象)」は試験直前という重要性から安全性に配慮しながら学内にて対面で実施した。それ以外の前期の講座に関しては、急遽 WEB 講座システムのための運営に変更して実施することとなった。受講者の募集に関しても、対面でのガイダンスは実施できず、募集期間を変更し、WEB 上での募集のみとなったが、別表 1 にあるように昨年度よりも受講者が増加する結果と

なった。特に「SPI・公務員入門（学部1年）」及び「教養講座B（学部3年）」の増加が目立っており、「SPI・公務員入門（学部1年）」は2016年度と同様の人数となっている。なお、後期には状況が改善され対面及びオンラインでの対策講座を実施している。

また、昨年度より講座の一環として位置付けた②面談・面接についても引き続き実施され、個人面談は延べ68名（昨年度228名）、面接対策は延べ50名（昨年度60名）受講している。

費用に関しては、受講料収入が合計で5,896,000円に対し、支出が6,987,200円であり、差額の1,091,200円が大学負担となった。年度当初の見積もりよりも約100万円大学負担金が減少したが、前期のWEB講座への変更により講座単価が下がったこと及び受講者数の増加の結果であった。

別表1 年度別 公務員試験対策講座受講者数

講座名	2020	2019	2018	2017	2016
SPI・公務員入門（学部1年）	61	42	40	33	62
入門（短大1年）	—	—	24	26	37
教養講座A（学部2年・短大1年）	53	50	26	23	38
教養講座A（集中）	5	—	—	—	—
教養講座B（学部3年）	27	16	16	16	14
専門講座（学部3年）	18	—	—	—	—
専門講座A（学部3年）	—	18	9	15	12
専門講座B（学部3年）	—	9	9	6	11
実践講座（短大2年）	6	5	8	5	5
合格講座（大学4年）	13	11	3	9	9
合計	183	151	135	133	188

3) 点検・評価 <C>

2020年度卒業生の公務員就職状況は、別表2に示すとおり25名であり、そのうち対策講座の受講者は12名（48.0%）であった。対策講座が始まって以来最高の合格者数であり、約半数が対策講座の受講者であったことを考えると、効果が表れていると考えられる。

対策講座の実施に関しては、前期期間は急遽WEB講座となったため、受講者の混乱やモチベーションの低下などが心配されたが、WEB講座中の問い合わせ等は20件程度で、ほとんどがWEB講座の登録方法であり、受講そのものに関する問い合わせはなかった。現在のところ大きな影響はないようだが、下位学年のWEB講座による最終的な受験者数や合格者数の影響が出るのは今後となるため、注視していく必要がある。

また、「SPI・公務員入門」講座のうち、一部は基礎教育センターの専門員の方に講師をお願いしていたが、前期はWEB講座に変更になったため講師の依頼を中止した。また、後期では6回分の講師をお願いする予定であったが、今年度より変更となった専門員の先生との打ち合わせをはじめ、背景や業務内容等の情報共有ができておらず、急遽関係者による対策会議を開くなど大変なご迷惑をおかけすることになった。今後は関係する教職員との緊密な情報交換がこれまで以上に必要だと考えられる。

対策講座以外で予定されていた学生に対する日常的な働きかけに関しては、コロナ禍で、学生の登校が制限されたため対面での指導が難しい状況であったこと、それほど成果が上げられたとは

言えない。特に個人面談数が昨年度の 228 名から 68 名に大きく減少しており、コロナ禍での指導について今後様々な方策が必要である。

別表 2 年度別 公務員採用試験（正規＋非正規）合格者数

	2020	2019	2018	2017	2016
合格者数	25	7	14	17	7
講座受講者数	12	2	9	3	3
講座受講割合	48.0%	28.6%	64.3%	17.6%	42.9%

4) 次年度への改善に向けた方策 <A>

次年度に向けても、LEC との連携を強化し、全学的に講座受講者と各種公務員試験合格者の更なる増加を図ることを目的に 2020 年度の点検・評価の結果、LEC 担当者を交えた委員会において、対策講座については以下の点を変更し実施することとしている。特に今年度に大きく増加した合格者数を維持できるように、学生への働きかけなど、委員会としてできる限りの取組みを積極的に行う必要がある。

- WEB 講座は行わず、正課の授業と同様に学生が登校できない状況のときには Teams を利用したオンライン授業を実施する。
- 「SPI・公務員入門」講座において、基礎教育センターの専門員への講師の依頼は、費用面で考慮する必要が無くなった等の理由により行わない。また、回数を 25 回から 21 回に減らして実施する。
- 「教養講座」の集中講義は予想以上に人数が集まらなかったため実施しない。また、名称をわかりやすく「教養講座（基礎）」と「教養講座（発展）」と変更し、特に数的処理や社会科学の回数を増やし、さらに面接等も行うことで、それぞれ回数を 30 回から 45 回に増やす。
- 受講者を増やすことを目的に、これまでの受講者や合格者の体験記を作成し、募集を行う。
- 受講料をこれまで一律 1 回 1,100 円としていたが、教養系と専門系では内容や扱っているテキストも違うため、「SPI・公務員入門」と「教養講座（基礎）」に関しては受講者数を増やす目的で 1 回 1,000 円と値下げし、それ以外の「専門講座」等は 1 回 1,200 円と値上げすることとする。その結果、受講者収入 6,891,000 円（今年度と同数の受講者数による見積もり）、支出 8,571,200 円、差額の大学負担金は 1,680,200 円を予定している。

<執筆担当／公務員試験対策講座運営委員会 管理担当者 浜崎 央>

3. 全学教職センター運営委員会

2020 年度は、松本大学全学教職センターの組織として、総合経営学部・人間健康学部教職センター（以下、総経・人間教職センター）と教育学部教職センターとが双方の連携と協力により、それぞれの学部における教職課程の運営及び学生への教育指導を推進した。教員免許状更新講習については、従来通り、全学教職センターで運営したが、新型コロナウイルス感染症の影響でその都度検討を重ね、結果的に全講習の実施を見送った。臨採講師に関する情報管理及び学生の斡旋調整については、両センターの共通理解に基づいた方法により遂行し、良好な結果を得た。本学の第 2 期中期計画・中期目標に示されているように、今後も教員採用率の向上とその維持を目指していくこととする。

以下では、総経・人間教職センター及び教育学部教職センターそれぞれの活動に関する自己点検・

評価を記すが、教育学部教職センターの活動については、教育学部の活動に包含されている部分もある。

(1) 総経・人間教職センター

1) 2大ミッションと6ビジョンによる到達目標 <P>

2020年度は、総経・人間教職センターの活動方針として、2019年度に引き続き2大ミッションと6ビジョンを掲げ、専任教員及び専門員・事務職員が連携した組織マネジメント（P→D→C→A）を推進し、目標の達成を目指した。2大ミッションは、次の通りである。

ミッション1（教員養成） 学生指導を充実し、将来の教員となる質の高い人材を育てる。
ミッション2（地域貢献） 教員養成を中心に、内外の協働と連携を深め地域に貢献する。

6ビジョンに対応した2020年度における計画は、以下の通りである。

① ビジョン1：教員採用試験の合格数増加

教員採用試験のモチベーションを高めるために面接及び面接練習の継続、教職課程履修に関する相談支援活動の充実を目指すとともに、教育学部との連携の中で、より広範囲での教員免許取得の可能性と、明星大学との連携による小学校免許取得希望者についても、適切な支援・指導を行っていく。

② ビジョン2：教職センターの業務内容のシステム化と共有化・効率化

教職専門科目を中心としたシラバスの点検などを含む業務内容の明確化を図るとともに、教育学部と連携し Teams 等の情報システムを活用した業務内容と書類の共有化を行っていく。また、履修カルテの電子化を進めることで、事務業務及び学生指導の充実を図る。

③ ビジョン3：教育実践改善賞の趣旨浸透と円滑推進

全学教職センターの事業である「松本大学教育実践改善賞」については、松商学園創立120周年記念、長野県全体の教育振興への寄与という賞の趣旨を浸透させることに総経・人間教職センターも協力する。円滑な審査により、地域貢献を行うとともに、松本大学教員養成の社会的地位を高める。

④ ビジョン4：教育学部教職センターとの連携

教育学部教職センターを中心とした学校ボランティア、学校インターンシップ、地域教育活動、教育実習等、学校現場での充実した体験をさせることのできるよう調整し円滑な運営を図る。また、臨採講師の採用、教採模試、教採面接指導、赴任直前講座等、両センターが連携して実施できる業務を協働して行う。

⑤ ビジョン5：新カリキュラムへの移行の円滑化

2019年度入学生から教職課程コアカリキュラムに対応する新カリキュラムが始まったことから、新カリキュラムの内容を充実させるとともに、教員の科目担当業績及び指導力量を充実させ、文部科学省・設置審等との関係手続きに円滑に対応していく。

⑥ ビジョン6：教員免許状更新講習の円滑実施

全学教職センターの事業である教員免許状更新講習の運営については、総経・人間教職センターの協力と教育学部教員との連携により推進する。必修講座・選択必修講座2回（4日間）及び選択講座21講座を開設し、一層充実した講座とすべく積極的に取り組む。

2) 目標への成果・実績 <D>

総経・人間教職センターが管理運営する教職課程や教員採用に関する指導の総体をM-TOP (Matsumoto-University Teacher Oriented Program) と名付け、2大ミッションと6ビジョンを中軸とした目標の実現を2019年度からM-TOP構想として掲げ、その推進を目指してきた。

2019年度から、松本大学教職課程が目指す教員像（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）を見直し、中央教育審議会答申及び教員採用自治体の動向を踏まえ、「教員育成指標」と「学び続ける教員」を考慮した教員像をⅣとして加えている。2020年度も、松本大学教職課程が目指す教員像に「学び続ける教員」を位置付け、学生指導に活かした。新型コロナウイルス感染症の影響により、教育活動が大幅な制約を受けたが、教職課程の質保証に最大限の配慮を行った。

松本大学教職課程が目指す教員像

- Ⅰ 自己の長所を伸長し、得意分野をもった個性あふれる魅力的な教員
- Ⅱ 地域社会への深い理解を土台とした、地域との協働能力を備えた教員
- Ⅲ 「教育への情熱・使命感」など、一般に社会から教員に求められる資質・能力を身につけた教員
- Ⅳ 専門性を磨き人間力を高めるために、教員育成指標を踏まえ常に学び続ける教員

① ビジョン1：教員採用試験の合格数増加

教員採用試験の合格者を増加させるために、3年生前期から教員採用試験への受験意識を高める活動を行い、模擬テスト、教員採用試験対策指導、オンラインによる業者説明会などを実施した。4年生に対しては、出願指導、小論文添削指導、教員採用1次試験対策のための面接指導、体育実技対策講座、2次試験対策のための個人面接及び模擬授業（事例対応）などを実施した。年間を通じて、教職支援相談室の専門員を中心とした受験相談・進路相談・支援活動、指導教員を中心とした保健体育・養護・栄養・情報等の免許取得及び教職に関する指導を行った。

また、臨採講師で勤務2年目までの卒業生には、卒友会通信「フォローあっぷ」を配信して教員採用試験受験への意識を一層高めるとともに、フォローアップ事業として、赴任校巡回を行ったがコロナ禍の影響により大きな制約を受けた。

② ビジョン2：教職センターの業務内容のシステム化と共有化・効率化

教職課程の管理運営には、全学教職センター、総経・人間教職センター、教育学部教職センターの3つの部署が関係する。そのうえに、設置審・文部科学省の関係、課程認定の関係、教員免許状更新講習の関係、学生の履修関係の業務など、多様で複雑な業務が重なっているが、限られた人員で業務に対応した。引き続き多忙化の軽減措置が望まれる。

また、教職専門科目を中心としたシラバス点検、Teamsを活用して情報共有を行うとともに情報の一元化を図った。

③ ビジョン3：「教育実践改善賞」の趣旨浸透と円滑推進

全学教職センターの事業として、2020年度で3回目となり、総経・人間教職センターの協力のもとに、賞の趣旨を一層浸透させた。長野県教育委員会の後援を取り付け、募集要項及びポスターを長野県内全教育委員会等に配布し、長野県内教員及び教職に就いた卒業生を対象に広く募集した。その結果、一般部門に13名、卒業生部門に5名、合計18名の論文応募があり、昨年度と連続して

の応募が2名あった。規程に準拠した審査体制により厳密かつ円滑な審査を実施できた。

審査の結果、一般教員部門の3名が松本大学教育実践改善賞を受賞した。また、今年も優れた論文の応募が多かったため、特別賞を11名に授与した。受賞論文は、冊子（『教育実践改善シリーズ』第17号第2分冊）として刊行し、教育委員会・図書館等に広く配布し、本学による教育界への貢献の一助とした。

④ ビジョン4：教育学部教職センターとの連携

2020年度は、新型コロナウイルスの影響により、教育実習をはじめ、多くの実習活動が制約されたり、時期変更を余儀なくされたが、両センターが連携しつつ担当学部の学生を指導し、学校・教育委員会との調整に努めた。その結果、学生は教育実習をはじめとする必要な単位を修得することができた。

2020年度から、上越教育大学と松本大学との協定に基づき、上越教育大学大学院への機関長推薦に関する学内要項を両センターが協議のうえ、全学教職センター運営委員会の議を経て決定し遂行した。その結果、教育学部から3名、総合経営学部から1名、人間健康学部から1名の学生を機関長推薦とした。

教育学部教職センターと総経・人間教職センターとの連絡会に関しては、コロナ禍の中で対面方式の会議が困難であったが、随時担当者間で必要な協議を持ち、業務の統一的かつ円滑な遂行に努めた。梓友会の運営、教採対策、学習ボランティア事前指導、臨採講師登録、赴任直前講座で緊密な連携を行った。

⑤ ビジョン5：新カリキュラムへの移行の円滑化

2019年度入学生から教職課程コアカリキュラム対応の新カリキュラムに移行したことに対応して、各科目のシラバス及び授業内容を更新した。教職専門科目を中心としたシラバス点検を新カリキュラムの内容に基づいて行った。

2020年度も、新カリキュラムを踏まえた上で教員免許状の取得拡大を図るため、教育学部との連携により、小学校二種免許取得を他学科免許履修支援プログラムの制度によって履修を可能とし、更に、2020年度より明星大学との連携による高校地歴免許の取得を可能とした。取得可能な教員免許種の拡大に伴う教職課程の質保証については、他学部免許取得希望者への面談指導、GPA基準値以下の学生への面談指導を行い、本人に免許取得の目的を確認し、学習意欲を喚起した。

⑥ ビジョン6：教員免許状更新講習の円滑実施

全学教職センターが2020年度の松本大学教員免許状更新講習について、新型コロナウイルス感染症の影響が強まっていく状況を踏まえ、必修講習、選択必修講習、選択講習の実施時期毎別に開催を検討した。その結果、2020年度は全更新講習について開講を見送ることとなった。2021年度については、必修講習（2講習）、選択必修講習（8講習）、選択講習（22講習）を計画した。

3) 成果・実績の点検・評価 <C>

① ビジョン1：教員採用試験の合格数の増加

2020年度の教員採用現役合格者2名、過年度生7名、上越教育大学大学院進学2名であった。最近、卒業生を含めて教員採用試験合格者が増加してきた要因として、教員採用試験の受験指導が体系化されてきており一層の充実が図られたためと評価できる。コロナ禍による制約はあったが、昨年度と同様に、教職センターの学校管理職経験者教員及び専門員を中心に実施した面接及び模擬授業練習は効果が高かった。教職課程履修学生に対する小論文指導、相談支援活動、GPAに基づく指

導、教採ドリル、0限自主講座、受験願書指導等が丁寧に行われており、今後も学生の実力向上につながる事が期待できる。卒業生に対しても、臨採講師への巡回指導、校友会での指導を継続的に行ってきた成果が現れてきた。

② ビジョン2：教職センターの業務内容のシステム化と共有化・効率化

限られた事務職員が多様で膨大な業務を適切に処理していることは高く評価できる。事務室が多忙な中で、学生の履修等に関する事務対応を丁寧に行っていることも評価できる。事務職員数に関しては、業務負担の適正化のためにも今後の課題として残されている。

また、教職専門科目を中心としたシラバス点検を継続し、科目担当教員に教職課程コアカリキュラムの趣旨の徹底を促していることは、教職課程の質保障の一環となっている。履修カルテの電子化が進んだことによって、学生の履修状況・学修状況を随時一括して把握でき、履修及び学修指導の充実に有効であると評価できる。

③ ビジョン3：「教育実践改善賞」の趣旨浸透と円滑推進

全学教職センターの事業である「松本大学教育実践改善賞」の円滑な推進に全面的に協力している。受賞論文冊子を教職センターの刊行物（『教育実践改善シリーズ』第17号第2分冊）として刊行し長野県内全教育委員会等に配布していること、応募者全員に審査委員会から詳細なコメントを返却していること、応募者から感謝の言葉が寄せられていること、受賞論文を教職科目の授業で紹介していること、卒業生の力量向上の一助となっていることなどから、本学及び教職センターの社会的評価を高める取組みであるといえる。松本大学の社会貢献事業の一環として、また、教職に就いた卒業生へのフォローアップ事業として高く評価できる。

④ ビジョン4：教育学部教職センターとの連携

2020年度も教育学部教職センターと総経・人間教職センターとは、随時、連携・調整し教職課程の適正な運営に努め、全学の教員養成に寄与していることは評価できる。今年度からの取り組みとして、上越教育大学大学院への機関長推薦に関する学内要項を取り決め実施したこと、校友会の開催方法に関する申し合わせを取り決めたこと、正規採用及び臨採講師採用の学生に対する赴任直前講座を開催したことは大きな進展として評価できる。また、今年は新型コロナウイルス感染症の影響に対して、学校・教育委員会から学習ボランティアの要請があり、事前指導を実施した上で学生を配置したことも、学校・教育委員会への貢献として評価できる。

長野県と松本大学との包括協定を踏まえ、長野県教育委員会、松本市教育委員会等が課題とする教育内容（信州型コミュニティスクール、教員育成指標、教師の非違行為、教育相談、プログラミング教育等）を授業に取り入れていることは評価できる。

また、臨採講師に関する手続きを両センターの調整により明確化して遂行し、学生の希望を踏まえて配置できたことは、両センターの協働体制が一層前進したと評価できる。

⑤ ビジョン5：新カリキュラムへの移行の円滑化

2020年度も教職課程コアカリキュラムに基づいて、各科目のシラバス及び授業内容を更新したことにより、新カリキュラムへの移行が円滑に行われたことが評価できる。毎年、教職専門科目を中心としたシラバス点検を行っており、十分なカリキュラム内容が確保されるよう配慮していることは評価できる。

また、新カリキュラムを踏まえた上で、教育学部との連携により、小学校二種免許取得を他学部履修の制度によって可能としたこと、明星大学との連携による高校地歴免許の取得を可能としたこ

とも学生の学習権の保障として評価できる。

⑥ ビジョン6：教員免許状更新講習の円滑実施

2020年度は、新型コロナウイルスの影響により、全学教職センターを中心とした段階的な検討の結果、全更新講習について開講を見送ることとなった。早い段階で開講の可否を検討しており、本学HP等を通じて周知したことにより、受講希望者の混乱はなかった。

4) 次年度への改善事項・課題 <A>

① ビジョン1：教員採用試験の合格数増加

教員採用試験の受験と合格を目指して手厚い指導を継続しており、教員採用試験合格実績が向上しつつあるが、今後も一層組織的に取り組み、学生の希望を叶えていく。学校管理職経験者を中心にした教員採用1次試験のための集団面接、体育実技対策講座、さらに教員採用2次試験対策のための個人面接及び模擬授業（事例対応）練習は、今後も、継続して行われることが望まれる。赴任直前講座は、他大学には見られない重要な講座であるので、今後も継続していく。

② ビジョン2：教職センターの業務内容のシステム化と共有化・効率化

総経・人間教職センターでは、教職課程の管理と学生対応には相変わらず多忙な状況が続いており、業務量的にはもう一人の教員の採用が必要である。

③ ビジョン3：「松本大学教育実践改善賞」の趣旨浸透と円滑推進

「松本大学教育実践改善賞」の社会的評価は年々高まっており、卒業生の力量向上の指針としての意義も大きいため、今後も継続して推進していくことが重要である。受賞者のうち有能な者については、適切な判断のもとに本学の教育に活用していくことを検討していく。

④ ビジョン4：教育学部教職センターとの連携

教職センターの組織が対外的に明確になるよう、教育学部教職センター、総経・人間教職センター、全学教職センターの関係を整理したが、対外的な認知度は必ずしも十分とはいえないため、今後も教育委員会・校長会への周知を図る必要がある。学内の教員養成を充実させるために、教職課程の質保証に関して、全学的な立場から両センターが協力し適正に管理運営していく。

⑤ ビジョン5：新カリキュラムへの移行の円滑化

今後も、教職課程コアカリキュラムの項目と内容を踏まえた充実した授業内容にするよう留意していく必要がある。長野県と松本大学との包括協定を踏まえ、長野県教育委員会、松本市教育委員会等が課題とする教育内容を教員養成段階から視野に入れた授業を一層実施していくことも今後の課題である。取得可能な教員免許種の拡大に伴う教職課程の質保証に関しては、今後も適正な対処を行っていく。

⑥ ビジョン6：教員免許状更新講習の円滑実施

教員免許状更新講習では、教員免許状更新講習の専用ソフトを導入して、業務のシステム化を行っているが、多数の受講申請者の情報を処理するため作業量が膨大であり、一層の効率化を図っていく。2021年度は、必修講習（2講習）、選択必修講習（9講習）、選択講習（22講習）を実施する予定である。

(2) 教育学部教職センター

全学教職センターのもと、教育学部教職センターでは、総経・人間教職センターと連携して、教育学部の教職課程に関する管理運営に当たっている。今年度は、教育学部の完成年度であり、学生の教

員採用試験受験に関する指導にも力を入れ、学生のニーズを踏まえた指導を実施した。

1) 2020年度の計画 <P>

- ① 学校教育学科の『「入学後、学生を伸ばす教育」を組織的に取り組む。』を受け、教員と連携し、学生への支援をする。
- ② 教員養成のための一年次「学校ボランティア活動」、二年次「学校インターンシップ」、三年次「初等教育実習」、四年次「中等教育実習」・「特別支援学校教育実習」のそれぞれの活動がスムーズに行われるように、教員及び専門員が連携し、協力して実施していく。
- ③ 学生の将来に向け、教員以外を含めた第一志望への進路実現の向上を目指し、一人ひとりに細やかに手を入れた教育を実践し、学生の満足度を高め、その成果を発信していく。
- ④ 教員採用試験合格に向けて、教育学部の教職センター会議を中心に試験対策の充実と教採模試等の実施により、教員相互が連携し、学生への支援を推進していく。
- ⑤ 教員養成に関わる物品管理を行い、教科書や指導書、教員採用試験関係の書籍等を整え、学生が利用しやすいようにする。

2) 2020年度の計画に対する実施状況と評価<D・C>

- ① 学生相談の窓口を設け、進路の悩み、教科指導の実践的相談、学校ボランティア活動・学校インターンシップの実施校、初等教育実習の実施校の相談を受けた。また、「教學半」での学習支援を行い、学生の質問事項に対応した。学生の様々なニーズに応えうる組織的かつ柔軟な指導体制を敷いていると評価できる。
- ② 本年度は、「学校ボランティア活動」「学校インターンシップ」は休講となり実施されなかった。初等教育実習は、すべて9月以降の後期実施となったが、滞りなく実施された。9月から11月にかけて、初等教育実習(3週間、長野県53名、県外8名計61名)が実施された。ただし、県外の2校では教育委員会の指導で2週間のみの実習となったので、松本市内の小学校で一週間のボランティア活動を行い、単位認定につなげた。
- ③ ①にも記載したが、学生への個別面談を実施し、一人ひとりに寄り添った相談を行った。外部からのボランティアや支援要請のチラシを1Fと3Fに掲示し、学生の希望ややる気をサポートした。年4回の「教育学部タイムズ」を発刊し、教育実習状況や教員採用情報など内外に発信した。特に、2021年2月発行の教育実習特集号は、県内の全小・中学校、特別支援学校に各校長会を通して配布し、教育実習による学生の成長を示すとともに、今後における教育実習の円滑な受け入れを図る一助とした。学生の様々な活動を必要に応じて提供することができるよう、写真や資料などを一元管理している。
- ④ 教員採用試験対策として
<17年度生向け>
 - 面接練習会・業者による模試……5月・6月
 - 教採一次試験報告会……7月
 - 教採二次試験対策直前講座……8月<18年度生向け>
 - 筆記試験攻略……教學半ドリルへの支援(課題印刷等)、自主ゼミ(教師のたまご)への補助
・毎水曜日実施 15:10~16:40、(831教室)
 - 面接・小論文・実技中心の対策講座の企画・運営

- ・模擬面接講座……一回の実施時間は、指導を含めて1時間。個人面接、模擬授業・場面指導も含む。
- ・小論文講座……過去問を参考に課題を出す。事前に60分目安に課題を仕上げてくる。3人一組で相互添削をし、次週指導者が添削して返却する。

第2水曜日実施 13:30～15:00、(831教室)

- ・ピアノ・歌唱講座……志望自治体の過去問課題曲、予想課題曲で指導する。一斉指導30分、その後個別練習を行う。

第4水曜日 13:30～15:00

- ・体育実技講座……長野県中心に、3種目について講義と個人練習をする。

第1水曜日 13:30～15:00

- ・英語実技講座……模擬授業、ショートスピーチ、過去問参考に講義と演習をする。

第3水曜日 13:30～15:00

- ・English Café……指導教員中心にAll Englishの会話に慣れる。

毎水曜日 12:00～13:00

上記の講座は、基本的に希望者が受けているが、回を重ねる毎に成果が現れており評価できる。

○本年度の教採結果

- ・4年生の卒業予定者数52名、教員採用試験受験者数43名、教採受験率82.7%
- ・公立正規合格者数のべ18名、実数12名、内訳公立小学校11名、県立特別支援校1名。
- ・公立常勤講師任用者合計26名（小学校17名、特別支援校9名）。

○教職以外の就職状況（参考）

- ・一般企業10名、公務員1名、上越教育大学大学院進学3名

○教育学部進路状況のまとめ

- ・教員38名(正規採用12名、常勤講師採用26名)、民間・進学等14名、計52名
進路決定率100%

- ⑤ 小・中学校の各教科の教科書、指導書については、学習指導要領の改訂に合わせて新規購入し、それらを棚に整理し、貸出しできるようになっている。また、学習指導要領他教職に必要な書籍について管理している。教採試験対策用の参考書や問題集は、「教學半」の教室に置いてあるので、学生が自由に利用していた。授業で使用する模造紙やマジックや磁石、付箋等も置かれ、学生の利用の便を図った。①と合わせ、学生のようなニーズに応えうる学習環境及び指導体制を整備していると評価できる。

3) 2021年度の計画<A>

- ① 学校教育学科の『「入学後、学生を伸ばす教育」を組織的に取り組む。』を受け、教員と専門員が連携し、学生への支援を充実させる。多様な学生の入学を見据え、特に学生への個別相談業務を充実させる。
- ② 定着してきた教員養成のための一年次「学校ボランティア活動」、二年次「学校インターンシップ活動」、三年次「初等教育実習」、四年次「中等教育実習」・「特別支援学校教育実習」のそれぞれの活動がスムーズに行われるように、教員及び専門員が連携し、協力して実施していく。
- ③ 学生の将来に向け、教員以外を含めた第一志望への進路実現の向上を目指し、一人ひとりに細やかに手を入れた教育を実践し、学生の満足度を高め、その成果を発信していく。

- ④ 教員採用試験合格に向けて、教育学部の教職センター会議を中心に試験対策の充実と対策講座の実施により、教員及び専門員が連携し、学生への支援を推進していく。更に、特別支援学校への受験対応を強化していく。＜D＞④で示した面接・小論文・実技中心の対策講座の企画・運営を一層推進する。
- ⑤ 教員養成に関わる物品管理を行い、教科書や指導書、教員採用試験関係の書籍等を整え、学生が利用しやすいようにする。特に、これからのデジタル教材の充実を図る。

＜執筆担当／全学教職センター運営委員会 委員長 山崎 保寿＞

4. 情報センター運営委員会

1) 年度当初の予定 ＜P＞

情報センターでは、学内を支えるネットワークやサーバなどの基幹システムやPC教室等のクライアント機器類の整備・管理と、それに関連する学生及び教職員への技術的支援を行っている。2020年度は、これらの業務に加えてサイバーセキュリティ対策とメソフィアの改修、PC教室の不具合改善を計画した。

2) 計画の実施・現状の説明 ＜D＞

① 委員会事業・活動

委員会は4月、6月、10月、1月の4回開催した。委員会では、教員のノートPC化、5号館情報コンセントとロケーションプリンタ（IOゲート）及びPC教室用のプリンタのコスト軽減について議論した。また、サイバーセキュリティ対策関連の組織・体制整備、オンライン授業についても議論した。

② 教員のノートPC化

学内の情報化が進むとともに、情報センター予算が年々増加の一途を辿っていることから、コスト削減策の1つとして、教員用PCのノート化を進める案について議論した。現状では、各教員にはデスクトップPCとiPadが各1台配付されているが、これをノートPCに1本化しようとするというものである。5年計画で推進した場合、1,600万円ほどの購入費用とセッティングにかかる工数が105日程コストカットできるとの試算から、全学で取り組む方向となった。

③ 教室系情報機器類の改善とコスト軽減

これまで、PC教室のOSはアプリケーションとの互換を保つ必要があったことから、Windows10とWindows7を併用していた教室が残っていたが、これをすべてWindows10に統一した。

PC教室の復元システムについて、これまで「銀河計画」というシンクラシステムを導入していたが、今春整備した311、312の2教室ではPC動作が極端に遅いことが発覚した。ところが、このシステムの製造元が事実上倒産してしまったことから、代替として「バーチャルリカバリー」というシステムに入替えて対応した。これを機に、他のPC教室にも同システムを順次入れ替えることとした。

コスト削減に関して、まず、総合経営学部開学時に5号館の一部の教室に整備した情報コンセントについて、学内Wi-Fiが主流となった現在では利用機会が皆無に近いことから廃止することとした。また、ロケーションプリンタ（IOゲート）とPC教室用のプリンタについて、これまでの利用状況を踏まえて、ユーザに支障が出ないと判断した機器について削減することとした。

また、本学教員から eduroam (学術無線 LAN ローミング基盤) 導入の依頼があったことを受け、導入の是非について検討したが、管理面や需要状況を鑑みて一旦保留とし、今後需要が高まってきたところで再検討することとなった。

④ サイバーセキュリティ対策

文部科学省より、2022年3月までに下記の項目が要求されている。

- ・「サイバーセキュリティ対策基本計画」の策定
- ・サイバーセキュリティ対策推進のための組織・体制の整備
- ・情報セキュリティポリシー及び手順書の策定

本学及び法人、松商学園高等学校、松本秀峰中等教育学校にそれぞれ CSIRT (Computer Security Incident Response Team) が設置されたが、各組織と連携しながらこれらの項目について取り組んでいくこととなった。今年度は、学園全体や本学内において情報セキュリティインシデントが発生した際の具体的な対応方法について要領としてまとめ、発生したインシデントのレベルに応じた報告先や対応策を定めた。

また、10月初旬に本学のサーバを標的とした DDoS 攻撃 (分散型サービス妨害攻撃) を受けるというインシデントが発生した。本学のゲートウェイはアウトソーシングの形で学外のサービス企業側に設置されているが、本学システムの上位にあるシステム上での障害であったため、限定的な対策にとどまった。応急的な対策として、緊急用にルーターを5台整備した。

⑤ オンライン授業支援

今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、新型コロナウイルス感染症対策本部と連携しながら、オンライン授業のための技術的な環境整備や支援策について検討・実施を進めた。具体的には、オンライン会議システムとして Microsoft Teams を採用し、ユーザへのマニュアルの作成や説明会の実施に関わる事項や質問等への対応を行うとともに、履修登録に合わせたアカウント登録などの作業を同時並行で進めた。

前期はすべての授業がオンラインで実施され、夏休み以降からは対面とオンラインを併用する形で進められた。Teams や Web カメラの取り扱いについて教員向けに解説動画を作成するなどの支援を行った。

また、2021年度新入生に向けて PC の購入や Wi-Fi 導入を勧める案内を全学共通の文書として出すこととした。学生が円滑にオンライン授業を受けられる準備ができるように、文面には推奨スペックなどを盛り込んだ。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 委員会活動

今年度の委員会は、すべて Teams を使ったオンラインで開催した。会議に先立って Teams 上に資料をアップし、委員に事前に目を通していただくことで円滑に会議を進めることができた。

② 教員のノート PC 化

教員用 PC のノート PC 化について、総合経営学部と教育学部は議論の余地があるとのことで再検討してもらうこととなった。その後、教育学部においてもノート PC 化で意見がまとまったが、総合経営学部では PC に限らず、大学全体のコスト削減像を勘案しながら、ノート PC の導入を決めることとし、保留扱いとなった。

③ 教室系情報機器類の改善とコスト軽減

ロケーションプリンタ (IO ゲート) や PC 教室用のプリンタについては、多くの学生が利用することから、定期的に利用状況を確認しつつ利便性とコストのバランスを鑑みて必要であれば増設するという選択もとるべきであると考えます。

④ サイバーセキュリティ関連

文部科学省からの要求で検討が始まった案件ではあるが、これらを策定することが目的とならないよう、本学にとって運用しやすいものとするべきであると考えます。立案にあたって他大学の例を参考にすべく資料をあたってみたが公開している例がなく、企業のもの参考としているところだが、かけ離れているのではないかとと思われる点が少なくない。引き続き情報を集めながら実用的なものに仕上げたい。

10月に起きたDDoS攻撃は、現システムの欠点が浮き彫りになった。対策システムの機能アップやバックアップ回線の増設など、完全停止を回避するための整備を早急に進める必要がある。

⑤ オンライン授業支援

年度当初は受講生の収容数を制限して対面授業を行う方向で準備を進めていたところに急遽オンラインへ舵が切り替わり、結果として前期開始が5月中旬まで引き延ばされてしまった。採用したTeamsにはアカウント登録が必要で準備作業に時間を要したことや、システムの挙動を把握できていない段階でのオンライン試験で問題が生じるなど、不慣れによる授業への影響がみられた。この1年間で様々な経験を得られたので、これを生かして来年度は安定的に運用することを期待したい。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

今年度起きたDDoS攻撃によるネットワーク障害は、本学だけでなく学園全体のネットワークに大きな影響を及ぼすことが改めて認識された。松商学園高等学校や松本秀峰中等教育学校でもオンライン授業が始まり、データセンターのホスティングサービスを利用することになることから、学園全体を俯瞰した上でファイヤーウォールの機能強化やインフラ維持費の予算管理といった技術面とコスト面の効率的な管理をしていく必要がある。これと併せて対策基本計画や組織・体制の整備、セキュリティポリシー及び手順書の策定を進めていく。

インフラについては、ネットワーク回線を2系統とすることで、システムの冗長化を図る。具体的にはSINETへの加入を行い、2022年4月にSINETのDCが松本に新設されるのに合わせ、2021年5月までに加入申請して共同調達協定書を結ぶよう進める。

学内インフラとしては、老朽化した5号館のネットワーク及び6号館1・2階の無線LANを改修する。大きな工事となるため、夏季休業中の実施予定とする。

PC教室で利用するアプリケーションの管理について、最近ではフリーソフトウェアの割合が増え、管理が煩雑化しつつある。システムの効率的な管理も念頭に入れ整理していく。

今後の情報センターのあり方についても検討する機会を設ける。松商学園高等学校や松本秀峰中等教育学校ではシステムのクラウド化が進み、情報センターに技術的支援を求めるケースが多くなってきた。この傾向は今後強まっていくと予想される。現地に専門スタッフを配置するなど、支援体制について見直す必要があると考えます。

<執筆担当/情報センター運営委員会 委員長 矢野口 聡>

5. 図書館運営委員会

1) 年度当初の計画 <P>

2020年度は以下のことを目標として運営を進めた。

① 図書館サービスの充実と利用の拡大を図る

- ・入館者、貸出数、レファレンス、ILL（図書館相互貸出し）件数の拡大
- ・オリエンテーション、利用教育、授業支援等の充実
- ・レファレンス、ILL、各種機器等、図書館利用の周知
- ・企画事業の強化
- ・ターゲットに応じた広報活動の強化
- ・学生協働

② 図書館サービスの基盤整備を進める

- ・教育及び研究への支援体制の強化
- ・選書力の向上と蔵書構成の見直し、魅力ある書架作り
- ・定期的なスタッフミーティングの開催
- ・計画的な除籍、新着本入替による図書資料の整備
- ・学習の場、滞在の場としての快適な図書館環境の創出
- ・迅速、的確でホスピタリティのある職員対応
- ・研修会等への参加による資質の向上と職員間の共有
- ・レファレンスデータの蓄積と共有
- ・担当業務の明確化

2) 利用統計及び点検評価 <D・C>

【利用統計】2020年度

図書(雑誌)貸出数・AV資料閲覧点数(図書：冊、AV資料：点)

	所 属	貸出数	合 計	AV 閲覧	合 計
総合経営	総合経営学科	350(9)	918(30)	0	1
	観光ホスピタリティ学科	568(21)		1	
人間健康	健康栄養学科	493(1)	903(22)	0	14
	スポーツ健康学科	410(21)		14	
教 育	学校教育学科	732(62)	732(62)	13	13
短 大	商学科	201(0)	345(1)	6	8
	経営情報学科	144(1)		2	
大学院	健康科学研究科	146(49)	146(49)	1	1
教職員		1,850(149)	1,850(149)	2	2
科目等履修生		0(0)	0(0)	0	0
松商学園関係者		0(0)	0(0)	0	0
その他		1(0)	1(0)	0	0
計		4,894(313)	4,894(313)	39	39

学生1人あたり貸出数

年 度	学生数 5/1 現(人)	貸 出 数 (冊)	1人当り貸出 (冊)
2018年度	2,054	6,750	3.29
2019年度	2,147	6,565	3.07
2020年度	2,189	3,044	1.39

入館者数 (延べ人数) (人)

	2018年度	2019年度	2020年度
館内利用者	68,482	62,840	20,608
学 外 者	762	458	8

① 図書館サービスの充実と利用の拡大を図る

○入館者、貸出数、レファレンス、ILL 件数の拡大

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で通常開館が出来ず、入館者、貸出数は減少した。通常開館ができた10月・11月は、例年の同時期より入館者、貸出数、レファレンス、ILLの件数が増え、久々に活気が戻ってきた。
- ・教員のILLの件数は伸びたものの、全般的には低調といえる。

○オリエンテーション、利用教育、授業支援等の充実

- ・例年4月上旬に実施している新入生対象の図書館オリエンテーション、及び新入生対象ゼミナール別図書館ツアー（各自問題を解いて館内を回る体験型）は、時期をずらして実施した。

[オンライン]

- ・教育学部1年：5月27日（火）2限「図書館オリエンテーション」
図書館の基本情報、できること、OPACの使い方等を紹介
- ・教育学部1年：7月2日（木）2限「ICTと情報倫理」
- ・人間健康学部1年：7月7日（火）2限「ICTと情報倫理」
第9回を担当、図書館の活用法
- ・教育学部1年：7月23日（木）2限「ICTと情報倫理」
- ・人間健康学部1年：7月28日（火）2限「ICTと情報倫理」＋図書館紹介
第11回を担当、電子的な情報源を用いた文献探索法
- ・観光ホスピタリティ学科1年：7月21日（火）2限「レポートの書き方講座」
基礎ゼミの時間にレポートの書き方、Web上の情報源の紹介をした。ほかに図書館の紹介も行った。

[対面]

- ・夏休みに申込み制で新入生図書館ツアーを実施
9月7日（月）～11日（金）：参加者19名
- ・短期大学部1年伊東ゼミ、総合経営学科1年、スポーツ健康学科1年はゼミの時間に図書館ツアーを実施。
- ・教育学部1年：12月2日・9日（水）1限「レポートの書き方講座」
レポートの基本、作成手順、資料について
- ・司書科目授業協力：「図書館基礎特論」の授業で図書館実習への協力。

講義（オンライン）と開館業務、配架・整架、検収、受入、装備、新聞整理、雑誌・紀要登録、展示計画、POP作成、展示コーナー作成等を行った。

- ・利用教育の一環として、ゲームをしながら図書館の使い方等が学べる「謎解きゲーム」を11月の読書月間に行った。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、オンラインでのオリエンテーションや講座に対応できた。学部によっては利用教育が不十分であったため、利用者が自主的に学べるような動画等の作成も視野に入れたい。

○レファレンス、ILL、各種機器等、図書館利用の周知

- ・レファレンスについて、メール・電話での受付の周知は積極的に行った。感染症対策に限らず、非対面での相談は学生が求めているものでもあると考えられるので、新型コロナウイルス感染症の収束後も続けたい。
- ・新型コロナウイルス感染症対応の一環ではあるものの、全学生に図書館利用についてのメール配信を定期的に行うことができ、周知につなげることができた。今後も定期的なメール配信を行いたい。
- ・教育学部の卒業研究でILLの利用やカウンターでの問い合わせが増えた。全学部該当年になる前に、論文検索やILLについての利用教育や周知をきちんと行っていきたい。併せて教職員への周知、協力体制の必要性を感じる。
- ・学科選定図書や希望雑誌など教員の希望をとっているの、それらの資料を活用してもらおう、教員に協力を仰ぎたい。
- ・学生がカウンターでも尋ねやすいよう、必要に応じてレファレンス窓口をつくるなど環境を整えたい。

○企画事業の強化

- ・11月の読書月間では様々な展示や企画を行ったが、入館者数の増加には直結しておらず、利用者呼び込むためのさらなる工夫が必要である。学生参加型の企画においては反響があったので、今後活かしていきたい。
- ・企画を行う時期についても、より効果的な時期を検討したい。例えば、テスト期間、長期休暇などを考慮する。

○ターゲットに応じた広報活動の強化

- ・図書館だよりにおいて新入生・在学生などの枠に応じた広報ができたが、新型コロナウイルス感染症の影響で学生が大学に入構出来なかったため、WEB発信の重要性を感じた。WEB発信の強化、SNSの利用を今後検討していきたい。
- ・学科や学年別にお勧めできるものを提案できるとよい。まずは新入生をターゲットにし、利用者の増加につなげたい。

○学生協働

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で学生アルバイトをお願いすることができなかったが、図書館サークル同好会が立ち上がったので、今後の活動を助けるとともに、学生のニーズを探りながら共に進めていきたい。

② 図書館サービスの基盤整備を進める

○教育、及び研究への支援体制の強化

- ・レポート課題調査を行い、教員から出された課題に関する図書を集めてコーナーを設置。貸出期間、貸出冊数を制限し対応したが、お知らせして下さる教員が少ないので、継続して積極的に呼びかけていきたい。
 - ・授業や課題、学生が必要な情報等を知るために教職員と連携を取りながら、図書館ができる最大限のソースを提供したい。
- 選書力の向上と蔵書構成の見直し、魅力ある書架作り
- ・棚担当ごと蔵書構成の見直しや面出しを定期的に行い、棚に動きが出るよう努めた。
 - ・書架サインの見直しを行い、使いやすい書架を目指した。
 - ・各学部の特性を加味しながら選書を進めていきたい。
- 定期的なスタッフミーティングの開催
- ・計画通り全員参加のミーティングを2回開催した。全員参加でなくてもよいので、短時間でもう少し機会を増やしていく。
 - ・日頃よりスタッフ同士のコミュニケーションを取りながら、連携体制で業務を行いたい。
- 計画的な除籍、新着本入替による図書資料の整備
- ・雑誌の保存期間が決定し、除籍雑誌の譲渡、除籍、再配架を行い、雑誌架の整備を進めた。
 - ・紀要の再配架に向けて電子化調査を進め、機関リポジトリやWEB上で公開されている資料の調査、除籍を行った。紀要が届いてから調査までの流れをルーティン化したので、次年度はチームで計画的に進め、再配架を完了させたい。
 - ・洋書にカビが発生してしまい除籍を行った。書架の掃除や湿度管理を継続して行うとともに、本の置き方を工夫する等対策を考えたい。
 - ・次年度より、選書チーム、紀要チーム、除籍チームを設け、短いスパンでの定期的な選書、除籍候補の選定をおこなう。
- 学習の場、滞在の場としての快適な図書館環境の創出
- ・空調整備を行い、快適な環境で過ごしてもらえるようにしたい。
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響で場としての提供は難しかったものの、定期的な消毒、アクリル板の設置等を通して安心できる空間づくりができた。
 - ・資料の貸出目的だけでなく、情報センターとしての利用促進や学習の場としてもっと利用されるような工夫を図りたい。
- 迅速、的確でホスピタリティのある職員対応
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で電話、メールでの対応が一気に増えたが、親身で迅速な対応を心がけた。
 - ・事務仕事に追われる場面が多く、向いている方向が肝心の利用者でないことがあった。忙しい時は職員間でフォローしながら、利用者第一の対応に努めたい。
 - ・利用者が声を掛けやすい明るい雰囲気作り、職員からも声掛けができるようにフロアに出していきたい。
- 研修会等への参加による資質の向上と職員間の共有
- ・オンライン実施が増えて参加しやすくなっているので、積極的に参加していきたい。
 - ・外部研修会への参加だけでなく、職員内で勉強会を行い知識や情報の共有を図りたい。
- レファレンスデータの蓄積と共有

- ・学生の利用が少なかった分、レファレンスも少なかった。データの蓄積や振り返りを行えばよかったが後回しになってしまい、レファ協のデータ登録まで手が回らなかった。
- ・自館記録の蓄積はもちろん、他館のレファレンス情報収集を行い、さらに充実を図る必要がある。

○担当業務の明確化

- ・一部業務をチーム制とした。チーム内で話し合いながら円滑に進め、担当業務の明確化とともにわかりやすいマニュアル作りをしていきたい。

3) 2021 年度の計画 <A>

新型コロナウイルス感染症対策に追われた年度であった。感染状況に対応したサービス態勢を、変化に応じて整えていったが、学生が入構できない期間が長く、利用状況も低くなった。その中で、郵送や積極的なメール・電話利用によりサービスの低下を極力防ぐ努力をしたことは前段で報告した通りである。全国的に電子書籍が見直された年ともなった。今後の図書館資料のあり方やサービス体制の問題として検討をしていく。

入構禁止や入館制限となったとしても、学生が情報を必要としなくなるわけではない。むしろ、今までにない情報も含めて、必要とする情報を必要とする人に届けることを図書館の使命として真剣に考えていかなければならない。2021 年度も新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの業務は続く。必要な学習活動、研究活動を保障することは大学に課せられた課題であり、その情報拠点としてあるべき図書館が為すべきことを検討していく。

① 図書館サービスの充実と利用の拡大を図る

- ・入館者、貸出数、レファレンス、ILL 件数の拡大
- ・オリエンテーション、利用教育、授業支援等の充実
- ・レファレンス、ILL、各種機器等、図書館利用の周知
- ・企画事業の強化
- ・広報活動の強化
- ・学生協働

② 図書館サービスの基盤整備を進める

- ・教育及び研究への支援体制の強化
- ・選書力の向上と蔵書構成の見直し、魅力ある書架作り
- ・定期的なスタッフミーティングの開催
- ・計画的な除籍、新着本入替による図書資料の整備
- ・学習の場、滞在の場としての安全で快適な環境の整備と創出
- ・迅速、的確でホスピタリティのある職員対応
- ・研修会等への参加による資質の向上と職員間の共有
- ・レファレンスデータの蓄積と共有
- ・担当業務の明確化

<執筆担当/図書館運営委員会 委員長 伊東 直登>

6. 国際交流センター運営委員会

1) 計画 <P>

今年度は、下記の目標を計画の柱に据えた活動を行う。

- ① 留学生支援
- ② 協定校との関係維持・強化
- ③ 海外研修中の学生支援や新型コロナウイルス感染症に関わる帰国時の個別サポート
- ④ 通常業務の整備・充実

2) 活動内容 <D>

① 松本大学留学生支援

講義が5月からの全面オンラインに切り替わったことにより、松本大学留学生のオンライン講義に向けての支援に注力した。2020年度4月時点では7名の留学生が在籍しており、内訳は総合経営学部3名、人間健康学部1名、短期大学部3名である。7名のうち2名は中途退学となった。中途退学した1名は、中国籍で総合経営学部観光ホスピタリティ学科所属の3年生であったが、単位不足及び授業料支払い不能の為、2021年3月に除籍の決定が総合経営学部教授会にて下された。大学除籍後は、出入国管理局との協議により在留資格を「留学」から帰国準備の為の「特定活動」に変更し、本学としての帰国指導を終了した。2021年10月までの帰国準備期間は出入国管理局の指導に移管された。もう1名は、中国籍で人間健康学部スポーツ健康学科所属の1年生であったが、他大学(信州大学)への転学の為、自主退学した。

4月には、株式会社村瀬組より「国際交流の目的」とする寄付金50万円を受領した。

6月には、松本市人権・男女共生課より、新型コロナウイルス感染症の為経済困難が予想された留学生向けにお米60kgの寄付を受領、全留学生に配布した。(松本大学広報蒼穹第40号に記載)

12月には、アジア賞日本語作文コンテスト授賞式があり、人間健康学部スポーツ健康学科1年フウ・ウビさんが審査委員特別賞を受賞。短期大学部の中村純子委員が授賞式に出席した。

同月、ドミニカ共和国出身の大学院健康科学研究科留学生(ロサフレテ・エミルセカリナさん)の入国支援を行った。

② 協定校との関係維持・強化

海外渡航が全面禁止となった為、新規協定校の開拓は実施できなかった。その結果、現在の協定大学との関係維持に注力した。活動としては、台湾の義守大学からの2名の交換留学生の送別報告会を7月に実施し、住吉学長他国際交流センター運営委員11名が出席した。本来であれば送別会は、学内での懇親会も含めた報告会であったが、飲食を伴う活動が全面停止となった為、交換留学生の報告会となった。

11月には国際交流クラブ主催の東新大学国際交流センターとのオンライン会議や学生同士による大学生生活の発表をZOOM会議で実施した。

③ 海外研修中の学生支援やコロナ感染症に関わる帰国時の個別サポート

2020年度に海外留学を体験した学生は6名であった。総合経営学部観光ホスピタリティ学科3年生1名(中国河北大学)、人間健康学部スポーツ健康学科2年生1名(韓国実家訪問、その後退学)、教育学部3年生2名(オーストラリアニューカッスル大学、オーストラリアンカソリック大学)、教育学部2年生1名(ブラジルポルトガル語学学校)、短期大学部2年生1名(台湾義守大学)など、合計5か国への留学を体験した。海外滞在中は、新型コロナウイルス感染症に関わる健康管理について個別にサポートを行った。

④ 通常業務の整備・充実

留学生向けの新村寮は経年劣化の為、2020年度を最後に契約解除とした。今後は、波田寮を中心に交換留学生を受け入れ、足りない場合にはその他の宿泊施設の契約を検討する。8月には長野県日中学術交流委員会総会があり、委員長が出席した。国際交流センター業務は、日々の留学生支援と、来日が延期となった交換留学生との連絡のやり取りを強化した。

3) 点検と評価・次年度に向けて <C・A>

今後も松本大学でのオンライン講義に関わる環境整備が続く中、在日留学生や交換留学生への細やかなサポートを続けて行く。本年度は、除籍処分となった留学生1名への支援を総合経営学部のクラス担当教員や国際交流センター職員が日々行ってきたにも関わらず、当該留学生は教職員からの呼び出しに応じず孤立する結果となってしまった。この1年間は新型コロナウイルス感染症対策により様々な行事が中止となってしまった為、対面での指導が難しかったが、今後は留学生と日本人学生との交流をより深めるような工夫も加え、多面的なサポートをして行く。

短期留学プログラムについては、留学を希望する日本人学生に対して引き続き渡航情報も含めた個別の大学の情報提供を続ける。

<執筆担当/国際交流センター運営委員会 委員長 益山 代利子>

7. インターンシップ推進委員会

全学インターンシップ推進委員会は今年度初めて設置された委員会である。そのメンバーは委員長と各学部の代表教員計5名と、キャリアセンターの事務職員で構成されている。その活動の目的は、「松本大学インターンシップ」プログラムに対して、企業開拓、募集・マッチング、事前指導、事後指導といったプログラムを考案するとともに、その遂行に必要なきめ細かな支援・サービスを提供することである。

1) 年度当初の予定 <P>

本年度全学インターンシップ推進委員会の課題は、インターンシッププログラムの構築であった。中でも以下の4点を重要課題とした。

① 受け入れ企業の開拓

インターンシップで重要となるのは学生を受け入れていただける企業の開拓である。本委員会では前年度の倍に当たる約60社を目標に、受け入れ先企業の開拓を行う。

② 学生募集とマッチング

インターンシップ参加を希望する学生を募集するために説明会を開催する計画を立てた。またマッチング作業を効率的に行うために、A)委員長が案を作成した上で委員会がこれを承認する、B)マッチングに当たっては志望動機や学業成績、生活態度、健康状態、学科の意見を総合的に判断して決定する。

③ 事前研修

事前研修では大きく、A)自己紹介書の作成(志望動機と自己PR文の作成)、B)ビジネスマナー研修、の2つを扱う。

④ 事後研修

事後研修では大きく、A)後述⑤の報告会に向けたパワーポイント資料の作成、B)インターンシップ報告書の作成、の2つを扱う。

⑤ インターンシップ報告会

大学祭の中でインターンシップ報告会を開催し、その中でインターンシップ参加者を代表して 8 名が口頭発表を行う。

2) 現状の説明 <D>

① 受け入れ企業の開拓

インターンシップの受け入れ意思を確認するために、企業向けにアンケート調査を実施したところ、60 社弱の企業・事業所から受け入れ承諾の回答を得ることができた。

② 学生募集とマッチング

新型コロナウイルスの影響によりインターンシップの派遣は中止となった。結果として学生募集とマッチングは実施されなかった。

③ 事前研修

上記②の通り、インターンシップの派遣は中止となったため、事前研修は実施されなかった。

④ 事後研修

上記②の通り、インターンシップの派遣は中止となったため、事後研修は実施されなかった。

⑤ インターンシップ報告会

上記②の通り、インターンシップの派遣は中止となったため、インターンシップ報告会は実施されなかった。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 受け入れ企業の開拓、事前研修、事後研修、インターンシップ報告会

新型コロナウイルス感染症の影響によりインターンシップの派遣は中止となった。このためインターンシップ事業は実施されず、点検・評価の結果を検証できない。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

① 受け入れ企業の開拓

次年度は約 60 社の受け入れを実現すべく、活動を行う。

② 学生募集とマッチング

大きな問題は確認されないため、次年度も同様の取組みとする。さらに多くの学生に説明会に参加してもらえるよう、今年度は 2 回の開催であった説明会を 3 回に増やすなど、多くの学生に関心を抱いてもらえるよう改善する。

マッチングにおいては一部の人気企業・事業所に応募が集中する傾向がみられた。また、人気企業・事業所を第二希望、第三希望に記入するといった、実質的には無駄な応募書類が複数確認された。上記への対策として、希望企業欄に記入できる企業数を現行の 3 社から 5 社に増加させ、少しでもマッチングの可能性を高める。同時に第一志望企業群を設け、その中の企業については第一希望でしか記入できないようにするなど、人気企業に希望が集中することを回避する仕組みを導入する。加えてマッチングの際には通勤が可能であるかをきちんと確認するようにする。マッチングの方法については現行において問題は生じておらず、引き続き今年度と同じ方法を用いる。

③ 事前研修

事前研修では計 3 回分をビジネスマナーに充てていたが、次年度は 2 回に減じることとする。

④ 事後研修

事後研修のプログラムを変更の予定である。特に報告会に向けたパワーポイント資料の作成については、そのあり方も含め検討する。

⑤ インターンシップ報告会

従来通り 1 会場 8 名の発表パターンと、複数会場を利用してもっと多くの発表者を設けるパターンの比較検討を行い、今後の報告会のあり方について、引き続き議論していく。

<執筆担当/インターンシップ推進委員会 委員長 上野 隆幸>

B：学生支援

1. 就職委員会

(1) 全学就職委員会

全学就職委員会は、各学部・学科の代表教員と事務局としてキャリアセンター職員で構成されており、その活動の主な目的は、全学的な観点から松本大学・松本大学松商短期大学部の学生の就職活動に対してきめ細やかな支援・サービスを提供することにある。

1) 年度当初の計画 <P>

2020年度の重点課題は以下の通りである。

① 新型コロナウイルス感染症拡大への対応

2020年初頭より懸念されていた新型コロナウイルス感染症拡大が3月に顕在化すると共に、就職活動へも影響を及ぼすこととなった。本年度も、学生の就職活動に対し甚大な影響を及ぼすことは明らかである。これらへの対応につき検討を継続し、適時適切に実施する。

② 組織的意思決定のさらなる推進

前年度に引き続き、組織的意思決定プロセスの明確化を図る。

③ 学生や保護者に対するサービスの向上

インターンシップを含めた就職活動の早期化へ対応するため、以下の事項につき実施又は検討を進める。

- ・低学年からのキャリア教育及び就職に向けた全学的な支援
- ・1年生次アセスメントの効果的な活用
- ・インターンシップの周知、及び進路選択支援としてのキャリア面談の実施時期の検討
- ・学部生全員を対象とした3年生夏季就職対策講座の実施
- ・教育学部を含めた全学部で2年生保護者を対象を含めた説明会の実施

④ キャリア教育と就職活動支援の分離

昨年度においても、各学部におけるキャリア教育と就職活動支援の分離が一定程度進められたが、本年度においても、より一層の検討を進める。

⑤ 企業訪問活動の情報共有

訪問企業及び来訪企業の状況について、引き続き教職員の情報共有を図り、各学部の要望に基づき、企業との関係構築について検討する。また、企業訪問をはじめとするより有効な企業との関係構築と、そのための行動計画について引き続き検討する。

⑥ 留学生への就職支援

昨年度に加入した「かがやき・つなぐ」北陸・信州留学生就職促進コンソーシアムに基づき、各種行事等への留学生参加促進を図る。また、文科省等のイベントやセミナー等を通じて情報収集を図ると共に、留学生対象のガイダンスについては継続して検討する。

2) 現状の説明 <D>

① 新型コロナウイルス感染症拡大への対応

昨年度末に顕在化した新型コロナウイルス感染症拡大の就職活動生への影響は、年度当初より明らかであり、合同企業説明会をはじめとするイベントのキャンセルが相次いだのをはじめとして、

5月末まで、対面での就職活動がほぼ停止状態となった。また、対面での就職活動支援が困難となった。このよう事態を踏まえ、企業説明会や就職支援のオンライン化を迅速かつ円滑に行った。さらに、就職活動に関する情報発信の強化を図ることで、円滑な就職活動支援を行うことができた。

② 組織的意思決定のさらなる推進

昨年度の取り組みに加え、全学就職委員会担当、委員長、事務局を交えた事前協議や意見交換を定期的に行い、委員会運営の円滑化を図った。

③ 学生や保護者に対するサービスの向上

コロナ禍における2021年度卒の就職活動では、オンライン対応をいち早く取り入れるとともに、2022年度卒の就職活動に向けて、支援内容の大幅な変更を行った。

- ・1年生次アセスメントの効果的な活用として、オンラインでの試験、解説を行った。また、2年次へつなげる素地を意識して取り組んだ。
- ・キャリア講義と連携したインターンシップの周知を行い、進路選択支援としてのキャリア面談(学部2年生のキャリア面談)の実施時期を5月から3月に変更した。
- ・学部生全員を対象とした3年生夏季就職対策講座を実施した。本年度においては、オンラインによる集団模擬面接とした。
- ・教育学部を含めた全学部で2年生保護者を対象に含めた説明会を実施した。特に、教育学部においては、コロナ禍ではあるが2・3年生対象に対面で実施した。短大部は映像、それ以外の学部では資料配布を中心として対応した。
- ・その他の新たな取り組みとして、以下を実施した。
 - a) オンラインによる添削指導、面接指導の実施
 - b) LINE 配信やキャリアタスUCを活用したWEB 予約などの導入
 - c) 公務員や教員に特化した業界・仕事理解セミナーのWEB 開催
 - d) 面接対策・ES 添削を兼ねたキャリア面談をオンラインで実施
 - e) 短大における1年前期からの就職支援ガイダンスの実施

④ キャリア教育と就職活動支援の分離

学部においては、3年次の前半から行っている支援内容を大幅に見直した。また、短期大学部においては、来年度からキャリア系講義のガイダンス化を実施することを決定した。

⑤ 企業訪問活動の情報共有

企業訪問について、各学部のニーズを吸い上げて反映する方策を検討したものの、コロナ禍で企業訪問は実施できなかった。しかし、卒業生調査や進路先調査を行い、新入社員の動向や本学学生の評価などを分析した。その結果を踏まえて、12月には初となる企業向け大学キャリアセミナーを開催し、オンラインではあるが本学と企業の関係づくりを推進した。

⑥ 留学生への就職支援

留学生の就職支援について、既存のプログラムの中で支援することをベースとして、必要に応じてガイダンス等の開催を検討した。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 新型コロナウイルス感染症拡大への対応

コロナ禍において、全国的な内定率の低下が見られた一年となったものの、本学における内定率はコロナ禍以前の数値を概ね維持することができた。本学における新型コロナウイルス感染症拡大

への対応が適切であったと評価している。一方で、来年度においても本年度以上の影響が想定されることから、より一層の支援体制構築に向けた取組みも必要である。

② 組織的意思決定のさらなる推進

本年度は、状況が刻一刻と変化する中での意思決定を迫られた一年となったが、意思決定プロセスに支障をきたすことはなかった。

③ 学生や保護者に対するサービスの向上

2021年卒就職活動では、6月頃までは内定者が大幅減少であったが、オンラインでの支援なども浸透し、10月には昨年を上回る内定率となった。第2次中期計画の今期KPIも達成見込みである。

昨年度比で、インターンシップエントリー企業数は大学で180%アップ、短大で400%アップとなっている。また、夏季就職対策講座により、オンライン面接への対応、ES対策が早期からでき、これまで以上に3年次までの自己分析アセスメントを活用することができた。

コロナ禍とニューノーマルな就活スタイルに対応するため、対面だけによらない学生コミュニケーションや支援を拡充でき、学生の主体的な活動を支援できた。

ただし、基礎教育センターに依頼していたSPIの対策講座についてはコロナ禍の影響により実現ができなかった。

④ キャリア教育と就職活動支援の分離

学部においては、就職支援内容の大幅な見直しにより、授業とガイダンス、セミナーが有機的に連携でき、学生の就活意欲向上につながった。また、短期大学部においては、来年度からのキャリア系講義のガイダンス化の実施が決定し、キャリア教育と就職活動支援の分離がより明確なものとなった。

⑤ 企業訪問活動の情報共有

コロナ禍で企業訪問が実施できなかったものの、対面のみ企業訪問に頼らない、新たな関係構築に向けての取組みを開始できた。まずは企業向け大学キャリアセミナーを開催することで、65社80名に参加いただき、本学について理解を深めていただくことができた。こうした取組みから派生した新たな企業開拓により、県内優良企業の本学主催説明会への参加が実現できた。

⑥ 留学生への就職支援

コロナ禍により、留学生の就職支援として予定していたガイダンス等の開催や外部ガイダンスの活用はできなかったものの、短期大学部の留学生2名は無事内定を得ることができた。

4) 次年度に向けた対応 <A>

① 新型コロナウイルス感染症拡大への対応

来年度においても、新型コロナウイルス感染症拡大は継続することが予想されている。学生の就職活動に対し甚大な影響を及ぼすことは明らかであるため、これらへの対応につき検討を継続し、適時適切に実施する。

② 学生や保護者に対するサービスの向上

インターンシップを含めた就職活動の早期化への対応として、低学年からのキャリア教育及び就職に向けた、全学的な以下の支援を更に強化する。

- ・1、2年次のアセスメントを用いた自己分析とキャリア意識の向上
- ・学部2年生へのインターンシップ導入などの検討
- ・学部生3年生、短大1年生への就職対策講座の拡充

- ・オンライン、オンデマンド対応を対象に含めた保護者説明会の実施
- ・対面での指導も併用した、人員と環境の整備
- ・基礎教育センターと連携したS P I 対策講座の実現

③ 留学生への就職支援

新型コロナウイルス感染症拡大の状況を睨みながら、留学生のニーズを把握して、関係各局と連携して先回りした支援を行う。

④ 企業との連携

卒業生調査や進路先アンケートの結果を活用し、企業の採用動向につき検討を行う。また、採用依頼型から提案型への関係構築を目指し、協働して地域課題解決に協力いただける企業を開拓していく。また、本年度初めて実施した大学キャリアセミナーを定期開催として実施していく。

＜執筆担当／全学就職委員会 委員長 木下 貴博＞

(2) 総合経営学部就職委員会

総合経営学部就職委員会は本学部教員6名とキャリアセンター事務職員で構成されており、その活動の主な目的は全学就職委員会との連携により、本学部生の就職活動に対してきめ細かな支援を行うことである。

1) 年度当初の計画 <P>

2020年度における本委員会の重点課題は、以下の通りである。

① 学生のニーズに合わせた就職支援のさらなる充実

2019年度における本学部の就職内定率は98.2%と高い数字となっており、この水準を維持・向上していく必要がある。同時に、学生が納得のいく就職活動及び就職先の決定ができる環境を整えていく必要があることから、本学部のクラス担当へのきめ細やかな情報提供とサポートを行っていく。更には、昨年度末からの新型コロナウイルス感染症の拡大により就職活動を取り巻く環境は厳しくなることが予想されるため、教職員による学生へのケアの充実を図っていく。

② 就職支援講座等の充実と新規プログラムの検討

昨年度、全学就職委員会の意思決定によって夏期就職合宿の見直しを行い、学部3年生全員を対象としたプログラムに変更し、今年度はそのはじめての実施となる。その他、保護者就職説明会やキャリア面談といったプログラムが予定されているが、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響がある中でも、有益なものとして実施していく必要がある。合わせて、新たな支援プログラムの可能性についても検討していく。

③ インターンシップ推進委員会との連携

近年の就職活動におけるインターンシップの重要性に鑑み、インターンシップ推進委員会との連携のあり方について摸索していくとともに、積極的にインターンシップに参加する学生を増やしていく。

2) 現状の説明 <D>

上記の当初計画に対する実施状況は、以下の通りである。

① 学生のニーズに合わせた就職支援のさらなる充実

クラス担当教員に対し、全学就職委員会及び本委員会の議事、キャリア関連科目における情報を、キャリアセンターを通じて定期的かつ詳細に提供した。また、年度当初からの新型コロナウイルス感染症の拡大による影響に鑑み、全学就職委員会で決定されたヒアリングシートにもとづき、4年生へ就職活動の状況や不安等の丁寧な聞き取りを本学部においても実施した。さらに、11月にはクラス担当教員とキャリアセンターとの情報共有の場を設け、今後の就職支援のあり方やキャリアセンターからの情報発信等について協議を行った。

② 就職支援講座等の充実と新規プログラムの検討

夏期就職合宿に代わる夏期就職対策講座は、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響から、学内での対面による実施ではなくオンラインでの実施となった。そのこともあり、本委員会として直接的に講座に関わることはなかったものの、参加学生による講座への満足度は非常に高いものであった。保護者就職説明会も同様に対面での実施は見送られたため、資料等の送付によって保護者への説明とした。このほか、12月には観光ホスピタリティ学科就職委員による企画として、卒業生による職業人としての経験や業界についてのセミナー「長野県で活躍する卒業生に聞く：観光業界の今」（キャリアセンター共催）を実施した。セミナーは対面とオンラインの併用で開催し、観光ホスピタリティ学科学生に限らず、全学部3年生と短期大学部1年生を対象として実施した。

③ インターンシップ推進委員会との連携

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、4月には松本大学インターンシップの中止が決定された。そのため、インターンシップ推進委員会との連携について具体的な取組みを行うことはできなかった。

3) 点検・評価の結果<C>

上記<D>の取組みに対する点検・評価については以下の通りである。

① 学生のニーズに合わせた就職支援のさらなる充実

2020年度において、本学部就職内定率は97.8%と高い水準を維持することができた。新型コロナウイルス感染症拡大による影響があつた中でも高い就職内定率を得ることができたことは、学生の努力はもちろんであるが、それを丁寧に、かつ継続的に支えたクラス担当教員を含む学部教員とキャリアセンタースタッフによる取組みの結果であると思われる。一方で、感染症拡大防止のため、学生に対して対面による指導・支援の機会が限定されてしまったことにより、きめ細やかな指導・支援が難しい場面も見受けられた。

② 就職支援講座等の充実と新規プログラムの検討

夏期就職対策講座や保護者説明会等、多くのプログラムがオンラインや資料送付での実施となった。そのため、対面での直接的なやり取りによる学生の変化への気づきやそれにもとづく指導・支援、保護者への丁寧な情報提供に困難がみられた。一方で、オンライン会議システムの活用により、学生のプログラム参加への機会の確保、卒業生によるセミナーの実施等、対面実施が困難な状況だからこそその工夫や新たな試みを実施することもできた。

③ インターンシップ推進委員会との連携

2020年度においては、松本大学インターンシップが中止となったため、本委員会として具体的な取組みは実施できなかった。しかし、就職活動に占めるインターンシップの重要性の高さは変わらず、また、学生のインターンシップ参加へのニーズは引き続き高いことから、インターンシップ推

進委員会との連携について、本委員会から全学就職委員会への働きかけを行っていく必要があると思われる。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

上記の点検・評価にもとづく次年度への改善については、以下の通りである。

① 学生のニーズに合わせた就職支援のさらなる充実

次年度においても、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響は続くものと思われる。そうした状況においても、高い就職内定率を維持・向上させていくために、引き続き本委員会・キャリアセンター・クラス担当教員間での情報共有や連携強化を図っていく。そこでは、オンラインでの学生への指導・支援における課題や効果的な方法についても共有し、改善を図っていく。また、就職活動を取り巻く環境は今後も厳しいことが予想されるため、就職支援を担当する教員のみならず、学部教員全体において学生への支援の意識の醸成を図っていく。

② 就職支援講座等の充実と新規プログラムの検討

例年実施されているさまざまなプログラムのあり方について、引き続き検討していくとともに、今年度新たに企画・実施したセミナーのような学部・学科の特徴を打ち出した支援プログラムを検討していく。

③ インターンシップ推進委員会との連携

引き続き、インターンシップ推進委員会との連携について摸索していく。また、本学部学生のニーズに応じたインターンシップ受け入れ先企業の開拓について検討し、インターンシップ推進委員会に要請していく。

④ その他

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、対面による学生への指導・支援が難しくなることも考えられる。引き続き、きめ細やかな指導・支援のあり方について担当者間で検討するとともに、就職活動に困難を抱える学生へのケアを図っていく。

<執筆担当/就職委員会 総合経営学部主任 今村 篤史>

(3) 人間健康学部就職委員会

1) 年度当初の計画 <P>

① 就職先の開拓

両学科共に、専門分野における就職先の開拓を進めていくことが重要である。特に資格を生かした分野の就職先は、まだ多くはないため、学部教員とキャリアセンターの連携（企業訪問等）及び情報の共有を密にしていく必要がある。また、次年度は教育学部も卒業生を輩出するようになることから、人間健康学部の教職希望者と併せて、教育系の進路を希望している学生の支援について、教職センターとの連携を深める。

② 就職活動支援の見直しの継続と改善

2020年度は、今年度の就職活動支援の状況を踏まえ、2・3年生向けの就職活動支援関連の諸行事について、キャリア面談や夏季就職対策講座を中心に実施時期や実施形態を見直して実施する。また、合同企業説明会、保護者就職説明会や就職活動対策講座、就職活動直前対策講座等のあり方

や内容についても昨年度の見直しを踏まえて、実施する。よりよい就職活動支援の実現に向け、引き続き就職活動支援のあり方、その実施形態や内容等について検証し、改善に努める。

③ 「納得した進路決定」に向けて

2019年度は、比較的売り手市場の状況であり、「就職内定時期の適正化」と「納得した進路決定」の両立を目指した。しかし、2020年度は、新型コロナウイルス感染症の流行や東京オリンピック・パラリンピック延期による経済界への影響は想像できないものがある。そのため、就職活動への意識を例年以上に高められるよう、より一層の努力と工夫をし、「納得した進路決定」に繋がるよう、きめ細やかな相談・支援を行う。メソフィア入力が可能となった学生の就職活動状況調査を有効活用するなど、ゼミ担当とキャリアセンターとの連携を今まで以上に密にしていく。また、近年の就職活動ではインターンシップが重要な役割を担いつつあることを踏まえ、インターンシップ推進委員会との連携も強化する。

④ 新型コロナウイルス感染症流行による就職活動への影響の軽減

2019年度は、就職活動が本格化しようとする矢先に新型コロナウイルス感染症流行により、予定していた幾つかの行事の中止を余儀なくされた。就職活動を行う学生の焦りや不安を解消するため、キャリアセンターで迅速かつ適切な対応をし、学生の就職活動の支援を行うことができたが、2020年度も引き続き対策を講じていく。

2) 実績・現状 <D>

今年度、人間健康学部就職委員会が行った主な就職活動支援に関わる取組み概要（学年別に列挙）は、表1のとおりである。また部会は9月、11月、12月に開催した（3回）。

表1. 就職活動支援に関わる取組み概要

	前期（4月～9月）	後期（10月～3月）
2年		キャリアデザインⅠ（必修）
		保護者就職説明会（11月資料送付）
		キャリア面談（3月）
3年	キャリアデザインⅡ（必修）	就職支援ガイダンス
	夏期就職対策講座 公務員インターンシップ 業界研究セミナー（公務員・教員）	保護者就職説明会（11月資料送付） 企業・業界研究勉強会（10月～12月） 先輩の就活体験談（1月） 学内合同企業説明会（2月、3月） キャリア面談（3月） ウェブサイトでの面接支援
4年	各ゼミ担任によるヒアリングの実施→キャリアセンター職員による個別支援 合同企業説明会 個別履歴書添削相談・個別面接練習・集団面接練習・キャリア面談（必要者のみ）	

① 4年生に対しての就職支援

- ・ゼミ担当による就職活動状況調査、ヒアリングの実施（キャリアセンターとの連携）
- ・合同企業説明会、及び単独企業説明会への参加促進

② 3年生に対しての就職支援

- ・前期必修講義「キャリアデザインⅡ」、後期「就職支援ガイダンス」

- ・希望制講座の実施（夏季就職対策講座）、企業・業界研究勉強会
- ・保護者就職説明会の資料作成・送付
- ・新型コロナウイルス感染症対策に伴う就職支援活動の見直しと対応
- ・キャリア面談

③ 2年生に対しての就職支援

- ・後期必修講義「キャリアデザインⅠ」
- ・キャリア面談（2月）
- ・保護者就職説明会の資料作成・送付

3) 点検・評価の結果 <C>

① 就職先の開拓

両学科共に、専門分野における就職先の開拓を進めることを目標としたが、コロナ禍でキャリアセンター職員による企業訪問ができなかった。しかし、卒業生調査や進路先調査を実施していただき、その分析に基づいて企業向け大学キャリアセミナーが開催されたことで、従来とは異なる大学と企業の関係性の構築が達成された。

② 就職活動支援の見直しの継続と改善

本年度は夏季就職合宿に代えて、夏季就職対策講座を実施した。多くの学生が参加し、コロナ禍におけるオンライン面接への対応、ES 対策を早期に実施でき、自己分析アセスメントの有効活用が可能となった。様々な行事がコロナによりオンライン開催となったが、その影響を最小限に抑えるべく、キャリアセンター職員、就職委員、ゼミ担当者が情報共有を図り、臨機応変に対応した。保護者就職説明会の開催を中止し、資料送付のみとした。企業・業界研究勉強会もオンラインで実施されたが、就職に対する学生の意識を高めるのに有益であり、先輩学生の就活体験談も好評であった。

③ 「納得した進路決定」に向けて

本年度の前半は、新型コロナウイルス感染症の影響により就職活動が進まない状況が続き、不安を抱く就活生も多かった。就職活動の進捗状況や学生の不安等を早急に把握すべく、ゼミ担任を通じて全員にヒアリング調査を実施し、心配な学生に対してはキャリアセンター職員による丁寧な個別対応をしていただいた。また、就職活動が困難な学生に対しては、継続的な支援をしていただき、最終的には多くの学生が内定に至った。ゼミ担任とキャリアセンターとの良好な連携は概ね図られたと思われる。ただ、今年度は大学のインターンシップが中止されたため、インターンシップ推進委員会との連携については今後の課題である。

④ 新型コロナウイルス感染症流行による就職活動への影響の軽減

コロナ禍での就職活動をなるべく円滑に進めるため、様々な行事や支援活動がオンライン開催となったが、キャリアセンター職員の方々の精力的な取組みのおかげで、昨年と比較して参加率が上昇した行事や支援活動もあり、なんとか1年間を過ごすことができた。来年度はさらに就職活動が困難になる見込みであり、適切な支援の強化が求められる。

⑤ 就職状況

人間健康学部卒業生の就職内定率は98.6%（就職内定者143名／就職希望者145名、学科別：健康栄養学科100.0%・スポーツ健康学科97.3%）、と継続して高い数字を維持している（過去3年間：2019年度97.4%、2018年度99.4%、2017年度99.3%）。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

① コロナ禍での就職活動における適切な支援

今年度の就職活動支援を振り返って、以前より改善され成功した支援については今後も継続し、最適な支援の形を検討する。新入生のキャリア面談が実施できないことから、来年度始まるヒアリング調査に基づき、教務課と連携して学生支援に努める。ゼミ担当とキャリアセンター職員の情報共有にも引き続き力を入れ、学生一人一人が納得できる就職ができるよう支援する。

② インターンシップ推進委員会との連携

本年度できなかったインターンシップ委員会との連携を図る。

③ 就職先の開拓

コロナ禍では難しい状況であるが、専門分野における就職先の開拓について今後の課題として取り組む。

<執筆担当/就職委員会 人間健康学部主任 福島智子>

(4) 教育学部就職委員会

教育学部就職委員会は、本学部の教員5名と、キャリアセンター職員2名の計7名により構成され、全学就職委員会の方針を踏まえ、本学部の就職支援体制について検討・実施を行った。

1) 年度当初の計画 <P>

2020年度の教育学部事業計画は2019年度から引き続き「教員以外の進路を含めた第一志望への進路実現の向上を目指す」とともに、「教員を志望しない学生が新たな可能性や進路を見出せる」である。

一点目は学生の実態把握と適切な情報提供である。どの学年にも一般就職や公務員就職を希望する学生がおり、昨年度から増加傾向であるからである。4期生である1年生の希望調査も行いつつ、適切な情報提供と支援を継続する。

二点目は、カリキュラムの検証である。キャリア教育と就職指導の位置づけの区別という観点から関連部署とも連携し、キャリアデザインⅠ・Ⅱの授業内容及び、就職支援ガイダンスの内容について全学の方向性と合わせ、学部の独自性を持たせる方向で探っていく。

三点目は「保護者就職・進路説明会」の実施である。初めて開催した2019年度の対象保護者は3年生のみであった。2020年度は初めて、2,3年生の保護者が対象となり、かつ初の卒業生が出る年となる。早い時期から検討を重ね、実施後は調査を行って次年度の方向性を明らかにする。

2) 現状の説明 <D>

教育学部就職委員会では全学の取組みを受け、教育学部の特性を生かしながら、就職支援の在り方について以下のような観点で討議した。

① 就職支援の在り方の検討

就職支援センターやゼミ担当教員と連携し、学生の進路に関するアンケート調査の結果から、就職と一般就職の間で悩んでいる学生や、一般就職を強く希望している学生を早い段階から把握し、全学的な就職支援の情報を提供していく。6月には1年生から3年生までのキャリアアンケートを実施し、実態把握を行った。

② ゼミ担当教員と連携した就職支援

新型コロナウイルス感染症予防対策のために、学生が自由に来学できない中、ゼミ担当や就職委員を通じて学生の動向を調査した。特に1期生の公務員・一般就職志望者と、2期生の春休みの支援については強化し実施した。

③ キャリア系科目と就職支援ガイダンスの検討

カリキュラムの骨子は全学共通であるが、教員希望者が多数いる実態を踏まえ、教師が行う児童・生徒に対するキャリア教育の視点を含んだ内容や、教員採用試験で提出する履歴書等を適宜用いつつ、全講義を展開した。また感染症予防対策のために、前期の教育実習が後期以降に延期されたことから、3年生の「就職支援ガイダンス」において当初予定の変更を行った。

3年生後期の「就職支援ガイダンス」については、前年度は「全員出席のガイダンス日」「一般就職・公務員就職希望者中心のガイダンス日」の2本立てとし選択制にしていたが、2019年度の点検の結果を受け、全員出席とした。

④ 保護者就職説明会の実施

感染症予防対策を講じつつ、当初予定の10月から繰り下げ、11月28日に対面型で実施した。出席者は事前申込制で、家族二人までとし、その他検温や席の配置など基本的な感染症予防を徹底した。

全学での対面による説明会が実施されなかったことを受け、第1部として全体説明・一般就職について説明し、第2部で教員採用の動向について説明した。説明会後の個別相談会において教員、事務局、他学部教員と共に一対一で対応した。

⑤ 学生の進路に関する情報共有

学生の進路に関する実態把握として、これまで教職センターやキャリアセンターが学生にアンケート調査を行ってきたものを統合した。入学時には教員志望だった学生が一般就職や公務員就職へと希望が移行する場合があります、その変化も把握するため約半年ごとに実施した。

3) 点検・評価の結果 <C>

教育学部としては教職を希望する学生が多いが、免許取得をした上で一般就職を希望する学生も増加の傾向にある。コロナ禍ゆえの就職口の縮小化及び就職活動の早期化にともない、7月を中心とした教員採用試験日とますます離れる傾向がある。進路に悩み、一般・公務員への就職活動と教員採用試験の勉強を同時進行で行うには、適切な情報提供と学生自身の努力が不可欠であり、ゼミ担当の支援もまた就職の早期化に伴い、今後、教職センターとキャリアセンターの連携が一層、不可欠である。

① 就職支援の方向性

アンケートの実施により、学生の実態把握ができています。全体の傾向としては、教員のみから、考え中の学生、留学や大学院進学も視野に入れている学生が増えつつあることを把握することができた。

② ゼミ担当教員と連携した就職支援

1期生と2期生については、ヒアリングシートを活用し、ゼミ担当教員から聞き取りを実施した。1期生については、コロナ禍で就職活動の進みづらいため4月から7月にかけて実施し、内容によってはキャリアセンターにつないだり、学科長とも情報共有を行ったりしてきた。2期生については2、3月に実施し、進路選択に悩む学生へのケアや、企業説明会への出席の促しとして効果が出ている。

③ キャリア系科目と就職支援ガイダンスの運用

「キャリアデザインⅡ」の開講時期、授業担当者及び内容について明確になった。2期生からは、希望進路に関わらず全15回のガイダンスの出席を義務付けた。学生の就職ガイダンスアンケート結果は、5段階評価で平均4.54であったことから高い満足であった。

④ 保護者就職説明会の実施及び評価

全体会の参加は36世帯、そのうち個別相談会の参加は、10世帯であり、アンケート回答結果として、大変満足50%、まあまあ満足50%（あまり満足していない、満足していないとも0%）という結果が出ている。2021年度については3学部にて実施予定であることから、2020年度に実施した第1部、第2部の内容を整理し、全学の説明会との整合性をとりつつ、学部独自の内容について整理していく必要がある。

⑤ 学生の進路に関する情報共有

進路に関するアンケートの結果は、学科会にて教員に周知し、ヒアリング等につなげることができた。ゼミ担当教員にとっては、入学時から行われているキャリア面談の結果と合わせ、ゼミ学生の変化を把握する材料となっている。今後も一般就職・公務員試験の時期と、教員採用試験の時期のずれから個別の支援が必要である。

4) 次年度に向けた対応 <A>

新型コロナウイルス感染拡大・縮小の傾向が不透明な現状では、状況を注視していく必要がある。就職活動は前倒しされオンライン化の傾向が強いが、教員採用試験の時期は6～7月のまま、形式も対面中心である。このような学生が混在している本学部では、全体へはカリキュラムに乗っ取った支援を行いつつ、個別では、細やかな支援が不可欠であり、ゼミ担当教員・キャリアセンター・就職委員の連携の必要性は今後も高いと言える。

2, 3年次保護者を対象として初めて行った「保護者就職・進路説明会」では、教員採用とそれに向けた取組みの報告が中心となり成果は出た。2021年度に向けては現状の枠組みをとりつつ、第1部・第2部の内容について検討を継続する。

2021年度でありは学部開設5年目を迎え、学部のキャリア教育の定型化に向けた話し合いが必要である。学校の教員になることを夢みて入学してきた学生の一定数が、一般就職・公務員希望へ移行する傾向は2020年度も見られた。逆に、コロナ禍による採用抑制の動きから、今後も学生が入学した時の社会情勢と、卒業時の社会情勢が大きく変化している可能性は高い。学部生自身がその学生生活を通して自己理解を深め、進路決定していく4年間といえる。

このことを考えると、教育学部4年間のキャリア教育は、一時期に集中するのではなく継続的に、そして柔軟に実施していくことが望ましい。具体的には、ロングのキャリア科目の設定がない1年次の1年間、そして2年次前期の半年間において、学部のカリキュラム配列を鑑みながら、的確な時期にキャリア教育を位置付ける必要がある。1年次と3年次のPROGテスト及び2年次4年次のGPSテストの継続的な実施に加え、先輩学生を活用した後輩への情報提供など、学部教務委員会と連携しながらのキャリア教育が不可欠である。

2021年度入学生である5期生からは、主免許状として中等教諭免許状（英語）が取得できるカリキュラムとなった。3ポリシーを見据えたキャリア教育について、学部教務委員会や教職センターと連携しながら体系し、立案と検証をくりかえしながら議論を進める。

（執筆担当／就職委員会 教育学部主任 國府田 祐子）

(5) 松商短期大学部就職委員会

就職委員会は、キャリアセンターをはじめとする各事務局と教員の連携を図り、進路支援プログラムの作成・実施を行う組織として設置され、2020年度、教員3名、事務局2名の計5名で構成され、計12回の会議を設けて、進路支援にあたった。

1) 年度当初の計画 <P>

2019年度においては、経済情勢の安定傾向が継続し、短期大学部学生の就職状況も過年度同様好調に推移した。結果として、内定率は98.6%と昨年度より更に高い数値となった。しかしながら、本年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大が就職活動へも影響を及ぼすこととなったため、対応につき検討を継続し、適時適切に実施することを目指すこととした。また、より一層、就職活動時期の早期化が進み、学生の負担の増加や就職活動への出遅れが懸念された。このような情勢を踏まえ、本年度における重点課題を以下の通りとした。

① 新型コロナウイルス感染症拡大への対応

2020年初頭より懸念されていた新型コロナウイルス感染症拡大が2019年度3月に顕在化するとともに、就職活動へも影響を及ぼすこととなった。本年度も、学生の就職活動に対し甚大な影響を及ぼすことは明らかである。これらへの対応につき検討を継続し、適時適切に実施する。

② より充実した就職活動支援の実施

本学学生の中には集団面接、集団討論で埋没してしまう者が多いと思われ、その対策として集団面接の面接練習を行っているが、本年度も、実施方法についての改善に取り組む。

③ 不活発な学生に対する就職活動支援の強化

学生の就職活動の活発化については、就職活動開始が遅い未内定学生に対して卒業間際まで就職支援が行えるようにし、特に未内定者への個別のヒアリングの実施回数を増やし、個々の事情に合わせた就職支援を行ってきたが、この成果も着実に表れているため、本年度も継続していく。

④ キャリア教育と就職活動支援の分離

就職支援を主目的とするキャリア科目については、キャリア教育からのより明確な分離という観点から、正規科目ではなくガイダンス化の検討を行う。

⑤ インターンシップの内容の充実化と参加促進

インターンシップ単位化2年目を迎える本年度においては、2019年度の結果を踏まえ、募集時期や実施内容につき再検討するとともに、参加促進を図る。

2) 現状の説明 <D>

短期大学部における進路支援は多岐に渡っており、これは大きく分けて、①キャリア系講義及びガイダンス、②インターンシップ、③面接練習及び就職相談、④キャリア面談、⑤資格取得、⑥ゼミ担当教員による個別指導という6つから構成されている。これらの進路支援のうち、①の一部及び③、④については、「就職委員会」及び「キャリアセンター」がその中心的役割を担っている。本学キャリアセンターが収集した情報は、キャリア系講義内で、学生に周知徹底される。なお、キャリアセンター内では、さらに細かい情報や、卒業生の就職活動報告書を整備し、学生はこれらの豊富な情報をいつでも閲覧可能である。最新の情報は、就職委員会で逐次把握するとともに、学生の応募状況や就職内定状況等の情報をすべての教員・事務局と共有することで、状況に即応できる体制を構築している。

また、重点課題における現状は以下の通りである。

① 新型コロナウイルス感染症拡大への対応

昨年度末に顕在化した新型コロナウイルス感染症拡大の就職活動生への影響は、年度当初より明らかであり、以下のとおりであった。

- ・2月以降の合同企業説明会をはじめとするイベントのキャンセルが相次いだ。
- ・5月末まで、対面での就職活動がほぼ停止状態となった。
- ・対面での就職活動支援が困難となった。

以上を踏まえ、入構禁止期間において以下の対策を講じた。

- ・5月中旬までの期間において、就職活動に関する支援動画を月1回配信した。
- ・5月中旬以降、毎週オンライン講義を実施し支援活動にあたった。
- ・6月以降2回の対面によるガイダンスを行い、ヒアリングを実施した。

また、保護者に対しては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により11月に予定していた保護者就職説明会を実施することができなかつたため、資料を各家庭に送付するとともに、従来行ってきた説明会の内容をオンライン動画として配信した。

② より充実した就職活動支援の実施

まず、2年生の就職活動支援については、1、2学期においてはオンラインでの実施となった。3学期からは、就職活動支援が通常授業内で展開されることとなったため、オンラインと対面を併用した就職相談・面接練習機会の増加、就職委員会からのゼミ担当教員に対する積極的な情報提供、キャリアセンター職員による企業開拓、情報整理等、様々な支援を展開した。また、キャリアセンターから電話による未内定者に対するヒアリングを常時実施し、支援に努めた。

1年生の就職活動支援については、新しく正規科目外の講座として就職ガイダンスを前期中に実施し、就職活動の早期化に対応することとした。また、就職活動開始に先立って行われる面接練習を、本年度はゼミ別のオンライン面接練習として実施した。

また、基礎学力の高い学生から低い学生まで多様な学生の入学に対応するため、Eラーニングを実施して入学前から基礎学力向上に力を入れた。

なお、正規科目以外には、キャリアセンターが主催する「業界研究勉強会」への参加を短大1年生に促したが、これは多様化する進路先に対しての理解をより一層深め、ミスマッチの解消を狙うことが目的である。

③ 就職活動が長期化した学生に対する就職活動支援の強化

就職活動が遅い未内定学生に対して当初計画通り、ヒアリング及び個別相談を3回実施するとともに、間近に迫った卒業までの間に行う就職活動についての講座も2回に渡って実施し、卒業間際まで就職支援を行えるようにした。

④ キャリア教育と就職活動支援の分離

従来のカリキュラムにつき検討を行った結果、次年度より、これまで正規科目であったキャリア系講義のうち就職活動支援に当たるものについては、正規科目外のガイダンスとして実施することを決定した。

⑤ インターンシップ単位化に伴うインターンシップ推進委員会との連携

新型コロナウイルス感染症拡大のため、本年度におけるインターンシップは実施されなかった。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 新型コロナウイルス感染症拡大への対応

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、全国の短大における内定率の低下が深刻なものとなった一方で、松商短期大学部における内定率はコロナ禍以前の数値を概ね維持することができた。新型コロナウイルス感染症拡大への対応を年度当初より迅速に行った結果であると評価している。一方で、次年度においても本年度以上の影響が想定されることから、就職活動支援をより一層手厚いものにしていく必要がある。

② より充実した就職活動支援の実施

内定率については、学生の就職希望先企業・業種の多様化に対応するよう積極的に学生に働きかけた結果、2018年度の97.9%、2019年度の99.5%に引き続き、96.6%（2021年3月29日現在）と高い数値で学生を社会に送り出すことができた。この結果は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けながらも、1年次から引き続くキャリア面談や業界研究、マナー研修をはじめとするキャリア支援プログラムと共に、キャリアセンター職員やゼミナール教員による手厚い個別指導により、不安解消とサポートを充実させた成果であると考えている。

③ 就職活動が長期化した学生に対する就職活動支援の強化

内定を得ていない学生へのヒアリング、ガイダンス等を計3回実施したことにより、学生個々の就職活動状況をよりきめ細やかに把握することができた。

④ キャリア教育と就職活動支援の分離

次年度より、就職活動支援が正規科目外のガイダンスとして実施されることとなったことで、キャリア教育と就職活動支援の分離が明確にされた。

⑤ インターンシップ単位化に伴うインターンシップ推進委員会との連携

インターンシップ中止により、点検・評価は行わない。

4) 次年度に向けた対応 <A>

次年度においても、新型コロナウイルス感染症の拡大が継続することが予想される。また、事実上の就職活動開始時期は2021年3月と変更はないが、企業の優秀な学生を確保したいという意欲が高まっていることから、本年度同様、より一層の就職活動の早期化（内定時期の早期化）が予想される。これらの情勢を踏まえた次年度の重点課題は、以下の通りである。

① 新型コロナウイルス感染症拡大への対応

本年度の経験をもとに、どのような状況にも対応できるよう、検討を継続し、適時適切に就職活動支援を実施する。

② より充実した就職活動支援の実施

本学学生の中には集団面接、集団討論で埋没してしまう者が多いと思われ、その対策として集団面接の面接練習を行っているが、新型コロナウイルス感染症の拡大への対応から、オンラインでの実施となったため、次年度の対面による面接練習の実施方法についての検討を進める。

③ 不活発な学生に対する就職活動支援の強化

未内定者への個別のヒアリングに加え、本年度においては、キャリアセンター職員の個別の電話によるヒアリングも行った。これらの就職支援は、次年度も継続していく。

④ インターンシップの内容の充実化と参加促進

次年度においては、新型コロナウイルス感染症の拡大が継続しているものの、インターンシップは実施予定である。次年度においては、引き続き、募集時期や実施内容につき再検討するとともに、

参加促進を図る。

＜執筆担当／就職委員会 短期大学部主任 木下 貴博＞

2. 学生委員会

(1) 全学学生委員会

各学部から選出された委員と学生課職員によって構成され、8回の定例委員会と1回の臨時委員会を開催し、学生生活全般の支援及び相談にあたった。特に今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、大学生活を送る上で様々な制約があり、学生はこれまでとは全く違う学生生活を余儀なくされたこともあり、本委員会の活動も例年とはかなり違ったものとなった。

1) 年度当初の計画 <P>

教育学部が完成年度を迎え、およそ2,200名の学生が在籍することとなり、これまで以上に多様な活動の展開が期待された。そこで、本委員会としては大学教育において学生の人間的成長を促すためには、正課教育と課外活動のバランスが重要であるという立場から、学友会、クラブ活動等の課外活動をはじめ、学生による諸組織、団体の活動の活性化を図るとともに、それらが適正な活動となるよう支援並びに指導をしていくことを目指し、以下の重点項目を定めた。

同時に、新型コロナウイルス感染拡大による影響は計り知れず、学生の大学生活、それに伴う学生委員会の活動についても予測不可能な状況であることから、これまでの学生委員会の実績を踏まえながらも、柔軟な対応を心掛けた。

- ① 学友会、クラブ活動等の課外活動、その他学生による諸組織・団体の活動に対する支援・指導
- ② 奨学金、授業料免除等経済的支援
- ③ 学生支援（相談）に関する調整
- ④ その他

2) 現状の説明 <D・C>

① 学友会、クラブ活動等の課外活動、その他学生による諸組織・団体の活動に対する支援・指導

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、年度当初から6月までは学生の構内への立ち入りができず、その後も学生の構内への立ち入りをはじめ、学友会活動やクラブ活動等に関する制限がなされた。それに伴い学生委員会の活動内容も大幅な変更を余儀なくされる中、新型コロナウイルス感染予防対策を中心に次のような活動を行った。

a) コロナ禍におけるクラブ活動・学友会活動実施に向けた安全配慮

- ・「新型コロナウイルス感染症対策本部会議」の指針及びスポーツ庁のガイドラインを踏まえた「体育施設使用条件」を策定した。
- ・クラブ活動実施に伴い「活動計画申請書」「対外的活動計画書」の提出、Teamsを使った活動計画の提示などにより、全学的なクラブ活動の実施状況の把握に努めた。
- ・運動系クラブについてはUNIVAS（大学スポーツ協会）から無償提供された健康管理アプリ「ワンタップスポーツ」を、文化的クラブについては本学の「健康チェック表」（その後、文化系クラブも健康管理アプリの使用が可能になった）などを利用し、部長がクラブ活動に参加する学生の健康管理に努めた。

- ・梓乃森祭の通常開催は困難であると判断し、非公開開催、縮小開催など様々な論議を経て、学友会役員の意向を尊重してオンライン開催とした。
- ・学生大会の開催ができず、学友会役員の確定、予算決算の審議ができなかったことから、ゼミ担当教員に協力を仰ぎ、Teams を利用して書面議決を取ることとした。
- ・前期の間、一部の学生を除いてほとんどクラブ活動に参加できなかった1年生を対象に、クラブ紹介・勧誘を昼休みを利用して実施した。
- ・「クラブ・サークル代表者会議」をオンラインで開催した。

b) クラブ活動充実に向けた指導者の増員

新型コロナウイルス感染対策の一環で部長の帯同等が義務付けられたため、当該教員の負担が増大したことに伴い、学外指導者を含む指導者の増員を図り、安全に配慮したクラブ活動が実施できるようにした。

- ・カテゴリーの違う3チームに分かれ、それぞれが別のリーグ戦に参戦しているサッカー部は、これまでにも指導者（引率を含む）が不足していたことから、新たにコーチを採用し、指導者の増員を図った。
- ・茶道部は前任サポーターが退任したことに伴い新たな学外指導者を採用することとした。
- ・女子ソフトボール部（トレーナー）、ハンドボール部、陸上競技部、女子バスケットボール部、バレーボール部、ダンス部、テコンドー部に新たに外部指導者を採用した。

c) クラブ活動の適正な活動

- ・クラブ・サークルの部長（顧問）の選出方法が曖昧で、一人が複数の部長を受け持つケースも多く、過重負担となっていたため、学生に対しても部長の就任依頼など、主体的に取り組ませることで、教職員と学生がお互いに気持ちよく活動できるような制度への転換を目指した。
- ・松本大学強化部内規第5条（指定の継続）に基づき、審議を行った結果、硬式野球部、男子サッカー部の強化部及び、陸上競技部の重点部は、それぞれが持つ問題点の改善を求めた上で指定を継続することが承認された。女子ソフトボール部については、県内高校ソフトボール部の激減、県外高校生の勧誘が難しい状況であることから強化部の指定解除が検討されたが、大学の経営戦略にも関わることから全学運営会議等に上申することとした。

また、併せて同内規は学内で十分周知されておらず、学生だけでなく教職員においても強化部制度について理解されていないため、強化部の指定継続、新規指定などの条件について具体的な基準や内容を明確化し、指定の公募申請の制度、指定解除の申し出に対する対応など、透明性を持たせることを確認した。

② 奨学金、授業料免除等経済的支援

新型コロナウイルス感染拡大による社会的な経済状況悪化に伴い、保護者や学生自身のアルバイトの収入減などが顕著となり、経済的に困窮している学生が増えてきたことから、例年以上に奨学金、授業料免除等経済的支援を強化した。

- ・授業料等の延分納及び一部減免等、経済的支援で学生に還元できるよう、学生委員会として全学協議会へ上申した。
- ・文部科学省による「学生支援緊急給付金」は当初、応募者が採用予定人数より大幅に少なかったため、各ゼミ担当教員の協力を得ながら、制度の周知を図り、対象となりそうな学生に対して

の応募を呼び掛けた結果、1次・2次推薦合わせ学部359名、大学院2名、短大部82名の合計443名の学生が推薦（採用）された。

- ・第22期経済状況悪化に伴う修学困難な学生支援制度は対象学生の拡大を意図し、応募要件の見直し、並びに異例ではあったが2次募集を実施し、留学生7名を含む13名の学生を採用した。
- ・第23期経済状況悪化等に伴う修学困難な学生支援制度は11名の学生を採用した。
- ・第24期経済状況悪化等に伴う修学困難な学生支援制度は12名の学生を採用した。

③ 学生支援（相談）に関する調整

- ・構内への立ち入り制限やオンライン授業など、これまでとは違う大学生活を送る県外出身学生を中心に実施した学生の動向調査をしていく中で明らかとなった学生の悩み、心配事などの情報共有も行い、そうした学生に対して、学生の不安を少しでも取り除けるよう担当教員には学生に寄り添った対応を心掛けてもらうことを確認した。
- ・現在は障がいを持つ学生の要望や状況に応じて学部・学科や各部署で対応しているものの、「障がい支援センター」的な専門部署が無いため、今後、全学挙げて支援体制がさらに強化できる仕組みづくりを働きかけることとした。

④ その他

- ・学生の大学生活環境の改善に向け、これまで卒業生対象に実施していた大学施設関連のアンケートを全学生対象に実施した。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、学生の活動が大きく制限されたこともあり、学生に還元する意味で、卒業生全員に学友会費より費用を捻出し卒業アルバムを配付した。
- ・全学学生委員会規程の内容について、再確認し見直しを実施した。
- ・第1体育館使用について、体育館シューズを履かずに下履きで入場する学生が見受けられるため、上下履きシューズの区別の徹底と、新型コロナウイルス感染症予防対策の観点から部室側の入口を規制し、正面入口のみの対応で学生に周知徹底を図っていくこととした。
- ・昼食時の新型コロナウイルス感染対策は大きな課題であったが、学生の協力はもちろんのこと、特に職員の全面的な協力によって、昼食場所の消毒作業は確実に且つスムーズに進めることができた。

3) 活動に対する点検・評価 <C>

① 学友会、クラブ活動等の課外活動、その他学生による諸組織・団体の活動に対する支援・指導

新型コロナウイルス感染拡大とその予防対策によって、根本的に大学生活の日常が揺るがされる状況となり、その影響は当然のことながら学友会や各クラブの活動にも及び、学生、教職員ともに多くの制限と負担を強いられることとなった。

しかし、安全なクラブ活動実施に向けた各種取組みに対して、学生、教職員ともに協力的な対応によって、大きな混乱や事故もなく活動を進めることができた。

また、そうした中でこれまで当たり前と思われ、見過ごしてきたクラブを担当する部長の選出方法の改善、梓の森祭をはじめとする学友会活動の内容の見直し、指導者の適正化、強化部の取扱いの再考などについても、改めて目を向ける機会となった。

② 奨学金、授業料免除等経済的支援

新型コロナウイルス感染症は家庭の経済状況の悪化、アルバイト収入の激減など、学生の経済状態にも大きく影響したため、学生の経済的支援は不可欠の状況であった。

そのため、大学当局に対して学生委員会から学生一律の支援を上申したり、各種奨学金、授業料の減免などを使った支援した。特に奨学金や減免制度などは、これまで学生からの応募により取り扱ってきたが、今年度は支援が必要と思われる学生に対して学生課から個人的に応募を検討するよう呼びかけた。また、各ゼミ担当に連絡して同様のアドバイスをしてもらおうなど、学生と積極的に関わるようにした結果、第1次募集、第2次募集を合わせて募集定員を満たす（一部はオーバー）など、多くの学生がそうした支援を受けられるようになった。

③ 学生支援（相談）に関する調整

コロナ禍では対面での指導が思うようにはいかなかったが、県外の学生を中心に学生の状況を把握するように努め、ゼミ担当教員にも協力を仰ぎながら、必要に応じた相談活動を展開することができた。しかし、相談を受ける人員、準備ともに不十分で、相談の質・量ともに十分とは言えず、今後の課題となった。

また、障がいを持つ学生の対応が組織化されておらず、学生委員会としての脆弱性を露呈した形になった。現状は支援する部署、人員などが曖昧で、今後増えてくるであろう障がいを持った学生への対応が心配されるということから、「障害者支援センター(仮称)」の新設を上申ししたが、今年度は実際に組織化されるまでには至らなかった。

④ その他

学生委員会の規定の見直しや学生アンケートの対象を卒業生から在学生へ移行し、体育館の使用方法についての改善など、これまで見過ごしがちであった内容に取り組むことができた。また、新型コロナウイルス感染症関連の大きな課題であった昼食時の消毒などは、学生委員会だけで対応することが無理な面を職員にかなり担ってもらった。教員と職員の連携を重視して、学生指導に当たっていくことの重要性を再認識した。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

① 学生支援に関する取り組み

a) 「障がい者支援センター(仮称)」の新設に向けた働きかけ

年々増加傾向を示している障がいを持って入学してくる学生に対し、適切に対応するための体制が不十分であり、現在、健康管理センターが代行的に対応しているものの、本来でそうした専門の組織が必要であることから、大学当局にセンターの新設、改変を含む組織改編を求めていく。

b) 相談体制の強化

対面の指導ができなかった場合に相談者の選定が難しかったことから、相談員の増員などにより、相談体制の強化に取り組む。また、ゼミ担当教員に対しても学生が相談できるよう働きかける。

c) 経済的支援

新型コロナウイルス感染症による経済状況悪化がさらに学生生活を圧迫させることが予想される。そのため、プライバシーに配慮しながらも、経済的に支援が必要な学生の把握と、それに対する直接的、積極的に関与していくような体制づくりに努める。

② 学友会活動・クラブ活動の支援

a) 学友会活動充実のための支援

これまでの活動を踏襲するだけでは、コロナ禍における学友会活動は停滞するだけであることから、新たなコンセプトによる取り組みについて支援していく。また、学部ごとの学友会と全学の学友会が、独立性を担保しつつ、相互に融合しあえるような体制を構築していく。

b) クラブ活動充実のための支援

クラブ、サークルによって状況が違うが、部長、指導者などの人的支援、施設・設備などの物的支援などの必要な支援ができるようにするとともに、クラブ協議会などの学生組織の活性化を図る。また、強化部の在り方などについても引き続き検討していく。

＜執筆担当／全学学生委員会 委員長 岩間 英明＞

(2) 総合経営学部学生委員会

総合経営学部学生委員会は、学部主任を含め6名の委員から構成され、両学科から1名ずつ2名が全学学生委員会に出席している。学部委員会については年度の総括を行う委員会を開催したほか、委員間で適宜必要に応じて連絡や協議を行った。

1) 当初の計画 <P>

前年度の委員会において提起された課題は、①学生のマナー向上に関する取組み、②奨学金などの学生への経済的な支援、③学生生活への支援の充実に関する検討の3点であった。但し、本年度はコロナ禍で、前期はオンライン授業のみ、後期についても、オンラインと対面授業での併用で、学生が大学に登校する機会が非常に少なかった。

具体的には以下の課題である。

① 学生のマナーの向上

前年度問題となった SNS の利用による学生間のトラブルの問題や 2019 年度から開始された敷地内の全面禁煙への対応など、ルーティンワークにとどまらない取組みが行われた。また、本年度はコロナ禍において、オンライン授業に関する学生のマナー向上という面で計画した。

② 奨学金などの学生への経済的な支援

本年度は、コロナ禍においての経済状況悪化に伴う就学困難な学生への支援制度に対する制度の見直しに伴い、迅速かつ的確な支援ができるようなシステムの構築を計画した。

③ 学生生活への支援の充実に関する検討

本年度はコロナ禍において、学生生活への支援の充実については、特に大学祭などのあり方について具体的に改善等を行う必要があり、特に、学生課の職員体制を含めて全学的に十分な支援が行われる体制作りについて具体的な検討を行なうこととした。

これらの課題は、前年度より継続的に取り組まれてきた課題であるが、学生が安心して大学生活を送ることができるための環境整備を中長期的な視点から見直すことが必要とされている。

2) 現状の説明 <D>

① 学生のマナーの向上

本年度は、例年と違って、オンラインの利用も併用して、交通マナーや学内マナーなどに関するトラブル回避などについて、1年次の基礎ゼミでの警察署員による研修や各学年におけるオリエンテーションなどの様々な機会を捉えた注意喚起や啓発を行った。

② 奨学金などの学生への経済的な支援

コロナ禍において、迅速かつ効果的に学生の支援ができるかという課題が明らかになり、本年度は学内の規定等も含めた環境整備について議論・検討を行った。

③ 学生生活への支援の充実に関する検討

学生生活への支援の充実については、大学祭やその他の行事などのあり方に関する議論が随時行われた。大学祭を準備する過程において具体的にその検討がなされた結果、オンライン開催で大学祭を執り行った。このオンラインでの大学祭の開催が初めての試みであったので、具体的な体制づくりや運営方法については来年度以降の課題として持ち越すこととなった。

3) 成果と今後の改善点 <C・A>

① 学生のマナーの向上

長年の継続的な取組みから一定の成果を得られており、オンライン授業などの新しい動きや敷地内の全面禁煙への対応などについても大きなトラブルもなく対応することができた。今後も継続的な取組みを行う。

② 奨学金などの学生への経済的な支援

経済状況悪化に伴う就学困難な学生への支援制度を見直し、迅速かつ的確な支援ができるようにシステムを構築することについて学内での議論が深まり、今後に向けての環境整備ができた。しかし、コロナ禍によって今後新たな経済的な支援のニーズは高まり、今後は新しい課題に対して柔軟に対応していくためのシステムの構築が必要となる。

③ 学生生活への支援の充実に関する検討

コロナ禍によって災害に限らず、学生が大学生活を安心、安全に送ることができるための支援については、今後ますます環境の変化が深刻化、複雑化することが想定される。その中で今回のオンラインでの大学祭を含めて大学としてどのような取組みを行っていく必要があるかについて大きな課題である。2021年度は新型コロナウイルス感染予防の対応に加えて中長期的に今後の学生支援のあり方について検討を行う。

<執筆担当/学生委員会 総合経営学部主任 田中 正敏>

(3) 人間健康学部学生委員会

人間健康学部学生委員会は、選任された学部主任及び委員の教員2名と学生課職員3名の合計6名から構成された。各学科より1~2名の学生委員(学部主任と他学科の委員1~2名)が定期的に開催される全学学生委員会、学部教授会及び学科会議での活動を主として担い、必要に応じて委員間で連絡をとり協議を行った。

1) 計画<P>

学部学生委員会は、昨年に引き続き、学部学生によるクラブ活動等の課外活動の活性化及び、より快適な学生生活を送るための支援を目的とし、2020年度当初の計画を以下のように立てた。

- ① クラブ活動等の課外活動及び諸組織・団体の活動支援
- ② 健康安全センターと連携した一般学生並びに障がいをもつ学生の健康・安全に関する支援
- ③ 奨学金、授業料免除等経済的支援
- ④ 体育文化施設及び福利厚生施設の利用に関する支援
- ⑤ 学生生活充実のための支援と生活マナーの向上

2) 実績・現状 <D>

全8回の全学学生委員会や学部委員間の連絡協議を踏まえ、①クラブ活動等課外活動や諸組織・団体の支援、②健康・安全、特に新型コロナウイルス感染対策に関する支援、③経済的支援及び福利

厚生支援、④学生生活支援及び生活マナー向上のための指導を行った。

① クラブ活動等課外活動及び諸組織・団体活動の支援

a) スポーツ特待生をはじめとする学生の支援

- ・スポーツ特待生資格の継続について審議を行った(10月・3月)
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防に伴うクラブ・サークル活動スケジュール調整、施設環境整備を支援した。
- ・部長との意見交換を通してコロナ禍における課外活動の取組みを支援した。
- ・クラブ・サークルの部長(顧問)の選定について、必要な配慮や調整を行った。

b) 全学的に取り組んだ学友会活動

※全学学生委員会に記載

② 健康・安全、新型コロナウイルス感染対策に関する支援

- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、クラブ・サークル活動の制限を伴う調整を行った。同時に日常的な健康チェック及び検温、活動計画の申請周知を行った。健康管理に用いたコンディション管理アプリ「ONE TAP SPORTS」の利用についても周知した。
- ・クラブ・サークル活動活動制限レベルに沿って、クラブ・サークル活動の停止と再開について周知、また必要な配慮と支援を行った。
- ・後期開講後の学生の様子等について注意を払い、学生の昼食会場及び対応方法についての周知及び配慮を行った。
- ・「大学敷地内全面禁煙」の継続。施設内禁煙の法制化に伴い、学外においても適切な場所での喫煙等学生に対する適切な禁煙指導を継続した。

③ 経済的支援及び福利厚生施設利用支援

- ・日本学生支援機構奨学金申請者への支援を周知した。
- ・コロナ禍における、学生支援緊急給付金について募集を強く周知した。
- ・第22、23、24期経済状況悪化等に伴う修学困難な学生支援募集を積極的に周知した。
- ・前期をオンライン授業で過ごした学生(特に1年生)には、基礎ゼミナールの中で大学の施設の説明を行い、一部対面が再開された後期にその施設の利用を実習させた。
- ・1年生の基礎ゼミナールの中でアンケートをとりサポートに生かした。

④ 学生生活支援及び生活マナー向上のための指導

学生の生活支援として、以下の項目について実施した。

a) 講習・セミナーの開催

薬物防止、防犯講習会の開催(1年生基礎ゼミナール)

- ・健康栄養学科(10/25)
- ・スポーツ健康学科(11/11)

b) その他

年度末の3月に実施予定の在学生オリエンテーションは中止となった。

各学科会議で事件・事故等の報告及び学生指導を依頼した。

3) 点検・評価の結果 <C>

① クラブ活動等課外活動や諸組織・団体の支援

- ・新型コロナウイルス感染対策のため課外活動は当初全面中止された。規制緩和後は規制内容及び注意事項の周知を行い、各部の協力によりルールを徹底できた。

② 健康・安全、及び新型コロナウイルス感染対策に関する支援

- ・学内全面禁煙に対する事前の周知や対策等が徹底され、問題なく実施された。
- ・健康安全センターと協力し、感染対策の徹底とルールの遵守継続をさせることができた。
- ・学生が関与した事件事故が8件認められた。次年度に向けて事件事故が発生しないよう、引き続き注意喚起を行う必要がある。

③ 経済的支援及び福利厚生施設管理

④ その他(主に学生の生活支援)

a) 学生生活支援及び生活マナー向上のための指導

- ・環境の変化により困窮している学生の支援を積極的に行う。
- ・スポーツ特待継続について、自己都合にて退部した学生を除き、全て継続した。引き続き継続条件を維持できるよう支援していく。

b) 講習・セミナーの開催

- ・新入生を中心に事件、事故防止に関する講話は今後も毎年必要と思われる。

4) 次年度へ向けた改善・改革に向けた方策 <A>

① 奨学金、補助金など学生への経済的支援の周知

コロナ禍で、経済状況悪化に伴う日常生活及び就学困難な学生への支援制度を今まで以上に広く周知していく。

② クラブ活動の支援とコンプライアンスの徹底

- ・クラブ・同好会の運営等に対して積極的に支援を行い、活動の活発化に寄与する。
- ・体育館の使用について、各クラブが平等にスムーズな利用ができるよう配慮していく。
- ・社会規範に照らし合わせてコンプライアンスを徹底する。

③ マナー向上、不正乗車等の撲滅に向けた取組み

- ・自家用車や自転車の運転及び事故に巻き込まれないよう交通安全の呼びかけ、学内駐車(駐輪)マナーや食事の後片付け意識などについて注意喚起をし、マナー向上への働きかけを行う。
- ・不正乗車を含め、犯罪等のトラブルに巻き込まれないよう講話を含めた働きかけを行う。

④ その他(主に学生の生活支援)

- ・SNSの正しい活用方法について周知徹底を図る。
- ・薬物防止、防犯講習会の実施を継続する。
- ・学生の健康に留意し、必要な取組みを積極的に行う。

<執筆担当/学生委員会 人間健康学部主任 山本 薫>

(4) 教育学部学生委員会

教育学部学生委員会は学部主任を含め教員6名により構成され、本学部独自の行事や学生支援体制等について検討を行うための委員会を開催した。

1) 年度当初の計画 <P>

- ・教育学部は完成年度を迎え、4学年がそろい8号館を中心に学生生活がより一層充実するよう支援していく。大学生活への適応や学習面での様々な支援を必要とする学生を把握すると共に、教育学部としての学生支援の在り方について検討し、全学的な組織確立に向けて発信していく。

- ・教育学部の1・2年生を対象としたフレッシュマンセミナー及びキャリアアップセミナーの企画や大学祭に向けての教育学部としての企画等を学生主体に移行しつつ、支援していく。また学生間の交流やより豊かな学生生活の充実に向けて、自治的な学生組織の立ち上げ準備を支援する。
- ・新型コロナウイルス感染症に対する学生の健康面及び精神面の安心安全の確保と経済的支援など、本学の対策本部の方針にのっとり、協力していく。

2) 現状の説明 <D>

毎月教育学部学生委員会を開催し、教育学部としての学生支援のあり方や、行事関連、その他新たに生じた課題について以下のような意見交換を行った。

① 学生の実態把握と支援体制について

年度当初は新型コロナウイルス感染症の影響から入学式も縮小され、オンライン授業により学生の所在地や通信環境の確認など実態を把握することから始まった。7月に入り一部対面が可能になった際、新入生を集めて顔合わせをしたが、短い時間の中で交友関係もまだごちない状態であった。オンライン授業が続く中、体調や生活リズムを崩す学生もおり、モチベーションを維持するのが大変な学生も見られた。

後期は対面授業が再開されたが、生活面及び学習面での困難を抱えている学生をどのように支援していくか、ゼミ担当と学生委員だけでなく、状況によっては健康安全センター等の関連部署と連携して支援を行った。

② 「学生の会」立ち上げについて

前年度より検討してきた教育学部学生の主体的かつ自治的な組織として「学生の会」を立ち上げた。3・4年生の本部役員が中心となって検討し、2年生を加えて具体的な活動方針や予定を立て、1年生にも周知した。学生間の交流を促す行事の企画・運営、8号館の使用モラルの啓発、その他学生からの意見を集約しつつ活動していくこととした。

③ 学生モラルの啓発

1年生を対象とし松本警察署の講師による薬物講習会を行った。

④ 新入生歓迎行事の実施

予定していたフレッシュマンセミナー、キャリアアップセミナーがコロナ禍のため中止となり、その代替えとしてオンラインでの教職員紹介を急遽企画した。各教員、教職センターなど動画やパワーポイントによる提示を工夫し、1年生の基礎ゼミの時間を活用して行った。

⑤ 大学祭への参加

全学的な学友会主催行事である梓乃森祭も、今年度はオンライン開催となった。教育学部としてどのように参加するか検討し、学生にも投げかけて教育学部の紹介動画を作成することとした。1・2年生の有志が中心となり、8号館を中心に施設紹介と教員の授業風景など撮影、編集を行い、学祭特設サイトにアップした。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 学生への支援体制づくり

学生への支援体制については、学科内で対応するだけでは十分ではないケースもあり、全学的な支援組織の必要性が明らかとなった。特に全学的な障がい学生支援や合理的配慮についての体制を整えていく必要がある。

②「学生の会」と行事関連

教育学部学生の主体的で自治的な組織として「学生の会」が立ち上がったことは大きな成果であった。完成年度に1期生から4期生まで周知できたが、今年度はコロナ禍のため、学生間の交流も思うようにできず、様々な行事が縮小されたことは残念であった。今後の行事については、新入生歓迎行事を刷新し、新たなスタイルで学生が企画中である。大学祭への参加も今後の学友会の方針にのっとり協力していく。

③ 8号館の施設利用について

今年度はコロナ対策として施設利用の制限が厳しかったといえる。教育学部は他学部と比べて対面授業の必要性が高く、実技や演習科目も多い。特に1・2年生は必修科目も多いため時間割の関係からほとんどの学生が昼食を取らざるを得ない。しかしながら大学から許可された教室が811教室のみであり、かなり密な状態で他の空き教室を利用せずにはいられない状況であった。学生の生活環境の改善が課題である。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

次年度も新型コロナウイルス感染症の対策をしながら、これまでの反省やデータを生かして活動方針を改善していく必要がある。学生支援に関しては、学生委員会だけではなく他の部署と連携して全学的な支援体制の構築を検討していくことが大きな課題である。

学部においては「学生の会」が中心となり8号館の使用におけるモラルを促し、より充実した生活及び学習環境の確保と交流を深める活動など、豊かな学生生活を目指していけるよう支援していく。

<執筆担当/学生委員会 教育学部主任 安藤 江里>

(5) 松商短期大学部学生委員会

1) 年度当初の計画 <P>

松商短期大学部学生委員会の2020年度当初の計画は以下の通りであった。

① 学生の自主活動の支援

学友会活動を充実させるよう顧問教員制度を引き続き行う。

② 学生生活における健康・安全の促進

各種講習会について検討を重ねる。

③ ルール・マナーの教育

良いマナー、悪いマナーなどの教育を検討する。

2) 現状の説明 <D>

① 学生の自主活動の支援

a) 学友会活動の支援

松商短期大学部の学友会はおおよそ40名で構成される常任委員会と代議員会役員がリーダーとなったものの、新型コロナウイルス感染拡大によりほとんどのイベントができなかった。今年度の学友会活動について以下に記した。

常任四役では必修授業の一部をお借りして6月にオンラインによる学生大会を実施した。また、次期常任四役選挙前にそれに興味ある1年生に向けて説明会も実施した。12月18日には次期学

友会役員の次年度活動についての引継ぎ会を運営した。

大学祭である梓乃森祭は、3 学期に学生の登校が可能になることに合わせ夏休み中から準備が進められ、10 月 16 日にオンラインで実施した。

体育大会は、3 学期登校開始後にゼミ T シャツも作成しつつ 11 月 24 日開催を目指したものの、新型コロナウイルス感染第 3 波の影響を受けて直前の 11 月 20 日に中止を決定した。

渉外局の行事は交流を目的としたものが主であり、新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から今年度は活動できなかった。

報道局では、ゼミ報道局員に依頼したゼミ紹介をまとめて掲示したほか、卒業アルバムのゼミページ作成依頼、卒業文集である『学友』の文章依頼や編集を実施した。

代議員会では、11 月に選挙管理委員会による常任四役改選の運営、および、12 月 11 日に学生意見交換会を実施した。

b) サークル活動の支援

2020 年度の短大部のサークルは以下の通りであった。

- ・フットサル
- ・バレーボール
- ・バスケットボール

サークル活動は健康チェック実施や部長教員による指導あるいはその帯同などを条件として、6 月中旬から活動が実施可となった。実際にフットサルは 7 月、バレーボールは 9 月、バスケットボールは 10 月から活動し始めた。

c) 他者理解、自己研鑽のきっかけ及び場の提供

今年度は学内においてリーダー研修会を 3 学期の 10 月 7 日 5 限に実施したのみであった。

② 学生生活における健康・安全の促進

学生の健康面については健康安全センターが担当し、心理面では嘱託非常勤のカウンセラーもあり、さらに 24 時間電話対応の外部業者による健康相談も利用した。

8 月 5 日の 1 年生後期オリエンテーションにおいて、交通安全およびネットトラブルなどについて注意喚起した。

③ ルール・マナーの教育

ルールやマナーの教育はほとんど実施できなかった。しかしながら、8 月 5 日の交通安全およびネットトラブルの話の中で、上高地線電車内の良い行動の事例について話した。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 学生の自主活動の支援

学友会活動は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で 1~2 学期には登校できず、ほとんど実施できなかったが、10 月にオンラインであったものの「梓乃森祭」が開催できたのは幸いであった。3 学期には多くの学生が登校し体育大会など行事ができるかと思われたものの、その後また感染が拡大したことで開催はかなわなかった。一度登校可能になったことでオンラインを利用した行事を考えるような指導までできなかった。各局などに顧問教員を置いていてもうまく対応しきれなかったと言わざるを得ない。

サークル加入者は、卒業予定者アンケートにみる 2 年生のデータでは 39%であった。それに加え、学友会役員活動、地域づくり考房『ゆめ』、およびマツナビへの参加者を合わせると 63%もの

学生がそれらいずれかの活動に参加していたようである。数値的には例年と同レベルであるものの、実際に活動できた場面は多くなかったと思われる。

リーダー研修会は自己研さんの場として例年通りできなかったが、ゼミ長などが集い刺激し合う場になったと感じている。どんな形でも実施することができたのはよかった。

② 学生生活における健康・安全

学生生活における重要事項として交通安全とネットトラブルについて教員から簡単に解説したが、今後より良いものになるよう検討していきたい。

③ ルール・マナーの教育

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大対策のルールが数多くでき、学生も教職員も対応が難しかったと思われる。様々な事柄について学生と対話しながら指導していきたい。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

次年度に向けては次の項目について改善・改革を検討していく。

① 学生の自主活動の支援

学友会活動を充実させるよう顧問教員制度を引き続き行い、ウィズコロナでもできるよう指導する。

② 学生生活における健康・安全の促進

各種講習会について検討を重ねる。

③ ルール・マナーの教育

良いマナー、悪いマナーなどの教育を検討する。

<執筆担当/学生委員会 短期大学部主任 川島 均>

第3部 事務部門の点検・評価

I. 全学的事務部門

(1) 事務部門の課題 <P>

1) 事務局体制の強化

- ① 専任職員、パートタイム職員、派遣職員のバランスの見直しを進める。
- ② 部門間の異動人事も念頭に置き、管理職の後任人事に対応し、事務局の新たな体制づくりに取り組む。
- ③ 本学の地域連携活動の地域防災の取組みについて、新たな展開を検討していく。
- ④ 2021年度以降の障がい者雇用の拡大に向けて、積極的に取り組む。
- ⑤ 女子ソフトボール部の寮の食事について、業務委託に切り替えることを検討する。

2) 安定的な経営のための学生募集

- ① 確実に入学定員に見合った学生数を確保していく。
- ② 受験生の地元志向の流れを受け、受験者数の増加を目指す。

3) 施設設備の充実と維持管理及び修繕

2020年度において、次の事業に取り組む。

- ① 1号館の屋上及び外壁の修繕工事
- ② 総合グラウンドの避難用シェルター及び本部棟の設置工事
- ③ 駐輪場の増設工事
- ④ 1号館階段教室の座面シートの張替え
- ⑤ 部室棟内の製氷機の設置
- ⑥ IC学生証・教職員証システムの入替え
- ⑦ 照明制御設備の更新

4) 補助金の獲得

- ① 教育の質に係る客観的指標の調査票の得点を上げ、経常費補助金の増加率を高める。
- ② 私立大学等改革総合支援事業の調査票の得点を上げ、継続的に選定される体制の構築に努める。

5) 大学院研究科の設置認可申請業務

- ① 健康科学研究科の博士課程への課程変更認可申請の審査意見伝達に確実に対処していく。
- ② 地域経営研究科（修士）の教育内容の再検討を進め、総合経営研究科として基本計画を練り直した上で、設置認可申請に取り組む。

6) 国の修学支援新制度

- ① 高等教育修学支援金に係る事務処理を遺漏なく進める。
- ② 新型コロナウイルス感染症に関連した緊急修学支援金の交付に遺漏なく対応する。

7) 新型コロナウイルス感染症への対応

- ① 松本大学新型コロナウイルス感染症対策本部を立ち上げ、全学的に感染予防に取り組む。
- ② 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のためのオンライン授業の実施に当たり、学生に対する環境整備支援金の給付を検討する。
- ③ 感染予防対策のための環境整備を全学的に進める。

(2) 具体的な取組 <D>

1) 事務局体制の強化

- ① 2020年度には、事務局次長を1名増やし2名体制とし、1名は総務担当、他の1名は教学担当とした。
- ② 2021年度着任予定の新卒採用と中途採用による人員確保に向け、卒業予定者に対する公募、ハローワークや人材紹介会社を活用した中途採用を進めた。
- ③ 2021年4月採用内定者として、中途採用1名、新卒採用1名の計2名を確保できた。中途採用1名は教務課配属、新卒者は松本秀峰中等教育学校の配属とした。
- ④ 教務課の教育学部担当補佐としてパートタイム職員1名を配置した。
- ⑤ 基礎教育センターの退職者の補充人事で専門員2名を配置した。
- ⑥ 地域づくり考房『ゆめ』の体制強化のため、新たに専門員1名を配置した。
- ⑦ 硬式野球部の強化のため、ピッチングコーチ1名を新たに配置した。

2) 安定的な経営のための学生募集

- ① 2020年度に行った学生募集の結果、2021年度入学生について、昨年に引き続き全学部・学科で入学定員を充足することができた。2020年5月1日の全在籍者に対し、2021年4月1日現在の全在籍者は93名多い2,275名となった。

[2021・2020年度の入学者数]

学部	学科	入学定員	2021年度入学者数	2020年度入学者数
総合経営	総合経営	90	99	97
	観光ホスピタリティ	80	97	89
人間健康	健康栄養	70	77	79
	スポーツ健康	100	106	112
教育学部	学校教育	80	90	88
計		420	469	465

短大部	商学科	100	107	103
	経営情報学科	100	108	101
計		200	215	204

大学院	博士前期	6	1	7
健康科学研究科	博士後期	2	2	—

- ② 2020年度に策定した第2次中期計画において、学生募集のKPI (Key Performance Indicator) を大学は入学定員の1.2倍、短大部は1.1倍とし、2021年度から2025年度までの向こう5年間にわたって、その達成に取り組むことを確認した。

3) 施設設備の充実と維持管理及び修繕

- ① 取組みの詳細は「施設管理センター運営委員会」の項に記載した。
- ② 第2次中期計画の一環として、2019年から2020年にかけて実施した建物基礎調査の結果に基づいて、中期建物修繕基本計画を策定した。

4) 補助金の獲得

- ① 経常費補助金の総額（大学・短大部）としては、約 5,500 万円減額となった。新型コロナウイルス感染症の影響で教育研究活動が制限されたため、補助対象額が下がったことがひとつの要因である。
- ② 「教育の質に係る客観的指標」の調査票による得点は、41 点満点に対して大学・短大部共に 40 点であり、経常費補助金の増加率はプラス 5%となった。
- ③ 私立大学等改革総合支援事業については、大学・短大部共にタイプ 1「特色ある教育の展開」、タイプ 3「地域社会への貢献」に申請した。大学はタイプ 1 とタイプ 3 とも選定され、短期大学部はいずれにも選定されなかった。採択の最低基準が大幅に引き上げられた結果であると考えられる。

5) 大学院研究科の設置認可申請業務

- ① 2020 年 3 月末に文部科学省に課程変更の認可申請を行った健康科学研究科博士課程については、2020 年 10 月末に認可された。2021 年度生の学生募集では、入学定員の 2 名を充足することができた。
- ② 同じく、2020 年 3 月末に文部科学省に設置認可申請を行った地域経営研究科（修士）については、一旦申請を取り下げた上で基本構想から練り直し、2020 年度に 4 回にわたって文部科学省との事務相談を行い、2021 年 3 月末に設置認可申請書を同省に提出し受理された。

6) 国の修学支援新制度

- ① 2020 年度入学生から国が実施する高等教育の修学支援新制度に、学生課と会計係が窓口となり遺漏なく対応した結果、入学生及び在对学生に対する修学支援金は総額 1 億 1,018 万円となった。
- ② 文部科学省が毎年行う支援対象校としての機関要件の認定について、2020 年度においても問題なく要件を満たした。

7) 新型コロナウイルス感染症への対応

- ① 学長を本部長とする松本大学新型コロナウイルス感染症対策本部を立ち上げ、副本部長には副学長と事務局長があたることとした。定期的、時宜に応じて本部会議を開催し、諸事象に適宜・適切に対応することができた。
- ② オンライン授業の実施にあたり、学生に対して一律 20,000 円のオンライン環境整備支援金を給付した。
- ③ 感染予防対策のための環境整備として、検温アラームシステム 7 台、スタンド型自動手指消毒機 7 台を購入し配備した。
- ④ 学生レストラン、コモンスペースのテーブル上にパーテーションを、また、学生センターをはじめ学生の窓口を持つ部署のカウンターに飛沫防止の仕切りをそれぞれ設置した。
- ⑤ 教室内の教卓上に飛沫防止のパーテーションを配置した。また、フェイスシールドや使い捨てマイクカバー等の備品も整備した。
- ⑥ アルピコ交通と協議の上、2020 年 12 月と 2021 年 1 月に、上高地線の学生の乗車率を下げて「密」を避けるため、松本駅と本学間を往復直行する臨時代行バスを運行することができた。

(3) 取組に対する評価 <C>

1) 事務局体制の強化

- ① 専任職員の年齢的なバランスを念頭に置き、人事計画に基づいて専任職員を確保できた。

- ② 業務内容の整理と見直しを並行して行い、効率化と簡素化に努めることができた。
- ③ OJT による人材育成のために、学内での部署異動を行いやすい環境を整えていくことが大切であり、そのためには、次世代を担う課長、課長補佐、係長の育成が重要である。

2) 安定的な経営のための学生募集

- ① 新型コロナウイルス感染症の影響で、大学受験の動向は今後大きく変化していく可能性が高い。2021 年度入試の全国的動向においても、推薦入試の拡大、受験期間の短期化、大学入学共通テストの利用方法の変化等、すでにその兆しが現れていると判断される。
- ② 本学の志願者層の変化に如何に対応し、第 2 次中期計画に示した KPI を確保していくかが当面の課題である。
- ③ 長野県の 2020 年度の 18 歳人口は 20,222 人であり、5 年後には 1,748 人減少して 18,474 人になることが統計値から推測されている。このような環境下にあつて、受験生に選ばれ続ける大学を目指し、第 2 次中期計画に沿って全学的に具体的な取組を進める必要がある。

3) 施設設備の充実と維持管理及び修繕

- ① キャンパス全体の環境保全を管理していく中長期的プランが大切である。予算策定時に修繕費の扱いを重視し、第 2 次中期計画の中期建物修繕基本計画に基づいて、経年的に修繕費に対する予算措置を講じていく。
- ② 学生数の増加に伴って、これまで以上に課外活動や学生の自主活動が活発化してきていることを踏まえ、学生生活のための環境整備と共に、課外活動上での安全確保のため施設の点検を行い、随時改善に努めていくことが求められる。

4) 補助金の獲得

- ① 採択基準が高まり特別補助金の獲得が難しくなっているが、教職協働で全学的に取り組んだ成果として、調査票による得点を押し上げることができた。今後も高まることが予測されるが、本学としては、確実に獲得したい補助金である。
- ② 文部科学省補助金の予算配分が一般補助金の増額にシフトすることに加え、修学支援新制度に多額な予算配分がなされていることも背景にあり、特別補助金は縮小傾向にある。
- ③ 今後は、「教育の質に係る客観的指標による増減率」が一般補助金に与える影響がますます大きくなることが予測できる。

5) 大学院研究科の設置認可申請業務

- ① 健康科学研究科博士課程については、2020 年 10 月末の認可を得て、2021 年 4 月に計画どおりにスタートすることができた。本研究科の特長である専門職にある社会人学生を積極的に受け入れ、健康科学領域のより高度な最新の研究を推進することは、社会的に意義深いものである。
- ② 総合経営学部を基礎学部とする総合経営研究科（修士）の設置認可申請については、設置準備室会議を定期に開催し組織的に取り組み、オンラインによる文部科学省との事務相談を経て、予定どおり所定の申請書類を作成することができた。

6) 国の修学支援新制度

- ① 法令に基づく本制度は、長期的に運用されることになるため、対象校となるための機関要件を満たすことが学生及び保護者に対する社会的な責任である。
- ② 高校 3 年次の早期資格認定の扱いについて、入試広報室と会計係が情報共有し、受験生が混乱しないように努めていく必要がある。

7) 新型コロナウイルス感染症への対応

- ① 松本大学新型コロナウイルス感染症対策本部会議を適宜・適切に開催して、全学的な方針を迅速に決定し、諸課題の解決を図るなど大きな役割を果たすことができた。
- ② 学生に対するオンライン環境整備支援金の給付は好評であった。保護者からお礼のメールや手紙が届いた。
- ③ 感染予防対策のための環境整備と全学的な各種取組の結果、学内での感染者の発生を年間1名と最小限に抑制することができた。
- ④ 学生レストランや食事場所の消毒作業に、学生チームと職員チームが毎日組織的に取組んだことは、感染予防の観点から大きな役割を果たしたと高く評価できる。

(4) 次年度の展開に向けて <A>

1) 事務局体制の強化

- ① 法人全体で事務職員の配置計画を検討していく。大学の業務内容の変化を踏まえ、人員構成を点検していく。
- ② 専任職員、嘱託専任職員、パートタイム職員の比率・バランスについては、業務内容を精査しながら検討・確定し必要な人員を配置していく。
- ③ 有能な人材の確保と育成及び業務の見直しを進め、効率的に業務を遂行できる体制づくりに継続的に取組んでいく。

2) 安定的な経営のための学生募集

- ① 学生の入学数については、大学は入学定員の1.2倍を、また、短大部は入学定員の1.1倍をそれぞれ目標として取組む。
- ② 18歳人口は減少していくが、受験生の地元志向の流れをつかみ、志願者数の増加を目指す。そのために、本学に対する総合的な評価の向上を図っていく。
- ③ ここ数年の志願動向を踏まえ、大学全体として3.6倍前後の志願倍率を維持することを目指す。多様化する入試制度を有効に機能させ、さまざまな層の学生確保に努める。短大部は高校との信頼関係をより重視し、学校推薦型・総合型選抜により、入学定員相当の人数を確保していくことを目標とする。

3) 施設設備の充実と維持管理及び修繕

2021年度には、次の事業を行うべく予算を策定した。費用の圧縮に努めながら進めていく。

- ① IC学生証・教職員証の新システム：2021年度からの稼働のため、2020年度から準備に取り組んできた。2021年4月から稼働させながら、システムの状況を点検し、円滑な運用を進めていく。
- ② 総合グラウンド人工芝張替工事：敷設から10年が経過し（耐用年数7年）、使用頻度も高いため、劣化が進み怪我をするリスクが高まっていることに対応する。
- ③ 2階連絡路補修工事：建物検査の結果を受け、優先順位を付けて、管理棟と5号館、7号館と2号館を結ぶ2階の連絡路の補修工事を行う。
- ④ 教室間授業同時配信システムの整備：新型コロナウイルス感染症対策としての教室分散型授業を実施する環境や、教室の収容人数によって履修者数を制限せざるを得ない状況に対応するために、複数教室に授業を同時配信できるシステムを整備する。
- ⑤ 2号館232講義室（階段教室）の全席背座生地張替工事：使用頻度が高い階段教室の椅子の背座面を生地の張替えにより補修する。

⑥ 高額機器の購入と更新：対象となる機器は次のとおり。

- ・味覚認識装置 ・高速液体クロマトグラフィー ・血圧脈波検査装置
- ・複合機 2 台 ・電気消毒保管庫（3 号館学生食堂）

4) 補助金の獲得

- ① 「教育の質に係る客観的指標」による増減率に係る得点の確保及び私立大学等改革総合支援事業の選定に向けて、今後も全学を挙げて積極的に取組んでいく。
- ② これらの得点票で求められる条件は、IR 活動や自己点検・評価と密接に絡んでいる。得点票の内容は、IR 活動の項目として取扱うことが大学運営に効果的に繋がる面もあることから精査していく。また、2022 年に受審する大学機関別認証評価の評価項目とも関連が深いことを、あらためて認識しておく。

5) 大学院研究科の設置認可申請業務

- ① 総合経営研究科（修士）設置認可申請の審査意見伝達に対する補正申請に的確に対処していく。
- ② 法人事務局と連携し、寄附行為変更認可申請における 2021 年 6 月末提出書類と設置認可申請書の整合性をとっていく。

6) 国の修学支援新制度

- ① 2021 年度入学生（高校 3 年次の早期資格認定者）及び在学生の資格認定者の状況について正確に把握し、修学支援金に関連する業務を遺漏なく進める。
- ② 2021 年 4 月以降の追加募集や、国が 2020 年に「学生の学びの継続」のために急遽創設した「学生支援緊急給付金給付事業」の今後の動向を踏まえ、学生に不利益が生じないように適切に対応していく。

7) 新型コロナウイルス感染症への対応

- ① 松本大学新型コロナウイルス感染症対策本部会議を継続して開催し、全学的な方針を迅速に決定すると共に、教職員の共通理解の下で対応していく。
- ② 授業の方法や運営については、全学教務委員会の検討を経て、本部会議で確認し決定していく。
- ③ 継続的に感染予防対策に取り組みながら、松本大学活動制限指針を実情を加味したかたちで運用していく。

<執筆担当／大学事務局長 柴田 幸一>

II. 総務課・管理課・地域連携課

総務課・管理課の業務は多岐にわたっており、担当する業務によって仕事内容も大きく異なるため、課員それぞれが大学運営に関する専門的知識を習得し、幅広い視野をもって業務にあたることが求められる。年度内に行う様々な行事の差配、教授会や委員会をはじめとする諸会議の運営、補助金申請及び受け入れに関連する諸手続き、日々の会計処理、文部科学省をはじめとする諸官庁から届く調査統計の回答のとりまとめ、危機管理に関すること、設備管理に関することなど様々な業務を分担しながら効率的に行っていかなければならない。また、特に研究費の取扱いについては、「松本大学及び松本大学松商短期大学部における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に沿って、適正に運営・管理できるよう業務に努めなければならない。

また 2019 年度に設置された地域連携課は、COC 終了後の大学の地域連携窓口として、地域連携委員会の事務局としての役割を担っている。

昨今、大学を取り巻く状況も、大学が社会から求められていることも、時代と共に急速に変化している。本学が、これからも社会から必要とされる大学であるために、そこで働く職員も変化を恐れずに挑戦していかななくてはならない。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策という、未曾有の出来事に対処するために多くの時間を割かれることとなった。特に、教務（授業・試験）に関連する問題への対応の負担が大きく、教務課では連日遅くまで業務に追われ苦労を強いられることになった。大学全体としては、学長を本部長とする「松本大学新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置して議論を重ね、迅速に結論をだすことにより教職員及び学生の混乱を最低限に抑えつつ適切に対処することができたと評価している。

（対策本部会議は年度内に 21 回、縮小会議を入れると 30 回以上にも及んだ）。

1. 総務課（総務・会計）

（1）基本計画 <P>

1) 日常業務の効率化

- ① 業務の効率化がだいぶ進んだが、更に処理方法を再点検し簡略化できるものは簡略化する。
- ② 業務分担について、人員構成が変化したためジョブローテーションも視野に入れ、将来的に業務が継続するよう再分担に取り組む。

2) 定例会議・各種委員会への対応

教授会資料の作成を 2 人の担当者が担い、会議への参加と議事録作成を分担するなど個々に業務の効率化を進める。また、各種委員会については、日程調整から運営、議事録の作成までそれぞれの担当者が効率よく行っている。しかし、それぞれの会議ではペーパーレス化の浸透に伴って資料作成の効率化は進んだが、議事録の作成にはまだ時間を要しており、審議事項のみ記載し報告事項については簡略化するなどの検討を行う。また、ペーパーレス会議のチャンネル数の不足による会議開始の遅延などの状況は変わっておらず、引き続き解決方法を検討する。

3) 適正な会計処理の遂行と予算管理

- ① 予算作成に当たり、保有資金の中長期的な目標値を明確に定める。
- ② コスト意識をもって予算の執行にあたる。
- ③ 20 万円以上の工事では、原則として 3 社以上から見積りを取って交渉材料とし、適正価格を見極めて一層の経費節減に取り組む。

- ④ 消耗品の節約に今後も継続して努める。
- ⑤ 会計監査からの指摘事項は年々減少しているが、稟議書の事後提出等に関する指摘がいまだに数件みられることから、さらに注意して対応する。

4) 規程の整備

- ① 未整備の規程について、継続的に整備を進めるとともに各規程間の整合性の再点検を進める。
- ② 規程、内規、規則・基準等の取扱い及び管理方法について明確化する。
- ③ 「松商学園規程管理システム」が適切に運用されているか検証を進める。

5) 特別補助金及び競争的補助金の獲得

- ① 補助金に関する広範で正確な情報収集に努める。特に、「私立大学等改革総合支援事業」に係る調査票の内容を精査し、得点アップに向けて取組み・点検体制の見直しを積極的に行う。
- ② 学内分掌を念頭に置いて、教員と職員の連携を拡大し、新たな補助金申請を模索する。
- ③ 補助金申請の根拠資料の整備について再点検する。
- ④ 補助金の申請に当たっては、申請要件並びに根拠資料の整備状況を複数の担当者で確認し、正確な補助金申請をこれまで以上に心がける。

6) 教育研究施設設備及び環境の整備

構造物の経年劣化の度合いを調査し、中長期修繕計画を策定し予算化する。また、大学設置から20年を経過しており、各建物の屋上防水工事、外壁の補修工事を始める時期となっていることを認識して対応していく。

7) 各種調査・アンケートへの対応

- ① 社会に対する影響力の強いものについては、組織的に対応し情報を共有していく。
- ② 全学的にデータの一元化・共有化を進め、各調査間で整合性の取れた回答ができるようにする。

8) 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策について、国や県、市町村の関連情報を正確に収集し、感染症対策本部会議にて迅速に対応策を決定することによって、教職員及び学生に混乱が生ずることがないように努める。

9) 後援会

- ① 学生活動に有効な支援方策を検討し、支援の要請をしていく。
- ② 使途の適正化はもちろん、各課に協力を得て効率的に支出経費を執行するよう要請していく。
- ③ 新型コロナウイルス感染症の拡大により、学外の役員（正副会長、監事、理事者）との会議を持つことが難しいと予想されるため、連携が疎かにならないようきめ細かな対応をしていく。

10) 認証評価への対応

第3回目の機関別認証評価の受審を視野に、情報収集に努める。

(2) 実際的な取組み <D>

1) 日常業務の効率化

慣例的に行っている業務の抽出・点検を引き続き行い、特に過去の資料の検索に時間を取られないよう、書庫の保管スペースの整理を目的に保存書類の保存期間の確認を行った。その上で、日常的に必要なとする書類か否か判断し、手に取りやすい保存場所から優先的に収納するよう努めた。

2) 定例会議・各種委員会への対応

- ① 各学部教授会及び委員会等の資料の定型化を進めるため、資料の様式を統一した。
- ② 同時アクセス数の不足の問題に対し、会議前の事前のダウンロードを推奨するマニュアルと周知を情報センターに依頼し実施した。

3) 適正な会計処理の遂行と予算管理及び節約

- ① 予算作成に当たり、大学院設置に関する予算を組み込むため収支計画を慎重に策定した。
- ② 日常会計の証憑書類については、特に物品購入の会計書類として、見積書・納品書・請求書の三点セットを整えることを徹底し、さらに、取引業務の公正性を担保するために納品物の検品の実施を徹底した。
- ③ 20万円以上の工事や物品の発注では、原則3社以上から見積りを取って交渉材料とし、適正価格を見極めて経費節減に一層取り組んだ。また、2社または1社だけの場合は、複数回の金額交渉を行った。
- ④ 消耗品の節約に継続して努めた。

4) 規程の整備

- ① 認証評価第三サイクルの受審に向けて、現行規程の改正、新規規程の制定を進めた。
- ② 規程等の検討は全学運営会議で行い、全学協議会で審議・承認を得、理事会へ上申する手続きを明確化した。
- ③ 「松商学園規程管理システム」を全教職員に周知し、活用してもらえるよう推進した。

5) 特別補助金及び競争的補助金の獲得

- ① 文部科学省、日本私立学校振興・共済事業団(私学事業団)の各種補助金に係る情報収集に努め、学内に周知した。「私立大学等改革総合支援事業」については、全学運営会議において調査票の評価ポイントを点検し、得点アップにつながるよう取り組んだ。
- ② 競争的補助金の獲得に向けて、教員と職員の協力体制により申請業務を進められた。

6) 教育研究施設設備及び環境の整備

学内の構造物の修繕、改修工事については、中・長期的な修繕計画の策定が必要であるため、過去に行った大規模改修工事等のデータ管理及び、将来必要となる修繕をデータ化し管理できる専用のソフトウェアの導入調査を実施した。

また、下記施設内の大型の改修工事について、次年度予算に計上した。

・総合グラウンドの人工芝の張替え

総合グラウンド建設から10年が経過し、グラウンド内サッカーコート的人工芝が劣化しており張替えの時期を迎えているため。

・第一体育館吊り天井の撤去

第一体育館は、吊り天井の構造となっており、文部科学省からは是正が求められているため。現在は猶予期間内である。

・渡り廊下の防水・すべり止め工事

4号館と5号館を結ぶ渡り廊下が防水塗装の剥落によって滑りやすくなったため。

7) 各種調査・アンケートへの対応

- ① 文科省、私学事業団の公的調査に不整合を生じることなく適確に回答できるよう、基本データの一元管理に努めた。
- ② 公的調査及び意義ある民間機関の調査・アンケート等に対応した。

8) 後援会

- ① 役員会及び総会は、新型コロナウイルス感染拡大のため、文書の送付の上、規模を縮小して開催された。また、卒業記念品として7号館コモンルームのテーブルを折り畳みができるタイプに交換する費用を支援いただき、学生の厚生に供与していただいた。
- ② 検定・資格取得に対する奨励金は減額していただきつつ、他の学生生活活動の支援を積極的に行っていた。

(3) 取組に対する点検 <C>

1) 日常業務の効率化

- ① 倉庫にある帳票類や稟議書類について、破棄してもよいと判断したものは破棄した上で、残すべきものについては優先順位をつけて整理を行った。さらに今後の収納スペースも確保することができたことは評価してよい。
- ② 人員の配置については、年度末に、事務局長と総務課長の定年退職を迎えることから、スムーズな業務の引継ぎについても注意が必要であるため早い段階より業務の移行を行った。

2) 定例会議・各種委員会への対応

- ① 様式の統一化により効率的な流れを作ることができた。
- ② 同時アクセス数の不足の問題に対し、ダウンロードした後速やかにログアウトするようマニュアル作成を情報センターに依頼し利用者に周知した。その結果、理解が得られ、会議開始の遅延が減少したと判断している。

3) 適正な会計処理の遂行と予算管理及び節約

- ① 策定した年間の予算について、予算はあるものの特に本年の執行でなくてもよいものについては抽出し計画の見直しを行うなど、適正な会計処理・予算管理を遂行できたと評価できる。
- ② 見積書・納品書・請求書等の証憑書類の不備数を確認した。
- ③ 20万円以上の工事では、原則として3社以上から見積りを取って交渉材料とし、適正価格を見極めて経費節減に一層取り組むことができた。

4) 規程の整備

- ① 規程集のシステム化により、書式の統一化には一定の目途をつけることができた判断している。
- ② 新たに整備する規程等については、規程、内規、規則・基準等どの扱いにするかを全学運営会議で検討して進めることとした。既存の規程等については、①のとおり、再点検が必要である。
- ③ 「松商学園規程管理システム」の運用は一定の軌道に乗ったと考えられる。一方、運用が進む中で規程の未整備や不整合が明らかになったところもあり、①のとおり、再点検が必要であると認識している。

5) 特別補助金及び競争的補助金の獲得

- ① 文科省と私学事業団がジョイントした「私立大学等改革総合支援事業」における補助金交付基準は、個々の大学の大学改革に対する取組状況に応じて傾斜配分する特別補助金の割合がますます高くなる傾向にあり、実質的には競争的補助金に近い形に変化してきている。2020年度においては、大学はタイプ1、タイプ3が採択され、短期大学部は採択されなかった。
- ② 各種競争的補助金は、新規の募集が減りつつあり、さらに申請要件が年々厳しくなる傾向にある。なるべく早く情報をキャッチするよう心がけ要件が満たせるよう素早く対応していくことが必

要である。

- ③ 申請要件並びに根拠資料が確実に整えられているかを複数の担当者で確認することを徹底し、後追いとなることがないように正確な補助金申請を行なえるよう日常的に準備を進めておかなければならないであろう。

6) 教育研究施設設備及び環境の整備

過去に行った大規模改修工事等のデータ管理及び、将来必要となる修繕をデータ化し管理できる専用のソフトウェアの導入調査を実施した。その必要性について理解を得、予算化する必要がある。

また、今年度実施した工事（1号館屋上防水・外壁改修工事、121講義室椅子背座リニューアル工事、6号館外壁補修工事）について、他の建物の中長期修繕計画の一環であり、単発的な事業ではないことに留意が必要である。

人間健康学部が保有する高額な実験機器については、修理の見極めに専門的な知識が必要なため、メーカーなり専門の業者に推奨するメンテナンスの時期を提出させ、計画を練る必要がある。

7) 各種調査・アンケートへの対応

- ① 多岐にわたる公的調査及び民間機関の調査・アンケートに対して効率よく対応できるよう、さらに情報共有が必要である。
- ② 自己点検・評価報告書の「エビデンス集」でほとんどのものをカバーできる。各種調査・アンケートは、当該年度の5月1日を基準日としているため、学校基本調査、学校基礎調査等と並行して進める必要がある。

8) 後援会

活発化する学生の課外活動の支援及び長期化・多様化する就職活動支援をさらに拡大していただくよう要請したい。

9) 認証評価への対応

第三サイクルの評価内容について、具体的な項目等が公表される段階ではないものの、適切に情報収集を行うことができた。

(4) 今後の取り組みに向けて <A>

1) 日常業務の効率化

- ① 慣例的に行っている業務は見直しによって無駄を省くことが出来つつあるが、今後さらに課員で対策を協議し結論を得ながら効率化を進め、業務のスリム化を目指す。
- ② 課員増員による業務の再分担で、若干ではあるが、縦割りの担当業務体系が横断的に行えるようになった。しかしながら、個人対応となっている業務がいまだに多いため、複数人で業務を理解し補えるよう体制の整備、構築を進める。

2) 定例会議・各種委員会への対応

- ① 教授会及び各種委員会の議事録の作成に時間を要している傾向があるため、議事録の簡略化を検討し実行に移すべく取り組む。
- ② 同時アクセス数の不測問題については、運用によりカバーしている状況であることから、抜本的な対策の検討に入る。

3) 適正な会計処理の遂行と予算管理及び節約

- ① 収支計画の策定については、単年度の収益ありきではなく、中長期的な計画を重視し策定する。
- ② 引き続きコスト意識をもって予算の執行に当たる。

- ③ 修繕工事は今後も増加が見込まれることから、長期的な計画を立てることによって経費節減に一層取り組まねばならない。そのためにも、長期修繕計画に特化した管理ソフトの購入について検討を進める。

4) 規程の整備

未整備の規程について継続的に整備を進めると共に、各規程間の整合性の再点検を進める。

5) 特別補助金及び競争的補助金の獲得

- ① 補助金に関する広範で正確な情報収集に努める。
② 学内分掌を念頭に置いて教員と職員の連携を拡大し、新たな競争的補助金を模索する。
③ 補助金申請の根拠資料が確実に整備されているか否か、再点検する。

6) 教育研究施設設備及び環境の整備

学内建造物の老朽化対策について、担当者の記憶に頼ることなく、適切な投資計画を策定できるよう、過去の修繕を記録し、将来に見込まれる修繕計画を予測・予想することができるソフトウェアを導入する。

人間健康学部の保有する実験機器が耐用年数に達してきており、計画的な入替及び修繕が必要であるため、予算取りの段階で、次年度から機器の改修計画について両学科と相談しながら策定する。

7) 各種調査・アンケートへの対応

- ① 社会に対する影響力の強いものについては、組織的に対応し情報を共有していく。
② 全学的にデータの一元化・共有化を進め、各調査間で整合性の取れた回答ができるよう努める。

8) 後援会

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、学生活動の各種行事が軒並み中止となっている。今後もこの状況が続くことが予測されることから、後援会として予算執行のあり方について検討いただく。その中でも、教育学部生の増加に伴う活動の増加を見込みつつ、学生活動により有効な支援方策についての検討をお願いする。

9) 認証評価への対応

引き続き、第三サイクルに向けた情報収集に努める。

<執筆担当/総務課長 松尾 淳彦>

2. 管理課

研究や教育に携わる教員や学生、院生にとって有益となる外部資金情報を迅速にかつ効果的に紹介して、研究資金を獲得するだけでなく、成果の知的財産化につなげる役割が委員会事務局には求められる。

また、専任・嘱託・派遣という雇用形態の特性を踏まえつつ、事務局員の力量を向上させるためのSD活動の強化、労務管理や作業、職場環境の改善、メンタルヘルスへの配慮など外部専門機関と連携を図ることも重要になっている。

(1) 課題 <P>

1) 外部資金の獲得に向けて

- ① 私学事業団、文部科学省をはじめ他省庁や各種財団の公募情報について、Ridoc で系統的に案内

を継続する。

- ② 教員の研究成果についても、学会発表や受賞などを HP 等で発信し、さらなる資金や委託業務の獲得につなげる。
- ③ 大学への間接経費の効果的な執行について、事務局内でたたき台を検討する。

2) 知的財産権の保護

研究成果による特許や製品化に当たっての商標登録、ライセンス化について研究を進める。

3) 教職協働につながるFD・SD活動の発展

- ① 学生の学修成果・研究成果に直に接し理解することで、学生の成長ぶりを教員と共有するため、卒論発表会、修論発表会に参加するよう職員に働きかける。
- ② 社会が求めるニーズや学生の就業環境の変化を敏感に捉えるため、教員と協力してキャリア教育を推進すべく態勢の確立を図る。

4) 働きやすい職場づくり

有給休暇の計画的取得と付与、労災や交通災害などの防止活動、メンタルヘルス向上に向けた学内の連携など、職場や現場に即した勤務シフトの検討や、業務把握に基づいた外注化の検討などを進める。

(2) 2020年度の実践とまとめ <D・C>

1) 外部資金の獲得

- ① 2014年度より、Ridoc 共有ファイルにて各種機関などからの公募情報を適宜掲載しており、本年度も継続的に実施を行った結果、新たに3件の外部資金を獲得した。
- ② 科研費等の外部資金の獲得増加に向け、顕著な実績を持つ外部講師を招いての研修を実施する必要がある。
- ③ 第9回目となる「教育研究発表会」は2月24日、26日に実施され32件の研究発表が行われた。事務局では、抄録集の編集と発表時間管理などの運営を担当した。
- ④ 研究資金の採択にかかわる間接経費は、日本学術振興会の科研費への外付けのみが認められており、他の省庁、企業、財団の補助金には間接経費が認められていない。研究費の経費執行に伴う、領収書などの証憑書類や出張記録、アルバイト名簿などはコンプライアンスの視点から精度を上げる必要があり、今後も事務部門での確かつ系統的な処理と管理により一層努める。こうしたマンパワーを伴う業務遂行には間接経費が必要である旨を、今後とも提起していく必要がある。

2) 知的財産権の保護

- ① 知的財産権取得の取組
大学への委託業務として行われた研究者個人の研究成果に基づく知的財産権については、発明管理部会において管理を行った。

3) 事務局職員の能力開発を推進し、教職協働の実行、事務局内の連携を強化する

- ① FD・SD研修活動
専任教員・専任職員・嘱託職員・派遣職員については、FD・SD委員会主催の学内FD・SD研修会への参加を呼びかけ、多数の教職員が受講した。
またこの他、専任職員には、月例の職員会議冒頭部分では旬のテーマによる研修を例年行っているが、今年度はコロナ禍ということもあって中止のやむなきに至っている。
- ② 資格取得など自己研鑽の取組

学生個々の適性に応じ、職業選択や能力開発を効果的に行うため、国家資格であるキャリアコンサルタント資格を1名が取得した。

法規・法令に基づく自衛消防組織の編成に必要な自衛消防業務講習修了資格、防火防災管理者資格について、計画的な資格取得により、学内における事故・災害への危機管理意識の向上を図るべく取組んだ。

大学行政管理学会の会員数は4名であるが、各人が学会発表に向けて各自のテーマに取組み、さらに多くの職員の研修の場として位置づけ、取組みを促進した。

4) コンプライアンス重視の労務管理と職場環境改善

専任職員については時間外労働の削減、休日出勤に伴う振替休日取得を年度初めに呼びかけた。年次休暇取得においては、一定数を計画的に取得するため部署長との相談の場を設けた。ストレスや長時間のパソコン作業などから慢性疲労やストレス性の疾病を誘発するリスクがあるためその対策が求められる。本年度においては、労災や通勤途中の事故に関して届出と発生はなかったものの、一層の事故防止のための注意喚起が求められる。

(3) 2020年度への改善・改革に向けた方策 <A>

1) 外部資金の獲得に向けた取組

- ① 大学の組織あげての公的補助である文部科学省、私学事業団補助項目に関しては、実施主体となる部門との情報や記録の共有と結果のフィードバックを行う。
- ② 科研費獲得に向けた分野を超えた学内における先進事例の共有や、各種財団、文部科学省以外の研究志向の補助金についても適宜情報提供を継続する。

2) 委託業務、産学連携のワンストップ化、知的財産権申請の支援

委託業務の内容掌握について、特に経費の取扱いについては、学内ルールに基づき適正な事務処理に努める。ややもすると、研究者が自ら獲得し自らに帰属する研究資金であるといった意識のため、出張の事後報告や経費の個人判断に基づく執行など、大学ルールからの逸脱が監査で指摘されており、十分な意思統一を図る必要がある。

<執筆担当/管理課長 赤羽 雄次>

3. 地域連携課

地域の地（知）の拠点として松本大学における研究や教育、地域連携活動の特色や成果を学内外に知らせて継続させる事が大学のブランド形成につながっている。

様々な地域連携活動等に積極的な関わり方が必要となるため、地域連携委員会事務局としての役割が重要になっている。

(1) 課題 <P>

1) 地域連携活動の受入窓口として

- ① 自治体、企業、教育機関等から寄せられる多種多様の連携要望は、教員個人として受け入れるのではなく、全学的に取扱うための担当部署としての業務を行う。
- ② 本学が行う地域連携活動等について、積極的に広報を行う。

2) 活動資金の確保に向けて

- ① 学内関係委員会が積極的に関わることで、一定金額の予算枠確保に努める。
- ② 委員会の意思を反映させて、関係機関や企業との折衝を進める。

3) 地域防災体制の構築に向けて

- ① これまでの本学の災害支援活動と防災教育の取り組みを踏まえ、防災・災害対策に特化した新たな全学的な組織の構築を模索する。
- ② 行政機関と連携しつつ、地域社会と一体となった危機管理の在り方を検討し、現実的かつ効果的な地域防災体制の構築を図る。

(2) 2020 年度の実践とまとめ <D・C>

1) 地域連携活動の受入窓口として

- ① 現状の把握と検証、課題を洗い出し、組織整備に向け具体的な検討を開始した。
- ② 地域連携委員会が主導することはもちろんであるが、その内容ごとに関係する学部・学科の協力を仰ぐ必要がある。

2) 活動資金の確保に向けて

地域連携活動に関わる経費については、地域連携委員会が管理する「地域連携活動経費」として 11 件、4,200 千円を予算枠として確保した。

3) 地域防災体制の構築に向けて

- ① これまで学内地域防災対策委員会で所管してきた内容を併せ、地域の支え合いを基盤とした防災態勢の研究や実践を本格化させるため、2021 年 4 月に「松本大学地域防災科学研究所」が発足する運びとなった。
- ② 避難所運営、要支援者救助、ボランティアの運営など先進的な取り組みを学び、研究を深め、住民の防災・減災の意識を高めることを目的とする。
- ③ 本学が主催する「防災士養成研修講座」は、新型コロナウイルス感染症の影響により 1 回のみの実施となった。(通算 10 回目)。57 名(本学学生 6 名、社会人 51 名)が受講し、資格取得検定試験には 44 名が合格した。長野県、松本市、下諏訪町等自治体による運営協力(講師派遣、受講者取り纏め)が得られた。本講座で身に付けた知識と実践力を活かし、地域社会における防災機能向上の担い手として、活躍の場が広がることを期待する。

今後、保護者や卒業生への浸透、後援会や同窓会との連携を図っていく。

(3) 2020 年度への改善・改革に向けた方策 <A>

1) 地域連携活動受入窓口の整備に向けて

地域連携のクライアント側のニーズは多岐にわたっており、松本大学における窓口となる地域総合研究センター、地域健康支援ステーション、地域づくり考房『ゆめ』の役割の相互理解と地域連携課をはじめとする事務局同士の緊密な連携も図る。

2) 地域防災体制の構築に向けて

- ① 引き続き防災士養成研修講座を実施し、地域防災の担い手となる防災士を養成する。
- ② 限られた人員でスタートする「松本大学地域防災科学研究所」の事務局として、取り組みの充実を図る。

<執筆担当/地域連携課長 赤羽 雄次>

Ⅲ. 学生センター

2011年度から、大学内の各部署で様々な業務を経験した総合職（ゼネラルマネージャー）としての人材育成を目的に、若手・中堅職員・課長の定期的、計画的な人事異動を行ってきている。また、2018年度には、将来的な異動を想定してキャリアセンター、情報センター、教務課にそれぞれ1名の専任職員が補充された。しかしながら、学生センターの専任職員は同部署での勤務が長期化している者も多く、一度に多くの異動があるとノウハウの継続が困難となるため、中・長期的な視野に立って計画的にジョブ・ローテーションを行なっていく必要がある。

また、本学では、開学以来、教職協働による大学運営を重視しており、教員と共に大学の発展に寄与する人材となるべく、大学職員としての専門性と幅広い教養を身につけるため、各種研修会への参加を積極的に促している。

（1）学生連絡会・相談員の役割の再点検 <P・D>

1) 学生支援連絡会

2013年度に名称変更した学生支援連絡会は、若手職員の自由闊達な意見交換や情報共有の場として機能し、退学者の抑制、休学している学生の復学促進を主な目的としている。

しかし、2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって、対面での会議を控えることが求められたことや、前期はほとんどの授業がオンラインであったため個々の学生の状況が把握しにくい状況であったことなどから中止とした。

2) 学生相談員、ファイナンシャル・プランナー

2012年6月より、学生がいつでも相談できる学生相談員の配置を行っている。学業や友人関係、クラブ・サークルのことなど悩みや相談がある場合、気軽に相談できるよう、カウンセラーの有資格者を中心にカウンター業務と並行して行っている。

また、経済的に修学が困難な学生からの相談に応ずるため、ファイナンシャル・プランナーの有資格者の相談員も配置している。

3) 授業料免除制度

休学・退学する学生の中には、経済的な理由によるものが少なくない。学内制度として、2009年度より「経済状況悪化に伴う修学困難な学生への支援制度」を設け、家計を支えている方の失職、破産、事故、病気、若しくは死亡等によって、入学後、修学が困難となった学生に対し、授業料の半額を免除するなどしている。2020年度、これに採用された学生は前期後期合せ16名（大学院2名、大学13名、短大部1名）であった。

（2）学生連絡会・相談員の役割の再点検 <C・A>

1) 学生連絡会

学生連絡会は、原則月に1度の開催で、毎回10名程度の職員が参加している。各部署から持ち寄られた学生の情報を共有し、休学者・退学者が多少なりとも減少するよう、議論を重ねている。連絡会の意義（原点）を振り返りつつ、開催頻度の見直しも含め再開するかを検討する。

2) 学生相談員

学生相談員は、学生の日常的な悩みを幅広く受け付けることを目的に設置されたが、相談に訪れる学生はほとんどいないのが現状である。学生の悩みは、日常会話の中に見え隠れしており、相談員に限らず窓口対応した職員が、会話の中に感じた悩みに対しアドバイスを行うケースがほとんどである。今後、SD研修の一環として継続的に取り組んでいるキャリアカウンセリング等の資格取得

や、産業カウンセラーの資格取得の推進によって専門知識を持った相談員を配置することにより、効果が上がることを期待したい。

3) 奨学金等への対応

2020年度から、「高等教育段階における教育費負担軽減新制度」が実施されることとなった。2020年度は、学費免除となる対象大学となるかを確認する機関要件確認の更新申請を行い、大学・短期大学部共に要件を満たした。これを受けて、後期から、学生課が中心となって学生自身が対象になるかを確認する等の業務を着実に遂行した。2020年度には、新入生63名（大学48名、短大部15名）、在学学生52名（大学40名、短大部12名）が採用された。学生課を中心に、引き続き適切に業務を遂行する。

＜執筆担当／学生センター長 赤羽 研太＞

1. 教務課

2020年度は、復職した職員を加え、主に教務を担当する職員10名、資格2名、教職3名、会計2名、基礎教育1名と管理職の19名の体制でスタートした。

6月には、教育学部担当者のサポートとしてパート職員1名を増員した一方、9月から専任職員1名が長期休暇に入ったことに加え、9月末に専任職員1名が退職、2021年3月末には教職センターのパート職員1名が退職している。職員数の多い部署であるためやむを得ないことではあるが、今年度も複数の異動があり、結果として17名で年度末を迎えることとなった。

また、2020年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴って、当初日程で対面の授業を開始することができず、オンライン授業への変更、履修登録期間や履修登録方法を大幅に変更するなど、かつて例のない対応に追われた。

(1) 2020年度の基本計画 <P>

2019年度の自己点検・評価を踏まえ、2020年度の取組みを以下に掲げた。

1) 教務に関する諸規程・諸規則の整備

全学教務委員会と連携し、各種規程等の点検を継続的に行い、実態との不整合等が生じている場合には、その都度各種規程等の見直し及び整備を進める。

2) 教務関連事項の運用方法や手続き書類等の見直し

運用方法や手続きの見直しは、定着するまでに課題等が生じてくることがある。今後も継続的に検証を行い、必要に応じて修正すると共に、学生の利便性向上に向けて改善に取り組む。

3) 教育学部の学年進行に伴う対応

教育学部が完成年度を迎えるため、教員採用試験・就職状況を注視しつつ、完成年度後となる2021年度カリキュラムの検討を進める。

4) 全学共通教養科目の検討

今後も継続的にクラスサイズの適正化や休講・補講の対応等、講義運営について検証を進めていく。2021年度の共通教養課程の完成年度後を見据え、科目群ごとにワーキングチームを立ち上げ、科目の統廃合・新設を含めて全学的な検証を進める。

5) 教学改革の推進

次期認証評価は2022年度に受審予定であり、2021年度の実績に基づいて審査が行われることになる。2019年度に検討を進めた結果を、2020年度は着実に遂行していく。また、継続的にFD・SD

委員会と連携しつつ情報収集を進め、教職員と情報共有を図りながら、具体的な対応策の検討や準備を進めていく。

- ・2019年度に決定したシラバス様式の変更をシステムに反映させ、2021年度用シラバスから運用する。
- ・導入が決定されたLMSを、2020年度後期から稼働させることを目指す。また、活用事例について説明会を実施し、教員の理解を深める。
- ・内部質保証を実質化するため、IRを活用したDP・CPのチェック体制及び教学改革サイクルを構築する。

(2) 課題に対する取組 <D>

1) 教務に関する諸規程・諸規則の整備

2020年度は、教育課程変更に伴う学則変更のほか、健康科学研究科の博士課程への課程変更申請が認可されたことに伴う諸規程の制定・改正を行った。

(制定)

- ①「松本大学大学院健康科学研究科博士前期課程履修細則」

(改正)

- ①「松本大学教職課程履修規程」
- ②「松本大学非常勤教員規程」
- ③「松本大学大学院履修規程」
- ④「松本大学大学院長期履修学生規程」

2) 教務関連事項の運用方法や手続き書類等の見直し

導入から10年を超えた教学システム「メソフィア」については、システムの不具合や開発業者側の対応の変化等により、継続して使い続けることにリスクが生じるとの共通認識から、教務課としてリプレースを前提とした新教学システムの情報収集、検討を進めた。

他方、恒例となっていた「入学前セミナー」（キャリアセンターと協働）及び入学式後に開催する新入生「保護者説明会」は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によってすべて中止となった。

3) 教育学部の学年進行に伴う対応

完成年度となる2020年度は、88名の新入生を迎え、昨年に続き定員を超過することができた。設置計画に基づいて計画通りに授業を開講し、講義運営を行った。教育学部はその性格上、対面でなければ学修成果の十分な向上にはつながらない科目が多く、コロナ禍にあって各方面と調整しながら慎重に実習等を行うことが求められた。年度途中には、文部科学省より教育実習等の特例措置が出され、教職センターと連携しながら実習校との調整を図り、予定していた教育実習をすべて実施することができた。

4) 全学共通教養科目の検討

コロナ禍にあって当初の日程より遅れたものの、ユニットごとにワーキンググループを立ち上げ、ユニット名称や科目名称の変更など、全学共通教養科目完成年度後の2021年度に向けて全面的な点検を実施した。

5) 教学改革の推進

- ・前年に引き続き、FD・SD委員会と協力し、シラバス作成に関するFD研修会及び緊急導入したLMSの活用に関するFD研修会を実施した。

- ・2018年度から通年・定期開催とした English Café は、コロナ禍にあつて、その特性上から実施を取りやめた。
- ・2019年度に決定したシラバス様式の変更をシステムに反映させ、2021年度用から運用を開始した。
- ・2020年度後期稼働予定であった LMS は、コロナ禍への対応の一環として、5月に前倒し導入した。しかし、オンライン授業の開始と相まって、資料提示等のツールに「Teams」を利用することとしたため、本来の授業支援での活用はほとんど始められていない。そのため、2021年度から授業支援に活用することを目指して、2月に教員を対象とする説明会を実施した。
- ・DP・CPの見直しは、各学部・学科単位で進められたものの、IRを活用した教学改革サイクルの構築にまでは及んでいない。

(3) 課題に対する点検 <C>

1) 教務に関する諸規程・諸規則の整備

必要な規程の制定や改正を順次行いつつ、適性に運用することができた。

2) 教務関連事項の運用方法や手続き書類等の見直し

新教学システムについては、全学教務委員会の同意を得て、教務課として一つの製品に絞り込むところまで調整した。また、教学システムの入替え(リプレース)は、多方面に影響を及ぼすこと、また予算面で大きな費用となることなどから、2023年度稼働を目指すことを第2次中期計画に盛り込み、全学的な理解を得られるように図った。

3) 教育学部の学年進行に伴う対応

教員採用試験の合格に向けた支援については、1期生ゆえに一層の支援をしたいという教職員の思いや学生の熱意と、大学の感染防止に努めなければならないという基本姿勢の狭間で、リモートを活用した面接対策や教員採用試験模擬試験の在宅受験など限られた支援となってしまった。

しかしながら結果的に、教員採用試験では長野県を中心に12名(延べ18名)が合格し、他の学生も臨時採用や民間企業等に就職が決定するなど、就職率は100%となった。

4) 全学共通教養科目の検討

2021年度に向けて、以前から整理を求める意見については一通りの対応はできたと考えている。しかし、コロナ禍にあつて、十分な意見交換や議論を深めることができなかつたとの反省もあり、十分に納得を得られていないものについては継続的に検討していく必要がある。

5) 教学改革の推進

2020年度は、コロナ禍にあつて、どう授業運営をするのか、また、オンラインで受講する学生の学修成果は上がっているのかといった目先の対応に追われがちで、教学改革に向けた検討を十分には行うことができなかった。

English Café は、コロナ禍が終わるまで再開は困難だと思われる。国家間を自由に行き来できるような状況が戻った際に、改めて学生のニーズを把握しながら検討していくことが求められよう。

- ・シラバスの様式変更に伴うシステム改修は、業者側の都合で納品が遅れたものの、2021年度用シラバスからの運用に間に合わせる事ができた。
- ・学生の学修ポートフォリオとしての機能も期待して以前から検討を進め、ようやく導入した LMS であるため活用を促進したいと考えているが、2020年度は、事務局に関する資料掲載、掲示板機能として学生に周知を進める程度にとどまった。基礎教育センターの入学前教育も一部で活用

を始めたものの、授業支援では活用に至らなかった。

- ・コロナ禍に対応することが優先され、教務関係の IR 推進はほとんど進められなかった。

(4) 課題に対する改善 <A>

1) 教務に関する諸規程・諸規則の整備

全学教務委員会と連携し、各種規程等を整備した。今後も継続的に点検を行い、実態との不整合等が生じている場合には、その都度各種規程等の見直し及び整備を進める。

2) 教務関連事項の運用方法や手続き書類等の見直し

新教学システムへの入れ替えに向けて具体的に歩を進める。2021 年度前半には業者を決定して調整を進め、年度中にデータ移行等の作業を行う。

3) 教育学部の学年進行に伴う対応

教育学部は完成年度を迎え、教員採用試験への合格状況等を検証し、認証評価後の 2022 年度に向けて大幅なカリキュラム変更や支援体制の整備を改めて検討する。

4) 全学共通教養科目の検討

今後も継続的にクラスサイズの適正化や休講・補講の対応等、講義運営について検証を進めていく。科目の名称や配置、SDGs 及び STEAM 教育への対応等、十分に納得を得られていない事柄については、運用を進めつつ、継続的に全学的な検証を行う。

5) 教学改革の推進

次期認証評価は 2022 年度に受審予定であり、2021 年度の実績に基づいて審査が行われることになる。コロナ化で対応が遅れた事柄についても、2021 年度には体勢を立て直して着実に遂行していく。また、継続的に FD・SD 委員会と連携しつつ情報収集を進め、教職員と情報共有を図りながら、具体的な対応策の検討や準備を進めていく。

- ・コロナ禍での授業をどのように実施するかを見極め、「Teams」との併用か、あるいは LMS 一本化に向けた活用を推進するかを決定していく。
- ・機関別認証評価受審を視野に、内部質保証を実質化すべく、IR を活用した DP・CP のチェック体制及び教学改革サイクルの構築を急ぐ。

<執筆担当/教務課長 赤羽 研太>

2. 学生課

本学は「教育・研究を通じた地域社会への貢献」を掲げ、社会で行われる実際の事業に学生に主体的に関わらせることで、地域社会や地域住民とのつながりを持てるよう学生への支援を常に心がけている。それぞれ、学部別の担当を配置しながら、窓口対応、奨学金や各種契約等の事務手続き、そして大学祭など、共通の企画や全学行事に関わる業務を遂行した。また、教育学部も完成年度を迎え、より多くの学生を巻き込んで取り組むことを重視した。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、今年度予定されていた行事等のほとんどが開催できずに中止のやむなきに至った。

(1) 年間計画 <P>

1) 学生の指導に関する事項

- ・学内での生活全般
- ・危機管理対応（事故・事件の対応）
- ・病気、怪我、体調不良等の相談、対応（健康安全センターとの連携）

- ・ 日常の生活マナー指導（喫煙、交通・駐車違反、不正乗車、歩きスマホ、学内美化等）
- ・ 松本警察署生活安全課及び交通課との連携
- ・ 長野県中信消費生活センターとの連携

2) 学生証、通学証明書、JR学割証の発行に関する事項

- ・ JR線及び上高地線における通学定期等、各種証明書等の発行

3) 学生の課外活動等に関する事項

- ・ 学友会、クラブ協議会、サークル連合への支援
- ・ 強化部、重点部、強化指定選手への大会手続及び支援
- ・ 寮生活の指導・健康状況、会計状況、生活状況相談
- ・ 松本子どもまつり、松本ぼんぼん参加申請、企画、引率等
- ・ 学部及び短期大学部の体育大会等への協力、支援
- ・ 各種会議及びリーダー研修会への助言、支援
- ・ 新村文化祭・新村地区運動会への支援と学生派遣協力
- ・ 新村地区あたらしの郷協議会への協力
- ・ 各種発刊物への企画アドバイス
- ・ 湘北短期大学との交流会（短大部リーダー研修会・短大部学友会役員引継ぎ会）
- ・ アルバイト情報の提供、掲示物等

4) 大学学友会の一本化に伴うさらなる活性化

教育学部が完成年度を迎え、今まで以上に学友会活動に関わる機会が増えることから、他学部との交流を積極的に行う。また、学部生・短大生が共に協力して学友会を盛り上げていく仕掛けづくりに取り組む。

5) 大学祭をよりアカデミックさを強調しながら成功させる

昨年度、台風19号の影響によって中止となり、今年度54回目を迎える大学祭は、学部・短大部学祭局の学生を中心に知恵を出し合い、さらに質を高める工夫をして準備に当たる。また、資金的にも後援会や同窓会から補助金を提供していただくことができ、よりアカデミックさと多くの方に喜んでもらえるよう、企画を意識して進めるべく取り組む。

6) 修学支援に関する事項

- ① 経済状況悪化等に伴う修学困難な学生への支援制度の活用促進
- ② 日本学生支援機構の奨学金への応募推進
- ③ 高等教育の修学支援新制度への応募推進
- ④ 学びの継続のための学生支援緊急給付金への応募推進
- ⑤ 新型コロナウイルス感染症対策助成金への応募推進
- ⑥ 松本大学同窓会奨学金への応募推進
- ⑦ 地方公共団体・民間育英団体奨学金への応募推進
- ⑧ その他

7) 障がいをもつ学生への支援

学生数が増え、障がいを持った学生の進学も見込まれることから、バリアフリー等の課題も合わせ、障がい学生への対応を検討していくこととした。また、本学には「障がい支援センター」的な専門部署がないため、今後、全学的な支援体制、仕組みづくりを進めるべく働きかけていくことと

した。

(2) 活動内容 <D・C>

1) 学生生活の広がりに対応した支援業務

① 修学支援（奨学金、緊急支援制度 他）

全学生の5割強に当たる1166名（院生含む）が、日本学生支援機構奨学金の貸与を受けており（給付型含む）、昨年度より10%近く貸与者が増加するなど、親元の経済事情を反映した結果となった（本学として初めて貸与率が50%を超えた）。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響があり相談件数が昨年度に比べかなり増加した。そのため、緊急・応急貸与や月額変更などの個別相談にきめ細やかに対応するよう心掛けた（貸与一覧については下記別表参照）。

	学生数（5/1 現在）			奨学金受給学生数・比率		
	2018年	2019年	2020年	2018年	2019年	2020年
総合経営	744人	749人	725人	297人 39.9%	332人 44.3%	387人 53.4%
人間健康	726人	722人	731人	351人 48.3%	369人 51.1%	421人 57.6%
教 育	131人	224人	307人	58人 44.3%	113人 50.4%	186人 60.6%
大 学 院	8人	12人	12人	3人 37.5%	3人 25%	6人 50.0%
短期大学	433人	428人	407人	154人 35.6%	140人 32.7%	166人 40.8%
合 計	2,042人	2,135人	2182人	863人 42.3%	957人 44.8%	1,166人 53.4%

また、2020年度4月よりスタートする、高等教育の修学支援新制度の運用もスタートし、学部・短大併せて162名の学生が採用された。

また、経済状況悪化等に伴う修学困難な学生への支援制度として、学費半額免除の制度を継続して行った（前期・後期）。以前よりも経済状況が好転しているためか申請者は減少傾向にあり、採用者は、前期（22期）1名、新型コロナウイルス感染症追加募集13名、後期（23期）11名であったが、貴重な制度なので学生へのさらなる周知に努めたい。

新型コロナウイルス感染症の影響による経済悪化を受け創設された、「学びの継続」のための学生支援緊急給付金には、1次申請に学部147名、短大部22名、2次申請に学部214名、短大部60名、3次申請に学部9名、短大部4名の合計456名が採用された。

また、学部のみ、例年どおりスポーツ特待生制度の継続審査を前期及び後期に実施したが、今年度、学力基準（GPA目標値：2.0 GPA基準値：1.0以上）を下回った学生が前期・後期共に1名ずつおり、所属の部長より厳しく指導した。

② 生活支援（マナー、社会人基礎力）

新入生には、交通安全、薬物・防犯について松本警察署の協力を得て講話を実施（10月～11月）したが、知識の習得と一定の抑止効果を見せたと判断している。また、毎年在学生オリエンテーションでは、全学部2年生を対象とした消費者トラブル防止講習会を開催しているが、新型コロナウイルス感染症の影響によって実施できなかった。

③ 学内全面禁煙の施行

健康増進法の一部を改正する法律の施行に伴い、2019年7月1日より、大学敷地内の全て（学生駐車場含む）を全面禁煙とした。学内での喫煙はもちろん、大学周辺の道路等でも喫煙しないよう指導に当たったが、昨今は、全体的にマナーが向上しているように思われる。地域住民との信頼関係もあるので、今後も全面禁煙への理解を求め、教職員一丸となって取組んでいきたい。

④ コミュニティ形成としての居場所づくり

社会的な実践から学ぶことができる課外活動への期待が高まっている。コミュニケーション能力や社会性を身に付けるため、学友会やサークルを通じた人づくりを重視している。

総合グラウンドは、学校法人松商学園の共有グラウンドのため高校と大学から運営委員を選出し、授業優先の原則の下、本学のクラブ活動と高校の部活動のすみわけを図っている。7号館1階と9号館1階のコモンルームは、本来、多目的空間として勉強、語らい、食事、サークル活動などのニーズがあるが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で座席を減らしアクリル板を設置するなど、使用に制限を設けた。

⑤ 危機管理

学生が安心、安全に学生生活をおくるために、事故防止及び事故に対して健康安全センターと連携して対応した。また、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、学生による学内2か所の食堂で昼食時に消毒作業に当たり、飲食場面での感染対策の徹底に取り組んだ。この点については、学生と職員の連携活動の一端として高く評価してよいと判断している。

2) 強化部・重点部の支援

新型コロナウイルス感染症の影響で、4月から6月中旬まで活動を自粛。また、大会等が軒並み中止または延期となったが、6月中旬以降は徐々に活動を再開。また、8月以降は大会も再開され、公式戦等遠征におけるバスの手配、宿泊費、旅費出張費等の会計事務を担った。

また、寮費の徴収、支払いや食事の管理等についてもサポートを行った。女子ソフトボール部の「あずさ寮」は、12月に2名の寮母が退職し、食事提供の業務委託化を図った。

3) 学友会のサポート

新型コロナウイルスの影響で、体育大会や大学祭といった学友会主催のイベントが軒並み中止あるいは縮小開催となった。クラブ・サークル活動等も、長期間活動ができなくなるなど、多くの影響があった。

また、常任委員会や学生大会及び会計処理、選挙活動のサポート全般を行い、会則の作成に当たっての支援を行った。

4) クラブ協議会・サークル連合会議

クラブ協議会・サークル連合の会議（総会）を、2021年2月にオンラインで開催した。コロナ禍で活動に制約がある中、今後の活動についての情報共有を図ることができた。また、クラブ・サークルの代表学生が教員に部長職への就任の依頼し、その結果を学生課へ報告するという手順・仕組みを確立でき、高く評価している。

5) 大学祭「梓乃森祭」

今年度54回目を迎えた大学祭は、新型コロナウイルスの影響で10月16日（金）にオンライン形式で開催した。クラブ・サークルのパフォーマンス、クイズ大会、抽選会、お笑いライブなど生配信と録画配信を織り交ぜながら行い、また、フィナーレには秋の夜空を彩る花火も打ち上げた。延べ3000人を超える方々に視聴いただき、初のオンライン開催に戸惑いながらも大きな成果を収め

ることができたと評価している。コロナ禍の状況下、しばらくは通常での開催が出来ないことが予想されるため、今回をきっかけに新たな形での大学祭開催を模索していく。

6) 障がいをもつ学生への取組

車椅子で生活する学生に対して、駐車場を校舎の近くに作るなどの配慮を行った。

(3) 次年度への課題 <A>

さらなる現場事業を強化すべく、下記に取組む。

- 1) 次年度以降も、新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、共存していく体制や支援策が求められる。今年度の経験や新たな発見を基に、一人ひとりが自分の立場や役割を理解し、今後も学部・短大部学友会の共同事業、学部全体で取り組む事業、学部独自の事業と、全てがバランス良く活動できるように配慮した支援を行っていく。
- 2) 学部・クラブ協議会と短期大学部・サークル連合会の組織を融合し、スムーズな運営体制を確立する。また、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期しながら、クラブ活動がより活発化するよう支援する。
- 3) 高等教育コンソーシアム信州の加盟大学とのネットワークを広げ、各大学の情報交換の場を設け、学生の交流が活発化するよう支援する。
- 4) 学生生活の基盤を支える
 - ① 学生の5割強に当たる奨学金貸与学生へのスムーズな手続きと共に、親身になった相談業務を行う。また、日本学生支援機構以外の奨学金も幅広く学生に紹介できるよう情報収集に努め、本学独自の支援策も積極的に紹介する。
 - ② 今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で様々な悩みを抱えた学生が増加したように思われる。今後も、そうした学生たちが安心・安全に学生生活を送ることができるよう寄り添うと同時に、悩みを聞く機会を捉えるべく情報収集等に努め、各部署との連携を密にする。
 - ③ 学生一人ひとりの人権を尊重した対応に努める。
 - ④ 強化部、重点部、個人強化選手の支援を通じて、選手が安心・安全に活動・活躍できる環境づくりに努める。
 - ⑤ 寮費・食費をはじめとした課外活動費の適正化を、部の指導者と共に進める。
- 5) 学生課職員のレベルアップ
 - ① 学生課の仕事の範囲は広く学生と直接携わる場面が多いため、例え知識が浅くても、あるいは見聞が狭くても、学生の問いにすぐに答えなければならない場面が生じる。課内での情報交換を活発化し、お互いが日々の業務の中で研鑽し合い、常に「学生ファースト」の気持ちを忘れずに課員全員で質の向上に努める。
 - ② 学生にとって最も身近な「社会人」であることを肝に銘じ、優しさの中にも時には社会の厳しさを指導・助言することも職員の責務と捉え、信頼関係を構築すべく学生対応を心掛けたい。また、どの学生に対しても公平なサービスを提供できるように努める。
 - ③ 引き続き、職員の標準化を推進し、異動があっても問題ないようにマニュアル等を作成し、円滑に事務を引き継げるよう取組む。

<執筆担当/学生課長 白澤 聖樹>

3. キャリアセンター

キャリアセンターは、就職や進学を目指す学生に対して様々な機会や情報を提供し、卒業後の進路選択を支援している。また、就職活動中の学生に対しては、エントリーシート及び履歴書の添削指導や面接練習をはじめとする個別指導並びに、学内企業説明会などを通じて学生の内定獲得に直結した支援を行っている。

本学学生の約8割が県内出身で、卒業後も約8割が県内に就職していることから、若者の出生地定着にも貢献していると言える。保護者の期待を念頭に入れつつ、地元企業の人材確保と地域社会の発展に貢献することを念頭に、学生の就職支援に努めたいと考えている。

2020年度は、課長1名を含む専任職員6名、嘱託専任職員1名、嘱託職員1名の計8名により業務に従事した。

(1) 2020年度の計画 <P>

2019年度の自己点検・評価を踏まえ、2020年度のアクション<P>を以下の7点と定めた。

1) インターンシップについて

今年度の取組みを通じて企業の関心が高いことが看取され、学生についても、説明会や申込み件数あるいは報告会への低学年学生参加人数が多数であるなど全体的に関心が高いことが裏付けられたことから、2020年度は、インターンシップが学生の就業意識を高めるだけでなく、企業と学生を結びつける絶好の機会であると判断し、引き続きプログラムや実施体制を整備すべく努める。

2) 学生の個別支援とWEB化

今年度実施した履歴書等のメールでの添削、WEB会議システムを利用した面接及び遠隔指導によって、遠方からの学生の負担軽減を図ることなどができたことから、2020年度も必要に応じて引き続きこうした取組を進める。また、学生の就職支援システムの導入を予定しており、各種希望制講座の申し込みをWEB上でできるようにする予定である。これにより、さらなる業務の効率化と平準化に取り組む。

3) 学内合同企業説明会実施形態の検討

今年度予定していた学内企業説明会は、過去最多数となる企業の参加を予定していたものの、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から急遽中止となり、就職活動を支援する上で非常な痛手となった。

そうした事態を踏まえ2020年度の方策については、体育館に数百名の学生と人事担当者が集まる形態は困難であると思われることから、日程や会場の分散、時間毎の交代制、WEBを活用した説明会などあらゆる手段を検討し、人事担当者の考えや意向を踏まえながら、学生・企業双方にとって有効な機会を提供できるよう取り組む。

4) 新たに始める夏季就職対策講座について

学部3年生を対象とする就職対策の一環として長期にわたって「就職合宿」を実施してきたが、参加できる学生は全体の三分の一程度であることから、2020年度からは全体の底上げを図ることに主眼を置き、学内において学部3年生全員が面接体験講座を受講するプログラムを実施することとした。夏季就職対策講座の実施に先立ち、前期キャリア支援科目において非常勤教員と連携し、授業内容と夏季就職対策講座を有効に結び付くよう配慮していく。

5) 企業との情報交換・情報収集

① 企業情報管理の枠組み

企業情報管理の主な取り組みとして、企業訪問や郵送を通じた求人依頼のほか、合同企業説明会の参加依頼や単独企業説明会の動員、内定の御礼や各種行事への協力依頼を例年実施しているが、それら個々の取り組みであり、総合的な企業情報管理が不十分なまま現在に至っている。したがって、2020年度は、管理可能な事業所数に絞った情報管理に取り組み、可能な限りきめ細かく企業とのコミュニケーションを図るべく取り組む。

② 企業訪問について

今年度は、職員による訪問先企業及び本学への来訪企業一覧を全学就職委員会で報告し、情報共有を図った。しかし、採用情報のほかにも卒業生の状況を含めたさらなる情報収集の必要性について要望が出されたことから、2020年度以降はそうした情報収集に努めると共に、教職員との情報共有にも心掛けていく。また、上に挙げた企業情報管理を実施しつつ、卒業生を送り出した本学の社会的評価を検証するために、企業の人事担当者に定期的なアンケートの協力をいただくなど、中長期的な視点と継続性を持った訪問活動を検討する。

6) キャリア面談業務について

キャリア面談業務のあり方について、これまでの学部2年生を対象とするキャリア面談については希望制とすることが決定されたことを踏まえ、学部3年次の春から始まる就活サイトの登録やインターンシップ参加への準備に結び付けることができる可能性があることも合わせ、改めて主旨や位置付けを明確にすべく取り組む。

7) 就労移行支援事業者との連携

近年では、学生個々の事情を尊重して適切な社会的支援を受けながら進路を選択する動きが進んでいることから、キャリアセンターとしても「就労移行支援事業者」との連携を深め、学生や保護者に適切な情報提供ができるよう努めていく。

(2) 実施状況と点検・評価の結果 <D・C>

1) インターンシップについて

連携企業は増加したものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年度は中止とした。代わりに企業・団体が独自に行うオンラインインターンシップなどへの積極的参加を呼び掛けた。また、長野県内の市役所との連携を広げ、松本市、安曇野市、岡谷市、茅野市、飯山市に計15名の受け入れを依頼することができた。

学生指導においても、近年の採用活動におけるインターンシップの重要性を授業やガイダンスにおいて時間を割いて周知した。

2) 学生の個別支援とWEB化

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、就職活動支援のオンライン化を進めた。まずは学生問い合わせ専用のメールアドレスを作成し、メールによる相談受付や添削受付を行った。その後、Office365のアプリを活用し、Teamsによるオンライン相談や全体情報配信、Formsによる面接練習と添削依頼受付、OneDriveでの企業情報配信をシステム化した。

学内で実施していた企業の説明会もZOOMによるオンライン化を図り、新たに導入した就職支援サイトを活用して、学生の予約受付やURL配信を24時間自動化することができた。これまでも、大学4年生は大学へ登校する機会が比較的少なかったこともあり、対面のみの指導の限界を感じていたところにコロナ禍によるWEB化が重なり、遠隔での効果的な指導を実現できたと判断している。

また、保護者説明会においても新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、教育学部以外は資料

郵送の対応とした。資料として「新たに保護者のための就活支援ガイド」を発行し、直近の内定状況や学生・企業アンケート結果を掲載するなど、保護者支援にも力を注いだ。

3) 学内合同企業説明会実施形態の検討

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2021年2月に開催を予定していた学内合同企業説明会は、オンライン開催として実施した。4日間計96社が参加し、本学学生も470名（参加率74%）が予約した。

本学にとって初めてのオンライン合同企業説明会の開催であり、参加企業も初めてのオンライン参加である企業が多数であった。そのため、説明動画を作成するなど丁寧な準備を行い、企業の参加満足度は5段階評価で平均4.63と高評価となった。

4) 新たに始める夏季就職対策講座について

学部3年生を対象とする早期の就職対策の一環として、「就職合宿」に代えて、オンライン集団面接体験を実施した。これまでの1泊2日のプログラムはコロナ禍により実施ができないこと、そして希望制で約100名程度の学生しか参加できないことが課題であった。

今回の取り組みにより、3年生全員（約420名）を対象としたオンライン面接体験ができ、面接官からフィードバックを行うことができた。参加した学生の満足度は4段階評価で平均3.61であった。

5) 企業との情報交換・情報収集

① 企業情報管理の枠組み

新たに導入した就職支援サイトでは、求人の受付管理ができるほか、企業情報も併せて管理ができる。そのため、企業との折衝記録と求人情報、2020年度からは採用情報を一元管理できることとなった。

コロナ禍ではあったものの、求人受付件数は前年比横ばいで推移した。

2020年卒：12,392事業所（内長野県企業：480事業所）

2021年卒：12,062事業所（内長野県企業：417事業所）

② 企業訪問について

2020年度は、コロナ禍により企業への訪問や来学の機会が大幅に減少した。そこで、新たな企業との関係構築として、内定者を起点とした卒業生の追跡調査を開始した。初年度にあたる2020年度は、2021年1月に内定者の評価を中心に調査を行った。その際、従来内定礼状に同封していた内定者一覧も一緒に送付することで、具体的な人物評価も可能となった。回収率は70%と高く、オンラインを活用したことが、その要因のひとつであったと判断している。

また、2020年12月には、企業の人事担当者を対象に大学が情報発信する、「松本大学キャリアセミナー」をオンライン開催した。初開催であったが、65社80名が参加しニーズの高さをが伺うことができた。参加者からは、5段階評価で平均4.49という高い評価をいただくことができ、定期開催の要望も複数挙げられた。このようにコロナをきっかけにしながらも、新しい関係構築の形を少しずつ形成することができたと判断している。

6) キャリア面談業務について

これまで1対1の対面での実施であったため、コロナ対応としてオンラインでの面談を試みた。面談員とは入念な準備を行い、新4年生には事前にエントリーシートを作成してもらい、オンライン面接を想定した面談とした。参加した学生の満足度は5段階評価で平均4.74であった。ま

た、新3年生については、例年より実施が半年以上後ろ倒しとなったが、ちょうど大学生生活の折り返しとなる時期かつ、キャリア支援授業が開講する1カ月前という進路について考えるベストな時期に実施ができた。学生の満足度は5段階評価で平均4.56であり、就職活動への動機づけにつながったと言える。

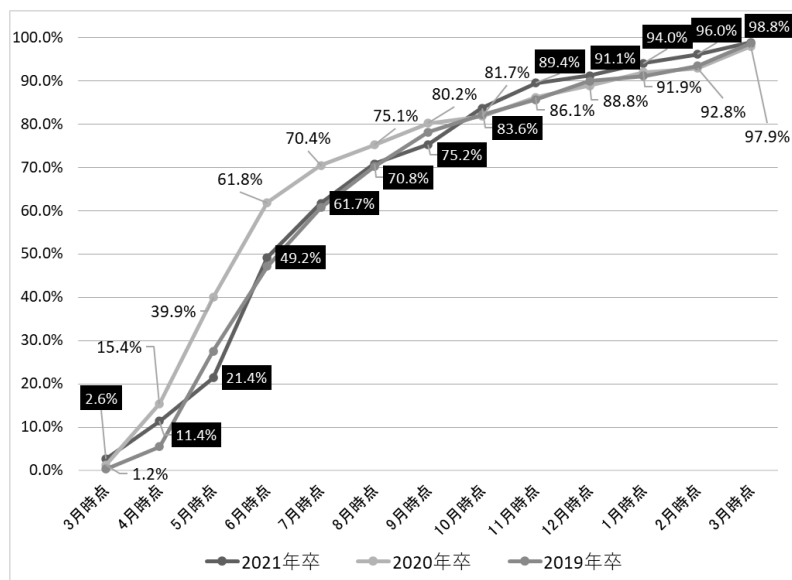
7) 就労移行支援事業者との連携

業者との打ち合わせを継続しながら、一部の学生の利用につながった。しかし、原則として卒業後の支援となるため、在学中からまずは事業者の存在や支援内容を知ってもらう必要性が感じられた。

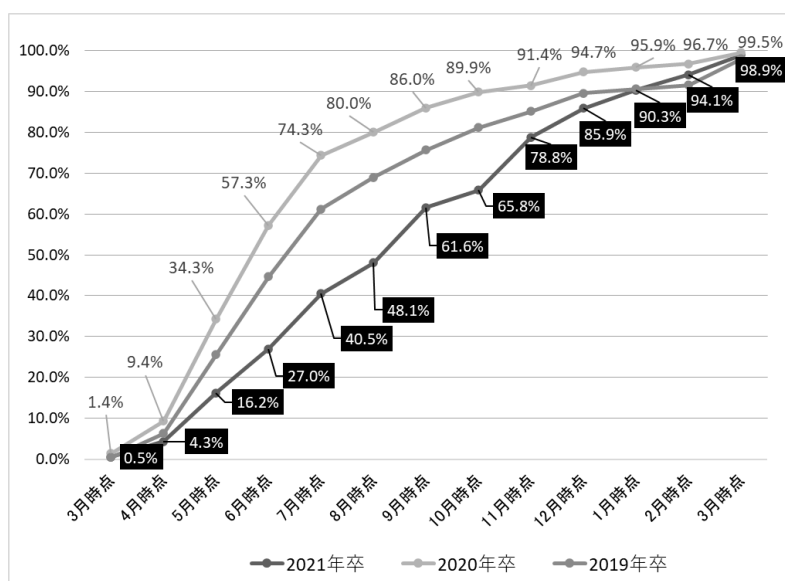
8) 2021年卒内定率の推移（過去3年比較）

大学、短大とも緊急事態宣言の影響を受け、4月～6月の採用活動が鈍化した。しかし、夏には採用活動が再開され、下の図にもあるように、内定獲得者が増加し、大学では10月には昨年度同月比の内定率を上回り、前年度と同等レベルの就職実績を残すことができた。

①松本大学



②松商短期大学部



(3) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

1) インターンシップについて

2021年度からは、教育学部以外の学部学科・研究科でインターンシップが単位化される。就職年度生のインターンシップでは、企業独自の取り組みが盛んに行われており、採用活動化している。したがって、大学の授業として行うインターンシップと企業独自のインターンシップの棲み分けが課題となる。そのため、以下4点を次年度以降の検討課題とする。

- ① 大学1、2年生など、低学年からのキャリア意識向上のための自己分析や業界研究の授業機会を検討し、学部2年生での企業インターンシップを支援する。
- ② 短期だけでなく、長期間の受け入れを前提としたインターンシップの導入を既存企業と検討する。
- ③ 現状2単位としている授業時間では、5日間の受け入れを必須としている。そのため企業の負担が多く、受け入れに結び付かない事例があることから、企業に対する意向調査を検討する。
- ④ オンラインインターンシップの活用など、新たな体験様式の導入を検討し、企業と一緒にあり方を研究する。

2) 学生の個別支援とWEB化

支援のオンライン化には一定の成果がでており、次年度以降も継続していく。一方で、就職活動の早期化が進んでおり、学部3年生からの就職支援では間に合わないと感じられるケースも散見される。低学年の意識が向上する取り組みを検討し、学部学科によらず、これまで採用実績がなかった企業にも積極的にチャレンジできるよう、学生の視野を広げ、内定を勝ち取れる積極的かつ具体的な就職支援を実現していく。また、コロナ禍により筆記試験がSPIに置き換わっているため、その対策を検討する。

3) 学内合同企業説明会 実施形態の検討

すでに、オンライン合同企業説明会を実施し成功を収めたと判断されることから、今後も、対面とWEBのそれぞれの長所を生かして、企業側のニーズを汲み取りながら実施形態を確立していく。

4) 新たに始める夏季就職対策講座について

学部3年生を対象とした、夏季就職対策講座は一定の成果を得ることができたことを踏まえ、より質を高めるためのガイダンスを検討する。また、短大部においても2日間程度で同様の内容で実施できるよう検討する。

5) 企業との情報交換・情報収集

① 企業情報管理の枠組み

引き続き就職支援システムを活用して、企業情報管理の一元化を図っていく。求人管理についても、一律の管理でなく、内定獲得企業やお勧めの求人などを区別して学生に提示していく。

② 企業訪問について

新型コロナウイルス感染症の状況をみつつ、オンラインも活用しながら情報交換をしていく体制を構築していく。また、嘱託専任職員だけでなく、専任職員も加わって分担しながらこれまで採用実績のない企業にも積極的にアプローチしていく。内定者・卒業生アンケートは2020年度が追跡調査元年となるため、次年度分の実施に向けて内部質保証室と連携して準備を行う。卒業生調査、進路先アンケート結果を活用し、企業の採用課題解決という視点を確立する。採用依頼型から提案型の関係づくりを基本に、協働して地域課題の解決に協力いただける企業を増やしていく。

また、大学キャリアセミナーは定期開催とし、年2回程度の実施を検討する。

6) キャリア面談業務について

就活年度生のキャリア面談について、就職活動のオンライン化にも対応できるため、今後も同時期での実施を目指す。学部2年生のキャリア面談では、2年修了時での面談がキャリア支援と連動できたことを受け、次年度において今年度と同様の時期に実施を予定する。なお、学生からオンラインでの実施に対する肯定的な意見が多かったことを受け、それを前提に検討を進める。

新入生のキャリア面談については、新型コロナウイルス感染症の状況を見極めて慎重に判断する必要がある。実施ができない場合を想定して、オンラインでの開催やゼミナール担当教員による面談などの対案を早期に決定していく。

7) 就労移行支援事業者との連携

学生課や健康安全センターとも協議しながら、学生や保護者への情報提供の在り方を検討する。

＜執筆担当／キャリアセンター 係長 上條 直哉＞

4. 情報センター

(1) 年度当初の予定 <P>

情報センターでは、下記「通常業務」に加え「新規事業」を計画した。

[通常業務]

1) 教育・研究の支援

教職員及び学生のヘルプデスク、オンライン授業の補助、コンピュータ関連科目の補助、Microsoft365（旧 office365）の管理、学生向けオリエンテーションの実施。

2) 情報機器の維持・管理

ネットワーク及びサーバ等の基盤の維持・管理、パソコン教室7室の維持・管理、教職員パソコンの維持・管理、学内フロアパソコン、貸出しノートパソコン等の維持・管理、ロケーションプリンタの維持・管理

3) その他

PC教室を使用する検定試験のサポート

[新規事業]

1) 学術・研究の支援

- ① Mathfia のカスタマイズ
- ② Mathfia の HTML 化及び閲覧権限のルール化
- ③ 新 IC カードの導入
- ④ 2021 認証評価への対応（新 LMS、Mathfia シラバス）

2) 情報機器の維持・管理

- ① メンテナンス計画の策定（クラウドサーバの研究）
- ② IO ゲートのリプレイス
- ③ 4 号館基幹ネットワーク配線の分散化（第2期）

3) セキュリティ対策

- ① サイバーセキュリティ対策基本計画、情報セキュリティポリシー手順書の策定
- ② Wi-Fi セキュリティ対策

- ③ 二段階認証の研究
- ④ 計画的アップデートの実施
- ⑤ 標的型攻撃メール被害に遭わないための啓蒙活動（教職員教育）

4) 業務の再検証

- ① 教職員のノート PC 化の推進
- ② 教卓 PC の廃止を検討
- ③ office365 の研究（Teams、OneNote）
- ④ CSIRT の本格的な組織運用

(2) 計画の実施状況 <D>

継続する事業及び新規事業はほぼ計画のとおり実施されたが、特筆すべき事項は下記のとおりである。

1) 学術・研究の支援

今年度はオンライン授業が導入され、本学では Microsoft Teams を利用することになった。情報センターでは、新型コロナウイルス感染症対策本部と連携しながら準備を進め、チームの作成及びメンバー登録等の実作業を進め、同時に教員と学生に対して操作方法などを説明し、その後の運用について支援を行った。

2) 情報機器及びソフトウェアの維持・管理

新型コロナウイルス感染症の影響により、教員はオンライン授業を実施する必要性が生じたが、授業に必要なノート PC が品薄になることが予測されたため、松本大学生生活協同組合が新入生用に販売していた東芝製ノート PC の購入を教員に勧めた。信州大学生生活協同組合が、VAIO 製ノート PC50 台の在庫を抱え安価な金額で提示してきたことから、急ぎよ購入を決め在宅勤務をする職員に配布した。また、そのパソコンは、非常勤講師が本学の教室を使用して授業をする際や学生のレンタル PC にも使用した。

従来は、11 月～1 月の三ヶ月間だけ卒業論文用にノート PC を貸し出ししていたが、今年はノート PC が在庫切れになり用意ができなかった。しかし、オンライン授業に移行したことで、学生がパソコン等を購入したことや、情報センターでレンタル PC を増加させたため目立ったトラブルはなかった。

adobe 社の Flash 機能をインターネットエクスプローラー、Google クローム等のブラウザがサポートしないことから、予定どおり、Mathia の HTML 化を進めた。これにより、学外からでもアクセスできるようになって利便性が増した反面、情報漏えいという点では不安要素が増している。

主に健康栄養学科で使用している食事摂取基準のソフト「エクセル栄養君」のバージョンが上がるため、学内にインストールされている約 70 台のパソコンのアップデートを実施した。

10 月に、上位回線において DDoS 攻撃が発生し通信速度が著しく遅延したため、外国の学校とライブで通信していた授業が成立しなかったことから、ルータ 5 台を整備して緊急時に備えることとした。

2021 年度に導入する新 IC カードの移行については、セキュリティ対応だけではなく、教職員には使用するプリンタやコピー機、在籍表示等、また、学生には券売機、I0 ゲート等、多岐にわたって連動しているため 1 年半近くの準備期間を要した。情報センターだけでなく、各部署横断のチームを作って進めた結果、大きなトラブルもなく無事に移行することができた。

(3) 点検・評価の結果 <C>

計画の変更や未達成のもの、さらに課題は以下のとおりである。

- ① Mathfia の閲覧権限のルール化については、HTML 化が予定より遅れたため、次年度に持ち越しとなった。
- ② メンテナンス計画の策定（クラウドサーバの研究）については、過渡期であることから引き続き情報収集に努め、本学にとって何が最適か検討を重ねたい。
- ③ 4号館基幹ネットワーク配線の分散化については、急きょ始まったオンライン授業に対応して、ネットワーク障害が生じた6号館研究室を優先して工事を実施した。本件は、文部科学省「大学等における遠隔授業の環境構築の加速による学修機会の確保」に採択され、工事費用半額の補助金を受給することができた。
- ④ サイバーセキュリティ対策基本計画、情報セキュリティポリシー手順書については、2021年度中の策定が求められており、引き続き精査し作成する予定である。
- ⑤ Wi-Fi のセキュリティ対策及び段階認証の研究については、手が回らず実施に至っていない。
- ⑥ 計画的アップデートの実施については、現在の設定が複雑になっているため、その解除方法を研究している。これが見つければ、新しい手順に進みたいと考えている。
- ⑦ 標的型攻撃メール被害に遭わないための啓蒙活動（教職員教育）については、手が回らず実施に至っていない。
- ⑧ 教職員のノートパソコン化は、総合経営学部で保留となっているものの、他学部については各教員の考え方に委ねることになり、現状ではノート型を希望する教員が多数であることから、予定どおり進んでいる。教卓PCの廃止は、その延長線にあるため、引き続き理解を求めていきたい。
- ⑨ Microsoft365の研究は、凶らずもオンライン授業になったため、Teamsを教職員の多くが使用できるようになった。しかしながら、OneNoteの活用を広めることについては、技術的にハードルが高いため導入を中止したいと考えている。
- ⑩ 松商学園 CSIRT では、松商学園高等学校（以下、高校）及び松本秀峰中等教育学校（以下、秀峰）でもオンライン授業が始まったことから、セキュリティ対策も含めた情報戦略を学園全体で考える必要性に迫られている。引き続き、実用的な運用ができるよう努めたい。
- ⑪ 情報センターの再検証

10月に、本学のサーバを標的としたDDoS攻撃（分散型サービス妨害攻撃）を受けるというインシデントが延べ4日発生し、Mathfiaが学外からアクセスできない、学生への送信不能、大学図書館OPACに学外からアクセス不可などの事案が発生した。また、本学に限らず、高校と秀峰では、職員のメールが学外と通信不能になるといった被害が報告された。しかしながら、現在の仕組みは過去から構築されているため、ただちに個々の部門に切り分けることは困難である。

また、高校と秀峰でもオンライン授業の導入が検討されており、本学でホスティング又はハウジングしているサーバを共同利用する方が効率的ではないかとの考えから、その方向での検討が始まっている。加えて、オンライン授業の導入によってクラウドサービスを利用するようになったことから、その運用について情報センターに問い合わせや協力要請が求められるようになった。したがって、それに応えるべく体系化した体制を整えるには、専門の人材が必要とされ、情報センターのあり方そのものが問われることになろう。

(4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

文部科学省から求められているサイバーセキュリティ対策基本計画及び情報セキュリティポリシ

一手順書の策定は、次年度が締切りとなる。さらに精度を高め完成させたいと考えている。また、他の部署に納得してもらえれば、パソコン等の情報資産台帳を作成したい。

5号館全館のネットワーク改修工事及び6号館1・2階の有線 LAN 改修工事を夏休みに予定しており、両者を合わせると大きな工事になるので、ミスのないように遂行する。

現在、Microsoft365 に卒業生がそのままメールアドレスを利用できるサービスが付与されているが、果たして便利なものなのか、また大学に余分な負担が掛からないかなど、必要な検証を進めたい。

国立情報学研究所が 2022 年度から整備する予定の SINET 6 は、松本市にデータセンターが開設され、10Gbps の回線を利用することが可能となる。高校と秀峰を含めて、今後、間違いなく増加する通信量への対応が安価で利用できるのと同時に、現在の回線に通信障害が起きた場合でも回線を切り替えることが可能になるため、セキュリティ面でも有効な対策を講じることになる。

情報センターとしては、全学園のネットワーク環境等のインフラをきちんと把握した上で、主体的な運営を実現することが目標であり、クラウドサービス等の新しい技術を常に研究する。万全なネットワーク等インフラの構築を始め、教職員、学生、生徒の利便性を上げ、さらにコストダウンや業務時間短縮につながる業務を展開する。

主な計画は以下のとおりである。

1) 学術研究・教育の支援

- ① Microsoft365 の管理
- ② Mathfia の閲覧権限のルール化
- ③ 卒業生のメールアドレスの維持化

2) 情報機器及びソフトウェアの維持・管理

- ① 健全でセキュアなインフラ整備
- ② 計画に基づいたメンテナンス計画の策定
- ③ 統計ソフト SPSS の新代理店との契約締結

3) セキュリティ対策

- ① 計画的アップデートの実施
- ② 情報資産台帳の作成
- ③ 二段階認証の研究
- ④ 標的型攻撃メール被害に遭わないための啓蒙活動（教職員教育）

4) 業務の再検証

- ① CSIRT の本格的な組織運用
- ② 学園全体のサーバ管理・保守費の法人事務局移行
- ③ 教卓 PC の廃止を検討
- ④ クラウドサービスの研究

＜執筆担当／情報センター 課長 田中 雅俊＞

IV. 入試・広報室

[組織と委員会]

入試・広報室は、入試広報委員会・アドミッション・オフィス入試運営委員会の事務部門を担当した。入試・広報委員会は学生募集活動・入試業務・広報業務、アドミッション・オフィス入試運営委員会は総合型選抜の内容の検討及び運営を行っている。人員構成は、入試広報室長ほか、専任職員4名、派遣職員1名の6名体制で活動した。

[職員組織と職務分担]

学生募集及び入試業務、広報活動において、専任職員は、学生募集活動全般にわたって高校訪問、進学説明会・入試相談会、オープンキャンパスの企画・運営、高校生の大学見学受け入れ、学生組織マツナビの管理・指導など、入試業務全般を担当した。また、広報関連業務として、主にパンフレット（大学案内、松商短期大学部ナビゲーション等）や大学定期広報誌「蒼穹」の制作ディレクション及び取材、編集業務、各種メディアへのプレスリリースなどを担当した。また、派遣職員は、主に各種募集活動に係わる営業補助業務（オープンキャンパス、高校訪問、説明会等における各種ツール等の準備や来場者管理、アンケート集計管理）、出前授業等の教員手配、高校生個人情報データ整理、入試事務処理等の学内業務を行った。

[点検・評価]

ここでは、1. 学生募集活動、2. 2020年度入試（2021年度入学者選抜）、3. 大学広報、の3項目に分けてPDCAサイクルに沿った点検・評価を行う。

1. 学生募集活動

(1) 2020年度入試（2021年度入学者選抜）・学生募集活動を受けての2021年度入試（2022年度入学者選抜）への課題〈P〉

2020年度入試（2021年度入学者選抜）にあたっては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を常に確認しながら、安心・安全な学生募集と入学者選抜を行う。

また、コロナ禍により全国的に志願者が地元志向になっていること及び早期に進路を確定したい傾向がみられること、また感染拡大状況によっては入学者選抜ができなくなることも想定されることから、年内の入学者選抜で可能な限り入学予定者を確保する。

総合経営学部は、指定校推薦の利用者が年々増加し、一般選抜・センター利用選抜での合格倍率が非常に高くなる状況が続いている。そのため、各高等学校の指定校推薦の評定基準値及び枠数の再検討を引き続き行う。

スポーツ健康学科においては、スポーツ系学部を新設する大学や定員を増やす大学が増えていることから志願者の減少傾向が続いている。そのため、学生確保に向け、学校推薦型選抜・総合型選抜での受験者を増やすことを目標に、推薦指定校及び枠数を再検討し、スポーツ系学科のある県外の高校への指定校推薦の新設で志願者増を目指す。

健康栄養学科は、増加傾向にある年内入試の受験者をさらに増やすため、指定校推薦の上限撤廃と県外への指定校推薦の設定を引き続き行う。

教育学部は、志願者数、合格者数ともに2019年度入試において過去最大となったが入学辞退者数も増えている。志願者のさらなる獲得に向け、教員採用試験の合格率や就職率のPRを募集対象としている高校及びエリアを一層拡大して行う。

短期大学部は学校推薦型選抜、総合型選抜での志願者が増加しない状況が続いている。定員確保に向けては、年内入試での安定的な志願者確保が必要であり、そのためにも短大の認知も含めた広報活動を積極的に行い、特に専門学校進学予定者からの進路変更を狙う。

(2) 2020年度入試(2021年度入学者選抜)の学生募集活動で重点を置いた活動とその結果 <D・C>

1) オープンキャンパス及び高校生対象の公開授業

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて回数及び内容共に再検討し、状況に応じた柔軟な実施に取り組んだ。その結果、6月までのオープンキャンパスは中止とし、7月から9月まで4回実施した。オープンキャンパスの参加者は下記のとおりである。

- ・総累計 985名(昨年度 1,895名)、前年比 51%
- ・総合経営学科 累計 190名(昨年度 362名)、前年比 52%
- ・観光ホスピタリティ学科 累計 109名(昨年度 164名)、前年比 66%
- ・健康栄養学科 累計 139名(前年 270名)、前年比 51%
- ・スポーツ健康学科 累計 153名(前年 307名)、前年比 49%
- ・学校教育学科 累計 81名(前年 141名)、前年比 57%
- ・松商短期大学部 累計 251名(前年 404名)、前年比 62%

2) 進学説明会・相談会

一般会場(総合施設やホテル等)での進学業者主催の説明会は、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、全て参加を見合わせた。

3) 高校での説明会・模擬面接、系統別説明会等

進学情報業者主催と高等学校主催を併せて13回の説明会(系統別、個別相談、模擬面接、進路講話等)に参加し、延べ236名の高校生と面談した。その場合、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、県外からの参加者との接触が避けられる会場でのみの参加とした。

4) 高校での出前授業、模擬講義(高等学校主催、業者主催)

長野県内を中心に高等学校で実施した出前授業、模擬授業への参加は年間21回、高大連携による模擬講義は年間19回であった。そのほかに、オープンキャンパスでの模擬講義を計47回実施した。これらについても、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策が取られていることを確認した上で参加した。

5) 高校生の大学見学受け入れ(高校主催、業者主催)、一般の大学見学

高校生の見学を、人数・時間を制限して受け入れた。年間7回、延べ220人の高校生と教員を受け入れ、大学・短期大学の概要、本学の教育の特長、進路講話(大学進学の意味・目的、将来の仕事等)等の講話を毎回実施した。また、学内施設見学は新型コロナウイルスの感染防止の観点から中止した。

6) 高等学校教員対象の学生募集説明会

新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、会場を本学のみとして7月16日と17日の2日間開催し、密にならない大型教室で実施した。16日は27校30名、17日は22校24名の参加があった。前年度の入試総括及び今年度の入学者選抜の内容の変更等についての説明を行った。

7) 入試相談会

特定の日程を定めず、常時受付し個別対応を行った。

8) 高校訪問

長野県内高等学校を中心に定期的な高校訪問を実施したが、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から訪問する時期や高校を絞り、高校から訪問許可を得た場合のみの実施を徹底した。

9) 学生募集用ツールの制作

① パンフレット・チラシ等

- ・2021年度入学者選抜用大学案内パンフレット・短期大学ナビゲーション
- ・入試の手引き
- ・オープンキャンパス告知チラシ・ポスター
- ・オープンキャンパス告知 DM はがき
- ・公開クリニック 2020年版チラシ

② 過去問題集

- ・2021年度入学者選抜用 松本大学・松本大学松商短期大学部過去問題集

10) 媒体等による募集広報活動

業者企画の進学情報誌（全国版）や進学媒体の利用は最低限に抑え、長野県内や近県の高校生にアプローチできるものを選定した。

① 進学情報誌、その他雑誌

情報誌 16 件、Web 媒体 3 件を実施した。

② 電波媒体（TVCM）

- ・松本大学・松商短期大学部イメージ CM（テレビ信州 年間）
- ・オープンキャンパス告知スポット CM（5月～9月県内民放 2 局、群馬県・新潟県、山梨県各 1 局）
- ・入試告知 CM（12月～2月長野県内 2 局、群馬県、新潟県、山梨県各 1 局）
- ・あづみ野 FM ラジオ CM（年間）
- ・FM まつもと ラジオ CM（年間）

長野県内及び、群馬県、山梨県、新潟県からの受験生に対応

③ 新聞・雑誌を利用した広告

地元新聞・雑誌を中心に山梨県、新潟県、群馬県でも一般入試に合わせて入試案内告知を行った。

- ・オープンキャンパス告知（長野県、新潟県、山梨県、群馬県）
- ・一般入試・センター利用入試の告知（長野県、新潟県、山梨県、群馬県）

④ Web 媒体

ホームページでの情報公開については、各教員や各部署からの情報がスムーズに入試・広報室に入るよう全学入試・広報委員会にて情報共有を徹底し、タイムリーな情報公表に力を入れた。募集要項も含め全てスマートフォンに完全対応している。

入試・広報室独自の「LINE」を活用した情報発信によるオープンキャンパスの案内や入試日程の告知、また Youtube を利用した模擬講義の WEB 配信を行った。

11) 県内プロスポーツチームとのスポンサー契約

松本山雅（サッカー）・信濃グランセローズ（野球）・信州ブレイブウォリアーズ（バスケットボール）・VC 長野トライデンツ（バレーボール）と年間でスポンサー契約を行い、学生のアウトキャンパススタディーの場としても活用した。

12) Matsu.navi (マツナビ) の育成

学生募集活動の支援団体としての学生組織「マツナビ」は、オープンキャンパス、大学見学、学生募集説明会で活躍しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため様々な活動が中止となり、ほとんど活動ができなかった。今後のメンバー育成が課題となる。

(3) 2021 年度入試 (2022 年度入学者選抜) に向けての学生募集活動の課題 <A>

2022 年度入試は、引き続き新型コロナウイルス感染症による影響を大きく受ける特異な状況が続く、安定志向及び地元志向が続いていくことが予想される。しかしながら、少子化が進むこの先を考え、この地元志向、安定志向である状況を味方にして入試改革を進める。今後は、各学科とも、特に学校推薦型選抜や総合型選抜で安定的に志願者を確保していくことが大きな課題である。

2. 2020 年度 (2021 年度入学者選抜) 入学試験

(1) 実施計画 <P>

各試験区分の名称変更を行う。また、総合型選抜 (旧 A0 入試) について、各学部の特徴ある選抜を行うよう内容の変更を行う。

■総合経営学部

	入試区分	募集人員	
		総合経営	観光ホスピタリティ
学校推薦型選抜	前期 (指定校・公募)	40	35
	後期 (公募)	5	5
総合型選抜	一般	8	10
	指定競技		
一般選抜	A 日程	20	15
	B 日程	3	3
	C 日程	2	2
大学入学共通テスト 利用選抜	I 期	8	6
	II 期	2	2
	III 期	2	2
その他	外国人留学生選抜前期	若干名	若干名
	外国人留学生選抜後期	若干名	若干名
	帰国生徒選抜	若干名	若干名
	社会人選抜	若干名	若干名
編転入選抜	I 期	3	3
	II 期	2	2

総合型選抜 (一般) では、面接試験を 1 回とし、志願者としてしっかり対話をしながら、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を「多面的・総合的」に評価する。

■人間健康学部

	入試区分	募集人員	
		健康栄養学科	スポーツ健康
学校推薦型選抜	前期 (指定校・公募)	32	34
	後期 (公募)	3	5
総合型選抜	健康栄養学科 一般	5	-
	スポーツ健康学科 一般	-	25

	スポーツ健康学科 運動		
	スポーツ健康学科 指定競技Ⅰ期	-	
	スポーツ健康学科 指定競技Ⅱ期		
一般選抜	A日程	14	17
	B日程	3	3
	C日程	若干名	2
大学入学共通テスト 利用選抜	Ⅰ期	10	10
	Ⅱ期	3	2
	Ⅲ期	若干名	2
その他	健康栄養学科 社会人総合型選抜	若干名	-
	スポーツ健康学科 社会人総合型選抜	-	若干名
	外国人留学生後期	若干名	若干名
	帰国生徒	若干名	若干名
編転入選抜	Ⅰ期	3	3
	Ⅱ期	2	2

人間健康学部は2020年度入学者選抜からの変更点なし。

■教育学部

	入試区分	募集人員	
		学校教育	
学校推薦型選抜	前期（指定校・公募）	20	
	後期（公募）	3	
総合型選抜	一般	9	
	特別技能		
	地域		
一般選抜	スカラシップ選抜	7	
	A日程	20	
	B日程	2	
	C日程	2	
大学入学共通テスト 利用選抜	スカラシップ選抜	3	
	Ⅰ期	10	
	Ⅱ期	2	
	Ⅲ期	2	
その他	社会人 総合型選抜	若干名	
	外国人留学生選抜	若干名	
	帰国生徒選抜	若干名	

総合型選抜における特別技能は、英語・英語教育又は国際情勢に関し興味関心が深く、既定の外部英語検定や海外留学経験を評価する方式に特化した。

■松商短期大学部

	入試区分	募集人員	
		商	経営情報
学校推薦型選抜	特待生	若干名	若干名
	前期（指定校・公募）	60	60

	後期（公募）	10	10
総合型選抜	一般Ⅰ期	5	5
	一般Ⅱ期	5	5
	一般Ⅲ期	若干名	若干名
一般選抜	A日程	6	6
	B日程	2	2
	C日程	2	2
大学入学共通テスト 利用選抜	Ⅰ期	6	6
	Ⅱ期	2	2
	Ⅲ期	2	2
その他	社会人総合型選抜Ⅰ期	若干名	若干名
	社会人総合型選抜Ⅱ期	若干名	若干名
	社会人総合型選抜Ⅲ期	若干名	若干名
	外国人留学生選抜前期	若干名	若干名
	外国人留学生選抜後期	若干名	若干名
	帰国生徒	若干名	若干名

松商短期大学部については自己推薦及び総合型選抜Ⅳ期を廃止した。

（２）2020年度入学試験（2021年度入学者選抜）の結果 <D>

■松本大学大学院

研究科	専攻	入学定員 A	志願者数	受験者数 B	合格者数 C	競争率 B/C	手続者数	入学者数 D	充足率 D/A
博士前期	健康科学	6	1	1	1	100%	1	1	17%
	合計	6	1	1	1	100%	1	1	17%
博士後期	健康科学	2	2	2	2	100%	2	2	100%
	合計	2	2	2	2	100%	2	2	100%

※留学生を除く

■松本大学

1年次入学生

学部	学科	入学定員 A	志願者数	受験者数 B	合格者数 C	競争率 B/C	手続者数	入学者数 D	充足率 D/A
総合経営	総合経営	90	405	393	145	271%	105	99	110%
	観光ホスピタリティ	80	315	304	121	251%	98	96	120%
	小計	170	720	697	266	262%	203	195	115%
人間健康	健康栄養	70	174	169	112	151%	81	77	110%
	スポーツ健康	100	207	196	134	146%	108	106	106%
	小計	170	381	365	246	148%	189	183	108%
教育学部	学校教育学科	80	327	318	209	152%	101	90	113%
	小計	80	327	318	209	152%	101	90	113%
合計		420	1,428	1,380	721	191%	493	468	111%

編・転入学生

学部	学科	入学定員 A	志願者数	受験者数 B	合格者数 C	競争率 B/C	手続者数	入学者数 D	充足率 D/A
総合経営	総合経営	5	6	6	5	120%	5	5	100%
	観光ホスピタリティ	5	1	1	1	100%	1	1	20%
	小計	10	7	7	6	117%	6	6	60%

人間健康	健康栄養	5	1	1	1	100%	1	1	20%
	スポーツ健康	5	0	0	0		0	0	0%
	小計	10	1	1	1	100%	1	1	10%
合計		20	8	8	7	114%	7	7	35%

※留学生を除く

■松本大学松商短期大学部

学部	学科	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	競争率	手続き数	入学者数	充足率
		A							
短期大学部	商	100	123	122	107	114%	107	107	107%
	経営情報	100	132	131	123	107%	108	108	108%
合計		200	255	253	230	110%	215	215	108%

※留学生を除く

(3) 2020 年度入学試験 (2021 年度入学者選抜) の評価 <C>

2020 年度は、入試制度改革の初年度であることや、コロナ禍の不安定な社会情勢の中、志願者は安定志向及び地元志向であるという、模試等の情報の中での入学者選抜となった。特に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によって、入学者選抜の実施自体も不透明であったことから、学校推薦型選抜及び総合型選抜で確実に入学予定者を確保することを念頭に置いて準備及び実施した。そのため、各学科とも、年内の入試においては昨年を上回る入学予定者の確保につなげることができた。

しかしながら、年明けの一般入試では入学手続き者数が伸び悩み、また手続き後の入学辞退者も例年になく多く、全学科で定員は満たしたものの、各学科で想定していた入学予定者数の確保には至らなかった。

特に、松商短期大学部については、学校推薦型選抜・総合型選抜の志願者が増加したものの、逆に一般入試が大幅に減少し直近 3 年間の志願者をみると 230 名程度にとどまっている。ピーク時よりも 30 名以上志願者が減っている状況であり、4 年制大学希望者の増加、専門学校への進路変更が多かったことが確認されている。したがって、短大の認知度の低下を食い止めなくてはならない。

(4) 2021 年度入試 (2022 年度入学者選抜) への課題と対応 <A>

コロナ禍の終息が見えない中での 2021 年度入試では、安全・安定・県内進学志向が引き続き高まることは間違いなく、学校推薦型選抜・総合型選抜での受験が増加していく可能性が高い。この状況を味方につけ、安定的な入学予定者確保に結び付けなければならない反面、総合経営学部は一般入試での倍率がさらに上昇することが予想される。各高等学校に、近年の受験状況を丁寧に説明し、志願者情報を共有していく。さらに抜本的な対策として定員増の検討にも取り組む。また、今年、特に入学手続き状況の悪かった大学入学共通テスト利用での志願者については、全国的な傾向や本学の状況を分析し、21 年度入試の合否判定に役立てる。

3. 大学広報

全学入試広報委員会の下、主に、大学広報誌「蒼穹」の編集及び発行、大学公式ホームページの企画・運用・管理や報道各社への大学の様々な情報発信（プレスリリース）を行った。また、新聞等の媒体に掲載された記事の収集と管理を行った。

(1) 大学広報の活動 <P・D>

1) 大学広報誌「蒼穹」の発行

今年度も、年 4 回（6 月、9 月、12 月、3 月、Vol139 号から 142 号）発行した。特集ではタイムリーで特色ある取り組み等について紹介した。アウトキャンパス・スタディ s、地域づくり考房『ゆめ』、地域健康ステーションなど地域と連携した活動の現状や研究活動、学生活動を各回にわたり

紹介した。大学関係者、学生の保護者、各自治体や高校に配布した。

2) 大学公式サイト（ホームページ）と運用

年間サイト閲覧者の約7割以上がスマートフォンやタブレットとなっている状況を踏まえ、単なるモバイル対応ではなく、見やすさ、使いやすさまでを考慮した仕様変更を随時行った。

(2) 結果と評価・今後の課題 <C・A>

情報発信の方法については、紙からWEBメディアに転換する時期に入っている。より多くの情報発信をするためにも、情報共有方法、情報伝達について、より広く速くすることを目指していく。

- 1) 大学広報「蒼穹」については、タイムリーな大学からの情報発信ができるよう、毎月の定期開催となる入試広報委員会での情報共有を行う。また、同時に、新たな発信コンテンツについて検討を進める。
- 2) 動画（映像）を積極的に使用し、コロナ禍での学生募集やPR活動に対応していく。またアクセス状況の分析は常時行い、注目されているコンテンツやアクセスの多いページなどの研究を進めていく。

<執筆担当/入試広報室長 坂内 浩三>

第4部 資料

I. 2020年度委員会構成

カテゴリー	委員名	所属する部会または対応すべきテーマ	担当事務	総合監督学部			人間健康学部			教育学部	短期大学部	主担当教員
				総務	総務	総務	総務	総務	総務			
理事会/常任理事会	理事長											柴田
	副理事長											柴田
評議員会	評議員											柴田
	大学委員長											柴田
特別計画委員会	委員長											柴田
	委員											柴田
1	学長											柴田
	学長											柴田
2	学長											柴田
	学長											柴田
3	学長											柴田
	学長											柴田
4	学長											柴田
	学長											柴田
5	学長											柴田
	学長											柴田
6	学長											柴田
	学長											柴田
7	学長											柴田
	学長											柴田
8	学長											柴田
	学長											柴田
9	学長											柴田
	学長											柴田
10	学長											柴田
	学長											柴田
11	学長											柴田
	学長											柴田
12	学長											柴田
	学長											柴田
13	学長											柴田
	学長											柴田
14	学長											柴田
	学長											柴田
15	学長											柴田
	学長											柴田
16	学長											柴田
	学長											柴田
17	学長											柴田
	学長											柴田
18	学長											柴田
	学長											柴田
19	学長											柴田
	学長											柴田
20	学長											柴田
	学長											柴田
21	学長											柴田
	学長											柴田
22	学長											柴田
	学長											柴田
23	学長											柴田
	学長											柴田
24	学長											柴田
	学長											柴田

*印は主任委員

II. アンケート調査結果(2020年度)

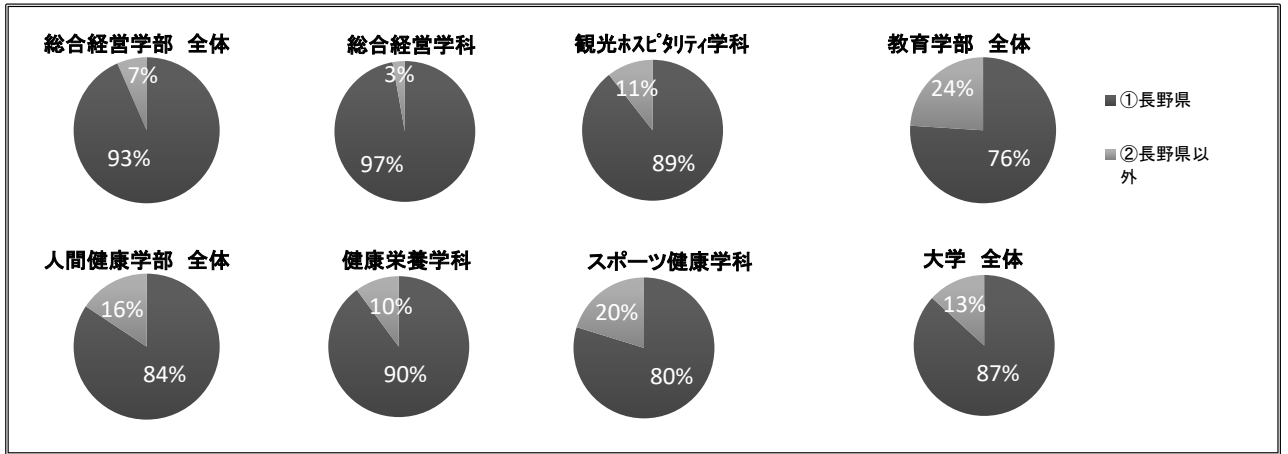
1. 松本大学卒業予定者アンケート

質問1. 所属について

	総合経営学部							人間健康学部							教育学部				総計		
	総合経営			観光ホスピタリティ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計	学校教育			合計	男	女	合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計		男	女	計				
卒業予定者数	62	14	76	53	20	73	149	13	60	73	62	32	94	167	33	19	52	52	223	145	368
回収数	60	11	71	46	20	66	137	12	57	69	53	31	84	153	33	17	50	50	204	136	340
回収率	97%	79%	93%	87%	100%	90%	92%	92%	95%	95%	85%	97%	89%	92%	100%	89%	96%	96%	91%	94%	92%

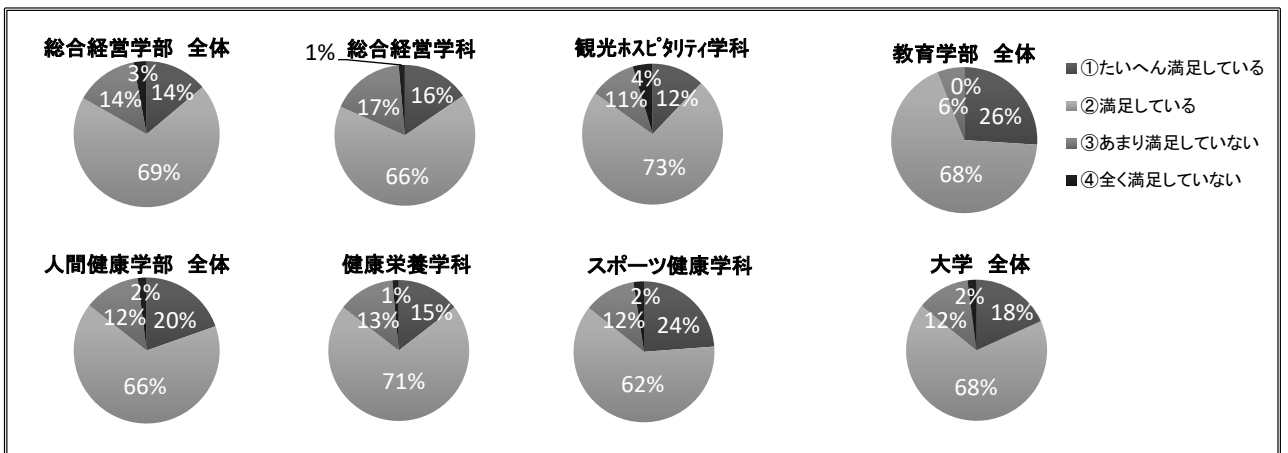
質問2. 出身高校等の所在地(入学する前の住所)

	総合経営学部							人間健康学部							教育学部				総計		
	総合経営			観光ホスピタリティ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計	学校教育			合計	男	女	合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計		男	女	計				
①長野県	59	10	69	40	19	59	128	11	51	62	44	23	67	129	26	12	38	38	180	115	295
②長野県以外	1	1	2	6	1	7	9	1	6	7	9	8	17	24	7	5	12	12	24	21	45



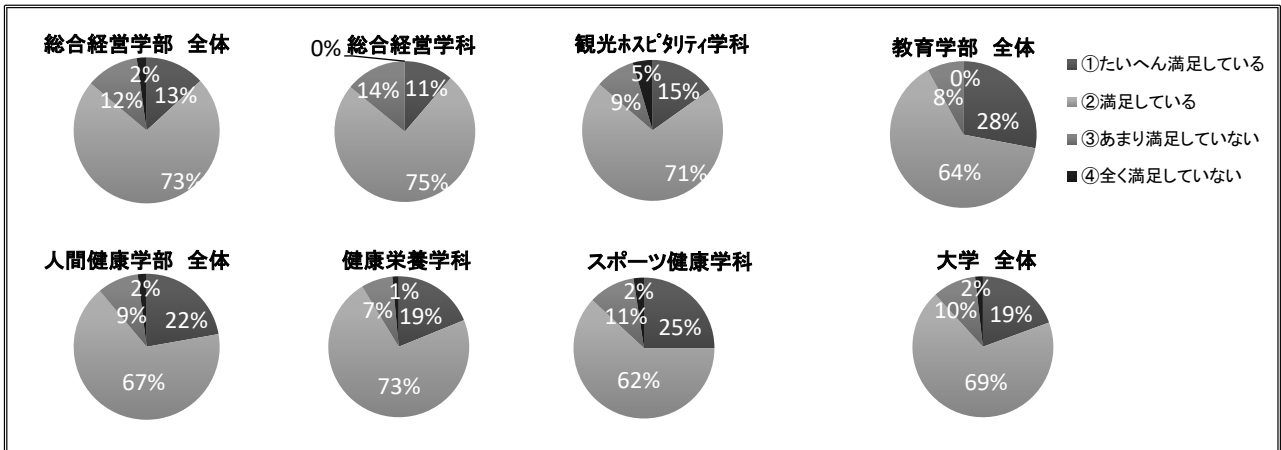
質問3. 松本大学での学びや教育に対する満足度

	総合経営学部							人間健康学部							教育学部				総計		
	総合経営			観光ホスピタリティ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計	学校教育			合計	男	女	合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計		男	女	計				
①たいへん満足している	9	2	11	6	2	8	19	5	5	10	10	10	20	30	8	5	13	13	38	24	62
②満足している	39	8	47	32	16	48	95	6	43	49	33	19	52	101	22	12	34	34	132	98	230
③あまり満足していない	11	1	12	5	2	7	19	1	8	9	8	2	10	19	3	0	3	3	28	13	41
④全く満足していない	1	0	1	3	0	3	4	0	1	1	2	0	2	3	0	0	0	0	6	1	7



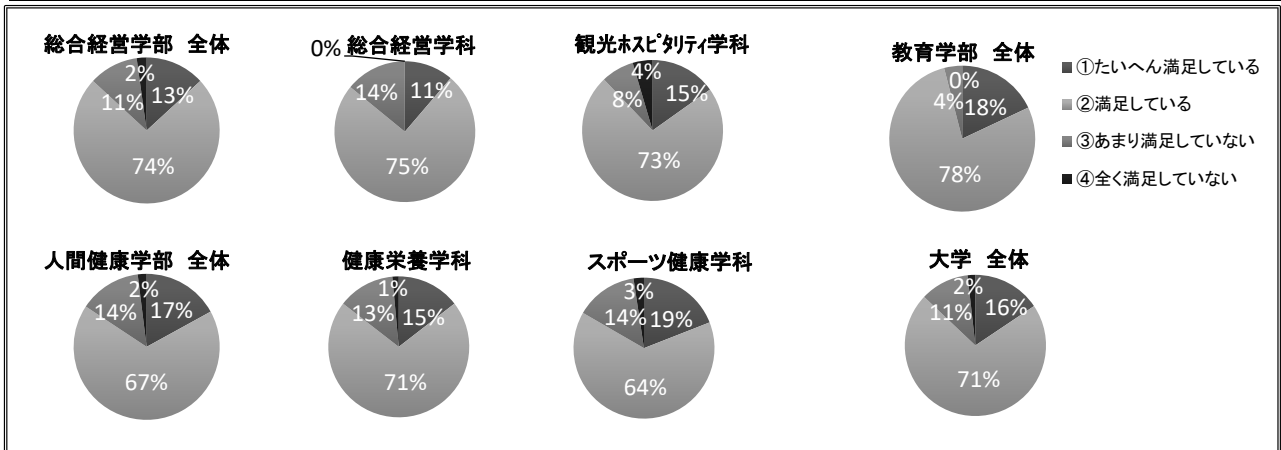
質問4. 学科の専門科目群の学びや教育満足度

	総合経営学部						人間健康学部						教育学部			総計					
	総合経営		計	観光ホスピタリティ		計	健康栄養		計	スポーツ健康		計	学校教育		計	男	女	合計			
	男	女		男	女		男	女		男	女		男	女							
①たいへん満足している	6	2	8	7	3	10	18	5	8	13	11	10	21	34	9	5	14	14	38	28	66
②満足している	45	8	53	32	15	47	100	7	43	50	32	20	52	102	22	10	32	32	138	96	234
③あまり満足していない	9	1	10	4	2	6	16	0	5	5	8	1	9	14	2	2	4	4	23	11	34
④全く満足していない	0	0	0	3	0	3	3	0	1	1	2	0	2	3	0	0	0	0	5	1	6



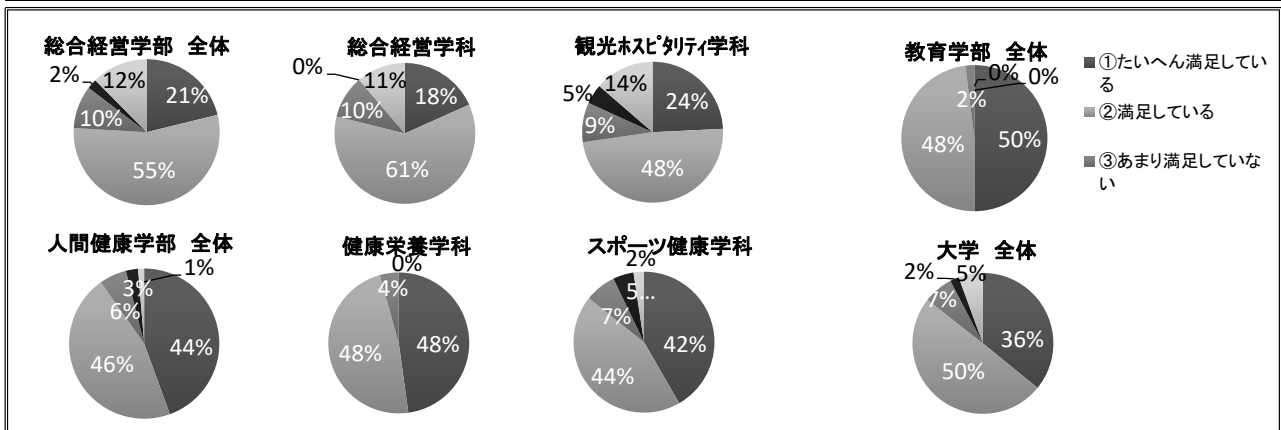
質問5. 共通教養科目群の学びや教育満足度

	総合経営学部						人間健康学部						教育学部			総計					
	総合経営		計	観光ホスピタリティ		計	健康栄養		計	スポーツ健康		計	学校教育		計	男	女	合計			
	男	女		男	女		男	女		男	女		男	女							
①たいへん満足している	6	2	8	8	2	10	18	4	6	10	11	5	16	26	7	2	9	9	36	17	53
②満足している	44	9	53	31	17	48	101	7	42	49	29	25	54	103	24	15	39	39	135	108	243
③あまり満足していない	10	0	10	4	1	5	15	1	8	9	11	1	12	21	2	0	2	2	28	10	38
④全く満足していない	0	0	0	3	0	3	3	0	1	1	2	0	2	3	0	0	0	0	5	1	6



質問6. 専門ゼミナール(卒論指導を含む)の満足度

	総合経営学部						人間健康学部						教育学部			総計					
	総合経営		計	観光ホスピタリティ		計	健康栄養		計	スポーツ健康		計	学校教育		計	男	女	合計			
	男	女		男	女		男	女		男	女		男	女							
①たいへん満足している	11	2	13	11	5	16	29	7	26	33	17	18	35	68	16	9	25	25	62	60	122
②満足している	36	7	43	20	12	32	75	3	30	33	25	12	37	70	16	8	24	24	100	69	169
③あまり満足していない	6	1	7	6	0	6	13	2	1	3	5	1	6	9	1	0	1	1	20	3	23
④全く満足していない	0	0	0	3	0	3	3	0	0	0	4	0	4	4	0	0	0	0	7	0	7
⑤履修していない	7	1	8	6	3	9	17	0	0	0	2	0	2	2	0	0	0	0	15	4	19



質問7. 授業全般を通して、良かったこと、悪かったこと、感じたこと、要望、提案したいことなど何でも自由に書いてください。

総合経営学科

将来に役立つような学びができた
とてもわかりやすかった
授業態度が悪い学生に注意する際、私は静かなら何をしていようか自己責任なので特に気にしないのだが、私語に注意ではなく、スマホをいじっているとか、別のことをしている学生を注意して授業を数分止める教員がいたのが面倒だった。
改善傾向にあるが、パソコンを使用する授業で動作が重く、正常に利用できないことがあった。また学内でのネットワークが不安定なこともあり、携帯でアンケートなどを行う際に不便だった。教室の机に貼られている座席番号のラベルがほとんど剥がれている状態であったことが気になった。それ以外の設備については充実しており、満足だった。
聞き取りやすかった。
就職活動においてしっかりとサポートして下さってコロナ禍の状況でもスムーズに就職することができて良かったです。ありがとうございます。
コロナの影響やそれ以前でも、大学の規制が厳しい割には、先生方の対応が適当だと感じた。
駐車場高い
テスト対策などもしっかりしてくれたので助かった。
出席確認が授業によって多様だったのでいくつかに絞って欲しいと思った。
高校までと違い、講義ごとの学生の顔触れがそれぞれ異なっていたので、今までよりも様々な人と話をすることができました。
少人数の授業が沢山用意されており、理解を深める事ができた。スマホをかまっている・私語を行っている学生の注意を徹底してほしかった。
とても快適に講義を受けました。
専門的な知識も身に付きよかった
食堂のごはんを学生目線でもっとリーズナブルにしてほしいです。
基本的には特に問題ないと思われます。時折騒がしい学生等が気になることがありましたので、そうした学生に対する対処をもっとしていただければと思います。
オンライン講義については、やはり受けてる意識が低くなりがちです。大学側、受講者側の両面で行えること(大学側からの資金的な支援や受講者側の見える化など)を見つけていくことが求められると感じます。
よかった
良かったです。

観光ホスピタリティ学科

4年間お世話になりました。松本大学の卒業生として恥じないこれからの人生を歩んでいきたいです。ありがとうございます。
授業において内容から逸れて自分のことを話し続けて全く進まない先生がいてその日の講義の予定して部分が終わらないことがあった
野球部と勉強の両立で精一杯で全てにおわれる学生生活でした
観光ホスピタリティ学科なので、もっと観光に特化した授業をやってほしかった。
地域と密着した学びが多く、貴重な体験がたくさんありました。オンラインでの授業は不向きでした。
オンライン授業を学校が勧めているのに、1人の先生が実技でもないのに、対面でないといけないと言い張っていたのが気に入った。
内容のない授業が多かった
ゼミの先生方の対応が本当に柔軟でよかった。後ろの方で喋る生徒に対しての注意はもう少ししてほしかった。
また、教師の教え方や学生に対しての態度があんまりよくない(生徒を見下すような態度)の先生に対して意見を言っても「教師に任せているため我々にはどうにもできない」というのはいささか如何なものかと思う。先生にとっては複数回でも学生にとっては1度きりの授業です・・・。
まあでも4年間充実して過ごせたと思う
卒業研究は、4年の7月頃まで所属していました。しかし、自主性がなさすぎて面白くなかったです。
概ね満足でした。ある講義で、都合で休んでしまった時にレポートの日程を説明して下さいればもっと良かったと思います。
もっと、今後に生きるような授業内容にした方がいいと思いました
ホスピタリティ精神を学べた
コロナでオンライン授業になってから、従来ならできたはずの学習が大幅に削られて悲しかった。仕方ないとはいえ、同じ学費を払っているのだから改善してほしいです。
課外活動が良かった実際に行くことでより理解が深まったから
先生との距離が比較的近く授業ができて良かった
学生同士でのグループワークやディスカッションをもっと沢山取り組みたかった。学生同士の交流があまり無く、少し閉鎖的な雰囲気があるように感じた。一つの課題や問題に対してみんなで取り組めるような授業がもっと盛んであれば、より充実した大学生活を送ることができたのではないかと、卒業前に思った。
一人の先生がいくつか講義を行っていたが、先生によっては話している内容がどの講義でも似ているものが多く違いをあまり感じられないものが多かった。

健康栄養学科

最後までゼミの先生には熱心にご指導いただけて本当に良かったと思う。
臨床栄養学での小テストで、小テストやると前回の講義で言っていたにも関わらず、先生の気まぐれでやらないことがあった。準備不足でと言っていたがこちら側はいい気持ちはしなかった。
自分ではないが、学生への好き嫌いや、あたりの強さなどが気になった方がいた。指導なのは分かるが、個別に文句を言ったらしていたところが違うのではないかとおもった箇所もあったので、冷静な指導をお願いしたいです。
授業の終わる時間が電車で間に合わなかったり、始まる時間に電車を合わせられない
専門的なことを学べてよかった
もう少し就職についてとか、キャリアの授業を総合経営学部だけでなくこっちの学部でもとれるようにしていただきたかったかなと思います。
知りたいことを学べたので良かった
4年前期からオンライン授業に移行したが、授業の内容が薄いと感じるものが多かった。また動画だけ流す授業もあり、受けてる意味を感じられなかった。
DVDを見るだけの授業は、あまりよくなかったと思った。その他の授業では、雑学など含めた授業だったので良いと思った。
様々な知識や考えを知ることができ、とても面白かったです。
座学で基礎を学び、実習や実験で実際に作業して目で見ることによって深く学ぶことができました。コロナ禍ですが、やはり出来る限り後輩の子達には多くのことを経験してもらって学びを深めてほしいです。特に新1年生は友達もいなく、相談する相手もいなくて作業も分からないまま授業が進んでいくため、パソコンに慣れない先生もいるかと思いますが、気にかけてあげると有難いと思います。
当時は辛かった。沢山の実習を含めた授業は、今となってはタメになってます。
授業環境がとても良く、学びやすい環境作りがされており、指導も丁寧にしていただけたので良かったです。
国試の合格率を上げようと、生徒を貶める教員がいる。
今年度は学校に行くことができない期間があり、少し寂しさもありますが、楽しい学生生活を過ごすことができました。

スポーツ健康学科

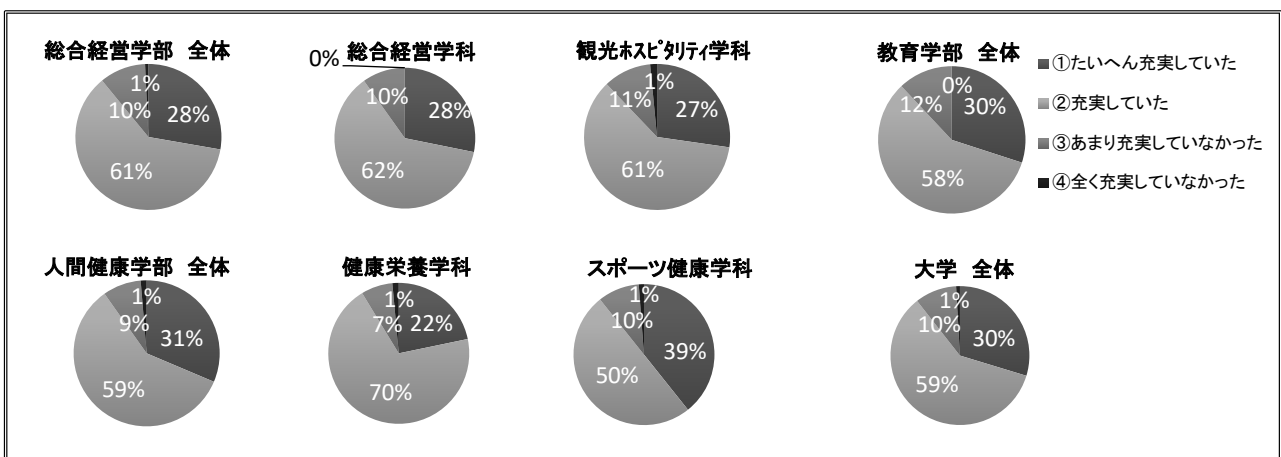
コロナ禍の中でもリモートでしっかりとした授業をしてくださった
学校の対応など大変良くない
先生からのサポートが手厚く、よかった
たまになる話ばかりでとても印象のこっている
先生と生徒の距離が近かったので、授業の内容を聞きに行く事が出来たり、相談も出来た。
4年間とても有意義に過ごす事が出来ました。ありがとうございました。
地域に出て実習する講義などもあり、貴重な経験をする事ができたと感じた。
専門的な授業が多く、細かな部分まで勉強することができて大変良かった。
なんかよかった
時間内に終わらない授業もあったので、時間内に終わらせてほしいです。私は電車通学をしていたので、電車のことを少し配慮して授業を終わらせてもらいたいなって思いました。先生によってわかりやすい人とわかりにくい人がいたので、共通のカリキュラムや要領があればいいのかなって思いました。
ゼミの卒論製作など先生との距離が近く相談等しやすかった。
わかりやすい授業が多く困ることはあまり無かった。教職の授業で5現が多かったことが結構大変でした。もう少し色々な時間に分けて授業を行っても良いのではないかと思います。ありがとうございました。
先生もやる気ない
対面授業の際は、積極的に教員の先生方に質問等ができ、学びやすい環境であったと感じる。コロナウイルスで座席の間隔が1つずつ空き、余裕をもって席が使えたことはよかったと感じたので続けて欲しいと思う。
自分の学びたいことを学ぶことが出来、知識と技能が身についたこと、松本大学で学んで良かったと感じた。
専門的な知識を幅広く身に付けることができてよかった。オンラインになってからのルールに対する注意が少なかったと思う。サボる学生が圧倒的に増えたように感じた。
高校までとは違った専門的なことがたくさん学べてとても充実した生活が送れました。最後の年はオンラインでの授業になり不安もあったが、先生方がわかりやすい資料を作ってくださいましたので不安もなく授業ができた。
専門的なことについて学ぶことができた。
段取りが悪かった先生もいた。
わかりやすい講義内容
コロナで実習などが無くなり非常に残念でした。
ごく稀に、講義をどのように進めたいのかわからず、結局、講義内容の教科書を読んで理解するということがあり、90分15回の講義に意義を感じない時があった。
コロナ対応が雑だった
スポーツに関する専門的な知識を学べて良かった。
とてもわかりやすい授業が多かった気がします。
わかりにくい授業があった。
専門的な分野と、広い知識を学べてよかった。スポ科の先生達に手厚くご指導くださったので、とてもいい大学生活を送れた。
教職科目と一般科目の時間が被らないともっと色々な授業が履修できたのではないかと感じる。
リモートでの授業は集中力の低下がすごいので、できるだけ行わないほうが良いと思う。
楽しく学ぶことができました
親身になって教えてくれた

学校教育学科

教授との距離が近いので、分からないことなどの質問をしやすかった。相談しやすかった。
長期休暇時の集中講義を土日ではなく平日にやってほしい
4年間を通して諸先生方から様々なことを教えて頂きました。教採対策の講義も行って頂き、親身になつて沢山のことを教えて下さいました。
教職を目指す学生にとってとても有意義な時間になったと思います。より実践的で深い学びができたとおもいます。ありがとうございました。
一年次から教育現場での学びができて良かった。
アカデミックな講義が受けられたと感じている。
設備や実習前の支援などが充実していた
現場での実習や体験などが1年次から豊富であり、たくさんの経験を積むことができた。
寝坊で教授が講義に遅れるという事があったので、今後同じことをしないでほしい。
他の学生と関わる機会の確保された授業があり、様々な考えに触れることができてよかったです。
学生同士での討論が取り入れられている授業がとくに良かったです。
全体的に良かったと感じています。
分かりやすい授業が多く、より学びを深めることができた。
ありがとうございました
癖のある先生が多く大変でした。
ゼミをはじめ、先生方や職員の方は手厚いサポートをしてくださいました。
先生方が親身になって接してくれてよかった。他県の情報をもっと充実するとよいと感じる。
先生方が親身でとても助かった
設備が充実していて、また先生方も相談すると、適切に教えてくれるので、非常に有意義な4年間でした。
興味が湧く内容だった
ほとんどの授業で学生が理解しやすいように工夫されていてよかった。
どの授業も楽しく受講できました。

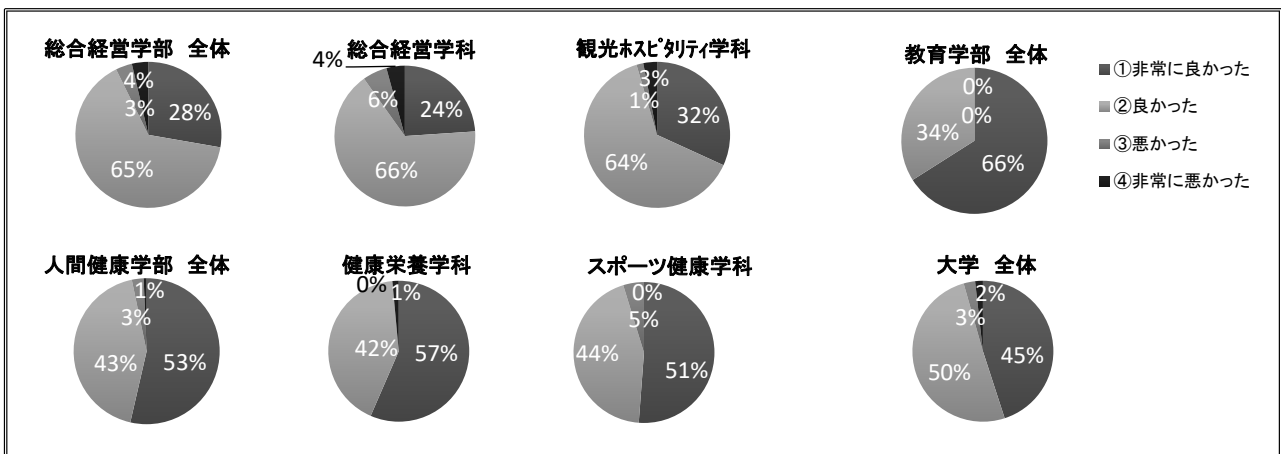
質問8. 大学生活は充実したものでしたか。

	総合経営学部						人間健康学部						教育学部			総計					
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康			学校教育			男		合計			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	合計			
①たいへん充実していた	16	4	20	13	5	18	38	5	10	15	20	13	33	48	11	4	15	15	65	36	101
②充実していた	38	6	44	27	13	40	84	6	42	48	26	16	42	90	18	11	29	29	115	88	203
③あまり充実していなかった	6	1	7	5	2	7	14	1	4	5	6	2	8	13	4	2	6	6	22	11	33
④全く充実していなかった	0	0	0	1	0	1	1	0	1	1	1	0	1	2	0	0	0	0	2	1	3



質問9. ゼミ担当教員はあなたの大学生生活のよきアドバイザーでしたか。

	総合経営学部						人間健康学部						教育学部			総計					
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康			学校教育			男		合計			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	合計			
①非常に良かった	12	5	17	14	7	21	38	6	33	39	23	20	43	82	20	13	33	33	75	78	153
②良かった	42	5	47	29	13	42	89	6	23	29	27	10	37	66	13	4	17	17	117	55	172
③悪かった	3	1	4	1	0	1	5	0	0	0	3	1	4	4	0	0	0	0	7	2	9
④非常に悪かった	3	0	3	2	0	2	5	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	5	1	6



【理由等】

総合経営学科

①の理由

就職活動について手厚くサポートして頂きました。
卒業論文の題材や進め方で悩んでいると、アイデアをいただくことができ、とても助かりました。
参考資料を提示したことや、イベントの参加を促して頂いたことは、学生生活を送る中でよき経験となった
アドバイスも的確で寄り添って対応してくれたため。
就職活動の時によく話を聞いてくれた。
学生会は、他学科の人や先輩後輩と交流でき、協力して大学祭といった行事を行えたため。
気軽に話しかけやすい先生でした。相談も乗っていただいて助かりました。
就活や卒論作成などでアドバイスをいただいて、コロナの中就活できたのもゼミやクラスの先生があってこそです。

②の理由

主に卒論でサポートしてくれた。
何もなく不可もなく
よく話を聞いてくれる方でしたので、話を聞いて欲しい時間聞いて頂けた。
就職活動時いろいろアドバイスしてくれた
総経学部はクラスもゼミもあるので、日々の学校生活や学習、就職活動など両方の先生から様々なアドバイスを貰えたため非常に良かった。
卒論が強制ではなく選択制というのは画期的だと思うので今後も続けていってほしいです。
情報発信の頻度が高くて良かったです。
LINEを積極的に使い、学生とコミュニケーションを取っていたため。
真摯に話を聞いてくれた
就職活動で、プラスになることをたくさん教えてもらえた
指示やアドバイスをしっかり言ってくれたから
質問、相談に丁寧な対応をして頂きました。
わかりやすく説明してもらえました。
話しやすく、相談もしやすかった点。
普通
よかったです
いろいろな話を聞いてくれた

③の理由

お気に入りの生徒にはアドバイスや手厚い教えがあるにもかかわらず、気に入らない生徒は適当な対応。

④の理由

ほしい情報が手に入らない。卒業までのアシストがろくに行われない。

観光ホスピタリティ学科

①の理由

有意義な授業でした。
悩みを沢山聞いてくれた
進路などの相談も真摯に向き合ってくれたから。
疑問や会話のキャッチボール、バランスが良かった
いつでも親身に相談に乗って頂き、とても心強かった。
学校のトイレや教室がとても綺麗でいつも気持ちよく利用できた。
どんな小さな相談でも親身になって乗ってくれた。

②の理由

就活などのアドバイスもしてくれたため

健康栄養学科

①の理由

たくさん迷惑をかけてしまったが、いつも応援してくれて、背中を押してくれた。しっかり話を聞いてくれて心配してくださり、丁寧に指導してもらいました。
相談に乗ってくださったり、親切にしてくださいました。
何事も相談しやすい環境でゼミ活動ができた
何かあった時は味方になってくれて親身に話を聞いてくれた。
ゼミ担当教員には、学生生活から将来のことまで親身に相談に乗って頂いたため
ゼミの先生にはアドバイスや相談にのっていただけるとてもありがたかったです。
メンタルケアなどお世話になりました。
卒論から国試にわたり、大変サポートしてもらった。
困ったことがあった時、親身になって話を聞いてくださり、たくさん助けていただいた。
課題活動等積極的に行ってくれたから。
卒業論文から授業のことまで、様々な相談に乗ってくれました。
就職のこと、卒論のことなど生徒を考えて下さっていたため。
就活の時に背中をたくさん押してもらえたから。
就職活動で、悩んでいるときに話を聞いてくれ、それにあったアドバイスをしてくださった。
卒論の時など親身になって指導してくれた
色々話を聞いてもらったりした。話を聞いてもらえてスッキリした。
進路を否定せず、アドバイスをいただけたから。

②の理由

卒業後に活かせるノウハウをたくさん学ばせていただきました
親身になってくれた。
人柄的に相談しやすかった。また、すれ違いで顔を見れば声をかけてくださったり、気にかけてくれました。
卒業論文の作成にあたり、先生も非常に強力的でありがたかったです。1つ気になることがあるとすれば、毎回指示内容が変わっていき、それに合わせて変更していくのが大変でした。
的確な指導をしていただけたと思う
就活、国試、卒論、様々な場面で相談した時、真摯に話を聞いてくださり、かつご助言をくださって、心が救われたことが何度もありました。本当に感謝しています。
卒論等親身になっていただいたから
真剣に相談にのっていただいた
私は、課外活動にも参加させていただけると点が大きいです。
なんでも分からないところは優しく丁寧に教えていただけたこと。
ゼミ担当の先生は困った時助けてくれた。
親身になってくれた
良かったです、卒論はやり直しが多く大変でした。

スポーツ健康学科

①の理由

特に4年生の卒業論文でとてもサポートしてくださって助かりました。
悩みや相談にのってくれた
色々な相談に親身になってくれた。支えてくれた。
悩みなどをしっかりと相談できた
様々なことに相談にのっていただき、アドバイスを頂いたため
ゼミ活動では、より専門的な事を学ぶことができたし、社会人になる上で大切な事も学ぶことができたため。
距離が近いので話しやすかったり相談しやすかった
教職ではなく民間に行く時親身になって話を聞いてくれたし、内定が決まった時も喜んでくれた。良き先生！
卒業論文はもちろんのこと、社会に出るにあたっての勉強となることを多く教えていただいた。
ゼミナール活動で学んだことは本当に財産だと思っています。自分の中で様々な知識や技能が身についたのにはゼミナール活動がものすごく大きく関わっています。
悩んでいることに対して多くの選択肢をくれた。
新型コロナウイルスの影響で学校に行けなかったことで、友だちや先生方と交流ができな日があったのもっと交流したかったと思った。でも、卒論では先生がたくさん相談に乗ってくれてとても充実してできたと感じた。
目指していることについて専門だったので、相談しやすかった。
心の拠り所でした。
卒論の時アドバイスをたくさんもらったから。
資格の取得に向けてサポートをいただいたり、卒業論文や実習でも優しくサポートを頂いた。
アドバイスの的確で、気さくに話してくれた。
ゼミの仲間と一緒に活動した事で充実感が得られた。
めっちゃめっちゃ面倒みてくれた。
厳しく指導してもらったこと
ゼミ活動も充実したのになりましたし、資格支援や就職のアドバイスも沢山していただきました。

②の理由

常に寄り添って頂きました。
私がやっていることの理解をしてくださっていた。就活がなかなか終わらない時に時間を作ってお話を聞いてくださった。
寄り添ってくれた
ゼミの先生のお陰で卒論を終えることが出来た
色々な面でご指導いただけましたから。
幅広い知識を持っていて、常にアドバイスが的確であった。
親身に相談に乗っていただきました。
卒論時に相談にのっていただいた。
親身になってくれていた
ゼミ生のことをしっかり考えて、いろいろとやってくれたこと。進路先のことなど含め考えてくれたこと。
忙しい中指導してくださった

③の理由

特にアドバイスを求めていなかった

学校教育学科

①の理由

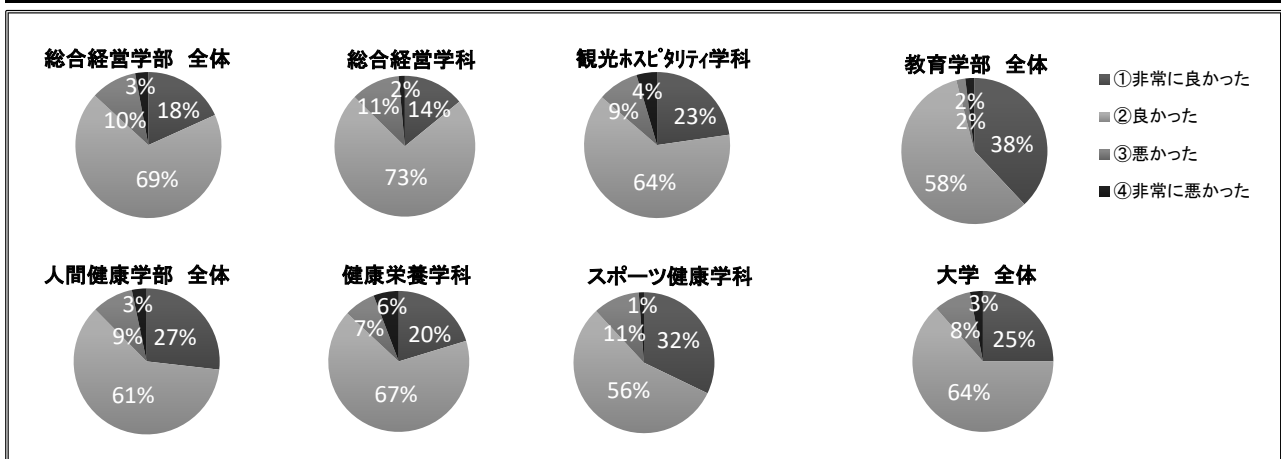
専門的なアドバイスや人生相談をたくさんしてくださった。
人間関係などに悩まされることが多々あり、先生にも相談に乗っていただきました。毎日が充実していたかと問われるとそうでもないような気がします。しかし、最後には気の合う仲間と楽しい時間を過ごすことができました。
困った時にゼミ担当が助けてくれた。
学生個人の様々な進路希望に対して、親身になって対応していただいた点
細かい点まで気づかってくれた
自分が悩んだり、分からないことがあったりした時に、質問をしてすぐに返してくれる教授がいてくれたから
日常で不安になることなどもアドバイスをしていただいた。
自分の学びたいことを学ぶことができたからです。
ゼミ担当の先生は、よく相談させていただくことができ、とても相談しやすかった。
ありがとうございました
本当にゼミ生のことを考えてくれる素晴らしい方でした。
教員採用試験対策をしっかり行ってくれました。
真摯に向き合ってくれた
厳しさもあるが、すごく学生を思っていることが伝わってきた。
ゼミ生が2人しかいなかったこともあり、話をする機会がたくさんありました。
親身であった
親身になってくれた
研究に関して自分の興味関心のある分野に関しても快く協力アドバイスをいただき、進路等に関してもとても助けていただきました。
ゼミ担当の先生が優しく寄り添ってくれる先生で、ありがたかったです。

②の理由

定期的に学生にたいして近況を尋ねてくれた
親身であった。
ゼミの先生は距離が近く相談など気軽に話すことができた。
よく話を聞いてくださりました。
真摯に対応してくれた。
丁寧なアドバイスを熱心にしていただいた。

質問10. ゼミ担当教員以外の教員、助手、専門員はあなたの学生生活のよきアドバイザーでしたか。

	総合経営学部						人間健康学部						教育学部			総計					
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康			学校教育			男	女	合計			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計						
①非常に良かった	8	2	10	11	4	15	25	4	10	14	14	13	27	41	13	6	19	19	50	35	85
②良かった	44	8	52	27	15	42	94	6	40	46	30	17	47	93	20	9	29	29	127	89	216
③悪かった	7	1	8	5	1	6	14	2	3	5	8	1	9	14	0	1	1	1	22	7	29
④非常に悪かった	1	0	1	3	0	3	4	0	4	4	1	0	1	5	0	1	1	1	5	5	10



【理由等】

総合経営学科

①の理由

話しやすかった。
就活の時に全員が自分のことに、親身になって教えてくれたので良かった
様々なサポートを行っていただいて、無事就職先を見つけられました。

②の理由

ゼミ担当以外の職員とあまり関わりはありませんでした。
良くも悪くもなく、関わりがなかった
わかりやすく、適切な授業環境を整えられていたと思う
わからないことや質問などもしっかりと対応してくれて助かった。
いろいろアドバイスなどをもらう事ができて良かったです。
どんな質問や話も聞いてもらったため。
学生の意見を取り入れようとしてくれる方もいて、嬉しかった
親身になって対応してくれた
質問、相談に丁寧な対応をして頂きました。
あまり接する機会がありませんでしたが良い印象でした
ムラはありますが、全体的に話しやすかったため。
進路についてしっかり教えてもらった
よかったです
良かったです。

③の理由

お世話になった人がいない
あまり、関わりがなかった
いいと思ったことがない
ゼミ以外の先生とはとくに関わりはなかった

観光ホスピタリティ学科

①の理由

様々なことの相談にのってもらえたから
大学の職員の方々はフレンドリーな方が多い印象だった。挨拶をすれば返してくれるし、たまにする世間話など楽しい時間だった。
どの先生も生徒との距離を作ることなく研究室に入りやすい雰囲気を感じられた。

②の理由

面識がある教員は話しかけてくれたりしたので色々なことを相談できた
気軽に相談に乗ってくれる先生が多かった。
しっかりとサポートしてくれた
色々な場面で大変お世話になりました。
キャリアセンターの方にはとても感謝しています
教員と関わる機会が少なかったです。
困っていたら、気にかけてくれたのでありがたいと思ったから。
基本分からないことが解決された

③の理由

あまり関わる機会がなかったため
全員がいい人ではなく悪い人の方が圧倒的に多かったから

健康栄養学科

①の理由

授業でわからなかい部分を質問したら、丁寧に教えていただき、とてもありがたかったです。

各科目でわからなかつた箇所などを聞きに行った時、自分分かるまで丁寧に教えていただきました。また、大学生活についても困ったことがあった際、聞きやすい距離感だった。

②の理由

沢山の先生方に、日頃から元気にやってる？など声をかけていただく機会が多く、悩み事の相談など聞いていただいた気にかけてくれた。

個人差が大きく、話をして聞いてくれる人と、言いたいことがわからないなどと怒られる人がおり全員が良いアドバイスをくれたとは感じませんでした。

教育の一環なのかもしれませんが、人によって少し人格を否定するような指導が度々ありました。

対応が悪いと感じたことはないためです。

やる気をなくすような言い方をされることがあった。

教員同士の連携がうまくいっていないことが多く、言っていることが違うのでどちらの指示に従うべきか悩むことが多い授業があった。

なにかと気にかけて声をかけてくれた

親身になってくれたから

真剣に相談にのっていただいた

一人一人に対応してくれた。

親身になって指導してくれた

優しくご指導していただきました。

③の理由

助手の先生とはうまく行ってない人が多いように感じた。何度も何度も自己紹介書をなおさせたり、言葉がきつく問い詰めるような感じや、教職科目履修者への明らかな対応の差などもあった。泣いている人を何度も見た。大切なことも学べたが、一歩間違えると心を病んでしまう生徒がいてもおかしくないと思った。教員と助手の先生でも指導方針がそれぞれある感じがした。

言葉がきつい

理不尽な理由で怒られる時などがあることや個人的な感情が入っていた時もあり、面倒くさかった。

否定的なことを言われた

④の理由

非常に悪かったという評価は、助手の先生に対しての評価です。学生を侮辱するような発言やメールでの圧力は学生に対してのパワハラにあたります。助手室は本当に行きたくない場所でした。

学校教育学科

①の理由

学校生活の様々な場面で声をかけてくださった。

支援センターの先生方や教務課などの方が親身になって相談に乗ってくれて嬉しかったです

教採の対策を手伝ってくれた。

非常に丁寧に対応していただきました。

他県のことで自分に欲しい情報が全くもらえない時に、良き相談役、支援をしてくれたため

普段の様子をみて話しかけたりしてくれた。

ゼミの先生以外の先生もすごく親切でたくさん関わってくれたからです。

ありがとうございます

悩み事も嬉しい事も何でもお話を聞いてくださった。

相談に乗ってくれた。

一期生ということもあり、先生方との距離が近かったので、小さなことでも相談しやすかったです。

親身であった

最後まで寄り添ってくれた

廊下で声をかけてくれたり、気にかけてくれている気がしました。

②の理由

相談にのってくれた

世間話などでもできる先生もいらっやととても楽しかったです。

親身であった。

ゼミ担当以外の関わりが授業以外にあまりなかったが、一部の先生は気軽に話ししたり相談したりすることができた。

廊下ですれ違う時など、様々な視点から声をかけてくださりました。

教職支援センターの先生方など、相談に乗ってくださる先生がいたことで、相談がしやすくなっていた。

いい教員もいれば、悪態や嫌悪感を抱く教員もいた。

声をかけてくれた。

よく聞いてくれる

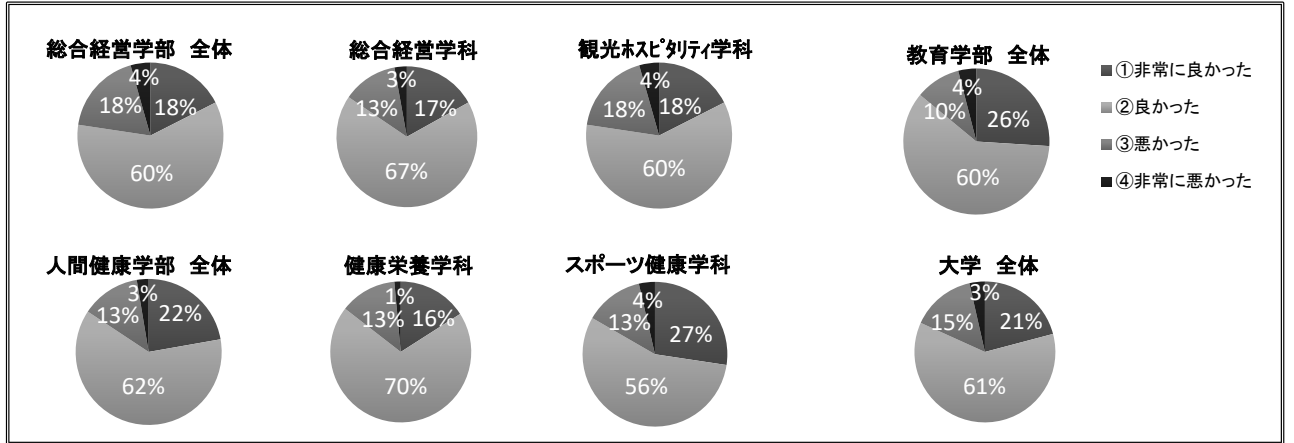
丁寧だった。

③の理由

プライバシーにかかわる相談内容を他の学生に話していた

質問11. 大学には、学生課・教務課・キャリアセンター・情報センター・総務課などがあり、事務職員はそれぞれの部署で皆さんのサポートをしています。それぞれ情報の発信や対応、支援はどうでしたか。

	総合経営学部							人間健康学部							教育学部			総計		合計	
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康				学校教育			合計	男		女
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計						
①非常に良かった	11	1	12	9	3	12	24	3	8	11	14	9	23	34	7	6	13	13	44	27	71
②良かった	40	8	48	24	10	34	82	8	40	48	28	19	47	95	20	10	30	30	120	87	207
③悪かった	7	2	9	9	7	16	25	1	8	9	9	2	11	20	5	0	5	5	31	19	50
④非常に悪かった	2	0	2	4	0	4	6	0	1	1	2	1	3	4	1	1	2	2	9	3	12



【理由等】

総合経営学科

①の理由

キャリアセンターのおかげで就職先が決まったため。
 教務課・・・丁寧に履修の事をアドバイスして下さったため。学生課・・・大学生活において、学友会を始めお世話になったため。
 どの部署にもお世話になりましたが、キャリアセンターでは就職にあたって添削や宿舎等で度々お世話になりました。その他の課でも、住所変更や学費の直接支払い等でお世話になりました。ありがとうございます。
 就職活動中に様々な情報を提供していただけてとても助かりました。
 就活の時に全員が自分のことに、親身になって教えてくれたので良かった
 様々なサポートを行っていただいて、無事就職先を見つけることができました。

②の理由

キャリアセンターでの就職支援がすごく助かった。
 学生課の対応が良い
 学生課の方は困りごとの相談や、卒業の話やたくさん聞いてもらえた
 キャリアセンターには、求人情報の積極的な提供や面接練習などの機会をいただき、就職活動の際に大いに助けになった。
 学生課、奨学金関連でわからないことがたくさんありましたが優しく丁寧に教えてもらった。
 キャリアセンターには就職活動の際にお世話になりましたが、相談や添削など親身に行ってくれたこととても感謝しています。
 キャリアセンターの資料が就活の際に役立った
 今はいらっしゃらないが、三年次にお世話になった。
 学生課、キャリアセンターわからないことや相談事を解決してくれて良かったです。
 マンツーマンで話を聞いてくれた
 キャリアセンター・・・親身になって就活の相談を受けてくれた。
 キャリアセンター就職活動時の履歴書の訂正など細かくやってもらえました。
 キャリアセンターの、人にお世話になったから。
 よかった
 学生課。文化祭の時にお世話になったから。

③の理由

一部の職員への対応が他と比べて雑になっていてあまり親身に感じませんでした。
 キャリアセンターで、添削してもらった時にほぼ添削されずに帰ってきて不安になった。

観光ホスピタリティ学科

①の理由

情報センターの先生がよくかまってくれたのでうれしかった。キャリアの方々も親身に聞いてくれたことが多かったので良かった。
 キャリアセンター 10回以上も面接練習をしてくださった。情報センター パソコンのトラブルをなんでも解決してくださった。基礎教育センター 通うたびに自分の成長を感じた。
 キャリアセンター 添削や面接練習の際とても親切で助かりました。
 キャリアセンター就職活動の際にとっても的確にアドバイスを頂いたから
 対応がよかった

②の理由

キャリアセンターでは就活においてさまざまな支援をしていただいたため
 キャリアセンターキャリアセンターの方々は、とても親身に相談に乗ってくれたりアドバイスしてくれた。
 キャリアセンター 就活のときすぐお世話になった
 学生課の方は部活などで色々とお世話になりました。若干無愛想だなと感じた方もいらっしゃいました。
 キャリアセンター面接練習から履歴書の添削までとてもお世話になりました。
 どの部署の方も対応してくれたのでありがたかったです
 就活で非常に助かった。面接練習など
 就職活動に関する質問についてキャリアセンターの事務職員より、キャリア形成の担当教員の方が満足の行く回答を得られた
 キャリアセンターの夏季就職合宿は就職活動をするにあたって、とても良い経験になった。
 編入の際教務課の方が履修関係で多く対応してくれた。

③の理由

学生課は他の教務課とかキャリアセンターの人たちと違い、教員によっては態度が雑な感じがあってイライラさせられることが多かった
 どこでどのような支援が受けられるかがわかりにくい
 機械的な対応が多かった。

④の理由

キャリアセンターの支援は画一的で非常に悪質
 大学側の手違いだったのに訂正の連絡も無く謝罪もないので意味がわからない。今年に関しては駐車券の返金があってもいいのにそれが無いのも意味がわからない。昨年の4月は1日も授業してないのに授業料の返金がないのはおかしい

健康栄養学科

①の理由

どこの部署の方も迅速な対応をいつもしていただき助けられたから。
面接練習などありがとうございます。
キャリアセンターのみなさんには面接練習やOpen ESまでたくさんお世話になりました。ありがとうございます。
キャリアセンターでは様々な相談に丁寧に答えていただきとてもありがたかったです。
キャリアセンターの方には就職活動の際にとでもお世話になった。心配なことがある時など、聞きやすかった。私は編入生でしたが、教務課の方の対応も助かった。
キャリアセンター親身になって自分の将来のことを一緒に考えてくれた

②の理由

学生センターにいらっしゃる職員の方は、皆さんとても親切に対応してくださりありがたかったです
あまり活用してないのでわからない。
学生課や教務課の窓口に聞くところに行けば良いか教えてくださったり的確なアドバイスをくださったりしたのが良かったです。
電話番号をミス登録されたまま訂正に行ったところ、結局直っておらず4年間過ごしたため、どこに届け出たら全て直るか新入生のミスがあったときにはきちんと教えてもらえたらありがたいです。
キャリアセンターを就職活動中に利用させていただきましたが、的確な助言をいただけて、スムーズに就職活動を進めることが出来ました。
学生課 奨学金の説明がわかりやすかった
キャリアセンターには就職の際に親身になってアドバイスをさせていただけてよかったです。
キャリアセンター就活の際には毎日のように通い面接練習などをしていただき、内定をいただいた際には一緒に喜んでくれた。
それぞれ対応していただきました。
キャリアセンターで就活のサポートをしていただいたこと。
教務課の方で、奨学金等の相談に親身になって答えてくれたから
キャリアセンターには就職活動の際お世話になったから。
学生課にて、奨学金関係の対応時に高圧的な人がいて、毎回あまり良い気持ちじゃなかった。友人達も同じように言っていたので、金銭的に困難な学生に対してもっと親切に対応して頂ければ、頼りにしたいと思った。
就活でキャリアセンターの方には特にお世話になりました！ありがとうございます！
自分一人では行えない手続きは、毎度毎度丁寧に、負担は少なかったです。
キャリアセンターでは、就職活動をするにあたって多くのアドバイスをさせていただくことができたし、学生課・教務課では奨学金についてなどで分かりやすく指導していただいた。
就活の時などいろいろ話を聞いてくれた

③の理由

キャリアセンター、就活でセクハラみたいなことを言われた
全体的にはよかったです。昨年からのコロナの影響でオンライン授業となったときにPCがないという時の対応が少し残念でした。
情報センターから他の人もPC買っているのだから買って下さいと言われていましたが金銭的な面もあるのでもう少し親身に相談に乗っていただきたかったです。
学生課 オンラインになったのにも関わらず、駐車場の料金の返金がないのは少し不満です。
全体的に日程などの連絡が遅いと感じた。予定が入ってるのを、どうにかして時間を作らないといけなかったので、大変だった
ゆめはとても良かった。学生課は職員によって対応に差があったと思う

④の理由

キャリアセンターで内定を蹴ろうとしている生徒に対して、内定を蹴ることはありえないかのような圧をかけてくる。また、相談の電話も最後には説教を受けているかのような対応だった。相談とはどのような事なのか学んで欲しい。また、仕事なら自分の気分勝手に生徒の想いを優先して対応してもらいたい。

スポーツ健康学科

①の理由

キャリアセンター就活のことはキャリアセンターの方がとてもサポートしてくださり、面接練習やエントリーシートなどを進めることができました。
キャリアセンターでは就職活動にて色々な添削をしていただいた
特にお世話になった部署はキャリアセンターで、就活中に様々なアドバイスをしてくださったため。
「キャリアセンター」話も聞いてくださり、就活の時はずっと助けていただきました。
学生課・教務課の方は何でも聞くと応えてくれ、相談しやすい場であった。また、学生アルバイトも行い、いつも感謝の言葉を言われて嬉しかった。キャリアセンターは、就職活動が終わってもいつも気にかけてくれることが多く本当にありがたい。
学生課や教務課、キャリアセンターはたくさんお世話になったが、いつ行っても丁寧に相談してくださり困ることがなく生活できた。
キャリアセンター 進路相談でリモートであっても相談に乗ってくれた。
キャリアセンター、親身に相談に乗ってくれた事
就活でキャリアセンターに非常にお世話になりました。夏季就職合宿いい思い出です。

②の理由

キャリアセンターの手厚いサポートはとても有難かった。
学生課 沢山お世話になった。
キャリアセンター行った時に席を外しているということがあったので、在席していることがわかるようになってるといいと思います。
新しい本の情報など知ることができ良かった
学生課、駐車券のチャージ等行く頻度は高い方だったが対応が良い
情報を再度発信していただいたりしたので自分の学生生活でもとても有効に活用することが出来ましたし、とてもありがたいと感じました。
教職センター教育実習や免許などに関する重要な書類や情報について分かりやすく教えてもらえた。
学生課は部活のことでたくさんお世話になったが、その他の部署はあまり活用していない。
キャリアセンターでは、とてもよく相談に乗ってもらった
キャリアセンター就活の時添削や面接練習などをしてもらい就活にとでも役に立ったから。
学生課では丁寧に相談してくれました。
キャリアセンターの方々には就活時にとでもお世話になり、本当に心強かった。
学生課 とてもよいサポートをしてくれた
キャリアセンター就活の時に相談にのってくれた
教務課親切で丁寧な対応
キャリアセンター、就職のことで悩んでいる時、助けられた

③の理由

学生課の対応は保護者からの意見を含めて疑問に思う部分がありました。電話対応等
コロナ禍において、ほとんど学校の施設を使用できなかったにも関わらず、毎度同じ金額の学費を支払うのが納得いかなかった
キャリアセンターはよかったが、それ以外はあまり良くない

④の理由

みんな偉そう学生と対等が良いと思います
キャリアセンターは今年度はコロナ禍により、就職が難しい状況にあったが、その面での対応は早かったと思う。しかし、学生も経験したことのない状況の中、人によっては考える時間が必要だったと思うが、松本大学の就職率を高くしたいがため、学生を焦らせたり、強要させたり、していると感じる場面があった。また、学生は学生だが、1人の大人でもあるので、考えて欲しかった。

学校教育学科

①の理由

教務課の方々には入学前からずっとお世話になりました。毎回親身に寄り添っていただきました。

説明がわかりやすかったです。

4年間通して様々なことでお世話になりました。

教務課の先生方には、学校生活の様々な点をいつも分かりやすく、丁寧に説明していただき、快適な学生生活を送ることができた。

ありがとうございました

【学生課】丁寧に色々とやってくれたり、話してくれた

情報センターの方がすごく丁寧に対応してくださったので、とても助かりました。

②の理由

大学3年時の就職前セミナーは、就職活動へと気持ちをシフトチェンジする点で、非常に役立つと感じる。

教務課は大学生生活全般について大変お世話になりました。学生課に対応が少し冷たく感じた

情報課でパソコンに関わる対応をしていただいて助かった。

教務課では、免許の取得についてなど一緒に考えてくださりました。

教職支援センター学生目線で相談等乗ってくれたから

教務課は、実習関係など書類の細かい点をきちんと説明してくれた。

親身であった

就活、進学で悩んでいた所を、のキャリアセンターの方に相談したところ、しっかりとアドバイスをいただきました。

適切だった。

教職センター、免許の一斉申請載ってる書類を丁寧にしてくれた

③の理由

学生課の人たちは親切でない。

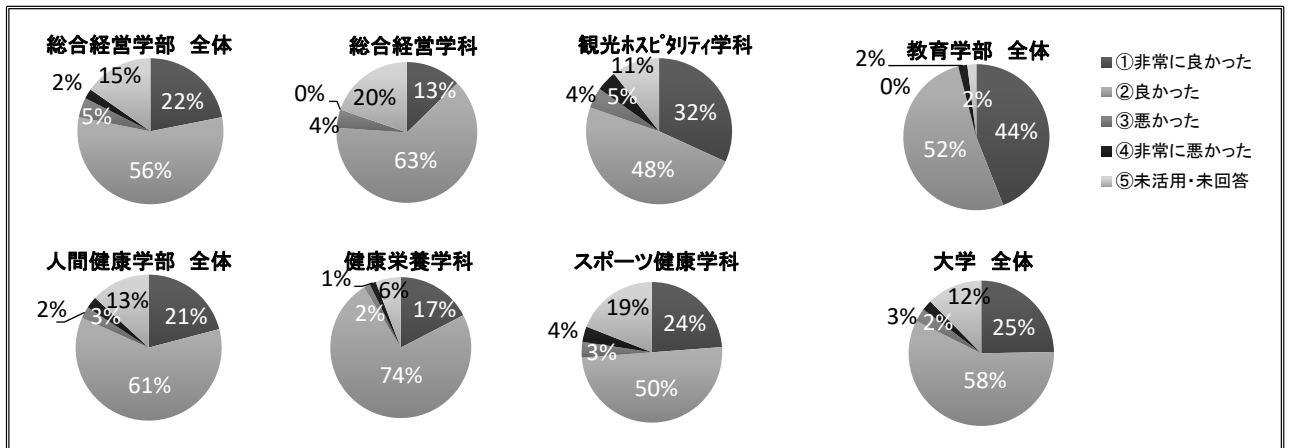
全体的に連絡事項の発信が遅いと感じた。学生によっては県外から来ている者もいるにも関わらず、保護者の了承等必要な書類を提出1週間前に連絡するなど普通ではありえないと思う。

④の理由

学生課の人たちは本当に態度が悪かったです。

質問12. 各サポートセンター(教職センター、教職支援センター(8号館)、基礎教育センター、国際交流センター、健康安全センター、地域づくり考房『ゆめ』、地域健康支援ステーション、図書館等)の情報発信や対応、支援はどうでしたか。

	総合経営学部							人間健康学部							教育学部			総計			
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康				学校教育			男	女	合計	
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計						
①非常に良かった	8	1	9	15	6	21	30	2	10	12	12	8	20	32	15	7	22	22	52	32	84
②良かった	38	7	45	22	10	32	77	9	42	51	20	22	42	93	17	9	26	26	106	90	196
③悪かった	3	0	3	1	2	3	6	0	1	1	3	0	3	4	0	0	0	0	7	3	10
④非常に悪かった	0	0	0	3	0	3	3	0	1	1	3	0	3	4	0	1	1	1	6	2	8
⑤未活用・未回答	11	3	14	5	2	7	21	1	3	4	15	1	16	20	1	0	1	1	33	9	42



【理由等】

総合経営学科

①の理由

部活で怪我した際、親身になってテーピングを毎回してくれた
司書さんが、卒論を書く上でとても協力していただいた。大変ありがたかった。
図書館では、講義の空き時間に、集中して勉強することができたため。
静かな環境で学習を行えたため。また、SPIや公務員勉強を教えて頂きながら学習できたため。

②の理由

図書館は暇時間の休息所でしたし、レポート課題の際パソコンもよく利用させて頂いた。
好きな作家の本が多く、新刊などを利用させて頂いていた
資料数が充実しており、レポート作成の助けとなった。
空き時間などを有効活用することができた。設備が整っていた。基礎学力を上げたので、自分で勉強していたがサボってしまうので基礎教育センターでできたのでよかったです。
ゆめでの活動が良い経験になった
学校の中では快適に過ごせる場所だった
図書館居心地がよく情報も集められたので良かったです。
自分自身の成長に繋がった。この4年間で1番変わることができた場所です。
基礎教育センター…基礎をしっかりと学べた
図書館卒業論文の資料の役にたちました
図書館では必要な書類を探したり、除籍本をいただいたり便利に利用させて頂きました。
自ら学ぶという意思がある場合しっかり対応してくれた。基礎的な学力は伸びたと思う。とてもありがたかった。
綺麗で良い環境だったため
ゆめは友達が増えた。図書館はレポートで役立った。

観光ホスピタリティ学科

①の理由

図書館対応も迅速で、欲しい本を取り寄せてくれたり、レファレンスについてもとてもお世話になった。専門書も豊富。大変満足している。
地域づくり考房『ゆめ』の職員の方々が、とても優しくかった。
いつも、相談など乗ってくれていた
カンボジアにボランティアに行く際に、国際交流センターの先生にとてもお世話になりました。初めての海外旅行でわからないことばかりでしたが優しく教えてくださりました。
基礎教育センター教えていただいて助かった

②の理由

レポート課題があった際はよく利用していたため
図書館 空き時間によく活用していた
環境がよかったから
ゆめでのボランティアなど沢山お世話になった。

③の理由

地域づくり工房ゆめ。ゆめでの活動を4年間やりました。最初の頃は私たち学生のやりたい活動内容を親身になってサポートして頂きましたが、去年くらいから「ゆめ」全体の方向性が変わったのか、学生と職員の方の意見が噛み合わなくなり、学生のやりたいことがやりづらくなったような気がします。

健康栄養学科

①の理由

どこも大学生生活を送る上でとても役にたった。
健康安全センター 具合悪いとき親身に相談に乗って頂きました。病院のピックアップもいくつかして頂き助かりました。
図書館では様々な本を読んでとても満足しています。
図書館レポートを書くときに、たくさんの教科書等がありとても、助かった

②の理由

基礎教育センターでは、SPI等の就職関連の勉強を丁寧に指導していただき、大変ありがたかったです。
地域に出て活動が出来て楽しかった
特にゆめでは、貴重な経験をさせていただきました。
山雅のスタメンの開発・販売は滅多に経験できないことだったので、挑戦してよかったと思います。
地域健康支援ステーションでは、いざという時にパソコンが必要ですぐに借りることができ便利であったから
図書館の利用時間をもう少し延長してほしい。
集中して勉強できる。コロナが流行る前から図書館は足元が寒い…今はコロナではないが…とても広くて、資料も充実してた

スポーツ健康学科

①の理由

健康安全センターではとてもお世話になった

相談や色々お世話になった。

図書館は、卒業論文を作成する上で活用させていただき、図書館のおかげで完成することができたため。

ステーションは窓口での対応が非常によく使いやすかった図書館も様々な本やDVDなどが揃っていてよかった

私は教職免許を取得する際にとても教職センターの方々にお世話になりました。その度にアドバイスを沢山いただいたり、事務作業など沢山していただきました。感謝いたします。

健康安全センター 新型コロナウイルスの感染が疑われた時に早期に対応してくれた。図書館 卒論に必要な資料を印刷できた。

教職支援センターでは、私の相談を快く聞いてくれたり、的確なアドバイスをくれた。教採の対策を誠心誠意やってくれていた。

DVDがあることが熱い

②の理由

図書館で、卒論の資料が見つけやすかった。

見たい本があり勉強に活かせたので満足しています。

教職センターと教職支援相談室は、教職のことで非常に相談しやすかった。

図書館、勉強をする環境としてとてもよかった

自分のやりたい活動を経験する事ができた

勉強、調べ物、レポートをやるのにすごく集中できました。

基礎教育センターでの学習は満足出来なかった。

教職センター 沢山の支援とサポートをしていただいた。

図書館卒論の本を探す時にこんな本があるよ、と沢山紹介してくれた

たくさん本があり、個人のスペースもあるのでゆっくりできた

③の理由

基礎教育センター教え方が上手くない

学校教育学科

①の理由

教職支援センターの先生方には、時には私的な相談にも乗っていただき、教員になるために必要なことや生きていく上で必要な要素を教えていただいた。

部屋に行くといつも気にかけて下さって、声を掛けていただきました。頼れる先生方が揃っていて安心して相談等できました。

様々な情報をくれた。

分からないことは丁寧に教えていただき、何か忘れていた時に声がけしていただけてとても助かりました。

図書館は卒論作成時に支援していただいたため。それ以外は前記の通り

教職センター、教職支援センターにお世話になったが、特に教職支援センターはアットホームな感じで迎えてくださったりお話を聞いてくださってとても居心地がいい場所でした

教職支援センターで不安なことなど相談に乗っていただき、非常に助かった。

教職支援センターの先生方がすごく優しく丁寧に对应してくださり、たくさんの支援をいただきました。

ありがとうございました

どんな相談にもものってくれとても話しやすかった。

教職支援センターは心の拠り所でした！

相談した時のアドバイスが的確だった。

【教職支援センター】話しやすい雰囲気、気持ちで楽になる

特に教職支援センターの方々の対応が非常に丁寧で、用がなくても行きたいと思える場所でした。

②の理由

教採対策の本を貸してくれた

特に教職支援センターの先生方は色々と親身に対応してくださり、感謝している。

教職支援センターはただ支援してくれるだけでなく相談にも乗ってくださいました。

教職支援センターでは、教採試験の練習などもして下さったから。

急なことにもしっかり対応してくれて、非常に心強かった。

親身になってくれる。

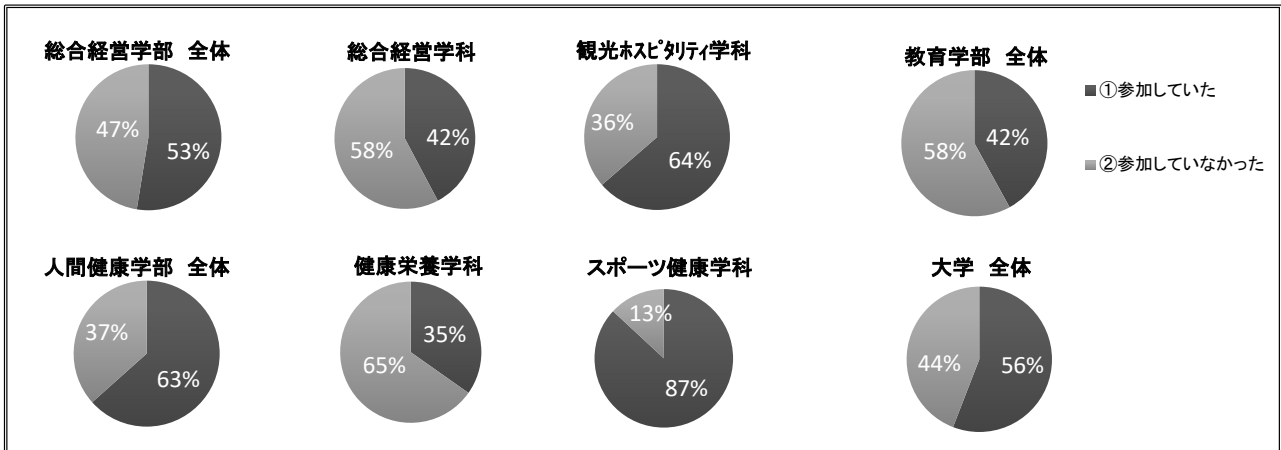
親身であった

④の理由

教職支援センター、必要な情報が必要な人に行き渡っていない

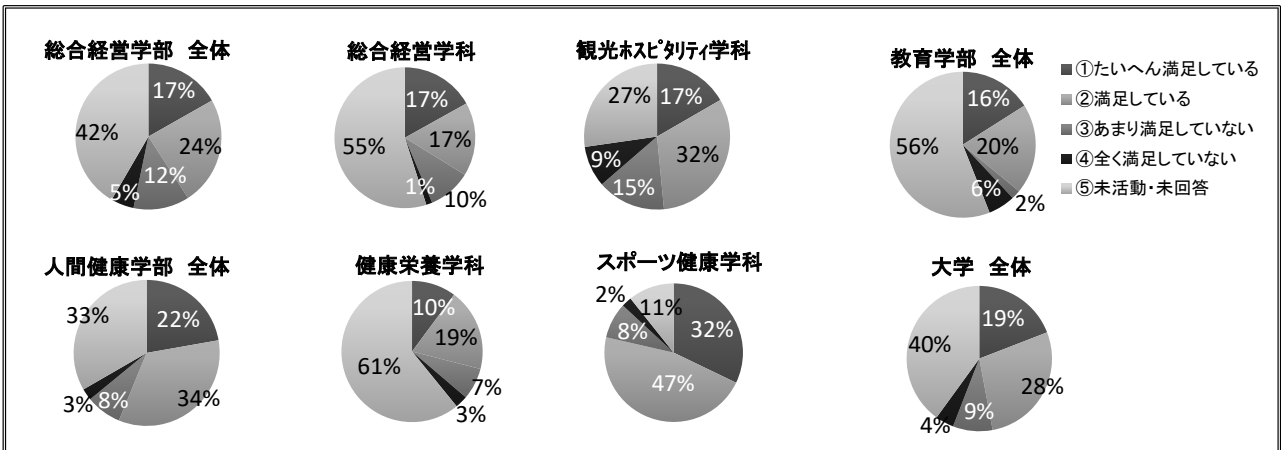
質問13. 部活・サークルへの参加

	総合経営学部							人間健康学部							教育学部			総計			
	総合経営			観光ホスピタリティ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計	学校教育			合計	男	女	合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計		男	女	計				
①参加していた	27	3	30	26	16	42	72	4	20	24	44	29	73	97	15	6	21	21	116	74	190
②参加していなかった	33	8	41	20	4	24	65	8	37	45	9	2	11	56	18	11	29	29	88	62	150



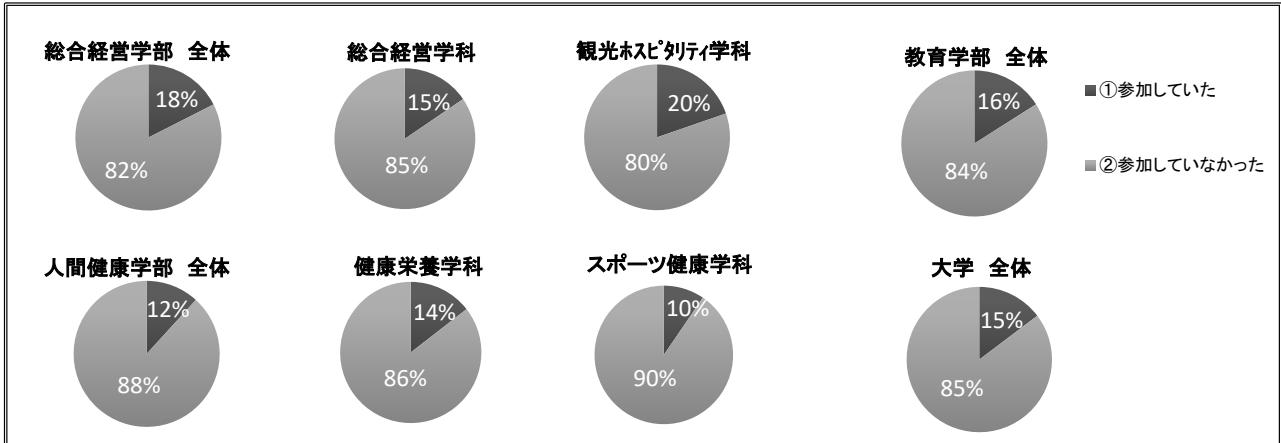
質問14. 部活・サークル活動の満足度

	総合経営学部							人間健康学部							教育学部			総計			
	総合経営			観光ホスピタリティ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計	学校教育			合計	男	女	合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計		男	女	計				
①たいへん満足している	10	2	12	11	0	11	23	2	5	7	19	8	27	34	6	2	8	8	48	17	65
②満足している	12	0	12	11	10	21	33	0	13	13	22	17	39	52	7	3	10	10	52	43	95
③あまり満足していない	6	1	7	5	5	10	17	2	3	5	3	4	7	12	1	0	1	1	17	13	30
④全く満足していない	1	0	1	4	2	6	7	1	1	2	2	0	2	4	2	1	3	3	10	4	14
⑤未活動・未回答	31	8	39	15	3	18	57	7	35	42	7	2	9	51	17	11	28	28	77	59	136



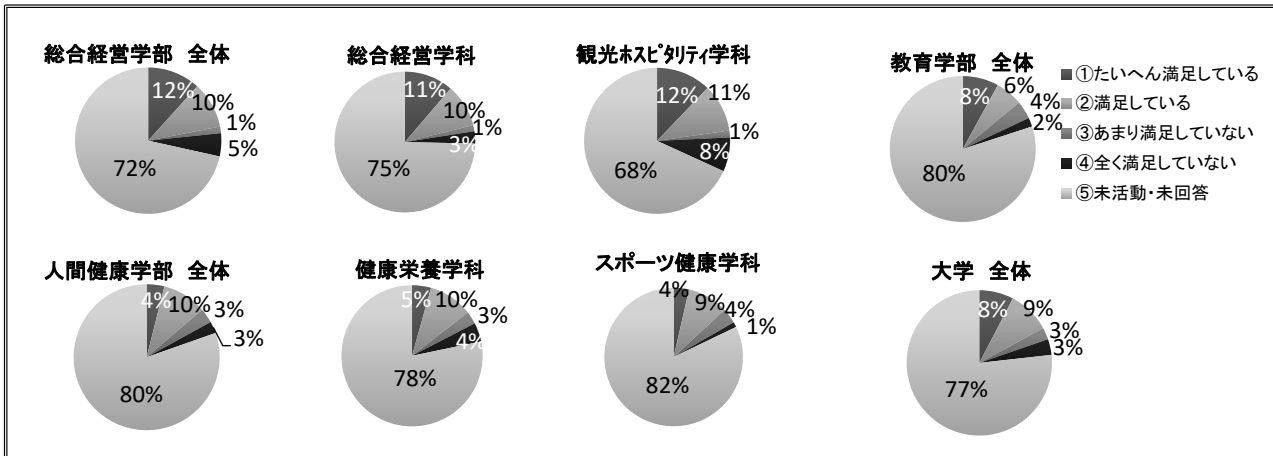
質問15. 学生会活動への参加

	総合経営学部							人間健康学部							教育学部			総計			
	総合経営			観光ホスピタリティ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計	学校教育			合計	男	女	合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計		男	女	計				
①参加していた	6	5	11	11	2	13	24	1	9	10	6	2	8	18	4	4	8	8	28	22	50
②参加していなかった	54	6	60	35	18	53	113	11	48	59	47	29	76	135	29	13	42	42	176	114	290



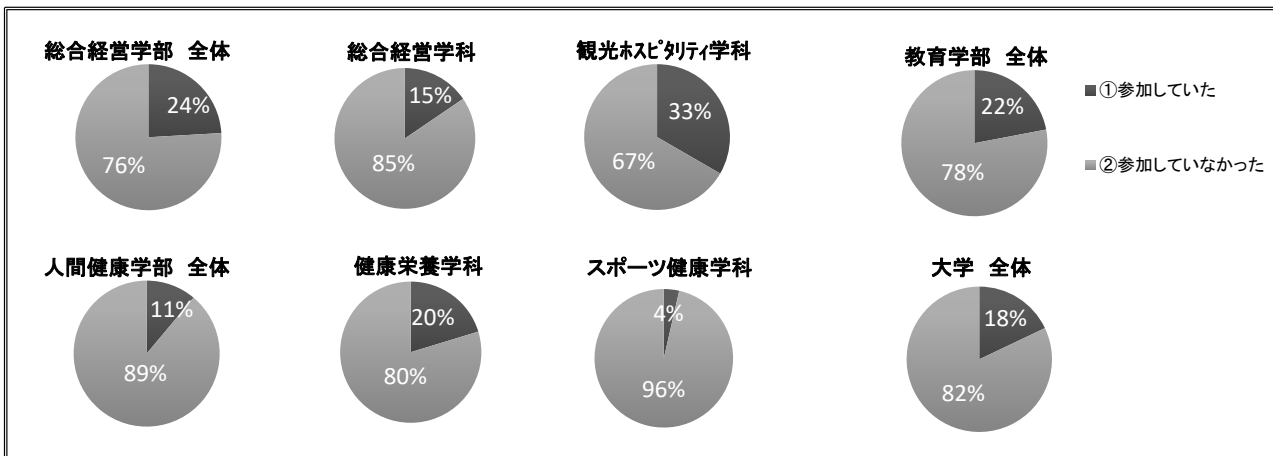
質問16. 学生会活動の満足度

	総合経営学部						人間健康学部						教育学部			総計					
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康			学校教育			男	女	合計			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計						
①たいへん満足している	6	2	8	7	1	8	16	1	2	3	3	0	3	6	3	1	4	4	20	6	26
②満足している	4	3	7	6	1	7	14	0	7	7	5	0	8	15	1	2	3	3	16	16	32
③あまり満足していない	1	0	1	1	0	1	2	0	2	2	3	0	3	5	1	1	2	2	6	3	9
④全く満足していない	2	0	2	5	0	5	7	1	2	3	1	0	1	4	1	0	1	1	10	2	12
⑤未活動・未回答	47	6	53	27	18	45	98	10	44	54	41	28	69	123	27	13	40	40	152	109	261



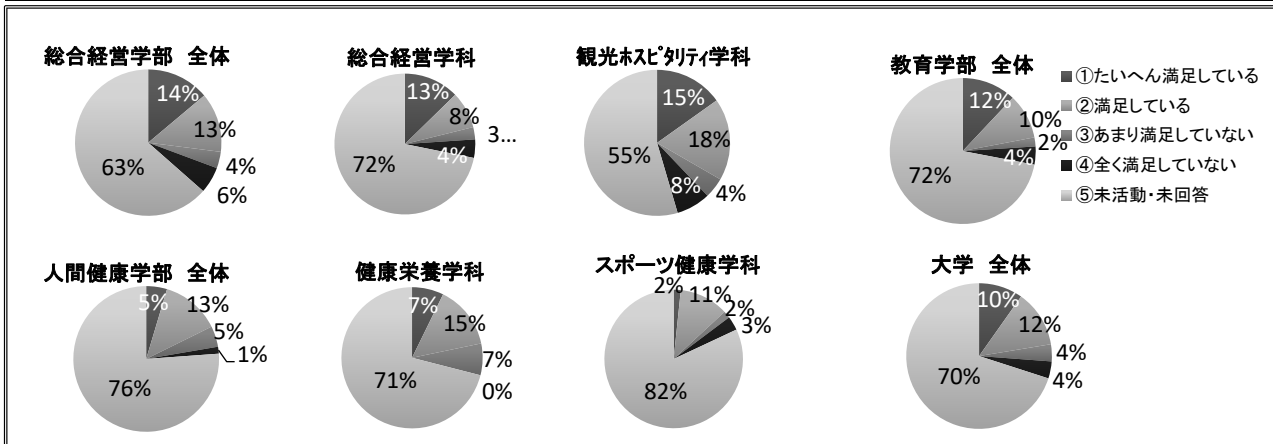
質問17. 地域づくり考房『ゆめ』、地域健康支援ステーションにおけるボランティア活動への参加

	総合経営学部						人間健康学部						教育学部			総計					
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康			学校教育			男	女	合計			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計						
①参加していた	7	4	11	15	7	22	33	2	12	14	1	2	3	17	6	5	11	11	31	30	61
②参加していなかった	53	7	60	31	13	44	104	10	45	55	52	29	81	136	12	27	39	39	158	121	279



質問18. 地域づくり考房『ゆめ』、地域健康支援ステーションにおけるボランティア活動の満足度

	総合経営学部						人間健康学部						教育学部			総計					
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康			学校教育			男	女	合計			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計						
①たいへん満足している	7	2	9	7	3	10	19	3	2	5	1	0	1	6	3	3	6	6	21	10	31
②満足している	4	2	6	9	3	12	18	0	10	10	3	4	7	17	3	2	5	5	19	21	40
③あまり満足していない	2	0	2	2	1	3	5	1	4	5	1	0	1	6	1	0	1	1	7	5	12
④全く満足していない	2	1	3	5	0	5	8	0	0	0	2	0	2	2	2	0	2	2	11	1	12
⑤未活動・未回答	45	6	51	23	13	36	87	9	40	49	33	17	50	99	24	12	36	36	134	88	222



質問19. 課外活動について、その満足度となった理由や要望など、お気づきの点を記入してください。

総合経営学科

マツナビ に入って副代表をやり、沢山のことを経験できた。マツナビ に入って他学部の方とも友好関係が築けてよかった
学友会のおかげで先輩後輩に多くの友人ができ、大学生活がとても充実したものになりました。
定期的に体を動かすことができよかったです。
同好会では、人生で初めて代表者として取り組むことができたため。
他学年・他学科の人と一緒に大学祭の運営を行ったり、イベントの計画や運営がとても楽しかったため。交友関係が増えたため。
「ゆめ」だけではなく、もう少し活動を行っても良かったかなと、今となっては感じる。
他学部との交流ができて満足
やることがなかった学校生活が学友会に入ってとても楽しくなったから。

観光ホスピタリティ学科

他の学年の人と仲良くなれたし、交流も深まった
学生生活がより充実したものとなったから
強化部に指定されている部活の生徒が授業中騒いでいたり、周りに迷惑をかけていたり目立った行動が沢山あった。とても迷惑でした。野球部だから、強化部だからと何をしてもいいとは限らないのを彼らは知らないと思う。社会に出るまでに直さないと松本大学の恥では？
興味のある活動がない
参加したことで学外の方ともつながりができた。お陰で自分をいろんな人が認識してくれたため、自身にもつながった。
学べることが沢山あった
部活動でのびのびと活動できたから。
地域との関わりはいいと思う
一緒に取り組む仲間にも出会えて、課外活動が大学生活を充実したものにしてくれた。

健康栄養学科

充実した企画や運営、リーダーとしてどう動いていくかを学ぶことができた。
ゆめに所属していなければ経験できないことが経験でき、かつコミュニケーション能力も培えたと思います。
他学部の人と関わる機会になった
貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。
貴重な経験の場を提供していただいたからです。
マツナビをやっていたので、他学部の方と交流を深めたり自分自身を成長させることができたのでよかった。
いろんな人と交流できてとても楽しかったです。
様々な活動を通して、他学部、他学科の学生と関わる事ができたから
トマト農家さんへ行くのは、勇気が要りました。ですが、沢山の出会いがあり、今も連絡を取ってるくらい、農家さんと仲が良く、第2の故郷になりました。もつと、沢山のの人に、ボランティアに参加して欲しいって思いました。

スポーツ健康学科

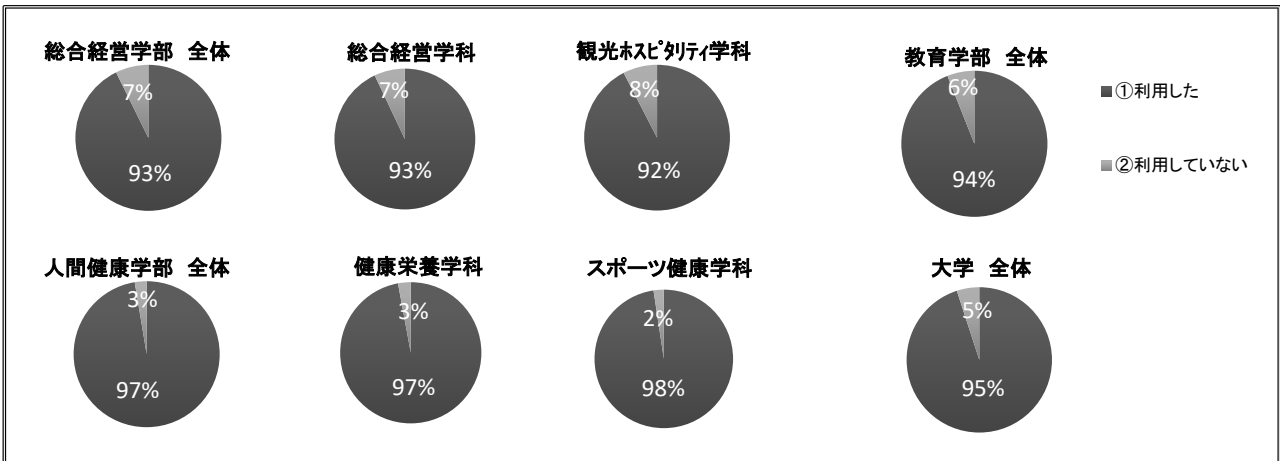
部活の活動時間にも満足しているし、学生らしい思い出ができたため。
4年間部活動はとても充実した時間でした！
県外の大会など、多くの大会でサポートしていただいた。練習場所もとても使いやすく有意義に練習が行えた。
部活動など様々な活動に参加し、他学部や他学年との交流をすることでとても楽しく、充実したと感じる。
定期的に活動できてリラックスできた。
学校には部活としてできる場所ができないため各自で練習という形になっていたため、部員と関わる機会が少なかったのが少し心残りかなと思う。
あまり参加していない
色々な経験が出来たから。
部活で色々な経験ができたから。
コロナの時期で顧問が見てくれず、活動ができない時があった
自分のスキルアップになった。
自分の経験したい事ができた
結果が出せなかったが、なにかは残せたと思うから

学校教育学科

もう少し教育学部も部活動に参加しやすい雰囲気や環境を作るべきだと思う。学業も大切であるか余暇の幅を広げることも大切だと思う。
トレーニングルームをもっと広くして器具を増やしてほしい。特にスクワットやベンチプレス、クリーンなどを行える器具をたくさん増やしてほしい
社会に出て必要となる知識、経験を積むことができたため。
学外の方とのやり取りなどもサポートしていただき様々な体験ができた。
責任感、協働力が身につきました。また、人間関係の幅を広げることができました。
軽音部が使うことのできる練習場所がほしかったです。食堂は機材運びが少し大変でした。
自分の成長となった
他学部の学生と交流できる楽しい場になっていました。

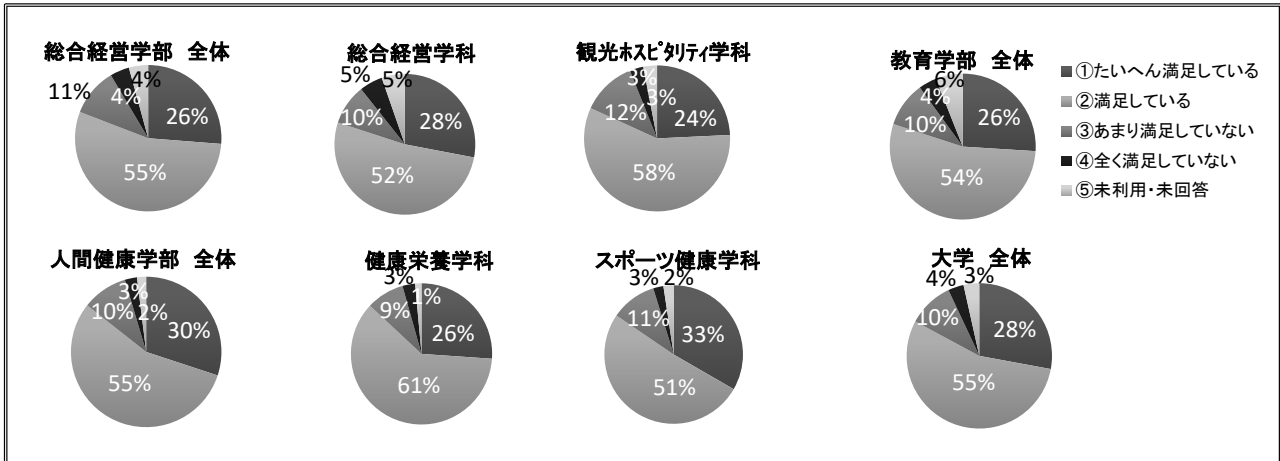
質問20. あなたは食堂・購買(3号館カフェテリア、購買、ミニショップ、9号館食堂等)を利用しましたか

	総合経営学部							人間健康学部							教育学部			総計			
	総合経営			観光ホスピタリティ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計	学校教育			合計	男	女	合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計		男	女	計				
①利用した	57	9	66	42	19	61	127	12	55	67	51	31	82	149	31	16	47	47	193	130	323
②利用していない	3	2	5	4	1	5	10	0	2	2	2	0	2	4	2	1	3	3	11	6	17



質問21. あなたは食堂・購買(3号館カフェテリア、購買、ミニショップ、9号館食堂等)に満足しましたか。

	総合経営学部							人間健康学部							教育学部			総計			
	総合経営			観光ホスピタリティ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計	学校教育			合計	男	女	合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計		男	女	計				
①たいへん満足している	17	4	21	12	4	16	37	2	16	18	22	6	28	46	9	4	13	13	62	34	96
②満足している	34	5	39	26	12	38	77	8	34	42	21	22	43	85	17	10	27	27	106	83	189
③あまり満足していない	7	0	7	5	3	8	15	2	4	6	6	3	9	15	3	2	5	5	23	12	35
④全く満足していない	2	2	4	2	0	2	6	0	2	2	2	0	2	4	2	0	2	2	8	4	12
⑤未利用・未回答	2	2	4	1	1	2	6	0	1	1	2	0	2	3	2	1	3	3	7	5	12



質問22. 購買や食堂名を明記し、その満足度となった理由や要望など、お気づきの点を記入してください。

総合経営学科

安くてよかった
購買が狭い
満足はしているが、大学に入っている割には、食堂が高い気がする
料理も美味しく、生協の方も優しく丁寧に接客してくれた。
広くなったので良かった
混みすぎると利用しようとは思わなかったので空いてる時間に利用してたと思う
品数が少ないのと従業員の方の機嫌次第で対応にムラがあるのが不満でしたがそれ以外はおおむね満足です。
食堂の値段がやや高いのと種類をもう少し増やして欲しかった。
生協では文房具だけでなく、日用品やお菓子も豊富な品揃えだったため。
価格は高かったものの、種類が豊富だったため。
今は良いが、購買がもう少し早く、健康食券を使えてたら嬉しかった。
食堂の料理美味しかったです
お弁当がないときに役に立ちました
健康食券の利用方法が制限されているし、9号館で使えないのは不便だった。
食堂は美味しく、友人との食事の場として度々活用しました。購買は意外と欲しいものが揃うので重宝していました。
全ての食堂・購買を利用したが、3号館カフェテリアにて賞味期限切れのわさびをもらったことがあったので、評価-1
食堂であったかいご飯が食べれた
お昼など買わせていただきました。

観光ホスピタリティ学科

生協 昼食時いつもお世話になった
食券が飲み物のみでも利用できたらいい
値段が高い
お昼ごはんをよく買っていた
安い値段だったので助かった
ちょっと安い。出来れば5限終わりまでやってくると、5限終わりに電車待ちの間軽く食べることが出来たと思う。
食堂のメニューをもう少し増やしてほしい
購買もうちょっと、お弁当を増やして欲しい
接客がとても良かった
食堂は値段を下げるか、料理のクオリティをあげるからどちらかしてほしいです。
生協値段、味も満足したから
お昼の時には購買を利用して、色々なものがあり便利に感じた。
値段が高い割に量が少ない。
店員の態度悪すぎ。
学食は安くて美味しいものばかりだった。もっと沢山利用したかったと悔やまれる。

健康栄養学科

ドーナツ屋さんの店頭販売などはすごく良かったので、さらにいろんな種類の店舗が来てくれるといいなあと思いました！
購買は、営業時間をもう少し早くして、夕方も長くなるいいと思った。
メニューが豊富
購買はよく利用させていただきました。新商品などが多くおいてあり、楽しく利用させていただきました。
営業時間が短く、朝早く来たり残って勉強する時には不便だった。毎日使うには少し値段が高いと感じていた。
購買の人の態度が悪い。人間関係が生徒までに伝わってくる
カフェテリア 美味しかった
時間により品揃えが少ない時があったため、常に一定の商品があればいいと感じた。
不満に思ったことはありません。ありがとうございました。
学食の内容が値段の割にしよばい。栄養学科があるのでその辺は意識した方が良くと思う。
コンビニが入ったらいいと思った種類が少ない
購買で買うことはあまりなかったけど、品揃えは少なかった気がします。
お弁当の値段があまり美味しくないのに高い
種類が多くてよかった
9号館食堂はメニューが充実していてとてもよかったです。
購買はサラダが以前より増えてありがたい。けどまたコロナで品数減らしたら真っ先に削られるの悲しい…少しだけでも置いてほしいです
新しい食堂は、毎食楽しいです。
購買サラダを置いてくれたり、雑誌などもあってとても良かった
値段が高い。パートのおばさんの接客が悪すぎる。
品物が充実してた
学食が美味しかった

スポーツ健康学科

食堂とても美味しかった
6号館2階フォレスト料理がとても美味しい
安かった
メニューが少なく、高校の食堂の方が充実していた。
購買はほぼ毎日利用させていただき、食券を使うことができる点や品揃えに満足している。
全て利用しましたがどれも良かった
狭い。学生が集まると混雑している。おばさん達がちょっと怖かった。昼行くとご飯がほぼない。
9号館食堂は清潔感がまずあり良い。購買も人が良かった
9号館の食堂も短大の方の食堂も優しいスタッフの方々ばかりでした。美味しかったです！
高い

9号館、購買店長と気軽にお話しできた購買は、毎日のように言っていたまに開店前もお店を空けてくれた
おにぎりやお弁当、飲み物やスープをよく買いました。どれも美味しく活用させて頂きました。ただ、もう少し営業時間が長いとありがたいなと感じました。
価格が適切だったと思う。

9号館の店長の気前の良さ

9号館の食堂について、学生には少し金額が高いと思います。また、提供時間に手間どっていて、食べる時間があまりないです。もっと、安くスピーディにして
もらいたかったです。

9号館の食堂は学食としては値段が高いかなと思う。味はとても美味しいが、値段が高いため毎日とは利用できないかなと感じた。

安くて品揃えが良い。

購買の人が親切だった

営業時間が短く感じた。

食堂のご飯がとてもおいしかった。

9号館、ミニショップみなさんいい人でした

購買 希望した商品を入れてくれた。

学食も購買も種類が豊富で良かった。

メニューが豊富で学生に優しい料金でも使いやすかった。

購買の営業時間をもっと長くしてほしい。

生協ご混み過ぎていた

品揃えが悪い

値段がお手ごろ

少し高い

学校教育学科

食堂のスタッフの方々にいつも優しく声をかけてもらって、うれしかった。ご飯が美味しかった。

いろんなメニューがあった

スープの値段上がったのが残念

たまに行く程度でしたが、ご飯美味しかったです。購買はレジが本当に混んで昼食の時間が短くなってしまうので何らかの対策をしていただけると嬉しいで
す。

もっとメニューを増やしてほしい

3号館カフェテリア もう少し広くしてほしい

3年になった時から食券が生協でも使えるようになったことは良かった。

ミニショップの営業時間を購買と合わせて欲しかった

気軽に行けたから。

教科書を販売する購買が狭く、時期によっては混雑していた。

ミニショップの営業時間が短いので長くしていただきたいです。

ミニショップは8号館に近く、レジをしてくださる方も優しい方で和みました。

ありがとうございます

高い、品薄

やすい

品揃えがよかった

便利

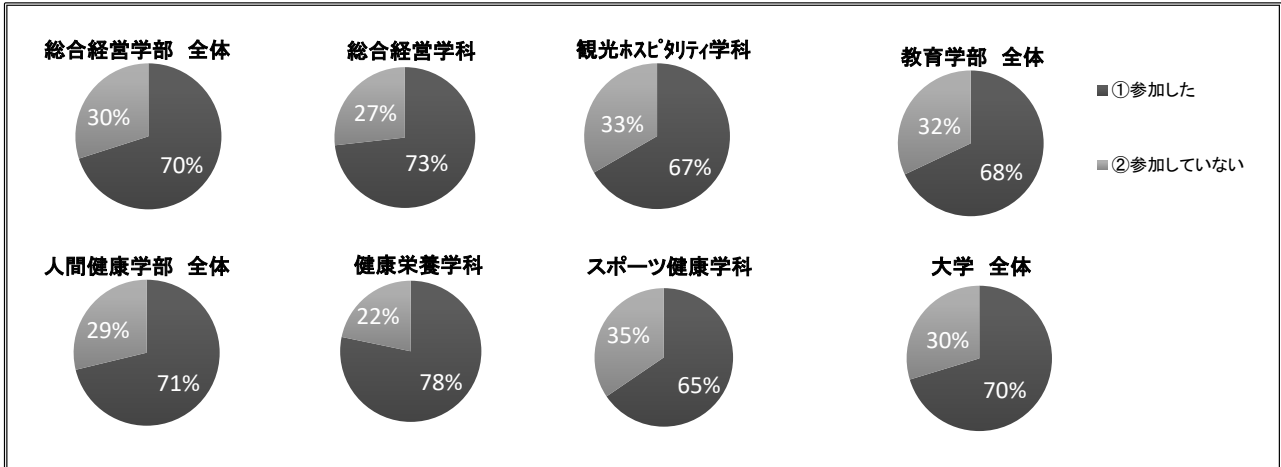
昼の時間に人が多すぎる

種類が豊富

最近ミニショップからDoleのオレンジジュースがなくなったのが悲しかった。

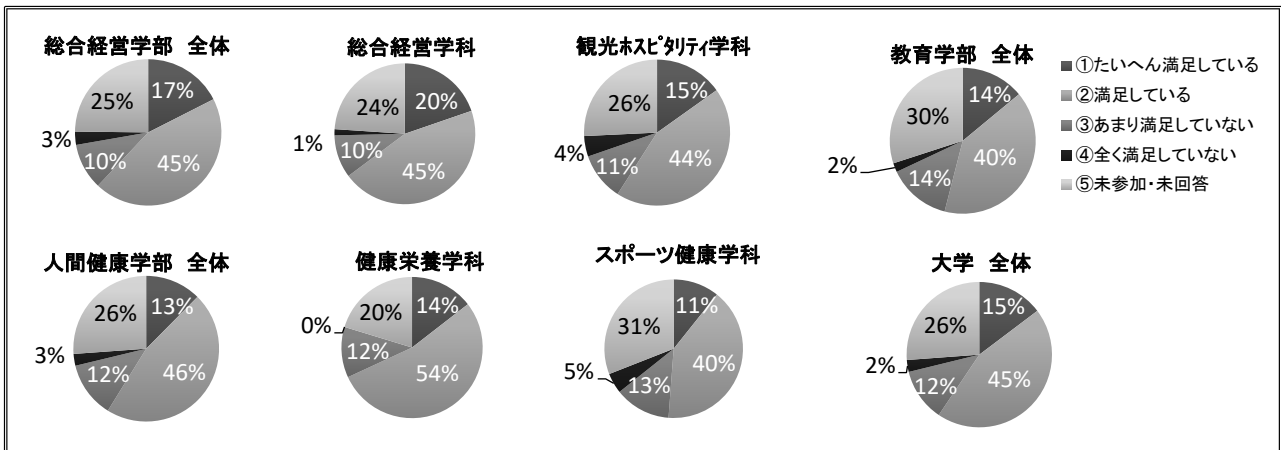
質問23. あなたは本学の行事(大学祭、新入生歓迎会、体育大会、花火大会等)に参加しましたか

	総合経営学部						人間健康学部						教育学部			総計		合計			
	総合経営		観光ホスピタリティ		合計	健康栄養		スポーツ健康		合計	学校教育		合計	男	女	合計					
	男	女	計	男		女	計	男	女		計	男					女		計		
①参加した	42	10	52	28	16	44	96	10	44	54	29	26	55	109	21	13	34	34	130	109	239
②参加していない	18	1	19	18	4	22	41	2	13	15	24	5	29	44	12	4	16	16	74	27	101



質問24. あなたは本学の行事(大学祭、新入生歓迎会、体育大会、花火大会等)に満足しましたか。

	総合経営学部						人間健康学部						教育学部			総計		合計			
	総合経営		観光ホスピタリティ		合計	健康栄養		スポーツ健康		合計	学校教育		合計	男	女	合計					
	男	女	計	男		女	計	男	女		計	男					女		計		
①たいへん満足している	11	3	14	8	2	10	24	4	6	10	7	2	9	19	5	2	7	7	35	15	50
②満足している	27	5	32	18	11	29	61	3	34	37	17	17	34	71	10	10	20	20	75	77	152
③あまり満足していない	5	2	7	4	3	7	14	4	4	8	5	6	11	19	6	1	7	7	24	16	40
④全く満足していない	1	0	1	3	0	3	4	0	0	0	3	1	4	4	1	0	1	1	8	1	9
⑤未参加・未回答	16	1	17	13	4	17	34	1	13	14	21	5	26	40	11	4	15	15	62	27	89



質問25. 行事名を明記し、その満足度となった理由や要望など、お気づきの点を記入してください。

総合経営学科

友達と計画してやれて、高校とはまた違った楽しみがあった
大学祭は参加者としても運営側としても参加し、どの大学祭も非常に楽しいものだった
体育祭では運営側もやる側もやりましたが両方学生が主に動くのでやりがいがあり楽しかった。
大学祭に部活動として参加しましたが、学校と校友会、校友会の中でも連絡が行き届いておらず、各方面に何度も同じことを説明しなければいけない状況がありました。楽しい行事なので、準備の段階から全員が気持ちよくできるようにこれから先に力を入れていってほしいです。
一年次の新入生歓迎会は参加したがそれ以外は特に参加していない
予算のわりに企画の質があまりいいものとは言えないものでした。生徒側の意見や要望などをもっと取り入れるべきだと思います。
文化祭が高校の時よりも、スケールが大きかったため。
模擬店の販売で、経営者側の視点から、たくさんのことを学べた
文化祭…芸能人等がきてとても楽しかったです
大学祭ゼミ生と協力して模擬店ができてよかった
大学祭は近年は諸事情で開催できないことが多々ありましたが、開催できた年はステージショーや屋台など、Theお祭りを楽しむことができました。
焼き芋は確か固かったです。

観光ホスピタリティ学科

大学祭 あまり参加しなかったが少しでも楽しめた
楽しそうではなかった
大学祭は2年連続中止だったから。
大学祭では模擬店や部活動での作品作りなど様々な活動をして楽しく過ごせました。
大学祭は自分たちの代で開催することは叶わなかったが、1、2年次の大学祭はとても楽しかった。

健康栄養学科

友達と距離が縮まるともよい機会になったのでよかった
大学祭。いろんな人と出会う。
大学祭は実質2年までしか実地で開催できていないので、台風やコロナウイルスの影響で仕方ない部分はありますが、屋台など楽しみにしていたので開催できず残念でした。
新入生歓迎会これから大学4年間で関わる人と交流の場になった。仲良くなれたため。
楽しかったです。
学内行事は交流の場となるので良いことだと思います。
学生生活のなかで学祭は大きな行事だと思うからです。
花火大会では、友達と見ることができて思い出が増えたから
大学祭は様々なイベントが行われて、大変満足しました。
イベントを通して、人と関わることができて楽しかった！
企画がスムーズで楽しかったです。ありがとうございました。3,4年も文化祭参加したかったです。

スポーツ健康学科

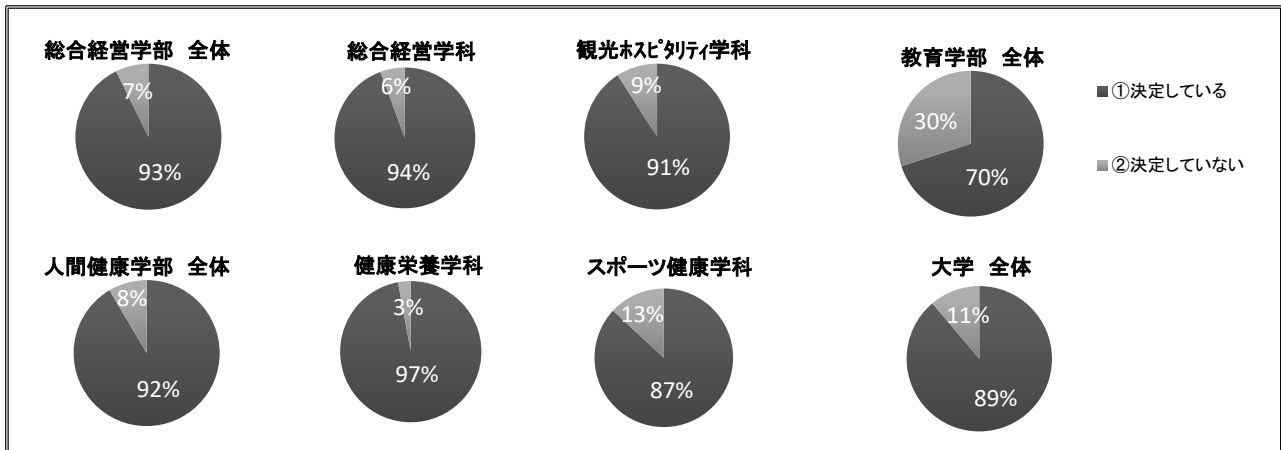
とても盛り上がった
出店など全体的に楽しくできた為
学祭楽しかった。
ほぼ中止となった
大学祭等楽しかった
大会等と重なりなかなか参加出来なかった。
大会等であまりいけなかったが、学生が盛り上げる場を開いてくれた。
大学祭にはスタッフとしても関わったので、大変さを理解していますし、楽しく活動が行われていて良かったと感じています。他学部や他学年と交流できるいい機会だと思っています。
学祭大学らしい自由度があつて楽しめた。
今年の学祭をオンラインで行ってお金を使うより、商品券や図書券などを配布する方が学生は嬉しい
3年次は台風で文化祭が中止になり4年次は新型コロナウイルスの影響で様々な行事が中止になったことで学生らしいことがあまりできなかったのが心残り。
台風やコロナの影響で3,4年のときに学校祭が行えていない。
学生が考え楽しめるよう工夫してあった。
文化祭楽しかった
新入生歓迎会 楽しかった。
3,4年と出来なかったから
大学祭はいろんな屋台があったり、イベントも豊富で楽しかった。
大学祭は、3年次は台風で中止。4年次はコロナで中止と、とても残念でした。やりたかった。
学祭のゲストが豪華でよかった。

学校教育学科

2年間、学祭が中止になってしまって悲しかった。
2回BBQ大会と花火大会に参加しました。校友会の方々がお肉を焼いてくださって私たちは食べるだけでしたが本当に楽しくて今でも写真を見返してしまうくらい良い思い出になりました。
学祭が中止等になったのにお金は返ってこない。
大学祭が2年連続で規模が縮小して行われたのは仕方がないが残念だった。
台風、コロナと2年間開催されていないため。
自分が運営側にいることが多く、反省点も色々あったが楽しかったため。
学部を超えた交流が全くできていない。全学部あわせた活動がやりたかった。
大学祭では様々な部活のステージがあり、楽しめた。
大学祭は有名人の方やビンゴ大会など楽しいイベントがたくさんあり、参加していい思い出になりました。
コロナの影響
ありがとうございました
大学祭がなくて残念だった。オンラインで開かれたが、物足りなかった。
大学祭は楽しかったです。
大学生らしさがあつた
2回しか参加できなかった。

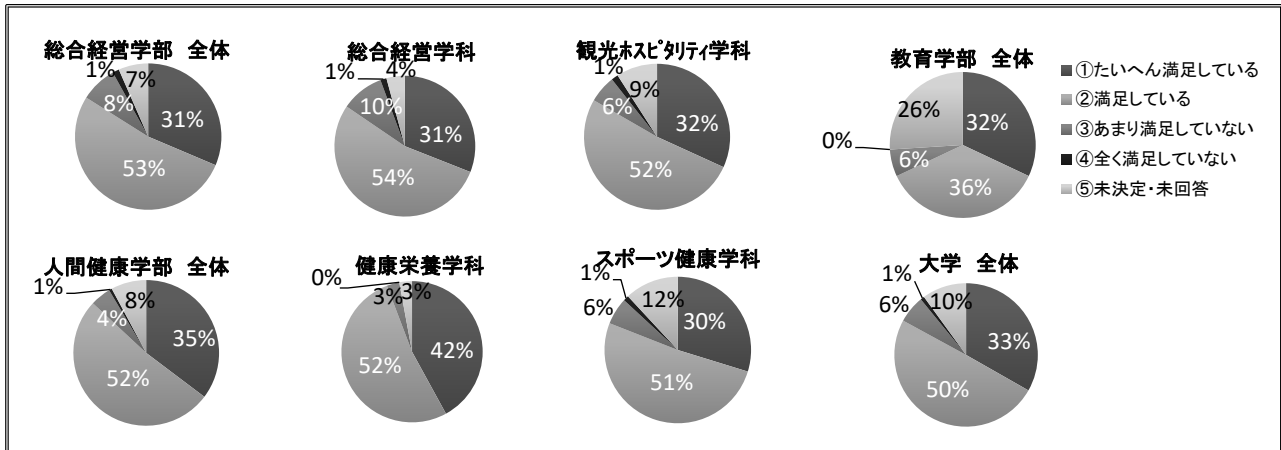
質問26. 進路決定状況

	総合経営学部							合計	人間健康学部							合計	教育学部			合計	総計		合計
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康			学校教育				男	女	計				
	男	女	計	男	女	計	男		女	計	男	女	計	男	女						計		
①決定している	57	10	67	42	18	60	127	12	55	67	47	26	73	140	21	14	35	35	179	123	302		
②決定していない	3	1	4	4	2	6	10	0	2	2	6	5	11	13	12	3	15	15	25	13	38		



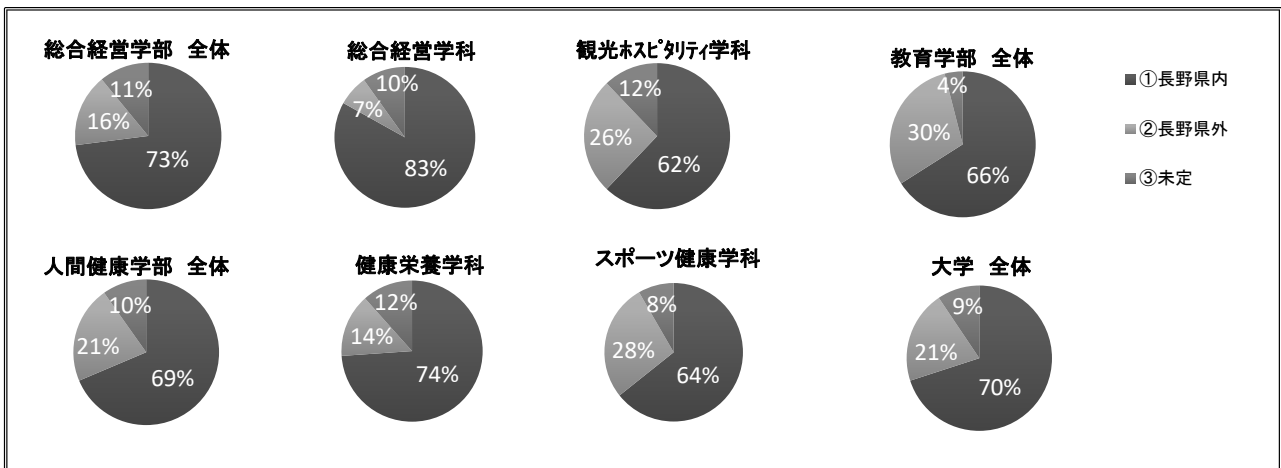
質問27. 卒業後の進路満足度

	総合経営学部							合計	人間健康学部							合計	教育学部			合計	総計		合計
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康			学校教育				男	女	計				
	男	女	計	男	女	計	男		女	計	男	女	計	男	女						計		
①たいへん満足している	19	3	22	15	6	21	43	6	23	29	16	9	25	54	7	9	16	16	63	50	113		
②満足している	33	5	38	23	11	34	72	6	30	36	27	16	43	79	13	5	18	18	102	67	169		
③あまり満足していない	5	2	7	3	1	4	11	0	2	2	4	1	5	7	3	0	3	3	15	6	21		
④全く満足していない	1	0	1	1	0	1	2	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	3	0	3		
⑤未決定・未回答	2	1	3	4	2	6	9	0	2	2	5	5	10	12	10	3	13	13	21	13	34		



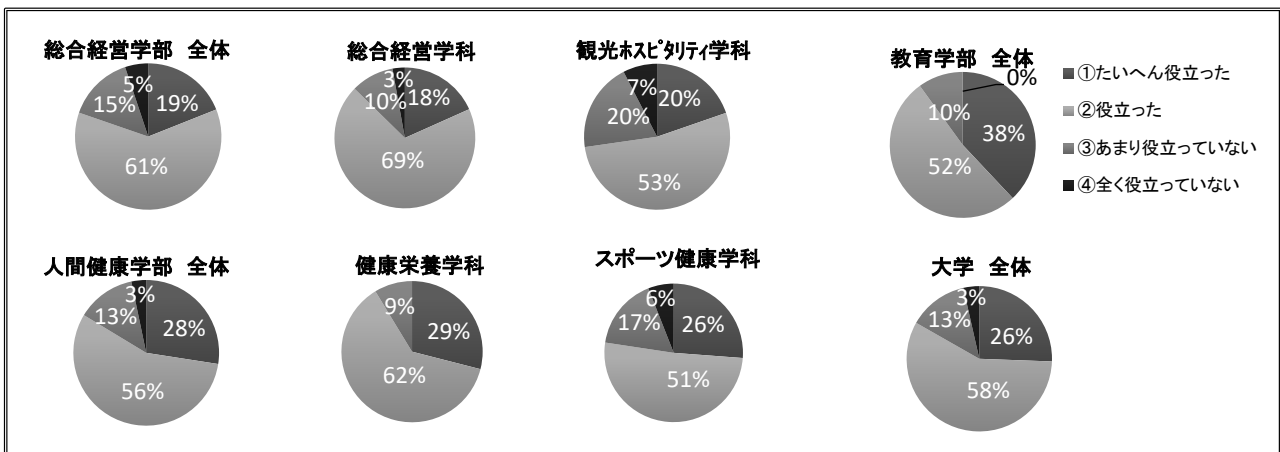
質問28. 卒業後の居住予定地

	総合経営学部							合計	人間健康学部							合計	教育学部			合計	総計		合計
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康			学校教育				男	女	計				
	男	女	計	男	女	計	男		女	計	男	女	計	男	女						計		
①長野県内	49	10	59	29	12	41	100	9	42	51	35	19	54	105	22	11	33	33	144	94	238		
②長野県外	4	1	5	12	5	17	22	0	10	10	12	11	23	33	9	6	15	15	37	33	70		
③未定	7	0	7	5	3	8	15	3	5	8	6	1	7	15	2	0	2	2	23	9	32		



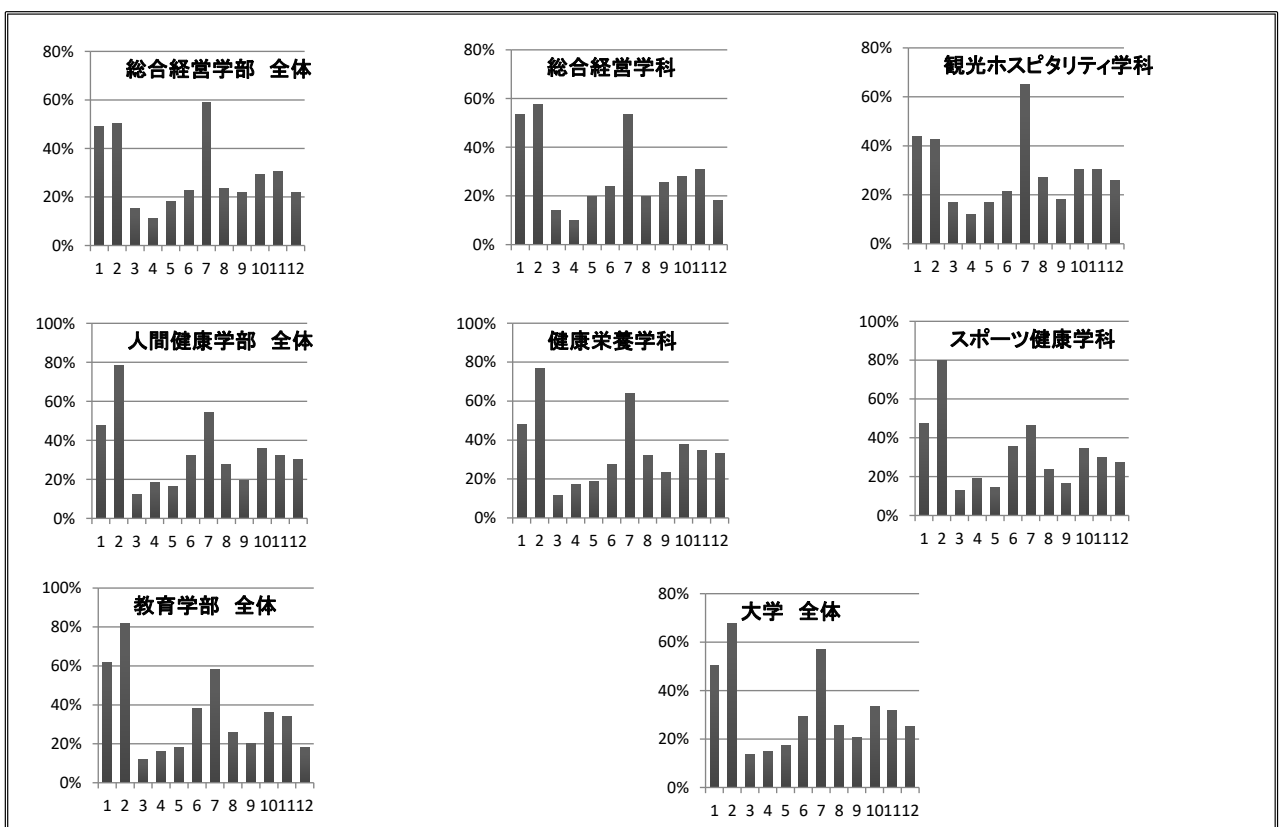
質問29. 大学での学びは進路選択の役に立ちましたか

	総合経営学部						人間健康学部						教育学部						総計		
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康			学校教育			合計	合計				
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計			男	女		
①たいへん役立った	12	1	13	10	3	13	26	5	15	20	11	11	22	42	11	8	19	19	49	38	87
②役立った	41	8	49	24	11	35	84	5	38	43	25	18	43	86	18	8	26	26	113	83	196
③あまり役立っていない	5	2	7	7	6	13	20	2	4	6	12	2	14	20	4	1	5	5	30	15	45
④全く役立っていない	2	0	2	5	0	5	7	0	0	0	5	0	5	5	0	0	0	0	12	0	12



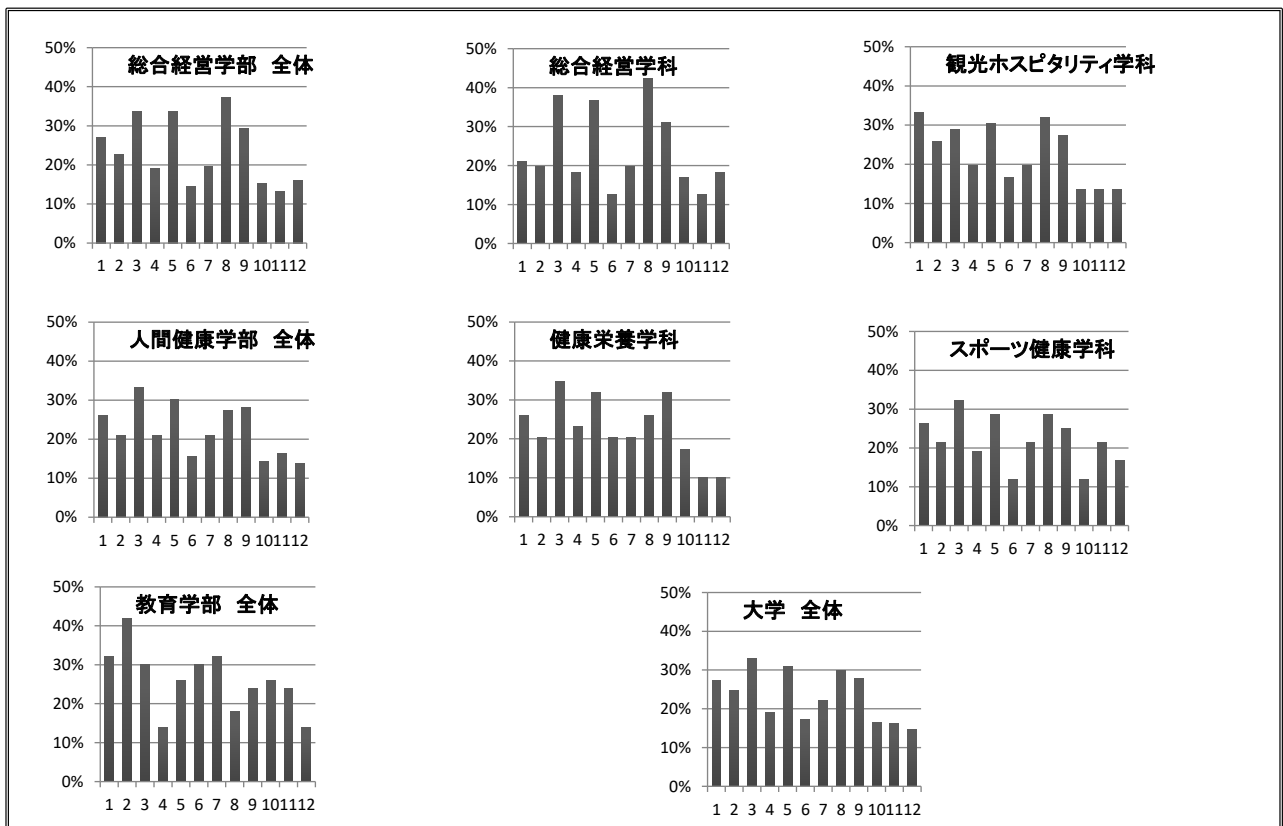
質問30. 大学で身についたと思う能力や姿勢・態度

	総合経営学部						人間健康学部						教育学部						総計		
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康			学校教育			合計	合計				
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計			男	女		
①【知識・技能】一般的な教養	35	3	38	22	7	29	67	7	26	33	23	17	40	73	21	10	31	31	108	63	171
②【知識・技能】専門的知識	32	9	41	16	12	28	69	9	44	53	38	29	67	120	24	17	41	41	119	111	230
③【知識・技能】語学力	7	3	10	8	3	11	21	0	8	8	6	5	11	19	3	3	6	6	24	22	46
④【知識・技能】論理的文書力	5	2	7	5	3	8	15	1	11	12	7	9	16	28	5	3	8	8	23	28	51
⑤【知識・技能】IT活用能力	12	2	14	9	2	11	25	2	11	13	5	7	12	25	3	6	9	9	31	28	59
⑥【思考・表現】思考力	15	2	17	12	2	14	31	1	18	19	18	12	30	49	10	9	19	19	56	43	99
⑦【思考・表現】コミュニケーション能力	31	7	38	28	15	43	81	5	39	44	28	11	39	83	19	10	29	29	111	82	193
⑧【思考・表現】プレゼンテーション能力	12	2	14	10	8	18	32	1	21	22	13	7	20	42	10	3	13	13	46	41	87
⑨【思考・表現】リーダーシップ	17	1	18	9	3	12	30	2	14	16	8	6	14	30	7	3	10	10	43	27	70
⑩【態度・意欲】向上心・前向きさ	17	3	20	13	7	20	40	3	23	26	18	11	29	55	10	8	18	18	61	52	113
⑪【態度・意欲】持続力・継続力	19	3	22	12	8	20	42	5	19	24	16	9	25	49	11	6	17	17	63	45	108
⑫【態度・意欲】主体性	11	2	13	11	6	17	30	5	18	23	13	10	23	46	5	4	9	9	45	40	85



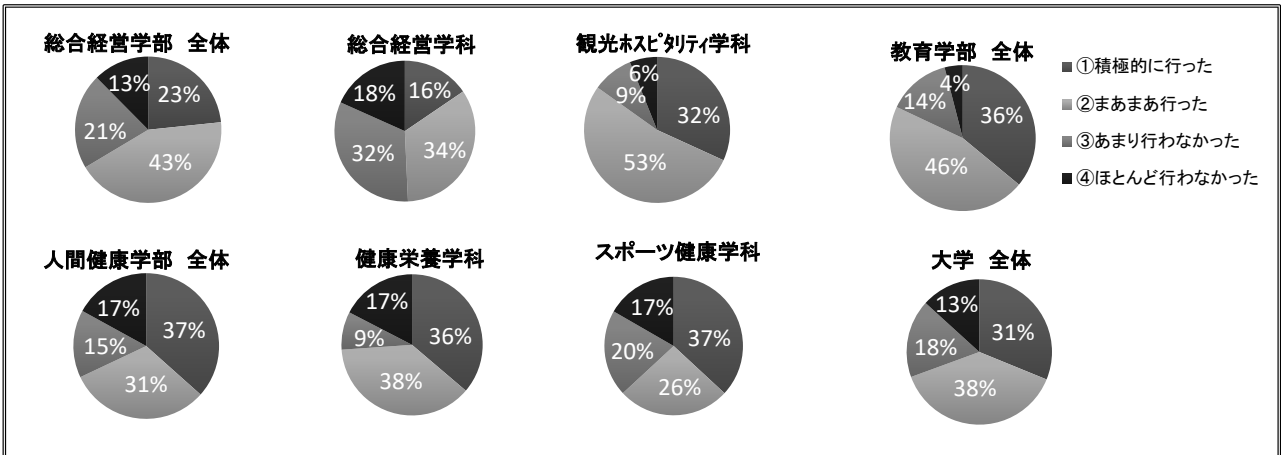
質問31. もっと身につけたかったと思う能力や姿勢・態度

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計	教育学部			合計	総計		合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康				学校教育				男	女	
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計		男	女	計				
①【知識・技能】一般的な教養	13	2	15	15	7	22	37	3	15	18	16	6	22	40	9	7	16	16	56	37	93
②【知識・技能】専門的知識	11	3	14	15	2	17	31	4	10	14	15	3	18	32	4	17	21	21	49	35	84
③【知識・技能】語学力	22	5	27	17	2	19	46	5	19	24	20	7	27	51	12	3	15	15	76	36	112
④【知識・技能】論理的文書力	10	3	13	9	4	13	26	3	13	16	11	5	16	32	4	3	7	7	37	28	65
⑤【知識・技能】IT活用能力	20	6	26	13	7	20	46	4	18	22	14	10	24	46	7	6	13	13	58	47	105
⑥【思考・表現】思考力	6	3	9	9	2	11	20	6	8	14	5	5	10	24	6	9	15	15	32	27	59
⑦【思考・表現】コミュニケーション能力	12	2	14	11	2	13	27	3	11	14	12	6	18	32	6	10	16	16	44	31	75
⑧【思考・表現】プレゼンテーション能力	23	7	30	15	6	21	51	5	13	18	13	11	24	42	6	3	9	9	62	40	102
⑨【思考・表現】リーダーシップ	20	2	22	15	3	18	40	4	18	22	10	11	21	43	9	3	12	12	58	37	95
⑩【態度・意欲】向上心・前向きさ	11	1	12	9	0	9	21	4	8	12	8	2	10	22	5	8	13	13	37	19	56
⑪【態度・意欲】持続力・継続力	8	1	9	7	2	9	18	3	4	7	12	6	18	25	6	6	12	12	36	19	55
⑫【態度・意欲】主体性	10	3	13	8	1	9	22	2	5	7	7	7	14	21	3	4	7	7	30	20	50



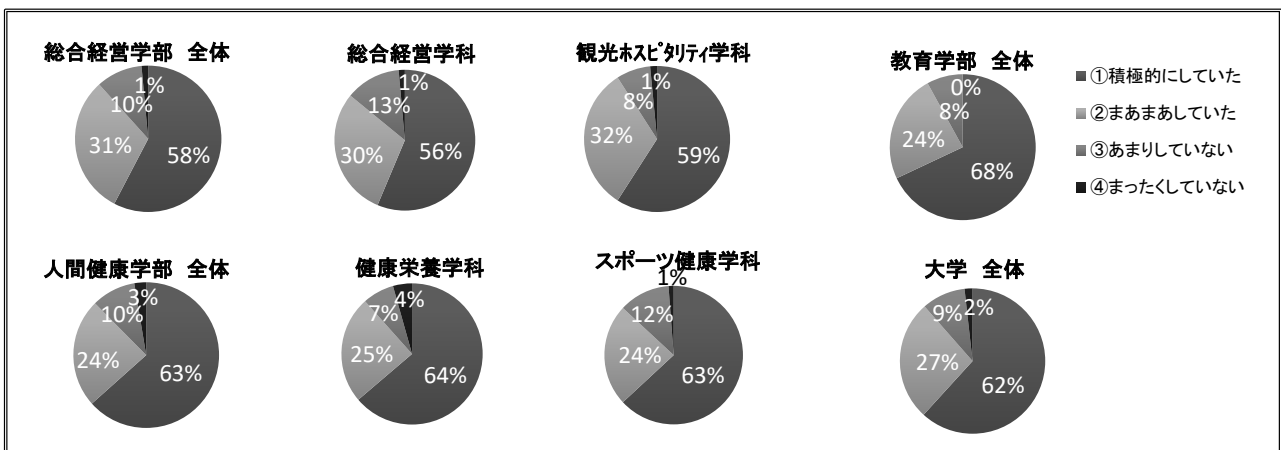
質問32. 地域と関わった活動(アウトキャンパスや実習、ボランティア、ゼミなど)をどの程度経験しましたか

	総合経営学部						人間健康学部						教育学部			総計		合計			
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康			学校教育			合計	男		女		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計						
①積極的にに行った	7	4	11	14	7	21	32	4	21	25	13	18	31	56	12	6	18	18	50	56	106
②まあまあ行った	24	0	24	23	12	35	59	6	20	26	12	10	22	48	15	8	23	23	80	50	130
③あまり行かなかった	18	5	23	5	1	6	29	0	6	6	14	3	17	23	5	2	7	7	42	17	59
④ほとんど行かなかった	11	2	13	4	0	4	17	2	10	12	14	0	14	26	1	1	2	2	32	13	45



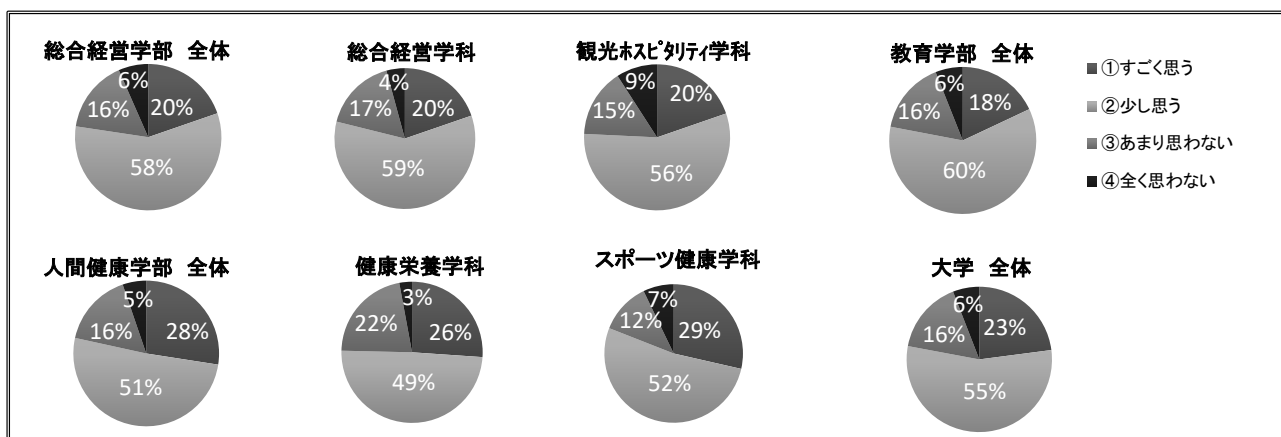
質問33. 在学中のアルバイト実施状況

	総合経営学部						人間健康学部						教育学部			総計		合計			
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康			学校教育			合計	男		女		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計						
①積極的にしていた	36	4	40	31	8	39	79	5	39	44	41	12	53	97	19	15	34	34	132	78	210
②まあまあしていた	18	3	21	13	8	21	42	5	12	17	10	10	20	37	10	2	12	12	56	35	91
③あまりしていない	5	4	9	2	3	5	14	2	3	5	2	8	10	15	4	0	4	4	15	18	33
④まったくしていない	1	0	1	0	1	1	2	0	3	3	0	1	1	4	0	0	0	0	1	5	6



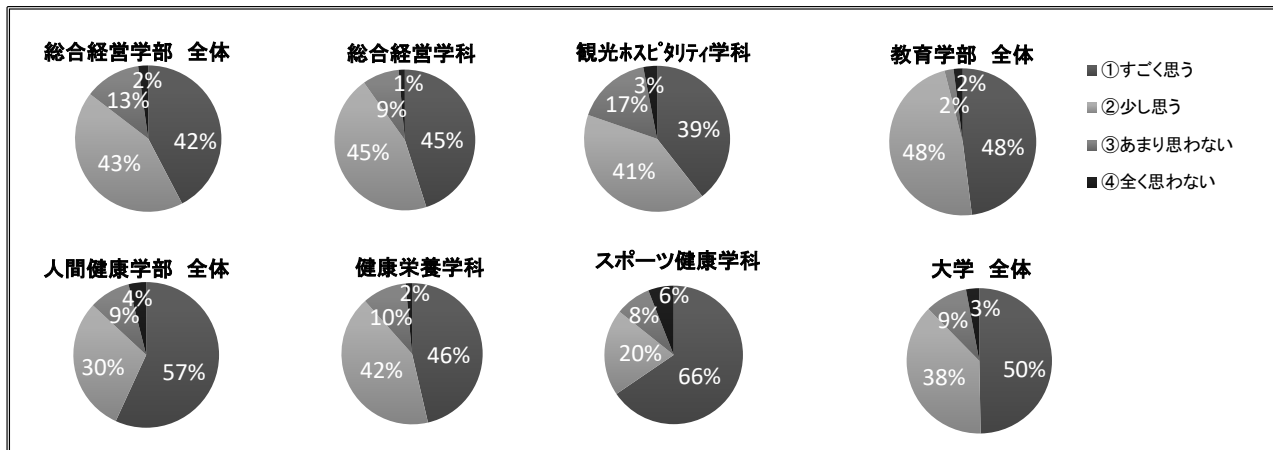
質問34. あなたは「松本大学」を誇りに思えますか。

	総合経営学部						人間健康学部						教育学部			総計		合計			
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康			学校教育			合計	男		女		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計						
①すごく思う	12	2	14	9	4	13	27	5	13	18	11	13	24	42	4	5	9	9	41	37	78
②少し思う	36	6	42	25	12	37	79	4	30	34	28	16	44	78	20	10	30	30	113	74	187
③あまり思わない	9	3	12	7	3	10	22	3	12	15	8	2	10	25	8	0	8	8	35	20	55
④全く思わない	3	0	3	5	1	6	9	0	2	2	6	0	6	8	2	1	3	3	16	4	20



質問35. あなたは、所属学部学科に入学してよかったと思いますか

	総合経営学部						人間健康学部						教育学部			総計					
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康			学校教育			男	女	合計			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計						
①すごく思う	27	5	32	18	8	26	58	6	26	32	29	26	55	87	15	9	24	24	95	74	169
②少し思う	26	6	32	18	9	27	59	5	24	29	12	5	17	46	17	7	24	24	78	51	129
③あまり思わない	6	0	6	8	3	11	17	1	6	7	7	0	7	14	1	0	1	1	23	9	32
④全く思わない	1	0	1	2	0	2	3	0	1	1	5	0	5	6	0	1	1	1	8	2	10



質問36. 松本大学をより良くするための、あなたの意見・提案を聞かせてください。

(例えば、こんな授業があったらいい、こんな制度があったらいい、こんなところを変えてほしい等、なんでも結構です。)

総合経営学科

他の大学の学生には聞いたが、単位が足りないときに報告が来ないのは稀であると思った。単位によってはわかりにくい部分も多くあると思うので、せめて卒業くらいわかりやすくできるようにしてほしい。

テストの評価基準のばらつきが授業ごとに違いすぎると感じた、もう少し統一してほしい。

ネットワークの改善を図り、快適にしてほしい、学生同士の交流の機会を増やしてほしい、トイレの乾燥機の使用できるようにしてほしい

駐車場が安くなればもっといいと思います。

大学前の松本大学の大きな看板は視界が悪く事故する可能性もありそうなので撤去、移動した方がいいと思います。

学内のwi-fiの電波の強度をもう少し強くしてもらいたかった。

経営学科なので、もっと経営に関する科目があっても良いと思う。私語やスマホをいじっている学生への対応を厳しくしたほうが良いのではないのでしょうか

食堂の価格をもう少し安くしてください。私自身もお金に困った時、利用しづらかった。

今のままで満足だと思います

企業起業論

コミュニケーションが養える講義があったら良いと思いました

もう取入れられていると思うのですが、インターンシップ制度を授業の中でもやれる機会があればいいとおもった。

学費の適切な運用、減額措置。地元就職に有利であるという点を強調するため、企業との合同開発や職場体験を積極的に増進する。

上高地線の電車の時間が、大学の講義時間と上手く合うようにしてほしいです。

観光ホスピタリティ学科

学生課や教務課の職員の態度がやや傲慢。あと駐車料金高い。

大学の対応の仕方を考えるべき

先輩、後輩で関わり合える授業や行事が多いといいと思います

駐車場でお金を取るのはどうかと思う。

授業に関して、もっと観光に特化した授業を増やしてほしいです。大学の駐車場に関して、有料ではなく無料にしてほしいです。大学のWi-Fiの電波が悪かったので改善してほしいです。

これからどのような世情かわかりませんが、アウトキャンパススタディは継続してほしいです。アウトキャンパススタディから多くのことを学んだので後輩にも経験してほしいです。

学生起業支援場所やに囚われないスキルの伸ばし方、生かし方プログラミングの授業

駐車場でお金を取るシステムは本当にいらなかった。

観光ホスピタリティ学科といいつつ、観光についての勉強をあまり深くできなかったと思う。授業の取り方が悪かったのかもしれないですが…。

駐車場の料金は無料にしてほしい

冒頭でも記述したが、学生同士の交流の機会がもっと沢山あったら良いと思う。学生内の雰囲気としても、特定のグループや人としか関わらないというものが多く、講義等でもっと沢山のひとと話したり意見交換をしたいと思う。

その他は満足している。様々な経験ができた松本大学での学生生活は充実したものだ。4年間お世話になりました。ありがとうございました。

松本大学は専門的な講義も多いため地域の方も気軽に講義を受けられるといいと感じた。

健康栄養学科

特にありません。コロナウイルスが流行した際、一斉休校やオンライン授業の切り替えなど対応が早くとてもありがたかったです。ありがとうございました。

人気な講義をみんながとれるように何か配慮して頂けたらいいと思います。

総合経営学部の授業も受けられたら嬉しかったです。

駐車場を無料化してほしいです。

レポート作成について書式や体裁を大学で統一してほしい。知っていて当たり前と減点される場合があるが、教員によって求めるものが違うので統一するか、その都度指示をするようにしてほしい。

今のままで私は十分だと思います。

もう少し課外活動の幅が広いと良かった。

特にありません。必要に感じた物はほとんどあります。

資格を役に立てると思って就職を目指していたところを話した際に否定的な言葉を言われたりなど、パワハラに近いような言葉などが多いと感じたので、そこをもっとなおした方がいいと感じました。

なんでもお金がかかりすぎているので最初から学費内に抑えて欲しい。先生たち同士のいざこざに生徒が巻き込まれないようにしてほしい。

スポーツ健康学科

タバコに関する取り締まりをもう少し強化して欲しいです。

駐車料金を安くしてほしい。

オンラインをもっと使えるようにして授業等をして欲しい。これからも続くと思うので有効にオンラインを使うべき

1限の始まる時間が遅くてとても助かった。教職の授業を5限メインに配置するのではなく、色々な時間に配置して欲しい。

先生を見直せば良いと思います

健康運動指導士の資格を取得出来るのはいい点であるが資格を取得してもそれを生かした就職先が少ないため社会に出てからは活用しにくい資格であると思う。自分自身健康運動指導士の資格を生かした就職先を考えていたが実現しなかった。もっと健康運動指導士の資格を生かした就職先があれば資格取得に対するモチベーションや合格率も上がると思う。

専門的知識が学べる授業はとても大事になってくると思うので、続けてもらいたいと思います。体育実技は教職が優先になりますが、やはりもっと多くの人数が履修することが出来ればより良いなと感じました。

教職は専門教養の中で指導士資格に必要な講義はほぼ必要ないので、卒業要件単位に到達させるのが難しかった。他学部の授業をもう少し多く取れるようにしてもらえたらと思う。

コロナ禍においての学費免除、返済

体育館を自由に使えるようにしてほしい。

もっといろんな学部の人と関わられるような機会があれば交流ができて楽しいと思う。

駐車場無料

テニスコートを増やしたらいい

6号館にパソコンが増えたりコピー機が増えるといいと思いました。

リモート講義にするなら全てそうして欲しい。先生がうんぬんかんぬんではなくて、そこは先生が考慮しリモートにすべきであったと思う。

借りられるパソコンの台数がもう少しあったら自宅での学習も捗るのかなと思いました。

総合大学としてさらに学部学科を増やすと良いと思う。

1,2年生で行うカリキュラムを4年生の時に使うのであれば、3年生くらいで学んでもいいのかなと思った。特に、卒論で使う統計学などは、2年生の時にやっても絶対忘れると思う。3年生になれば授業数も減ってくると思うので3年次に取り入れても良いのかと感じた。

県内から通うにはとてもよい学校だと思った

専門的なことだけでなく、SPIのような教養も必要だと思った

特にありません。満足でした

学校教育学科

大学の周りに、生活用品などを買うことのできる施設がないため、少し不便だった。生協に生活用品などをより多く置いていただくとか、食材を買うことができるようなものがあたら良い。

先生になりたいという理由で教育学部に入りました。大学にいらっしゃる先生方は現場にいた先生方が多くいらっしゃったので現場のことや実践的な知識も身につけることができました。

学部内や他学部との交流する場をたくさん設けるべきだと思う。人数が少ない大学だからこそ、沢山の人の関わることを出来る場を作ることでより充実した学校生活を送ることが出来ると思う

設備投資を有効に。

今後敷地面積を増やして、設備が増えていって大学の規模が大きくなっていけばいいなと思っています。

教員を目指す学生には特別支援学校向けの講座も開いた方がよい。公欠制度があった方がよい。

座学だけではなく、討論や活動など積極的に取り入れてほしいです。他学年との交流もあるといいと思います。特に教育学部です。

特にコロナ禍で明らかだったが、授業料に見合った講義、サービスをしてほしい

教育学部が他学部と関わる活動

教育学部はもう少し他学部と交流が持てるといい

4年間、非常に有意義な日々を過ごすことができました。

学年や学部との関わりを増やす

ペナルティ制度があればいいと思う。今の2年生が入学してから、授業中でも廊下で馬鹿騒ぎしたり、イヤホンをせず廊下でゲームをしていたりと非常に不愉快である。もちろん2年生だけでなく全学年に言えることである。他の授業、学生に迷惑をかけていることを自覚できないような人が多すぎるため、ペナルティ制度の導入を要求する。

教職支援センターの先生方以外の先生方も、学生にとって近い存在になれば、さまざまな悩みを相談できる良き理解者が増えていこうなと感じました。

2. 松商短期大学部卒業予定者アンケート

質問1. あなたの所属についてご記入ください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
卒業予定者数	19	76	95	33	67	100	195
回収数	16	70	86	31	67	98	184
回収率	84.2%	92.1%	90.5%	93.9%	100.0%	98.0%	94.4%

質問2. 授業全般を通して、良かったこと、悪かったこと、感じたことを何でも自由に書いてください。

商学科

わかりにくい先生もいた
アロマなどなかなか受けられない内容の勉強ができて楽しかったです。
簿記を学べたり、WordやExcelなどのパソコン関係の知識をつけたりでき、よかった。
資格を結構取れた
どの授業もとても楽しかった
資格取得にむけ充実した講義を受けることができた。
少人数の授業は先生が教室内をまわってくれるのでその時に質問がしやすかったし、お喋りする人がいなかったから先生が注意しないで授業が進んでいたの
やりやすかったです。逆に大人数は質問もしにくいお喋りする人がちらほらいて授業が中断されてしまうということがありました。
授業で資格取得の勉強ができたこと
心理学系は学べてよかったと心の底から思いました。
授業中、話している人が多くて集中できない時がありました。
たくさんの資格を取れたこと。社会人になってから活用できるような知識を得られたこと。
体育の授業は体動かせてよかったです。
全体的に授業を受けるにあつての環境はとても良かったです。
簿記とか、商業系の基本的な授業はやってよかったと思いました。
知らなかったことやこれから役に立つことが沢山学べて良かった。
全ての授業が自分の力になったと感じていますが、特にマーケティングや企業論などはとても勉強になりました。自分が利用する立場でしか考えたことがなかつたことを、作る立場になって考えることができたので、また違った視点でいろんなお店や商品を利用することができるようになったと思います。
エクセルの資格を取得できたことがよかった。
分からないところを先生に聞けるところが良かった。
資格取得の講義は全体的に教員の教えがしっかりしており、取得することができました。
エクセルなどパソコンの資格を取れることは知っていたのですが投資など将来のことにも役立つ授業があったので凄く勉強になりました。
先生方もいい人ばかりで入学してよかったなと感じています。
様々な授業を受けることで、自分に合うか、合わないかなども確認できたのでとても有意義だった。
9つのフィールドで様々なことが学ぶことができて良かったです。
飯塚先生の授業が色々工夫してあって、とても楽しかったです。レポート作成も楽しく出来ました。
自分の深めたい知識を学ぶことが出来たので良かった。
授業によって生徒による私語が多かった時があつて困った。
どの授業もわかりやすい授業で、どれも役に立つ内容だったと思いました。
今後の生活に役立つような授業がほとんどで楽しかった。
ファッションビジネスがとてためになつた
簿記やWord、Excel、秘書、FP等の検定を受けて沢山の資格を取る事ができて良かったです。高校では学ばなかった、心理学やマーケティングを学べて良い経験になりました。
どの講義も分かりやすく良かったです。
様々な先生の個性溢れる授業が面白かったです。先生によってスライドが違うので面白味が出て良かったです
どの授業も自分の知識の糧になるものだったので、良かった。
オンラインでの授業で気になったのは、ネット環境によって音声や画像が変わってしまう事でした。同じだけ授業料を払っているのにそこで差が生まれるのは良くないので、きちんとフォローアップしてほしいです。
英語の科目が現代的でスマホを使ってできるので、とても気軽に英語を学べる事ができた
楽しく聞くことができたがオンラインでのことでは悲しかったです。
ちょうどいい課題量でやりやすかったです。うるさい人が多いので自由席はあまり好きじゃなかったです。
自分が全く知識になつた社会福祉についての社会問題のことについて知り、真摯に向き合うことができた。
一部、受講態度の良くない生徒がいたことがたまに気になりました。
知識が豊富になりました。知らないことをたくさん知れました。
椅子の幅が狭いほんとおしりが痛くなります。椅子と机の幅も狭いです。席の出入りが不便。
私は金融機関に就職するので、金融の基礎や金融論は受講して良かったなと思います。マーケティングは勉強して損は無と思うので学んで良かったです。
様々な分野のことを学べてすごく勉強になりました。
情報系の授業が多々も分かりやすかつたので良かったです。
自分の気になるものを好きなだけ学べる点がとてもよかつた。
様々な知識が身につく成長に繋がつた。
今年はコロナで急遽授業の体制が変わりましたが、早急な対処のおかげで快適に授業を受けることができすごく良かったし、ありがたかったです。
サービスマーケティングは受講してよかったなと思いました
どの授業も充実していたと感じます。悪かったことは特にないです。
専門的な分野から教養科目など幅広くまなぶことができたので良かったと思つた。
様々な資格を取得でき、良かったです。
簿記関係の授業は受講してよかったなと思います。高校時代では習えないようなことや簿記の知識をより深く知ることが出来たと思います。
色んな知識を学びました。
中国語の授業は日本語と英語しかしらなかつたのでとても新鮮で楽しかったです。簿記の授業やパソコンの授業は資格取得もできて自分の力を伸ばすことができたのでとても良い授業だったなと思っています。
マーケティング、ホスピタリティ論は、自分自身の考え方や、これからの考え方を見直すいい機会になりました。
専門的なことが沢山学べて良かった。
色々学べてよかった。
医療事務系の講義は資格も取得することが出来たおかげで就職先の幅が広がつた。
先生たちの熱意が伝わってくる授業が多かつた。
途中からオンラインになってしまつたがやりやすい授業だった
どの授業も積極的に受けれたと思います。どの授業も特に悪い点などはありませんでした。
対面の授業の出欠がGlexaとかだとちょつとめんどうかつたです。わたしはその場で書いて出す方が忘れなくていいかなと思つた。
コロナの影響が出てすぐオンライン授業になりとても助かりました。
パソコン系は自分のスキル向上になつたのでよかった。
マーケティング、企業論関係の講義が今後のためになるなと思つた。悪かつたところは特になし。
席が決まっていたのが良かった。
地域社会学の講義は地域の方と関わったり、自分たちで企画をすることでコミュニケーション能力をつけることができたり、テストがパワーポイントを使ったのでパソコンの技術もつけることができ良かったです。
パソコンの授業はパソコン操作を覚えるために勉強になりました。
パソコンなど社会に出てから役立つことを学ぶことができた
2年になってからはオンラインが主だったが、オンラインでも分かりやすい内容でよかった。

経営情報学科

メモを取る授業がほとんどだったため、なるべく早く書くクセがついたと思います。何も言われなくてもメモを取るようになったのはよかったです。講義もわかりやすくリモートになってからもやりづらさなどもなくよかったです。

図書館司書取ろうとしてたけど、他にも取りたい授業が色々あって、最初は図書館司書優先しただけど結局諦めたから、もっと早く諦めて取りたかった授業取ればよかったと思った。カウンセリング心理学は知識も技術も身につけてよかった。少人数だったことも良い。取ってよかったなと思った。履修変更の期間はもうちょっと長く欲しかった。コロナのせいかもしれないけど、授業受けてからやっぱ別のやつ取るっていう選択肢が欲しかった。様々な分野の勉強ができることが短大の特徴で、それを求めて入学してるから、もうちょっとどうにかしてほしい。

グループワークの取り組みやパソコンを使った授業が非常に勉強になった。資格などこれからのためになるものも取得できた。

コロナ禍の中で、学校で課題をやらなければ行けない時は少し学校へ行くのが怖かった。

集中できない時があり寝たりしてしまった。授業外の勉強を頑張った。

いくつかの資格をとることができたので、簿記など受けてよかった。

簿記とか経済とか秘書検定の授業は、就職して働く上で必要な知識を養うことが出来たと思う。

先生によっては、わからないところもしっかり教えてくれたので、とてもよかったです。

学校に入らないとやらないことばかりで、自分でやるとなったら出来なかったと思います。

簿記の課題がわからないときに直接教えてくださったこと。

どの授業も将来の役に立つ良い授業でした。個人的にはマーケティングと心理学の授業が受講して良かったと思っています。

語学の講義が面白かったです。

資格取得や一般教養など様々な分野で学べて、自分の成長を感じられて良かったです。

地域社会活動、地域のことをいろいろ学べてとても勉強になりました。

出欠席が先生によって違うため非常にやりづらい

マーケティングがよかった

先生とコミュニケーションが取りやすかった。

色々な知識が得られた事が良かったんですけどコロナのせいで家でやる事が多かった二年生は色々大変でした。でもコロナでも極力学校でやりたいと思ったです。大きいスクリーンで見やすい授業ができたことなど、授業環境がすごくよかったです。

ExcelやWordを使った授業は、私は高校で商業科だった為、ほとんど知っていることしか授業でやらなかった。

全ての授業がとても勉強になり、良かったと感じています。悪かったことはありません。

interactive English の授業がきっかけで、もっと海外に目を向けたいと思えるようになり、交換留学を実現できた。幅広い分野を学べることで、自分と向き合うことができ、新しい自分が発見できた。

ノートを取る授業や実技系の授業は意欲的に取り組めたが、先生が淡々と進めていく授業がいくつかあり、授業に身が入らなかった。

オンライン講義がやりにくかったです

想像通りの講義の雰囲気があり充実している内容だったと感じました。悪かった点としてグレクサを資料だったり提出物だったりを扱う場所になっているのにも関わらずサーバーの弱さから講義でも時間を取られたり、急ぎ足な教授の講義だと追いつかないことがあったりと入学当初は苦労しました。オンライン講義の内容は教授それぞれに個人差はありましたがスムーズで実際の対面講義と遜色ない内容だったと感じました。

訳がわからない授業が数個ありました。もう少し優しい言葉で授業してくれれば私もみんなも分かりやすかったかなと思います。

途中で休憩を入れて下さったり、メモをする場所に印を付けてくださる先生がいました。私たちの目線に立った授業がとても良かったです。

分かりやすく工夫してある授業が多かった。

茶道は実践できて楽しかった。マーケティングは勉強になった。

分かりやすい授業だった。

Interactive Englishでは英語の学習だけでなく実際に会話をすることでコミュニケーション能力を上げることができとても良かったです。

レジュメと黒板やパソコンを使った授業をして下さった先生の授業はとても分かりやすく良かった。

コロナで大変だったのですがオンラインでテスト等が受けられるよう対応してくれたところがすごく良かったです。

全ての授業がわかりやすかった

全く使えなかったPCが使えるようになったこと

パソコンを使った実技系の授業など、技能を身に付けられる授業が多かった点がよかったです。

リモートの講義が良かった。

学業以外にも人としてもさまざまなことを学ぶことができた2年間だったと思います。

色々なフィールドがあり、自分の気になるものが何個も出来てよかったです。マーケティング・経営の基礎・法学概論・現代企業論は、最初は聞きなれない言葉も出てきましたが、分かりやすい事例で授業を進めて頂いたおかげで、毎回の授業がとても楽しく、自分の身になりました。授業を通して、この2年間でメモ力がついてよかったです。1年生の前期に、必修の授業が集中していて、もっと1年生の4学期分の中で散りばめて授業を配置していくのもありだと思います。2年生の3学期が授業の選択するのが薄く、コロナ化だったので取りたかった授業が定員に達しなくて受けることが出来ず、とても残念でした。

好きな授業が受けられる。資格が取れる。面白い授業が多い。勉強が苦手でも単位が取れる。先生がフレンドリー。

金融系の授業は今後の生活にも役に立つのでとてもよかったと思う。

良かったことは先生が丁寧に教えてくれたりしてくれて、とても分かりやすかったです！悪い点は、少し教え方が雑な人もいた。

為になる授業が多くてよかった

ゲームプログラミングで作る楽しさがあったこと

マーケティングの授業などはとても楽しく受けることができました。悪かった事は図書館司書の授業も楽しかったが、他の授業と被ってしまい受けたい授業が受けられないという事があったので少し残念でした

スライドをGlexalにアップしてくれるのは助かった。

秘書検定社会にでて大事だと思いました。

図書館司書の講義がためになった

プライダルの授業が楽しかったです

作業系の科目で、近くの人と協力して考えてねーみたいに自由にやらせてくれる感じが、やっぱ大学だなと感じた。

経営の授業やマーケティングの授業は面白かった

自分のためになることがとても多かった

マーケティングについて先生の評価の付け方が、同じ内容なのに低く付けられている人がいて、苦手でした。

1年生の時に受けていた商業簿記と工業簿記がとても良かったです。私は会計事務所志望だったので、全経1級総合が取得できて強みになりました。

2年のほとんどはオンライン授業でしたが、なかなか集中して受けることができなかったです。

マーケティングの授業はレポートが大変だったが、自分で必要な情報を判断する力がついたと思うのでとても良かったです。

マーケティングの授業は非常に面白い授業でした、今後の生活や仕事をやる上で必要な情報が手に入れることができた。

学生に関してですが、授業中に後ろでアイスを食べていたのが気になりました。

初めて学ぶことが多くて新鮮な授業が多かった

現代企業論が楽しかったです。

先生方によって講義のスピードもやり方も違いますが、藤波先生の黒板に順序立てて説明文を書くのではなく、あちこちに必要な単語を書いていくスタイルの講義はノートを取り辛かったです。

自分に向いていると思った授業をどんどん履修したおかげで、とても楽しめた。

体に関する授業で健康について学べて良かった。

個人的に興味があった情報処理に関する授業が充実していたため、受講していて楽しかったです。また、その授業の先生との相性も良く、授業もわかりやすかったです。

良くも悪くも投げやりな部分が多いと感じた

パソコン関係の授業で、難易度別に細かくクラスが区切られていたので、早すぎるや遅すぎるということがなかったのも、充実した講義になりました。

色々な資格を取ることができてよかったです。

様々なジャンルの科目が学べて色々な知識を身につけられた。

良かったことは資格が取れた。悪かったことはとりたいって思う授業があまりなかったことです。

分からない所などは先生に気軽に聞けたので良かった

エクセルやワード、マナーについてなど、これから社会人になるために必要な力を身に付けることが出来て良かった。

短大で受講した授業の内容が、普段生活している中で出てくることがあって自分の知識として入りやすかった。

教科書や参考書を買わされたのに、ほとんどプリントで使われなかったこと。

ノートを書くスピードも生徒に合わせて時間を取ってくれたり、うっかり出し忘れてしまった課題も再提出欄を作ってもらえたりと手厚くサポートしてもらえてとてもよかったです。

2つの学科が全員同じ教室に集まって講義をする時、きつきつになるのは仕方ないと思いますが、模試など狭くてやりづらく、隣との距離が近くて精神的に苦しかったです。

自分の好きな言語を受講できたことがよかったです。

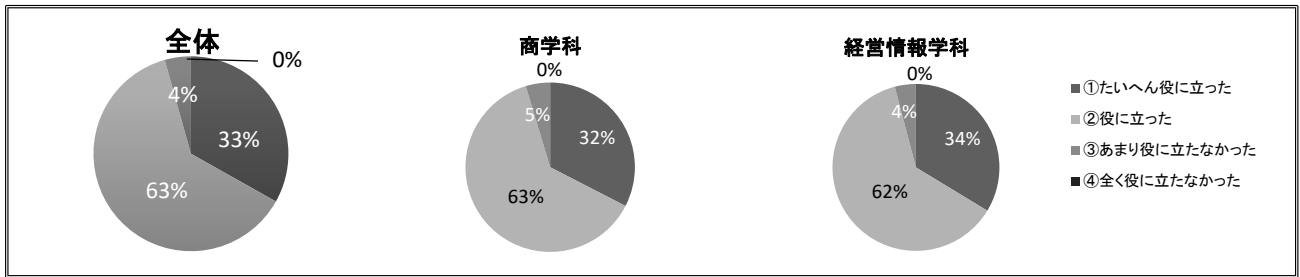
よかったです！

途中からオンライン授業になり、最初はうまく進まず、講義の受け方も難しかったのですが、先生方が色々工夫してくださった事が良かったです。

専門的に学ぶことが出来た。様々な事を広く知識として身につけた。

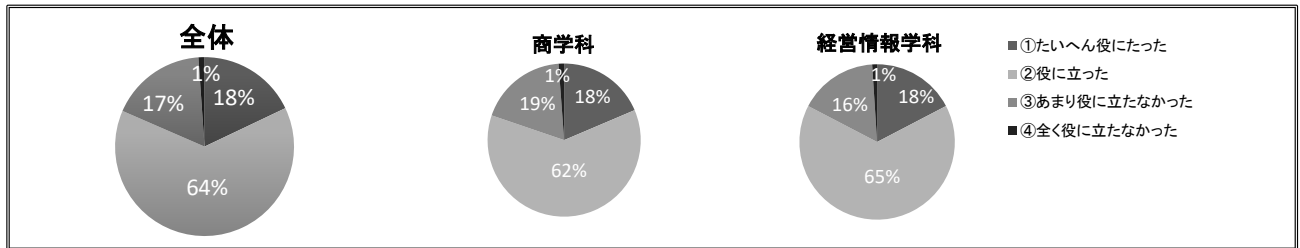
質問3. 選択必修科目での出席レポートは、学生としてのあなたの能力を伸ばす役に立ちましたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん役に立った	8	20	28	11	22	33	61
②役に立った	8	46	54	17	44	61	115
③あまり役に立たなかった	0	4	4	3	1	4	8
④全く役に立たなかった	0	0	0	0	0	0	0



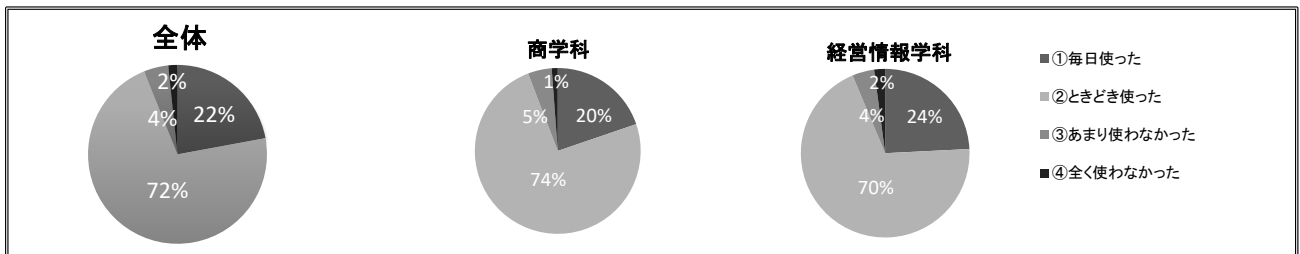
質問4. 1年次の「専門ゼミナールⅠ」(第2学期)の中で行われた初年次教育(ノートの取り方、テキストの読み方、要約の仕方、図書館の利用、レポートの作成など)の内容は、その後の授業で役に立ちましたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん役にたった	4	12	16	7	10	17	33
②役に立った	9	44	53	18	46	64	117
③あまり役に立たなかった	3	13	16	6	10	16	32
④全く役に立たなかった	0	1	1	0	1	1	2



質問5. 所有しているノートパソコンは学習に利用しましたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①毎日使った	2	15	17	4	19	23	40
②ときどき使った	11	53	64	24	42	66	130
③あまり使わなかった	2	2	4	2	2	4	8
④全く使わなかった	1	0	1	1	1	2	3



【理由等】

商学科

①の理由

パソコンでの課題が多かったから
オンラインになったため
1年生の頃はレポートを作成するのにしか使いませんでした。2年生になってオンライン授業になり授業はパソコンで受けていたのでほぼ毎日使っていました。
オンライン授業や課題の作成に使用したため。
レポート書いたり、teamsで講義受けたりしたから。
レポート作成や調べものに活用しました。
レポートを作成する時やパソコンの検定の練習、パソコンの講義の課題、オンラインで授業を受ける時に使いました。
レポートの作成と今はオンライン講義のためほぼ毎日使用していました
レポートの作成のため
レポート作成や調べ物するのに必要だったから。
オンライン授業や、レポートを作成したりなど、家にいる時はほとんど利用していたと思うからです。調べ物もパソコンを使って調べていました。
講義や課題作成
レポートなど。
レポートなどに使ったため。
ExcelやWord、レポート作成、オンライン授業に利用した。
ExcelやWordなどの検定の練習で使ったり、レポートの作成などでよく使いました。

②の理由

レポート提出で使用した
オンライン授業のため
1年次はレポートなどでもたくさん利用し、2年次では講義も少なくあまり使わなかったから
WordやExcelで作成する課題が多かったから
ワードやエクセル、パワポなどをよく使ったから。
ゼミのレポートとか課題とかで使った
オンラインの授業で使用しました。
レポート用にたまに使った
あまり使う機会がなかった
レポート作成、事前学習のため。
毎日ではないけど、レポートなどの課題をつくらしたり、卒論を書く時にたくさん利用しました。
レポートを作成した。
毎日必要ではなかったから使わなかった。
レポートの作成や、調べ物に活用したから。
レポート等の作成ではノートパソコンを使いましたが、分からないことを調べるということに関してはスマホの方を利用しました。
レポート作成や卒論作成に利用した。
サクサク動くので使いやすかった。
レポートや調べ物をする時にパソコンを使った。
レポートや卒論を書くときに使ったから。
課題とかやるために
レポートを作るため。オンライン授業を受けるため。
オンラインになってからは使う頻度が多くなったと思います。対面授業だけで、ゼミなどでは使用しなかったため毎日ではありませんでした。
レポート制作時に調べ物をしたりした
毎日では使用しなかったが、レポートの作成でよく利用した。学校に持って行くのがとても大変なので授業で使うことはなかった。
スマホでできないレポート作成などは全てパソコンでやりました。タイピングも速くなったしパソコンに慣れることができました。
レポートを作るときだけパソコンを使いました。
課題やレポートの時に使いました。
毎日ではないがかなりの頻度で使用しました。レポートを書いたり、調べ物をしたりする時等に使ってました。Word・Excelが入っているのはこのパソコンだけだったので利用頻度が高かったです。
レポートに使用したため。
レポートの作成などがあったから。
安いパソコンだからスペックが低くて学校のパソコン使った方が楽
レポートとをつくるため
レポート作成やExcel練習などに役立った。
レポート作成やオンライン授業で使用した
必要があるから。
課題で使った
授業の課題やレポート作成には利用した。タイピングも早くなった気がします。
ゼミのレポートや講義のレポートをまとめるときに使った。
レポートなどの課題提出
特にWordなどのレポート作成時にはよく使いました。学校でやっても終わらなかった課題を家でやったりしていました。
エクセルやワードの練習
毎日使うようなことがなかったから
レポートの提出があったので使った。
課題や検定試験対策として使ったが、学校のパソコンと使うこともあったので毎日では使いませんでした。
課題の時に使いました。
レポートの作成や、Excel、Wordの練習に利用した。
家で課題をやったりするため
他の大学と比べてレポートは少ない気がするが、多少はレポートを書くことがあったため。

③の理由

自宅のパソコンを主に使っていたから。
基本的に学校で使うことが多くあまり自分用では使わなかったから
パソコンがボロかったから

④の理由

デスクトップパソコンを持っていたため。

経営情報学科

①の理由

オンライン授業やレポートの作成、なにかを調べるのに使いました。

便利なのでレポートを作る際はよく使っていました。

レポート作成やteamsを使うため

オンライン授業のため。

レポートを家で作成するときや、殆どがオンラインだったため使った。

レポートを作成するのは大変でしたが、復習になって本当に頭に残りやすいとかとてもいいなといった感じでした。

パソコンの方が使いやすいツールがあったり、スマホじゃ画面が小さいと思ったため

課題のために使った。

PCの方が操作が慣れているから使いました。

マーケティングのレポート作成をする際に、1番初年次教育は役立ちました。ノートパソコンに関しては、家でレポート作成をするときに主使いました。その他にも、学校に持参し使用しました。また、メソフィアやGlexaを毎日確認していたので、それにも使用しました。

ノートパソコンは買わなくて良かったのに、友達に言われてましたが、個人的にはとても役に立ちました。休みの日でもレポートの課題をやるのに助かりました。

課題にも使ったけど、オンライン授業になって使った

オンライン授業になったから

レポート作成から就活の情報収集まで、スマートフォンだけでなくパソコンの活躍する機会があったため。

学校から出されたレポートをusbメモリに保存したおかげで、レポートの提出を早めることができたから。

学校の時間だけでは終わられない課題や、データで提出する課題もあったため。

オンライン授業のために買ったので毎日使っていました。

リモート授業になってからパソコンは毎日使いました。また、卒論を書くのもパソコンを使ったので入学時に購入しといて良かったと思いました。

講義や課題で使っていたから。

②の理由

レポートを書く時などに使いました。

課題提出やゼミ関係の提出物、teamsで使う機会があったため。毎日ではないが、三日に一回くらい使った。

課題などに使った。

毎日レポート課題がないから

レポートを書くため

レポート作成とかで必要だったから

限りなく、知識と能力は増えた

パソコンを使つての課題提出以外使い所がなかったため

WordやExcelの講義をとっていたから。

ノートパソコンを利用して作成するレポートがあったため。

課題作成やレポートなどで使った。

レポート

レポートやオンライン授業では必要だったから。

主にレポート作成と検定前の練習と卒論に使った。

レポートや卒業論文の作成でWordを利用したりネットで調べたりしたため。

レポートなどで使いました

レポート時に使った

現在は全てオンラインで受講しているのほぼ毎日使用していますが、前はレポートを書く時くらいしか使いませんでした。レポートはパソコンでやった方が楽ですが他のことは携帯からでも出来るのでそんなに頻繁には使いませんでした。

Excelとかパワーポイントの練習につかっていた。

パワーボや、卒論

レポートを書く以外使い道がなかったから。

オンライン授業が多かったから。

レポートを調べながら作る時に使用した。

ノートパソコンではありませんが、レポート作成や調べ物等に利用しました。

課題があったから。

レポートなどを書くときに使いました。

課題、ゲームなどに使用した。

レポートの課題などで使った。

ゼミがパソコン使うやつだから

レポートを作る時などに使っていた

レポートを作成するため

使うことが少なかった。筆記の方が多かった

レポート作成などで利用した。

オンライン授業、授業レポート、卒業制作などで使った。

レポートやメール作成などで使った。

出席レポートを書いたため。

レポートを作るときは毎回所有しているノートパソコンを使ったから。

私のパソコンは処理が遅いので学校のパソコンを主に使っていた。

課題のレポート作成やオンライン授業で活用した。

wordやExcelなどを使うから

デスクトップやスマホなどのほうがアクセスが速く便利であった。また顔を出したり、声を出すことがなかったのでマイクなどは要らないと思った

レポートなどで使った。

必要な時に使ったりしてあとは私用や趣味で使っていました。

レポート作成時など。

課題がある時にしか使っていませんでした。

生協で勧められて買ったパソコンは高いのに使いづらかった。だったら電気屋で普通に気に入ったものを買えばよかった。

レポート作成や報道局での資料作り。

パソコンで取り組む事が多かったから。

卒業論文やレポートの作成などに使用した。

レポートをパソコンで行ったため。

アンケート・レポート作成、就活の際にも家にパソコンがなかったので申し込み等に使った。

レポート作成などで使いました。

そこまで、パソコンはつかわなかった。

レポートや課題作成に使った。

③の理由

安いやつを買ったので動きが遅くてイライラするから使いたくなかった。1年生の時は特にレポートが多かったから使わざるを得なかった。

自業自得ですが使えなかった時期があったのであまり使えませんでした

たいていの学習は学校に設置されているパソコンが、スマートフォンを用いれば要件が済んだのであまりノートパソコンは使用しませんでした。

学校でやる事が多かったから

レポートを出すときしか使わなかった

授業後のレポート作成など

授業以外ではあまり使いませんでした。

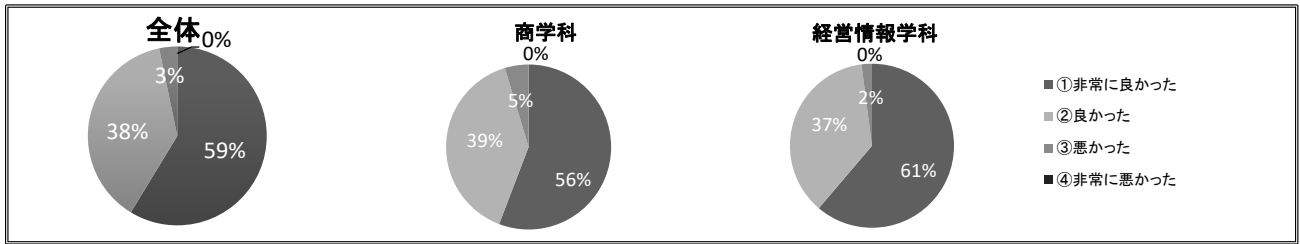
④の理由

自分はデスクトップPCを所持していることもあり家ではノートPCを使わないことが多いです。それを考慮しても学内でノートPCを利用する機会というのは全くと言っていいほど無かったです。

オンライン授業がある時や、レポートの提出の必要がある場合に使いました

質問7. ゼミナール担当者はあなたの学生生活の良きアドバイザーでしたか？

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①非常に良かった	9	39	48	20	40	60	108
②良かった	7	27	34	11	25	36	70
③悪かった	0	4	4	0	2	2	6
④非常に悪かった	0	0	0	0	0	0	0



【理由等】

商学科

①の理由

とても親身になってくれた、雑談などもした
 就活にむけて、大切な話が多くできた。
 就活のときも積極的に声かけしてくれ助かりました。
 進路の事でお話できた。
 就職活動や普段の生活において色々アドバイスを貰えたから。
 時間ある時に話して楽しかったです。お身体には気をつけて過ごしてください。社会人頑張ります。
 色々な相談にのってもらい、良いアドバイスを分かりやすくしてくれたため。
 とても優しくて、相談しやすい先生だったので、分からないことや不安なことを話したい時に話すことができました。特に就職活動のときは沢山相談に乗って頂きとてもお世話になりました。
 親身になって相談にのってくれた。
 就活の質問や疑問を全て解決してくれた。
 特に就活の支援の面で、本当に助けられたから。
 最近では卒業するにあたっての不安など、親身になって聞いてくださいました。
 就活の時にとっても心強かった。
 とてもフレンドリーで話しやすかった。
 就職活動でも相談することができて、学校に行った時に研究室に行って話をしたり、とても楽しい時間を過ごすことが出来たからです。
 就職活動の際に的確なアドバイスをいただいた
 親身になって話を聞いてくれたので嬉しかった
 学生生活でわからない事や困った事をよく相談にのってもらいました。おかげで、楽しい学生生活を送る事ができたと思っています。
 色々な面で手厚くサポートしてくれた
 一人一人の就職活動を把握していて、いつもアドバイスや自分にあうような企業を教えてくださいましてとてもお世話になりました。
 何度か気にかけてくれたからです。
 相談をするとても親身になってアドバイスをしてくださいました。とても話しやすかったです。
 就職活動の際に文章の添削などを見てもらえたからです。
 就職活動の際にとっても親身になってくれたから。添削だけでなく、オンライン面接など慣れないことについても指導してくれたのでとても良かったです。
 親身になって話を聞いてくれた。
 本当に親身になって下さり、細かいことなど分からないこと全てに対応して下さったからです。また、心配をしすぎるのでもなく、ある程度本人に任せつつ、対応をするなど、適度な距離を保ってくださいだったのでとても頼りやすく、安心して生活することができました。
 なんでも話を聞いてくれた
 親身に相談を聞いてくれた
 常に相談に乗ってくれたり、沢山助けていただいたので。
 就活時などたくさん相談をすることができた
 わからないことがいっぱい有って、先生がよく説明してくれる。
 いつも話を聞いてくれたり、気にかけてくれた
 就活の手助け(履歴書、エントリーシートの添削)などをしてもらってとても助かったし、会社の選択も一緒に考えてくれてありがたかったです。
 就職活動の際、親身になってアドバイスを下さったり、添削なども丁寧にして下さったからです。
 進路のことから学生生活のことまで、相談に乗ってもらったから。
 就活の際にとっても親身になって考えてくれた。たくさん気にしてくれた
 ゼミの提出のことについても分からないことがあったら教えてくれたし、就職活動についても相談にのっていただきました。
 成績関係でも進路関係でも心配したり、こちらの不安をなくしたりサポートしてくれた。
 就活の色々サポートしてくれた。
 最後まで親身になって相談に乗っていただけましたから
 卒論や、就職の相談に対応していただきました。
 就職活動で分からないことや不安なことをたくさん相談させてもらいとてもお世話になりました。
 とても話しやすく接してくれました。
 履歴書の添削や、就活中の相談などのしてもらえたため。

②の理由

いろんな面から話を聞いてくれた
 あまり話す機会がなかった
 就活中に様々なアドバイスや意見をくださり、とても助かったから。
 優しい
 自分の悩みをしっかりと聞き、アドバイスをくれた
 就職活動でたくさんアドバイスを頂いたため。
 叱ってくれたりいろいろ教えてくれたから
 時々電話をかけてアドバイスを貰っていたからです。
 就活中に気にかけてくれた。
 自分が分からないことに相談に応じてくれたり、授業でいろいろなことを教えてくれたから。
 就活の面で心配してくれたりしました。
 親身に就職相談や丁寧に授業を教えてくださいました。

相談した際、親身になって聞いてくれた。
進路で迷った時にアドバイスをしてくれて参考になった。
しっかりと指示とかしてくれたから
履歴書等の添削をしてくれたり、進路の相談を親身に聞いてくれたから。
いろんなこととか細かいことまで考えて助けてくれたことがたくさんありました。
授業とか分からないところを聞きやすかった
学生に親身になって接してくれる先生だったので、就活中も相談しやすかったです。
本音で語ってくれる人でした。
就活のことについて相談にのってくださったり、面接練習もしてくださったから。
就活や卒論の相談など、直接でもメールでも丁寧にアドバイスを下さって助かりました。
進路指導の相談を聞いてくれて、アドバイスも頂いたから。
親しみやすかった。
いろんなアドバイスをしてくれたから
就活の相談にのってくれました。
就職に際して良いアドバイスを提示してくれた。
いつも、的確にアドバイスをくれたから

③の理由

あなたはしっかりしてるから、つい後回しになってしまうと言われました。先生も大変だとは思いますが、ちゃんとやっている人がそんな扱いを受けてしまうような指導は良くないと思います。
そんなに学生生活でしゃべることはなかった。

経営情報学科

①の理由

進路を決めるときや履歴書などを作る時も相談に乗っていただいたからです。
就職のことなどでたくさん相談にのっていただいた。
分からなかったり、心配なことを親切に教えて貰ったりした。
いつも寄り添って考えてくれた。素敵な先生
たくさんアドバイスをいただいたから。
就職活動ではエントリーシートの書き方からお礼状の書き方までとても丁寧に教えもらえて、学校生活以外の悩みも聞いてくれたのでとても支えになりました
聞いたことはちゃんと返してくれる
就活以外でも、色々教わった。
結果内定も決まり、助けられたから。
就活のときに親身に相談に乗ってくれたので心強かったです。
すぐに相談できる環境で、すごくありがたかったです。
就活や普段のことなどよく相談に乗ってくれたため
とても相談しやすくて、たくさん話を聞いてもらえた。
先生には色々迷惑を掛けてしまっていて大変心苦しいです
進路のアドバイスをもらった。
就活のことや、その他のことでもたくさん話を聞いてくれたりしてくれた。
先生が支えてくれなかったら無職になっていたと確信するくらい本当に助けていただきました。感謝しかありません。
留学のことに親身になって考えてくれ、相談に乗ってくれた。
様々な内容の話も親身に聞いてくださったり、アドバイスを頂いたりしたため。
進路相談などでアドバイスをくれました
とても生徒のために就活に対して、相談などをしっかりしてくれて良かったです。
就活時にコロナ過というのもあり気分が落ち込んでいた時に励ましを貰えた。自分は相当自由に好き放題やらせてもらってそれでも許容していただいたことに感謝しています。
いつも気にかけてくれていたのですごく助かりました。
就活でアドバイスをしてくれた。しっかり聴いてくれた。
就活の時など、いろいろ相談できてよかった。
就職活動の時に面接の練習や履歴書の添削を引き受けていただき的確なアドバイスをしてもらえたからです。
親身になっていろいろと相談に乗っていただいたため。
親切に教えてくれました。
一年の初め頃休みがちだった時にどうにかしようかと話を聞いてくれたりして熱心だなと思ったから。
就職に関してや学校生活のことを話して研究室に行き、話したりしました。色々な面でサポートをして下さり、ほんとにありがとうございました。
優しい。
就活とかにも優しく、授業も丁寧に素晴らしい人だった。
就活の時お世話になりました
親身になって聞いてくれた
相談にのってくれた。
わからないことを聞くときと求めている以上の答えをくれたり、内定貰った報告をしたときも「おめでとーう！！早く報告書出さな！！」みたいなうるさい感じじゃなくて、ここで最後にもう一回だけしっかりと家族とかと話し合ってみると、冷静なアドバイスをくれた。
就職活動でお世話になったので
親身になって相談に乗ってくれたので話しやすかったです。
コロナで大学が基本出入り禁止の時に荷物をロッカーに取りに行きましたが、その時に親切にして頂きました。それ以外にも卒業研究のアドバイスなど相談に乗っていただけとても助かりました！
主に就活関連の相談がゼミ担当の先生に気軽にできたことが良かったです。
とても親身になって接してくれて困ったことがあればすぐ相談できた
ゼミナールでのアドバイスだけでなく、日頃から、自分の就職や将来について、真剣に考えてくれていたから。
親身になって話を聞いてくださり、話しやすかったから。考え方が似ていたから。
相談したら親身になって聞いてくれたので嬉しかった。
就活についても親身に相談やアドバイスをくれたり、企業についても教えてくれて本当にありがたかったです。就活以外にも普段からたくさん話をしてくださって、相談も聞いてもらったり、私の学生生活になくはならない存在でした。
普段の生活から就活のサポートまで全ての面を見てもらいました。特に就活はゼミナールの先生がいなければあんなに早く内定を貰えてなかったと思います。
自分一人ではないという心の支えにもなりました。
分からないことなどなんでも相談出来たから
学校生活だけでなく日常生活などの話をしやすいのもあり、気軽に相談できるからよかった。
親身になって話を聞いてくださったり、アドバイスを沢山頂きました。就職活動も、一緒に探してくださり、面接練習など大変お世話になりました。
様々な場面でお世話になった。

②の理由

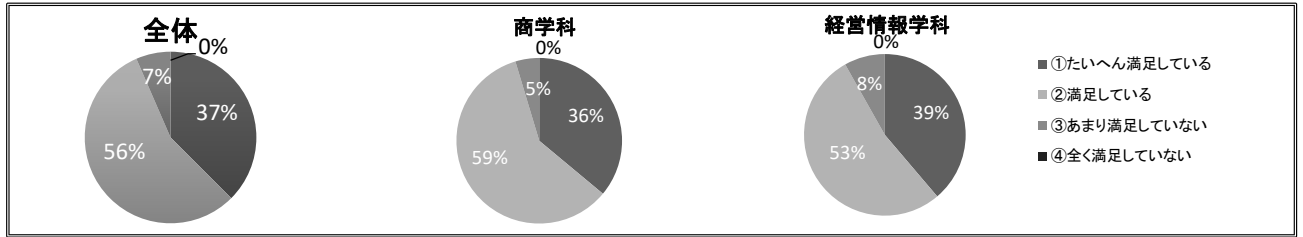
悩みを親身になって聞いてくれました。また的確なアドバイスもとてもありがたかったです。
優しいから良かった。体育祭に対する姿勢が自分の考えと合っていて良かった。学生側の意見を尊重してくれるのはいいけど、卒論とか就活とか、もう少しアドバイス欲しかった。
非常に発表の機会がありテーマに沿って二年間を通して向き合っていたきました。
相談事などをよく聞いてもらったから。
就活支援をしっかりサポートしてくれた。
いろんな事の面倒を見てもらった
就活の文章の添削はとても助かりました。
優しく指導してくださいました。
経済の興味深い話や社会にでてからの知識などを教えていただきました。
就活で気にかけてくれたから。
私が就職のことや卒業研究などで困っていた時に様々なアドバイスをもらいました。
そんなに良くなかった
色々相談できたから。
どういことをやりたいのかをめいかにすることができた
話しやすかった。
最後まで就活に熱心に取り組んでくれたので
就活時にお世話になった
親身になって就活をサポートしてくださいました。
話すと物知りで自分の知らないことを教えてくれる。
特に困ったことがなかった
就活などではアドバイスを貰ったが距離があった気がする
就職のときなど相談にのってもらった。
家庭内の悩みや何気ない雑談、講義の課題のサポートまで手伝ってくださいました。
進路について助言してくれた。
やはり周りのゼミと比べてしまいますが、他より厳しく課題も多い中で入ったゼミに後悔したときもありましたがお世話になった部分も多くあるので「良かった」とさせていただきました。今思えばゼミ長としてもっと貢献してくればよかったなと思っています。
就職や卒研について、丁寧に細かく指導していただきました。
就活や卒論を提出するときにも、サポートしていただいたり、アドバイスをたくさん頂きました。
色々なことを教えてくれて自分のためになったと思うから
特に就職活動では沢山相談に乗ってくれてとても安心した。
他のゼミより早め早めに動いてくれて、面接で話せるような活動を勧めてくれた。

③の理由

主観や偏見が凄かった。話を聞く分にはこういう人もいるのかって思えて面白かったけど、自分の嫌いなものや好きなものを絶対と思っていて押し付けがましかった。

質問8. 大学には、学生課・教務課・キャリアセンター・情報センター・総務課などがあり、事務職員はそれぞれのところで皆さんのサポートをさせていただきます。皆さんにとって事務職員の対応はどうか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	5	26	31	11	27	38	69
②満足している	11	40	51	16	36	52	103
③あまり満足していない	0	4	4	4	4	8	12
④全く満足していない	0	0	0	0	0	0	0



【理由等】

商学科

①の理由

特に学生課、教務課の職員の方にお世話になりました。いつも親身に話を聞いてくださったり明るく接して下さって嬉しかったです。教務課は冷たい印象です。優しく対応してくれた

就活、資格取得など様々な場面でお世話になった。

就活時に欲しい資料はすぐにメールで送っていただけたので助かりました。また内々定をいただいたときも凄く喜んでいただけて嬉しかったです。親切に対応してくださいました。

分からないことを聞いた時に丁寧に教えて貰えたり、学生生活や就職活動をしっかりサポートして貰えたから。

丁寧に対応してくれた。

資格取得や、就職活動、さらには学校生活で分からないことや不安なこと、その全てを学校の職員の方々にサポートして頂きました。入学してから不安なことも教務課や学生課に行って解決したり、就職活動の時にはキャリアセンターの先生方にたくさん助けて頂いたのでも満足しているし、感謝しています。

丁寧に教えてくれた。

就活などでキャリアセンターの皆さんがしっかり対応してくれていました。

あまりお話しする機会はなかったのですが、それでも非常に丁寧に接して下さったと感じています。

丁寧な対応だった。

学生課では、話しかけやすい雰囲気の中で話さることができた。キャリアセンターでは、就職のアドバイスをもらって、役に立ちました。

キャリアセンターでは、就職活動をする中で相談することが出来ました。

試験前試験後に電話をしてくださったり、1社受かったけど...県内で働きたいんですけど告げた時色々な企業を教えてくださいと有難かったです。

優しく対応してくれた

キャリアセンターは特にお世話になりました。相談事にすぐに対応してもらって嬉しかったです。

就活で参考にしたい資料などをメールで送ってくださった点がとても良かったと思います。

とても良かったです

就活の時本当にキャリアセンターの人がいなかったら内定をもらえなかったと思いました。本当に親身になって協力して下さりました。教務課？の女の職員の方はいつもニコニコで壁がなくて話しやすかったです。

就活のときに面接練習や相談に乗ってくれた。

本当に親身になって支えて下さり、一人一人へのサポートが手厚勝ったからです。

沢山お世話になったので。

情報センターは特に、困ったことがあるとすぐに改善して下さったので助かりました。

就活の際は本当に色々な面でサポートしていただいたため。

電話で相談したいことや聞きたいことがあった時すごく丁寧に対応してくださいました。

こちらも最後までわかりやすい解説をして頂いたの

就職活動の時に履歴書の添削や面接練習をしてもらいました。

②の理由

わからないことなど、丁寧に対応していただきました。ですが、入りづらい気がしたので気軽にに行けるようになると良いと思います。

就活のことでいろいろ気にかけてくれたから

キャリアセンターの方々はとても優しい方々でしたが学生課や教務課の人達はちょっと怖いです。

就職や進学に関して丁寧に説明してくれたから。

キャリアセンターによく電話をしたが、質問にも日程決めにも丁寧に迅速に答えて下さって、就活もスムーズに進んだから。助かりました。

丁寧にまた、就活のための情報をたくさん仕入れてくれました。

もう少し早めに連絡が欲しいと思う時があった。

就活のときに支えになった。

ちゃんと聞いてくれる

困った時に手助けをしてもらい助かりました

何度か質問を電話でしたときに、親身になって返答してくれたから。

連絡がギリギリの時があり、少し困りました。

人による

就職についてなど自分から行けばしっかりと相談に乗ってくれるから。

たまにこの課、又はセンターに相談すれば良いのか分からなくなることがありました。

とても話しやすかったです。

ほとんどの事務職員の皆様はよかったです。学生課の一部の職員の方が不親切なことが多かったので、あまり頼りたくないと思うことが多々ありました。

他の事務職員の方はとてもよくしてくださったと思います。

券売機に忘れ物をしたら直ぐに連絡をくださったり、就活のサポートもしてくださったりなど、あらゆる面で大学の職員の方々に助けて貰っていたと改めて思います。

それぞれ専門のサポートをして頂いたのよかったです

助けてくれたから。

キャリアセンターの皆さんは就活の時は大変お世話になりました。とても学生に親身になって相談にのっていただけてありがたかったです。

どことは言いたくないのですが、すこしだけいい印象ではない方がいて、話しかけにくかったところがありました。

丁寧に指導してくれた。

相談したら親身になって考えてくださった

私の話や聞きたいことをわかりやすく丁寧に教えてくださったから。

対応がとても良かったです。

キャリアセンターへ相談をしに来てと言われるが、入りにくい雰囲気があった。体温のアブリが使えない時に出席の確認もそれであると言って、心配して行っているのに事務の人のいちいち来ないという感じが気になりました。アブリができない時は紙でなど、ちゃんといれると言うわりには適当な時があってちゃんと入力を見ているのか気になりました。

どんな時も相談に乗ってくれたりしていたから

必要なことがあれば多少無愛想でも対応してくれたため。

③の理由

感じが悪い

役に立たなかった

呼んでも気づかない時があった

経営情報学科

①の理由

わからない事など聞いて教えていただいたり、進路の事などで相談に乗っていただいたからです。
就活などで気にかけてもらった。
学生生活に対していつも気にかけて下さった
キャリアセンターが少し入りにくい雰囲気だと思いました。
それぞれの課のみなさんが優しく対応してくださった。
就活のとき、キャリアセンターの職員の方達にとってもお世話になりました。対応も丁寧かつ迅速でありがたかったです。
進路について、沢山情報を伝えてくれたので、就活しやすかった。
ここがなかったら色々無理でした本当に!
困ったときに、対応してもらった。
就活のことなど、すぐに対応してくれた。
優しい先生ばかりで助けていただくことも多くありました。ありがとうございました。
資格奨励金の案内や資格取得へのサポートを丁寧にしてもらった。
就活の際役立つ。
就活の時などとてもお世話になりました。
学生生活をする上でとても必要な方々です。
キャリアセンターの人とかも優しくかったです。
就活の時など親身になってくれた
みんな優しい
どれも困ったらすぐに相談できました。キャリアセンターでは就活中にとってもお世話になりました!
困っていることを聞いたら、すごい丁寧にアドバイスをくださって助かった。
たくさんの方にお世話になりました
キャリアセンターの先生方にはとくにお世話になりました。
いろいろな困ったことがあっても、すぐに相談がしやすい環境だと思ったから。
キャリアセンターでは、コロナ禍の就職活動は学生だけでなく、先生方も初めてなのに親身になって指導していただきました。ありがとうございました。
分からないことを直ぐに教えてくれた。
どの課も丁寧に教えてくれたり助けてくれたりしてくれた。とくにキャリアセンターにはすごくお世話になりました。
キャリアセンターは就職活動の時に何回もお世話になったが、どんな企業があるか私の希望を含めて的確に教えてくれ、助かった。
自分の質問に適切に答えてくれた。
とてもよく利用したから。

②の理由

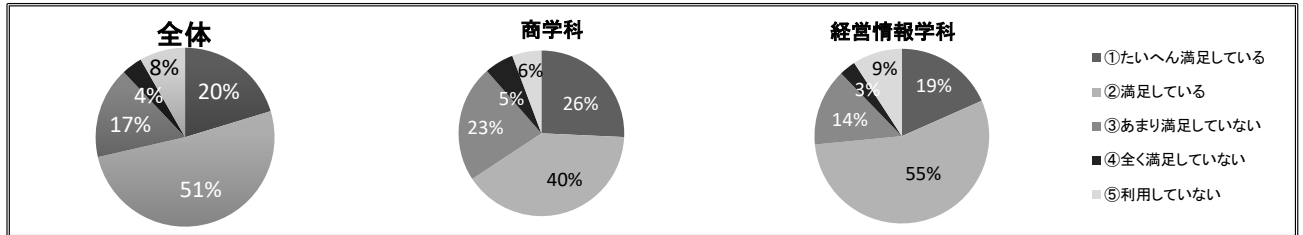
キャリアセンターには大変お世話になりました。相談もしやすく、アドバイスをたくさんしてくださってとても助かりました。
お電話を通して進路関係のご相談をいただく機会があり、ほかに何人いる中で大変お世話になりました
親切に就職の対策などを対応していただいたから
分からないことはしっかり教えてくれた。
就活のことについてキャリアセンターに問い合わせたら相談に乗ってくれたのでとても助かりました
すごく学生のことを気にかけてくれる
親切な対応でとてもいきやすい環境でした
親切に対応してくれました
正直あまり利用しなかったのですがとても良い印象があるわけではないですが特に悪い印象もありません。いまだにどこにあるのか知らない所もあります。
対応がやさしかったと思う
学生課にいても、気づいてもらえない
困っていた時に相談をしに行くといつも丁寧な対応をいただいた点です。
相談しに行くのと、とても丁寧に相談していただきました。
キャリアセンターを就活の際に利用したため、お世話になりました。
親身になって丁寧な対応をしてもらったからです。
特に情報センターの方たちには、最初の頃よく機能等が分からずに頻りに利用していました。少しした疑問等にも、迅速に対応して下さり嬉しかったです。たくさんサポートをして下さりありがとうございました。
自身があまり利用しなかった。
よかった
満足してるため特にないです
学籍番号言うタイミングがわからなかった
学生課の高圧的な感じは苦手だった、教えてもらおうとしても「は？」みたいな感じを何回か受けて行くのが億劫になったことは度々あった。
すごく細かく対応してくれる人はいたが、冷たい人もいたので普通だった
笑顔で優しく話してくれる方もいれば、塩対応の方もいらっしゃいました。
就職支援でのサポートを主に利用させていただきました。
分からないことは聞きにいけば丁寧に教えてくださりとても助かりました。
丁寧に相談してくれた
とても親切だった。
多くの職員の方はとても丁寧に相談して下さったが、たまに気持ちのいい対応でない職員さんの時があったから。
厳しくしてくれたので身にしみました。
たまに窓口に行くのが嫌だなと感じる対応の方がいました。
就活時にはたくさんお世話になりました。利用してよかったなと思っています。
合格証書を頂いた際に笑顔で渡してもらった。
授業の単位は足りるかなど質問したことについて全て答えていただいて有難かったです。授業料を納めなきゃいけないとき数分遅れてしまったのですがそれにも対応していただけて助かりました。
丁寧に相談して下さりました。

③の理由

友達でもないのに、タメ語で話さないでください。
教務課の人達が怖い。突き放してくる感じ
コロナの自粛期間中特にサポートが欲しかったなと思いました。
困ったことがあり頼ってみようと思い相談したが明らかに機嫌が悪そうな感じでイライラしながら対応された
教務課の方はいつもフレンドリーで、資格の手続きをしに行った時もたくさん話をしてくださりました。ですが学生課の方は男性の職員の方が怖く、部室の鍵を取りに行ったときに嫌な態度をされたので、あまり行きたくありませんでした。私としては職員の方がいる場所は行きづらい場所なので、もう少し職員の方には優しい対応をしていただきたいです。

質問9. あなたは本学の施設・設備(コンピュータ教室、トレーニングルーム、体育館、教室、グラウンド、駐車場等)に満足しましたか。その理由や要望など、お気づきの点を記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	3	6	9	7	11	18	27
②満足している	7	7	14	16	38	54	68
③あまり満足していない	4	4	8	4	10	14	22
④全く満足していない	1	1	2	0	3	3	5
⑤利用していない	1	1	2	4	5	9	11



【理由等】

商学科

①の理由

パソコンを使った課題などにパソコン室をとでも使ったからです
パソコン室をよく利用したのですが、印刷の機能やパソコンの充実がとても満足しています。
コンピュータ教室は次の講義の合間によく使用していました。使いやすかったです。
駐車場はとも使やすかったです。
冷暖房の設備が良かったです。
設備が整っていた。
つかいやすい
便利だから。
全体的に綺麗だったから

②の理由

冷暖房の効き具合が場所によって違いすぎてそこが少し不便だなと思いました。
空いてるパソコン教室が自由に使えて良かったが、授業で使わない自習室用のパソコン教室が欲しかった。
綺麗で使いやすかったです。
大きい講義室(階段状になっているところ)の下の方に座ると、冬に講義を受ける時に暖房入れてもかなり足元が寒いのでそこだけ改善されればいいと思った。
パソコンがいろんなとこにたくさんあるから
使いたいときに自由にパソコンが使えるので、設備がともいいと思う。
基本的に満足していますが、コンピュータ教室のパソコンが、場所によってはワードの仕様が異なっていたのが少し気になっていました。
どの施設も使いやすかったです。
利用しやすい
パソコンのものを印刷したい時に、自由にパソコンを使えてよかった。
1、2号館の教室は少し狭いし冷暖房があまり効いてなかった。
コンピュータ教室ではレポートを作成したり、印刷をかけることが出来たからです。グラウンドや体育館をもっと自由に使うことが出来れば、私も利用したと思います。
駐車場のカードが毎回読み取りエラーになる
いつも綺麗にされていたので。
パソコン室のパソコンがたまにつかぬやつがあって不便でした。
コンピュータールームが一時期使えづらかったが、すぐに治った。
コンピューター教室の設備がしっかりしていたから。
パソコン室にゴミ箱が欲しいと思った
PC教室は授業で使っていない時間は自由に利用できる制度はいいと思った。
パソコンが使いやすかったです
いつもきれいに掃除をしてくれていて本当にすてきでした。あいさつも掃除の方がにこにこしてくれてうれしかったです。第1駐車場と第2駐車場は解放されるのに第3駐車場だけ解放されないのでもう少し解放してほしいと思っていました。
いつも使えたので良かったです。
設備が大変整っていて、大変快適な生活をおくることができました。
冬になると寒い教室もあったので暖房器具をもっと充実すればいいと思う。
コンピュータ教室をよく利用させて頂きましたがとても使いやすかったです。
学校でパソコンが使えてとても助かりました。教室はエアコンが利いていて快適だったのですが、コロナウイルスで換気をしなくてはならず、授業中ドアを開けていてドアのそばでの授業の時は寒かったです。
綺麗で気持ちよく使えました。
トレーニングルームの説明会は聞きたい人だけだったような気がするので、全員にすればいいと思いました。
コンピューター教室の仕切りがある部屋良かったです。
全体的に施設は快適に過ごせました。
綺麗に掃除をしていただいていたので使いやすかったです。
コピー機が無料で使えるのがとてもよかったです。しかし、時々誰もいないのにエアコンが付いている教室がありもったいないなと思いました。
とても使えやすく教室が空いていればいつでも使えるから
必要なことは事足りたため。

③の理由

駐車場代金が高い、返金がない
駐車場代が高かった
駐車場代タダでもいいと思う。いちいちチャージしに行くのがめんどくさい。
コロナによってトレーニングルームをほぼ使えなかった。
駐車券のシステムが使いづらかったです。
パソコン室のWiFi環境が悪くたまに遅い時があった
パソコン室のパソコンがたまに停止してしまうのが不便でした...
短大側は色々施設が古い
駐車料金が高すぎる
パソコン室で印刷する時にインクがない時があった
利用したくてもできない機会が多かったから。

④の理由

エアコンが臭い

経営情報学科

①の理由

特に家から短大まで遠いので駐車場はとてありがたかったです。
コンピューター室で課題などをやる機会が多く、1番使っていた。
ないです 強いていうとこのままの感じでいて欲しいです
使いたいときに使える
どこも綺麗に掃除されていて気持ちよく利用できました。
課題作成のため、よくコンピューター教室を使った。
サークルなどで使った時に楽しかった。
特に施設に不満はなかった。
上記の場所はあまり利用してないですが、満足しています。
コンピューター教室は、空いている時間に学習ができやすい環境だと思ったから。
車で登校しているので駐車場が広いのがとても良かったです。
コンピューター教室は沢山あって空きコマの時に使えたのでよかったです。

②の理由

設備も整っていたので利用しやすかったです。
大学側の施設は利用していない。短大の大教室(232とか121とか)は前が暑くて後ろが寒いのが嫌。あと穴空いている椅子とかあるから、補修工事して欲しい。
非常にいつもきれいで清掃員の方には感謝しており、施設も使いやすく満足している。
設備しっかりしてるいが、自由に使えない
サークルで体育館を利用し、設備が整っていたから
不満を感じた事はないから。
設備の整った校舎でしたが、二年生の間はコロナの感染防止で使う機会が少なく残念でした。冬季は232教室の暖房の効きが均等ではない(上の席は暑く下の席は寒い)ので調整をするとう良いと思います。
駐車場の料金が上がった。今年はコロナで学校にいけてなく、駐車場のチャージが余ったのは返金してほしかった。
申請すれば使わせてくれる
駐車場代が高い
サーバーが少し重かったから。
いつも綺麗に保たれていた。
使いやすかったです
あまり利用はしませんが利用したときに不満なことがなかったので満足してると思います。
不満に思うことはなかったし良かったと思う。
教室の空調の効きが悪い部屋もあったので直して欲しいです
教室は基本的に綺麗だったから。
パソコンのキーボードを統一してほしいと思ったことがあります。
授業のレポートを作成する際にとても有効的に利用することができました。
室内環境もよく、利用しやすかったです。駐車料金に関してですが、今回のこのコロナ化で突然1月にリモート必須となり、困ったので、時と場合を考えて、今回は返金してもらいたいというのにしてほしかったです。
トレーニングルームは身体を鍛えたい時に来ることが多かったため満足している
大きい部屋の椅子が新しくなったので良かったです！
駐車場高い
コンピュータの起動が早くて便利でした。
いつでも使用できるパソコンがあり使いたい時に使えるのがいい。
とても使いやすかった
コンピュータ教室のパソコンは少し立ち上がりが遅い時もありましたが、おおむね使いやすく利用させていただきました。
Wi-Fi環境を直して欲しいぐらいです。
コンピュータ室以外とくに使わなかったのでよく分かりません。
コンピューターは接続がたまに悪かったりしてた。
図書館の冊数が多く、居心地も良かった。
コンピューター室は空いてればいつでも使えたのでよかったです。駐車場は料金が少し高いなと思いました。
Wi-Fiがつながりにくいところがありましたがそれ以外は満足でした。
2年になってからネット環境があんまり良くなかったけど良かったと思います。
サークル活動や、講義で体育館を使わせていただきましたが、設備が良く、綺麗でした。駐車場は料金が高めだったと感じています。

③の理由

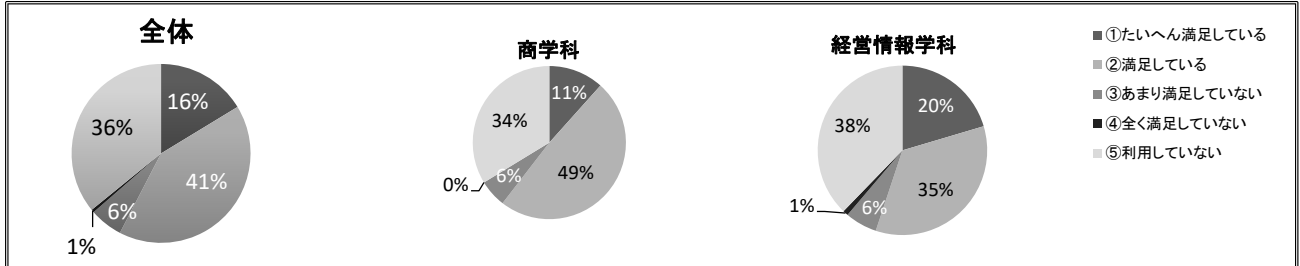
駐車場代が高いと思います。コロナで学校に行けない日が多く、駐車券の回数がすぐ余っているので返金してほしいです。
駐車料金の値上がりで教室で座る場所によって寒さが違うところはどうにかして欲しい
パソコン教室によって読み込みの速さが違うのがどうかと思った。試験なのにすごい遅いパソコンなどもあって困った。
駐車場の代金が高い
駐車料金が高い、他の施設も使っていないのに、設備費が高すぎる。
主に体育館。コロナの影響で先生が付き添いしなくてはならない理由がわからない。それによって始まる時間が変わってしまい満足したサークル活動が出来なかった。
駐車場と料金が上がった
教室が寒い。駐車料金が高い。PC教室のパソコンが重く固まりやすい。
コロナの関係でジムが使えなかった、pc室は回線を良くして欲しい、Photoshopなど特殊なソフトを入れているパソコンを増やして欲しい
コンピュータ教室の設備に偏りがあり、利用しづらかったから。
大学側の所はたまに無料解放になる時あるが、短大の方はあまりそういうのがない。火曜とか人が多くて、短大の駐車場が満車になるし、空いているのに満車で表示されている時がたまにあります。
トレーニングルームなどは運動部に属している男性などしか利用しておらず行きづらかったです。駐車場の返金をしていただきたかったです。

④の理由

コロナになってオンライン授業に切り替わってからあまり学校に行っていないにもかかわらずお金は例年道理取られるし、駐車場代もコロナになる前に30回分買ってしまったから余り過ぎちゃってるのに返ってこないのは不満ではない
コロナウィルスの影響でオンライン授業になったのに駐車場代が返金されないのはおかしい
短大生が主に使う教室は冷暖房の効が悪かったり、古い設備だったり、四大生が使っている施設と比べて不便。冬は寒くて学習に集中できなかった。5号館などの教室で受講すると肩や腰の痛みもないので、1号館なども改善して欲しいです。

質問10. あなたは各サポートセンター(基礎教育センター、国際交流センター、地域づくり考房『ゆめ』、図書館、健康安全センター等)に満足しましたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	2	8	10	6	14	20	30
②満足している	9	33	42	7	27	34	76
③あまり満足していない	1	4	5	3	3	6	11
④全く満足していない	0	0	0	1	0	1	1
⑤利用していない	4	25	29	14	23	37	66



【理由等】

商学科

①の理由

1度、具合が悪くなったときに健康安全センターで休ませてもらいました。とても優しくて丁寧な対応が印象的でした。
 図書館は本の貸出だけでなく、映画等見れたのがとても嬉しかったです。
 国際交流センターには留学の際にお世話になったから。
 地域づくり考房『ゆめ』では、ボランティア活動に参加させて頂きとても良い経験になりました。図書館では検定勉強をしたり、卒業論文の為に本を借り調べものができました。
 各サポートセンターに行くことはなかったですが図書館には結構行って本当に思い出の場所です。もっと行けばよかったと悔やんでいます。
 設備が整っていた。
 手厚くサポートをして頂けたからです。
 留学を成功させることができた。
 こちらも設備が綺麗だったから。
 図書館はとても充実していてよかったです。

②の理由

あまり利用する機会がありませんでしたが、健康安全センターの方には優しく対応していただき助かりました。
 図書館にときどきいくことがあった。
 図書館を利用していました。静かだし席も多かったので勉強するときなどたくさん利用しました。
 図書館は居心地が良かった。
 基礎教育センターで、丁寧に分からない問題を教えていただきました。ですが、入りづらい気がしたので気軽に行けるようになると良いなと感じました。
 あまり活用することは無かったけど、対応が丁寧だった。
 いろいろな環境がそろっていてとてもいいと思う。
 図書館で映画鑑賞出来るのはとてもありがたかったです。
 図書館しか利用していないが、広くて使いやすかった印象だから。
 もっとそのようなものを利用すればよかった。
 図書館で映画を観れるのがよかった。
 図書館はとても静かで設備が整っていた
 図書館に勉強スペースがあったので居心地が良かったです。
 図書館を利用しましたが、蔵書も多く満足でした。
 図書館は卒論で利用した。
 空きコマに図書館で映画を見たり時間をつぶせたのでよかったです。
 図書館を空き時間などに利用できたから。
 図書館で欲しい資料を探す時にとても親身になって探してくださったから。
 基礎教育センターは入りにくくてあまり利用したことはなかったですが、もっと利用すれば良かったかなと思います。
 先生が優しいから。
 図書館は静かに本が読めて、勉強もでき、空き時間にビデオも見ることができてとても良かったです。
 図書館には学習できるスペースがあり非常にありがたかった
 図書館以外は利用したことがないけど、図書館はすごく使いやすかったです。
 様々なサービスがあってよかったから
 図書館以外のそのような施設はあまり利用しなかったが、図書館はとてもよかったと思う。

③の理由

ほぼ利用しなかったから。

経営情報学科

①の理由

図書館でレポートを書く時などに利用しました。図書館の中は静かで勉強しやすかったです。

本がたくさんありよかった

図書館が特に立派で、とても楽しく何度も利用させていただきました。しかし、食事を取れる場所が少し狭いかなと感じました。

留学の支援をもらった

わたし自身ゆめに所属していたため大変お世話になりました。

勉強したい時に、静かな図書館を利用した。

充実していてよかった

勉強したい時に図書館をととも利用していました。

図書館司書の関係で図書館を使用していたが、様々なジャンルの本に触れて楽しめることができたから。

必要な時に利用したい設備が整っていたから。

レポート作成のために資料を活用出来た。

図書館をよく利用しました。環境も良く、蔵書も多いのでとても満足しています。

②の理由

地域づくり工房『ゆめ』で保育園のボランティアをする時に少しの間だけお世話になりましたが、サポートしてくださりとてありがたかったです。

健康安全センターには毎日健康チェックでお世話になる機会がありお気遣いしていただきました。

昨年の夏にオーストラリアへ研修に行ったときに、国際交流センターの方がとても丁寧に対応してくださった。

図書館をよく利用させてもらいました。ノートパソコンを借りられるのがありがたかったです。

図書館が広い。

図書館は季節後このイベントがあつてとても楽しかったです。

丁寧に対応してくれた

図書館と基礎教育センターしか利用してませんが良かったと思います。強いて言えば本の種類がもう少し欲しかったです。

学生生活をする上で、健康のことや地域のことを知ることは、大切なことだと思います。

1番利用したのは、図書館です。DVDが見れる空間があったり、席もいろいろな場所にあり、どこに座っても心がほっとする空間でした。卒業してからも、行きます！！

図書館で映画を見れたのはよかった。

図書館は本だけではなく映画を見るスペースもあり満足している

図書館、冬はちょっと寒かったけどとても使いやすかったです！要望なのですが、女子トイレに荷物をかけられるフックが欲しいなと思いました。1人で図書館使ってる時に貴重品をカバンに入れていた場合、トイレに持っていきたいのに置く場所がなくて少し不便でした。検討よろしく願いいたします

図書館の雰囲気好きです

ゆめでの活動はいい機会でした。

図書館の先生が優しくかったです。

空きコマに図書館で時間を潰すことが出来て良かった。

気軽に使いやすかった

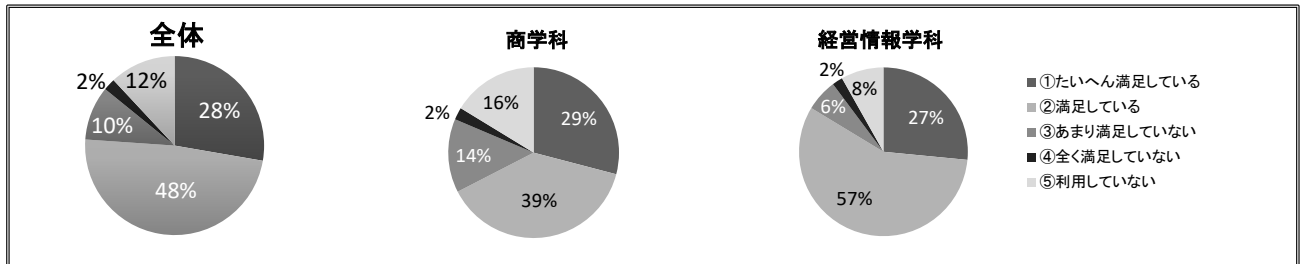
図書館がとても静かで勉強に集中することができました。

ボランティアで大学の人も知り合えた

留学行った際にわかりやすく説明をされていたから。

質問11. あなたは生協のカフェテリア、購買、ミニショップ、9号館食堂等に満足しましたか。
その理由や要望など、お気づきの点を記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	5	20	25	8	18	26	51
②満足している	5	28	33	18	38	56	89
③あまり満足していない	4	8	12	1	5	6	18
④全く満足していない	2	0	2	1	1	2	4
⑤利用していない	0	14	14	3	5	8	22



【理由等】

商学科

①の理由

みんな優しい
たくさんあったので使いやすかったです。
ミニショップの営業時間をもう少し長くして欲しかった。
料理がとても美味しかったからです
学食がとても美味しかったし、購買もたくさん利用させてもらいました。とても美味しかったです。
9号館の食堂の唐揚げがとても美味しかったです。
おいしかった
購買で食べることもあったのですが、とてもおいしかったです。ありがとうございました。
入学前思ったよりも品数が多くて良かったです。
食べたいものがいつも購買に売っていてよかった。
日替わりだったり特別なメニューがあって毎回楽しみにしていた
学食、とても美味しかったです！
美味しかった
すごくお世話になりました。自動販売機に鬼滅缶が売っていてうれしかったです。あと台湾まぜそばだけ復活してほしいです。あれが大好きでした。本当にたくさん利用したのでこも思い出の場所です。そして食堂も美味しかったです。また食べたいです。
便利だった。
種類もあり、少し時間を潰すのにも最適だったからです。
生協や購買の方はとても愛想がよく品ぞろえもよくとても良かったです。
欲しいものがちゃんとあってよかったです。
購買はお昼ご飯を買うのにとても重宝した。

②の理由

お昼頃になるともの凄く混むし、短大側の方は商品が置けるスペースも少ないのですぐにお昼になるようなものがなくなってしまうのが少し残念でした。
美味しかったから
いろいろなものが売っているから。
利用しやすい環境だった。
短大のほうの購買は営業時間が少し短いと感じた。
購買やミニショップではお昼を買ったりすることに利用させて頂きました。9号館食堂にはお昼を食べに行きましたが、短大の教室からは少し遠すぎると感じました。
生協では、いろいろなものが売っていたので便利でした。
毎日のお世話になりました。4
美味しいものがいっぱいありました。購買の時間をもう少し長くして欲しいなと思いました
欲しいものが手に入る
よく利用させて頂いていました。
よくコモンルームを利用させて頂きましたが、とてもしやすい雰囲気よかったです。ただ、WiFi環境が少し不安定なのでそこを改善して欲しいです
メニューも多くて、楽しみの一つでした。
種類豊富でよかった
お弁当の時に食べる場所が少なかったのもう少しカフェテリア的な場所を増やしてほしいと思いました。
利用させていただいたから。
あまり品揃えが良くないかなと思いました。
おいしい学食を提供してくれていたから

③の理由

狭いと思った。
購買は狭く混雑しやすいことと、品揃えをもう少し増やしていただくと良いと思います。
九号館にいかない。
メニューを増やしたり品数を増やしたりすればもっといいと思う。
短大のところからだと生協がちょっと遠い、お昼じゃないと7号館空いてないし混んで使う気にならない
ミニショップの営業時間が使いたい時間帯になかったのが残念だった。
すぐなくなる
短大の購買は時間が限られているし、大学の方は遠くて授業の休み時間に利用しにくい。

経営情報学科

①の理由

食堂はメニューの種類が多く美味しくいただきました。
購入があったので、すぐ行きやすかった。
お世話になりました
ご飯がとても美味しかったですし、購入も欲しいものが沢山売っていて良かったです。
清潔感もあり使いやすかったと感じました。
お昼によく利用してた。おいしかった
品揃え良かったと思います。
ご飯食べる時とかに、友達と楽しく食事が出来た。
ご飯が美味しい
唐揚げ丼やラーメンとっても美味しかったです！
よく利用したし、美味しかったので
9号館の唐揚げ丼が美味しかったです！
昼食を摂る時にカフェテリアを利用していたが、そこで出された料理は大変美味しかったから。
職員さんの対応がとても丁寧でよかったから。
たまにしか利用しませんが、良かったです。
安く買えるものや種類が豊富でよかった。
ご飯がないときなども助かりました。
ご飯が買えたから。
困ったときになんとかなる品揃えなので満足しています。

②の理由

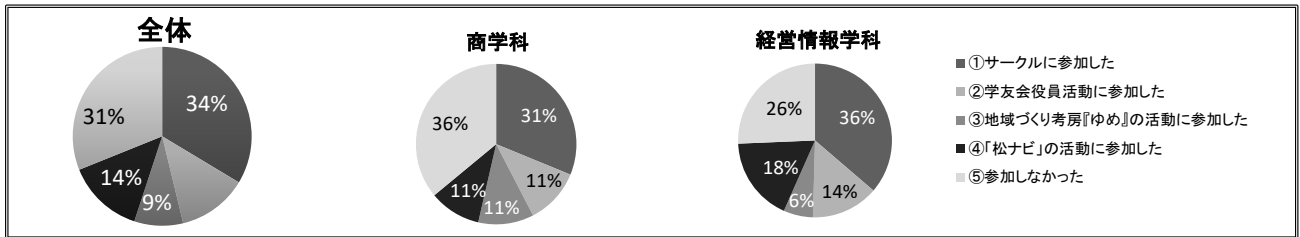
幅広いものが販売されていてよかったと思います。
席も多くいろいろな方とコミュニケーションをとることができた。
もう少し空いている時間が長かったらよかった。
基本的なものが売っているから
よく利用させてもらったから。
3号館食堂のメニューをもう少し増やしてくれると嬉しいなと思いました。
よく利用させてもらった。商品の種類が少し少ないので遅く行くとお昼が買えなかったりした。
もっと弁当を増やしてほしい
9号館の食堂の唐揚げ丼が美味しい
お昼を食べる時に利用し行きやすかったです
購入くらいしか利用しませんが珍しい品揃えで選ぶのが楽しかったです。
よく利用したしありがたかった。
他の大学は、マックとかスタバとかも入ってる。
一人暮らしで、食堂も購入もよく利用させてもらったからです。
昼食の時にとても利用させていただきました。
充実したラインナップやメニューで、良かったです。
よかった
食べ物の種類も多く良かった
電子レンジなどがあっていいと思った
美味しかった使用済み割りばしを集めるのがなぜわからなかった
短縮営業の時間などホームページにも記載してほしい
メニュー、品揃えが豊富だった。
働いている人が話しやすくていい人でした。
食堂のメニューが豊富でよかった
便利だったが席数が少なく感じた
どのお店も品揃えが豊富でとても助かりました。また食堂は3号館の食堂を最後に少し利用した程度ですが、とても美味しいメニューが揃っており満足のいく食事ができました。要望は購入だけでいいので生理用品を売っていただきたいです。また、注文の仕方ですが、生理用品を堂々と陳列するのではなく、キーワードか合言葉を決めておき、それを店員さんに伝えることで購入可能になるスタイルを取っていただけるとありがたいです。
おいしかったです。
いろんな種類のもものが売っているのが良かったです。
学食を何度も利用させていただきました。とても美味しかったです。

③の理由

高い。購買とかミニショップは開くの遅いし閉まるのが早すぎると思う。
食べる場所が少ないため3限に間に合わなかったり。購買のお昼が買えなかったりした。
短大の校舎からカフェテリアは少し遠いと思います。
食堂も高いし他も割高だから近くのコンビニで買ったほうが種類もあるし便利だった
7号館の購買が混む。割と直ぐに品切れになってしまう。
食堂の食べ物が栄養バランスが偏ってる上に量がすぎる。少なくとももっと価格を抑えて欲しい。購買もコンビニと同じくらいの値段なので、もう少し値下げして欲しい。

質問12. あなたはサークル活動、学友会役員活動、課外活動に参加しましたか。(複数回答可)

	商学科			計	経営情報学科			合計
	男	女	計		男	女	計	
①サークルに参加した	11	28	39	14	27	41	80	
②学友会役員活動に参加した	4	10	14	2	14	16	30	
③地域づくり考房『ゆめ』の活動に参加した	1	13	14	2	5	7	21	
④「松ナビ」の活動に参加した	2	11	13	0	20	20	33	
⑤参加しなかった	3	42	45	4	25	29	74	



【理由等】

商学科

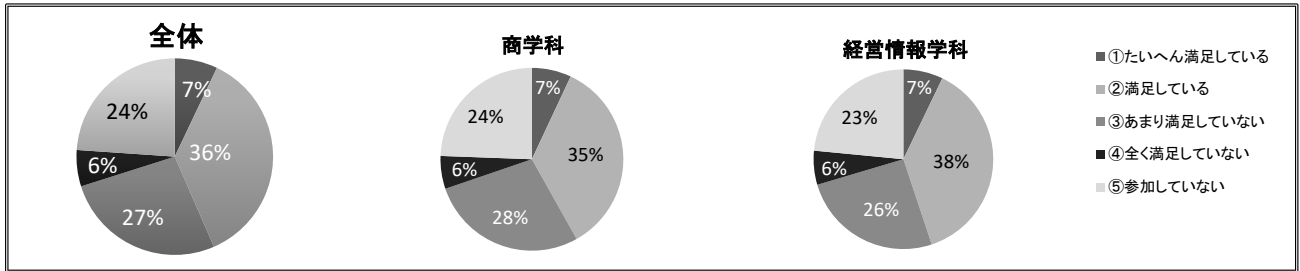
どれもいい経験になった。
 大学フットサル部に入った。
 サークルは高校時代からやっている内容だったため。
 新しいことを始めたいと思い、積極的に参加しました。仕事をしっかりやらない役員が中にいたので、先生から指導をしていただいたかったです。
 コロナの影響でほとんど活動が出来なかったけど、色々な人と関わることができたくさんのことを経験したり学べることが出来て良かった。
 めんどくさい
 家までの距離が遠く活動している時間がなかったから
 興味があったから。
 マツナビは1度だけ、オープンキャンパスで活動しましたが、初めての体験でとても勉強になりました。
 あまり興味がなかったから。
 長野市から通いのため時間が無かった
 興味がなかった
 サークル活動を通じて友達を作れたから。
 高校から引き続き同じようなサークルに所属しました。
 興味わくものがなかった。
 サークルに入っておけばよかった。
 2年になってからほぼ行かなくなったけど、楽しく活動できた。
 保育園でのボランティア活動をするのが出来たからです。
 サークルではないが、ゆにまるという活動に参加させて頂きました。
 ゆにまるは商業系の高校生しか知らない活動だと思いますが、もっと活躍を広めて行けたらいいのかな。と思います。
 コロナで特に活動が出来なかったができる仕事はやれた。
 バイトに専念してしまったから。
 短大生だけではなく、学友会に自分から入ったはずなのに、サボる人が多くて残念でした。
 活動があまりなかった。
 アルバイトをしたかったから。
 とてもいい経験ができた。
 吹奏楽サークルに入り、2年生はコロナでほとんど潰れてしまったけど、1年生の時には充実した活動ができたので良かったです。
 ダンスと軟式野球に所属していました。軟式の方は行かなくなってしまったけどダンスはすごく楽しくて部活に入ったからできた友達は本当に大切な存在でそんな風な経験ができたのでサークル入ってよかったと思いました。
 学校の知らないことを知れたのでよかったです。
 サークルに入ることで大学の方も関わりをもて、好きなことが仲間と共に一緒にできるからです。
 学業で手一杯
 通学時間が長かったのでサークルは興味があったけれど、すぐ入りたいたものはなかったのやってなかったです。
 短大での学友会活動があまりないと思ったので何かあればいいと思う。
 体育局長として学友会活動に参加させて頂きましたが、今年度はコロナの影響で何も出来なかったのが残念です。
 時間があまり無い。
 サークルは楽しくできた
 オープンキャンパスの時にとても親切にしてくれたマツナビの方がいて、私もこれから入ってくる新生生の力になりたいと思ったからです。
 体育の書記を務めましたが、企画力を養うことができました。
 家が遠くて活動できないため。
 しようか迷っていた
 自分の成長につながった
 通学に時間がかかるので参加しませんでした。
 人と関わることが苦手だったから。
 途中から用事のある日とサークルの曜日がかぶってしまい行かなくなってしまいました。
 活動内容自体は満足しているが、他校のサークルとの交流などもっと行ってほしかった。
 友達が誘ってくれたからやり始めた
 アルバイトをたくさんしたかったため。

経営情報学科

ボランティアをやりたいと思い、短期間だけでしたが参加しました。
サークルに入るか悩んだのですが勉強に力を入れるためにはいい経験になりました。
学友会の活動は参加してよかった。大学の人も関わられるし、先輩方の雰囲気もいいし、いい経験になった。
バレーボールを続けていたため志望しました。楽しい機会であり、充実した活動になりました。
友人に誘われたため。
アルバイトに専念したかったから。
学友会活動が思った以上にできなかった。お金の動きをもっと柔軟に対応してほしい。
サークル増やして欲しかったです
弓道部に所属しました、ゆるいサークルの雰囲気で良かったです。
色々な経験が出来て良かった。自分の経験として就活などでも大変役に立った。
コロナ禍であまり活動ができなかったのが残念でした。
情報の共有がうまく出ていない
コロナであまり活動できなかったが、学校の役に少しはたてたのかなと思います。
友達に誘われたり、興味がわいたものがありました
学友会活動はほとんど出来ず、残念だった
サークルがもっとあればいいなと思いました。
音楽を続けたかったから
高校生の時にオープンキャンパスに参加した時からマツナビに入ろうと思っていました。短大だけでなく大学の方とも関わることが出来て良い経験になりました。
家が遠いからです
参加する気分にならなかった。
就活で使えるからと思って最初は入ったのですが、今では大切な友達が出来たので入って良かったと思っています。
あまり活動しなかった。
コロナの影響であまり活動ができず残念でした。
地域のことが学べました。
ずっとテニスをしてきたから。
入るきっかけもなかったから。
高校の部活でやっていた軽音楽を大学でもやりたかったから。学友会の活動は貢献できていなくて申し訳ないです。
やる理由がないから。
サークル活動は、友人関係作るきっかけにもなったので、とても有意義な時間でした。
少しでも、自分の成長した部分があったりしたので、いい経験になってよかったです。
学校で知り合った友人とより仲良くなるために利用した。
バレーボールのサークルが楽しかった。
理由は特になし
サークルではいい運動になり友人関係を増やす良い場になった
学祭に関わりたと思ったから
反省会等上級生が怖かった
LINEがほぼ2年間無活動だったのでやってる実感はなかった
友達に誘われて参加した。
コロナであまり行かなかった
就職活動に役立てたかった。
マツナビ以外にゆにまるという高校生の商品開発、商品販売などを手助けする団体に所属していましたが、とても充実していました。楽しかったです。
興味がなかったため。
大学の人も関わることができたことが一番よかった。
1年の時にマツナビに参加しましたが、先輩が少し怖かった。
あまり自分に機会がなかった
顧問の先生が立ち会っていないとサークルが出来ないと言われたがいても居なくてもコロナになるかが変わるわけではないし不便であった
高校生の頃に文芸部に所属しており、そういったクラブがあるなら入りたいと考えていたため。
就活関係について考えていたので、入る余裕がなかったから。
自分から動き、何かを成し遂げる仕事をしてみたかったから。興味があったから。
台風とコロナが憎いです。
勉強と両立出来ないと思ったから
何もやらないのはどうかと思って。
今年は比較的活動できなかったけど、私は報道局で出来ることを考え少しでも活動することができたので良かったです。
硬式テニス部に所属していましたが、色んな交流がありとても楽しかったです。
最初は履歴書のために入ってみたが、意外とためになって面白い活動だった。
マツナビは初めから興味があり参加しました。コロナの影響であまり満足いく活動はできませんでしたが、最後まで協力して活動をできたので良かったです。
楽しかったです。
国際に興味があったから。
保育園の頃からダンスをやっていたので、ダンスサークルに参加していました。
参加する余裕がなかったから。

質問13. あなたは本学の学友会行事に満足しましたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	1	5	6	3	4	7	13
②満足している	5	25	30	12	25	37	67
③あまり満足していない	2	22	24	6	19	25	49
④全く満足していない	3	2	5	1	5	6	11
⑤参加していない	5	16	21	9	14	23	44



【理由等】

商学科

①の理由

学祭が出来なかったのが心残りです
 学祭はオンラインでしたが楽しかったです
 企画等沢山していただいて、楽しい学生生活をおくれたからです。

②の理由

もっと参加したかった
 学祭2回ともちゃんとできなかったの残念です。台風やコロナで仕方なかったと思います。
 楽しかった。欲を言えば大学祭をやりたい。
 2年間で学祭がちゃんと出来なかったのが少し悲しかったですが、仕方のないことだと思うので、学友会の方々をはじめ、多くの方が計画してくださったことに感謝したいと思います。その他でも、学校で冬に花火を見たり、レクが出来たことは思い出です。
 コロナ禍でミニ学園祭など頑張ってくれた
 大学祭は参加することが出来ませんが、今年度はオンライン学祭等、工夫してきていて良かったと思います。
 学友会の方が頑張っていたのを知っているから。
 体育祭やアウトキャンパスがとても楽しかった
 楽しかったのでよかったです。
 体育祭では学生同士で多くのコミュニケーションがとれたと思います
 楽しかった
 体育祭など楽しかったから

③の理由

文化祭や体育大会がなくなりました。
 めんどくさい
 あまり参加できなかったため。
 文化祭が出来なかったからです
 コロナで活動できていない。
 台風やコロナで中止になってしまって、残念だった。
 行事がほぼなくなったから。
 文化祭が2年連続出来なかったり、体育大会もできなかったからです。
 コロナでなくなったから
 天候や感染症のせいであまり実施できなかったから。
 渉外局でしたがなんの活動もなかったです。
 そもそも、学友会関係のイベントがほとんどできなかったのなんとも言えないです。
 クラスマッチはいい経験だったけれど、全体的に行事もほとんどなくなってしまったので少し残念でした。
 学友会行事がなにかよく分かりませんが、学祭は二回とも行えずとても悲しいです。
 あまり行事ができなかった。
 二年とも予定通りの学際ができなかったの残念でした。
 あまりイベントができなかったのが心残りです。
 学祭が2度開催されなかったの、学友会行事を楽しむ機会があまりなかったと思う。

④の理由

コロナと台風で文化祭が一度も出来なかった
 どんなのがあったか覚えてないし祭りごとが嫌い
 コロナでイベントが中止になってつまんなかった

経営情報学科

①の理由

自分の世代というのは様々な理由で多くの学校行事が無くなってしまいましたが行った行事というのは充実していたと感じました。感謝しています。

②の理由

オンラインという場ではありますが、文化祭を盛り上げていただきました

焼き芋大会で焼き芋を食べることができて美味しかったです。

2年生になってからはマツナビの活動もあまり出来なかったけど、精一杯頑張ったのでよかった。

1年次はとても充実していたのでよかった。コロナ禍でできなかったのが残念です。

文化祭やりたかったなと心残りです。

2年間学祭がないのが非常に残念でした

体育祭などが楽しかったです

コロナでほぼ何もできなかったのは残念でした。

コロナウイルスなどで色々あったのですが、色々な行事を見たり体験することができたのでよかったです。

2年次は、コロナ化ですべてが中止になってしまいました。1年次の体育祭等楽しかったです。学祭というものに、参加せずに卒業するということは残念です。

体育祭などは、ゼミの打ち上げや、ゼミで試合出るので、仲良くなった。

コロナの影響であまり参加できていませんが参加した時は楽しかった

行事が沢山あってよかったと思う

多すぎず少なすぎず、1.2年が交流できる機会があってよかった。

行事がたくさんできた頃は、バーベキューや花火、焼き芋などに参加させていただいた。

とても楽しめた

文化祭はできなかったけど、体育祭ではゼミナールの皆と一緒に盛り上がるのができたから。

季節ごとに沢山あってよかった。参加者と少ない時があると思うし仲良い人しか集まってないと思うので皆参加にして、クジみたいなのでグループ決めみたいにした方が交友広がると思う。

体育大会は1回しかやったことがないが、ゼミの仲が深まるのでいいと思う。

焼肉や焼き芋など楽しい行事ばかりでした。今年ではできなかったですが来年以降できるなら続けて欲しいと思います。

③の理由

コロナの関係で行事がかなりなくなってしまったのは残念でした。

仕方の無いことだけど、普通に学祭やりたかった。

体育祭で体を動かすのはいいけども、あまり動かすことがなかった。

コロナの影響や、台風等で学祭ができなくて残念だった。

ほとんどできてないから

文化祭ができなかったのは残念でしたが、2年生のときはオンラインで開催してくれたのでありがたかったです。1年生のときに開催した体育祭はとても楽しかったです。

文化祭が2年とも中止になり、コロナで行事がほとんどなかった

コロナでほとんどできなかった。

大学祭や体育大会など、例年通りに開催できなかった。

文化祭に参加したかったです。

行事の開催が中止になったり制限されてしまったため。

やはり女子が多いため平等のルールが難しく、男としては不完全燃焼感があった。(1年時のバレーボール)

文化祭2年間できなかったのは辛かったです

文化祭がなかった

中止になりすぎて何も分からないから

このご時世仕方がないが、中止になったものが多すぎました。

私達の代の短大生は災害やコロナの影響でろくにイベント(学園祭等)を経験できなかったためです。どうしようもないことだとわかっていますが、とても残念に思います。

2年とも例年のような文化祭ができなかったから。2年生の時のものも生徒全員が参加できるというものでもなかったから。(コロナの影響で仕方がない事ではある)

私は体育祭や文化祭は参加したくないので、強制参加が苦痛でした。それにコロナが流行っているにもかかわらず秋に体育祭をやろうとしたのは無理があった。(結局なかったが)出席するかしないかもゼミで聞かれたが、行かないとは言いがたい空気。行きたい人が応募する制度にして欲しい。ゼミごとのTシャツは作らず他にお金を回すか返却して欲しかった。普段も着れないし、いらない。

2年間のなかで実行できた校友会活動が少なく、仕方のないことですが残念でした。

どんな活動をしていたのか知らないから。

④の理由

コロナのおかげでほぼ仕事がありませんでした。常任の書記はこの1年何もしませんでした。

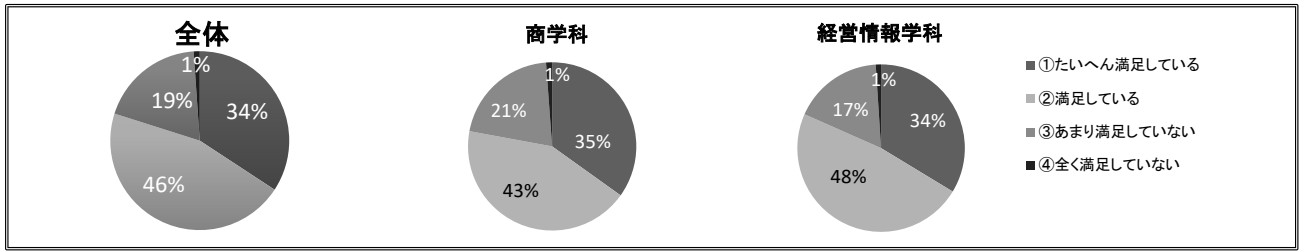
中止になって思い出がない。

学祭が1度も出来なかった。

活動がなかった

質問14. あなたは勉学、生活、進路を含めて、2年間の短大生活に満足しましたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	8	22	30	7	26	33	63
②満足している	5	32	37	17	30	47	84
③あまり満足していない	2	16	18	7	10	17	35
④全く満足していない	1	0	1	0	1	1	2



【理由等】

商学科

①の理由

とてもよかった
 思った以上に勉学に力を入れることができた。
 無事就職できてよかったです。ありがとうございました。
 将来活かせる資格が取れたり、たくさんの友人が出来たり、ゼミや学生会で様々な経験が出来てそれぞれの活動から得られることが沢山あったので良かった。
 新しい友達とも出会い、先生方にも出会い、多くの出会いがありました。大学生しか経験できないことも多く経験させていただき、たくさんの学びがありました。
 2020年は大変な年でしたが、その中でも学生生活を十分に楽しむことができました。
 充実した学生生活を送れた。
 PCスキルがとても上り満足です
 授業を通して生活で活用できる知識を身につけることが出来たと考えます。他にも、短大生活を通して友人が増えたのが嬉しかったです。
 2年間で資格をたくさんとれた。
 勉強もそうですが、昼休みなどに香取先生とお話をしたり充実していました。
 最初友達ができるか心配だったけどみんなと仲良く出来て良かったです
 2年間で今までやってこなかったこと(英語など)に挑戦できたから。
 最後の年はあまり行けませんでした、自分のやりたい学習が出来ました。
 いままで一番楽しい学生生活を送れたと思います。
 文化祭や体育祭ができなかったのはとても切なかつたのですがこれからの人生に本当に大切な多くのことを学ぶことができました。
 決まった分野だけでなく、幅広く学ぶことが出来たからです。
 楽しかったから
 今思うとこの短大に来て良かったなと思います。
 就活の際は多くの先生方が手助けをしていただきとても助かりました。
 たくさんの知識を勉強したから。
 大学の支援のおかげで、学生生活を充実させることができた。
 充実した学生生活を送れました。
 自分の望む通りの進路に進めたから。
 希望の就職先に就職でき、友達もできたため。

②の理由

資格取れたからよかった
 授業や検定、就活でそれぞれしっかりみていただけて助かりました。
 資格をもうちょっと取りたかった。コロナが邪魔だった。
 高校とは違った勉強ができたし、多くの出会いがあったため満足しています。
 資格を取得できたからです
 コロナの関係で2年次は思うように学校に行けなかったが満足出来た。
 たくさんの資格を取得できた。
 就活とか大変なことはいろいろあったけど楽しかった。
 勉強では短大でしか学べないことや高校生の時から取りたかった資格の勉強が充実していたので資格が取得できたことです。オンライン授業になってからはゼミでの交流や友達との関わりが減ってしまったのもっと学校に行きたかったです。進路についてはしっかりと決めることが出来たので良かったです。
 知識をつけ、無事に就職先を見つけたことができたので満足です。
 大変だったけど楽しかった
 社会に出るうえでの教養や必要な知識をたくさん得ることができました。
 2年生になってオンライン授業になり、学校へ行けず友達と会えないのが残念だった。一人暮らしなので孤独を感じていた。生活面では、とても楽しい2年間でした。
 2年という短い間だったけど、たくさんのことを学べたのでよかったです。
 新しいことを学べてよかったです。
 やりたいことを見つけれられたので、満足してます。
 資格取得や進路決定もでき良かった。
 短大の先生方がいい人ばかりで、仲間にも恵まれて充実した2年間だったと思います。学祭が2年ともなかったのが心残りです。
 オンラインでの対応も早かったし、就職活動も順調にできたから。
 いろいろと学ぶことができました。
 学びたかったことが学べたり多くの友たちをつくることができたので良かったです。
 無事に就職先も決まり、たくさんの友達を作ることができ満足している

③の理由

文化祭や体育祭がなかった
 2年目があまり学校に行けず、もう終わりなのかと思うと早い。仕方がないけれどもう少し充実した学生生活2年目にしたかった。
 1年次は学校に通え友達に会えたりサークル活動を行えたが2年次はコロナウィルスの影響でオンライン授業になってしまったから。
 ほとんどコロナ禍のせいで学校に行けなかったから
 コロナ禍で2年生になって全く学校へ行けなくなった。
 2年生になってから学校にいってないから
 コロナのせいで友達にもなかなか会えず、学校にすら行けないことに不満を感じた
 コロナで行事ができなかったのが悲しかった
 全てしょうがない理由だったけど、できないイベントが多かったり学校に行けなくなってしまったりしてあまり学校で生活した感じはしなかったです。
 2年生の時はあまり学校に行けなかったからです。

経営情報学科

①の理由

学びたかったパソコン関係の勉強などを学んだり進路も決まりとても充実した短大生活でした。
先生方が親切に教えてくれた。
1年時は、資格取得と海外研修に専念することができ、毎日とても充実していました。2年時はコロナの影響で、思うように勉強することができず、心残りがありますが、ゼミの先生や教務、キャリアセンターの方などの支えがあり、無事進路も決まる方ができたので、とてもよかったです。
たくさん資格取得できて、出来なかった事ができるようになって良かった。
目標の進路に進むことができた
やってみたかったことも学ぶことができたし、入学した頃は将来なりたい職業もなかったけど、無事就活も終わることができた。
留学ができて、授業でもいろんなことに出会えた
とても楽しくて濃い2年間でした。あつという間に終わってしまいました。
とても楽しい2年間を過ごすことができました。ありがとうございます。
友達ができ、切磋琢磨できた。
あつという間に2年間が過ぎてしまいました。その中で、自分が勉学を通して、成長出来たり知識も少しだけでも増えてよかったです。何より、良い友人や先生に出会えたことがよかったです。
友達が多く出来たし、授業も楽しかった。
楽しかった
授業含めゼミなどもとても楽しかったです！
簿記など役立つことが勉強できた。
自分の長所を更に伸ばせる良い機会だと思ったから。
たくさんの分野の授業を受けることができて楽しかったです。
自分が持っているスキルが少しアップした気がする。
取れる授業は全部取る気持ちでやっていたので知識が増えて良かった。
進路が自分にとって良い結果だったから。

②の理由

幅広い分野を学習できました。商業関係から図書館、心理学系まで学べたのはよかったです。
これは言ってもどうにもならないことだけど、学校に行って授業受けたかったし、行事もやりたかった。でも、1年生の時は忙しかったけど充実してたし、就活もオンラインの方が挑戦しやすかったし楽ではあったから、短大に進学して良かったと思った。
進路はかなり焦ってしまいましたが紳士に向き合っていたいただき大変お世話になった。
コロナがなかったら
新しい友人関係もでき、就職もできたから。
コロナ禍で想像とは違う学生生活になりましたが、先生や職員の方が様々な対応してくれたので無事に学生生活を送ることができました。
無事に就職まで行けたから
資格がたくさん取れた。
ほとんどオンライン授業だったのが少し寂しかったです。仕方ないことです。
高校時代に志していた販売業に就くこともでき、資格面でも取得したかったものは取得できたのかなと思います。生活面でも充実しており健康的な生活ができていたのではと思います。
自分がやりたい勉強ができたと思っている。
就活で最後切羽詰まってきましたが、ちゃんと決まったのでよかったです。
様々な能力を身につけられたから。
色々な発見だったりを学ぶことができたので、人として少し成長することができました。
コロナのせいでやりたい事が満足に出来なかった。
様々な経験をすることができ良い経験になった
ゼミの先生が進路について聞いてくれたのが助かった
卒業生が働いてどうおもっているかもっと知りたかった
学業は満足したが、学校の活動的にはコロナや台風の関係で満足していないところがある
WordやExcel、心理学、マーケティングなど色々な分野の授業が学べてよかった。入学前から16フィールドがこの学校の売りなのは有名だったが、実際2年間過ごしてみて想像以上に良いものだった。
今年はコロナのせいで最後の学生生活は寂しかったですが、基本は楽しかったです
行きたい就職先に行けるのでよかったです。関わってくださった先生方のサポートのおかげです。オンラインでの授業は、お金がかかりました。
短期大学だから勉強しなきゃいけないと思っていたので空きコマなどに仲間と過ごした時が楽しかった。
無事に内定を頂けたため
いろいろな資格を取得することができた
学生らしいことができた。
様々な種類の授業があり、知識を広げることができたから。
大学生の時にしかできないことをもっと経験したかった。旅行で色々なものを見たかった。コロナでしようがないですが。
1年次でパソコン系の資格が取れた。
とりたかった日商も取得でき高校では学べなかった授業も学ぶことが出来たのでよかったです。
コロナで大変だったけど学校の対応に満足していた。
友達と仲良く過ごせたから。

③の理由

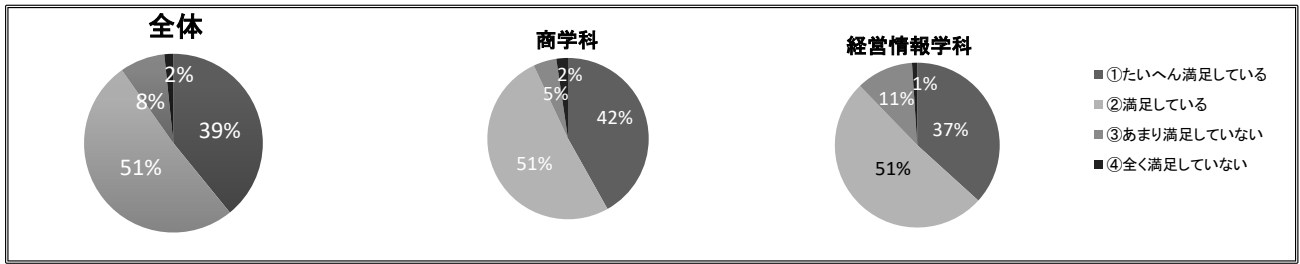
漠然とはあるが、学友会にしても普段の勉強にしても、もっと色々やれたなと思った。
このご時世なので思った通りの学校生活ができなかったから。
コロナのせいで二年生の思い出そこまでない事感がしてしまって来年入ってくる新生にこんな事にならないように願ってます
就職がうまくいくことができませんでした
コロナのせいで大きな行事の思い出がありませんし、友達と関わる機会があまりなくてたのしくなかった。
ゼミでのオリエンテーションや文化祭がなくなったのであまり学生生活最後って感じがしなかったです。
あまり自信をもって学習に取り組んでいたと言えないため。
イベントがほぼなかった
結局、大したアルバイトをせずに終わってしまったため、社会経験を積み機会を活かせずに卒業することを今とても後悔しています。
友達が途中で他の学校に進んだので一緒に卒業したかったです。
勉学、進路にはとても満足していますが、コロナ禍により、思うように学校に行けなかったり、サークル活動ができなかったりで残念でした。

④の理由

進学もキャリアに相談したけどキャリア的にはとにかくどこでもいいから就職してほしい感じで話されたし、話を聞いても納得のいく答えは返ってこなかった。
就職率を売りにしてるだけあって自分たちより先生たちの必死さのほうがよく伝わった
文化祭も一回もやれなかったし、体育祭もできなくて学校にも行けなかったしお金だけ取られただけと友達や親と話すことがあり他学校の子と話しているとここに入学したことを後悔している

質問15. あなたは「松本大学松商短期大学部」を誇りに思えますか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	8	28	36	12	24	36	72
②満足している	7	37	44	13	37	50	94
③あまり満足していない	0	4	4	5	6	11	15
④全く満足していない	1	1	2	1	0	1	3



質問16. 松本大学松商短期大学部および所属学科をより良くするための、あなたの意見・提案を聞かせてください。

(例えば、こんな授業があったらいい、こんな制度があったらいい、こんなところを変えてほしい等、なんでも結構です。)

【意見・提案】

商学科

- もう少しいろんな授業を受けやすく時間割ができたらいなと思いました。私自身受けたくても他のものを取らなきゃいけないと受けられなかった授業がいくつかありました。
- 教室の冷房や暖房が均一に届くようにして欲しい。授業では使わない自習用のパソコン教室が欲しかった。
- 授業中と休み時間のメリハリをつけると良いと思います。授業中でも友達と話したりして周りに迷惑をかけている学生が多いので、そこを改善するとより良くなると思います。
- 講義室の足元寒すぎる問題が解消されればと思います。
- 表計算や文書以外にパソコンの基本的な操作や、就職してから役立つような技術を、パソコン初心者でもできるような、パソコン入門みたいな講義があったら嬉しいなと思います。もしすでにそのような講義が存在していたらすみません。
- 実家に帰らないとネットが使えない人もいると思うので、そういう人たちのためにも学校のパソコンにTEMSをインストールしてだれでも使えるようにしたほうが良いと思う。
- 語学の教科書をさらに充実させたらいいと思う。
- 生物に関わる講義などがあれば勉強してみたいです。
- 今のままで十分いいと思うが短大の施設がボロいので変えた方がいいと思う
- 要望は特にないが、4学期制は自分に合った科目を見つけられるうえでも良かったので、変えないでほしい。
- 重要な連絡をもう少し早めにした方がいいと思った時があった。
- 購買の営業時間を長めにしたい
- 資格を取得するために簿記やパソコンの授業がレベルでコース分けされているのはとてもいいと思いました。大学側の教室を短大の授業でも利用させて欲しいと思いました。レポートを印刷する場所が短大側にも少し多くあるといいと思いました。
- もっと色々な種類の授業があるといいと思う。取りたい授業が被った時どっちが取れないのでそこを改善できたら欲しい
- 行事等の情報が出るのが遅いのでもう少し早く出していたら良かったです。
- いっても仕方がないですが、自分はコロナや台風の影響で学校行事があまりできなかったため、できればもう少し行事に参加したかったです。
- もっと英語を教わりたかったなと思いました。いきなりインタラクティブイングリッシュ？の方だとよかったので日本の先生の授業と中間くらいの授業を受けたかったなと思いました。
- 科目によっては取りたくても時間割の関係で取れないなんてことがたくさんあったので、そういった面を改善して欲しいです。
- 一人一人の技量にあった学習ができるように整っているの、これを土台として続けて行って欲しいです。
- とりあえず男子トイレは何とかして欲しいとは何回も思った、外から丸見えだし水道の出が悪い
- 色々な分野の科目が取れるのはとても魅力的だと思うけれど、取りたい授業が重なって取れないというのは仕方がない事だと思うのですがなるべく重ならないように組めばいいなと思います。せっかく色々できるのに少しもったいないなと思います。特に図書館の授業と重なる科目はほとんど取りたい科目だったので少し残念でした。
- 取りたい科目が微妙に重なって取れなかったこともあったので、もっと幅広く科目が取れるようになればいいと思った。
- 中国語の授業が少ない。もっと増やして欲しい。
- 編入学の支援をもっとおこなってもらいたい。
- 図書館司書みたいに専門的な資格が取れる授業があればいいなと思いました。
- 講義はどれも分かりやすかったのでこのままで大丈夫だと思います。2年間とても楽しかったです。
- キャリアセンターがもう少し行きやすい雰囲気が良いと思いました。
- 取りたい授業が重なってしまうことがあったので先生たちの都合もあると思いますが、毎年人気のある授業などはかぶらないようにしてほしいなと思いました。
- パソコンのアプリで一部の教室でしか使えないので使えるようにしたい

経営情報学科

学校全体のマップがもっと何箇所かにあれば良いと思います。短大の方は複雑な場所にあったりわかりにくいところがあるので一年生にわかるように掲示していただければありがたいと思います。

1号館1階とコモンルームのパソコン、便利で皆使うから場所を増やして欲しい。学生証があればその場で印刷できるのも便利。1号館1階のスペースがストーブつけても寒いのがどうにかなって欲しい。パソコンから印刷する方法はわかるけど、コピーの方法が分からなかった。コピーしたい時にどうすればいいのかわからなかった。あと前にも書きましたが、履修を最低でも1回受講してから決められるように月から金まで変更期間をとって欲しい。こちらも学費払ってのので、授業はちゃんと選ばせて欲しい。ゼミの先生によって就活支援の差が大きいと思う。先生から学生に求人のお話やアドバイスをしてくれるゼミ羨ましかった。

特に提案等はありませんが、後輩には本当に就職活動頑張ってもらいたい。

空き時間に気軽に行ける軽い授業や、補足をする時間があるといいかもしれない。

校舎を新しくしてほしい。

大学側の校舎だけ新しくなっているので、短大ももっと校舎の造りを充実させてほしいです。あと、駐車場代の返金制度も作ってほしいです。

会計をやっている、こんなに予算があるのに来年のための費用とか言ってお金を使うのを渋っている理由が分からなかった。今年はまだでさえ学友会の活動がなくてお金なんて溢れ返っているのに、全くと言っていいほど有効活用できなかった。使わないくらいなら現金で返すか今後我々が使えるような商品券なんかにして返してもらいたいと思いました。

違う教室も使ってみよう

今後はコロナ禍で行事の開催が難しいと思うので、感染対策をしつつ楽しめる行事ができれば良いと思います。

1年生の時にやっていた秘書検定の内容を2年生の就活前にももっとやって欲しい。内容を忘れていたので、もっと直前に復習して就活に活かせばいいと思った。

新しい校舎をもっと使う機会がほしい

出欠席の方法の統一化

今のままで満足、強いていうと短大にも料理授業見たいのがあったら面白いと思います。

高校在学中に取得した検定で一級を取得しても奨励金は出なかったものがあるが、短大で同じものを取得していれば奨励金がもらえるので、早く検定は合格できているけど少し残念だった。

オンライン授業だったためかもしれませんが、生徒同士で聞かれる授業が欲しいなと思いました。

これから先、留学したいと言う人が出てきた時のサポートをしっかりとって欲しい。

教養10科目だと自分の取りたい講義が教養と重なって教養の科目が取りづらくなった

資格をとるのにも少し案内をしてほしい。

1号館がとても寒いので床暖房的なものがあればいいなと思いました。

もっと厳しくしてほしいと思います。

SPIの授業をもう少しちゃんと教えて欲しいなと思いました。

4学期制をこれからも続けてほしいです。4学期制にすることで、たくさんのいろいろな分野の授業を受けることが出来たので、とても充実しました。

授業がコロナのためなくなり、取りたかった教科が取れなくなったのは非常に残念でした。お金とか返していただけたらいいのでしょうか。

一部の学校のパソコンでしか、使えないアプリがあるので他の所でも使えるようにしてほしい。

今のままで十分満足出来る学校生活を送れると思います。

教務課の人が私は怖いと思ったのであんまり利用することが出来なかった

授業が被ってしまい悩むことが多かった

もっと質問を気軽に聞けたりする雰囲気にして欲しい。全体的に硬いし、聞きたいことあったら直接お願いします。と言われてもいないことが多くて不便だったことが多かった。

English1みたいな、小さいクラス分けの科目がもう少し多ければ人間関係がもっとよくなると思います。

暖房設備をしっかりとって欲しい

駐車場が高い気がします。料金値上げ前にたくさんチャージをしていたので、コロナでオンライン授業になり、とても余ってしまいました。

仕方がないですが、返金して欲しいです。

商業科の人たちともっと交流したかった

今現在、コロナウイルスの影響で飲食できる場所が限られていますが、場所を決めたことにより逆に密になっていると思います。

今のままで十分いいと思う

資格の制度には満足しているが他校との交流などが少なかった

学校近くの電車の本数を増やしてほしい。

卒業生と交流できる機会をもっと増やして欲しいです。

経営関係の授業の内容に、有名店を話題とした企業の成功などを入れたら盛り上がるのではないだろうか。

駐車場代が高い。

コンピュータ室の設備をそれぞれしっかり整えて欲しい。

思いつきませんでした。今のままでいいと思います。

結構幅広い授業があるのでいいと思う。

会社でのマナーについてももう少し授業があれば良かったと思います。

穴埋めの課題は、自分で忘れた部分を探し癖が着くと思うので、多くしてもらいたい。

高校で検定をとった授業も必修として受けなければいけないものがあったので検定をもう取得済みの人は免除してもらえるなどの制度があったら良かったなと思います。

商学科も経営情報学科も講義の内容が同じなので、学科を分けているなら講義も違うものにしたほうが良いと思いました。

2020年度

松本大学大学院、松本大学、松本大学松商短期大学部
自己点検・評価報告書

発行日 2021年7月30日
編集 松本大学自己点検・評価委員会
発行者 松本大学・松本大学松商短期大学部
学長 菅谷 昭
印刷所 有限会社ミヤサカ印刷
長野県松本市大字島立1144-1
発行所 松本大学
長野県松本市新村2095-1
